千葉県教育振興財団調査報告第609集

千原台ニュータウンXX

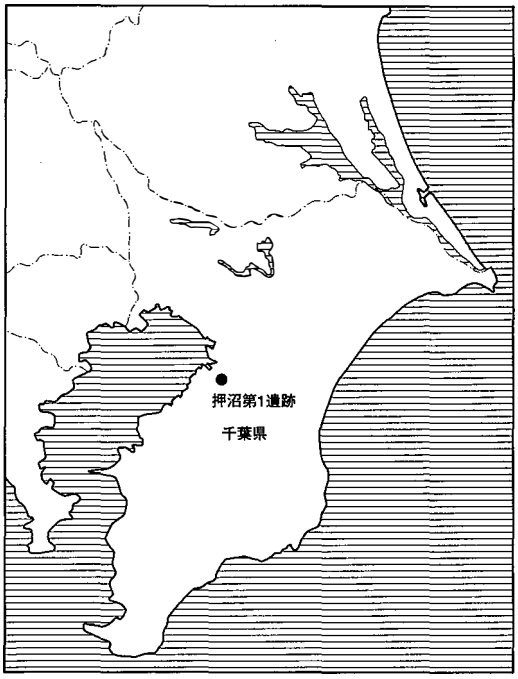
－市原市押沼第１遺跡（下層）－

平成２０年１２月

独立行政法人　都市再生機構
財団法人　千葉県教育振興財団

千原台ニュータウンXX

－市原市押沼第１遺跡（下層）－



序　　文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第609集として、独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の千原台地区区画整理事業に伴って実施した市原市押沼第1遺跡（下層）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代各時期の石器集中地点が63か所検出され、この地域における旧石器時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成20年12月

財団法人　千葉県教育振興財団
理事長　福　島　　義　弘

凡　　例

1　本書は，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社による千原台地区におけるニュータウン建設計画（土地区画整理事業）に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録したのは，押沼遺跡群のうち，押沼第１遺跡（遺跡コード219-011）・押沼影之谷遺跡（遺跡コード219-023）の旧石器時代（下層）資料である。千葉県市原市押沼谷向850（現ちはら台東９丁目６番地）ほかに所在する。調査時には２地点に分けた遺跡名を使用したが，今回の報告に当たり押沼第１遺跡の名称に統一することとした。なお，上層については報告書を刊行済みである。

3　発掘調査から報告書刊行に至る業務は，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の委託を受け，財団法人千葉県教育振興財団が実施した。

4　発掘調査及び整理作業の経緯と組織・担当者は，第１章第１節に記載した。

5　本書に記載した石器及び石材の分類を上席研究員　島立　桂，石器の実測を整理課，原稿執筆及び編集を上席研究員　田島　新が担当した。

6　発掘調査から報告書刊行に至るまで，千葉県教育庁教育振興部文化財課，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社，市原市教育委員会の御指導，御協力を得た。

7　周辺航空写真は，京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。

8　本書で使用した地形図は，下記のとおりである。

第１図　　国土地理院発行　　1/25,000地形図「蘇我」（NI-54-19-15-2）

第３・４図　昭和測量工業株式会社・日本測量株式会社調整昭和46年測量

1/2,500　千原台地区現況図（No. 4）

9　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。座標値は，日本測地系である。

10　出土遺物写真の縮尺は，1/2である。

11　石材の色の記載については，小山正忠・竹原秀雄 1999『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社の色名を使用し，色の測定にあたっては，第一合成株式会社の土色計「SCR-1」を用いた。

12　挿図に使用した記号の用例は，次のとおりである。黒曜石及び頁岩については肉眼観察ではあるが，原産地を意識して細分した。

石　器；ナイフ形石器（KN），角錐状石器（KP），掻器（ES），削器（SS），彫器（GR），錐状石器（DR），楔形石器(PQ)，加工痕ある剥片（RF），使用痕ある剥片（UF），石刃（BL），打製石斧（DA），局部磨製石斧（HX），礫器（PT），磨石（GS），敲石（HS），台石（AS），剥片（FL），砕片（CH），石核（CO），原石（SM），細石刃核（MC）

石　材；黒曜石Ａ（OBA：栃木県・高原山産），黒曜石Ｂ（OBB：信州・和田峠周辺産），黒曜石Ｃ（OBC：信州・麦草峠産），黒曜石Ｄ（OBD：箱根・畑宿産），黒曜石Ｅ（OBE：伊豆半島周辺産），黒曜石Ｆ（OBF：神津島産），黒曜石Ｇ（OBG：不明），安山岩（AN），軟質の安山岩＝トロトロ石（TO），流紋岩（RH），頁岩Ａ（SHA：硬質緻密で光沢のある東北産頁岩），頁岩Ｂ（SHB：北関東産の頁岩とくに西荒川産を意識しているが，緑色のものは緑色凝灰岩とした），頁岩Ｃ（SHC：県南嶺岡産の頁岩），頁岩Ｄ（SHD：珪化度の高い頁岩で産地不明のもの），頁岩Ｅ（SHE：上記以外の頁岩），チャート（CH），緑色凝灰岩（TUA），凝灰岩（TUB：緑色凝灰岩以外のもの），粘板岩（SL），砂岩（SA），ホルンフェルス（HO），蛇紋岩（SP），石英（QU），瑪瑙・玉髄（CC），不明（UK）

礫石材；流紋岩（RH），頁岩（SH），チャート（CH），凝灰岩（TU），礫岩（CO），砂岩（SA），ホルンフェルス（HO），不明（UK）

本　文　目　次

第１章　はじめに……1
　第１節　調査の概要……1
　　1　発掘調査の経緯……1
　　2　発掘調査の方法と整理作業の方針……3
　第２節　遺跡の位置と環境……3
　　1　遺跡の位置と地形……3
　　2　押沼第１遺跡と周辺の遺跡……4
　第３節　基本土層……8
第２章　検出した遺構と遺物……12
　第１節　調査の概要……12
　第２節　第１文化層……14
　第３節　第２文化層……90
　第４節　第３文化層……278
　第５節　第４文化層……306
　第６節　第５文化層……335
　第７節　時期不明……343
第３章　まとめ……352
報告書抄録……巻末

挿　図　目　次

調査の概要
第１図　押沼第１遺跡周辺の旧石器時代遺跡……6
第２図　押沼第１遺跡調査区及び基本土層……10
第３図　押沼第１遺跡調査概要……11
第４図　押沼第１遺跡ブロック別分布状況……13

第１文化層
第５図　Ｇ１-Ａブロック出土遺物分布（１）……15
第６図　Ｇ１-Ａブロック出土遺物分布（２）……16
第７図　Ｇ１-Ａブロック出土遺物……17
第８図　Ｇ１-Ｂブロック出土遺物分布（１）……18
第９図　Ｇ１-Ｂブロック出土遺物分布（２）……19
第10図　Ｇ１-Ｂブロック出土遺物……19
第11図　Ｇ１-Ｃブロック出土遺物分布（１）……21
第12図　Ｇ１-Ｃブロック出土遺物分布（２）……22
第13図　Ｇ１-Ｃブロック出土遺物……23
第14図　Ｇ２-Ａブロック出土遺物分布（１）……24
第15図　Ｇ２-Ａブロック出土遺物分布（２）……24
第16図　Ｇ２-Ｂブロック出土遺物分布（１）……26
第17図　Ｇ２-Ｂブロック出土遺物分布（２）……27
第18図　Ｇ２-Ｂブロック出土遺物……28
第19図　Ｇ２-Ｅブロック出土遺物分布……29
第20図　Ｇ２-Ｅブロック出土遺物……30
第21図　Ｆ３-Ａブロック出土遺物分布（１）……32

第22図　Ｆ３-Ａブロック出土遺物分布（２）……33
第23図　Ｆ３-Ａブロック出土遺物 ……35
第24図　Ｇ３-Ｃブロック出土遺物分布（１）……36
第25図　Ｇ３-Ｃブロック出土遺物分布（２）……36
第26図　Ｇ３-Ｃブロック出土遺物 ……37
第27図　Ｈ３-Ａブロック出土遺物分布（１）……39
第28図　Ｈ３-Ａブロック出土遺物分布（２）……39
第29図　Ｈ３-Ａブロック出土遺物 ……40
第30図　Ｈ３-Ｂブロック出土遺物分布 ……42
第31図　Ｈ３-Ｂブロック出土遺物 ……42
第32図　Ｊ４-Ｂブロック出土遺物分布（１）……44
第33図　Ｊ４-Ｂブロック出土遺物分布（２）……44
第34図　Ｊ４-Ｂブロック出土遺物 ……45
第35図　Ｆ７-Ｂブロック出土遺物分布（１）……47
第36図　Ｆ７-Ｂブロック出土遺物分布（２）……48
第37図　Ｆ７-Ｂブロック出土遺物 ……50
第38図　Ｏ７-Ａブロック出土遺物分布（１）……51
第39図　Ｏ７-Ａブロック出土遺物分布（２）……51
第40図　Ｏ７-Ａブロック出土遺物 ……52
第41図　Ｐ７-Ａブロック出土遺物分布（１）……54
第42図　Ｐ７-Ａブロック出土遺物分布（２）……55
第43図　Ｐ７-Ａブロック出土遺物（１）……58
第44図　Ｐ７-Ａブロック出土遺物（２）……59
第45図　Ｐ７-Ａブロック出土遺物（３）……60
第46図　Ｐ８-Ａブロック出土遺物分布（１）……62
第47図　Ｐ８-Ａブロック出土遺物分布（２）……62
第48図　Ｐ８-Ａブロック出土遺物 ……63
第49図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物分布（１）……65
第50図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物分布（２）……66
第51図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物分布（３）……67
第52図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物（１）……75
第53図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物（２）……76
第54図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物（３）……77
第55図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物（４）……78
第56図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物（５）……79
第57図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物（６）……80
第58図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物（７）……81
第59図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物（８）……82
第60図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物（９）……83
第61図　Ｎ10-Ａブロック出土遺物分布（１）……85
第62図　Ｎ10-Ａブロック出土遺物分布（２）……85
第63図　Ｎ10-Ａブロック出土遺物 ……86
第64図　第１文化層ブロック外出土遺物分布……87
第65図　第１文化層ブロック外出土遺物……89

第２文化層

第66図　Ｈ１-Ａブロック出土遺物分布（１）……91
第67図　Ｈ１-Ａブロック出土遺物分布（２）……91
第68図　Ｈ１-Ａブロック出土遺物 ……92
第69図　Ｇ２-Ｃブロック出土遺物分布（１）……93
第70図　Ｇ２-Ｃブロック出土遺物分布（２）……94
第71図　Ｇ２-Ｃブロック出土遺物 ……95
第72図　Ｇ２-Ｄブロック出土遺物分布（１）……98
第73図　Ｇ２-Ｄブロック出土遺物分布（２）……99
第74図　Ｇ２-Ｄブロック出土遺物（１）…… 100
第75図　Ｇ２-Ｄブロック出土遺物（２）…… 101
第76図　Ｇ３-Ａブロック出土遺物分布（１）… 103
第77図　Ｇ３-Ａブロック出土遺物分布（２）… 104
第78図　Ｇ３-Ａブロック出土遺物 …… 106
第79図　Ｈ３-Ｃブロック出土遺物分布（１）… 108
第80図　Ｈ３-Ｃブロック出土遺物分布（２）… 108
第81図　Ｈ３-Ｃブロック出土遺物 …… 108
第82図　Ｇ４-Ａブロック出土遺物分布（１）… 110
第83図　Ｇ４-Ａブロック出土遺物分布（２）… 110
第84図　Ｇ４-Ａブロック出土遺物 …… 111
第85図　Ｈ４-Ａブロック出土遺物分布（１）… 112
第86図　Ｈ４-Ａブロック出土遺物分布（２）… 112
第87図　Ｈ４-Ａブロック出土遺物 …… 113
第88図　Ｋ５-Ａブロック出土遺物分布（１）… 116
第89図　Ｋ５-Ａブロック出土遺物分布（２）… 117
第90図　Ｋ５-Ａブロック出土遺物（１）…… 119
第91図　Ｋ５-Ａブロック出土遺物（２）…… 120
第92図　Ｋ５-Ａブロック出土遺物（３）…… 121
第93図　Ｋ５-Ａブロック出土遺物（４）…… 122

第94図　Ｋ６-Ａブロック出土遺物分布（１）… 125
第95図　Ｋ６-Ａブロック出土遺物分布（２）… 126
第96図　Ｋ６-Ａブロック出土遺物 …… 127
第97図　Ｋ６-Ｂブロック出土遺物分布（１）… 130
第98図　Ｋ６-Ｂブロック出土遺物分布（２）… 131
第99図　Ｋ６-Ｂブロック出土遺物 …… 132
第100図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物分布（１）… 137
第101図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物分布（２）… 138
第102図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物分布（３）… 139
第103図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物分布（４）… 140
第104図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物分布（５）… 141
第105図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物（１）…… 143
第106図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物（２）…… 144
第107図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物（３）…… 145
第108図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物（４）…… 146
第109図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物（５）…… 147
第110図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物（６）…… 149
第111図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物（７）…… 150
第112図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物（８）…… 151
第113図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物（９）…… 152
第114図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物(10) …… 153
第115図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物(11) …… 154
第116図　Ｆ７-Ａブロック出土遺物分布（１）… 157
第117図　Ｆ７-Ａブロック出土遺物分布（２）… 157
第118図　Ｆ７-Ａブロック出土遺物 …… 158
第119図　Ｉ８-Ａブロック出土遺物分布（１）… 159
第120図　Ｉ８-Ａブロック出土遺物分布（２）… 160
第121図　Ｉ８-Ａブロック出土遺物 …… 162
第122図　Ｉ９-Ａブロック出土遺物分布（１）… 164
第123図　Ｉ９-Ａブロック出土遺物分布（２）… 165
第124図　Ｉ９-Ａブロック出土遺物（１）…… 166
第125図　Ｉ９-Ａブロック出土遺物（２）…… 167
第126図　Ｉ９-Ｂブロック出土遺物分布（１）… 169
第127図　Ｉ９-Ｂブロック出土遺物分布（２）… 170
第128図　Ｉ９-Ｂブロック出土遺物（１）…… 172
第129図　Ｉ９-Ｂブロック出土遺物（２）…… 173
第130図　Ｉ９-Ｂブロック出土遺物（３）…… 174
第131図　Ｉ９-Ｃブロック出土遺物分布（１）… 179
第132図　Ｉ９-Ｃブロック出土遺物分布（２）… 180
第133図　Ｉ９-Ｃブロック出土遺物分布（３）… 181
第134図　Ｉ９-Ｃブロック出土遺物（１）…… 183
第135図　Ｉ９-Ｃブロック出土遺物（２）…… 184
第136図　Ｉ９-Ｃブロック出土遺物（３）…… 185
第137図　Ｉ９-Ｃブロック出土遺物（４）…… 186
第138図　Ｉ９-Ｃブロック出土遺物（５）…… 187
第139図　Ｉ９-Ｃブロック出土遺物（６）…… 188
第140図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物分布（１）… 191
第141図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物分布（２）… 192
第142図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物（１）…… 193
第143図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物（２）…… 195
第144図　Ｆ９-Ａブロック出土遺物分布（１）… 197
第145図　Ｆ９-Ａブロック出土遺物分布（２）… 198
第146図　Ｆ９-Ａブロック出土遺物（１）…… 199
第147図　Ｆ９-Ａブロック出土遺物（２）…… 201
第148図　Ｆ９-Ｂブロック出土遺物分布（１）… 202
第149図　Ｆ９-Ｂブロック出土遺物分布（２）… 202
第150図　Ｆ９-Ｂブロック出土遺物 …… 203
第151図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物分布（１）… 206
第152図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物分布（２）… 207
第153図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物分布（３）… 208
第154図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物分布（４）… 209
第155図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物（１）…… 212
第156図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物（２）…… 213
第157図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物（３）…… 214
第158図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物（４）…… 215
第159図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物（５）…… 216
第160図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物（６）…… 217
第161図　Ｆ９-Ｄブロック出土遺物分布（１）… 220
第162図　Ｆ９-Ｄブロック出土遺物分布（２）… 221
第163図　Ｆ９-Ｄブロック出土遺物 …… 222
第164図　Ｆ10-Ａブロック出土遺物分布（１）… 224
第165図　Ｆ10-Ａブロック出土遺物分布（２）… 224
第166図　Ｆ10-Ａブロック出土遺物 …… 225
第167図　Ｆ10-Ｂブロック出土遺物分布（１）… 227

第168図　F10-Bブロック出土遺物分布（2）… 228
第169図　F10-Bブロック出土遺物 …… 230
第170図　G10-Aブロック出土遺物分布（1）… 232
第171図　G10-Aブロック出土遺物分布（2）… 232
第172図　G10-Aブロック出土遺物 …… 233
第173図　H10-Aブロック出土遺物分布（1）… 235
第174図　H10-Aブロック出土遺物分布（2）… 236
第175図　H10-Aブロック出土遺物 …… 238
第176図　H10-Bブロック出土遺物分布（1）… 241
第177図　H10-Bブロック出土遺物分布（2）… 242
第178図　H10-Bブロック出土遺物（1）…… 244
第179図　H10-Bブロック出土遺物（2）…… 245
第180図　H10-Bブロック出土遺物（3）…… 246
第181図　H10-Bブロック出土遺物（4）…… 247
第182図　H10-Cブロック出土遺物分布（1）… 250
第183図　H10-Cブロック出土遺物分布（2）… 251
第184図　H10-Cブロック出土遺物（1）…… 253
第185図　H10-Cブロック出土遺物（2）…… 254
第186図　H10-Dブロック出土遺物分布（1）… 258
第187図　H10-Dブロック出土遺物分布（2）… 260
第188図　H10-Dブロック出土遺物（1）…… 265
第189図　H10-Dブロック出土遺物（2）…… 266
第190図　H10-Dブロック出土遺物（3）…… 267
第191図　H10-Dブロック出土遺物（4）…… 268
第192図　G11-Aブロック出土遺物分布（1）… 271
第193図　G11-Aブロック出土遺物分布（2）… 271
第194図　G11-Aブロック出土遺物 …… 273
第195図　第2文化層ブロック外出土遺物分布… 275
第196図　第2文化層ブロック外出土遺物 …… 276
第197図　炭化物集中地点 …… 277

第3文化層

第198図　I 3-Cブロック出土遺物分布（1）… 279
第199図　I 3-Cブロック出土遺物分布（2）… 280
第200図　I 3-Cブロック出土遺物（1）…… 281
第201図　I 3-Cブロック出土遺物（2）…… 283
第202図　I 3-Cブロック出土遺物（3）…… 284
第203図　H 4-Bブロック出土遺物分布（1）… 286
第204図　H 4-Bブロック出土遺物分布（2）… 286
第205図　H 6-Aブロック出土遺物分布（1）… 288
第206図　H 6-Aブロック出土遺物分布（2）… 288
第207図　H 6-Aブロック出土遺物 …… 288
第208図　E11-Aブロック出土遺物分布（1）… 290
第209図　E11-Aブロック出土遺物分布（2）… 292
第210図　E11-Aブロック出土遺物（1）…… 293
第211図　E11-Aブロック出土遺物（2）…… 294
第212図　E11-Aブロック出土遺物（3）…… 295
第213図　E11-Aブロック出土遺物（4）…… 296
第214図　E12-Aブロック出土遺物分布（1）… 299
第215図　E12-Aブロック出土遺物分布（2）… 299
第216図　E12-Aブロック出土遺物 …… 300
第217図　N 5-Aブロック出土遺物分布（1）… 301
第218図　N 5-Aブロック出土遺物分布（2）… 301
第219図　V11-Aブロック出土遺物分布（1）… 302
第220図　V11-Aブロック出土遺物分布（2）… 302
第221図　V11-Aブロック出土遺物 …… 303
第222図　第3文化層ブロック外出土遺物分布… 304
第223図　第3文化層ブロック外出土遺物 …… 305

第4文化層

第224図　I 4-Aブロック出土遺物分布（1）… 306
第225図　I 4-Aブロック出土遺物分布（2）… 307
第226図　I 4-Aブロック出土遺物（1）…… 309
第227図　I 4-Aブロック出土遺物（2）…… 310
第228図　I 4-Aブロック出土遺物（3）…… 311
第229図　I 4-Bブロック出土遺物分布（1）… 312
第230図　I 4-Bブロック出土遺物分布（2）… 313
第231図　I 4-Bブロック出土遺物 …… 314
第232図　J 4-Aブロック出土遺物分布（1）… 317
第233図　J 4-Aブロック出土遺物分布（2）… 318
第234図　J 4-Aブロック出土遺物（1）…… 320
第235図　J 4-Aブロック出土遺物（2）…… 321
第236図　J 4-Aブロック出土遺物（3）…… 322
第237図　H 5-Aブロック出土遺物分布（1）… 324

第238図　Ｈ５-Ａブロック出土遺物分布（２）… 325
第239図　Ｈ５-Ａブロック出土遺物（１）…… 327
第240図　Ｈ５-Ａブロック出土遺物（２）…… 328
第241図　Ｈ５-Ａブロック出土遺物（３）…… 329
第242図　Ｈ５-Ａブロック出土遺物（４）…… 330
第243図　Ｇ10-Ｂブロック出土遺物分布（１）… 332
第244図　Ｇ10-Ｂブロック出土遺物分布（２）… 332
第245図　Ｇ10-Ｂブロック出土遺物 …… 333
第246図　Ｒ８-Ａブロック出土遺物分布（１）… 334
第247図　Ｒ８-Ａブロック出土遺物分布（２）… 334
第248図　Ｒ８-Ａブロック出土遺物 …… 334

第５文化層
第249図　Ｉ３-Ａブロック出土遺物分布（１）… 336
第250図　Ｉ３-Ａブロック出土遺物分布（２）… 336
第251図　Ｉ３-Ａブロック出土遺物 …… 337
第252図　Ｉ３-Ｂブロック出土遺物分布（１）… 339
第253図　Ｉ３-Ｂブロック出土遺物分布（２）… 340
第254図　Ｉ３-Ｂブロック出土遺物 …… 341

時期不明
第255図　Ｇ３-Ｂブロック出土遺物分布（１）… 343
第256図　Ｇ３-Ｂブロック出土遺物分布（２）… 344
第257図　Ｇ３-Ｂブロック出土遺物 …… 345
第258図　Ｈ１-Ｂブロック出土遺物分布（１）… 346
第259図　Ｈ１-Ｂブロック出土遺物分布（２）… 346
第260図　Ｈ１-Ｂブロック出土遺物 …… 347
第261図　時期不明ブロック外出土遺物分布 … 348
第262図　時期不明ブロック外出土遺物（１）… 349
第263図　時期不明ブロック外出土遺物（２）… 350

まとめ
第264図　ブロック別石器垂直分布グラフ（１）　355
第265図　ブロック別石器垂直分布グラフ（２）　356
第266図　ブロック別石器垂直分布グラフ（３）　357
第267図　ブロック別石器垂直分布グラフ（４）　358
第268図　ブロック別石器垂直分布グラフ（５）　359

表　目　次

第１文化層
第１表　Ｇ１-Ａブロック母岩別石器組成 ……15
第２表　Ｇ１-Ａブロック石材別石器組成 ……16
第３表　Ｇ１-Ｂブロック母岩別石器組成 ……18
第４表　Ｇ１-Ｂブロック石材別石器組成 ……18
第５表　Ｇ１-Ｃブロック母岩別石器組成 ……21
第６表　Ｇ１-Ｃブロック石材別石器組成 ……22
第７表　Ｇ２-Ａブロック母岩別石器組成 ……24
第８表　Ｇ２-Ａブロック石材別石器組成 ……24
第９表　Ｇ２-Ｂブロック母岩別石器組成 ……25
第10表　Ｇ２-Ｂブロック石材別石器組成 ……25
第11表　Ｇ２-Ｂブロック礫組成 ……26
第12表　Ｇ２-Ｅブロック母岩別石器組成 ……29
第13表　Ｇ２-Ｅブロック石材別石器組成 ……29
第14表　Ｆ３-Ａブロック母岩別石器組成 ……34
第15表　Ｆ３-Ａブロック石材別石器組成 ……35
第16表　Ｇ３-Ｃブロック母岩別石器組成 ……38
第17表　Ｇ３-Ｃブロック石材別石器組成 ……38
第18表　Ｇ３-Ｃブロック礫組成 ……38
第19表　Ｈ３-Ａブロック母岩別石器組成 ……41
第20表　Ｈ３-Ａブロック石材別石器組成 ……41
第21表　Ｈ３-Ｂブロック母岩別石器組成 ……43
第22表　Ｈ３-Ｂブロック石材別石器組成 ……43
第23表　Ｊ４-Ｂブロック母岩別石器組成 ……46
第24表　Ｊ４-Ｂブロック石材別石器組成 ……46
第25表　Ｆ７-Ｂブロック母岩別石器組成 ……49
第26表　Ｆ７-Ｂブロック石材別石器組成 ……49
第27表　Ｏ７-Ａブロック母岩別石器組成 ……53

第28表　Ｏ７-Ａブロック石材別石器組成 ……53
第29表　Ｐ７-Ａブロック母岩別石器組成 ……57
第30表　Ｐ７-Ａブロック石材別石器組成 ……57
第31表　Ｐ７-Ａブロック礫組成 ……61
第32表　Ｐ８-Ａブロック母岩別石器組成 ……63
第33表　Ｐ８-Ａブロック石材別石器組成 ……64
第34表　Ｐ８-Ａブロック礫組成 ……64
第35表　Ｐ８-Ｂブロック母岩別石器組成 ……71
第36表　Ｐ８-Ｂブロック石材別石器組成 ……72
第37表　Ｐ８-Ｂブロック礫組成 ……72
第38表　N10-Ａブロック母岩別石器組成 ……84
第39表　N10-Ａブロック石材別石器組成 ……86

第２文化層

第40表　Ｈ１-Ａブロック母岩別石器組成 ……90
第41表　Ｈ１-Ａブロック石材別石器組成 ……90
第42表　Ｇ２-Ｃブロック母岩別石器組成 ……96
第43表　Ｇ２-Ｃブロック石材別石器組成 ……96
第44表　Ｇ２-Ｄブロック礫組成 …… 101
第45表　Ｇ２-Ｄブロック母岩別石器組成…… 102
第46表　Ｇ２-Ｄブロック石材別石器組成 …… 102
第47表　Ｇ３-Ａブロック母岩別石器組成 …… 105
第48表　Ｇ３-Ａブロック石材別石器組成 …… 107
第49表　Ｇ３-Ａブロック礫組成 …… 107
第50表　Ｈ３-Ｃブロック母岩別石器組成 …… 108
第51表　Ｈ３-Ｃブロック石材別石器組成 …… 109
第52表　Ｇ４-Ａブロック母岩別石器組成 …… 109
第53表　Ｇ４-Ａブロック石材別石器組成 …… 111
第54表　Ｈ４-Ａブロック母岩別石器組成 …… 112
第55表　Ｈ４-Ａブロック石材別石器組成 …… 112
第56表　Ｈ４-Ａブロック礫組成 …… 113
第57表　Ｋ５-Ａブロック母岩別石器組成 …… 123
第58表　Ｋ５-Ａブロック石材別石器組成 …… 124
第59表　Ｋ６-Ａブロック母岩別石器組成 …… 128
第60表　Ｋ６-Ａブロック石材別石器組成 …… 128
第61表　Ｋ６-Ｂブロック母岩別石器組成 …… 129
第62表　Ｋ６-Ｂブロック石材別石器組成 …… 129
第63表　Ｋ７-Ａブロック母岩別石器組成 …… 155
第64表　Ｋ７-Ａブロック礫組成 …… 155
第65表　Ｋ７-Ａブロック石材別石器組成 …… 156
第66表　Ｆ７-Ａブロック母岩別石器組成 …… 158
第67表　Ｆ７-Ａブロック石材別石器組成 …… 158
第68表　Ｉ８-Ａブロック母岩別石器組成 …… 161
第69表　Ｉ８-Ａブロック石材別石器組成 …… 161
第70表　Ｉ９-Ａブロック母岩別石器組成 …… 167
第71表　Ｉ９-Ａブロック石材別石器組成 …… 167
第72表　Ｉ９-Ｂブロック礫組成 …… 174
第73表　Ｉ９-Ｂブロック母岩別石器組成 …… 175
第74表　Ｉ９-Ｂブロック石材別石器組成 …… 175
第75表　Ｉ９-Ｃブロック石材別石器組成 …… 188
第76表　Ｉ９-Ｃブロック母岩別石器組成 …… 189
第77表　Ｉ９-Ｃブロック礫組成 …… 189
第78表　Ｅ９-Ａブロック礫組成 …… 190
第79表　Ｅ９-Ａブロック母岩別石器組成 …… 195
第80表　Ｅ９-Ａブロック石材別石器組成 …… 195
第81表　Ｆ９-Ａブロック母岩別石器組成 …… 198
第82表　Ｆ９-Ａブロック石材別石器組成 …… 200
第83表　Ｆ９-Ｂブロック母岩別石器組成 …… 204
第84表　Ｆ９-Ｂブロック石材別石器組成 …… 204
第85表　Ｆ９-Ｃブロック母岩別石器組成 …… 218
第86表　Ｆ９-Ｃブロック石材別石器組成 …… 218
第87表　Ｆ９-Ｄブロック母岩別石器組成 …… 223
第88表　Ｆ９-Ｄブロック石材別石器組成 …… 223
第89表　F10-Ａブロック母岩別石器組成 …… 225
第90表　F10-Ａブロック石材別石器組成 …… 225
第91表　F10-Ｂブロック母岩別石器組成 …… 229
第92表　F10-Ｂブロック石材別石器組成 …… 229
第93表　G10-Ａブロック母岩別石器組成 …… 231
第94表　G10-Ａブロック石材別石器組成 …… 231
第95表　G10-Ａブロック礫組成 …… 233
第96表　H10-Ａブロック母岩別石器組成 …… 237
第97表　H10-Ａブロック石材別石器組成 …… 237
第98表　H10-Ａブロック礫組成 …… 239
第99表　H10-Ｂブロック母岩別石器組成 …… 243

第100表　H10-Bブロック石材別石器組成 …… 243
第101表　H10-Bブロック礫組成 …… 243
第102表　H10-Cブロック母岩別石器組成 …… 255
第103表　H10-Cブロック石材別石器組成 …… 255
第104表　H10-Cブロック礫組成 …… 255
第105表　H10-Dブロック母岩別石器組成 …… 269
第106表　H10-Dブロック石材別石器組成 …… 270
第107表　H10-Dブロック礫組成 …… 270
第108表　G11-Aブロック母岩別石器組成 …… 272
第109表　G11-Aブロック石材別石器組成 …… 272

第３文化層

第110表　Ｉ３-Cブロック母岩別石器組成 …… 282
第111表　Ｉ３-Cブロック石材別石器組成 …… 282
第112表　Ｈ４-Bブロック母岩別石器組成 …… 285
第113表　Ｈ４-Bブロック石材別石器組成 …… 285
第114表　Ｈ６-Aブロック母岩別石器組成 …… 287
第115表　Ｈ６-Aブロック石材別石器組成 …… 287
第116表　E11-Aブロック母岩別石器組成 …… 297
第117表　E11-Aブロック石材別石器組成 …… 297
第118表　E11-Aブロック礫組成 …… 298
第119表　E12-Aブロック母岩別石器組成 …… 298
第120表　E12-Aブロック石材別石器組成 …… 300
第121表　E12-Aブロック礫組成 …… 300
第122表　Ｎ５-Aブロック礫組成 …… 300
第123表　V11-Aブロック母岩別石器組成 …… 303
第124表　V11-Aブロック石材別石器組成 …… 303

第４文化層

第125表　Ｉ４-Aブロック母岩別石器組成 …… 307
第126表　Ｉ４-Aブロック石材別石器組成 …… 307
第127表　Ｉ４-Aブロック礫組成 …… 311
第128表　Ｉ４-Bブロック母岩別石器組成 …… 312
第129表　Ｉ４-Bブロック石材別石器組成 …… 315
第130表　Ｊ４-Aブロック母岩別石器組成 …… 319
第131表　Ｊ４-Aブロック石材別石器組成 …… 319
第132表　Ｈ５-Aブロック母岩別石器組成 …… 331
第133表　Ｈ５-Aブロック石材別石器組成 …… 331
第134表　G10-Bブロック母岩別石器組成 …… 331
第135表　G10-Bブロック石材別石器組成 …… 333
第136表　G10-Bブロック礫組成 …… 333
第137表　Ｒ８-Aブロック母岩別石器組成 …… 333
第138表　Ｒ８-Aブロック石材別石器組成 …… 334

第５文化層

第139表　Ｉ３-Aブロック母岩別石器組成 …… 337
第140表　Ｉ３-Aブロック石材別石器組成 …… 337
第141表　Ｉ３-Bブロック母岩別石器組成 …… 342
第142表　Ｉ３-Bブロック石材別石器組成 …… 342
第143表　Ｉ３-Bブロック礫組成 …… 342

時期不明

第144表　Ｇ３-Bブロック母岩別石器組成 …… 345
第145表　Ｇ３-Bブロック石材別石器組成 …… 345
第146表　Ｈ１-Bブロック母岩別石器組成 …… 345
第147表　Ｈ１-Bブロック石材別石器組成 …… 347

図　版　目　次

カラー図版

1．第1文化層出土遺物1
2．第1文化層出土遺物2
3．第1文化層出土遺物3
4．第1文化層出土遺物4・第2文化層出土遺物1
5．第2文化層出土遺物2
6．第2文化層出土遺物3
7．第2文化層出土遺物4
8．第2文化層出土遺物5
9．第2文化層出土遺物6
10．第2文化層出土遺物7
11．第2文化層出土遺物8
12．第2文化層出土遺物9
13．第2文化層出土遺物10
14．第2文化層出土遺物11
15．第2文化層出土遺物12・第3文化層出土遺物1
16．第3文化層出土遺物2
17．第3文化層出土遺物3・第4文化層出土遺物1
18．第4文化層出土遺物2・第5文化層出土遺物1
19．第5文化層出土遺物2・時期不明出土遺物・接合資料1
20．接合資料2
21．接合資料3
22．接合資料4

図版

図版1　押沼第1遺跡周辺航空写真（約1:10,000　昭和42年撮影）
図版2　土層断面，第1文化層遺物出土状況1
図版3　第1文化層遺物出土状況2
図版4　第1文化層遺物出土状況3
図版5　第1文化層遺物出土状況4・第2文化層遺物出土状況1
図版6　第2文化層遺物出土状況2
図版7　第2文化層遺物出土状況3
図版8　第2文化層遺物出土状況4
図版9　第2文化層遺物出土状況5
図版10　第2文化層遺物出土状況6・第3文化層遺物出土状況1
図版11　第3文化層遺物出土状況2・第4文化層遺物出土状況1
図版12　第4文化層遺物出土状況2・第5文化層遺物出土状況・時期不明遺物出土状況

第1章　は　じ　め　に

第1節　調査の概要

1　発掘調査の経緯

市原市と千葉市にまたがる台地上に，住宅・都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）による千原台地区土地区画整理事業が計画された。このため，千葉県教育委員会は，事業地内の用地内の埋蔵文化財の取扱いについて関係諸機関と協議した結果，現状保存が困難な部分については，やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり，記録保存については，財団法人千葉県教育振興財団が委託を受けて発掘調査を実施することとなった。

今回報告する押沼第1遺跡・押沼影之谷遺跡の調査は，昭和58年度から平成8年度まで断続的に行われた。また，押沼第1・第2遺跡（上層）及び押沼大六天遺跡（上層・下層）については，すでに報告書を刊行している。

本書は押沼第1遺跡から出土した旧石器時代（下層調査）を対象としたもので，発掘調査及び整理事業に関わる各年度の実施内容・担当者は以下のとおりである。

昭和58年度

組　織　調査部長　白石竹雄，班長　三森俊彦

担当者　押沼影之谷遺跡　調査研究員　柴田龍司・金子　進

内　容　押沼影之谷遺跡　下層調査対象面積　6,400㎡

昭和59年度

組　織　調査部長　鈴木道之助，班長　古内　茂

担当者　押沼第1遺跡　調査研究員　田形孝一

内　容　押沼第1遺跡　下層調査対象面積　127,636㎡

昭和60年度

組　織　調査部長　鈴木道之助，班長　阪田正一

担当者　押沼第1遺跡（A・B・C地点）　主任調査研究員　橋本勝雄

内　容　押沼第1遺跡（A地点）　下層調査対象面積　800㎡

内　容　押沼第1遺跡（B地点）　下層調査対象面積　300㎡

内　容　押沼第1遺跡（C地点）　下層調査対象面積　1,500㎡

昭和62年度

組　織　調査部長　堀部昭夫，班長　阪田正一

担当者　押沼第1遺跡　班長代理　西川博孝，調査研究員　小林信一

内　容　押沼第1遺跡　下層調査対象面積　12,000㎡

昭和63年度

組　織　調査部長　堀部昭夫，班長　佐久間豊

担当者　押沼第1遺跡　主任調査研究員　金丸　誠，調査研究員　小林信一

内　容　押沼第1遺跡　下層調査対象面積　800㎡

平成2年度

組　織　調査部長　堀部昭夫，班長　三浦和信

担当者　押沼第1遺跡（E地点）　技師　小林信一・島立　桂

担当者　押沼第1遺跡（F地点）　主任技師　加藤正信，技師　小林信一・島立理子

内　容　押沼第1遺跡（E地点）　下層調査対象面積　4,000㎡

内　容　押沼第1遺跡（F地点）　下層調査対象面積　1,200㎡

平成3年度

組　織　調査部長　天野　努，班長　三浦和信

担当者　押沼第1遺跡（G・H・I・J・K・L・M地点）　主任技師　加藤正信・田島　新
技師　島立　桂

内　容　押沼第1遺跡（G・H・I・J・K・L・M地点）　下層調査対象面積　6,000㎡

平成4年度

組　織　調査部長　天野　努，班長　谷　旬

担当者　押沼第1遺跡（M地点）　技師　島立　桂・百瀬幸徳

内　容　押沼第1遺跡（M地点）　下層調査対象面積　5,000㎡

平成5年度

組　織　調査研究部長　高木博彦，班長　深澤克友

担当者　押沼第1遺跡（M・N地点）　研究員　土屋治雄・平松長寿，技師　百瀬幸徳

内　容　押沼第1遺跡（M・N地点）　下層調査対象面積　8,264㎡

平成6年度

組　織　調査研究部長　西山太郎，班長　田坂　浩

担当者　押沼第1遺跡（M・O地点）　研究員　斉藤　茂

内　容　押沼第1遺跡（M・O地点）　下層調査対象面積　2,746㎡

平成7年度

組　織　調査研究部長　西山太郎，所長　矢戸三男

担当者　押沼第1遺跡（P・Q地点）　技師　小笠原永隆

内　容　押沼第1遺跡（P・Q地点）　下層調査対象面積　23,564㎡

平成8年度

組　織　調査部長　西山太郎，所長　藤崎芳樹

担当者　押沼第1遺跡（地区外）　主任技師　酒井　宏

内　容　押沼第1遺跡（地区外）　下層調査対象面積　3,900㎡

平成15年度

組　織　調査部長　斎木　勝，所長　谷　旬

担当者　上席研究員　島立　桂

内　容　水洗・注記から接合まで

平成16年度

重点遺跡整理促進事業

組　織　調査部長　矢戸三男，課長　及川淳一

担当者　上席研究員　渡邉修一・平井真紀子（整理技術員）

内　容　実測・トレースの一部まで

平成17年度

重点遺跡整理促進事業

組　織　調査部長　矢戸三男，課長　加藤修司

担当者　上席研究員　安井健一・大久保奈奈（整理技術員）

内　容　実測・トレースまで

平成18年度

組　織　調査研究部長　矢戸三男，所長　西川博孝

担当者　副所長　白井久美子，上席研究員　小林清隆・蜂屋孝之・田島　新

内　容　素図作成から原稿の作成の一部まで

平成19年度

組　織　調査研究部長　矢戸三男，所長　折原　繁

担当者　上席研究員　田島　新

内　容　原稿の作成の一部から編集まで

平成20年度

組　織　調査研究部長　大原正義，所長　折原　繁

内　容　刊行

2　発掘調査の方法と整理作業の方針

発掘区の設定は，国家座標を基準として40ｍ×40ｍの大グリッドを設け，この中を４ｍ×４ｍの小グリッドに分割して行った。下層確認調査は，調査対象面積の４％を基本に，小グリッドを主体として行ったが，必要に応じて小グリッドをさらに４分割して２ｍ×２ｍのグリッドを設定し，武蔵野ローム層上面まで掘り下げた。出土遺物は，４ｍ×４ｍの小グリッドごとに１点ずつ取り上げた。

押沼第１遺跡では，遺跡名に年度ごとの地点名（調査区名）を付して発掘が行われたが，遺跡の範囲全体に大グリッドが設定されており，下層調査では，上層の遺構番号のようにブロックが重複することはないことから，地点名（調査区名）は遺跡理解に対して何ら意味を持たないと判断し，遺跡全体でブロック名を付した。

第２節　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置と地形

押沼第１遺跡は，ちはら台ニュータウン造成地域の北東端，市原市ちはら台東９丁目６番地（旧押沼字谷向850）ほかに所在し，村田川中流域北岸の茂呂支谷が樹枝状に入り組んだ最奥部の台地に位置する。千葉市街地からは東南へ12km，下総台地南部を西に向かって流れる村田川の河口からは７kmほど上流の右岸台地上で，現河川からは１kmほど離れている。西側と南側は，茂呂支谷に接しており，標高は，40

m～50 mの下総台地上位面である。

２　押沼第１遺跡と周辺の遺跡（第１図，図版１）

押沼第１遺跡からは，旧石器時代から奈良・平安時代及び中・近世にかけての各種遺構が検出された。主な遺構としては，旧石器時代各時期の石器ブロック，縄文時代早・前期の陥穴・炉穴，奈良・平安時代の集落と製鉄関連遺構などである。

旧石器時代については，立川ローム層下部から上部に至る各層から約4,300点の石器・礫が出土しており，63か所のブロックを確認している。

押沼第１遺跡を含む押沼遺跡群（１～３）は，千原台地区北東部端にあたり，村田川に沿って分布する旧石器時代の遺跡としては，草刈遺跡などとともに最も下流に位置する（第１図１）。ちはら台ニュータウン事業地内において旧石器時代石器群が出土した遺跡を，村田川を遡りながらあげてみると草刈遺跡（４），草刈六之台遺跡（５），中永谷遺跡（６），川焼台遺跡（７），鶴牧遺跡（８），鶴牧古墳群（９），ナキノ台遺跡（10），ばあ山遺跡（11），野馬堀遺跡（12）が並ぶ。押沼遺跡群は，これらの遺跡のさらに奥に位置している。

押沼大六天遺跡では，立川ローム層Ⅲ層からⅨ層にかけて，帰属時期不明の文化層を含め，５枚の文化層が確認され，Ⅸ層上部からⅨ層下部とⅣ層下部で多くのブロックが検出されている。第１文化層は，Ⅸａ層からⅨｃ層にかけて出土した石器群で，最も多くのブロックが検出されており，大規模なブロック群が２か所ある。凝灰岩，北関東産頁岩，瑪瑙・玉髄，安山岩などの石材による石刃石器群や嶺岡産珪質頁岩，流紋岩，安山岩などの石材による剥片主体の石器群などがあり，両者とも石斧が伴っている。この文化層は出土層位の差などから２～３時期に細分される可能性がある。第２文化層はハードローム層最上部を中心として出土した石器群で，武蔵野台地におけるⅣ層下部の石器群に対応するものと考えられる。ブロックによる石器組成や石材組成の差が顕著で，高原山産黒曜石，北関東産頁岩，上総丘陵砂礫層の石材などによる石器類を主体とするブロックと焼け礫を主体として少量の石器をもつブロックがある。第３文化層はソフトローム層から出土した石刃石器群で，武蔵野台地におけるⅣ層上部の「砂川期」の石器群に対応するものと考えられる。第４文化層はソフトローム層から出土した槍先形石器を伴う旧石器時代終末期の石器群である。この文化層は石器群の内容の差などから２時期に細分される可能性がある。

また，整理作業が未了のため詳細は不明であるが，押沼遺跡群の中では，押沼第２遺跡で，信州産黒曜石による石刃石器群や黒曜石，珪質頁岩による野岳・休場型細石刃核を指標とする細石刃石器群などが出土している。

草刈遺跡では，武蔵野ローム層Ⅺ層から立川ローム層Ⅲ層にかけて７枚の文化層が確認された。第１文化層は，武蔵野ローム層Ⅺ層から立川ローム層Ⅹ層最下部にかけて出土した県内最古の石器群である。第２文化層は，Ⅹ層から出土した石器群で，嶺岡産珪質頁岩の台形石器や楔形石器などに石斧が伴っている。第３文化層は，Ⅸ層下部から出土した石器群で，嶺岡産珪質頁岩の台形石器に石斧が伴う。第４文化層は，Ⅶ層からⅨ層上部にかけて出土した石器群で，最も多くのブロックが検出されている。房総半島南部産の石材による不定型な剥片石器群を主体とし，これに遠隔地石材による石刃石器群が搬入品として存在する。この文化層は出土層位の差などから２～３時期に細分される可能性が指摘されている。第５文化層は，Ⅵ層からⅦ層上部にかけて出土した石器群で，３種類のブロックが存在する。①東北産頁岩による石刃石器群，②東北産と推定される頁岩と信州産黒曜石による小型の石刃石器群及び不定型な剥片石器群，③房総

半島南部産と推定される石材による不定型な剥片石器群である。これらは，概ね同時期に帰属すると考えられている。第６文化層はハードローム層最上部からソフトローム層下部にかけて出土した石器群で，武蔵野台地におけるⅣ層下部の石器群に対応するものと考えられている。信州産黒曜石，房総半島南部産の石材，上総丘陵砂礫層の石材などによるナイフ形石器や角錐状石器などの石器類を主体とするブロックと焼け礫を主体として少量の石器をもつブロックがある。第７文化層はソフトローム層から出土した槍先形石器を指標とする石器群などが出土しており，特異な剥片剥離技術を伴っている。また，３時期の時間差が想定されている。

草刈六之台遺跡では，立川ローム層Ⅲ層からⅩ層にかけて７枚の文化層が確認されたが，Ⅵ層以下の資料が充実している。とくにⅩ層，Ⅸ層下部，Ⅸ層上部で確認した３枚の文化層からは，それぞれ刃部磨製石斧を含む石器群が出土している。Ⅸ層下部では神津島産黒曜石による大型の台形石器，Ⅸ層上部では信州産黒曜石を主体とする石刃石器群に刃部磨製石斧とともに石斧用の砥石が伴っており，草刈遺跡との関係が想定される。

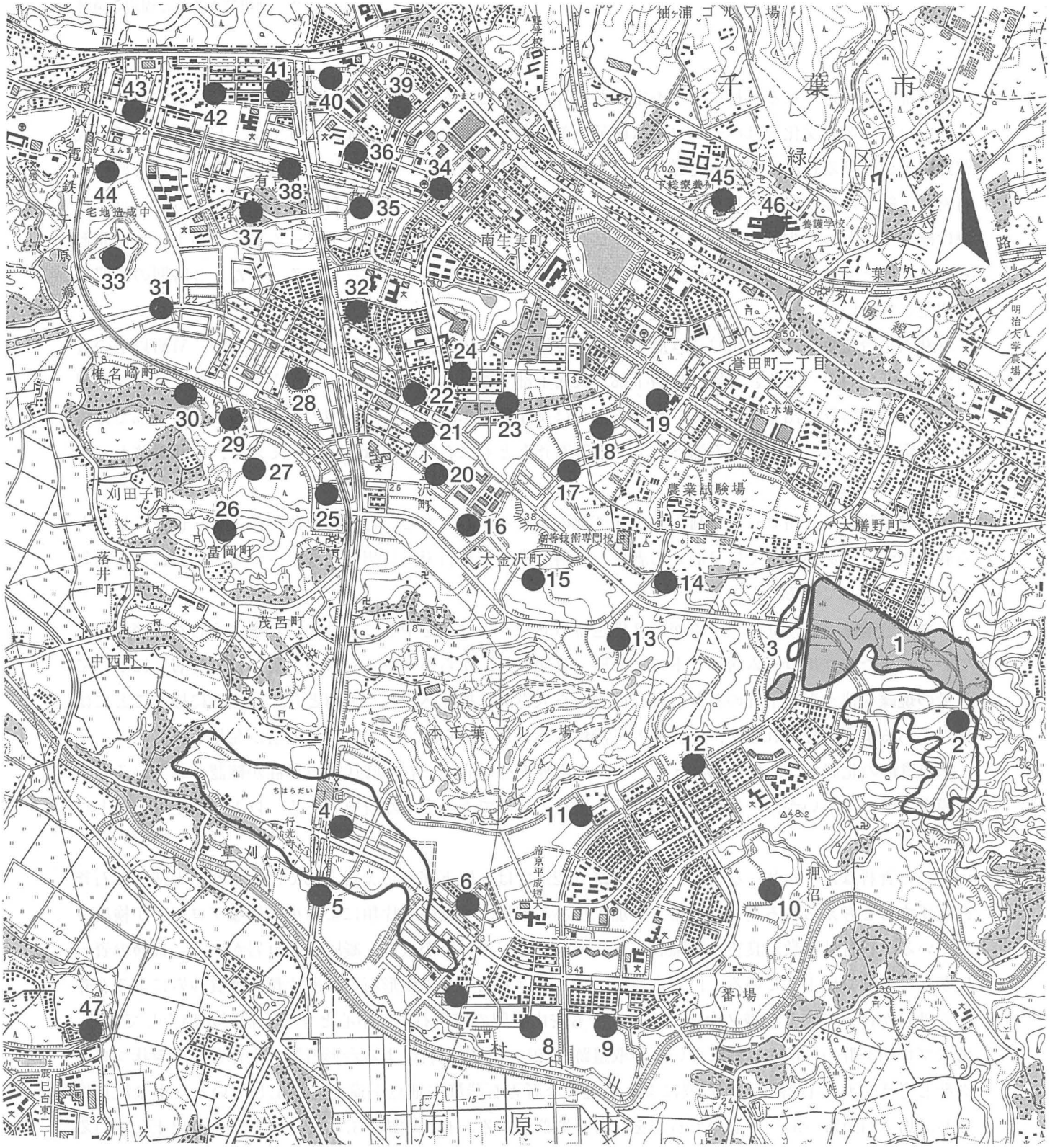
中永谷遺跡では立川ローム層Ⅶ層とⅣ層下部の資料が中心である。野馬堀遺跡ではⅩ層，Ⅳ層，Ⅲ層から剥片類が，ばあ山遺跡ではⅥ層から剥片，上層遺構等から石刃，信州産と推定される黒曜石による槍先形石器が出土している。

ナキノ台遺跡では，立川ローム層第２黒色帯（Ⅶ層～Ⅸ層）を中心に多量の石斧を伴う石器群が出土している。また，立川ローム層ソフトローム層（Ⅲ層下部）からハードローム最上層（Ⅳ・Ⅴ層）にかけて多量の焼礫を伴うⅣ層下部の石器群及び同層から人為的に掘り込まれた遺構として積極的に扱うことには難点があるように思われるが，住居跡の可能性もあると考えられている竪穴状遺構が発見されている。

草刈遺跡の北側では，東南部ニュータウン事業地内を中心に旧石器時代の石器群が確認されている。大規模な遺跡は少ないが，一地域全体の様子を窺うことのできる貴重な資料である。以下，出土層位ごとに概観する。

Ⅹ層の資料ははっきりしないが，高沢遺跡（42）ではⅨ層下部からⅩ層上部で楔形石器，刃部磨製石斧に関係すると考えられる剥片を利用した加工痕ある剥片，小型の剥片類による小規模なブロックが検出されている。石材は半数が良質の黒曜石（信州産か）で，このほか玉髄，凝灰岩，頁岩がある。Ⅸ層の資料は多くの遺跡で出土している。白鳥台遺跡（19）では安山岩製の楔形石器，剥片類に軟質砂岩による石斧用の砥石が伴っている。城ノ台遺跡（33）でも安山岩製の楔形石器を中心とする石器群が出土している。環状ブロック群の一部かも知れない。鎌取遺跡（39）では安山岩による台形石器を主体とする環状ブロック群と考えられる石器群と頁岩製による中規模な石刃石器群が地点を違えて出土している。小金沢貝塚（22），馬ノ口遺跡（34）でも台形石器を含む石器群がある。有吉城跡（37）では石斧が数点出土しているが，頻繁な刃部再生の後，楔形石器や石核に転用されている。六通金山遺跡（17）でも刃部磨製石斧が出土している。神明社裏遺跡（25）では６枚の文化層から37か所のブロックが検出されているが，出土層準などで重複が見られることから，文化層の再編も示唆されている。第２黒色帯下半部の上層を中心に出土した石器群が主体で，刃部磨製石斧の調整剥片や６号墳からは刃部磨製石斧や石斧が出土している。

Ⅳ層からⅤ層では，バクチ穴遺跡（13）で高原山産と考えられる黒曜石や珪質頁岩を中心とする切出形のナイフ形石器，角錐状石器，掻器の一群があり，類例は鎌取遺跡，小金沢古墳群（21），有吉遺跡（43）などでも出土している。小金沢古墳群，六通貝塚（23），鎌取場台遺跡（40）では礫群も見られる。



1　押沼第１遺跡　2　押沼第２遺跡　3　押沼大六天遺跡　4　草刈遺跡　5　草刈六之台遺跡　6　中永谷遺跡
7　川焼台遺跡　8　鶴牧遺跡　9　鶴牧古墳群　10　ナキノ台遺跡　11　ばあ山遺跡　12　野馬堀遺跡　13　バクチ穴遺跡
14　大膳野南貝塚　15　太田法師遺跡　16　ムコアラク遺跡　17　六通金山遺跡　18　六通神社南遺跡　19　白鳥台遺跡
20　御塚台遺跡　21　小金沢古墳群　22　小金沢貝塚　23　六通貝塚　24　六通遺跡　25　神明社裏遺跡　26　春日作遺跡
27　椎名崎古墳群Ｃ支群　28　椎名崎古墳群Ｂ支群　29　今台遺跡　30　椎名神社遺跡　31　椎名崎遺跡　32　木戸作遺跡
33　城ノ台遺跡　34　馬ノ口遺跡　35　有吉南貝塚　36　有吉北貝塚　37　有吉城跡　38　有吉南遺跡　39　鎌取遺跡
40　鎌取場台遺跡　41　南二重堀遺跡　42　高沢遺跡　43　有吉遺跡　44　上赤塚遺跡　45　辺田山谷遺跡　46　コロニー内遺跡
47　大厩遺跡

第１図　押沼第１遺跡周辺の旧石器時代遺跡（1/25,000）

Ⅲ層には複数時期の石器群があるが，有吉遺跡（第４次調査）からは，旧石器時代終末期に帰属する細身の木葉形をした槍先形石器のブロックがある。同時期の資料は小金沢古墳群にもあり，槍先形石器を製作したブロックとして注目される。ムコアラク遺跡（16）では，樋状剥離をもつ槍先形石器がある。

細石刃石器群の出土は乏しいが，春日作遺跡（26）からは嶺岡産珪質頁岩と信州産黒曜石による細石刃石器群がある。細石刃核は得られていない。また，椎名崎古墳群Ｂ支群（28）でも古墳の墳丘下から黒曜石による野岳・休場型細石刃核を指標とする細石刃石器群が出土している。

六通神社南遺跡（18）では土器出現期に帰属すると考えられる大型の槍先形石器がまとまっており，石器石材の原産地推定分析によると奈良県二上山のサヌカイトや岐阜県の下呂石が含まれている。また，東南部ニュータウン北東に隣接する辺田山谷遺跡（45）では，富里市南大溜袋遺跡に代表される狭長な槍先形石器が散見される。

太田法師遺跡（15）では多数の旧石器時代資料が出土しているが，整理作業が未了のため詳細は不明である。

千原台ニュータウン関連文献

（財）千葉県文化財センター　1980『千原台ニュータウンⅠ（野馬堀遺跡・ばあ山遺跡・他）』
（財）千葉県文化財センター　1983『千原台ニュータウンⅡ　草刈遺跡Ａ区（第１次調査）　鶴牧古墳群・人形塚』
（財）千葉県文化財センター　1986『千原台ニュータウンⅢ　草刈遺跡（Ｂ区）』
（財）千葉県文化財センター　1991『千原台ニュータウンⅣ　中永谷遺跡』
（財）千葉県文化財センター　1994『千原台ニュータウンⅥ　－草刈六之台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　2003『千原台ニュータウンⅧ　－市原市草刈遺跡（東部地区縄文時代）－』
（財）千葉県文化財センター　2003『千原台ニュータウンⅨ　－市原市押沼第１・第２遺跡（上層）－』
（財）千葉県文化財センター　2004『千原台ニュータウンＸ　－市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）－』
（財）千葉県文化財センター　2005『千原台ニュータウンＸⅢ　－市原市草刈遺跡（西部地区旧石器時代）－』
（財）千葉県教育振興財団　2006『千原台ニュータウンＸＶ　－市原市押沼大六天遺跡（下層）－』
（財）千葉県教育振興財団　2007『千原台ニュータウンＸⅧ　－市原市ナキノ台遺跡（下層）－』

千葉東南部ニュータウン関連文献

（財）千葉県文化財センター　1979『千葉東南部ニュータウン６　－椎名崎遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1979『千葉東南部ニュータウン７　－木戸作遺跡（第２次）－』
（財）千葉県文化財センター　1979『千葉東南部ニュータウン８　－ムコアラク遺跡・小金沢古墳群－』
（財）千葉県文化財センター　1980『千葉東南部ニュータウン９　－六通遺跡・御塚台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1982『千葉東南部ニュータウン10　－小金沢貝塚－』
（財）千葉県文化財センター　1981『千葉東南部ニュータウン11　－六通金山遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1983『千葉東南部ニュータウン12　－南二重堀遺跡－』

（財）千葉県文化財センター　1983『千葉東南部ニュータウン 14　－バクチ穴遺跡・有吉遺跡（第３次）・有吉南遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1984『千葉東南部ニュータウン 15　－馬ノ口遺跡・有吉城跡・白鳥台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1990『千葉東南部ニュータウン 17　－高沢遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1993『千葉東南部ニュータウン 18　－鎌取遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1998『千葉東南部ニュータウン 19　－千葉市有吉北貝塚１－』
（財）千葉県文化財センター　1999『千葉東南部ニュータウン 21　－有吉遺跡（第４次）・高沢古墳群－』
（財）千葉県文化財センター　1999『千葉東南部ニュータウン 22　－鎌取場台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　2003『千葉東南部ニュータウン 26　－千葉市椎名神社遺跡・古城小弓遺跡・六通神社南遺跡・御塚台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　2003『千葉東南部ニュータウン 27　－千葉市春日作遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　2004『千葉東南部ニュータウン 29　－千葉市バクチ穴遺跡・大膳野南貝塚・有吉城跡２（旧石器時代）－』
（財）千葉県文化財センター　2005『千葉東南部ニュータウン 32　－千葉市小金沢古墳群２－』
（財）千葉県教育振興財団　2006『千葉東南部ニュータウン 35　－千葉市椎名崎Ｂ支群－』
（財）千葉県教育振興財団　2006『千葉東南部ニュータウン 36　－千葉市神明社裏遺跡１（旧石器時代）－』
（財）千葉県教育振興財団　2007『千葉東南部ニュータウン 37　－千葉市六通貝塚－』

第３節　基本土層

本遺跡における立川ローム層の堆積状況は，下総台地で広く観察される基本層序と共通する（第２図）。千葉市から市原市にかけての東京湾岸地域では不明瞭なことが多い第２黒色帯下部中の間層（Ⅸｂ層）がG1-Ａブロックなどで確認されており，当地域の中では比較的良好な堆積状況を示している。

立川ローム層の厚さは，薄いところで1.4ｍ，厚いところで1.7ｍあり，概ね1.5ｍである。

なお，本遺跡では，いわゆる水付きロームと呼ばれる変質化したローム層が比較的浅い標高で確認されており，その成因については地下水等の影響によると考えられているが，ローム層堆積時から現在に至るまでの環境とその変化を考える上で重要である。

Ⅲ層：黄褐色の軟質ロームで，有色スコリアを微量に含む。厚さは30cm～40cmである。

Ⅳ層：赤みを帯びた黄褐色の硬質ロームである。武蔵野台地のⅣ層上部に相当する層は軟質化してⅢ層に取り込まれており，本層は武蔵野台地Ⅳ層下部に対応すると考えられる。赤色スコリアを含み，厚さは20cm～30cmである。

Ⅴ層：にぶい黄褐色の硬質ロームで，第１黒色帯に相当する。厚さは20cm～50cmほどである。

Ⅵ層：明黄褐色の硬質ロームで，火山ガラスによって構成されるＡＴ（姶良丹沢火山灰層）のブロックがまとまっており，黒色粒・橙色のスコリアを含む。厚さは15cm～30cmである。

Ⅶ層：黄褐色の硬質ロームで，第２黒色帯上半部に相当する。ＡＴが細かく拡散しており，あまり暗い色調ではない。厚さは15cm～30cmである。

Ⅸ層：褐色～暗褐色の硬質ロームで，第２黒色帯下半部である。調査当時は単一の土層として認識されていたり，Ⅶａ層（現在のⅦ層下部とⅨａ層），Ⅶｂ層（現在のⅨｂ層），Ⅶｃ層（現在のⅨｃ層）に区

分されたりしている。整理作業の中で細分可能な場合は，以下のとおりとした。

Ⅸa層：赤みを帯びた褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部の上層にあたる。赤色，黒色，暗緑色のスコリアを含む。厚さは20cm～30cmである。

Ⅸb層：赤みがかった黄褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部中の間層である。安定した土層ではないが，一部の調査区で確認できた。

Ⅸc層：暗褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部の下層にあたる。立川ローム層の中では最も暗く，薄墨を流したようにみえる。赤色，暗緑色のスコリアがⅨａ層よりも多く，また，大型のものが顕著である。厚さは20cm～40cmである。

Ⅹ層：黄褐色の硬質ローム層であるが，Ⅸ層に比べて軟質になる。厚さは20cm～40cmである。

Ⅺ層：黄灰褐色のやや軟質なローム層で，通常Ⅹ層との境界は波状をなし，不整合になっている。武蔵野ローム層最上部と考えられる。

Ⅻ層：黄灰褐色のやや軟質なローム層

ⅩⅢ層：黄灰褐色の硬質なローム層

ⅩⅣ層：黄灰褐色の硬質なローム層

ⅩⅤ層：黄灰褐色のわずかに軟質なローム層

ⅩⅥ層：黄灰褐色のやや軟質なローム層で，やや粘土質である。黒色のスコリアを少量含む。

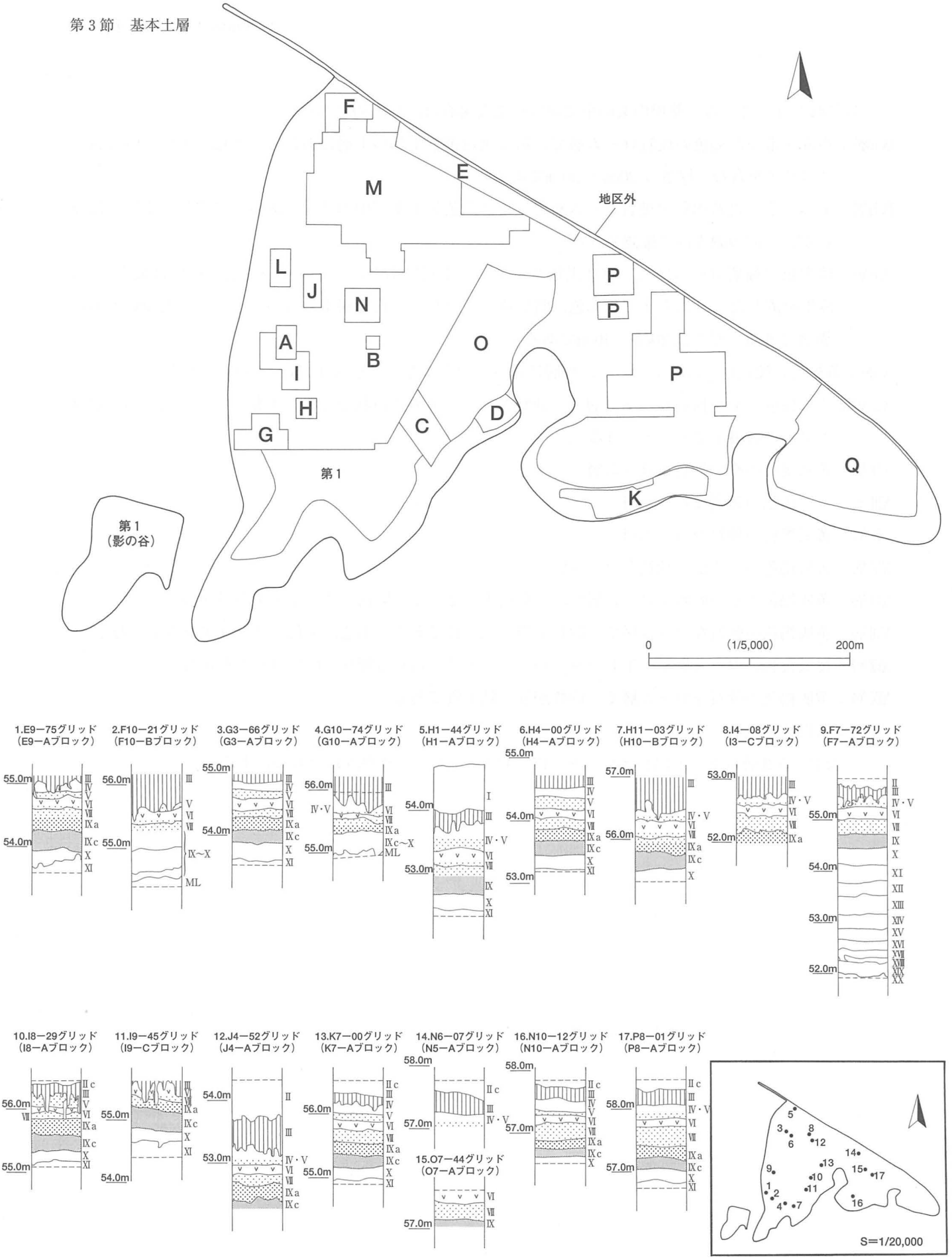
ⅩⅦ層：黄灰褐色の軟質なローム層で，砂質を帯び粘土質である。赤色，黒色のスコリアを少量含む。

ⅩⅧ層：橙灰褐色のローム層で，ＴＰ（東京パミス）と考えられる細砂状のブロックを含む。

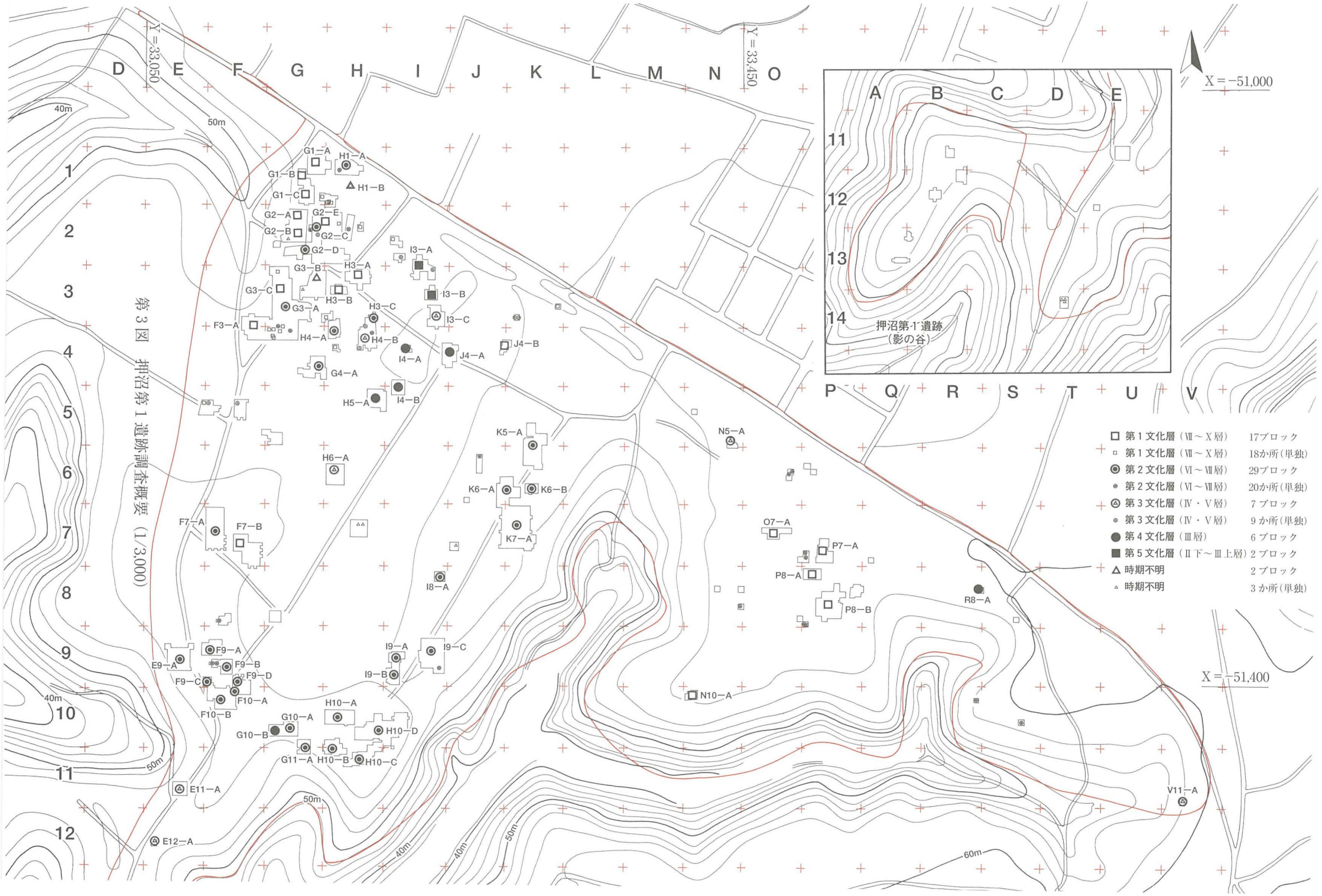
ⅩⅨ層：黄灰褐色の軟質なローム層で，砂質が強く粘土質である。

ⅩⅩ層：灰白色粘土層

なお，ⅩⅡ層以下はF7-72グリッド（F7-Ａブロック）で観察されたものによる。



第２図　押沼第１遺跡調査区及び基本土層


第3図　押沼第1遺跡調査概要（1/3,000）
Y＝33,050
Y＝33,450
X＝−51,000
X＝−51,400
D E F G H I J K L M N O
P Q R S T U V
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
A B C D E
11 12 13 14
押沼第1遺跡
（影の谷）
40m
50m
60m
G1−A G1−B G1−C H1−A H1−B G2−A G2−B G2−C G2−D G2−E G3−A G3−B G3−C H3−A H3−B H3−C I3−A I3−B I3−C F3−A H4−A H4−B I4−A I4−B J4−A J4−B G4−A H5−A K5−A K6−A K6−B K7−A H6−A F7−A F7−B I8−A N5−A O7−A P7−A P8−A P8−B R8−A F9−A F9−B F9−C F9−D E9−A F10−A F10−B I9−A I9−B I9−C N10−A G10−A G10−B H10−A H10−B H10−C H10−D G11−A E11−A E12−A V11−A
第1文化層（Ⅶ～Ⅹ層）　17ブロック
第1文化層（Ⅶ～Ⅹ層）　18か所（単独）
第2文化層（Ⅵ～Ⅶ層）　29ブロック
第2文化層（Ⅵ～Ⅶ層）　20か所（単独）
第3文化層（Ⅳ・Ⅴ層）　7ブロック
第3文化層（Ⅳ・Ⅴ層）　9か所（単独）
第4文化層（Ⅲ層）　6ブロック
第5文化層（Ⅱ下～Ⅲ上層）　2ブロック
時期不明　2ブロック
時期不明　3か所（単独）

第２章　検出した遺構と遺物

第１節　調査の概要

押沼第１遺跡・押沼影之谷遺跡では，旧石器時代（下層）調査を昭和58年度から平成８年度まで断続的に実施した。調査区の位置は，押沼遺跡群の北側にあたり，西側と南側は，千葉市と市原市とを画する茂呂谷津に面した台地上である。

昭和58年度は，押沼影之谷遺跡の6,400㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて119㎡の本調査を行った。昭和59年度は，押沼第１遺跡の第１遺跡（地点名），Ｃ・Ｄ・Ｋ・Ｏ地点，Ｐ地点の一部，Ｑ地点，地区外を除く127,636㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行った。昭和60年度は，Ａ地点の200㎡，Ｂ地点の144㎡の本調査を行った。Ｃ地点については，1,500㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて500㎡の本調査を行った。また，Ｄ地点の1,000㎡については，ローム層の堆積状況が悪かったため，調査に至らなかった。昭和62年度は，第１遺跡の12,000㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて700㎡の本調査を行った。昭和63年度は，第１遺跡の800㎡の本調査を行った。また，Ｋ地点の1,500㎡については，ローム層の堆積状況が悪かったため，調査に至らなかった。平成２年度は，Ｅ地点（谷向土塁）の4,000㎡，Ｆ地点（谷向プレ）の1,200㎡の本調査を行った。平成３年度は，Ｇ・Ｈ・Ｉ・Ｊ・Ｋ・Ｌ・Ｍ地点の6,000㎡の本調査を行った。平成４年度は，Ｍ地点の5,000㎡の本調査を行った。平成５年度は，Ｍ・Ｎ地点の8,264㎡の本調査を行った。平成６年度は，Ｍ・Ｏ地点の2,746㎡の本調査を行った。平成７年度は，Ｐ・Ｑ地点の23,564㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて10,262㎡の本調査を行った。なお，Ｑ地点については確認調査で終了している。平成８年度は，地区外の3,900㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，調査を終了した。

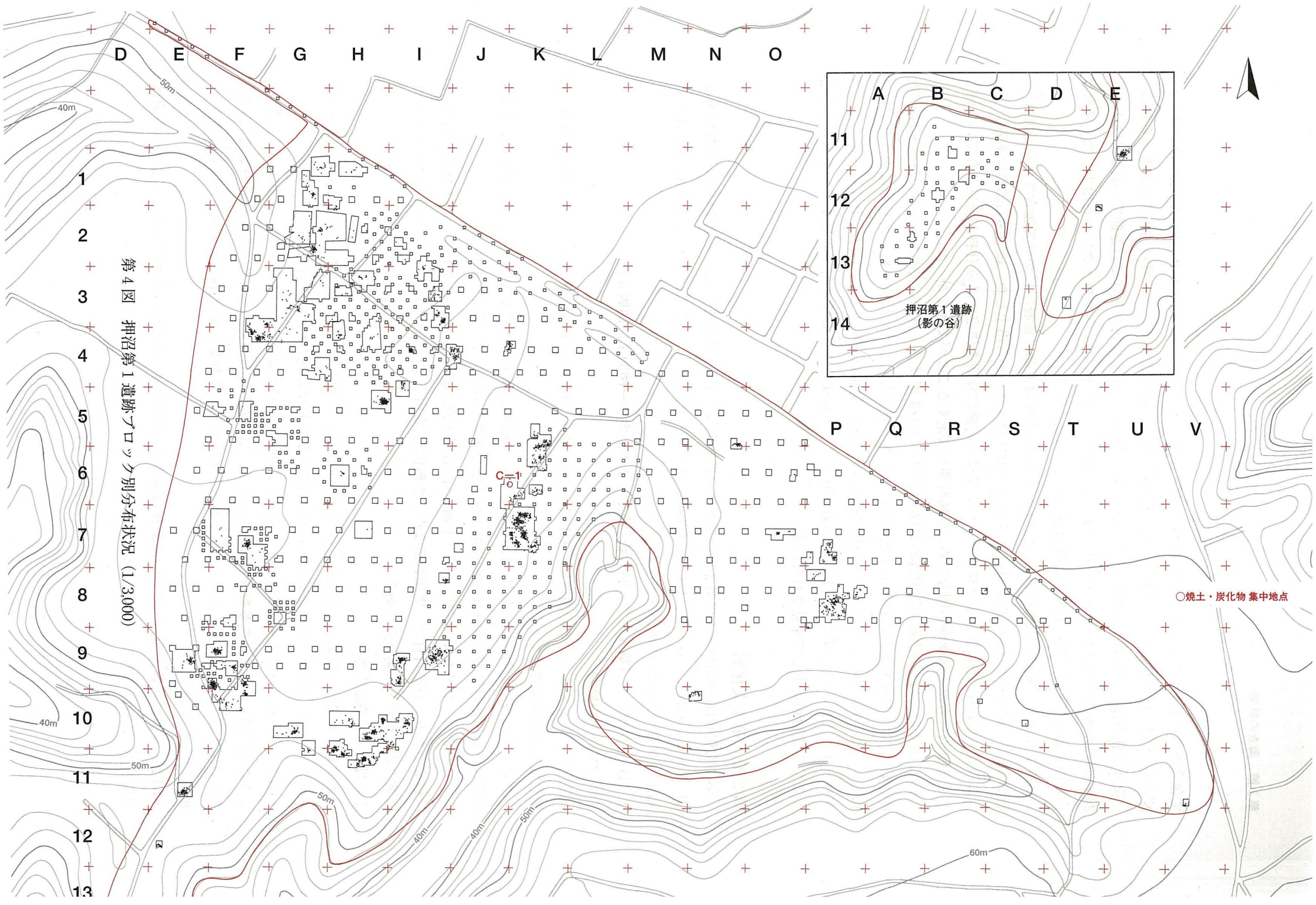
調査の結果，63か所のブロックと55か所の単独出土地点を検出した（第３・４図）。

本遺跡における63か所のブロックは以下のとおり，帰属時期不明の１枚を含み６枚の文化層に区分された。

第１文化層は，立川ローム層第２黒色帯下半部（Ⅸ層上部～下部）に包含される石器群で，石器716点，礫24点が17か所のブロック（G1-Ａ～Ｃ，G2-Ａ・Ｂ・Ｅ，F3-Ａ，G3-Ｃ，H3-Ａ・Ｂ，J4-Ｂ，F7-Ｂ，O7-Ａ，P7-Ａ，P8-Ａ・Ｂ，N10-Ａブロック）から出土した。本文化層は出土層位に幅があり，石器群の内容も多様であることから，細分される可能性もある。

第２文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部とその周辺（Ⅵ層～Ⅶ層）を中心に包含される石器群で，石器2,461点，礫52点が29か所のブロック（H1-Ａ，G2-Ｃ・Ｄ，G3-Ａ，H3-Ｃ，G4-Ａ，H4-Ａ，K5-Ａ，K6-Ａ・Ｂ，K7-Ａ，F7-Ａ，I8-Ａ，I9-Ａ～Ｃ，E9-Ａ，F9-Ａ～Ｄ，F10-Ａ・Ｂ，G10-Ａ，H10-Ａ～Ｄ，G11-Ａブロック）から出土した。武蔵野台地のⅥ層の石器群に相当すると考えられる。J6-59・69，K6-50・60グリッドのⅦ層では比較的大型の炭化材や焼土を伴った炭化物集中地点が検出されており，K6-Aブロックと重複している。

第３文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅲ層）からハードローム層最上部（Ⅳ層）にかけ



第４図　押沼第１遺跡ブロック別分布状況（1/3,000）

て包含される石器群で，石器 293 点，礫 90 点が 7 か所のブロック（I3- C，H4- B，H6- A，E11- A，E12- A，N5- A，V11- Aブロック）から出土した。武蔵野台地のⅣ層下部の石器群に概ね相当すると考えられる。

第４文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）を中心に包含される石器群で，石器 382 点，礫 24 点が 6 か所のブロック（I4- A・B，J4- A，H5- A，G10- B，R8- Aブロック）から出土した。武蔵野台地のⅣ層上部の砂川期の石器群に概ね相当すると考えられる。

第５文化層は，Ⅱ層から立川ローム層のソフトローム層最上部（Ⅲ層）にかけて包含される石器群で，石器 36 点，礫 2 点が 2 か所のブロック（I3- A・Bブロック）から出土した。細石刃石器群である。

この他，G3- B，H1- Bの 2 ブロックについては，明確に時期を決定できる資料が発見されていないことと層位的にも出土層準が不明なため，帰属時期を決定することができなかった。

また，調査時には，押沼影之谷遺跡の B12-19 グリッドのⅢ層及びⅩ層，B12-34 グリッドのⅦ層～Ⅸａ層，B12-44 グリッドのⅩ層から石器が 4 点出土しており，前 3 者については調査時の所見では剥片と記録されているが，後者の 1 点を含め，その後に紛失したため，詳細は不明である。また，B11-66・67・76・77 グリッド，A13・49・59 グリッド，B13-00・10 グリッドの第 2 黒色帯下半部（Ⅸ層上部～下部）を中心として炭化物が集中して発見されている。

第２節　第１文化層

第１文化層は，立川ローム層第 2 黒色帯下部（Ⅸ層上部～下部）を中心に包含されている石器群である。G1- A～C，G2- A・B・E，F3- A，G3- C，H3- A・B，J4- B，F7- B，O7- A，P7- A，P8- A・B，N10- Aブロックの 17 か所が該当する。

１　G1- Aブロック（第５～７・264 図，第１・２表，カラー図版１，図版３）

１）ブロックの概要

G1- Aブロックは，調査範囲西側の G1-27～29，37～39 グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の西側縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸 12 m，短軸 7 mの範囲に 18 点の石器が分布する。出土層位は，Ⅸａ層からⅨｃ層にかけてで，60cmほどの高低差をもって包含されている（第５・６図）。

ブロックは，使用痕ある剥片 2 点（1 個体），石刃 1 点，剥片 14 点，砕片 1 点の合計 18 点（17 個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ｃ 3 点（2 個体），安山岩 4 点，チャート 1 点，ホルンフェルス 1 点，石英 7 点，瑪瑙・玉髄 2 点である。

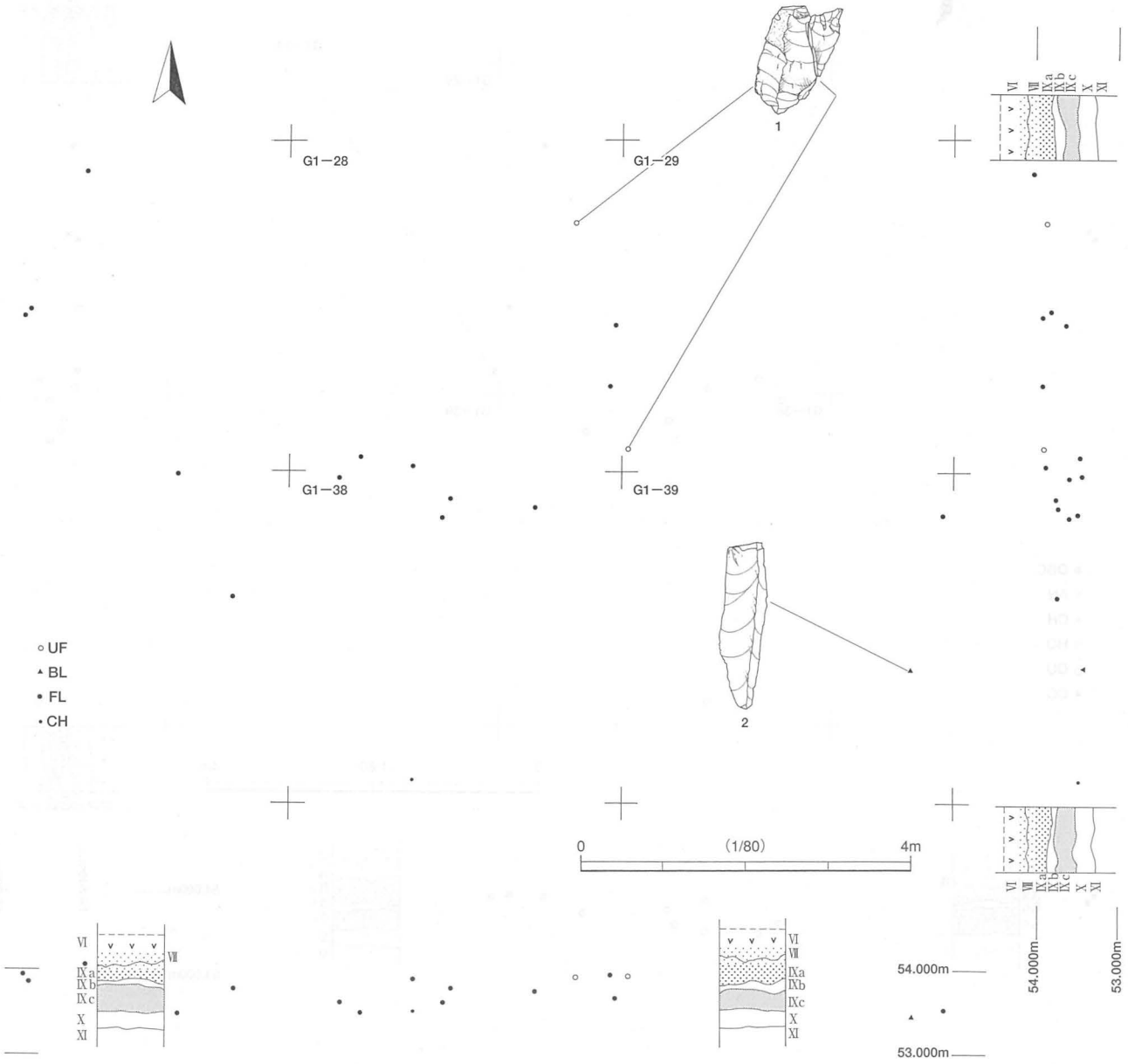
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは 3 母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｃ 1 母岩（G1-1），石英 1 母岩（G1-3），瑪瑙・玉髄 1 母岩（G1-2）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は 67%（12/18 点）である。

・**G1-1**：自然面は紙ヤスリ状の部分と平滑な部分があり，自然面は灰色（7.5Y6/1），内部は薄墨を流したような地に細かい夾雑物を多数含む黒曜石である。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片 2 点（1 個体），剥片 1 点の合計 3 点（2 個体;9.1g）である。接合資料は，使用痕ある剥片 2 点（1 個体；8.7g）である。

・**G1-2**：内部は明黄褐色（2.5Y7/6），節理は淡黄色（2.5Y8/4）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片 2 点（3.5g）である。

・G1-3：内部は透明，節理は明黄褐色（10YR7/6）の石英である。石器群の内訳は，剥片６点，砕片１点の合計７点（4.3g）である。

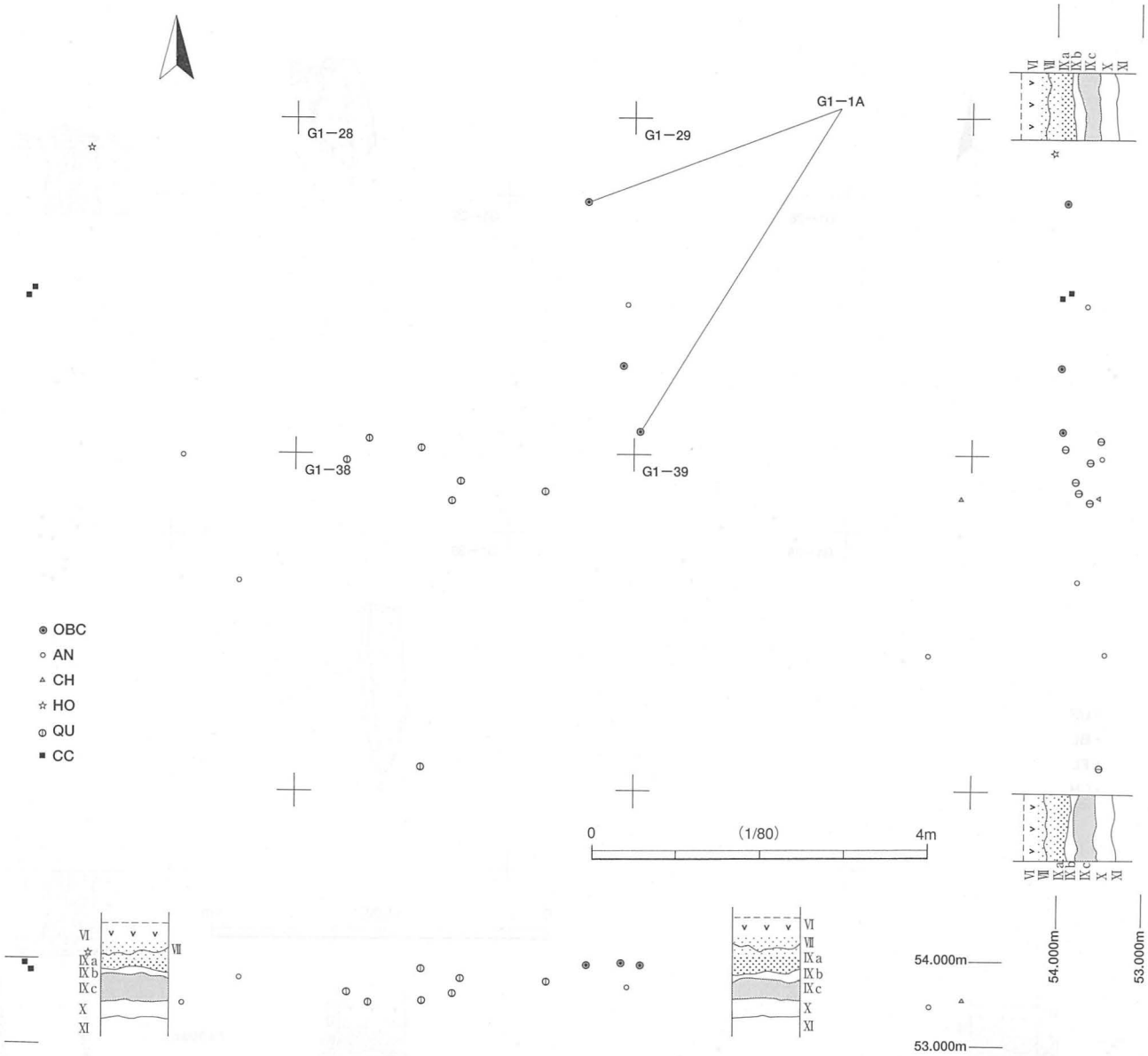


第５図　Ｇ１-Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

第１表　Ｇ１-Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
G1-1(OBC)											2(1)							1							3(2)
G1-2(CC)																		2							2
G1-3(QU)																		6	1						7
その他(AN)												1						3							4
その他(CH)																		1							1
その他(HO)																		1							1
合　計											2(1)	1						14	1						18(17)

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の石刃１点，剥片３点の合計４点（12.2g），チャートの剥片１点（0.9g），ホルンフェルスの剥片１点（3.0g）がある。



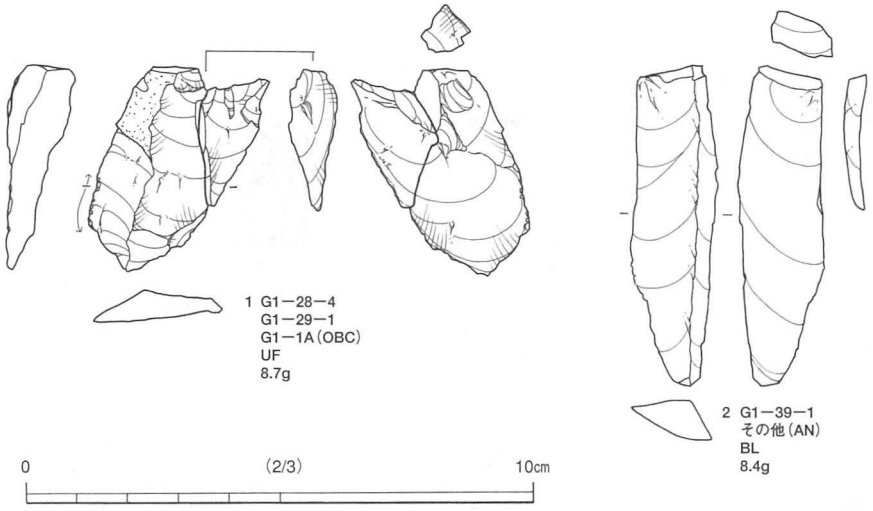
第６図　Ｇ１-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

第２表　Ｇ１-Ａブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石C(OBC)											2(1)							1							3(2)
安山岩(AN)												1						3							4
チャート(CH)																		1							1
ホルンフェルス(HO)																		1							1
石英(QU)																		6	1						7
瑪瑙・玉髄(CC)																		2							2
合　計											2(1)	1						14	1						18(17)

3）出土遺物（第7図）

1は信州麦草峠産の黒曜石による使用痕ある剥片である。縦長剥片を素材とし，左側面下部に刃こぼれが見られる。2は安山岩による石刃である。



第7図　G1-Aブロック出土遺物

2　G1-Bブロック（第8～10・264図，第3・4表，カラー図版1，図版3）

1）ブロックの概要

G1-Bブロックは，調査範囲西側のG1--45・55・56・65・66グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の西側縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸8m，短軸3mの範囲に6点の石器が分布する。出土層位は，Ⅸaから Ⅸc層にかけてで，40cmほどの高低差をもって包含されている（第8・9図）。なお，ⅩⅠ層は灰褐色土で粘性が強く，ロームが変質したものと思われる。

ブロックは，加工痕ある剥片1点，剥片4点，石核1点の合計6点で構成される。石器石材は，黒曜石B3点，黒曜石G1点，頁岩D1点，チャート1点である。

2）母岩の特徴と内容

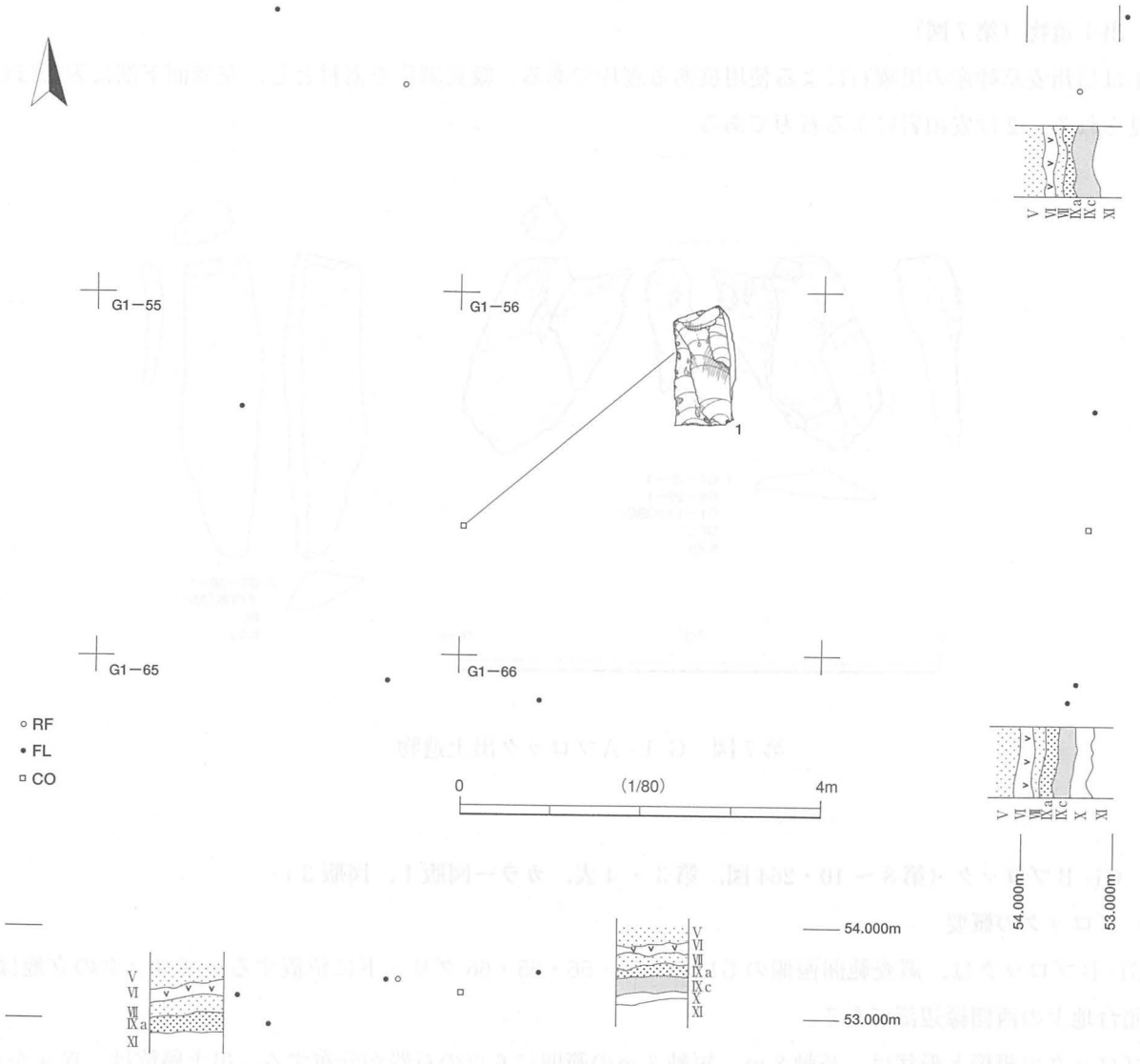
本ブロックでは1母岩を識別した。内訳は，チャート1母岩（G1-4）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は17%（1/6点）である。

・G1-4：オリーブ灰色（5GY5/1）の地に暗灰色（N3/0）の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点（2.5g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の剥片2点，石核1点の合計3点（10.3g），産地不明の黒曜石の剥片1点（1.2g），硬質緻密な頁岩の剥片1点（15.2g）がある。

3）出土遺物（第10図）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による石核である。石刃の折れ面を打面として，縦長剥片を剥離している。上部については，これらの剥離面を打面として，剥離軸に直交する小さい剥離痕が見られ，彫器の可



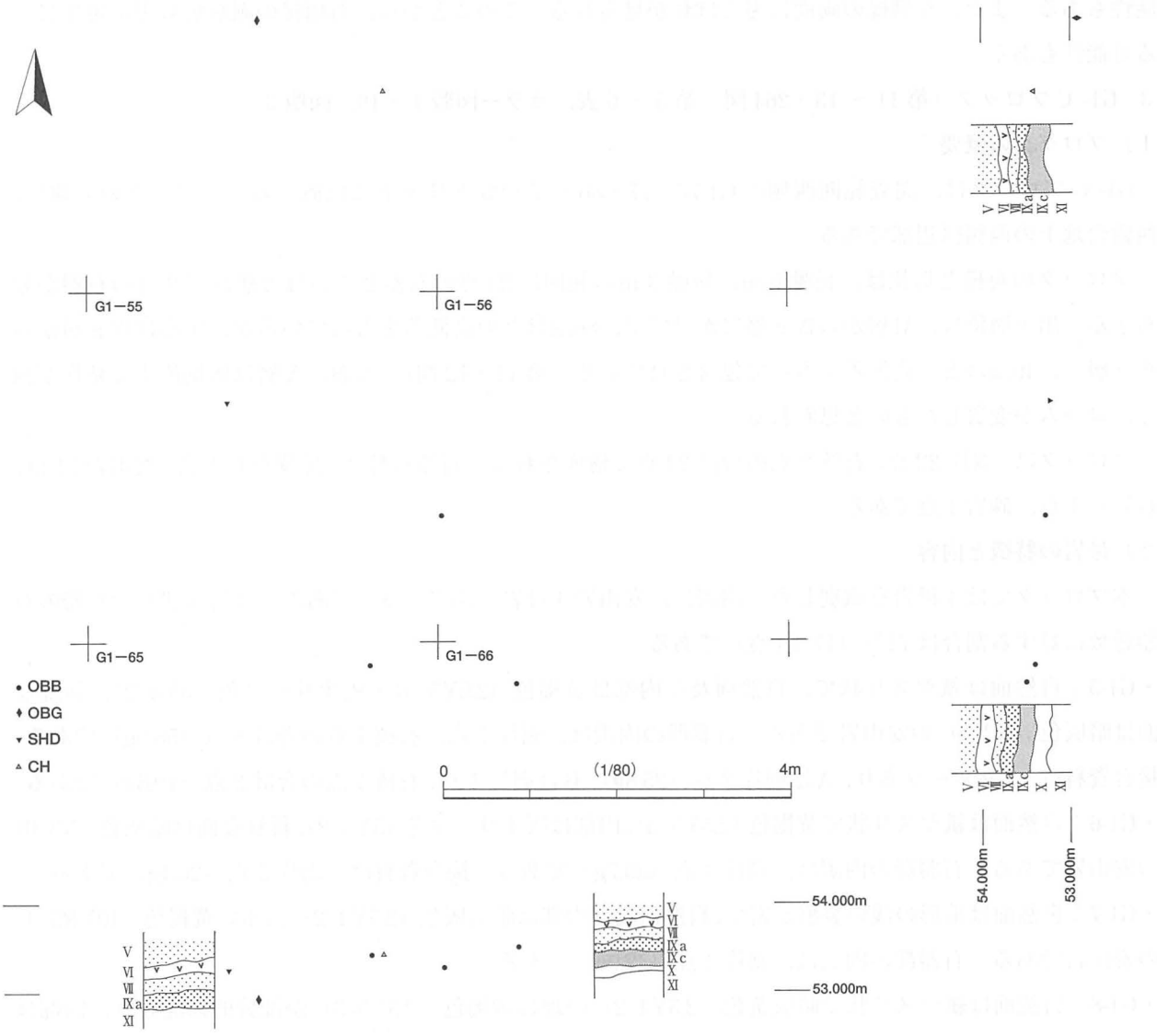
第８図　Ｇ１-Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

第３表　Ｇ１-Ｂブロック母岩別石器組成

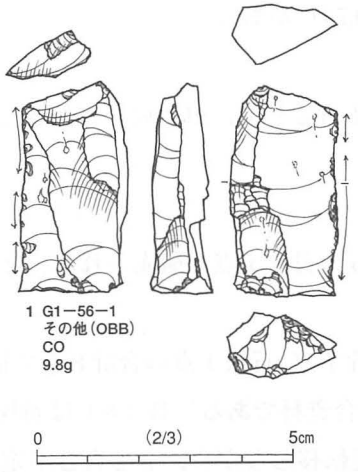
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
G1-4(CH)										1															1
その他(OBB)																		2		1					3
その他(OBG)																		1							1
その他(SHD)																		1							1
合　計										1								4		1					6

第４表　Ｇ１-Ｂブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)																		2		1					3
黒曜石G(OBG)																		1							1
頁岩D(SHD)																		1							1
チャート(CH)										1															1
合　計										1								4		1					6



第9図　G 1- Bブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－



第10図　G 1- Bブロック出土遺物

能性もある。また，左側縁の両面に刃こぼれが見られる。このことから，右側縁の剥離痕も刃部再生による可能性もある。

３　G1- Ｃブロック（第 11 ～ 13・264 図，第５・６表，カラー図版１・19，図版３）

１）ブロックの概要

G1- Ｃブロックは，調査範囲西側の G1-76・77・86・87・96 グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の西側縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸６ｍ，短軸３ｍの範囲に 24 点の石器と５ｍほど離れて２点の石器が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅨｃ層にかけてで，80cmほどの高低差をもっているが，中心はⅨａ層からⅨｃ層で，40cmほどの高低差をもって包含されている（第 11・12 図）。なお，Ⅹ層は灰褐色土で粘性が強く，ロームが変質したものと思われる。

ブロックは，剥片 22 点，石核２点の合計 24 点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ１点，安山岩 21 点，頁岩Ｃ１点，砂岩１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，安山岩４母岩（G1-5 ～ 8）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は 71%（17/24 点）である。

・**G1-5**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黄褐色（2.5Y5/3）・灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片７点，石核１点の合計８点（58.0g）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片２点（25.8g），Ｂは剥片１点，石核１点の合計２点（19.6g）である。

・**G1-6**：自然面は紙ヤスリ状で黄褐色（2.5Y5/3），内部は灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片４点（30.7g）である。接合資料は，剥片２点（26.4g）である。

・**G1-7**：自然面は爪形の浅い裂痕が密で，自然面及び内部は暗黄灰色（2.5Y4/2）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片４点（42.9g）である。

・**G1-8**：自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色（2.5Y4/2）の地に黄褐色（2.5Y5/3）が部分的に混じり，内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石核１点（28.4g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の剥片１点（0.1g），安山岩の剥片４点（5.5g），嶺岡産頁岩の剥片１点（15.2g），砂岩の剥片１点（0.7g）がある。

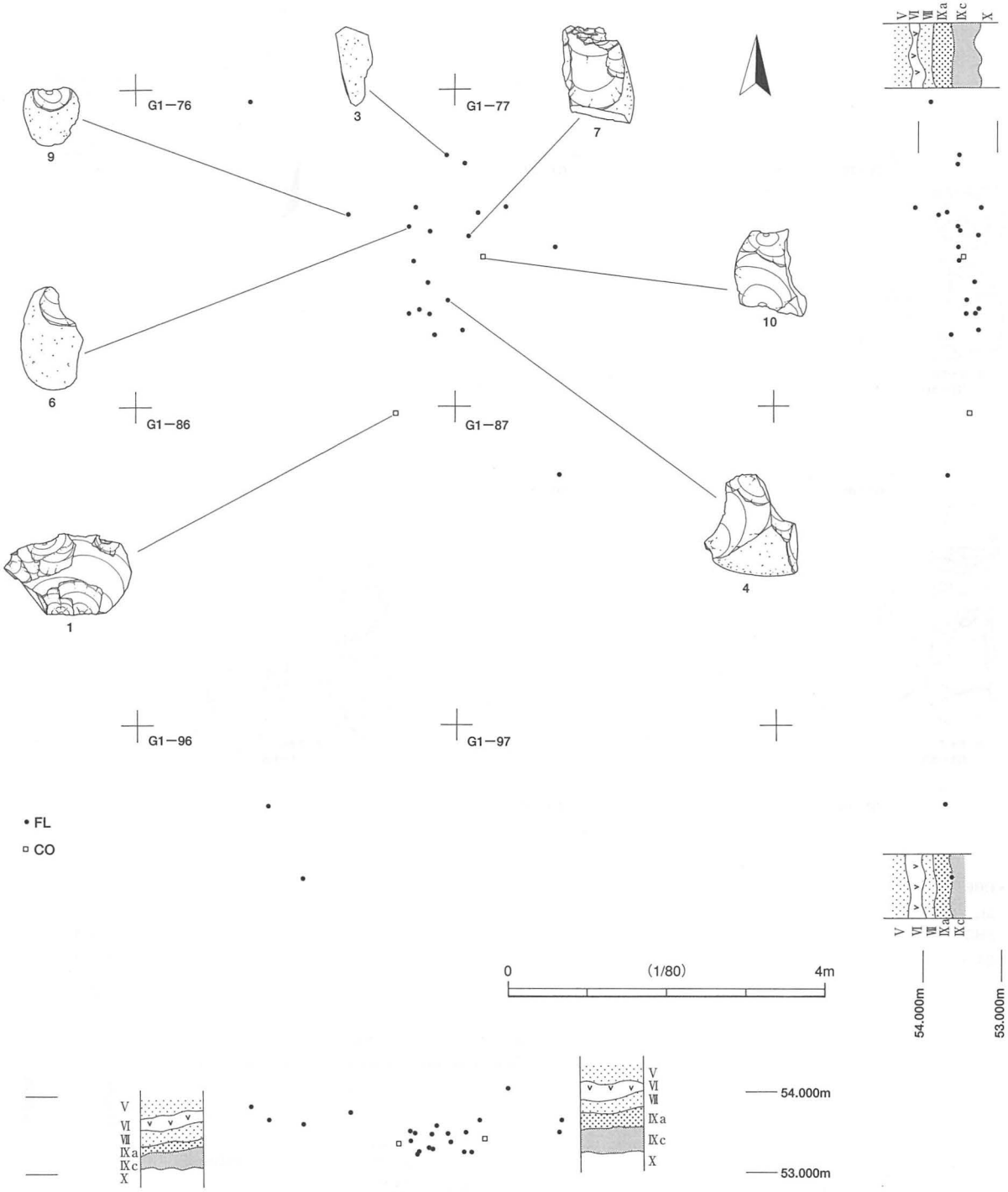
３）出土遺物（第 13 図）

１は安山岩による石核である。比較的厚手の不定形な剥片を素材として，自然面を打面として両端から小型で不定型な剥片を剥離している。

４）接合資料とその関連資料（第 13 図）

・**G1-6（第 13 図）**　灰オリーブ色（5Y4/2）などの安山岩である。剥片４点で構成される。２は不定型な剥片２点（３・４）の接合資料である。

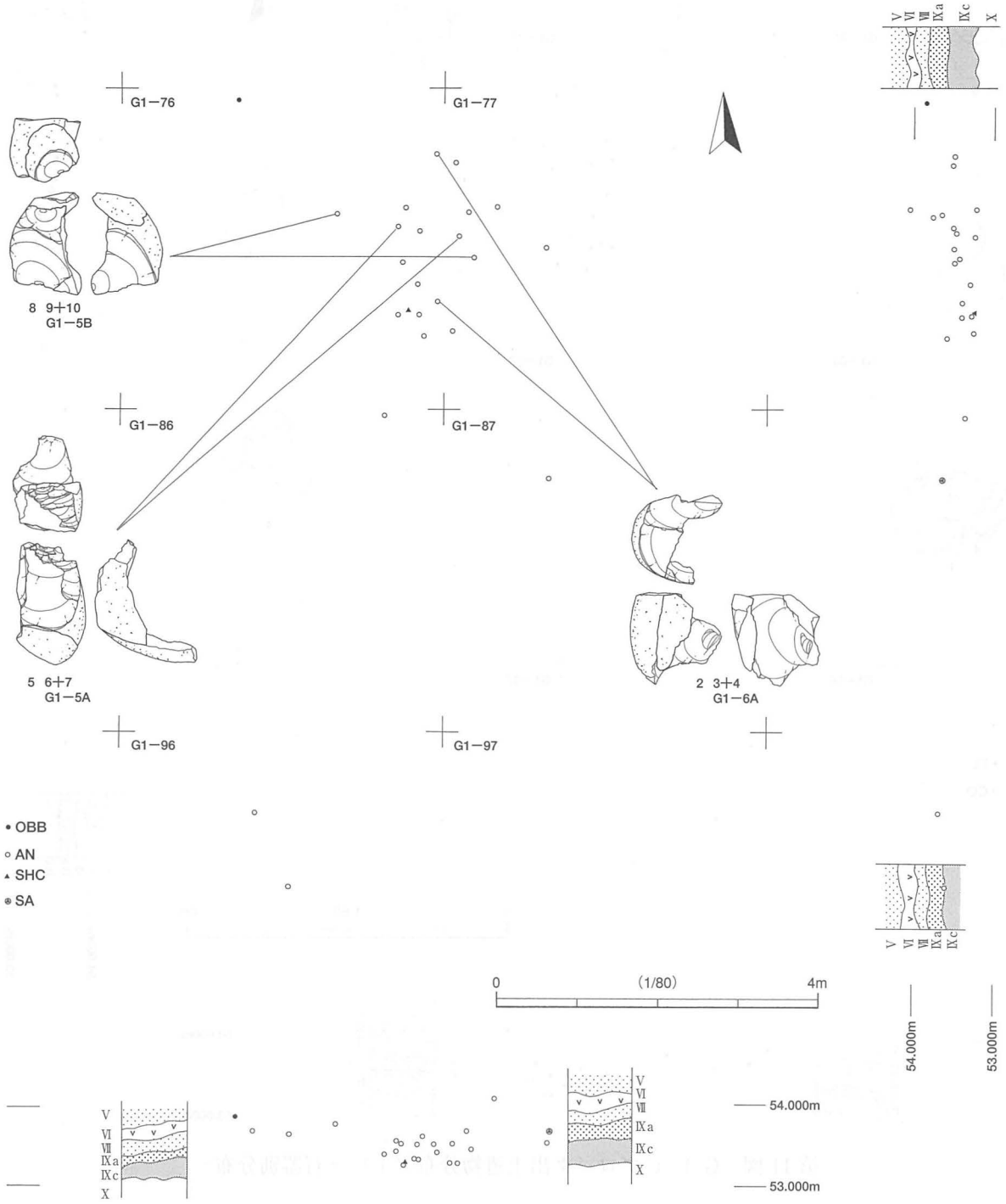
・**G1-5（第 13 図）**　黄褐色（2.5Y5/3）などの安山岩である。剥片７点，石核１点の合計８点で構成される。接合資料は，２グループある。Ａ（５）は剥片２点（６・７）の接合資料である。Ｂ（８）は剥片１点（９），石核１点（10）の接合資料である。打面を 90 度あるいは 180 度転移しながら，９を含む不定型な剥片を剥離している。



第11図　G 1- Cブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－

第5表　G 1-Cブロック母岩別石器組成

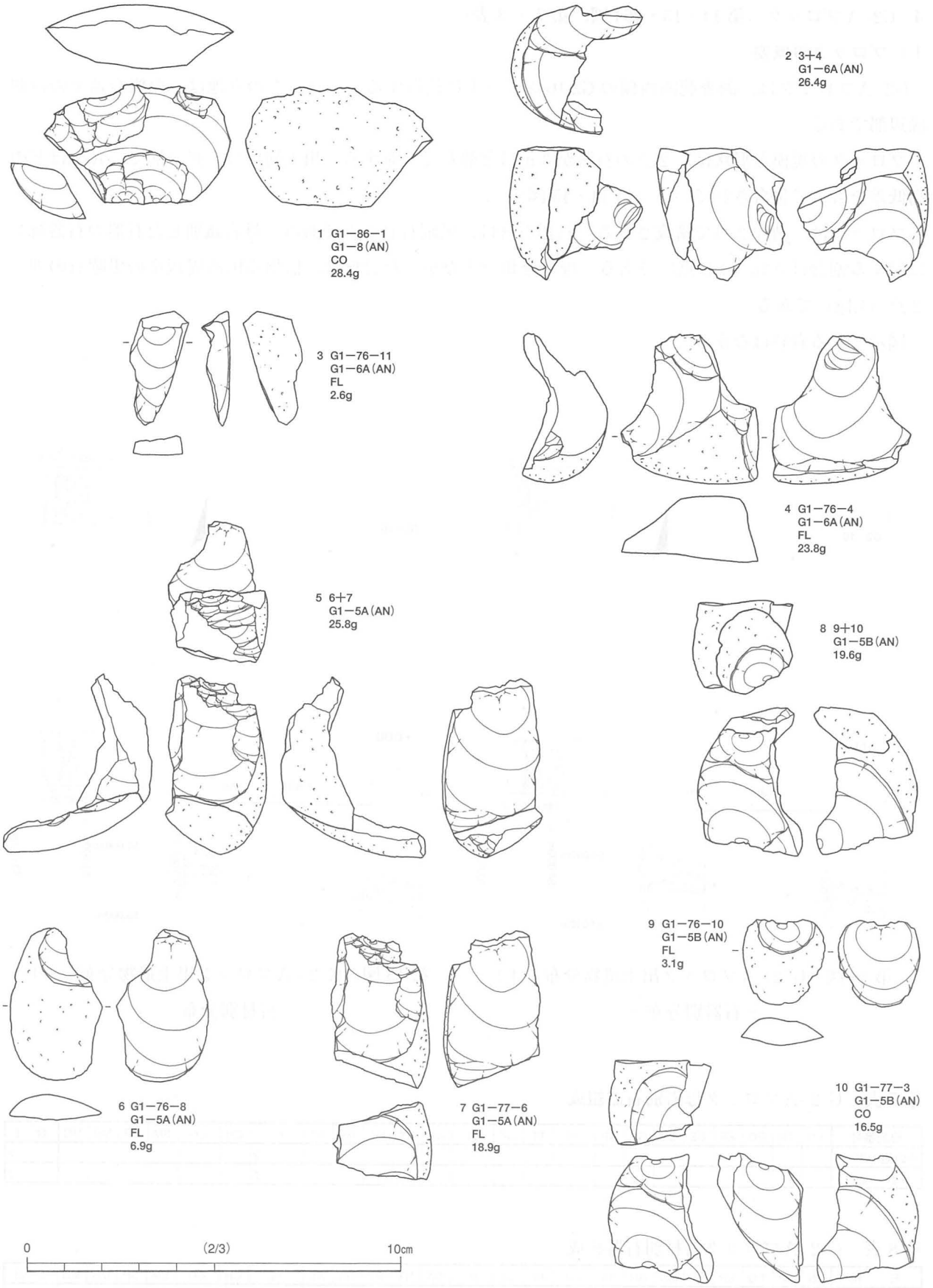
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
G1-5(AN)																		7		1					8
G1-6(AN)																		4							4
G1-7(AN)																		4							4
G1-8(AN)																				1					1
その他(OBB)																		1							1
その他(AN)																		4							4
その他(SHC)																		1							1
その他(SA)																		1							1
合　計																		22		2					24



第12図　Ｇ１-Ｃブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

第６表　Ｇ１-Ｃブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)																		1							1
安山岩(AN)																		19		2					21
頁岩C(SHC)																		1							1
砂岩(SA)																		1							1
合　計																		22		2					24



第13図　G 1 - Cブロック出土遺物

４　G2- Aブロック（第14・15・264図，第７・８表）

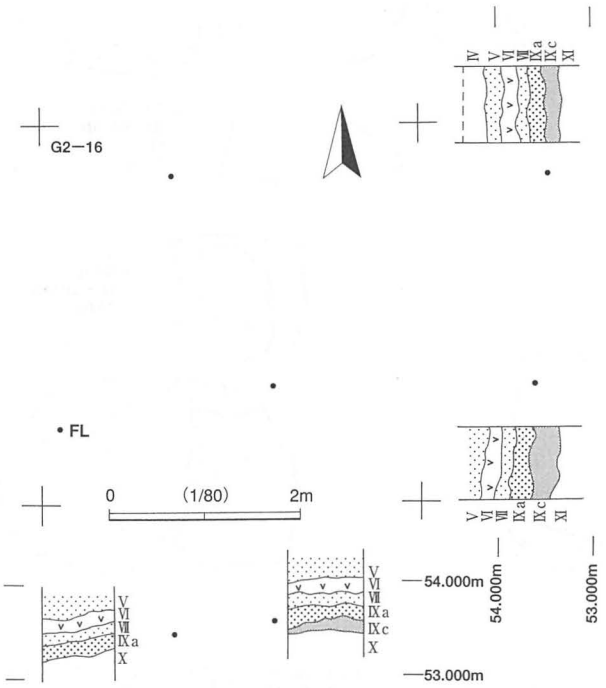
１）ブロックの概要

G2- Aブロックは，調査範囲西側のG2-16グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の西側縁辺部である。

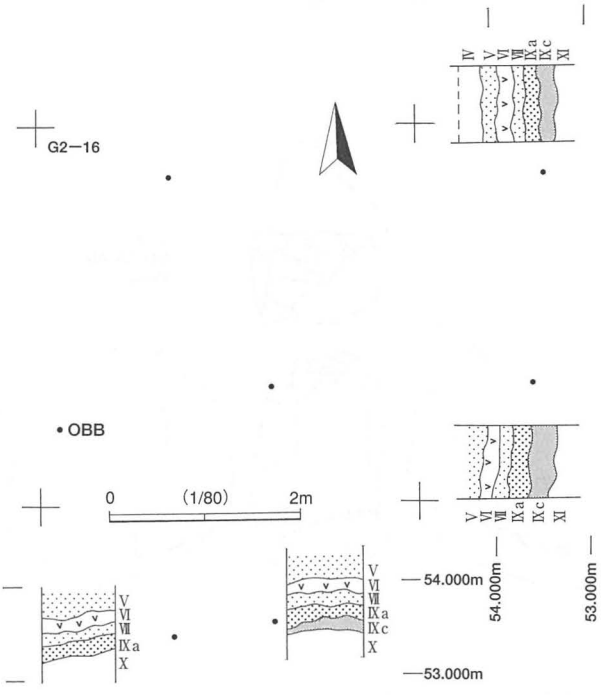
ブロックの規模と形状は，２点の石器が３ｍほど離れて分布する。出土層位は，Ⅸａ層で，10cmほどの高低差をもって包含されている（第14・15図）。

ブロックは，剥片２点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ２点である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は０％（0/2点）である。母岩分類できなかった資料は，信州和田峠周辺産の黒曜石の剥片２点（1.1g）である。

図示できる資料はなかった。



第14図　Ｇ２-Ａブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



第15図　Ｇ２-Ａブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－

第７表　Ｇ２-Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
その他(OBB)																		2							2
合　計																		2							2

第８表　Ｇ２-Ａブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)																		2							2
合　計																		2							2

5　G2- Bブロック（第16～18・264図，第9～11表，カラー図版1・19，図版2）

1）ブロックの概要

G2- Bブロックは，調査範囲西側のG2-36・44～46・55・56グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の西側縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸11 m，短軸9 mの範囲に13点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅩ層にかけて，140cmほどの高低差をもっているが，中心はⅦ層からⅨc層で80cmほどの高低差をもって包含されている（第16・17図）。

ブロックは，使用痕ある剥片1点，石刃2点，敲石1点，剥片5点，砕片1点の合計10点と礫3点で構成される。石器石材は，安山岩4点，流紋岩1点，頁岩C 1点，凝灰岩B 3点，ホルンフェルス1点である。礫石材は，凝灰岩1点（1母岩;58.6g），砂岩1点（1母岩;35.7g），礫岩1点（1母岩;74.5g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは3母岩を識別した。内訳は，流紋岩1母岩（G2-3），凝灰岩B 2母岩（G2-1・2）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は40%（4/10点）である。

・**G2-1**：自然面は平滑で灰色（7.5Y6/1）・灰白色（7.5Y7/2），内部は明オリーブ灰色（2.5GY7/1），節理は暗褐色（10YR3/3），新鮮な面は灰色（N6/0）の凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃2点（66.1g）である。接合資料は，石刃2点（66.1g）である。

・**G2-2**：明緑灰色（7.5GY7/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片1点（5.4g）の単独資料である。

・**G2-3**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰白色（7.5Y7/2）・褐色（7.5YR4/4）の地に灰色（7.5Y5/1）が部分的に混じる流紋岩である。石器群の内訳は，敲石1点（261.8g）の単独資料である。

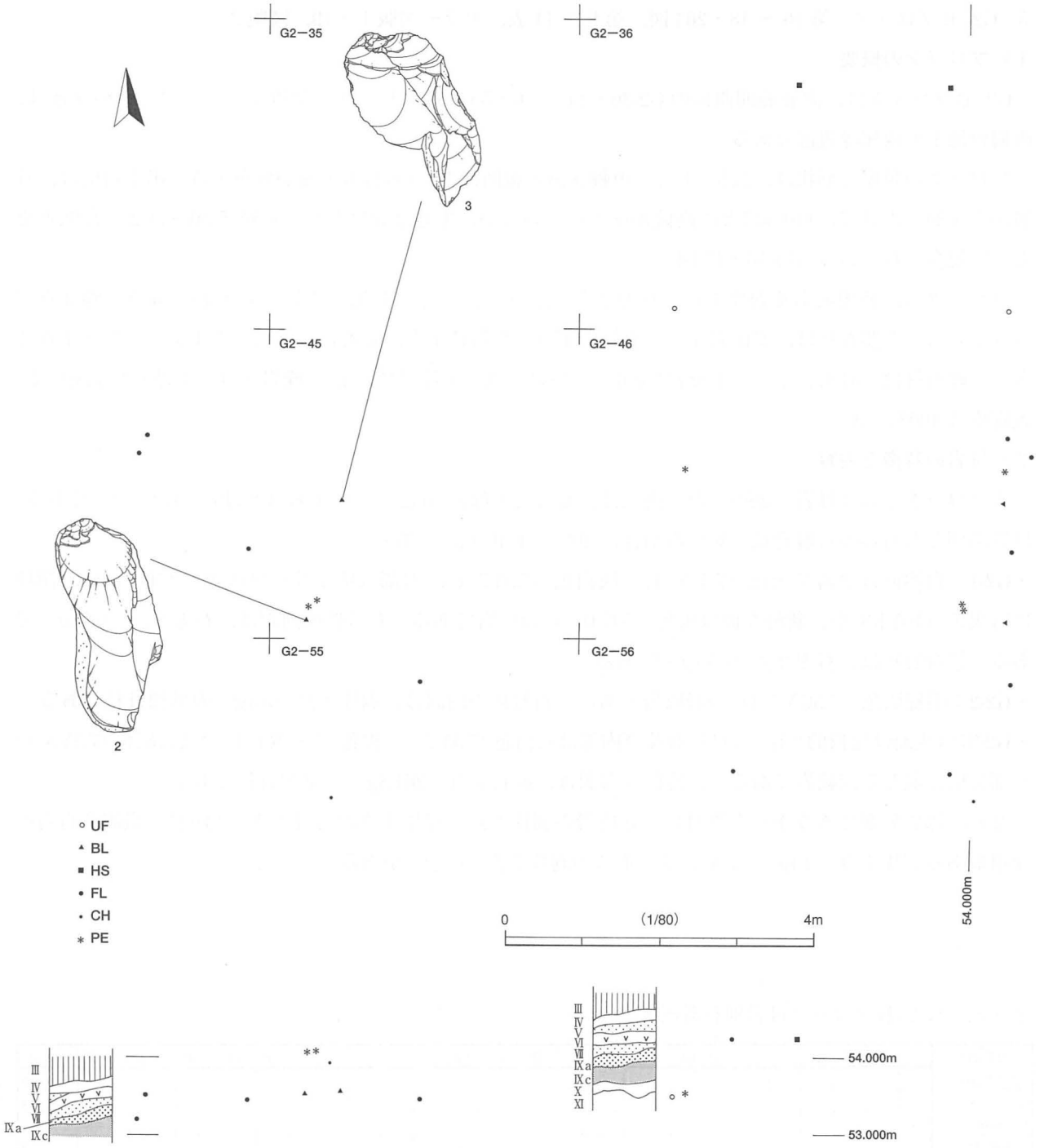
なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片3点，砕片1点の合計4点（43.0g），嶺岡産頁岩の使用痕ある剥片1点（2.4g），ホルンフェルスの剥片1点（0.3g）がある。

第9表　G 2-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
G2-1(TUB)												2													2
G2-2(TUB)																		1							1
G2-3(RH)																1									1
その他(AN)																		3	1						4
その他(SHC)											1														1
その他(HO)																		1							1
合　計											1	2				1		5	1						10

第10表　G 2-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
安山岩(AN)																		3	1						4
流紋岩(RH)																1									1
頁岩C(SHC)											1														1
凝灰岩B(TUB)												2						1							3
ホルンフェルス(HO)																		1							1
合　計											1	2				1		5	1						10

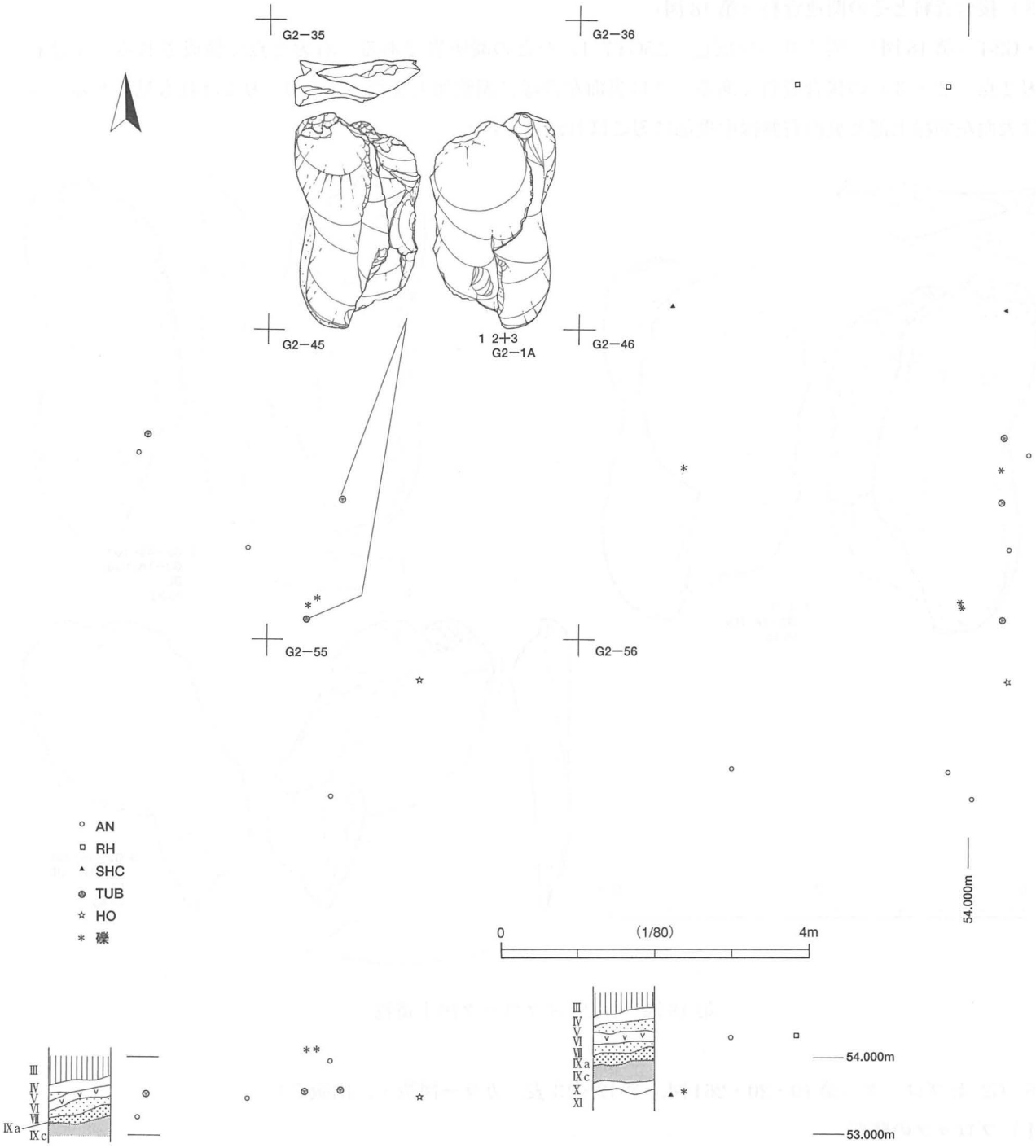


第16図　Ｇ２-Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

第11表　Ｇ２-Ｂブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
G2R-1	CO	1	74.5
G2R-2	TU	1	58.6
G2R-3	SA	1	35.7

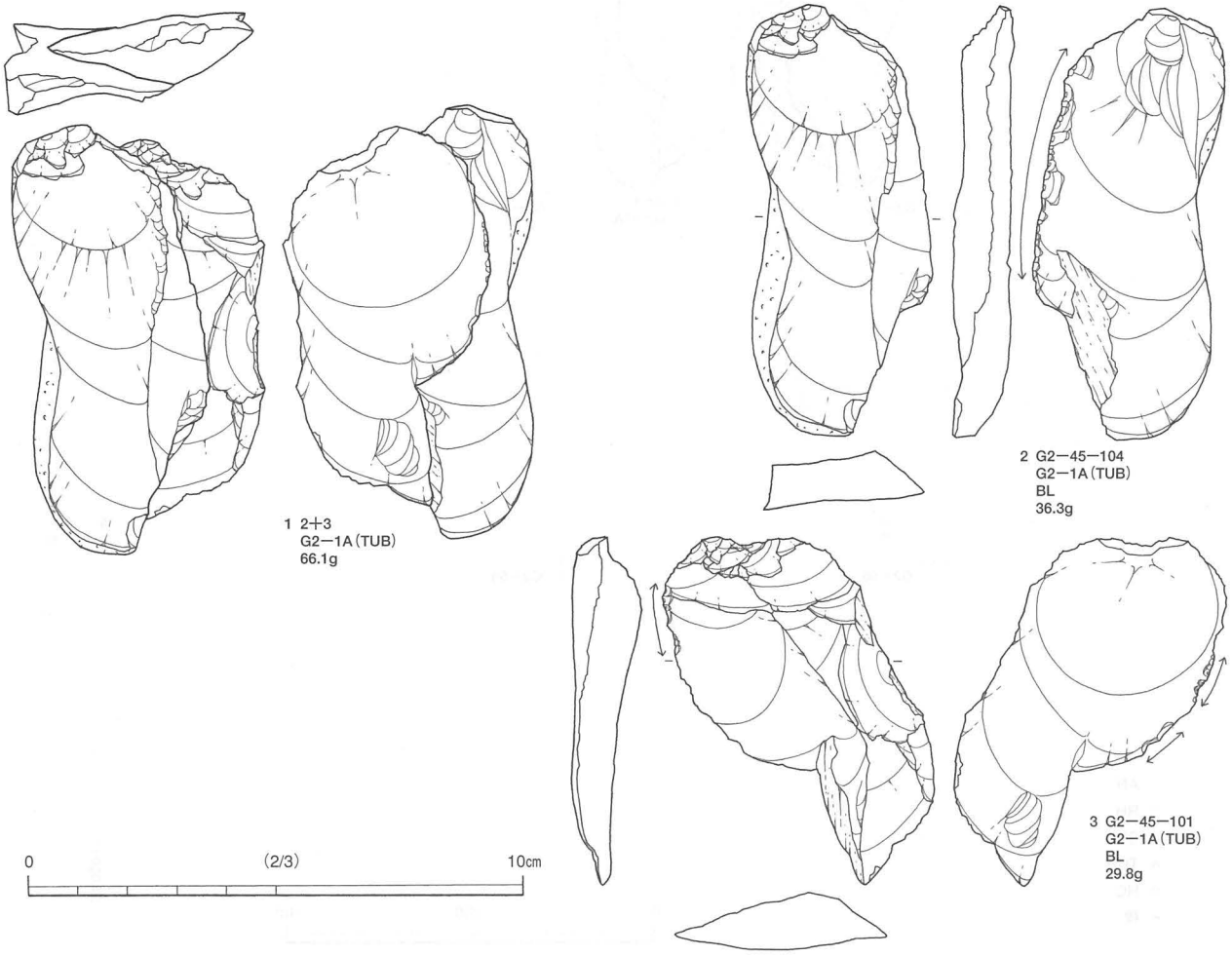
石　材	個数	重量
凝灰岩(TU)	1	58.6
砂岩(SA)	1	35.7
礫岩(CO)	1	74.5
合　計	3	168.8



第17図　G 2- Bブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

３）接合資料とその関連資料（第 18 図）

・**G2-1（第 18 図）**　明オリーブ灰色（2.5GY7/1）などの凝灰岩である。石刃２点で構成される。１は石刃２点（２・３）の接合資料である。２は裏面左側縁に調整加工を行っており，刃こぼれも見られる。３は表面左側縁上部と裏面右側縁中央部に刃こぼれが見られる。



第 18 図　Ｇ２- Ｂブロック出土遺物

６　G2- Ｅブロック（第 19・20・264 図，第 12・13 表，カラー図版１，図版５）

１）ブロックの概要

G2- Ｅブロックは，調査範囲西側の G2-29・39 グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の西側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は 25 ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸３ｍ，短軸１ｍの範囲に４点の石器が分布する。出土層位は，Ⅸｃ層で，20cmほどの高低差をもって包含されている（第 19 図）。

ブロックは，使用痕ある剥片１点，石刃３点の合計４点で構成される。石器石材は，頁岩Ｂ１点，凝灰岩Ａ２点，瑪瑙・玉髄１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｂ１母岩（G2-7），凝灰岩Ａ２母岩（G2-8･9）である。

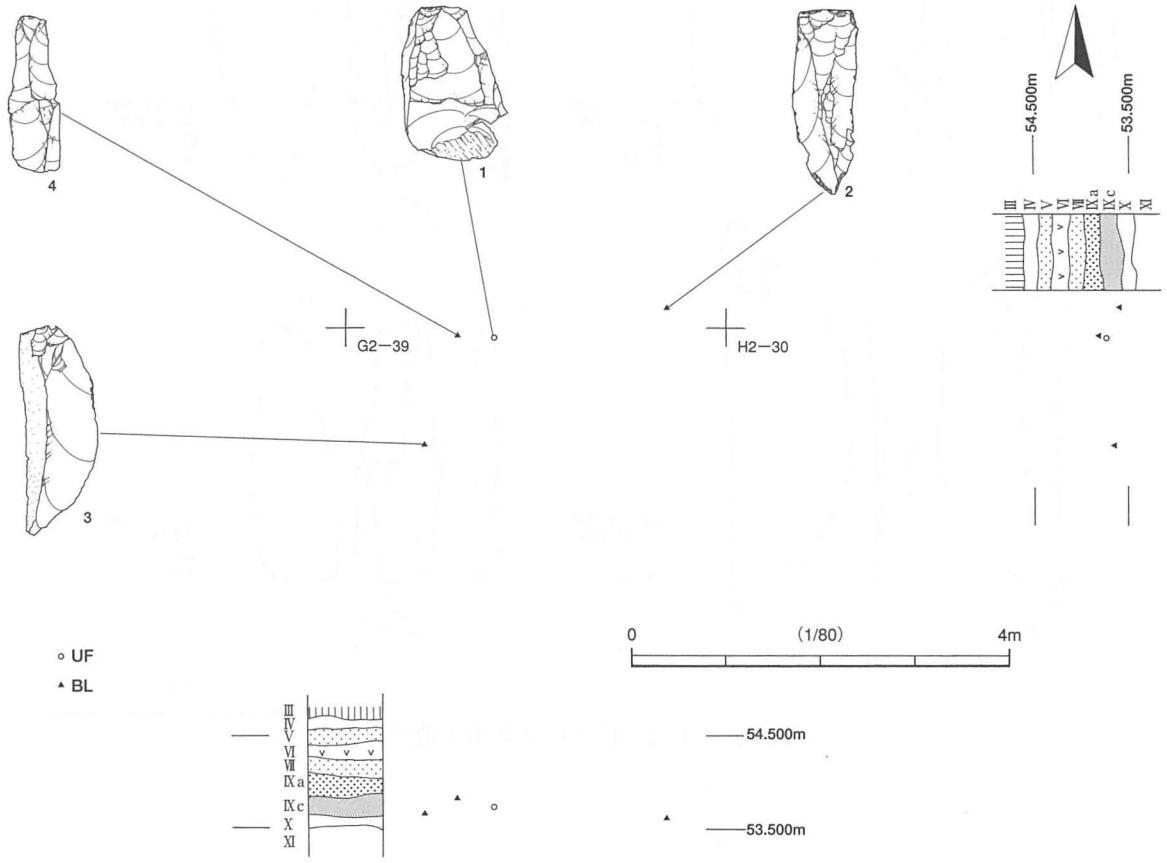
母岩識別した石器の石器総数に対する割合は75%（3/4点）である。

・**G2-7**：内部は黄灰色（2.5Y6/1）・にぶい黄褐色（10YR5/4），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点（10.9g）の単独資料である。

・**G2-8**：内部及び新鮮な面は灰白色（10Y7/2）の珪化した緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃1点（9.0g）の単独資料である。

・**G2-9**：自然面は平滑で灰黄褐色（10YR5/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2），内部はオリーブ灰色（10Y5/2）の珪化した緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃1点（11.5g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，瑪瑙・玉髄の石刃1点（3.7g）がある。



第19図　G2-Eブロック出土遺物分布－石器別分布－

第12表　G2-Eブロック母岩別石器組成

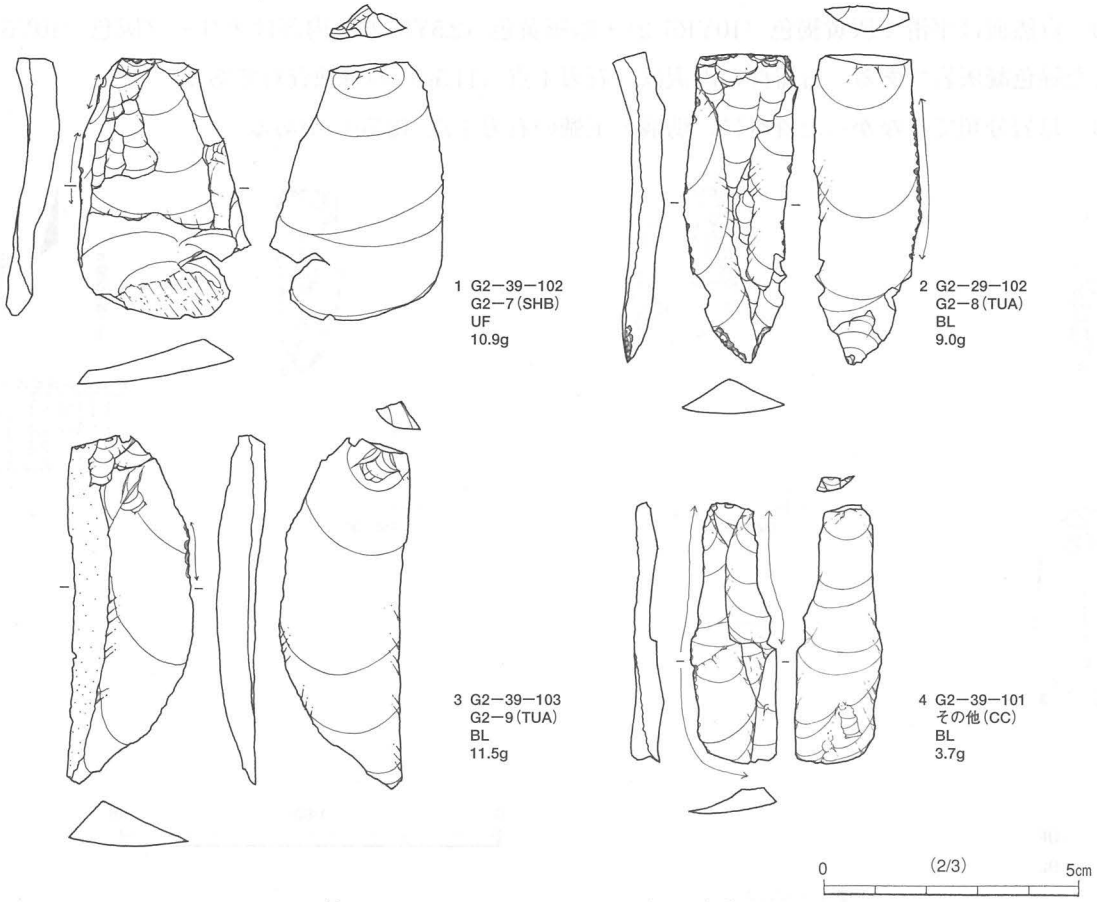
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
G2-7(SHB)											1														1
G2-8(TUA)												1													1
G2-9(TUA)												1													1
その他(CC)												1													1
合　計											1	3													4

第13表　G2-Eブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
頁岩B(SHB)											1														1
凝灰岩A(TUA)												2													2
瑪瑙・玉髄(CC)												1													1
合　計											1	3													4

３）出土遺物（第 20 図）

１は北関東産頁岩による使用痕ある剥片である。縦長剥片の左側縁に刃こぼれが見られる。２は緑色凝灰岩による石刃である。表面末端に細かい調整加工，裏面右側縁に刃こぼれが見られる。３は緑色凝灰岩による石刃である。右側縁の一部に刃こぼれが見られる。４は瑪瑙・玉髄による石刃である。両側縁に刃こぼれが見られる。



第 20 図　Ｇ２- Ｅブロック出土遺物

７　F3- Ａブロック（第 21 ～ 23・264 図，第 14・15 表，カラー図版１・19）

１）ブロックの概要

F3- Ａブロックは，調査範囲西側の F3-88・89・95・96・98・99，F4-06 ～ 09・17 ～ 19・29，G3-90，G4-10 グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の西側縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸 15 m，短軸 12 mの範囲に 140 点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅨ層にかけてで，120cmほどの高低差をもっているが，中心はⅦ層からⅨ層で，40cmほどの高低差をもって包含されている（第 21・22 図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，楔形石器５点，使用痕ある剥片１点，剥片 129 点（124 個体），石核４点（３個体）の合計 140 点（134 個体）で構成される。石器石材は，安山岩 30 点（29 個体），流紋岩２点，頁岩Ｃ１点，頁岩Ｄ２点，頁岩Ｅ４点（３個体），凝灰岩Ａ６点，ホルンフェルス１点，瑪瑙・玉髄 94 点（90 個体）である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは15母岩を識別した。内訳は，安山岩2母岩（F3-1・2），流紋岩1母岩（F3-4），頁岩C1母岩（F3-7），頁岩D2母岩（F3-8・9），頁岩E2母岩（F3-5・6），凝灰岩A1母岩（F3-3），ホルンフェルス1母岩（F3-10）瑪瑙・玉髄5母岩（F3-11～15）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は61%（86/140点）である。

・F3-1：自然面は紙ヤスリ状で灰黄色（2.5Y6/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰色（5Y4/1）が部分的に混じり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片13点（12個体；55.6g）である。接合資料は，剥片3点（2個体；32.8g）である。

・F3-2：自然面は紙ヤスリ状で灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片6点（10.5g）である。

・F3-3：自然面は敲打痕状の裂痕が比較的密で灰オリーブ色（7.5Y5/2），内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2）の地に黄褐色（2.5Y5/3）が部分的に混じる緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片6点（14.6g）である。

・F3-4：灰黄色（2.5Y7/2）・灰色（N5/0）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片2点（24.0g）である。

・F3-5：自然面は平滑で，自然面及び内部はオリーブ色（5Y6/3）の地に浅黄色（2.5Y7/3）が部分的に混じり，節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核2点（1個体）の合計3点（2個体；15.3g）である。接合資料は，剥片1点，石核2点（1個体）の合計3点（2個体；15.3g）である。

・F3-6：黄灰色（2.5Y6/1）・黄灰色（2.5Y5/1）・灰黄色（2.5Y6/2）の頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点（3.7g）の単独資料である。

・F3-7：自然面は平滑で褐色（7.5YR4/3），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）の地に部分的に褐灰色（10YR5/1）が混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点（8.6g）の単独資料である。

・F3-8：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（5.2g）の単独資料である。

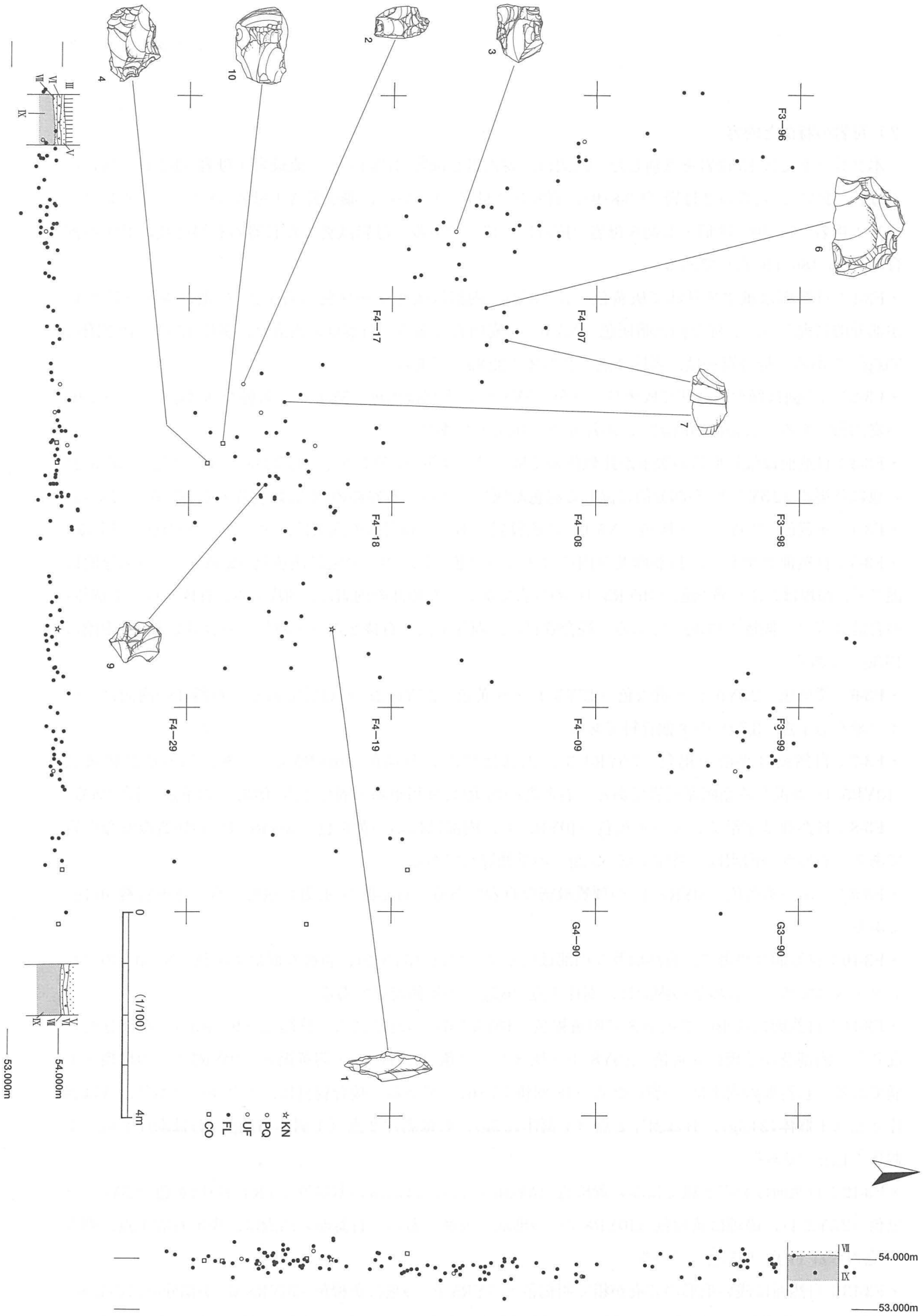
・F3-9：にぶい黄褐色（10YR5/4）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点の単独資料（6.1g）である。

・F3-10：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片1点（6.5g）の単独資料である。

・F3-11：自然面は爪形の裂痕が密で明黄褐色（10YR7/6）の地ににぶい黄褐色（10YR5/4）が部分的に混じり，内部及び節理は淡黄色（2.5Y8/3）・灰オリーブ色（7.5Y6/2）・明黄褐色（10YR7/6）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片22点（18個体；75.6g）である。接合資料は，4グループあり，Aは剥片2点（1個体;24.6g），Bは剥片2点（1個体;2.5g），Cは剥片2点（1個体;1.7g），Dは剥片2点（1個体；1.1g）である。

・F3-12：自然面は裂痕が粗でにぶい黄橙色（10YR6/4），内部はにぶい赤褐色（5YR4/4）・灰黄色（2.5Y6/2）・黒色（2.5Y2/1），節理は黄橙色（10YR8/6）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片10点の合計11点（65.5g）である。

・F3-13：自然面は浅い爪形の裂痕が粗で明褐色（7.5YR5/6）の地に黄橙色（10YR8/6）が部分的に混じり，内部はにぶい黄橙色（10YR7/4）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片5点，石核1点の合計6点



第21図　F 3 - Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－

第22図　Ｆ３-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

(36.5g) である。

・**F3-14**：自然面は裂痕が密で，自然面及び内部は明黄褐色（10YR6/6）・浅黄色（2.5Y7/4）の地ににぶい黄橙色（10YR7/4）が部分的に混じり，内部は淡黄色（2.5Y8/3）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片 10 点，石核 1 点の合計 11 点（80.7g）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片 2 点（7.4g），Ｂは剥片 1 点，石核 1 点の合計 2 点（34.2g）である。

・**F3-15**：淡黄色（2.5Y8/3）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片 1 点（11.0g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の楔形石器 2 点，剥片 9 点の合計 11 点（42.6g），瑪瑙・玉髄の楔形石器 2 点，剥片 41 点の合計 43 点（68.9g）がある。

第14表　Ｆ３-Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
F3-1(AN)																		13(12)							13(12)
F3-2(AN)																		6							6
F3-3(TUA)																		6							6
F3-4(RH)																		2							2
F3-5(SHE)																		1		2(1)					3(2)
F3-6(SHE)	1																								1
F3-7(SHC)											1														1
F3-8(SHD)																		1							1
F3-9(SHD)																		1							1
F3-10(HO)																		1							1
F3-11(CC)																		22(18)							22(18)
F3-12(CC)									1									10							11
F3-13(CC)																		5		1					6
F3-14(CC)																		10		1					11
F3-15(CC)																		1							1
その他(AN)									2									9							11
その他(CC)									2									41							43
合　計	1								5		1							129(124)		4(3)					140(134)

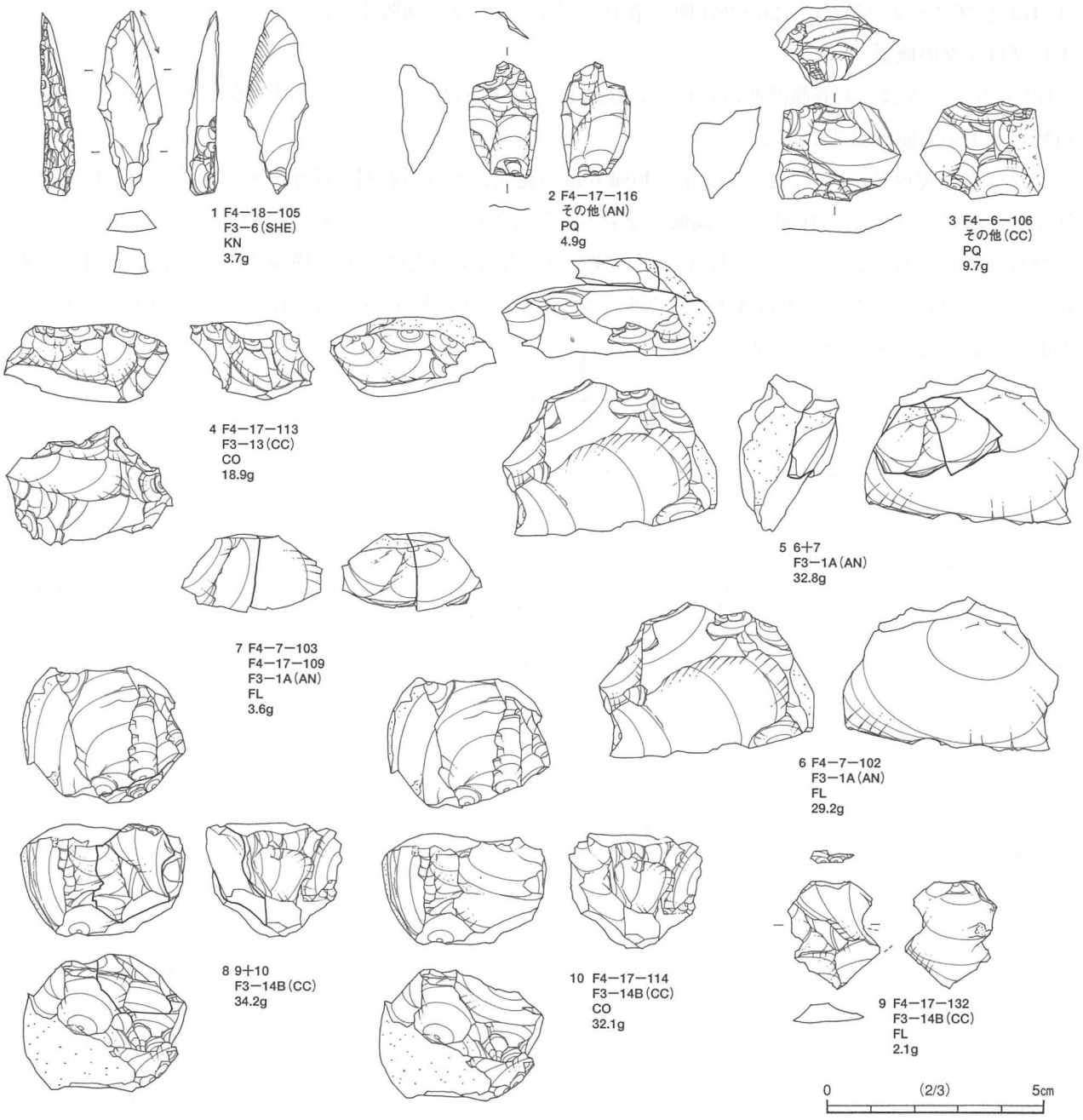
３）出土遺物（第 23 図）

１は頁岩による二側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片を用い，素材の打面部を基部としている。左側縁及び右側縁下部に 90 度に近い急角度の調整加工が見られ，右側縁上部に刃こぼれが見られる。２は安山岩，３は瑪瑙・玉髄による楔形石器である。上下に対向する剥離面が見られる。４は瑪瑙・玉髄による石核である。自然面を打面として不定型な剥片を剥離している。

４）接合資料とその関連資料（第 23 図）

・**F3-1（第 23 図）**　灰オリーブ色(5Y5/2)などの安山岩である。剥片 13 点で構成される。５は剥片３点（２個体；６・７）の接合資料である。７は接合して１個体となる。

・**F3-14（第 23 図）**　明黄褐色（10YR6/6）などの瑪瑙・玉髄である。剥片 10 点，石核１点の合計 11 点で構成される。接合資料は，２グループある。Ｂ（８）は剥片１点（９），石核１点（10）の接合資料である。打面を 90 度転移しながら，９を含む不定型な剥片を剥離している。



第23図　F3-Aブロック出土遺物

第15表　F3-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
安山岩(AN)									2									28(27)							30(29)
流紋岩(RH)																		2							2
頁岩C(SHC)											1														1
頁岩D(SHD)																		2							2
頁岩E(SHE)	1																	1		2(1)					4(3)
凝灰岩A(TUA)																		6							6
ホルンフェルス(HO)																		1							1
瑪瑙・玉髄(CC)									3									89(85)		2					94(90)
合　計	1								5		1							129(124)		4(3)					140(134)

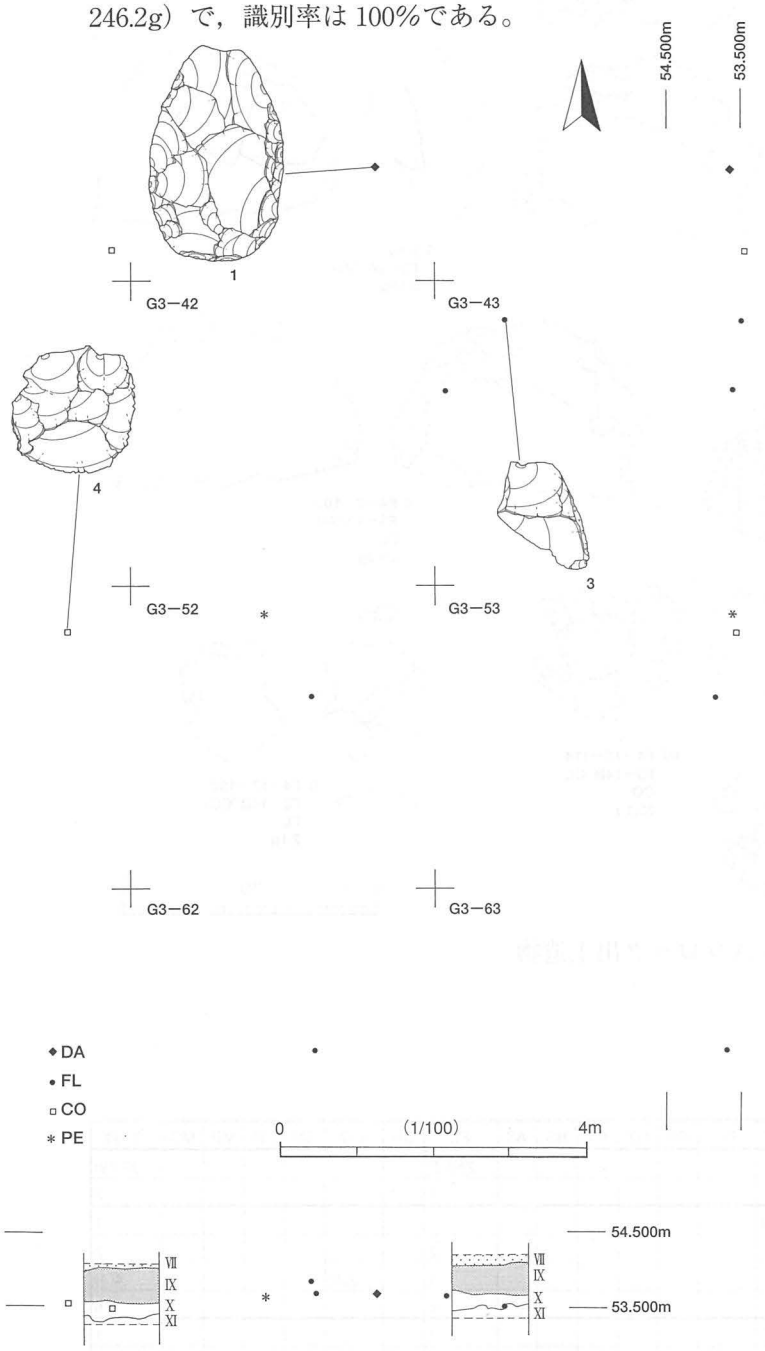
８　G3- Cブロック（第24～26・264図，第16～18表，カラー図版１・19）

１）ブロックの概要

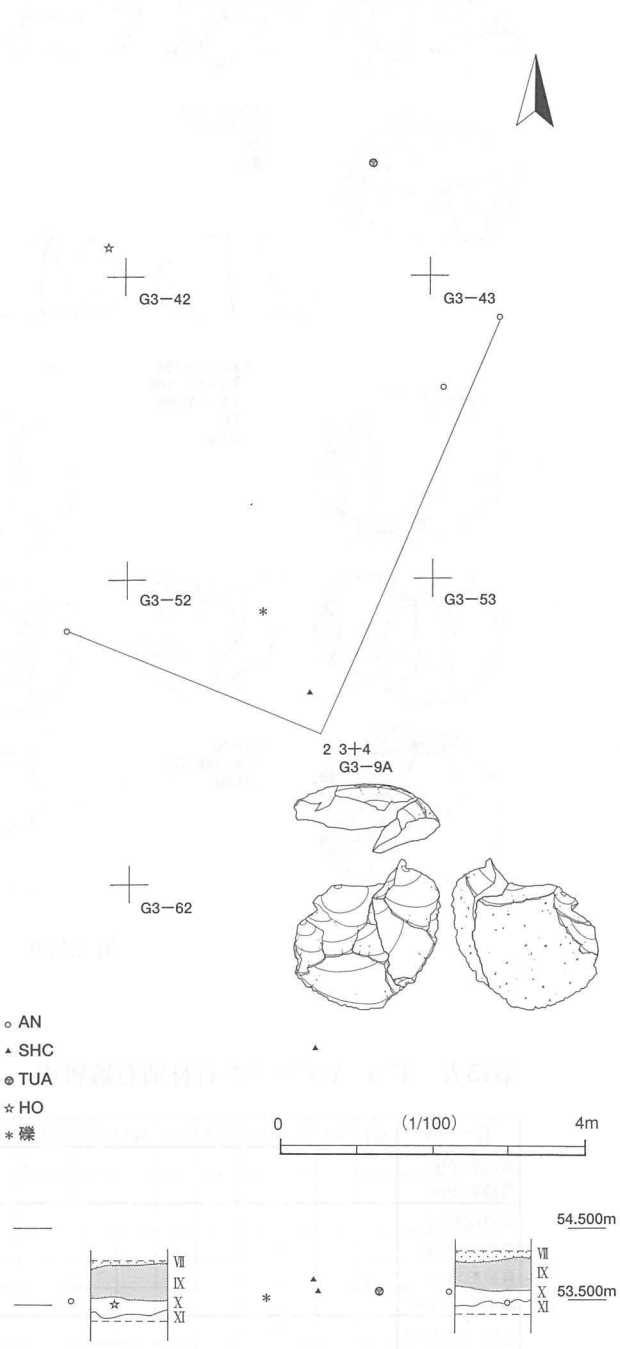
G3- Cブロックは，調査範囲西側のG3-31・32・43・51・52・62グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の西側縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸12ｍ，短軸６ｍの範囲に８点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅸ層からⅩ層にかけてで，30cmほどの高低差をもって包含されている（第24・25図）。

ブロックは，打製石斧１点，剥片４点，石核２点の合計７点と礫１点で構成される。石器石材は，安山岩３点，頁岩Ｃ２点，凝灰岩Ａ１点，ホルンフェルス１点である。礫石材は，チャート１点（１母岩；246.2g）で，識別率は100%である。



第24図　Ｇ３-Ｃブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



第25図　Ｇ３-Ｃブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは2母岩を識別した。内訳は，安山岩1母岩（G3-9），凝灰岩A1母岩（G3-11）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は43%（3/7点）である。

・**G3-9**：自然面は爪形の裂痕が密で，自然面及び内部は灰色（5Y4/1），節理は暗灰黄色（2.5Y4/2）の資料，自然面は爪形の裂痕が密で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），節理は灰黄褐色（10YR4/2）の資料など母岩内での変異があり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。別母岩の可能性もある。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（33.6g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（33.6g）である。

・**G3-11**：内部はオリーブ灰色（5GY5/1），新鮮な面は灰色（10Y4/1）の緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，打製石斧1点（51.1g）の単独資料である。

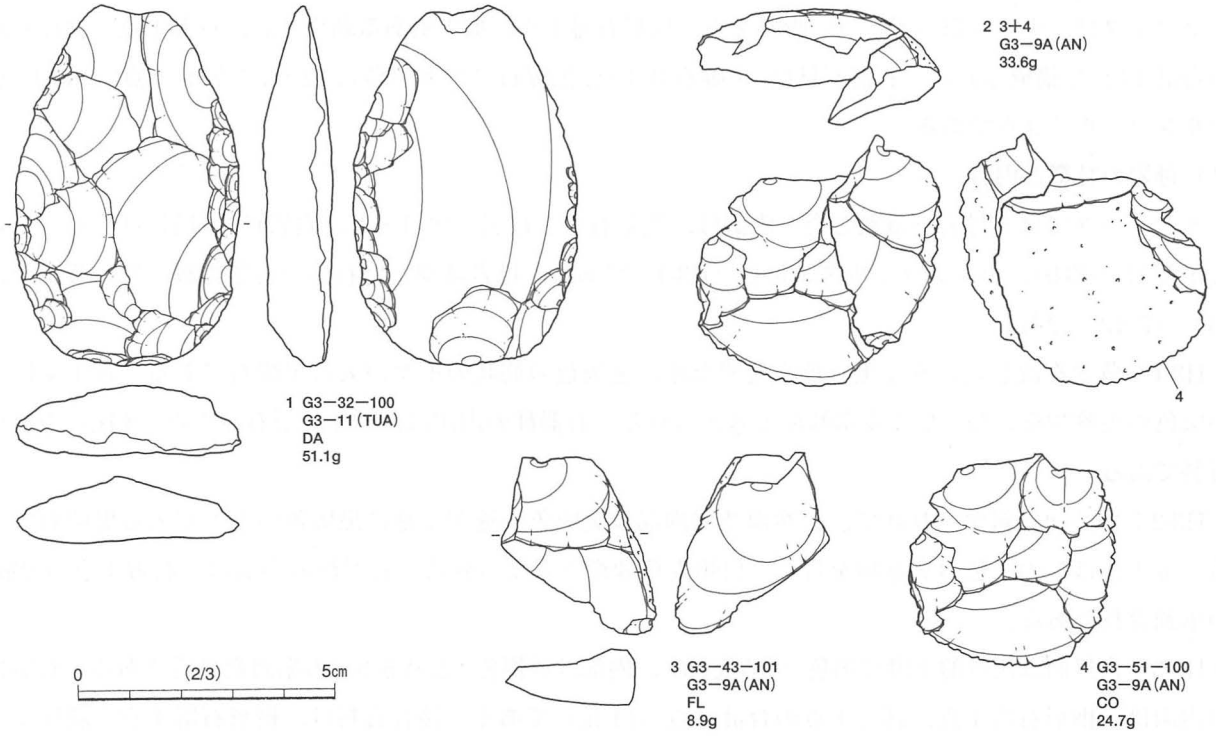
なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片1点（10.6g），嶺岡産頁岩の剥片2点（9.3g），ホルンフェルスの石核1点（59.6g）

3）出土遺物（第26図）

1は緑色凝灰岩による打製石斧である。大型の剥片を素材として，表面の全面と両面の周辺の一部・末端に調整加工を行っている。若干稜線が磨耗して光沢を持ったような部分もありそうだが，顕著な研磨痕や磨耗痕は見られない。

4）接合資料とその関連資料（第26図）

・**G3-9**（第26図）　灰色（5Y4/1）などの安山岩である。剥片1点，石核1点の合計2点で構成される。2は剥片1点（3），石核1点（4）の接合資料である。4は剥片を素材として，上部側を中心に打点を左右に移動させながら，3を含む不定型な剥片を剥離している。



第26図　G3-Cブロック出土遺物

第16表　Ｇ３-Ｃブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
G3-9(AN)																		1		1					2
G3-11(TUA)													1												1
その他(AN)																		1							1
その他(SHC)																		2							2
その他(HO)																				1					1
合　計													1					4		2					7

第17表　Ｇ３-Ｃブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
安山岩(AN)																		2		1					3
頁岩C(SHC)																		2							2
凝灰岩A(TUA)													1												1
ホルンフェルス(HO)																				1					1
合　計													1					4		2					7

第18表　Ｇ３-Ｃブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
G3R-1	CH	1	246.2

石　材	個数	重量
チャート(CH)	1	246.2
合　計	1	246.2

9　H3- Aブロック（第27～29・264図，第19・20表，カラー図版１・19）

１）ブロックの概要

H3- Aブロックは，調査範囲西側のH3-13～15グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は55ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸５ｍ，短軸２ｍの範囲に12点の石器と５ｍ離れて１点石器が分布する。出土層位は，Ⅶ層からＸ層にかけてで，60cmほどの高低差をもって包含されている（第27･28図）。なお，13点の石器についても，東側の一群と西側の一群にはレベル・石材に差があり，多少の時期差も考えられる。

ブロックは，ナイフ形石器２点，彫器２点，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，石刃１点，剥片６点の合計13点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ４点，黒曜石Ｃ２点，頁岩Ｃ２点，頁岩Ｅ１点，砂岩１点，ホルンフェルス３点である。

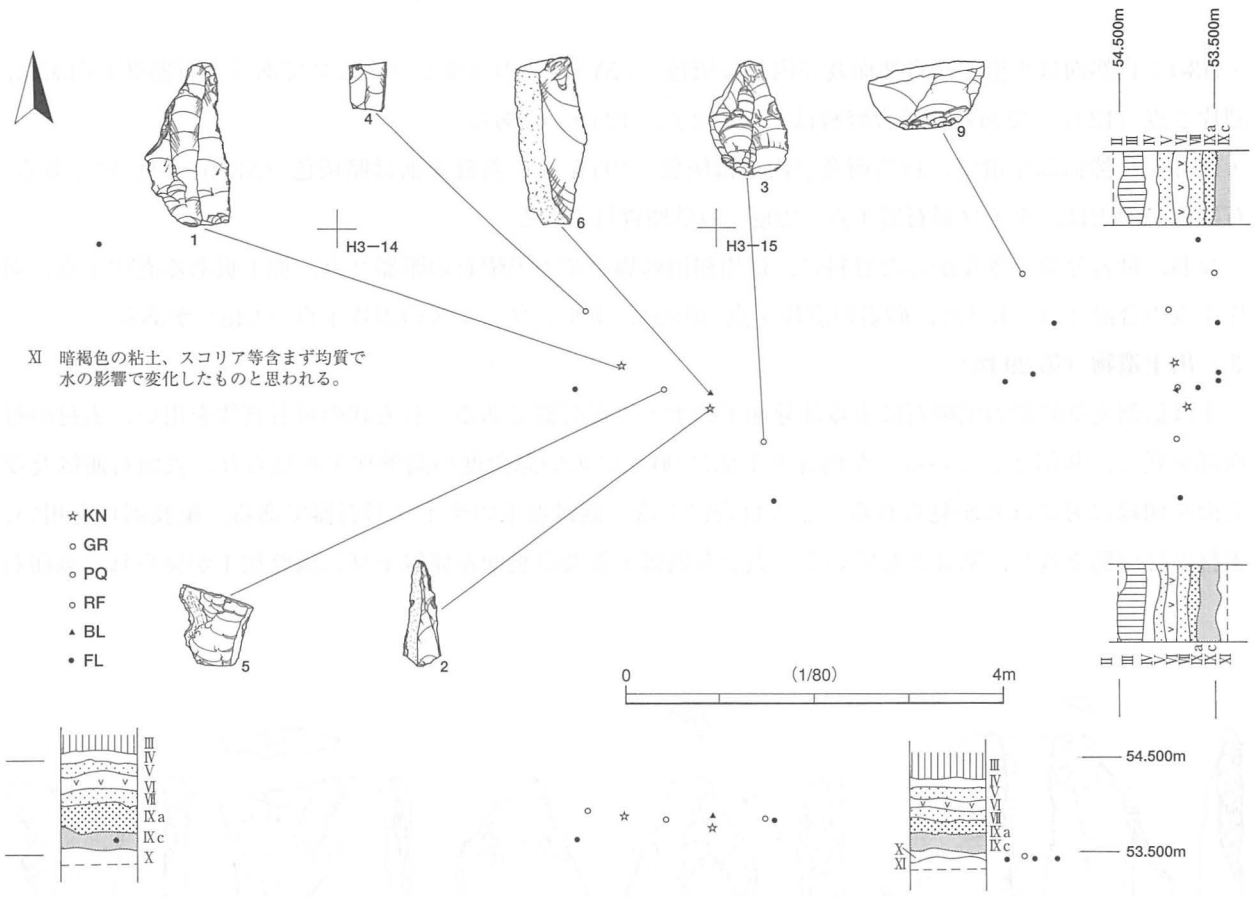
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｃ２母岩（H3-1・2），頁岩Ｃ１母岩（H3-3），頁岩Ｅ１母岩（H3-9），ホルンフェルス１母岩（H3-4）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は54%（7/13）である。

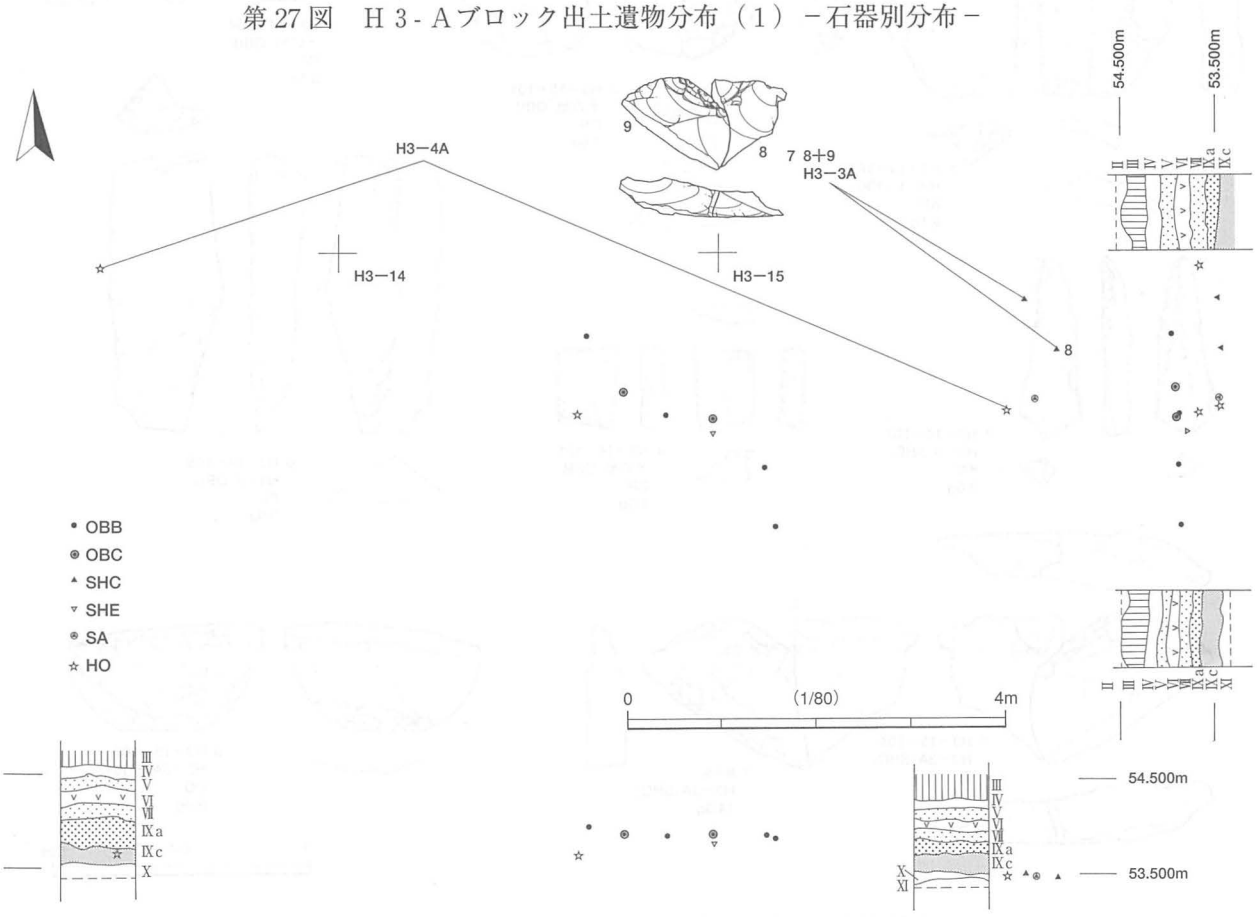
・**H3-1**：薄墨を流したような黒灰色半透明な地に黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点（8.1g）の単独資料である。

・**H3-2**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黒灰色半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点（9.9g）の単独資料である。

・**H3-3**：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/6），内部は黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片１点の合計２点（14.3g）である。接合資料は，楔形石器１点，剥片１点の合計２点（14.3g）である。



第27図　H3-Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第28図　H3-Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

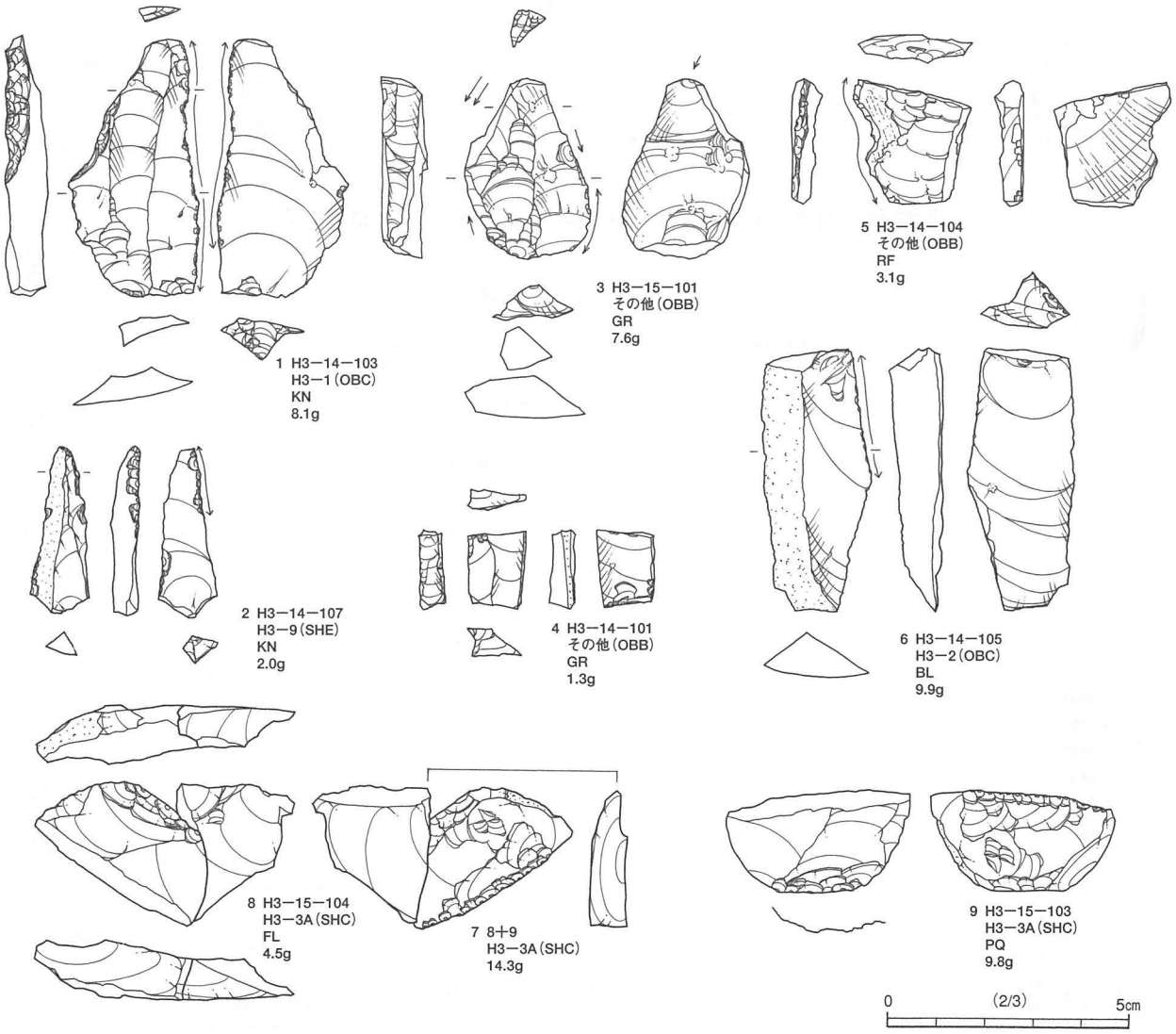
・**H3-4**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（12.1g）である。接合資料は，剥片２点（12.1g）である。

・**H3-9**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点（2.0g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の彫器２点，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計４点（13.1g），砂岩の剥片１点（0.8g），ホルンフェルスの剥片１点（4.4g）がある。

３）出土遺物（第29図）

１は信州麦草峠産の黒曜石による部分加工のナイフ形石器である。石刃状の縦長剥片を用い，素材の打面部を残し，基部としている。左側縁上半部に90度に近い急角度の調整加工が見られ，表面右側縁及び裏面左側縁に刃こぼれが見られる。２は頁岩による一側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片を用い，素材の打面部を残し，基部としている。表面右側縁上部及び裏面左側縁下部に調整加工が見られ，裏面右



第29図　Ｈ３-Ａブロック出土遺物

側縁上部に刃こぼれが見られる。3は信州和田峠周辺産の黒曜石による彫器である。剥片の表面左側面の両端からと表面右側面の上端から，裏面の上部から樋状剥離が行われている。表面右側縁下部に刃こぼれが見られる。4は信州和田峠周辺産の黒曜石による彫器である。剥片の折断面を打面として，左側面の上端から樋状剥離が行われているが，下部の折断面は樋状剥離とほぼ同時と思われ，縦折れの可能性もある。5は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。剥片の左側縁に調整加工を行っており，刃こぼれも見られる。6は信州麦草峠産の黒曜石による石刃である。右側縁上半部に刃こぼれが見られる。

4）接合資料とその関連資料（第29図）

・H3-3（第29図）　黄褐色（2.5Y5/3）などの嶺岡産頁岩である。楔形石器1点，剥片1点の合計2点で構成される。7は楔形石器1点（9），剥片1点（8）の接合資料である。9は折断した剥片を素材として，両端に対向する剥離痕が見られる。

第19表　H3-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
H3-1(OBC)	1																								1
H3-2(OBC)												1													1
H3-3(SHC)									1									1							2
H3-4(HO)																		2							2
H3-9(SHE)	1																								1
その他(OBB)							2			1								1							4
その他(SA)																		1							1
その他(HO)																		1							1
合　計	2						2		1	1		1						6							13

第20表　H3-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)							2			1								1							4
黒曜石C(OBC)	1											1													2
頁岩C(SHC)									1									1							2
頁岩E(SHE)	1																								1
砂岩(SA)																		1							1
ホルンフェルス(HO)																		3							3
合　計	2						2		1	1		1						6							13

10　H3-Bブロック（第30・31・264図，第21・22表，カラー図版1，図版4）

1）ブロックの概要

H3-Bブロックは，調査範囲西側のH3-41・42グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は50mである。

ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸0.5mの範囲に3点の石器が分布する。出土層位は，Ⅸcから X 層にかけてで，50cmほどの高低差をもって包含されている（第30図）。

ブロックは，剥片2点，石核1点の合計3点で構成される。石器石材は，安山岩2点，ホルンフェルス1点である。

2）母岩の特徴と内容

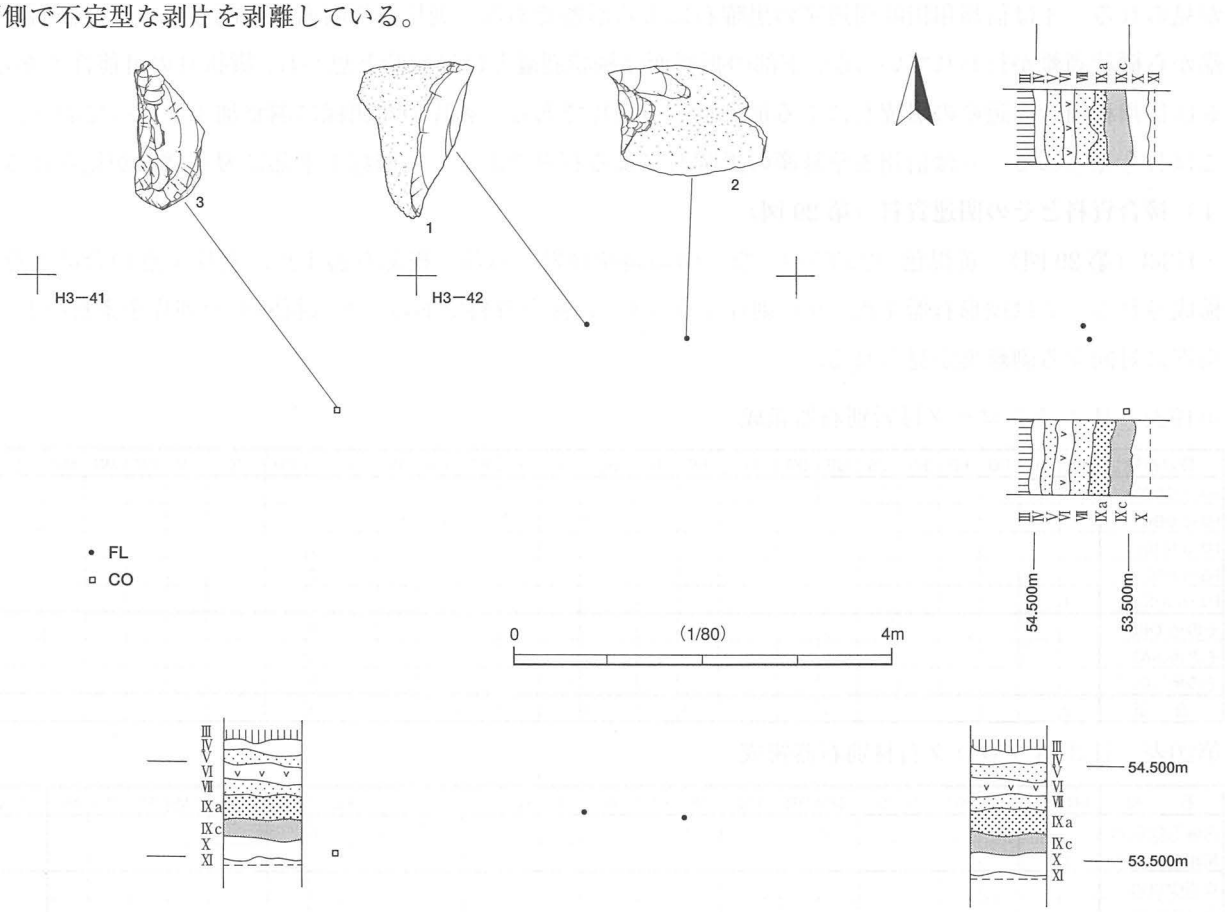
本ブロックでは1母岩を識別した。内訳は，ホルンフェルス1母岩（H3-5）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は33%（1/3点）である。

・H3-5：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，石核1点（16.2g）の単独資料である。

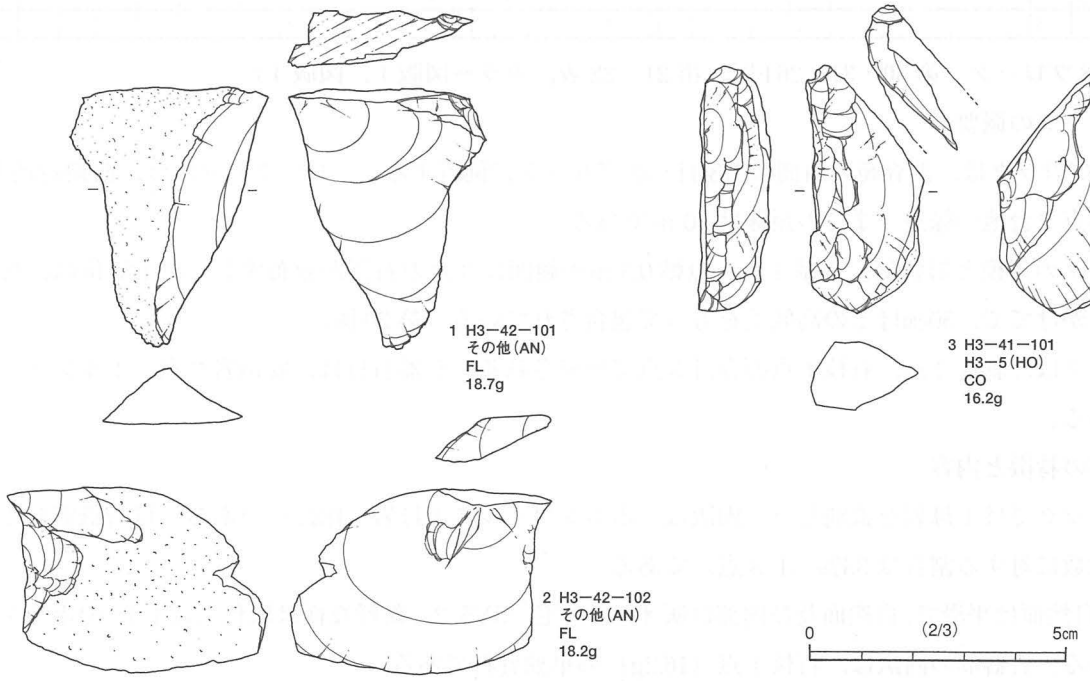
なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片2点（36.9g）がある。

３）出土遺物（第31図）

１・２は安山岩による不定型な剥片である。３はホルンフェルスによる石核である。不定型な剥片の裏面側で不定型な剥片を剥離している。



第30図　Ｈ３-Ｂブロック出土遺物分布－石器別分布－



第31図　Ｈ３-Ｂブロック出土遺物

第21表　H３-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
H3-5(HO)																				1					1
その他(AN)																		2							2
合　計																		2		1					3

第22表　H３-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
安山岩(AN)																		2							2
ホルンフェルス(HO)																				1					1
合　計																		2		1					3

11　J4- Bブロック（第32～34・264図，第23・24表，カラー図版１・19）

１）ブロックの概要

J4- Bブロックは，調査範囲西側のJ4-29・39，K4-20・30グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は110ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸７ｍ，短軸３ｍの範囲に46点の石器が分布する。出土層位は，Ⅸａから Ⅸｃ層にかけてで，70cmほどの高低差をもって包含されている（第32・33図）。

ブロックは，楔形石器１点，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片１点，石刃３点（２個体），剥片24点，砕片14点，石核１点の合計46点（45個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ 46点（45個体）である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは９母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ９母岩（J4-20～28）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は80%（37/46点）である。

・**J4-20**：自然面は比較的平滑で暗灰色（N3/0），内部は薄墨を流したような半透明な地にモヤが入る黒曜石である。φ２㎜～５㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，石刃３点（２個体），剥片１点，石核１点の合計６点（５個体；60.2g）である。接合資料は，加工痕ある剥片１点，石刃３点（２個体），石核１点の合計５点（４個体；58.1g）である。

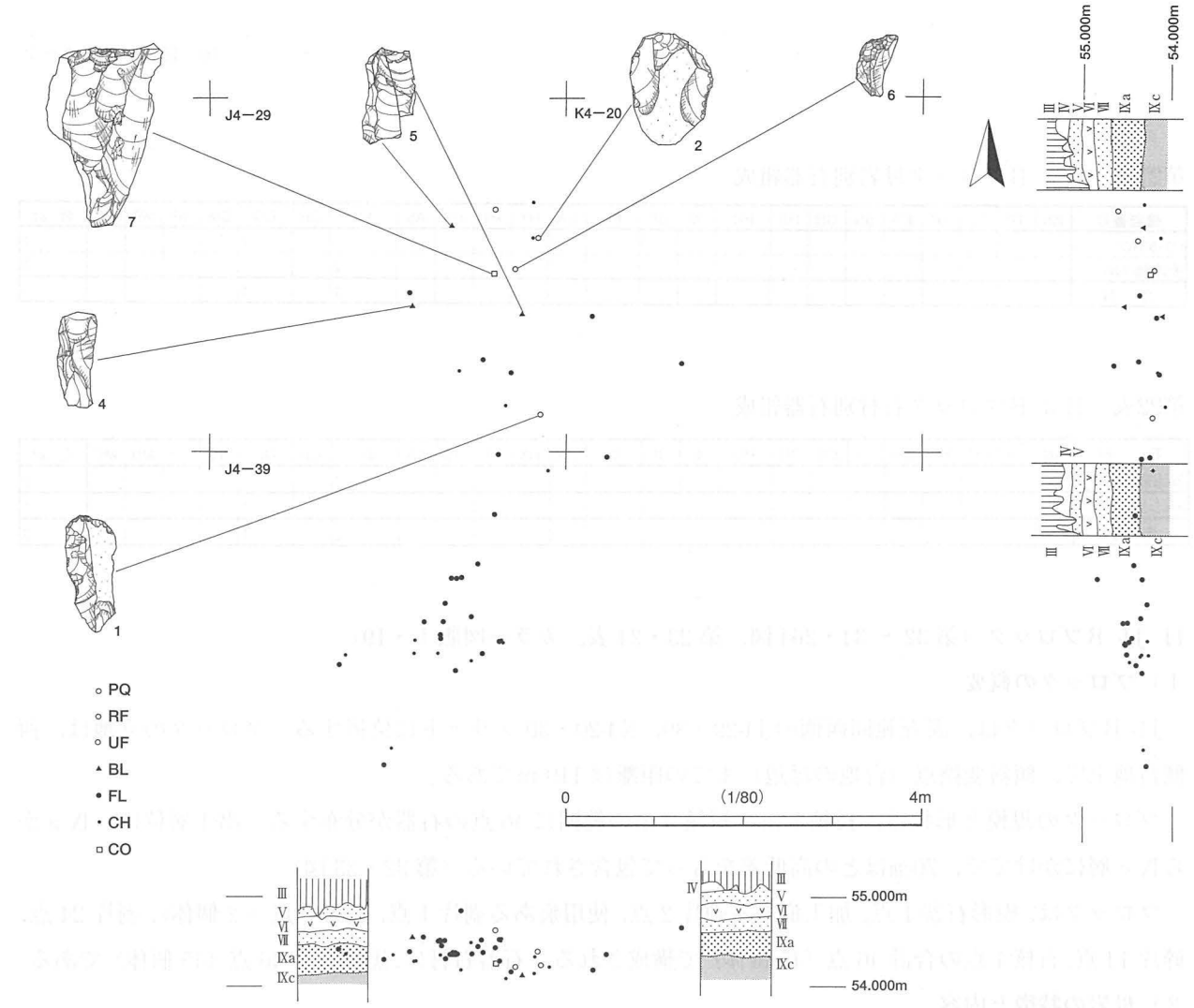
・**J4-21**：内部は透明な地にモヤが入り，節理はにぶい褐色（7.5YR5/3）の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（7.4g）である。接合資料は，剥片２点（7.4g）である。

・**J4-22**：自然面は比較的平滑で暗灰色（N3/0），内部は薄墨を流したような半透明な地に筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点（14.5g）の単独資料である。

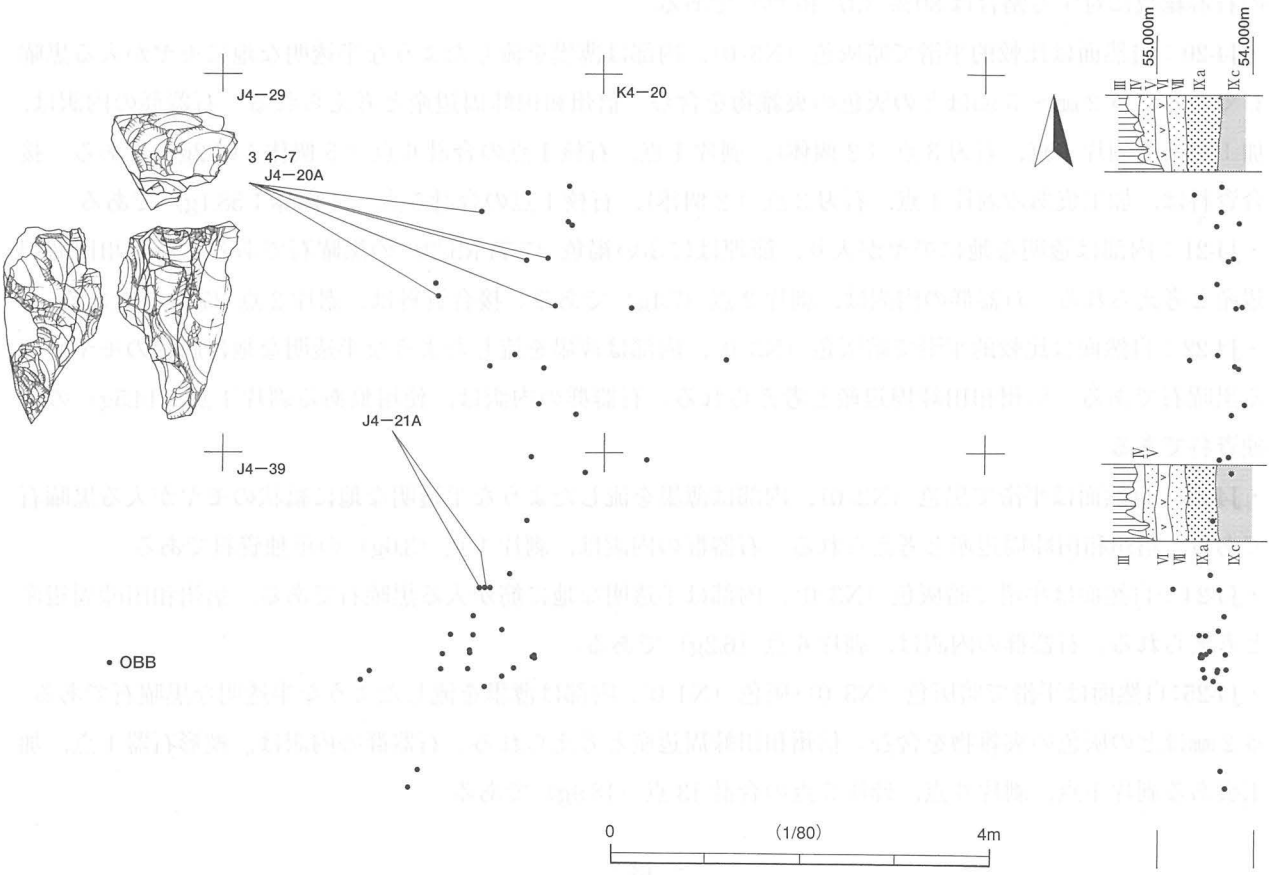
・**J4-23**：自然面は平滑で黒色（N2/0），内部は薄墨を流したような半透明な地に縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片１点（3.0g）の単独資料である。

・**J4-24**：自然面は平滑で暗灰色（N3/0），内部は半透明な地に筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片６点（6.2g）である。

・**J4-25**：自然面は平滑で暗灰色（N3/0）・灰色（N4/0），内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ２㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片６点，砕片５点の合計13点（18.9g）である。



第32図　Ｊ４-Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第33図　Ｊ４-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・**J4-26**：自然面は敲打痕状の裂痕が密で灰色（5Y4/1）の資料と平滑で灰色（5Y4/1）の資料があり，内部は半透明な地に筋状のモヤが入る黒曜石である。別母岩の可能性もある。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片6点（5.5g）である。

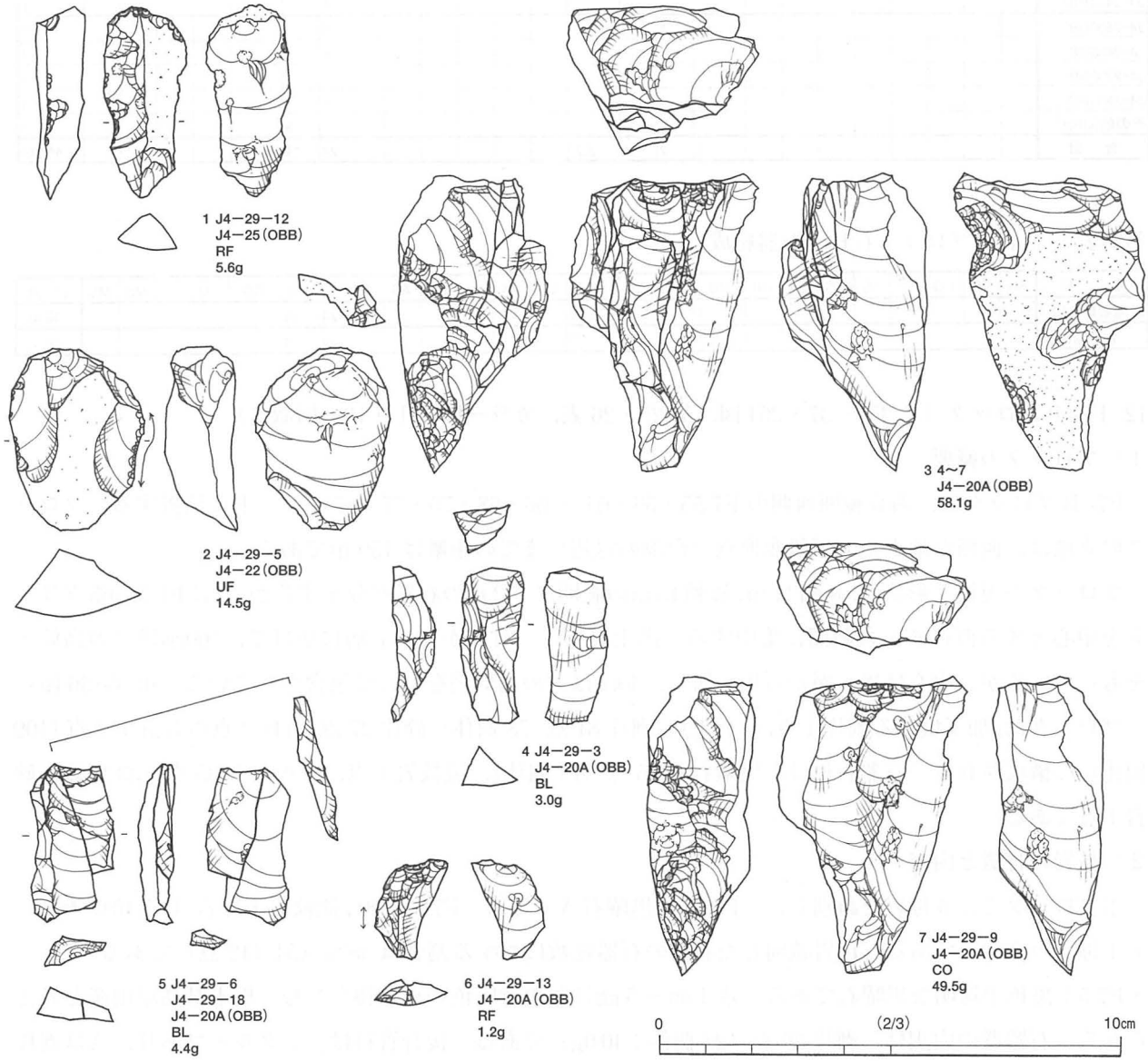
・**J4-27**：自然面は比較的平滑で灰色（5Y4/1），内部は墨を流したような半透明な地にモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片1点（1.6g）の単独資料である。

・**J4-28**：自然面は平滑で黒色（N2/0），内部は黒灰色半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片1点（1.3g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の砕片9点（0.6g）がある。

3）出土遺物（第34図）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。石刃状の縦長剥片の左側縁の一部に細かい調整加工を行っている。2は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。不定型な剥片の右側縁中央に刃こぼれが見られる。



第34図　J4-Bブロック出土遺物

４）接合資料とその関連資料（第34図）

・**J4-20（第34図）**　薄墨を流したような半透明な地にモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片１点，石刃３点（２個体），剥片１点，石核１点の合計６点（５個体）で構成される。３は加工痕ある剥片１点（６），石刃３点（２個体；４・５），石核１点（７）の接合資料である。６は左側縁の下部に調整加工，中央部に刃こぼれが見られが，周囲の剥離面との光沢の差からガジリの可能性もある。７は単設打面の石刃石核であるが，最終的には右側面を中心として，自然面や作業面を打面に不定型な剥片を剥離している。

第23表　Ｊ４-Ｂブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
J4-20(OBB)										1		3(2)						1		1					6(5)
J4-21(OBB)																		2							2
J4-22(OBB)											1														1
J4-23(OBB)																		1							1
J4-24(OBB)																		6							6
J4-25(OBB)									1	1								6	5						13
J4-26(OBB)																		6							6
J4-27(OBB)																		1							1
J4-28(OBB)																		1							1
その他(OBB)																			9						9
合　計									1	2	1	3(2)						24	14	1					46(45)

第24表　Ｊ４-Ｂブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)									1	2	1	3(2)						24	14	1					46(45)
合　計									1	2	1	3(2)						24	14	1					46(45)

12　F7-Ｂブロック（第35～37・264図，第25・26表，カラー図版１・19，図版２）

１）ブロックの概要

F7-Ｂブロックは，調査範囲西側のF7-55・56・64～66・68・76・77・87グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は150ｍである。

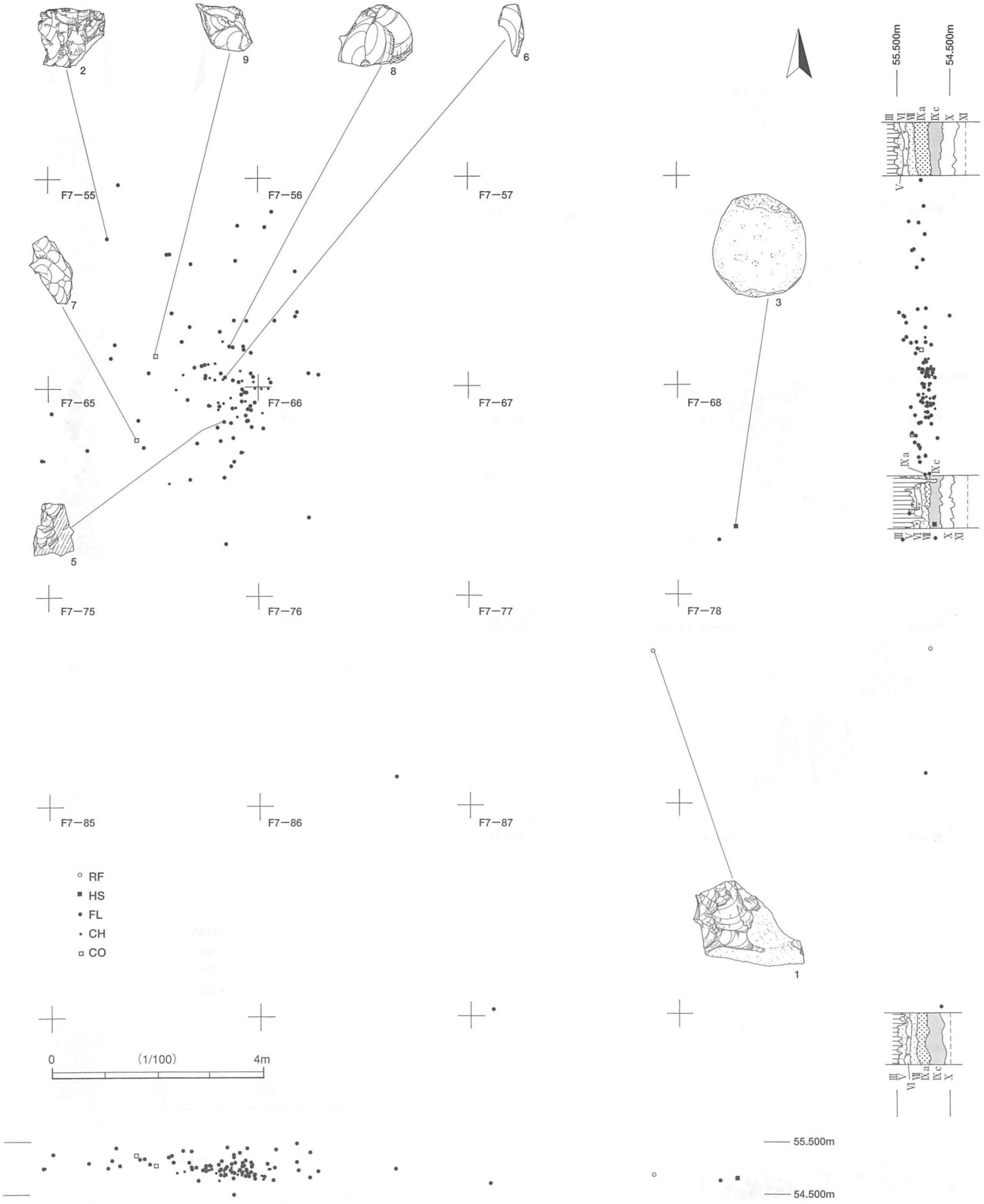
ブロックの規模と形状は，長軸17ｍ，短軸13ｍの範囲に112点の石器が分布するが，特にF7-55・65グリッドを中心とする直径６ｍの範囲に集中する。出土層位は，Ⅲ層からⅨｃ層にかけて，100cmほどの高低差をもっているが，中心はⅨａ層からⅨｃ層で，40cmほどの高低差をもって包含されている（第35・36図）。

ブロックは，加工痕ある剥片１点，敲石１点，剥片81点（78個体），砕片27点，石核２点の合計112点（109個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ75点（74個体），流紋岩１点，チャート35点（33個体）砂岩１点である。

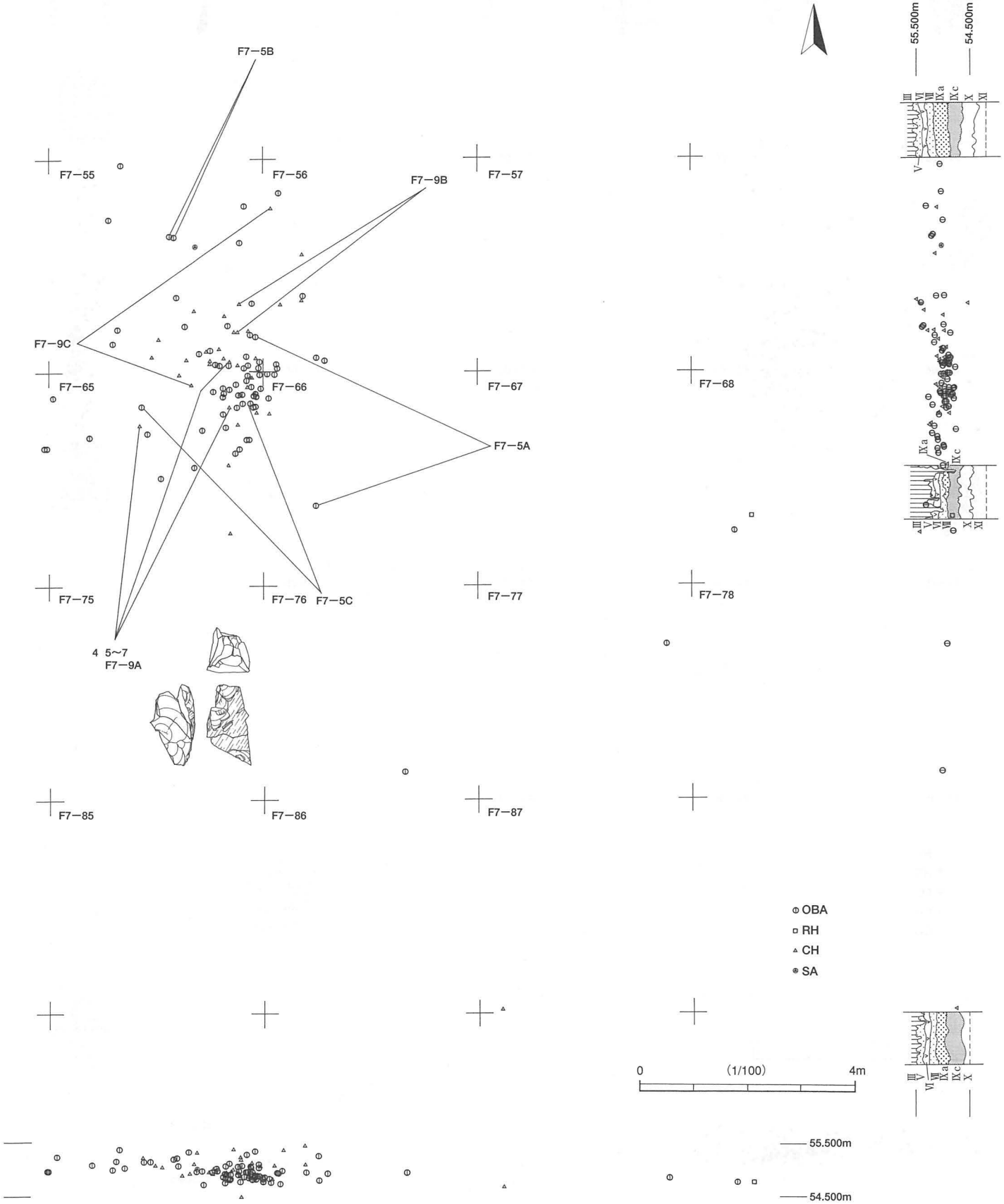
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは６母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ４母岩（F7-5～8），流紋岩１母岩（F7-10），チャート１母岩（F7-9）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は48%（54/112点）である。

・**F7-5**：黒色半透明な黒曜石である。φ１㎜～５㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片26点（25個体；40.0g）である。接合資料は，３グループあり，Ａは剥片２点（7.1g），Ｂは剥片２点（１個体；0.8g），Ｃは剥片２点（2.9g）である。



第35図　Ｆ７-Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第36図　Ｆ７-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・**F7-6**：自然面は平滑で黄灰色（2.5Y4/1），内部は若干黄色味がかった黒灰色の黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点（18.7g）の単独資料である。

・**F7-7**：自然面は比較的平滑で黄灰色（2.5Y4/1），内部は黄灰色味がかった黒灰色の黒曜石である。φ３㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。変色は被熱によるものと思われる。石器群の内訳は，剥片１点（5.6g）の単独資料である。

・**F7-8**：灰色の黒曜石である。φ２㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。変色は被熱によるものと思われる。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片１点（15.2g）の単独資料である。

・**F7-9**：自然面は比較的平滑で，自然面及び節理は灰オリーブ色（5Y5/3），内部は灰色（5Y4/1）の地に暗灰色（N3/0）の線が入るチャートである。石器群の内訳は，剥片22点（20個体），石核２点の合計24点（22個体;83.7g）である。接合資料は，３グループあり，Aは剥片２点，石核１点の合計３点（12.9g），Bは剥片２点（１個体；5.5g），Cは剥片２点（１個体；8.6g）である。

・**F7-10**：自然面は比較的平滑でにぶい黄橙色（10YR6/4）・灰オリーブ色（5Y6/2）の流紋岩である。石器群の内訳は，敲石１点（82.1g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，栃木県高原山産の黒曜石の剥片23点，砕片23点の合計46点，チャートの剥片７点，砕片４点の合計11点（1.3g），砂岩の剥片１点がある。

３）出土遺物（第37図）

１は栃木県高原山産の黒曜石による加工痕ある剥片である。不定型な剥片を素材として，末端に調整加工を行っている。２は栃木県高原山産の黒曜石による不定型な剥片である。３は流紋岩による敲石である。上下両端から右側縁にかけて浅い敲打痕が見られる。

４）接合資料とその関連資料（第37図）

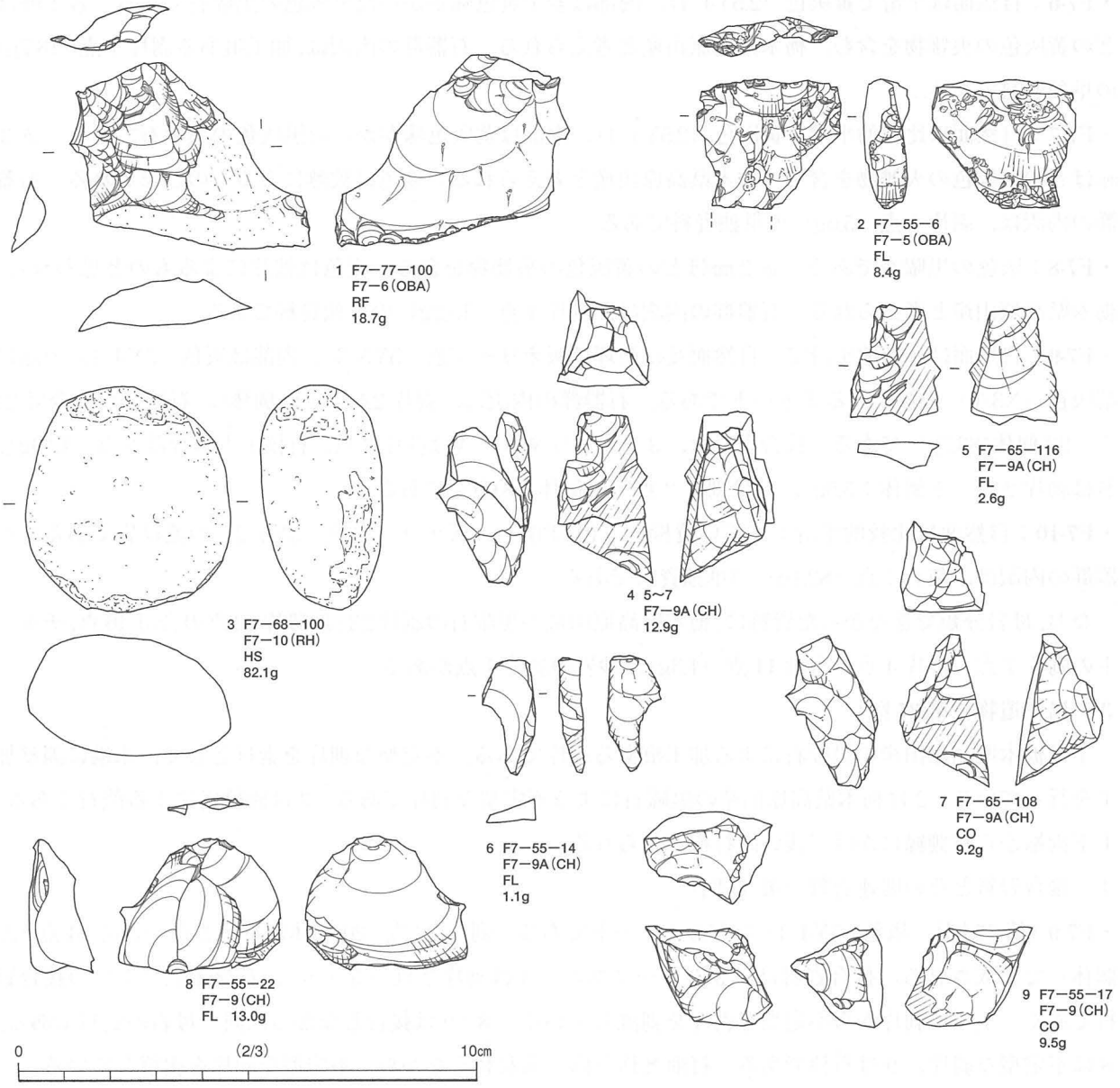
・**F7-9（第37図）**　灰色（5Y4/1）などのチャートである。剥片22点（20個体），石核２点の合計24点（22個体）で構成される。接合資料は，３グループある。４は剥片２点（５・６），石核１点（７）の接合資料である。小型の剥片から不定型な剥片を剥離している。８・９は接合しなかった同一母岩の資料である。８は不定型な剥片，９は石核である。打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。

第25表　F７-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
F7-5(OBA)																		26(25)							26(25)
F7-6(OBA)										1															1
F7-7(OBA)																		1							1
F7-8(OBA)																		1							1
F7-9(CH)																		22(20)		2					24(22)
F7-10(RH)																1									1
その他(OBA)																		23	23						46
その他(CH)																		7	4						11
その他(SA)																		1							1
合　計										1						1		81(78)	27	2					112(109)

第26表　F７-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石A(OBA)										1								51(50)	23						75(74)
流紋岩(RH)																1									1
チャート(CH)																		29(27)	4	2					35(33)
砂岩(SA)																		1							1
合　計										1						1		81(78)	27	2					112(109)



第37図　Ｆ７-Ｂブロック出土遺物

13 O7-Ａブロック（第38〜40・264図，第27・28表，カラー図版１・19，図版４）

１）ブロックの概要

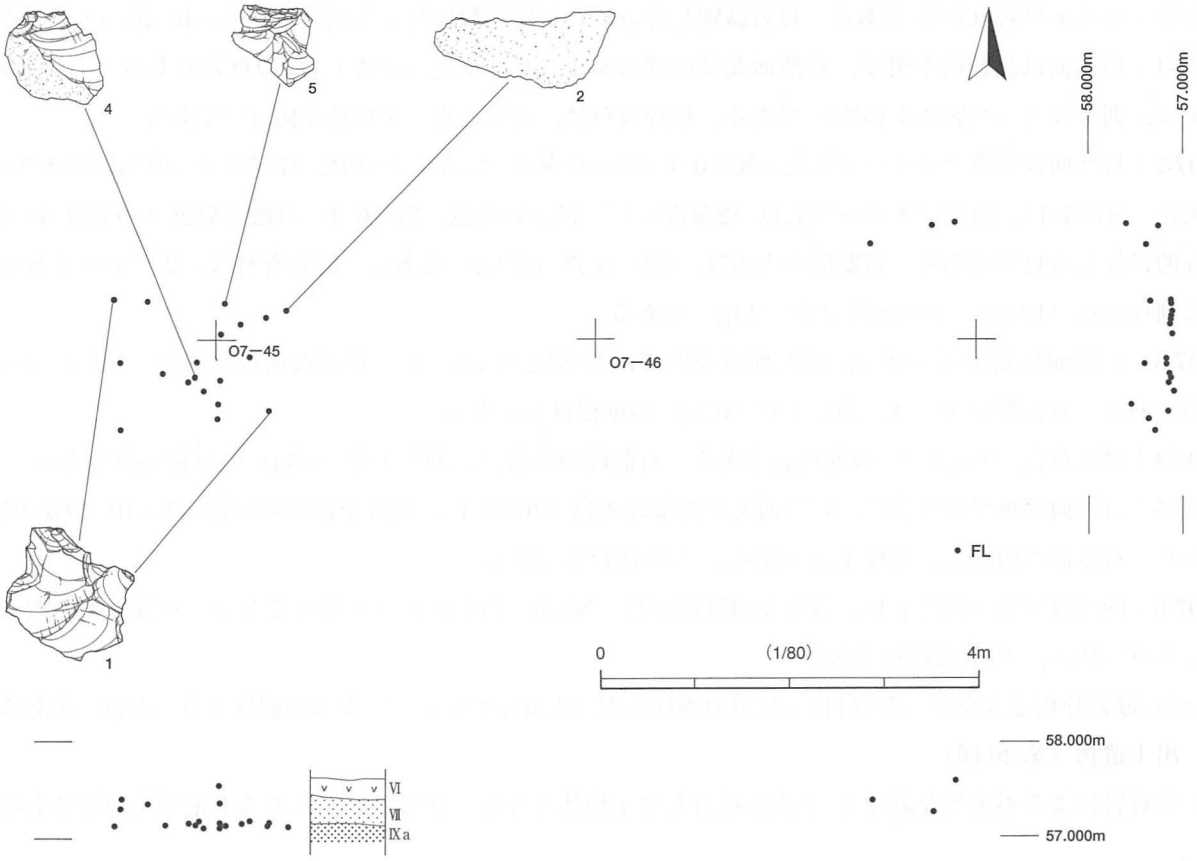
O7-Ａブロックは，調査範囲東側のO7-34〜36・44・45グリッドに位置する。ブロックの立地は，東側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は70ｍである。

ブロックの規模と形状は，直径２ｍの範囲に22点の石器と６ｍほど離れて３点の石器が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅨａ層にかけてで，50cmほどの高低差をもって包含されている（第38・39図）。

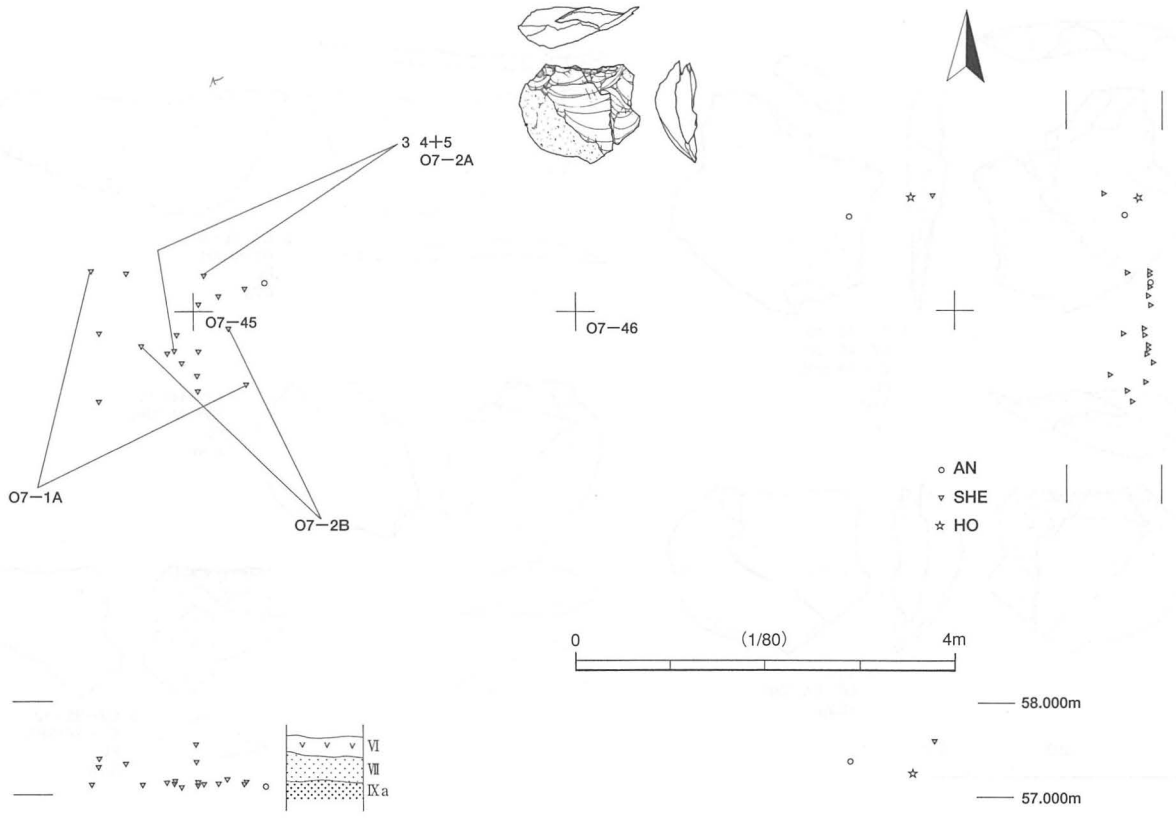
ブロックは，剥片25点（24個体）で構成される。石器石材は，安山岩３点，頁岩Ｅ20点（19個体），ホルンフェルス２点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは６母岩を識別した。内訳は，安山岩３母岩（O7-3〜5），頁岩Ｅ２母岩（O7-1・2），ホ



第38図　O7-Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第39図　O7-Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

ルンフェルス１母岩（O7-6）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は73%（19/26点）である。

・**O7-1**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は暗オリーブ灰色（5GY4/1）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点（２個体；15.7g）である。接合資料は，剥片２点（１個体；9.6g）である。

・**O7-2**：自然面は平滑でオリーブ灰色（5GY6/1）・にぶい黄色（2.5Y6/4）・灰色（7.5Y5/1），内部は暗オリーブ灰色（5GY4/1），節理はオリーブ灰色（2.5GY6/1）・にぶい黄色（2.5Y6/4）の地に褐色（10YR4/4）が部分的に混じる頁岩である。石器群の内訳は，剥片11点（23.6g）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片２点（12.2g），Ｂは剥片２点（2.1g）である。

・**O7-3**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片１点（6.2g）の単独資料である。

・**O7-4**：暗灰黄色（2.5Y4/2）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片１点（4.5g）の単独資料である。

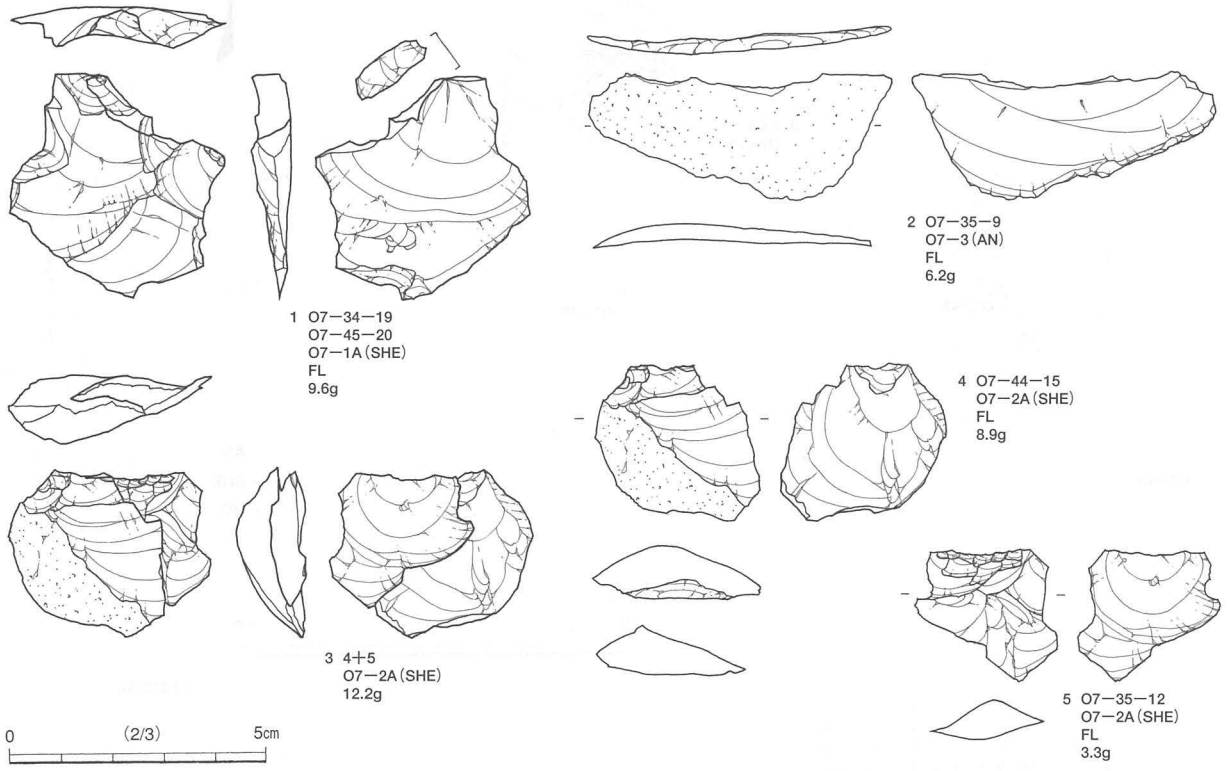
・**O7-5**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（10Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片１点（18.6g）の単独資料である。

・**O7-6**：内部は灰色（7.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点（19.9g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，頁岩の剥片６点（2.5g），ホルンフェルスの剥片１点（3.3g）がある。

３）出土遺物（第40図）

１は頁岩による不定型な剥片で，２点が接合して１個体となる。２は安山岩による不定型な剥片である。



第40図　Ｏ７-Ａブロック出土遺物

4）接合資料とその関連資料（第40図）

・O7-2（第40図）　暗オリーブ灰色（5GY4/1）などの頁岩である。剥片11点で構成される。接合資料は，2グループある。3は剥片2点（4・5）の接合資料である。

第27表　O7-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
O7-1(SHE)																		3(2)							3(2)
O7-2(SHE)																		11							11
O7-3(AN)																		1							1
O7-4(AN)																		1							1
O7-5(AN)																		1							1
O7-6(HO)																		1							1
その他(SHE)																		6							6
その他(HO)																		1							1
合　計																		25(24)							25(24)

第28表　O7-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
安山岩(AN)																		3							3
頁岩E(SHE)																		20(19)							20(19)
ホルンフェルス(HO)																		2							2
合　計																		25(24)							25(24)

14　P7-Aブロック（第41～45・265図，第29～31表，カラー図版2・19，図版4）

1）ブロックの概要

P7-Aブロックは，調査範囲東側のP7-53･62･63･73･74･82･84グリッドに位置する。ブロックの立地は，東側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は90mである。

ブロックの規模と形状は，長軸14m，短軸10mの範囲に93点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅶ層からⅩ層にかけてで，70cmほどの高低差をもって包含されている（第41・42図）。

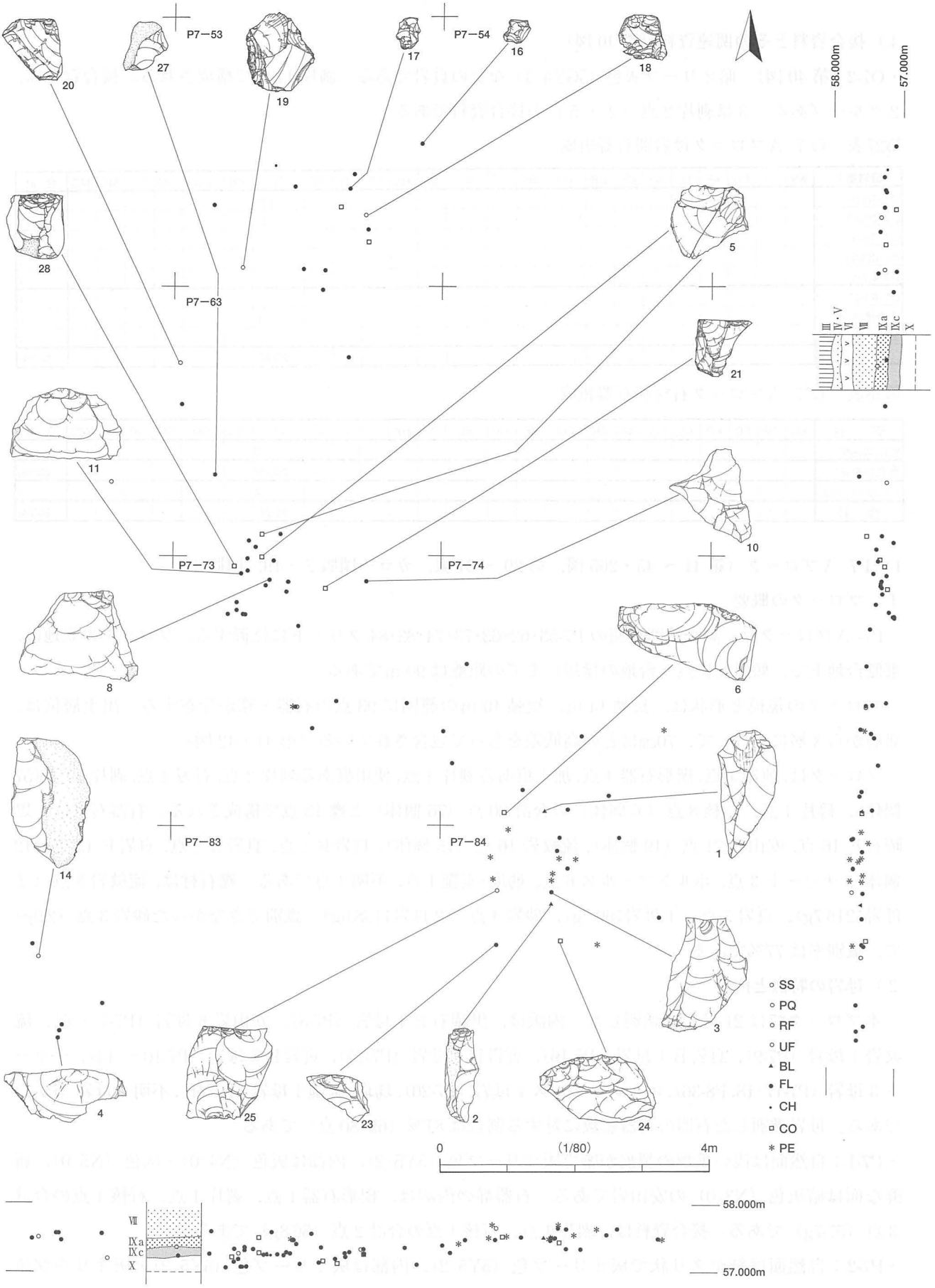
ブロックは，削器1点，楔形石器4点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片2点，石刃4点，剥片59点（57個体），砕片1点，石核8点（6個体）の合計80点（76個体）と礫13点で構成される。石器石材は，黒曜石E 16点，安山岩21点（19個体），流紋岩16点（15個体），頁岩B 1点，頁岩D 2点，頁岩E 13点（12個体），チャート3点，ホルンフェルス6点，瑪瑙･玉髄1点，不明1点である。礫石材は，流紋岩3点（2母岩;215.7g），頁岩3点（1母岩;60.2g），砂岩4点（2母岩;138.6g），識別できなかった砂岩3点（2.6g）で，識別率は77%である。

2）母岩の特徴と内容

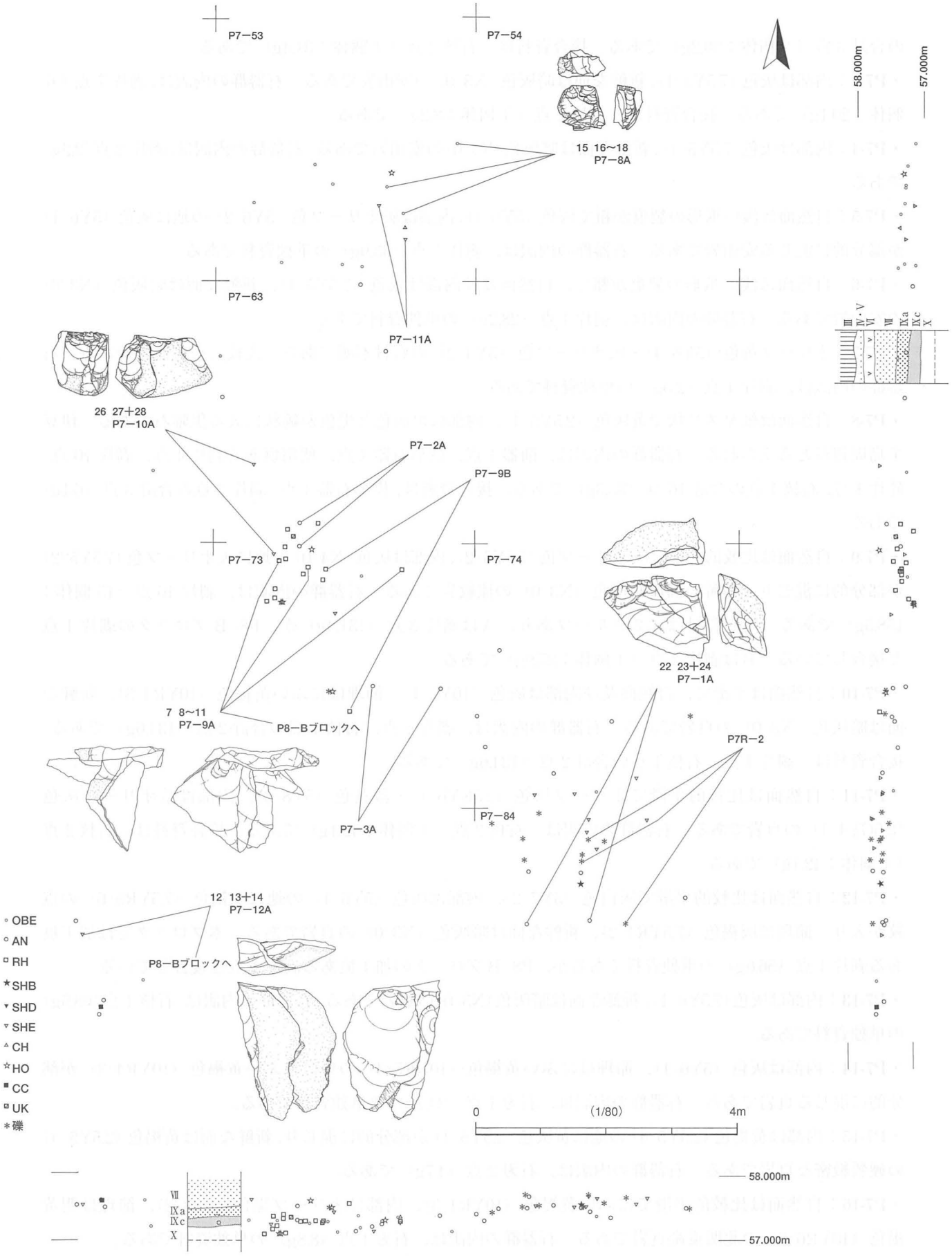
本ブロックでは21母岩を識別した。内訳は，黒曜石E 1母岩（P7-8），安山岩6母岩（P7-1～6），流紋岩1母岩（P7-9），頁岩B 1母岩（P7-16），頁岩D 1母岩（P7-15），頁岩E 5母岩（P7-10～14），チャート3母岩（P7-17･18, P8-36），ホルンフェルス1母岩（P7-20），瑪瑙･玉髄1母岩（P7-21），不明1母岩（P7-7）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は81%（65/80点）である。

・P7-1：自然面は浅い爪形の裂痕が密で灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（N4/0）・灰色（N5/0），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片1点，石核1点の合計3点（57.7g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（36.8g）である。

・P7-2：自然面は紙ヤスリ状で灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核2点（1個体）



第41図　Ｐ７-Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第42図　P7-Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

の合計3点（2個体；50.2g）である。接合資料は，石核2点（1個体；31.4g）である。

・**P7-3**：内部は灰色（7.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片7点（6個体；20.1g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；8.2g）である。

・**P7-4**：内部は灰色（7.5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点（2.9g）である。

・**P7-5**：自然面は浅い爪形の裂痕が粗で灰色（5Y6/1），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）の地に灰色（5Y6/1）が部分的に混じる安山岩である。石器群の内訳は，剥片1点（33.9g）の単独資料である。

・**P7-6**：自然面は浅い爪形の裂痕が粗で，自然面及び内部は灰色（7.5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片1点（28.2g）の単独資料である。

・**P7-7**：オリーブ黄色（5Y6/4）・灰オリーブ色（5Y4/2）の石材不明である。流紋岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片1点（2.0g）の単独資料である。

・**P7-8**：自然面は紙ヤスリ状で黄灰色（2.5Y5/1），内部は黒灰色と黒色が縞状に入る黒曜石である。伊豆半島周辺産と考えられる。石器群の内訳は，削器1点，楔形石器2点，使用痕ある剥片1点，剥片10点，砕片1点，石核1点の合計16点（38.3g）である。接合資料は，楔形石器1点，剥片2点の合計3点（6.1g）である。

・**P7-9**：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色（7.5Y5/2），内部は灰色（N4/0）の地に灰オリーブ色（7.5Y5/2）が部分的に混じり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片16点（15個体；158.5g）である。接合資料は，2グループあり，Aは剥片3点（131.4g）が，P8-Bブロックの剥片1点と接合している。Bは剥片2点（1個体；27.9g）である。

・**P7-10**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y5/1），節理はにぶい黄褐色（10YR4/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（134.6g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（134.6g）である。

・**P7-11**：自然面は比較的平滑でオリーブ灰色（2.5GY6/1）・淡黄色（5Y8/3），内部は暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）の頁岩である。石器群の内訳は，石核2点（1個体；42.1g）である。接合資料は，石核2点（1個体；42.1g）である。

・**P7-12**：自然面は比較的平滑で灰白色（5Y7/2），内部は灰色（5Y6/1）の地に明褐色（7.5YR5/6）の点紋が入り，節理は灰褐色（7.5YR4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。本ブロックでは加工痕ある剥片1点（56.6g）の単独資料であるが，P8-Bブロックの加工痕ある剥片1点と接合している。

・**P7-13**：内部は灰色（7.5Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，石核1点（68.5g）の単独資料である。

・**P7-14**：内部は灰色（5Y6/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の地ににぶい黄褐色（10YR4/3）が部分的に混じる頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点（34.7g）の単独資料である。

・**P7-15**：内部は黄褐色（2.5Y5/4）の地に黄灰色（2.5Y5/1）が部分的に混じり，新鮮な面は黄褐色（2.5Y5/4）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，石刃2点（4.7g）である。

・**P7-16**：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部はオリーブ黒色（5Y3/2），節理は明黄褐色（10YR6/6）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点（8.8g）の単独資料である。

・**P7-17**：灰色（N4/0）の地に暗灰色（N3/0）の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，使用痕ある

剥片１点（8.2g）での単独資料ある。

・**P7-18**：赤褐色（10R4/3）のチャートである。石器群の内訳は，楔形石器１点（6.5g）の単独資料である。

・**P7-20**：内部は灰黄色(2.5Y7/2)，新鮮な面は灰色(N4/0)のホルンフェルスである。頁岩の可能性もある。石器群の内訳は，剥片１点（7.7g）の単独資料である。

・**P7-21**：内部は浅黄色（2.5Y7/4），節理は明黄褐色（10YR6/6）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片１点（0.5g）の単独資料である。

・**P8-36**：自然面は平滑で暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)，内部は暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)，節理は灰オリーブ色（7.5Y5/2）・暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)のチャートである。石器群の内訳は，剥片１点（7.5g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片４点（25.3g），頁岩の剥片６点（10.2g），ホルンフェルスの剥片５点（11.1g）がある。

第29表　Ｐ７-Ａブロック母岩別石器組成

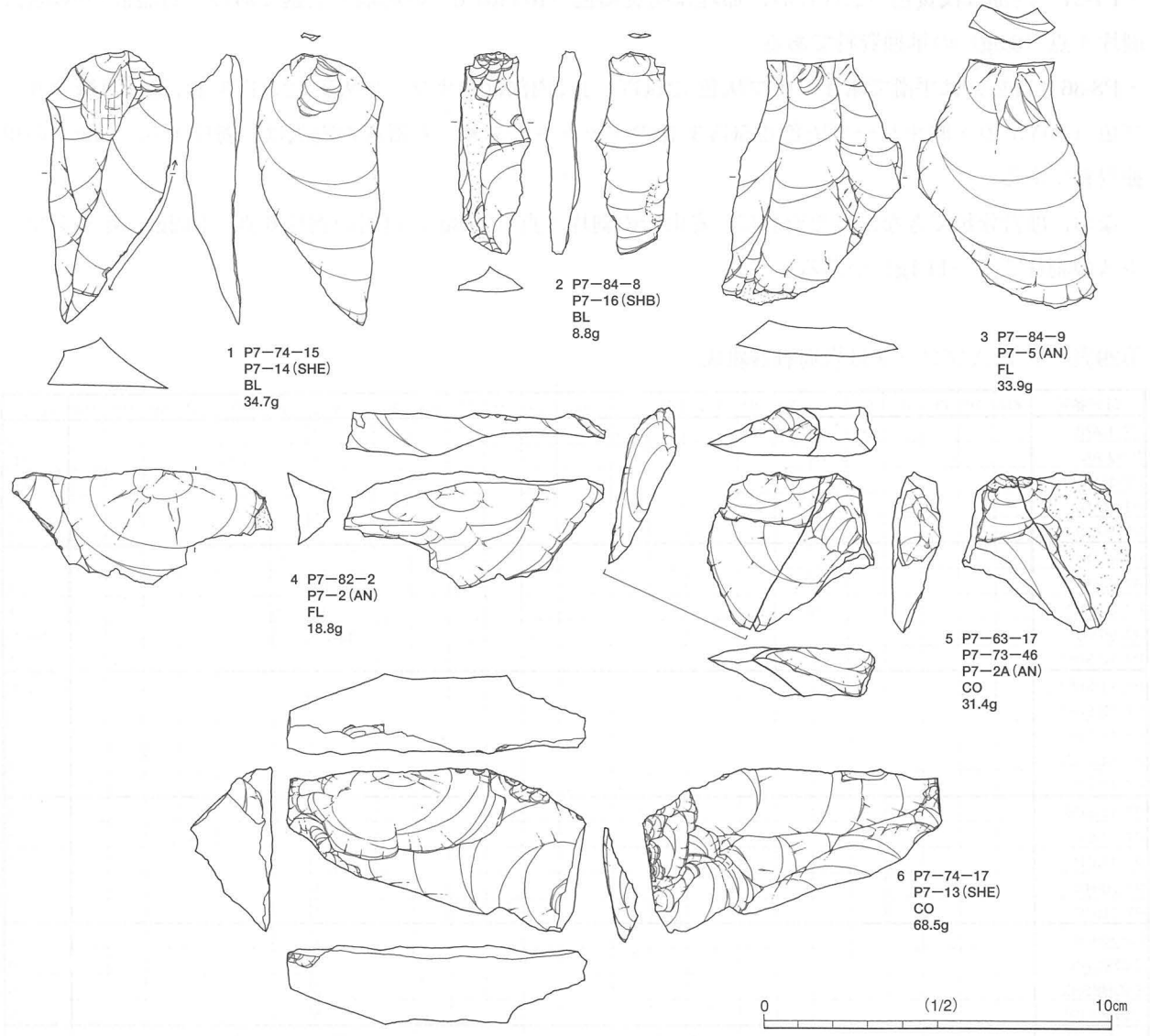
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
P7-1(AN)									1									1		1					3
P7-2(AN)																		1		2(1)					3(2)
P7-3(AN)																		7(6)							7(6)
P7-4(AN)																		2							2
P7-5(AN)																		1							1
P7-6(AN)																		1							1
P7-7(UK)																		1							1
P7-8(OBE)						1			2		1							10	1	1					16
P7-9(RH)																		16(15)							16(15)
P7-10(SHE)																		1		1					2
P7-11(SHE)																				2(1)					2(1)
P7-12(SHE)										1															1
P7-13(SHE)																				1					1
P7-14(SHE)												1													1
P7-15(SHD)												2													2
P7-16(SHB)												1													1
P7-17(CH)											1														1
P7-18(CH)									1																1
P7-20(HO)																		1							1
P7-21(CC)																		1							1
P8-36(CH)																		1							1
その他(AN)																		4							4
その他(SHE)																		6							6
その他(HO)																		5							5
合　計						1			4	1	2	4						59(57)	1	8(6)					80(76)

第30表　Ｐ７-Ａブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石E(OBE)						1			2		1							10	1	1					16
安山岩(AN)									1									17(16)		3(2)					21(19)
流紋岩(RH)																		16(15)							16(15)
頁岩B(SHB)												1													1
頁岩D(SHD)												2													2
頁岩E(SHE)										1		1						7		4(3)					13(12)
チャート(CH)									1		1							1							3
ホルンフェルス(HO)																		6							6
瑪瑙・玉髄(CC)																		1							1
その他(UK)																		1							1
合　計						1			4	1	2	4						59(57)	1	8(6)					80(76)

３）出土遺物（第 43 図）

１は頁岩，２は北関東産頁岩による石刃である。なお，１は右側縁に刃こぼれが見られる。３・４は安山岩による剥片である。５は安山岩による不定型な剥片を素材とした石核である。２点が接合して１個体となる。６は頁岩による石刃を素材とした石核である。両者とも裏面側で不定型な剥片を剥離している。

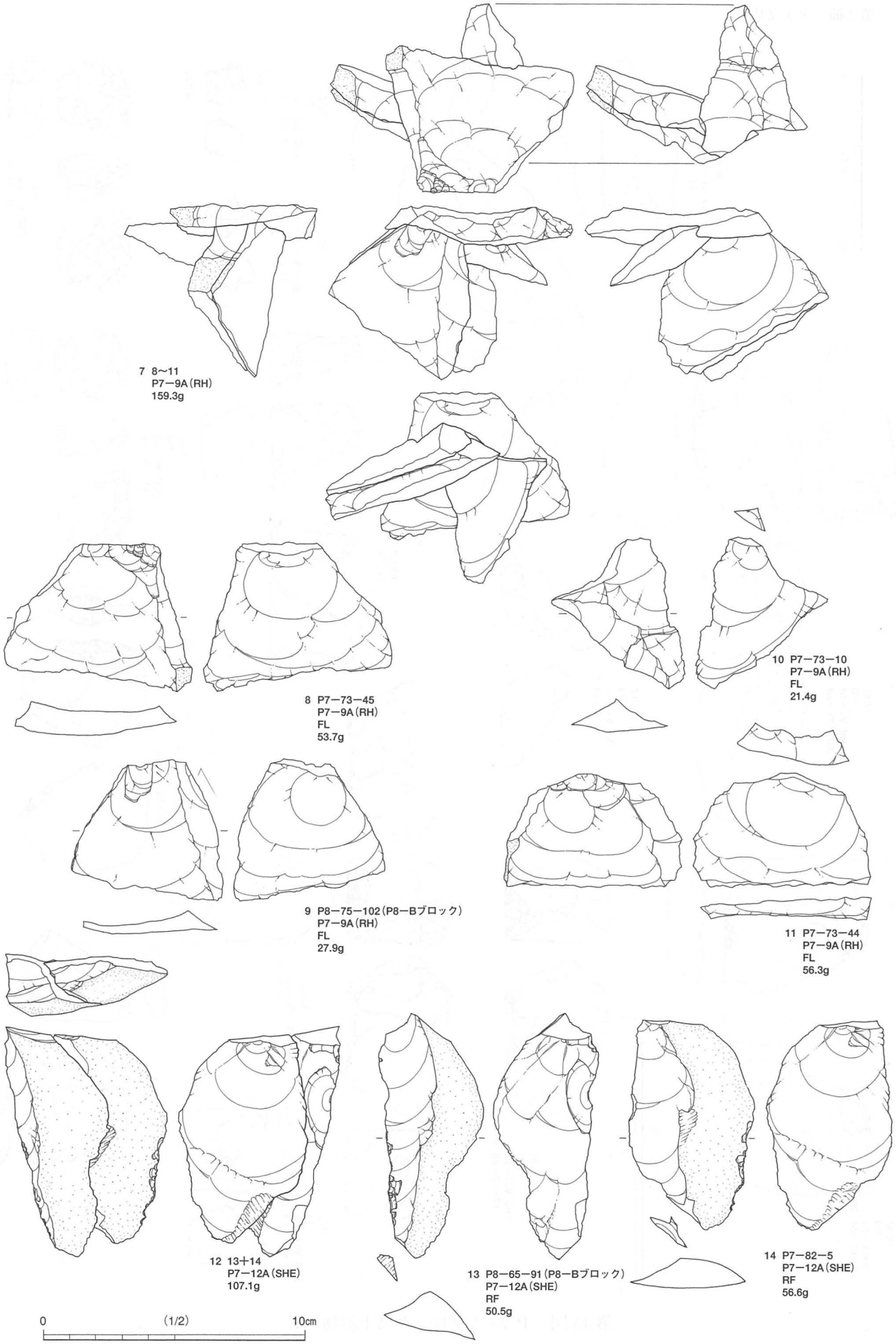


第 43 図　Ｐ７- Ａブロック出土遺物（１）

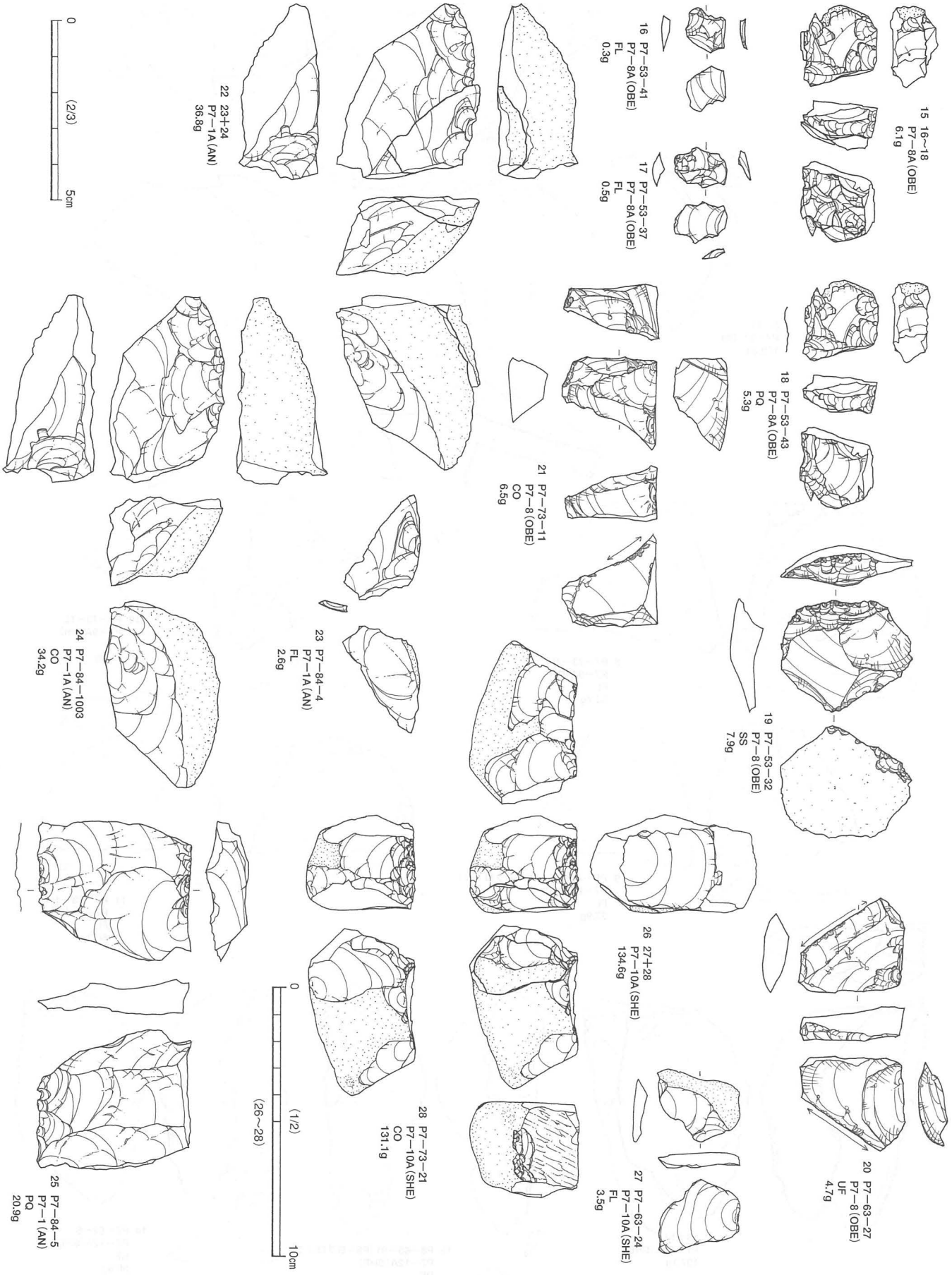
４）接合資料とその関連資料（第 44・45 図）

・**P7-9（第 44 図）**　灰色（N4/0）などの流紋岩である。剥片 16 点（15 個体）で構成される。接合資料は，２グループある。７は剥片３点（８・10・11）が，P8- Ｂブロックの剥片１点（９）と接合している。８を表面側から剥離した後，90 度打面転移しながら，９～ 11 を剥離している。

・**P7-12（第 44 図）**　灰色（5Y6/1）などの頁岩である。加工痕ある剥片２点で構成される。12 は加工痕ある剥片１点（14），P8- Ｂブロックの加工痕ある剥片１点（13）の接合資料である。13 は左側縁の一部，14 は右側縁の一部に細かい調整加工を行っている。



第44図　P 7 - Aブロック出土遺物（2）



第45図　Ｐ７-Ａブロック出土遺物（３）

・**P7-8（第45図）**　黒灰色と黒色が縞状に入る黒曜石である。伊豆半島周辺産と考えられる。削器1点，楔形石器2点，使用痕ある剥片1点，剥片10点，砕片1点，石核1点の合計16点で構成される。15は楔形

石器1点（18），剥片2点（16・17）の接合資料である。18は両端に対向する剥離痕が見られる。19～21は接合しなかった同一母岩の資料である。19は不定型な剥片を素材として，左側縁と右側縁上部に調整加工を行っている。20は不定型な剥片の表面左側縁と裏面右側縁に刃こぼれが見られる。21は剥片を素材として，小型で不定型な剥片を剥離しており，裏面左側縁に刃こぼれが見られる。

・**P7-1（第45図）**　灰色（N4/0）などの安山岩である。楔形石器1点，剥片1点，石核1点の合計3点で構成される。22は剥片1点（23），石核1点（24）の接合資料である。24は厚めの剥片を素材として，23を含む小型で不定型な剥片を剥離している。25は接合しなかった同一母岩の楔形石器である。両端に対向する剥離痕が見られる。

・**P7-10（第45図）**　灰色（10Y5/1）などの頁岩である。剥片1点，石核1点の合計2点で構成される。26は剥片1点（27），石核1点（28）の接合資料である。平坦な打面から縦長剥片を数枚剥離した後，180度打面を転移して27を剥離している。

第31表　P7-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
P7R-1	RH	1	170.0
P7R-2	SH	3	60.2
P7R-3	RH	2	45.7
P7R-4	SA	3	89.9
P7R-5	SA	1	48.7
その他	SA	3	2.6

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	3	215.7
頁岩(SH)	3	60.2
砂岩(SA)	7	141.2
合　計	13	417.1

15 P8-Aブロック（第46～48・265図，第32～34表，カラー図版2・19，図版4）

1）ブロックの概要

P8-Aブロックは，調査範囲東側のP8-00～02・10・11グリッドに位置する。ブロックの立地は，東側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は80mである。

ブロックの規模と形状は，長軸7m，短軸2mの範囲に14点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅶ層からⅨa層にかけてで，40cmほどの高低差をもって包含されている（第46・47図）。

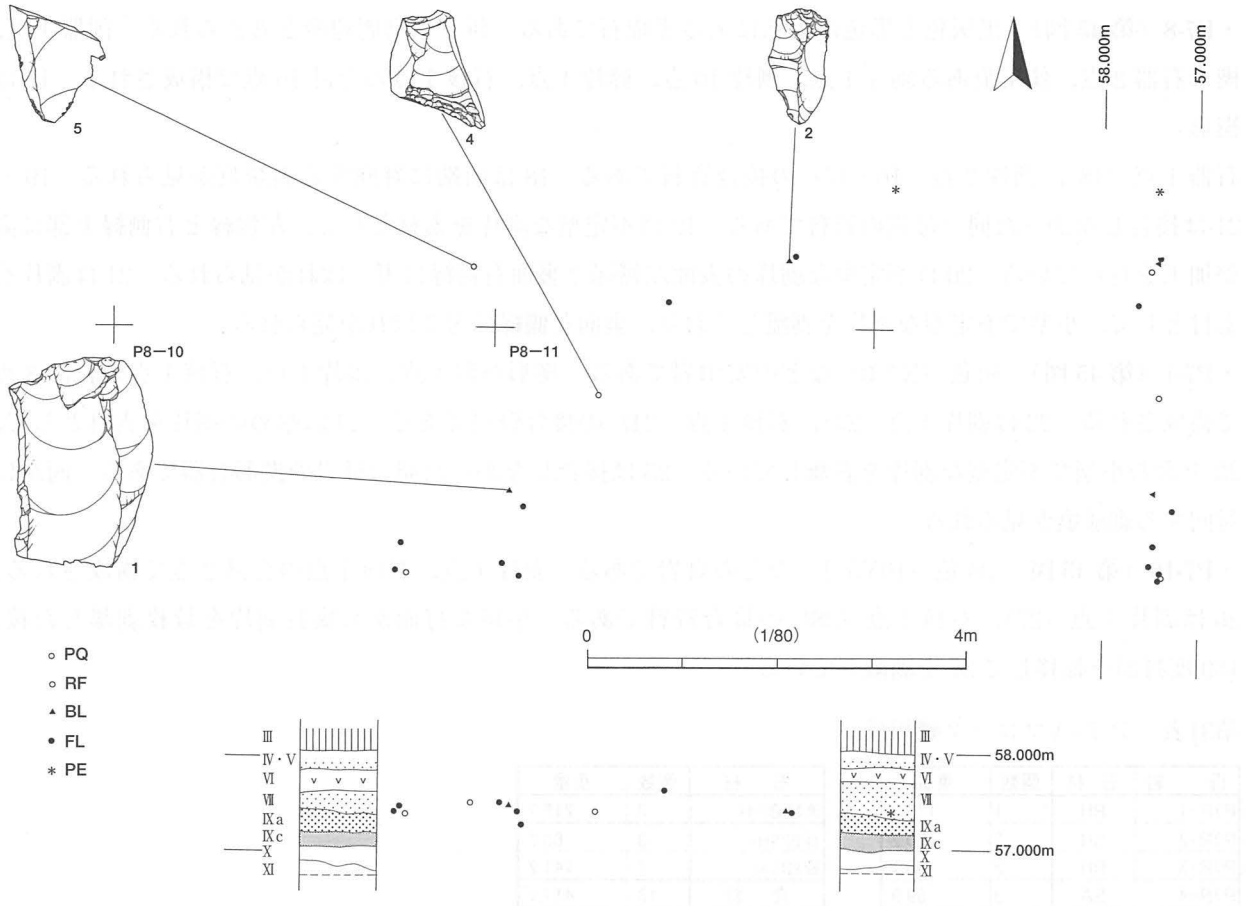
ブロックは，楔形石器3点，加工痕ある剥片1点，石刃2点，剥片7点，の合計13点と礫1点で構成される。石器石材は，安山岩1点，流紋岩1点，頁岩E 11点である。礫石材は，砂岩1点（1母岩；13.0g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

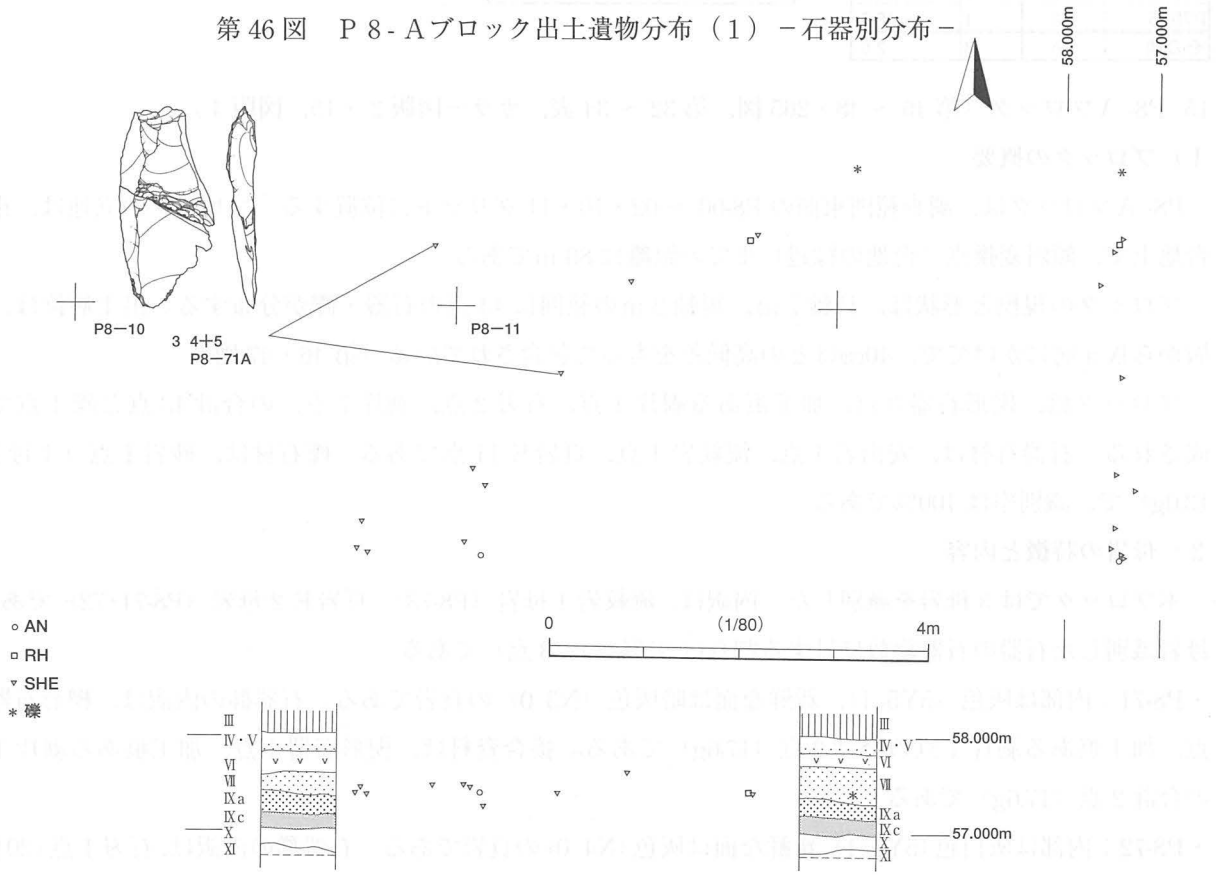
本ブロックでは3母岩を識別した。内訳は，流紋岩1母岩（P8-73），頁岩E 2母岩（P8-71･72）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は31%（4/13点）である。

・**P8-71**：内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器1点，加工痕ある剥片1点の合計2点（17.6g）である。接合資料は，楔形石器1点，加工痕ある剥片1点の合計2点（17.6g）である。

・**P8-72**：内部は灰白色（5Y7/1），新鮮な面は灰色（N4/0）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点（20.9g）の単独資料である。



第46図　Ｐ８-Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第47図　Ｐ８-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・**P8-73**：灰黄色（2.5Y7/2）の流紋岩である。石器群の内訳は，石刃１点（5.3g）の単独資料である。

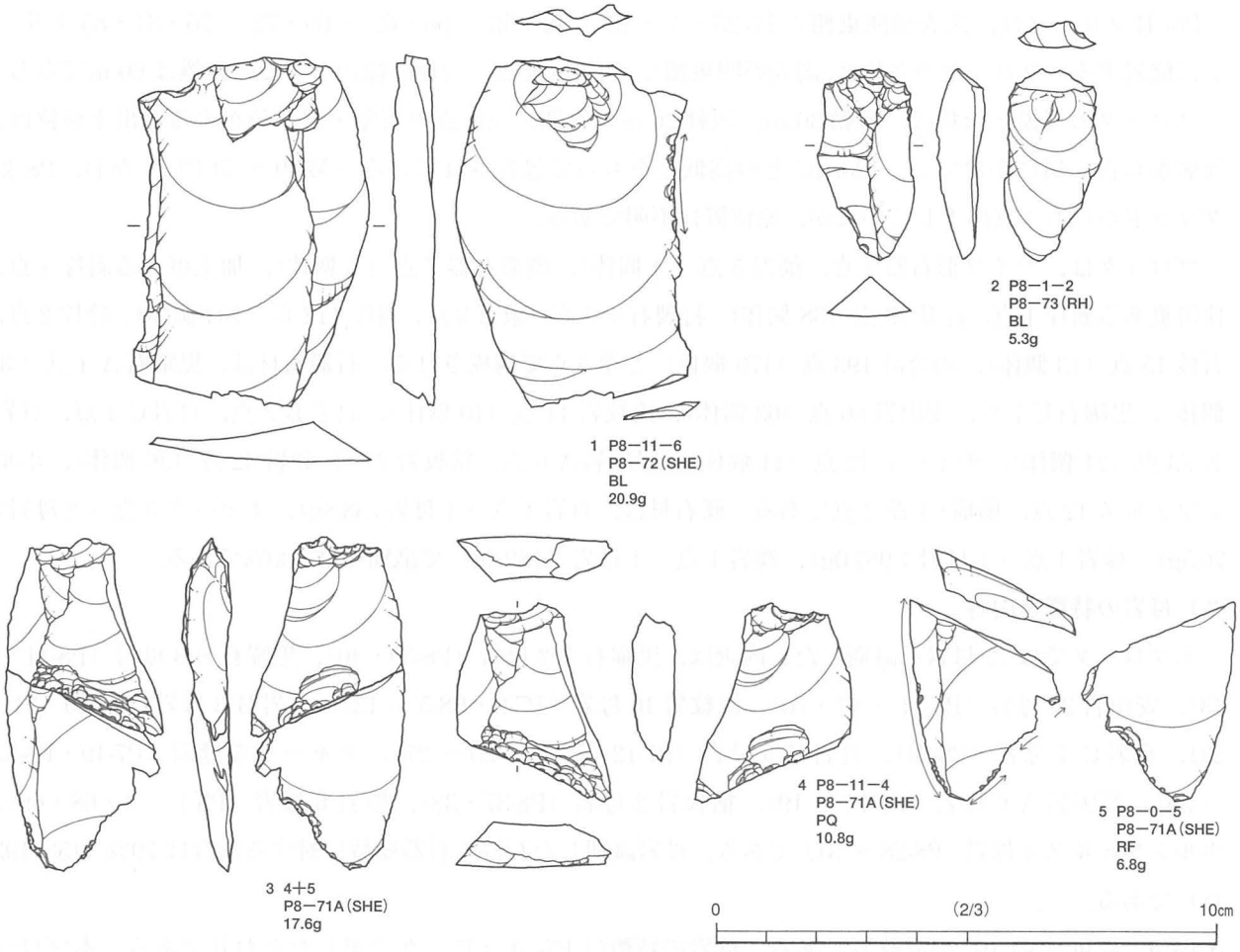
なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片１点（1.9g），頁岩の楔形石器２点，剥片６点の合計８点（20.2g）がある。

３）出土遺物（第48図）

１は頁岩，２は流紋岩による石刃である。１は裏面右側縁の一部に刃こぼれが見られる。

４）接合資料とその関連資料（第48図）

・**P8-71（第48図）**　灰色（5Y5/1）などの頁岩である。楔形石器１点，加工痕ある剥片１点の合計２点で構成される。３は楔形石器１点（４），加工痕ある剥片１点（５）の接合資料である。２つに欠損した石刃を素材とし，４は両端に対向する剥離痕が見られ，５は表面の両側縁と裏面の左側縁に刃こぼれが見られる。



第48図　Ｐ８-Aブロック出土遺物

第32表　Ｐ８-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
P8-71(SHE)									1	1															2
P8-72(SHE)												1													1
P8-73(RH)												1													1
その他(AN)																		1							1
その他(SHE)									2									6							8
合　計									3	1		2						7							13

第33表　Ｐ８-Ａブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
安山岩(AN)																		1							1
流紋岩(RH)												1													1
頁岩E(SHE)									3	1		1						6							11
合　計									3	1		2						7							13

第34表　Ｐ８-Ａブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
P8R-6	SA	1	13.0

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	13.0
合　計	1	13.0

16 P8- Bブロック（第49～60・265図，第35～37表，カラー図版２～４・19・20，図版５）

１）ブロックの概要

P8- Bブロックは，調査範囲東側のP8-25・38・43～48・52～56・62～66・72～76・81・85グリッドに位置する。ブロックの立地は，調査範囲東側で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は60ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸36ｍ，短軸20ｍの範囲に199点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅶ層からⅨｃ層にかけてで，120cmほどの高低差をもって包含されている（第49～51図）。なお，P8-39グリッドからも４点出土しているが，原位置は不明である。

ブロックは，ナイフ形石器４点，削器５点（４個体），楔形石器７点（５個体），加工痕ある剥片４点，使用痕ある剥片１点，石刃39点（38個体），打製石斧１点，敲石３点，剥片112点（104個体），砕片２点，石核15点（13個体），の合計193点（179個体）と礫６点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ４点（３個体），黒曜石Ｅ７点，安山岩66点（63個体），流紋岩11点（10個体），頁岩Ｂ５点，頁岩Ｃ１点，頁岩Ｅ23点（21個体），チャート12点（11個体），凝灰岩Ａ６点，粘板岩２点，砂岩42点（36個体），ホルンフェルス12点，瑪瑙・玉髄２点である。礫石材は，頁岩１点（１母岩;58.8g），チャート３点（２母岩;76.5g），砂岩１点（１母岩；987.0g），礫岩１点（１母岩；182.2g）で識別率は100%である。

２）母岩の特徴と内容

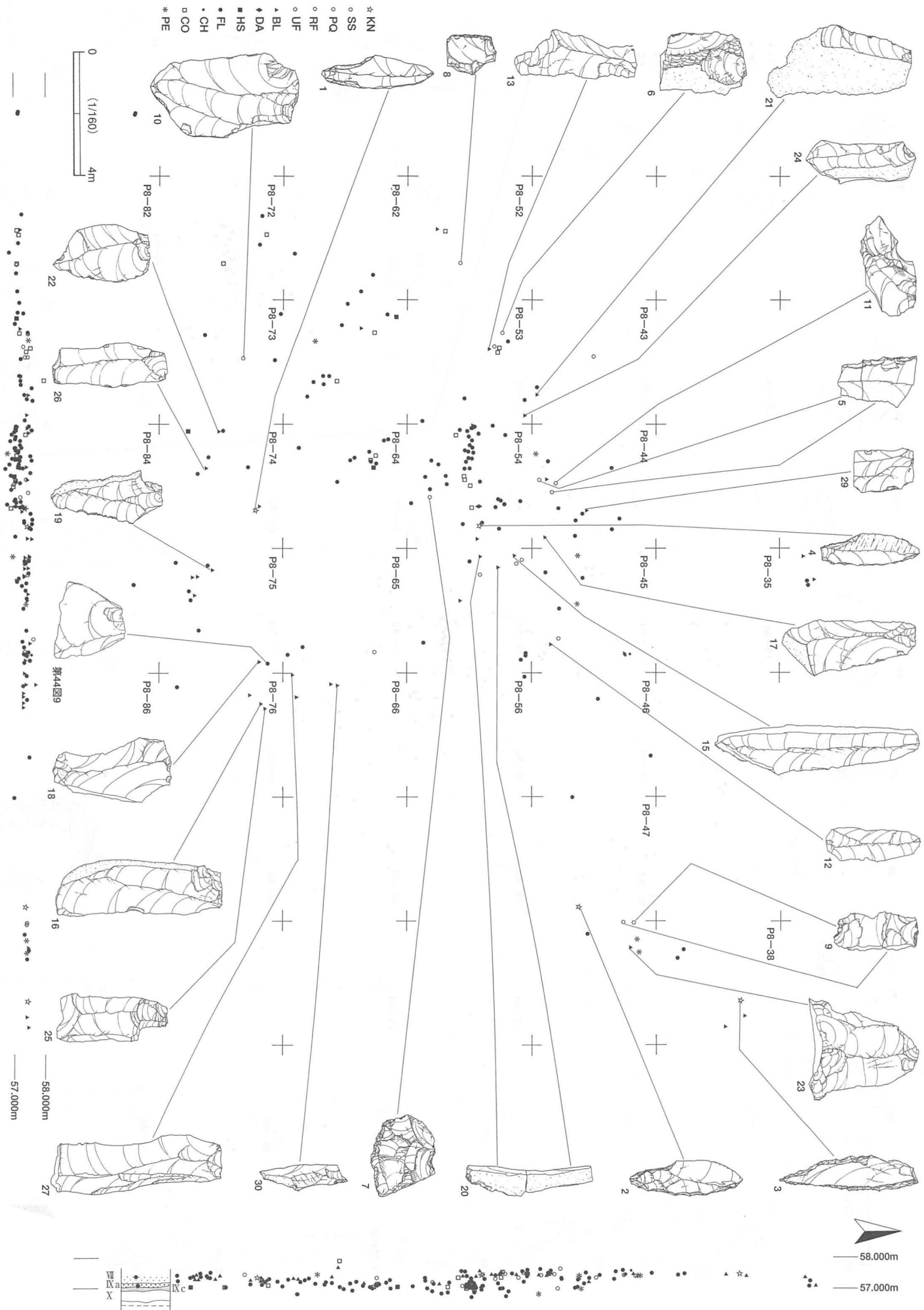
本ブロックでは72母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ２母岩（P8-39・40），黒曜石Ｅ３母岩（P8-41～43），安山岩25母岩（P8-44～67・70），流紋岩10母岩（P7-9・P8-5～13），頁岩Ｂ３母岩（P8-20・21・23），頁岩Ｃ１母岩（P8-24），頁岩Ｅ５母岩（P7-12・P8-22・25～27），チャート５母岩（P7-19・P8-32～35），凝灰岩Ａ６母岩（P8-14～19），粘板岩２母岩（P8-37・38），砂岩６母岩（P8-1～4・68・69），ホルンフェルス４母岩（P8-28～31）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は79%（152/193点）である。

・**P7-9**：灰色（N4/0）の流紋岩である。母岩の特徴はP7- Aブロックで記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（27.9g）の単独資料であるが，P7- Aブロックの剥片３点と接合している。その他に同一母岩がP7- Aブロックに13点（12個体）ある。

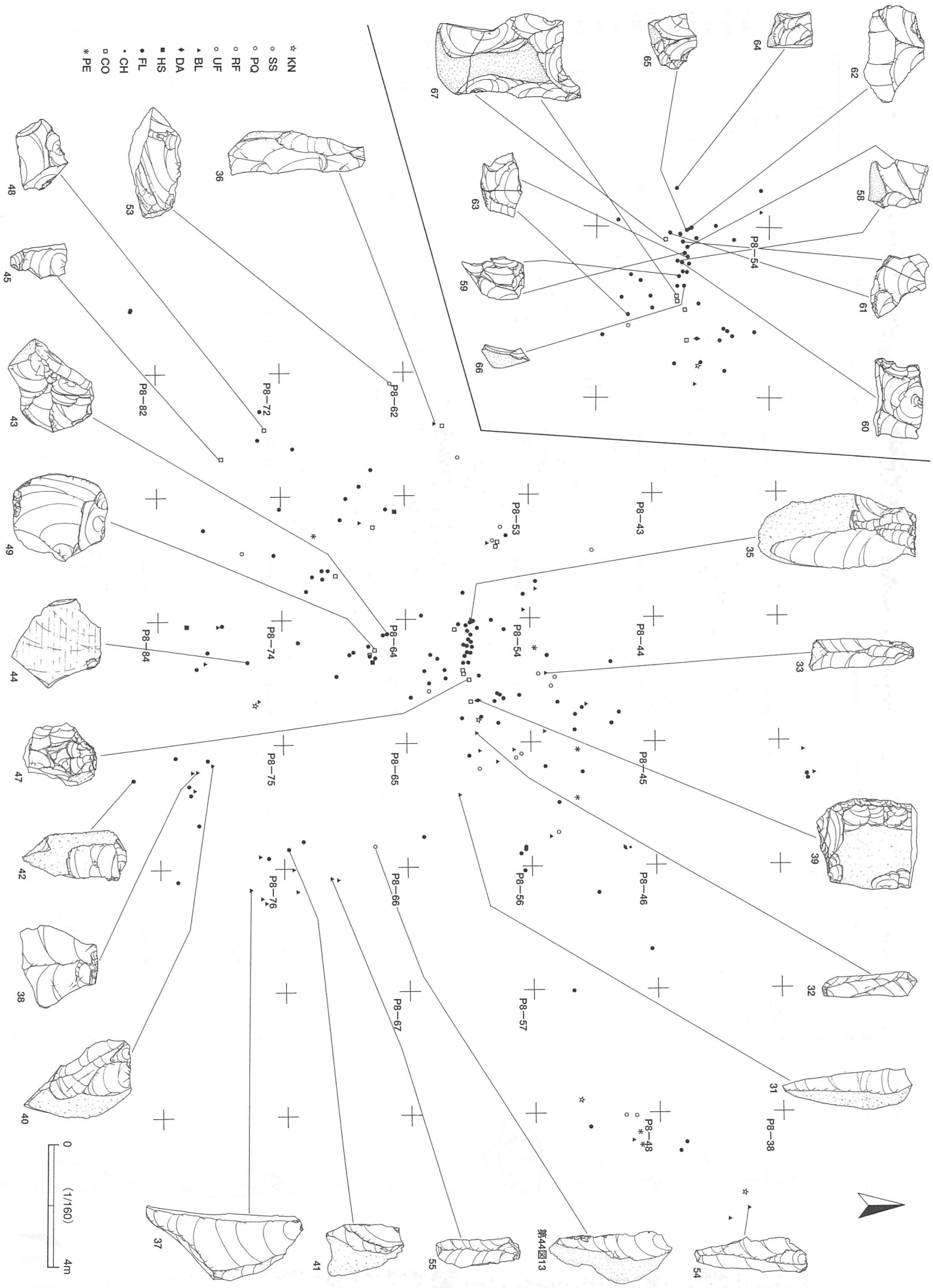
・**P7-12**：灰色（5Y6/1）の頁岩である。母岩の特徴はP7- Aブロックで記したとおりである。本ブロックでは加工痕ある剥片１点の単独資料であるが，P7- Aブロックの加工痕ある剥片１点と接合している。

・**P7-19**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（N4/0）の地に灰オリーブ色（7.5Y6/2）の筋が入り，新鮮な面は暗灰色（N3/0）のチャートである。石器群の内訳は，剥片１点（39.3g）の単独資料である。

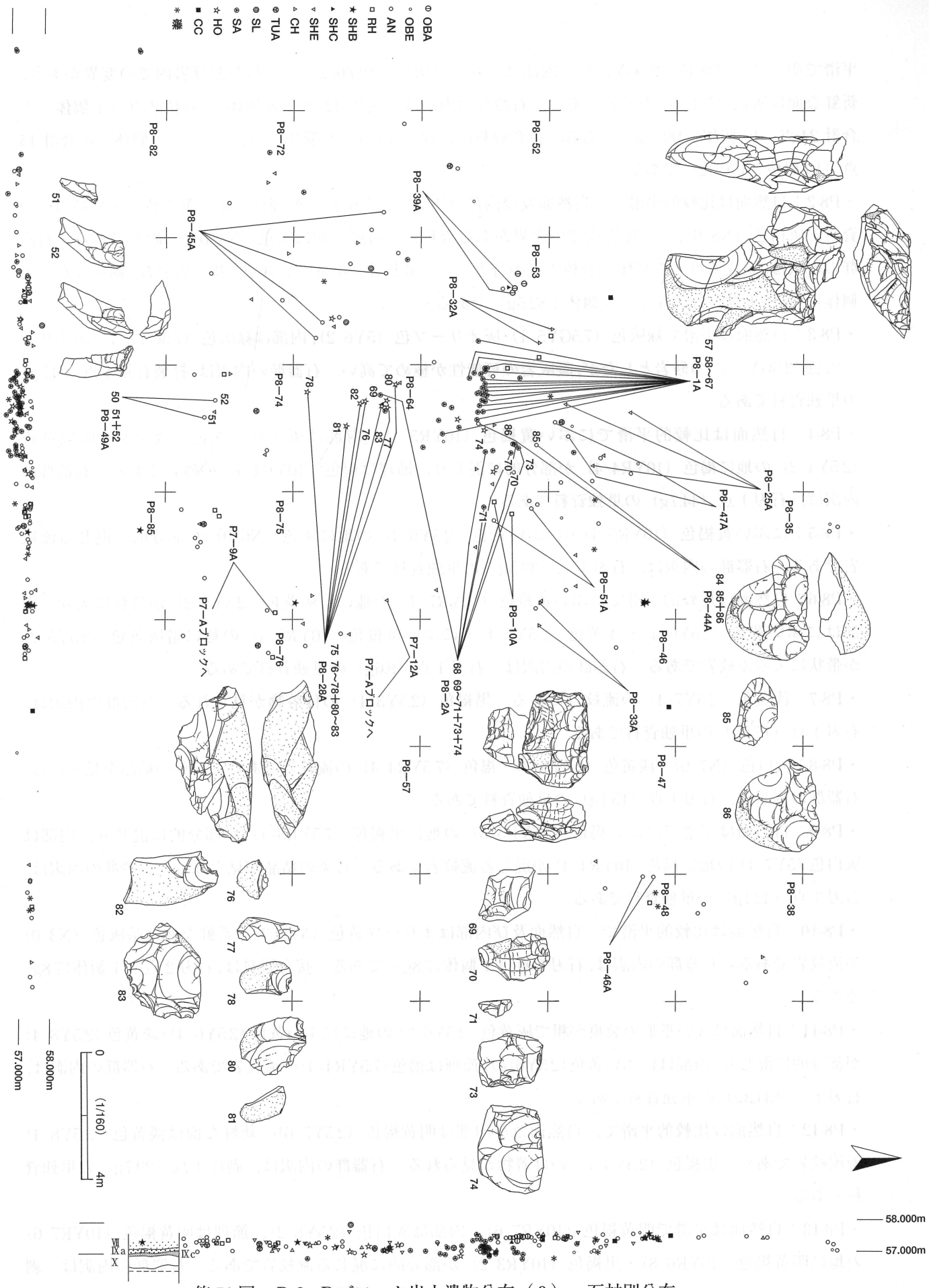
・**P8-1**：自然面は平滑で明オリーブ灰色（2.5GY7/1），内部はオリーブ灰色（5GY5/1）の資料，自然面は



第49図　Ｐ８-Bブロック出土遺物分布（１）－石器別分布（１）－



第50図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石器別分布（２）－



第51図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物分布（３）－石材別分布－

平滑で明オリーブ灰色（2.5GY7/1），内部はオリーブ灰色（10Y6/2）の資料など母岩内での変異があり，新鮮な面は灰色（N4/0）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片22点（18個体），石核2点（1個体）の合計24点（19個体；188.2g）である。接合資料は，剥片13点（9個体），石核2点（1個体）の合計15点（10個体；176.3g）である。

・**P8-2**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y6/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の資料，灰白色（N8/0）など母岩内での変異がある資料で，新鮮な面は灰色（N4/0）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片6点（5個体），石核1点の合計7点（6個体;86.9g）である。接合資料は，剥片5点（4個体），石核1点の合計6点（5個体；82.5g）である。

・**P8-3**：自然面は平滑で緑灰色（7.5GY5/1）・灰オリーブ色（5Y6/2），内部は緑灰色（7.5GY5/1）・明オリーブ灰色（2.5GY7/1）の砂岩としたが，凝灰岩の可能性が極めて高い。石器群の内訳は，打製石斧1点（94.5g）の単独資料である。

・**P8-4**：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の地に褐色（10YR4/4）が部分的に混じり，節理は褐色（10YR4/4）の砂岩である。石器群の内訳は，石刃1点（44.7g）の単独資料である。

・**P8-5**：にぶい黄褐色（10YR5/4）・にぶい黄色（2.5Y6/4）の地に灰色（N6/0）が部分的に混じる流紋岩である。石器群の内訳は，石刃1点（38.5g）の単独資料である。

・**P8-6**：自然面は比較的平滑でにぶい黄橙色（10YR7/4）の地に暗灰黄色（2.5Y5/2）が帯状に入り，内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）・浅黄色（2.5Y7/4）・にぶい黄橙色（10YR7/4）の地に暗灰黄色（2.5Y5/2）が帯状に入る流紋岩である。石器群の内訳は，石刃1点（9.6g）の単独資料である。

・**P8-7**：浅黄色（2.5Y7/4）の流紋岩である。黒褐色（2.5Y3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，石刃1点（17.8g）の単独資料である。

・**P8-8**：灰白色（N7/0）・淡黄色（2.5Y8/3）・褐色（7.5YR4/4）の流紋岩である。石英の結晶が見られる。石器群の内訳は，石刃1点（15.1g）の単独資料である。

・**P8-9**：自然面は平滑でにぶい褐色（7.5YR5/3）の地に黒褐色（7.5YR3/1）が部分的に混じり，内部は灰白色（5Y7/1）の地に褐色（10YR4/4）が混じる流紋岩である。石英の結晶が見られる。石器群の内訳は，石刃1点（32.1g）の単独資料である。

・**P8-10**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はオリーブ黄色（5Y6/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の流紋岩である。石器群の内訳は，石刃2点（1個体;7.8g）である。接合資料は，石刃2点（1個体;7.8g）である。

・**P8-11**：自然面は浅い爪形の裂痕が粗で灰黄色（2.5Y6/2）の地ににぶい黄色（2.5Y6/4）・淡黄色（2.5Y8/4）が部分的に混じり，内部はにぶい黄色（2.5Y6/4），節理は褐色（7.5YR4/4）の流紋岩である。石器群の内訳は，石刃1点（34.3g）の単独資料である。

・**P8-12**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は明黄褐色（2.5Y7/6），新鮮な面は淡黄色（2.5Y8/4）の流紋岩である。黒褐色（2.5Y3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，剥片1点（29.7g）の単独資料である。

・**P8-13**：自然面は平滑で明黄褐色（10YR7/6），内部は灰白色（2.5Y8/2），節理は明黄褐色（10YR7/6）の地に明黄褐色（10YR6/8）・黒褐色（10YR3/2）が部分的に混じる流紋岩である。石器群の内訳は，剥

片１点（14.9g）の単独資料である。

・P8-14：内部は淡黄色（5Y8/4）・灰白色（10Y7/2），新鮮な面は灰白色（10Y7/2）の緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃１点（27.8g）の単独資料である。

・P8-15：自然面は比較的平滑で灰白色（5Y8/1）の地に灰オリーブ色（5Y6/2）が部分的に混り，内部は浅黄色（2.5Y7/3）・明褐色（7.5YR5/6）の緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃１点（31.3g）の単独資料である。

・P8-16：内部は暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）・浅黄色（5Y7/3）・灰白色（5Y8/2），節理は褐色（7.5YR4/6）の緑色凝灰岩である。黒褐色（7.5YR3/2）の付着物が見られる。石器群の内訳は，石刃１点（23.6g）の単独資料である。

・P8-17：自然面は平滑で，自然面及び内部はオリーブ黄色（5Y6/4）・オリーブ灰色（10Y6/2），新鮮な面はオリーブ灰色（10Y6/2）の緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃１点（7.0g）の単独資料である。

・P8-18：自然面は平滑で浅黄色（2.5Y7/4），内部は灰色（7.5Y5/1）・オリーブ黄色（5Y6/3），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃１点（8.0g）の単独資料である。

・P8-19：自然面は平滑で灰白色（10Y7/2），内部は灰オリーブ色（7.5Y6/2），節理は褐色（10YR4/4），新鮮な面は灰色（10Y4/1）の緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片１点（26.9g）の単独資料である。

・P8-20：自然面は比較的平滑でにぶい黄色（2.5Y6/3）の地に灰黄褐色（10YR4/2）が部分的に混じり，内部は黒褐色（2.5Y3/1）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（14.4g）の単独資料である。

・P8-21：灰黄褐色（10YR4/2）の北関東産頁岩である。黒褐色（7.5YR3/2）の付着物が見られる。石器群の内訳は，石刃１点（4.0g）の単独資料である。

・P8-22：自然面は平滑で明黄褐色（10YR7/6），内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）・浅黄色（2.5Y7/3）の比較的珪化度の高い頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点（3.4g）の単独資料である。

・P8-23：自然面は比較的平滑でにぶい褐色（7.5YR5/4）の地にオリーブ黄色（5Y6/3），内部は黄褐色（2.5Y5/4）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（13.4g）の単独資料である。

・P8-24：灰オリーブ色（5Y6/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点（1.8g）の単独資料である。

・P8-25：内部は灰オリーブ色（7.5Y6/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，石刃１点，剥片６点（４個体）の合計８点（６個体；22.2g）である。接合資料は，剥片３点（１個体；1.7g）である。

・P8-26：内部は灰色（5Y5/1）・淡黄色（5Y8/3）の地ににぶい黄褐色（10YR5/4）が部分的に混じり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点（45.9g）である。

・P8-27：自然面は平滑で灰白色（5Y7/2），内部は灰白色（2.5Y7/1）の資料，淡黄色（2.5Y8/4）の資料など母岩内での変異があり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。別母岩の可能性がある。石器群の内訳は，石刃１点，剥片２点の合計３点（53.1g）である。

・P8-28：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片７点，石核１点の合計８点（104.4g）である。接合資料は，剥片６点，石核１点の合計７点（100.6g）である。

・P8-29：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（123.1g）である。
・P8-30：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，石核1点（99.1g）の単独資料である。
・P8-31：内部は灰色（5Y5/1）の地に暗灰色（N3/0）の筋が入り，節理はにぶい褐色（7.5YR4/3）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点（7.8g）の単独資料である。
・P8-32：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は暗オリーブ灰色（5GY4/1），節理は黄褐色（2.5Y5/4）のチャートである。石器群の内訳は，剥片2点（1個体;11.1g）である。接合資料は，剥片2点（1個体;11.1g）である。
・P8-33：暗オリーブ灰色（5GY4/1）のチャートである。石器群の内訳は，剥片2点（1.0g）である。接合資料は，剥片2点（1.0g）である。
・P8-34：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2）・黄褐色（2.5Y5/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1），節理は灰黄色（2.5Y6/2）の資料，黒褐色（7.5YR3/2）の資料など母岩内での変異があるチャートである。石器群の内訳は，剥片2点（21.5g）である。
・P8-35：暗灰色（N3/0）の地に灰色（N5/0）が部分的に混るチャートである。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点（19.7g）の単独資料である。
・P8-37：内部は暗オリーブ灰色（5GY4/1）・暗オリーブ灰色（5GY3/1），新鮮な面は灰色（N4/0）の粘板岩である。石器群の内訳は，石刃1点（16.9g）の単独資料である。
・P8-38：自然面は平滑で，自然面及び内部は暗灰色（N3/0），節理は灰オリーブ色（7.5Y4/2）の粘板岩である。石器群の内訳は，石核1点（25.1g）の単独資料である。
・P8-39：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は黒色半透明な黒曜石である。φ1㎜～2㎜ほどの灰白色・黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，石核2点（1個体；9.4g）である。接合資料は，石核2点（1個体；9.4g）である。
・P8-40：自然面は比較的平滑で黒色（N2/0），内部は黒灰色半透明な黒曜石である。φ1㎜～2㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，削器1点，剥片1点の合計2点（40.4g）である。接合資料は，削器1点，剥片1点の合計2点（40.4g）である。
・P8-41：自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は黒灰色の地に黒色の縞が入る黒曜石である。φ1㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。伊豆半島周辺産と考えられる。石器群の内訳は，削器2点，剥片3点の合計5点（26.9g）である。
・P8-42：自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は黒灰色の黒曜石である。伊豆半島周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点（14.6g）の単独資料である。
・P8-43：黒灰色半透明な黒曜石である。φ0.3㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。伊豆半島周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片1点（5.5g）の単独資料である。
・P8-44：自然面は浅い爪形の裂痕が粗で黄褐色（2.5Y5/3），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（70.2g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（70.2g）である。
・P8-45：灰色（N6/0）・灰オリーブ色（5Y6/2）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片4点，石核1点

第35表　Ｐ８-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
P7-9(RH)																		1							1
P7-12(SHE)										1															1
P7-19(CH)																		1							1
P8-1(SA)																		22(18)		2(1)					24(19)
P8-2(SA)																		6(5)		1					7(6)
P8-3(SA)													1												1
P8-4(SA)												1													1
P8-5(RH)												1													1
P8-6(RH)												1													1
P8-7(RH)												1													1
P8-8(RH)												1													1
P8-9(RH)												1													1
P8-10(RH)												2(1)													2(1)
P8-11(RH)												1													1
P8-12(RH)																		1							1
P8-13(RH)																		1							1
P8-14(TUA)												1													1
P8-15(TUA)												1													1
P8-16(TUA)												1													1
P8-17(TUA)												1													1
P8-18(TUA)												1													1
P8-19(TUA)																		1							1
P8-20(SHB)																		1							1
P8-21(SHB)												1													1
P8-22(SHE)												1													1
P8-23(SHB)																		1							1
P8-24(SHC)										1															1
P8-25(SHE)									1			1						6(4)							8(6)
P8-26(SHE)												2													2
P8-27(SHE)												1						2							3
P8-28(HO)																		7		1					8
P8-29(HO)																		1		1					2
P8-30(HO)																				1					1
P8-31(HO)	1																								1
P8-32(CH)																		2(1)							2(1)
P8-33(CH)																		2							2
P8-34(CH)																		2							2
P8-35(CH)	1																								1
P8-37(SL)												1													1
P8-38(SL)																				1					1
P8-39(OBA)																				2(1)					2(1)
P8-40(OBA)						1												1							2
P8-41(OBE)						2												3							5
P8-42(OBE)											1														1
P8-43(OBE)																		1							1
P8-44(AN)																		1		1					2
P8-45(AN)																		4		1					5
P8-46(AN)									2(1)																2(1)
P8-47(AN)						2(1)																			2(1)
P8-48(AN)																		8							8
P8-49(AN)										1		2						3		1					7
P8-50(AN)																		1		1					2
P8-51(AN)									3(2)																3(2)
P8-52(AN)												1													1
P8-53(AN)												1													1
P8-54(AN)												1													1
P8-55(AN)												1													1
P8-56(AN)												1													1
P8-57(AN)												1													1
P8-58(AN)												1													1

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
P8-59(AN)												1													1
P8-60(AN)												1													1
P8-61(AN)												1													1
P8-62(AN)												1													1
P8-63(AN)												1													1
P8-64(AN)												1													1
P8-65(AN)																		1							1
P8-66(AN)																		1							1
P8-67(AN)																		1							1
P8-68(SA)																1									1
P8-69(SA)																1									1
P8-70(AN)																1									1
その他(AN)																		17		1					18
その他(SHB)																			2						2
その他(SHE)	2									1		3						1		1					8
その他(CH)																		4							4
その他(SA)																		7							7
その他(CC)									1									1							2
合　計	4					5(4)			7(5)	4	1	39(38)	1			3		112(104)	2	15(13)					193(179)

第36表　Ｐ８-Ｂブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
黒曜石A(OBA)						1												1		2(1)					4(3)
黒曜石E(OBE)						2					1							4							7
安山岩(AN)						2(1)			5(3)	1		15				1		37		5					66(63)
流紋岩(RH)												8(7)						3							11(10)
頁岩B(SHB)												1						2	2						5
頁岩C(SHC)										1															1
頁岩E(SHE)	2								1	2		8						9(7)		1					23(21)
チャート(CH)	1																	11(10)							12(11)
凝灰岩A(TUA)												5						1							6
粘板岩(SL)												1								1					2
砂岩(SA)												1	1			2		35(30)		3(2)					42(36)
ホルンフェルス(HO)	1																	8		3					12
瑪瑙・玉髄(CC)									1									1							2
合　計	4					5(4)			7(5)	4	1	39(38)	1			3		112(104)	2	15(13)					193(179)

第37表　Ｐ８-Ｂブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
P8R-1	CO	1	182.2
P8R-2	SA	1	987.0
P8R-3	SH	1	58.8
P8R-4	CH	1	14.9
P8R-5	CH	2	61.6

石　材	個数	重量
頁岩(SH)	1	58.8
チャート(CH)	3	76.5
砂岩(SA)	1	987.0
礫岩(CO)	1	182.2
合　計	6	1304.5

の合計５点（26.4g）である。接合資料は，剥片３点，石核１点の合計４点（23.1g）である。

・**P8-46**：内部は灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，楔形石器２点（１個体；10.3g）である。接合資料は，楔形石器２点（１個体；10.3g）である。

・**P8-47**：灰オリーブ色(5Y4/2)の地ににぶい黄褐色(10YR5/4)が混じる安山岩である。石器群の内訳は，削器２点（１個体；15.5g）である。接合資料は，削器２点（１個体；15.5g）である。

・**P8-48**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黄灰色（2.5Y4/1）の地に灰色（N5/0）の筋が入り，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片８点（82.9g）である。

・**P8-49**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰

色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，石刃2点，剥片3点，石核1点の合計7点（64.8g）である。接合資料は，剥片2点（8.9g）である。

・**P8-50**：内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（67.5g）である。

・**P8-51**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は黄灰色（2.5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，楔形石器3点（2個体;26.1g）である。接合資料は，楔形石器2点（1個体;10.9g）である。

・**P8-52**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点（79.5g）の単独資料である。

・**P8-53**：自然面は紙ヤスリ状で灰オリーブ色（5Y4/2）の地に黄褐色（2.5Y5/3）が部分的に混じり，内部は灰色（5Y4/1）の地に灰オリーブ色（5Y5/2）が部分的に混じり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点（48.6g）の単独資料である。

・**P8-54**：自然面は紙ヤスリ状で灰黄色（2.5Y6/2），内部は灰黄色（2.5Y6/2）の地に灰色（N5/0）が部分的に混じる安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点（32.3g）の単独資料である。

・**P8-55**：内部は灰黄色（2.5Y6/2）の地に灰色（N5/0）が部分的に混じり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点（12.6g）の単独資料である。

・**P8-56**：自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点（33.0g）の単独資料である。

・**P8-57**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点（38.4g）の単独資料である。

・**P8-58**：自然面は紙ヤスリ状で黄褐色（2.5Y5/3），内部は灰黄色（2.5Y6/2）・灰色（N5/0），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点（28.0g）の単独資料である。

・**P8-59**：灰色（7.5Y5/1）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点（7.5g）の単独資料である。

・**P8-60**：自然面は比較的浅い爪形の裂痕が粗で灰黄色（2.5Y6/2），内部は灰色（N5/0）・黄灰色（2.5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点（12.5g）の単独資料である。

・**P8-61**：内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点（10.9g）の単独資料である。

・**P8-62**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点（26.0g）の単独資料である。

・**P8-63**：内部は灰色（7.5Y5/1），新鮮な面は灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点（12.3g）の単独資料である。

・**P8-64**：内部は灰オリーブ色（7.5Y6/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点（5.0g）の単独資料である。

・**P8-65**：自然面は紙ヤスリ状でオリーブ黄色（5Y6/3），内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片1点（17.1g）の単独資料である。

・**P8-66**：内部は灰色（N4/0），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片1点（13.0g）の単独資料である。

・**P8-67**：内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片1点（13.9g）の単独資料である。

・**P8-68**：自然面は平滑で緑灰色（7.5GY5/1），内部はオリーブ黄色（5Y6/3）の砂岩である。石器群の内訳は，敲石1点（45.4g）の単独資料である。

・**P8-69**：自然面は平滑で灰白色（5Y7/2）・浅黄色（2.5Y7/4），内部は淡黄色（2.5Y8/3）・灰白色（5Y7/2）の砂岩である。石器群の内訳は，敲石1点（275.9g）の単独資料である。

・**P8-70**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y5/1），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。石器群の内訳は，敲石1点（499.4g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片17点，石核1点の合計18点（62.2g），北関東産頁岩の砕片2点（0.3g），頁岩のナイフ形石器2点，加工痕ある剥片1点，石刃3点，剥片1点，石核1点の合計8点（151.2g），チャートの剥片4点（31.5g），砂岩の剥片7点（22.3g），瑪瑙・玉髄の楔形石器1点，剥片1点の合計2点（3.1g）がある。

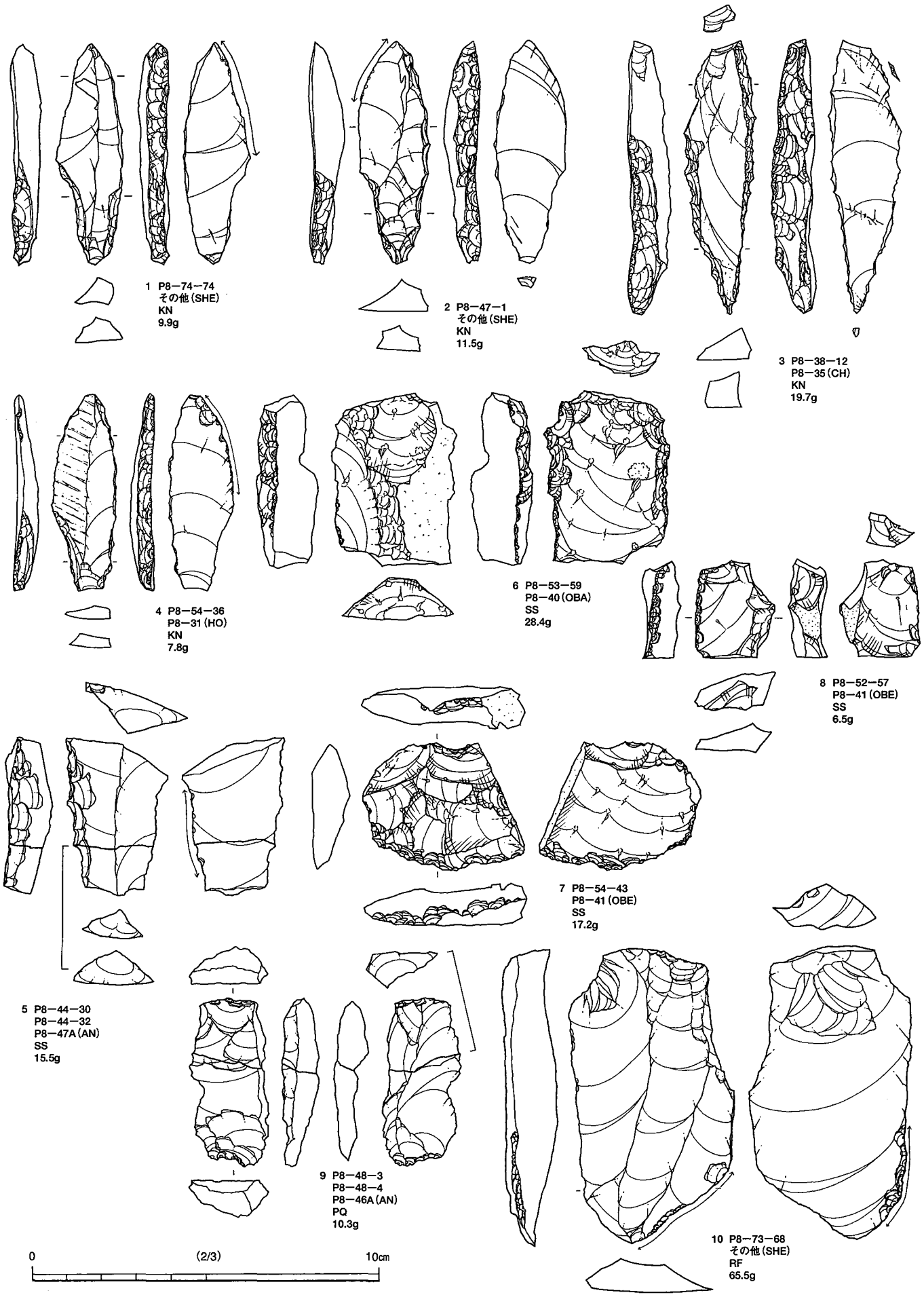
3）出土遺物（第52～57図）

1・2は頁岩，3はチャート，4はホルンフェルスによる二側縁加工のナイフ形石器である。1は石刃を用い，素材の打面部を先端としている。2～4は石刃を用い，素材の打面部を基部としている。2は左側縁側の刃部の一部に刃こぼれが見られる。5は安山岩による，6は栃木県高原山産の黒曜石による，7・8は伊豆半島周辺産の黒曜石による削器である。5・8は左側縁に調整加工を行っており，5は2点が接合して1個体となり，裏面左側縁に刃こぼれが見られる。6は裏面両側縁に調整加工を行っている。7は両面末端に調整加工を行っている。9は安山岩による楔形石器で，2点が接合して1個体となる。両端に対向する剥離痕が見られる。10は頁岩による加工痕ある剥片である。石刃状の縦長剥片を素材として，表面の末端の一部と裏面の左側縁下部に調整加工と刃こぼれが見られる。11は伊豆半島周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。不定型な剥片の左側縁の一部に刃こぼれが見られる。12～18は安山岩，19～25は流紋岩，26～32は頁岩，33・34・36～38は緑色凝灰岩，35は砂岩による石刃である。20は右側縁下部，29は表面右側縁の中央部と裏面右側縁の上部に細かい調整加工が行われており，21は裏面右側縁の上部に調整加工と表面左側縁上半部に刃こぼれが見られ，26は裏面右側縁の中央部に調整加工と刃こぼれが見られる。19は表面の右側縁と裏面の末端，22は表面右側縁と裏面左側縁，23は石核の底面を残す素材の底面の主要剥離面側，27は左側縁下部，28は右側縁の一部，29は表面右側縁の中央部と裏面右側縁の上部，30は右側縁下部，33・34は末端に刃こぼれが見られる。なお，20は2点が接合して1個体となる。また，38は下部を欠損している。39は砂岩による打製石斧である。比較的扁平な礫の周辺に調整加工を行っている。両側縁の縁辺部は若干磨耗しており，光沢がある。40は流紋岩，41・42は北関東産の頁岩による石刃状の縦長剥片，43は頁岩，44は緑色凝灰岩による不定型な剥片である。

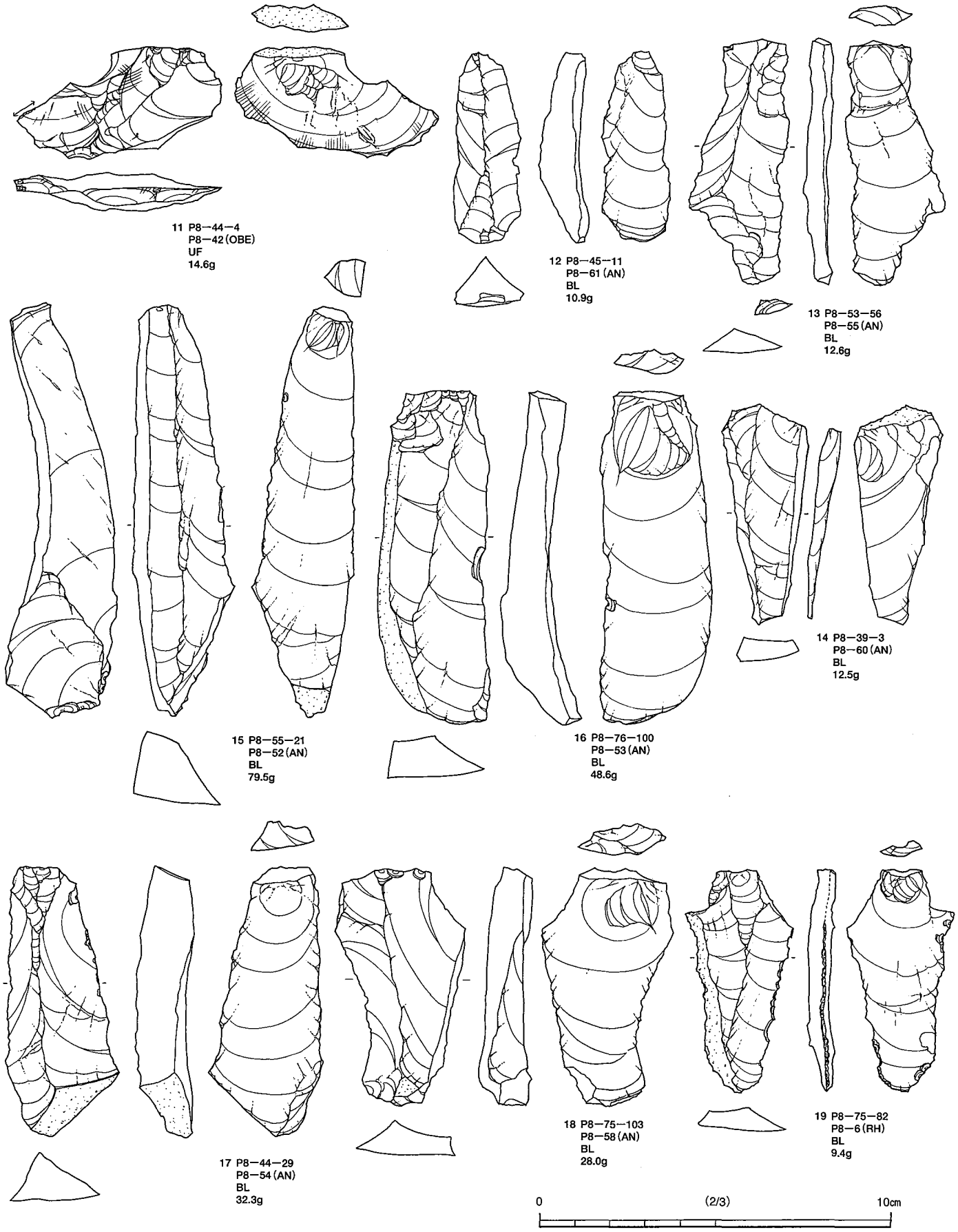
45・46は安山岩，47・49はホルンフェルス，48は頁岩による石核である。45～47は90度打面を転移しながら，小型で不定型な剥片を剥離している。48・49は求心的な剥離作業を行って，小型で不定型な剥片を剥離している。

4）接合資料とその関連資料（第57～60図）

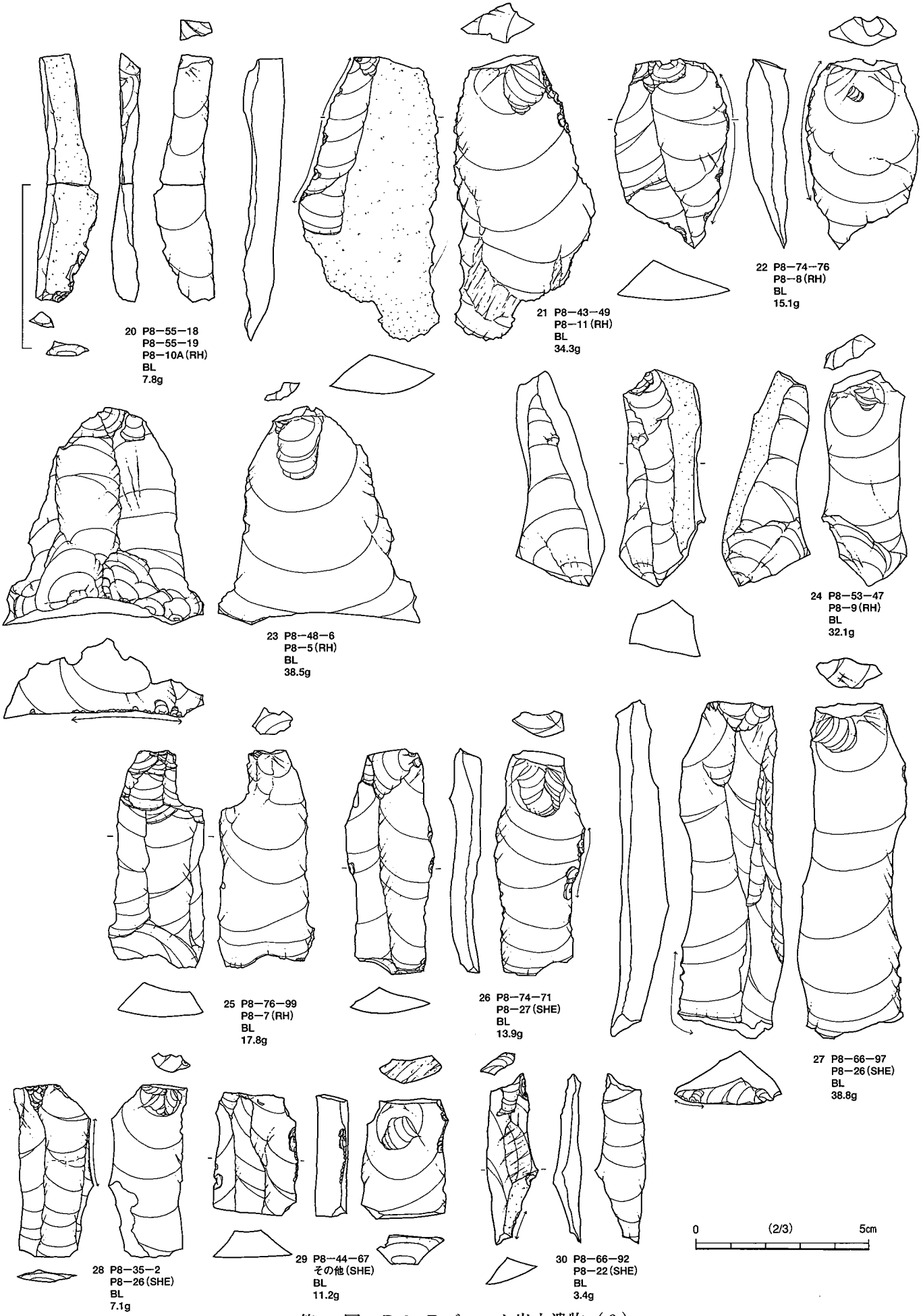
・**P8-49（第57図）**　灰オリーブ色（5Y6/2）などの安山岩である。加工痕ある剥片1点，石刃2点，剥片3点，石核1点の合計7点で構成される。50は剥片2点（51・52）の接合資料である。53～56は接合しなかっ



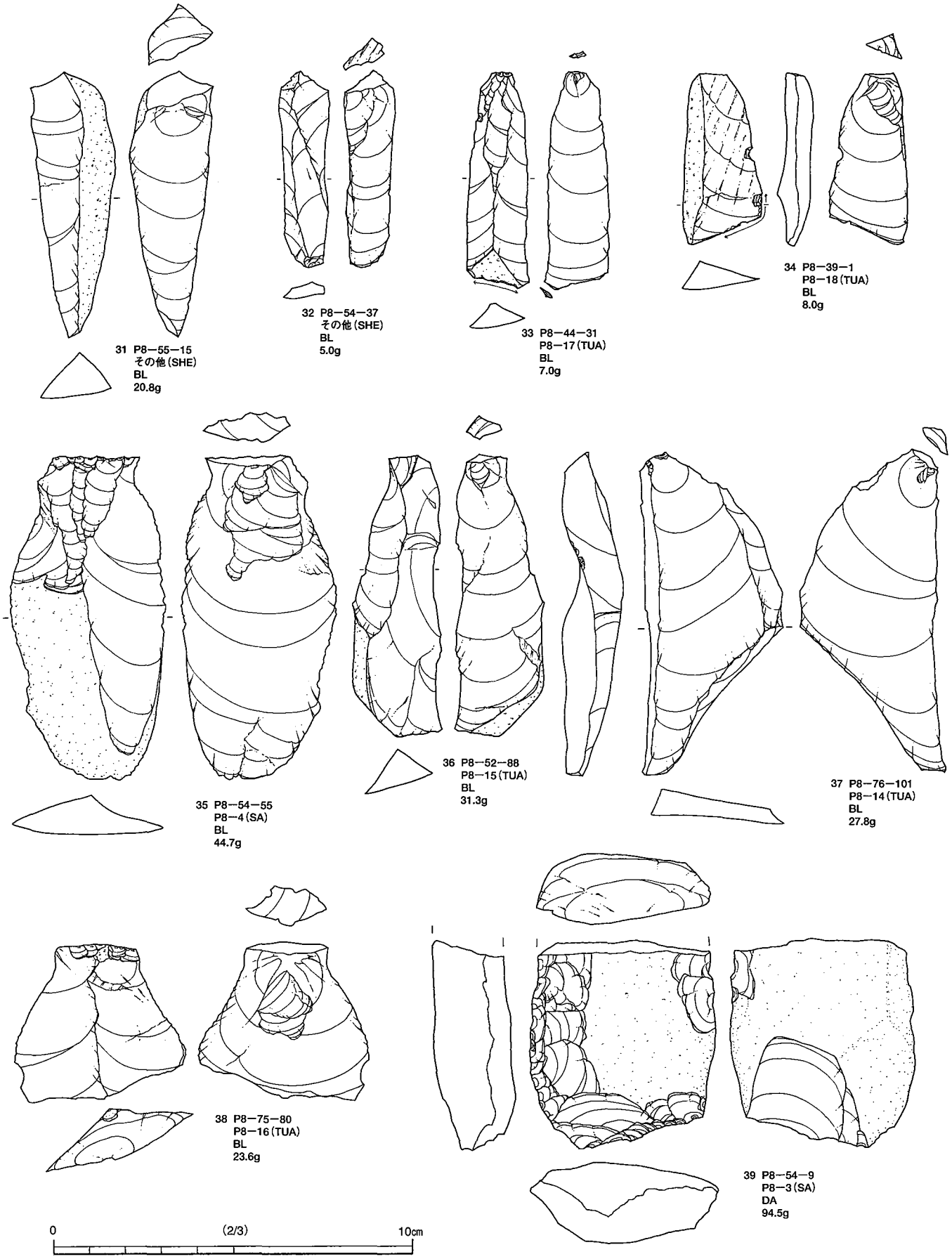
第52図　P 8 - Bブロック出土遺物（1）



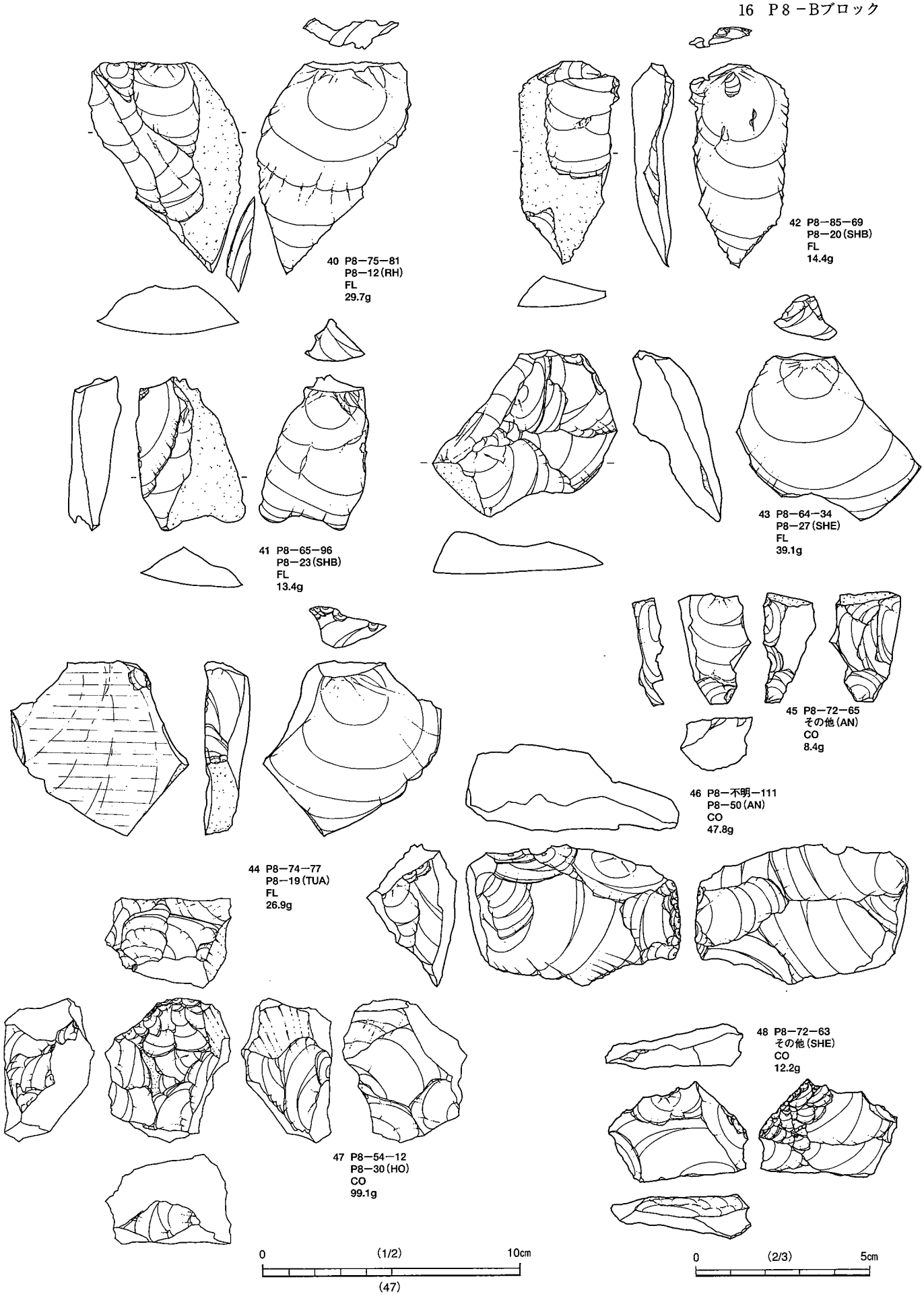
第53図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物（２）



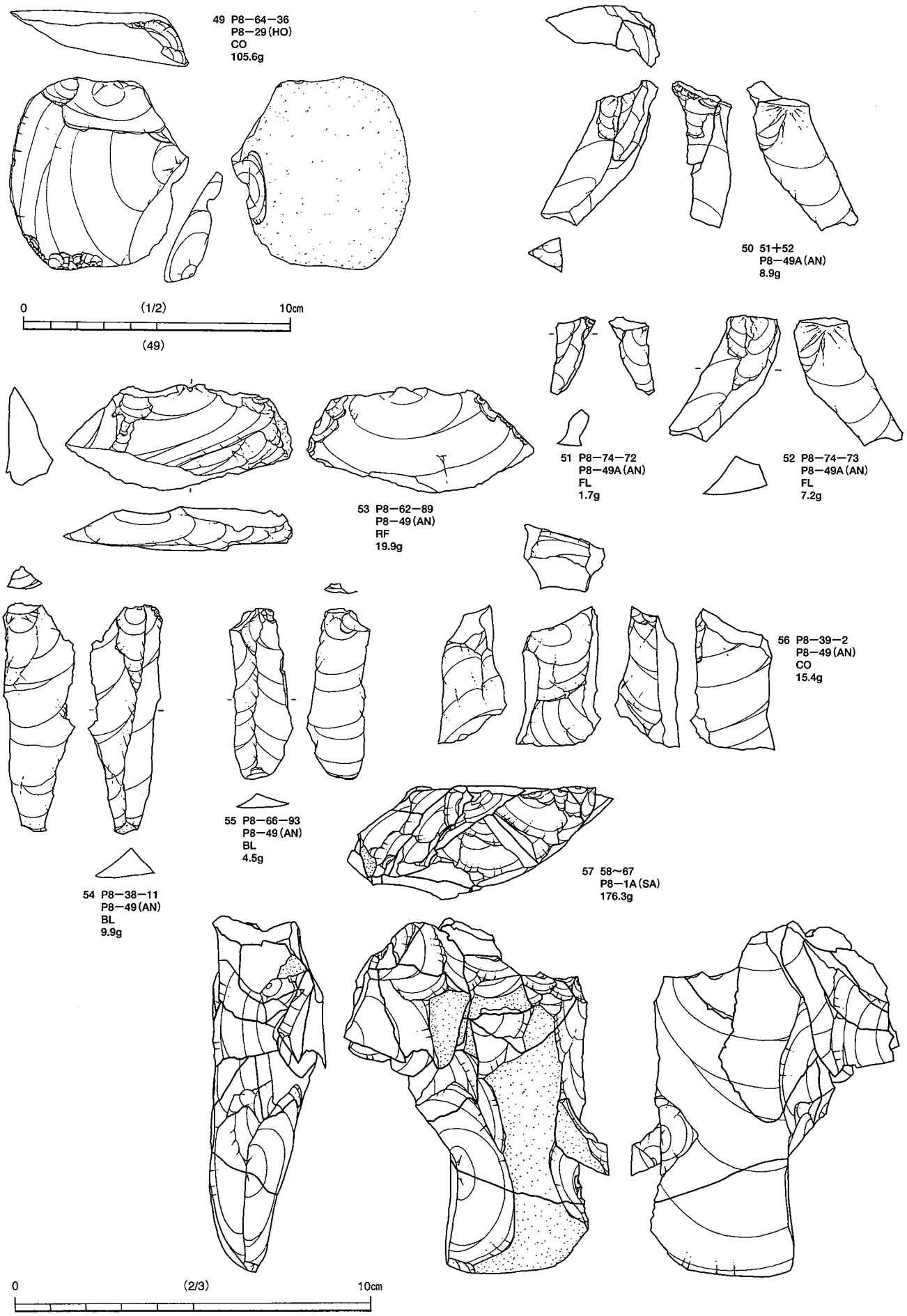
第54図　P 8 - Bブロック出土遺物（3）



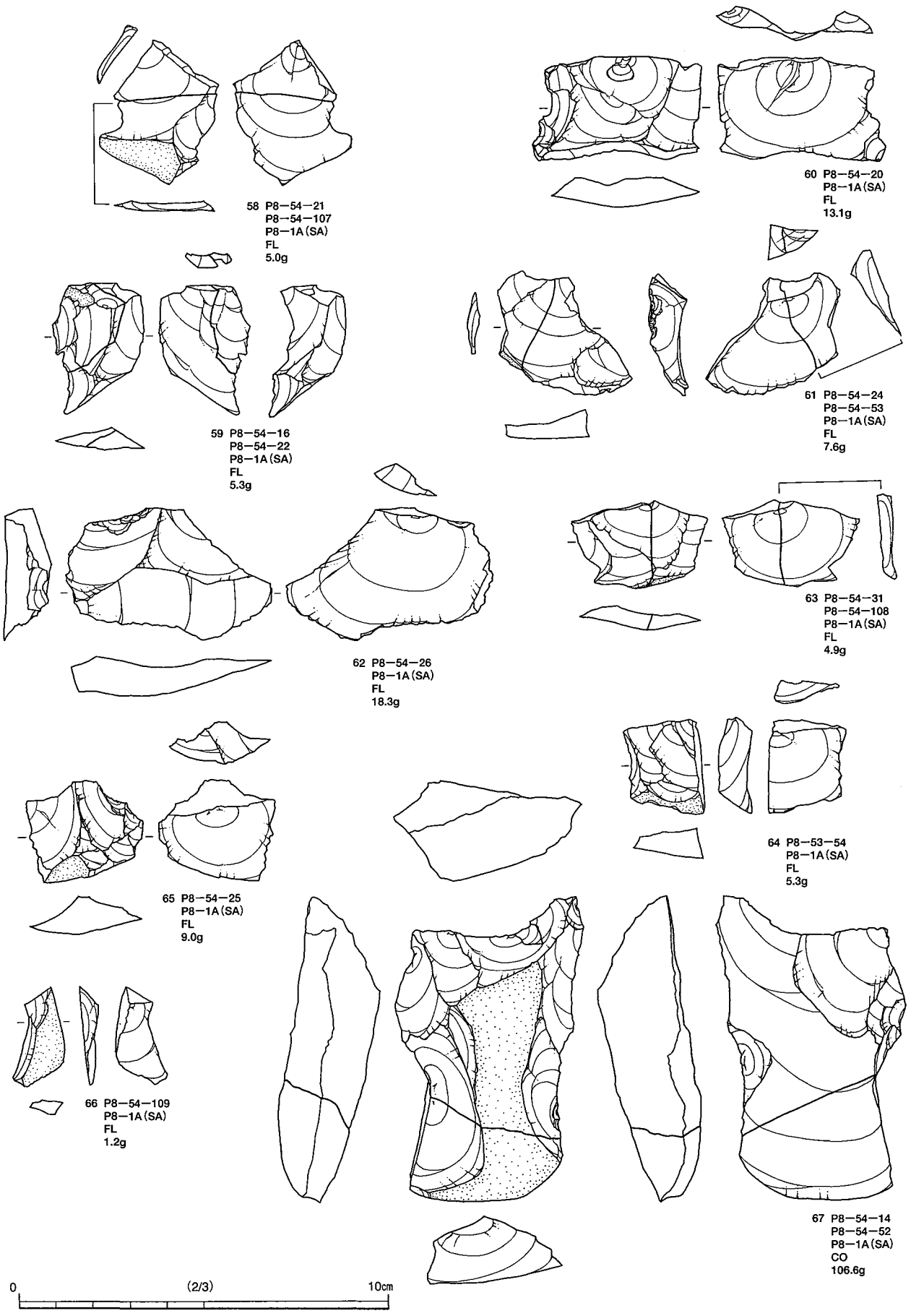
第55図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物（４）



第56図　P8-Bブロック出土遺物（5）



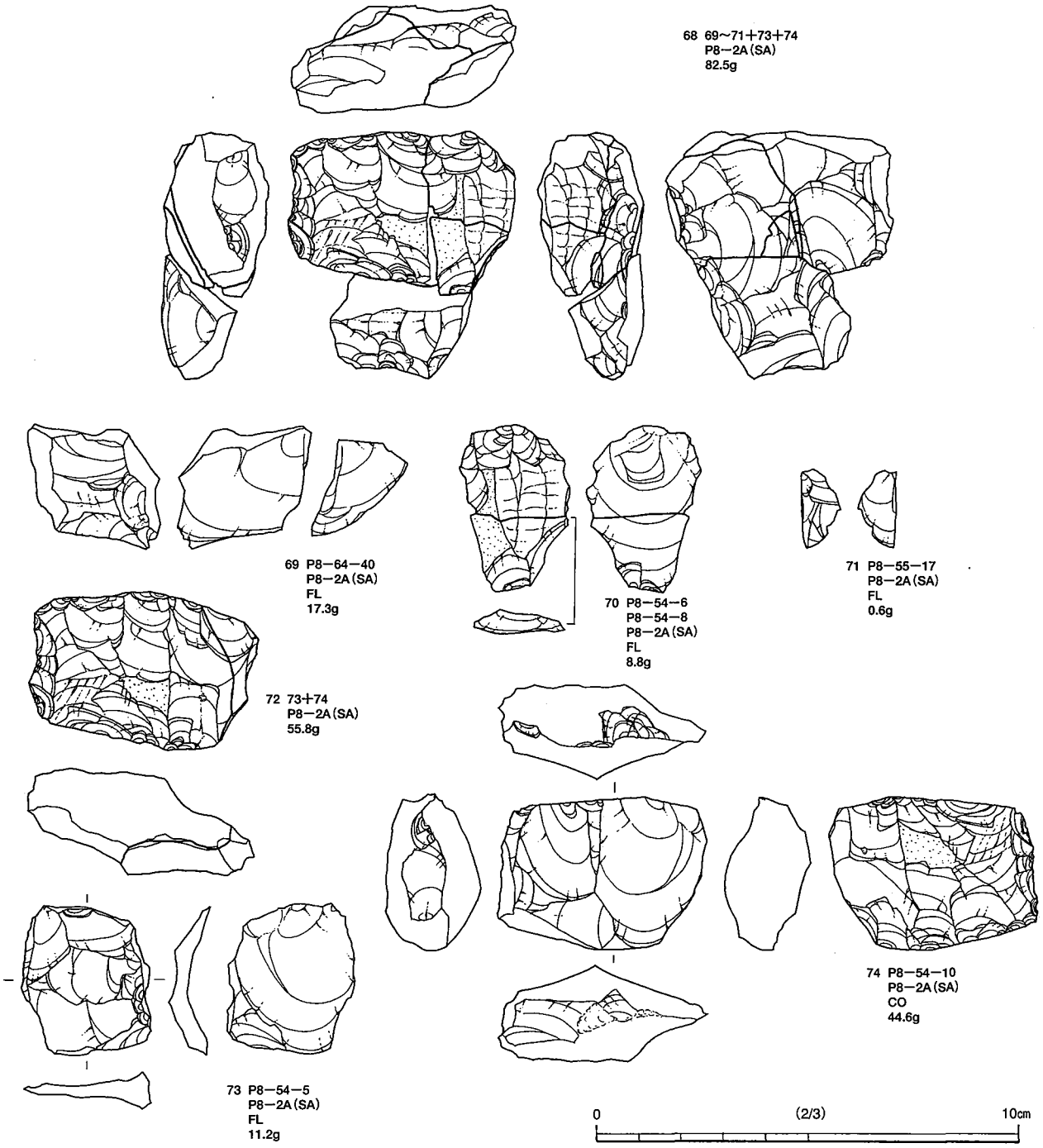
第57図　Ｐ８-Ｂブロック出土遺物（６）



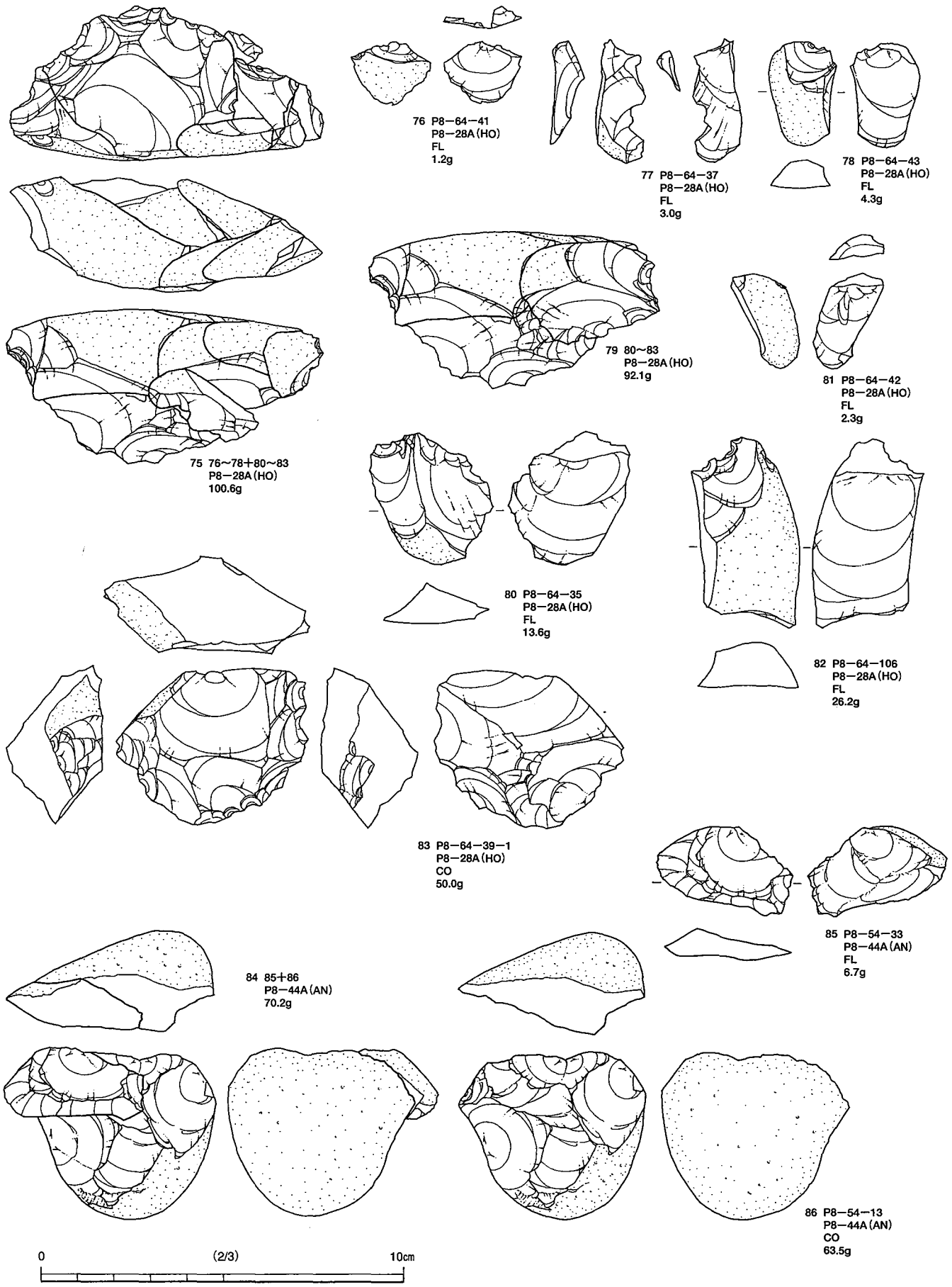
第58図　P 8 - Bブロック出土遺物（7）

た同一母岩の資料である。53は加工痕ある剥片で，横長剥片の裏面両側縁に調整加工を行っている。54・55は石刃である。56は90度の打面転移しながら，小型で不定型な剥片を剥離している。

・**P8-1（第57・58図）**　オリーブ灰色（5GY5/1）などの砂岩である。剥片22点（18個体），石核2点（1個体）の合計24点（19個体）で構成される。57は剥片13点（9個体；58～66），石核2点（1個体；67）の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。最終的には，求心的な剥離作業を行って，横長剥片を剥離している。



第59図　P8-Bブロック出土遺物（8）



第60図　P8-Bブロック出土遺物（9）

・**P8-2（第59図）**　灰色（7.5Y6/1）などの砂岩である。剥片6点（5個体），石核1点の合計7点（6個体）で構成される。68は剥片5点（4個体；69～71・73），石核1点（74）の接合資料である。打面を180度転移しながら，不定型な剥片を剥離している。

・**P8-28（第60図）**　灰色（7.5Y4/1）などのホルンフェルスである。剥片7点，石核1点の合計8点で構成される。75は剥片6点（76～78・80～82），石核1点（83）の接合資料である。

・**P8-44（第60図）**　暗灰黄色（2.5Y5/2）などの安山岩である。剥片1点，石核1点の合計2点で構成される。84は剥片1点（85），石核1点（86）の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら，求心的な剥離作業を行って，不定型な剥片を剥離している。

17 N10-Aブロック（第61～63・265図，第38・39表，カラー図版4・20，図版5）

1）ブロックの概要

N10-Aブロックは，調査範囲東側のN10-01・10～12グリッドに位置する。ブロックの立地は，東側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸7m，短軸3mの範囲に20点の石器が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅨc層にかけてで，70cmほどの高低差をもって包含されている（第61・62図）。

ブロックは，加工痕ある剥片1点，剥片15点，砕片3点，石核1点の合計20点で構成される。石器石材は，黒曜石A2点，黒曜石B3点，黒曜石E1点，安山岩2点，流紋岩1点，頁岩D7点，頁岩E2点，ホルンフェルス2点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは1母岩を識別した。内訳は，頁岩E1母岩（N10-1）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は10%（2/20点）である。

・**N10-1**：自然面は平滑で，自然面及び内部は浅黄色（2.5Y7/4）・灰白色（2.5Y8/2），節理は明黄褐色（10YR6/6）・暗褐色(7.5YR3/4)の頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（79.2g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（79.2g）である。

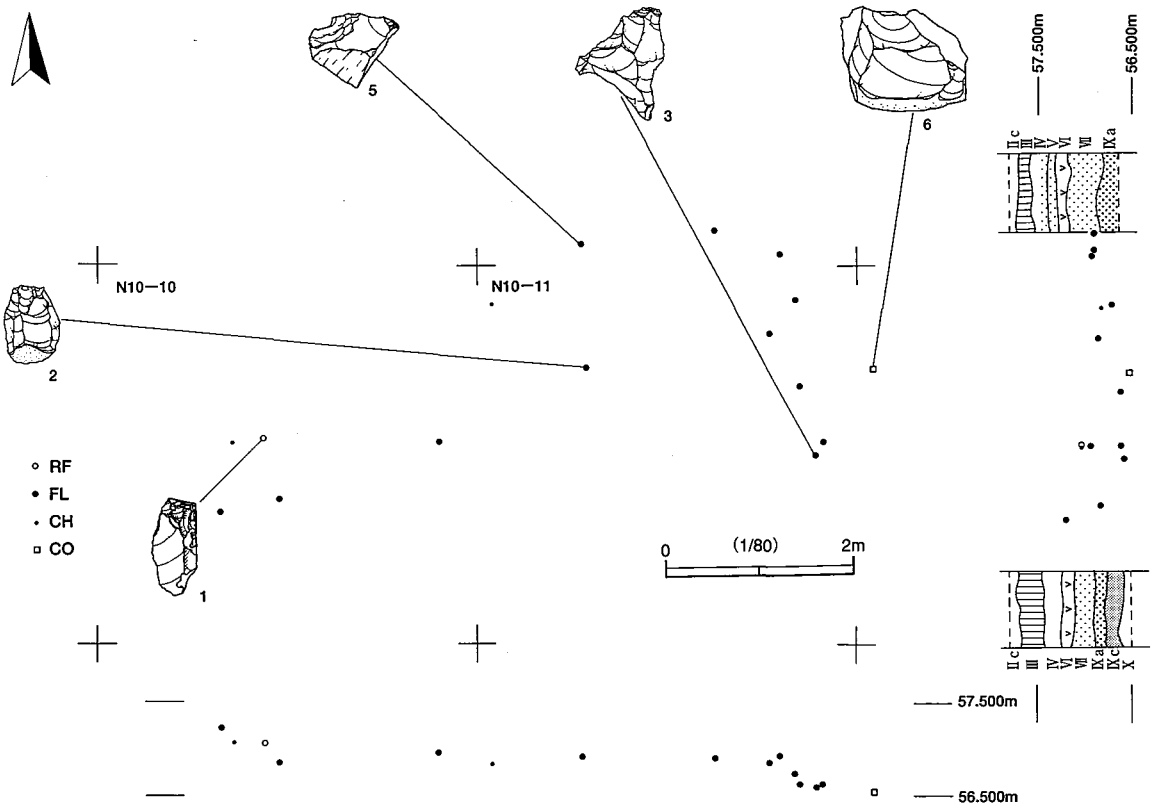
なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Aの剥片2点（2.4g），黒曜石Bの加工痕ある剥片1点，砕片2点の合計3点（3.2g），黒曜石Eの剥片1点（4.0g），安山岩の剥片2点（2.2g），流紋岩の砕片1点（0.8g），頁岩Dの剥片7点（45.8g），ホルンフェルスの剥片2点（7.0g）がある。

3）出土遺物（第63図）

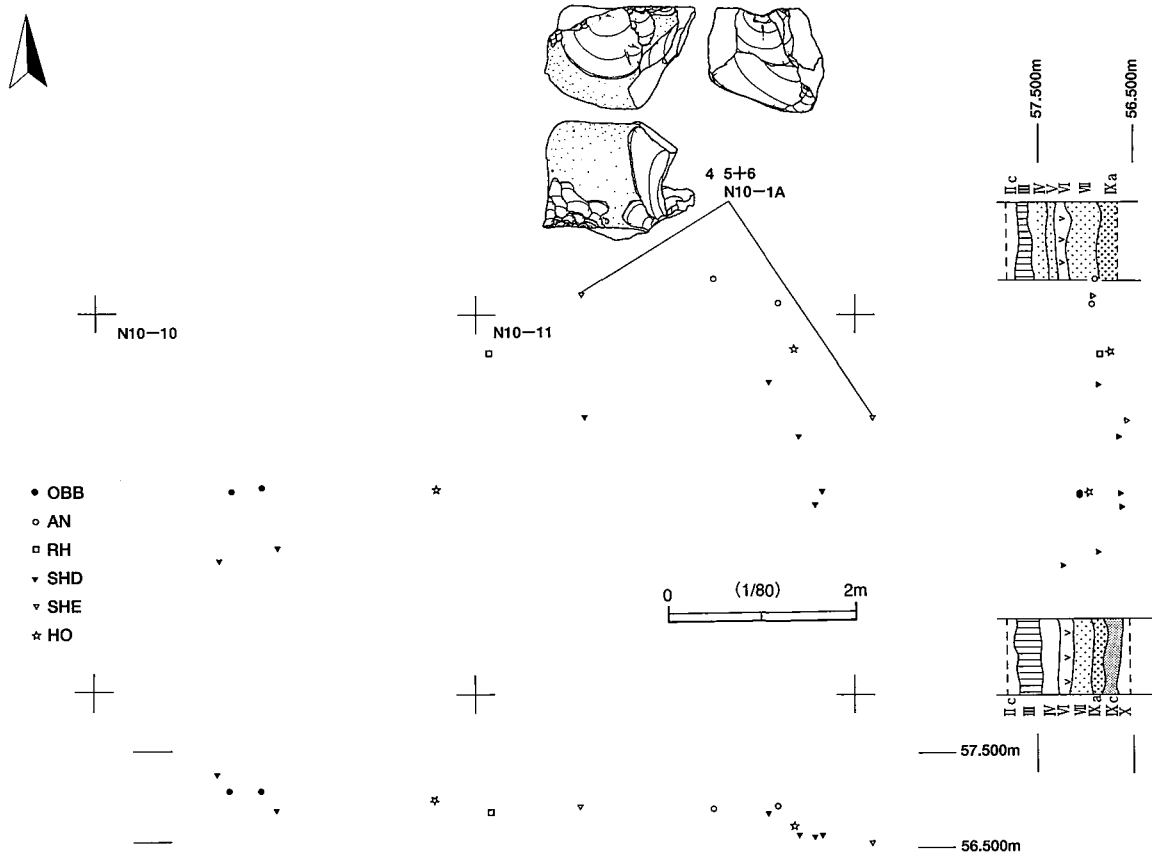
1は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。石刃状の縦長剥片の折断面を打面として，両面側に調整加工を行っている。2・3は硬質緻密な頁岩による不定型な剥片である。

第38表　N10-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
N10-1(SHE)																		1		1					2
その他(OBA)																		2							2
その他(OBB)										1									2						3
その他(OBE)																		1							1
その他(AN)																		2							2
その他(RH)																			1						1
その他(SHD)																		7							7
その他(HO)																		2							2
合　計										1								15	3	1					20



第61図　N 10- Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



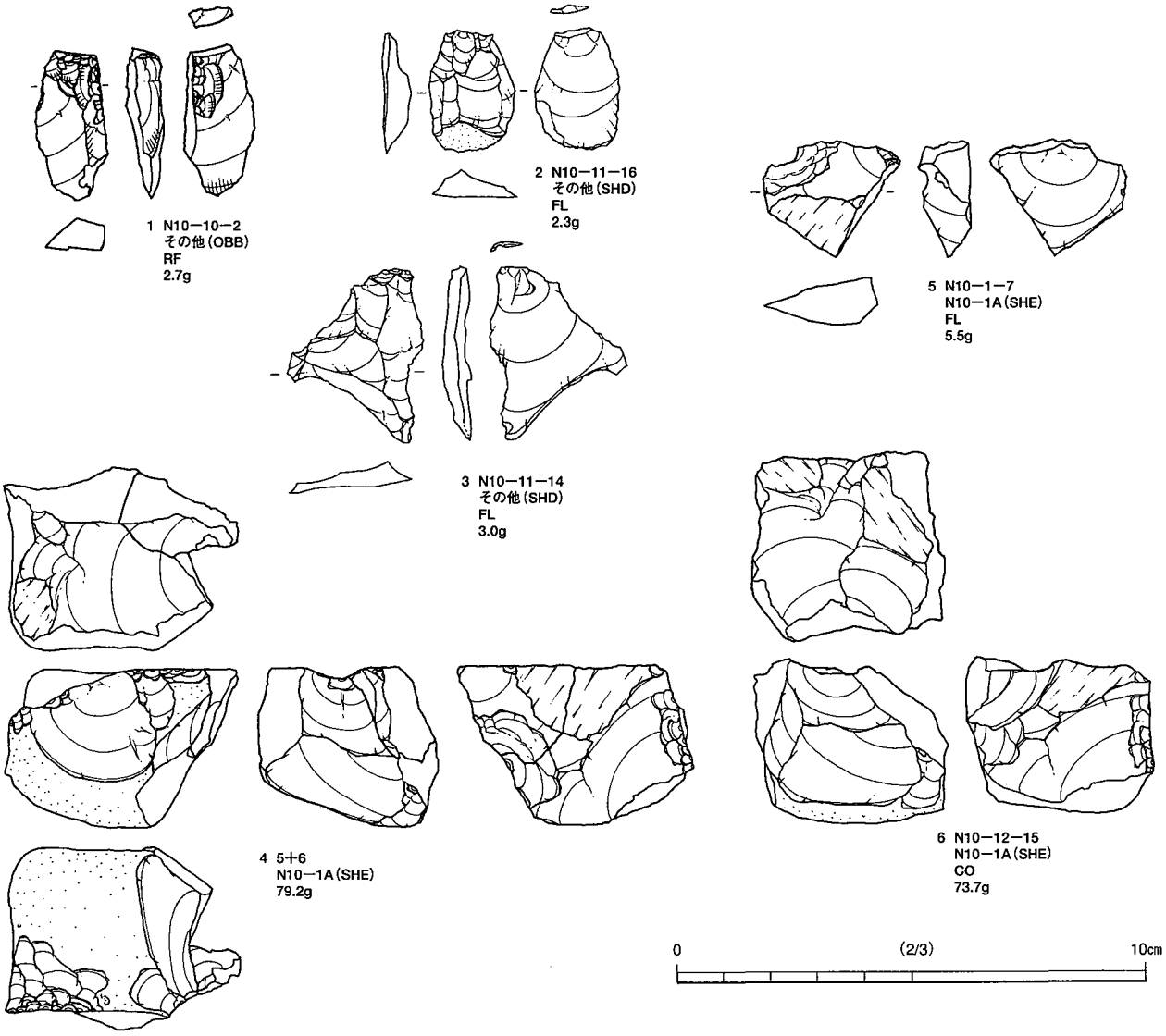
第62図　N 10- Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

第39表　N10-Aブロック石材別石器組成

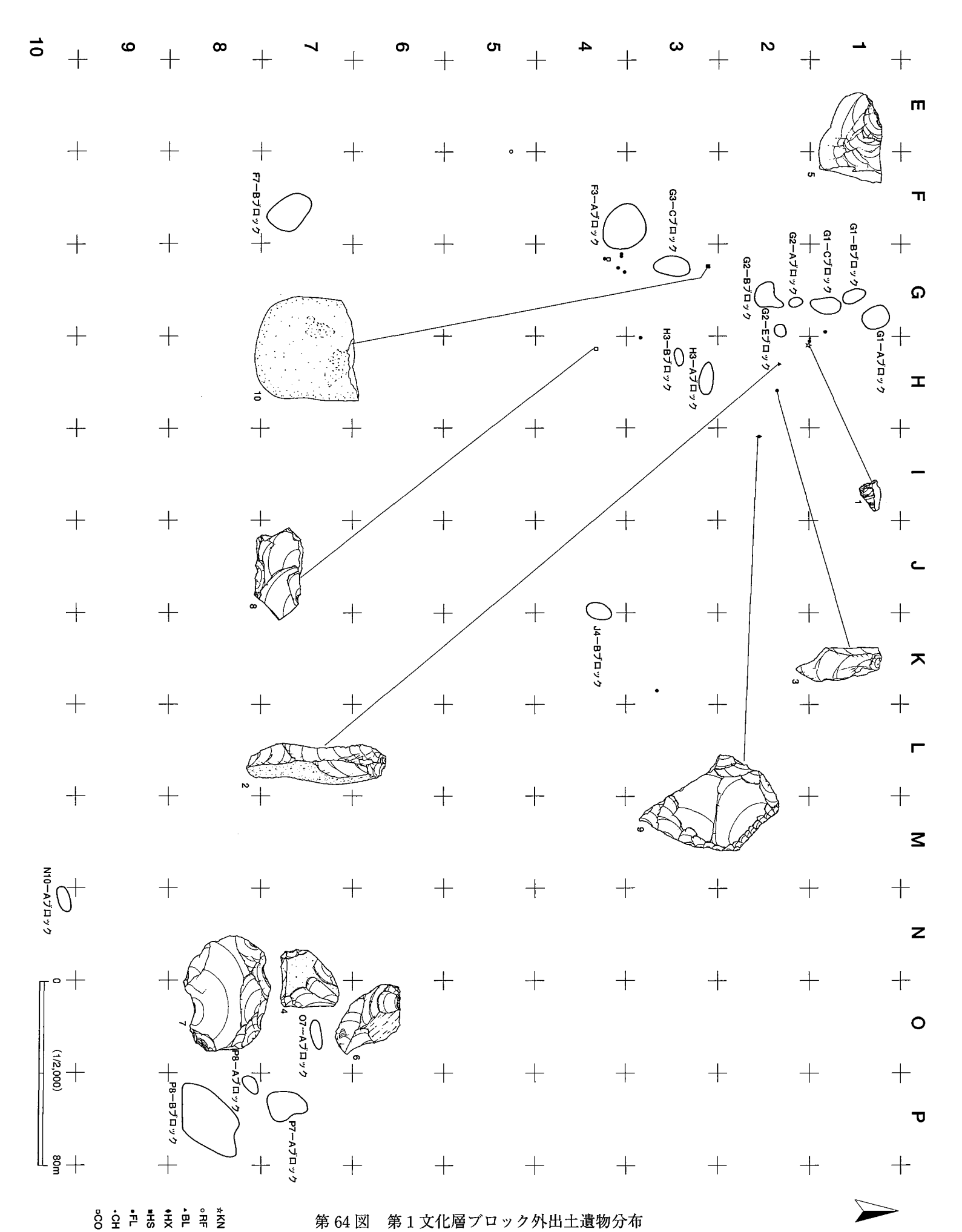
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
黒曜石A(OBA)																		2							2
黒曜石B(OBB)										1									2						3
黒曜石E(OBE)																		1							1
安山岩(AN)																		2							2
流紋岩(RH)																			1						1
頁岩D(SHD)																		7							7
頁岩E(SHE)																		1		1					2
ホルンフェルス(HO)																		2							2
合　計										1								15	3	1					20

４）接合資料とその関連資料（第63図）

・**N10-1（第63図）**　浅黄色（2.5Y7/4）などの頁岩である。剥片１点，石核１点の合計２点で構成される。４は剥片１点（５），石核１点（６）の接合資料である。90度打面転移しながら，不定型な剥片を剥離している。



第63図　N 10- Aブロック出土遺物

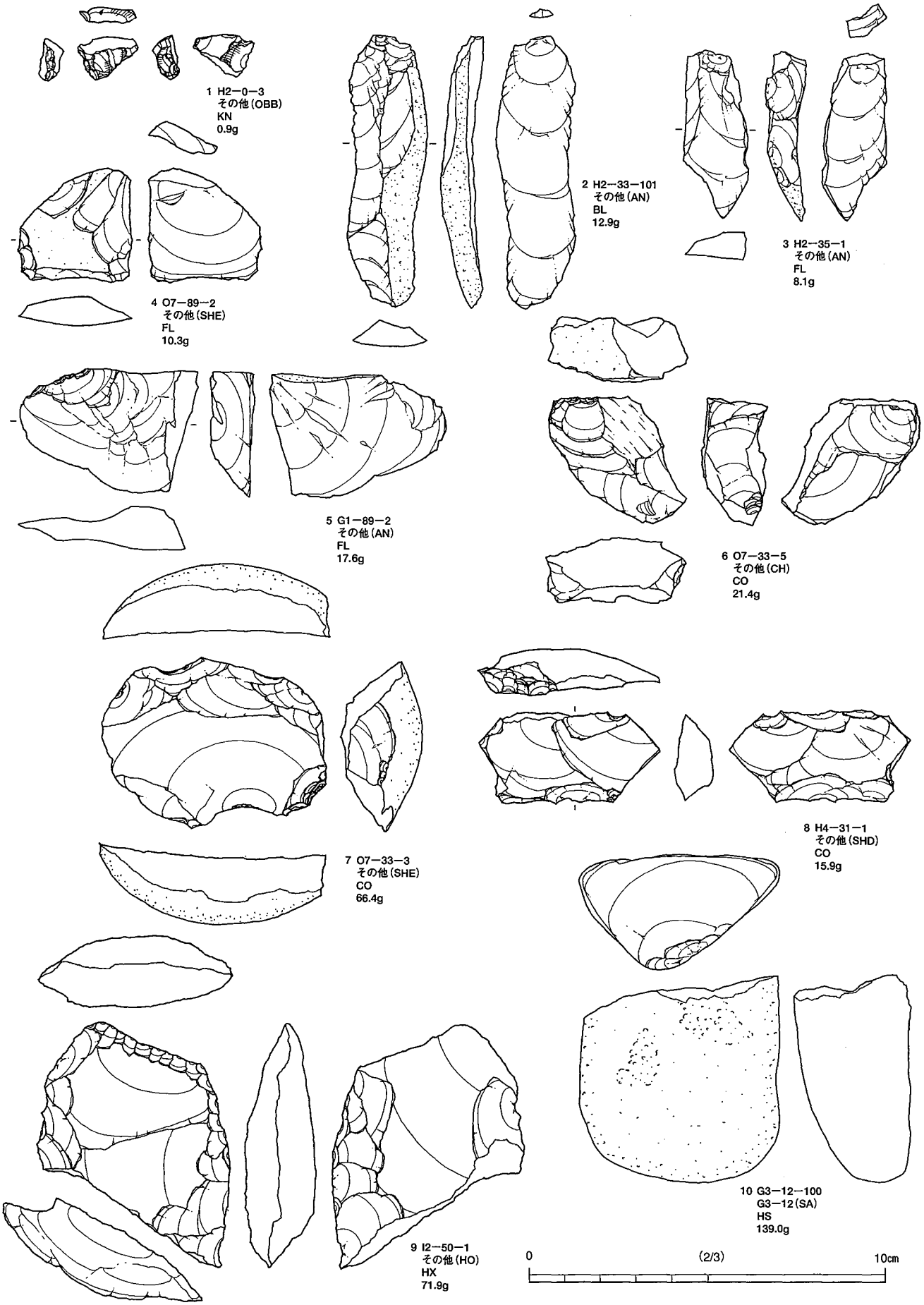


第 64 図　第 1 文化層ブロック外出土遺物分布

18　ブロック外（第64・65図，カラー図版4）

ここでは第1文化層のブロックを形成していないグリッド単独（2点以下）出土の遺物について記述する。

1は薄墨を流したような半透明な黒曜石によるナイフ形石器である。信州和田峠周辺産と考えられる。H2-00グリッドのⅨ層より上部から出土した。2は自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色(7.5Y5/1)，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩による石刃である。H2-33グリッドのⅨa層から出土した。3は自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の安山岩による石刃状の縦長剥片である。H2-35グリッドのⅦ層から出土した。4は自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y4/1）の頁岩としたが，ホルンフェルスの可能性がある剥片である。O7-89グリッドのⅦ～Ⅸ層で出土した。5は自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰オリーブ色(5Y5/2)の安山岩による剥片である。G1-89グリッドのⅨ層下部より上部から出土した。6は自然面は平滑で，自然面・内部・節理は暗オリーブ灰色(5GY3/1)の地に黒灰色の筋が入るチャートによる両設打面の石核である。O7-33グリッドのⅨ層下部から出土した。7は自然面は比較的平滑で灰色（5Y6/1），内部は灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y6/2）の頁岩による石核である。自然面を打面として，求心的な剥離作業を行って，不定型な剥片を剥離している。O7-33グリッドのⅨ層下部から出土した。8は灰オリーブ色（5Y5/2）の硬質緻密な頁岩による石核である。剥片を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。H4-31グリッドのⅨ層下部から出土した。9は暗緑灰色（10GY4/1）・灰オリーブ色（7.5Y6/2）のホルンフェルスによる局部磨製石斧としたが，石材の関係から，顕著な研磨痕は見られない。また，I2-50グリッドの茶褐色に変質したローム層（いわゆる水付きローム）から出土しており，上層の遺物の可能性もある。10は自然面は平滑で緑灰色（10GY6/1），内部は緑灰色（10GY5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の砂岩としたが，緑色凝灰岩の可能性がある敲石である。中央部に2か所浅い敲打痕が見られる。G3-12グリッドのⅦ～Ⅸ層から出土した。



第65図　第1文化層ブロック外出土遺物

第3節　第2文化層

第2文化層は，立川ローム層第1黒色帯上半部とその周辺（Ⅵ～Ⅶ層）を中心に包含されている石器群である。H1-A，G2-C・D，G3-A，H3-C，G4-A，H4-A，K5-A，K6-A・B，K7-A，F7-A，I8-A，I9-A～C，E9-A，F9-A～D，F10-A・B，G10-A，H10-A～D，G11-A，ブロックの29か所が該当する。武蔵野台地のⅥ層の石器群に概ね相当すると考えられる。

1　H1-Aブロック（第66～68・265図，第40・41表，カラー図版4）

1）ブロックの概要

H1-Aブロックは，調査範囲西側のH1-33・34グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の西側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は35mである。

ブロックの規模と形状は，長軸5m，短軸1mの範囲に5点の石器が分布する。出土層位は，Ⅶ層で，40cmほどの高低差をもって包含されている（第66・67図）。

ブロックは，ナイフ形石器4点，掻器1点の合計5点で構成される。石器石材は，頁岩C 2点，チャート1点，瑪瑙・玉髄2点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは1母岩を識別した。内訳は、チャート1母岩（H1-1）母岩識別した石器の石器総数に対する割合は20%（1/5点）である。

・H1-1：にぶい黄褐色（10YR5/3)・オリーブ灰色（2.5GY6/1)・灰黄色（2.5Y7/2)・灰色（10Y4/1）のチャートである。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点（6.9g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，頁岩Cのナイフ形石器2点（10.9g)，瑪瑙・玉髄のナイフ形石器1点，掻器1点の合計2点（10.5g）がある。

3）出土遺物（第68図）

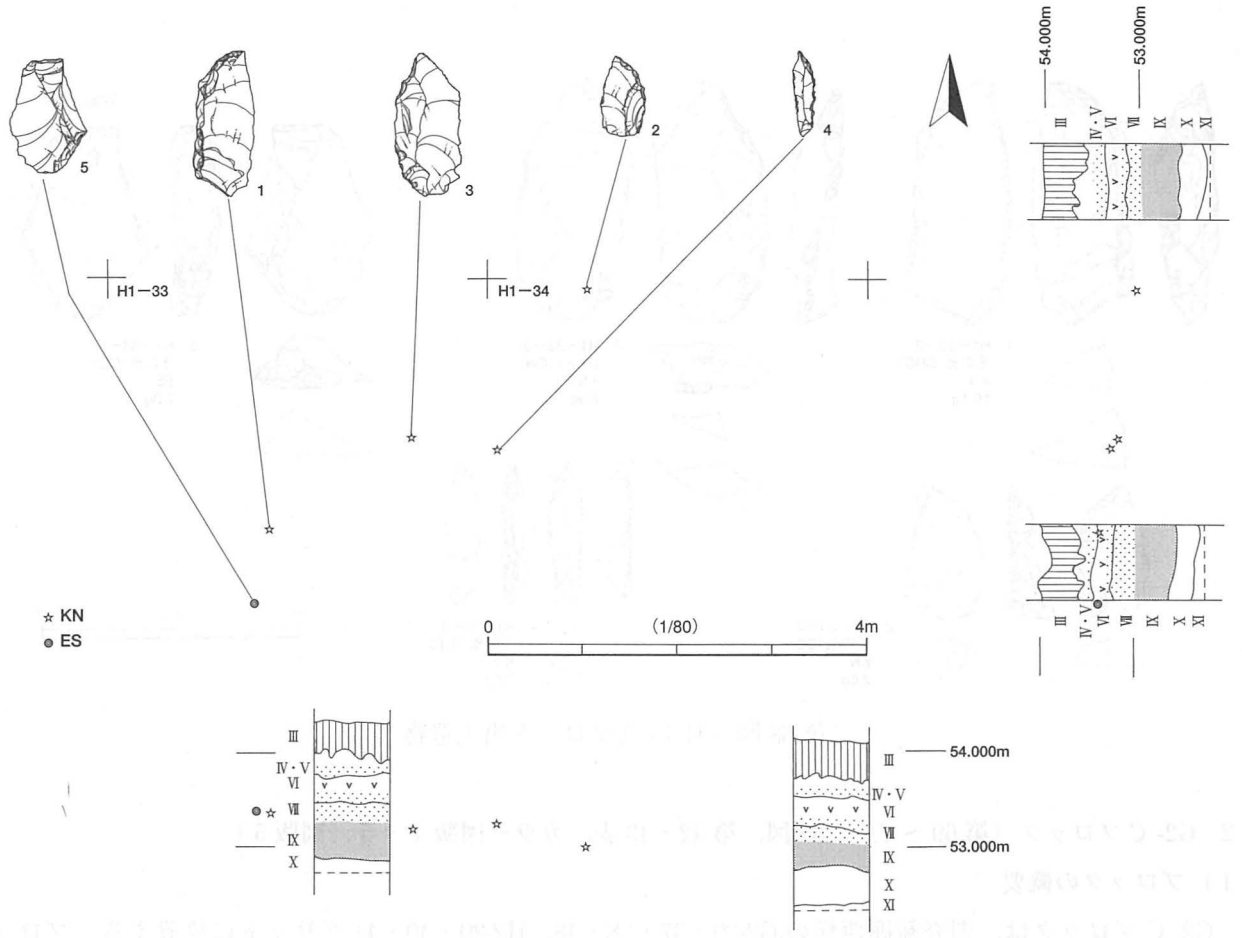
1・4は嶺岡産頁岩，2は瑪瑙・玉髄，3はチャートによる一側縁加工のナイフ形石器である。1は横長剥片を用い，素材の末端側に両面から90度近い急角度の調整加工を行っている。2・3は縦長剥片を用い，素材の打面部を基部とし，2は右側縁に90度近い急角度の調整加工，3は左側縁の一部に調整加工を行っている。また，2は裏面右側縁，3は表面右側縁の上部と裏面左側縁の上部に刃こぼれが見られる。4は右側縁に90度近い急角度の調整加工，左側縁に微細な剥離痕が見られる。また，調整剥離面の稜線は多少磨耗しており，全体的に同稜線を中心に光沢が見られる。ナイフ形石器としたが，上部を刃部とした石錐の可能性もある。5は瑪瑙・玉髄による掻器である。縦長剥片を素材として，右側縁下部から末端の一部にかけて90度近い急角度の調整加工を行っており，裏面両側縁の一部に刃こぼれが見られる。

第40表　H1-Aブロック母岩別石器組成

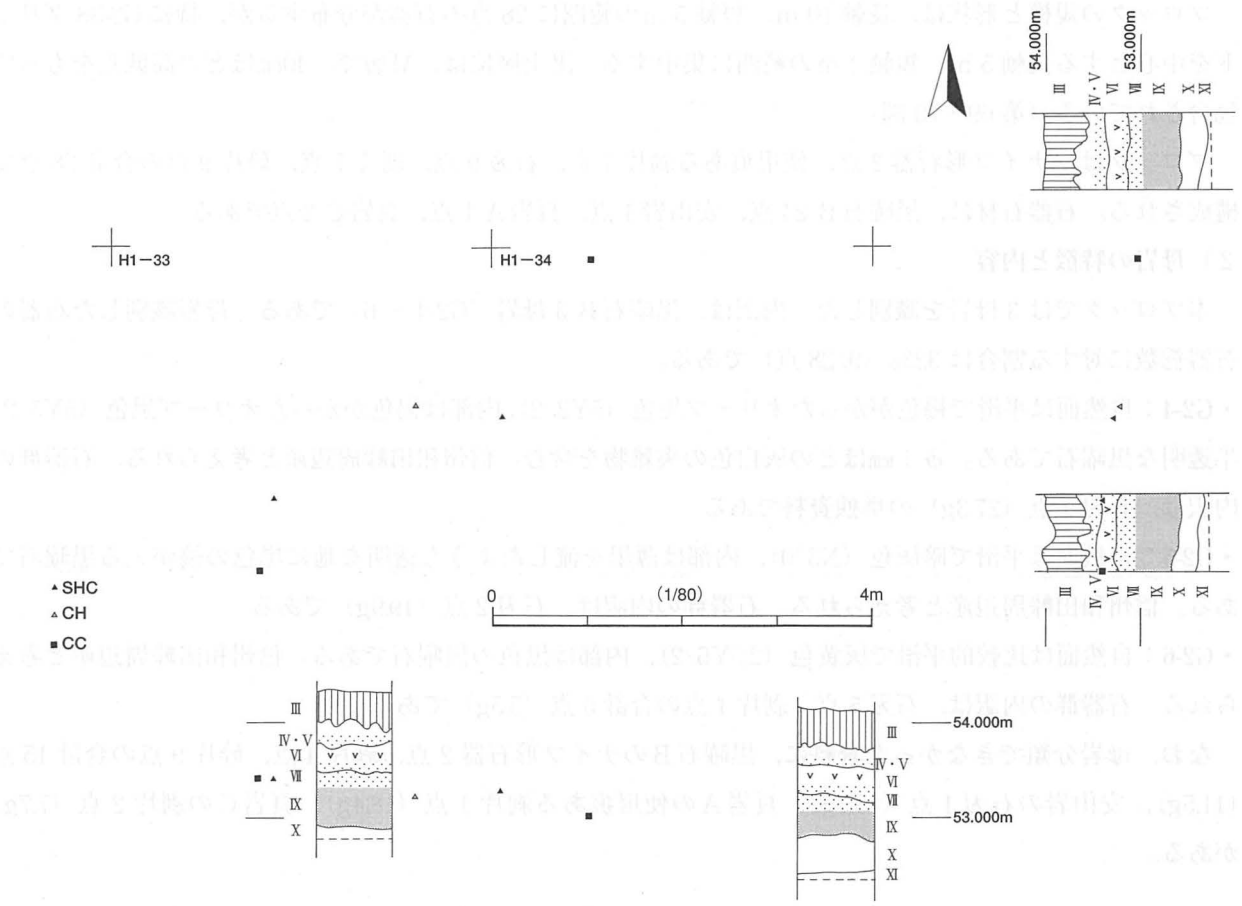
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
H1-1(CH)	1																								1
その他(SHC)	2																								2
その他(CC)	1				1																				2
合　計	4				1																				5

第41表　H1-Aブロック石材別石器組成

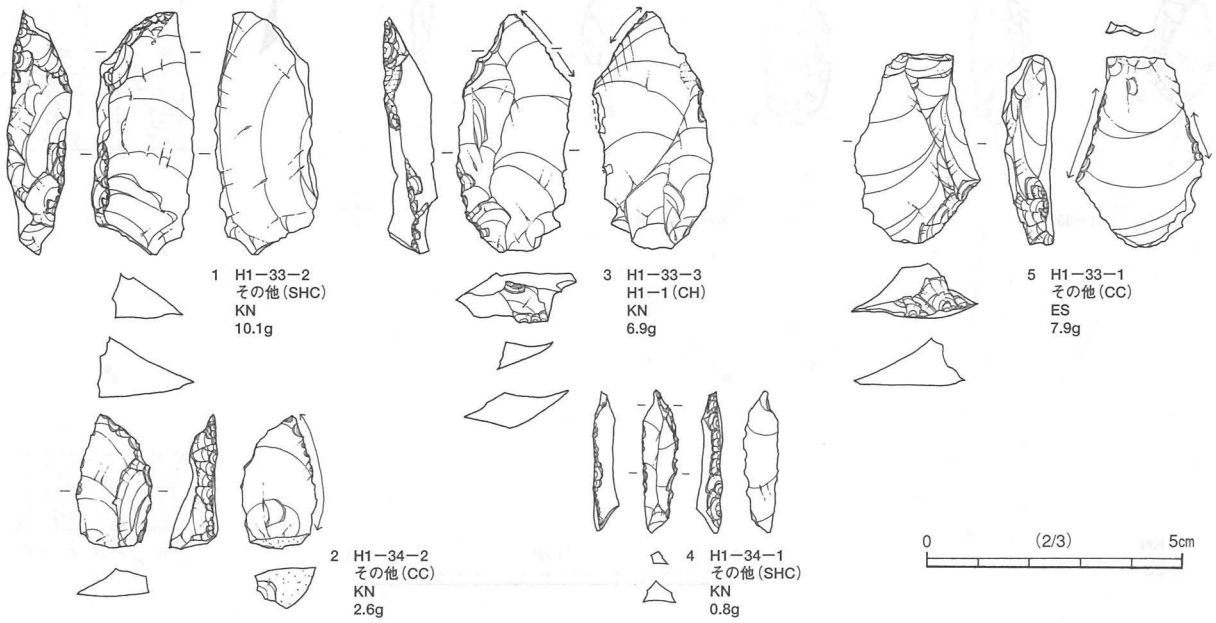
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
頁岩C(SHC)	2																								2
チャート(CH)	1																								1
瑪瑙・玉髄(CC)	1				1																				2
合　計	4				1																				5



第66図　H1-Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第67図　H1-Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－



第68図　Ｈ１-Ａブロック出土遺物

２　G2-Ｃブロック（第69～71・265図，第42・43表，カラー図版４・５，図版５）

１）ブロックの概要

G2-Ｃブロックは，調査範囲西側のG2-29・37・38・48，H2-20・40・41グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の西側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸10ｍ，短軸５ｍの範囲に28点の石器が分布するが，特にG2-38グリッドを中心とする長軸５ｍ，短軸４ｍの範囲に集中する。出土層位は，Ⅵ層で，40cmほどの高低差をもって包含されている（第69・70図）。

ブロックは，ナイフ形石器２点，使用痕ある剥片１点，石刃９点，剥片７点，砕片９点の合計28点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ24点，安山岩１点，頁岩Ａ１点，頁岩Ｃ２点である。

２）母岩の特徴と内容

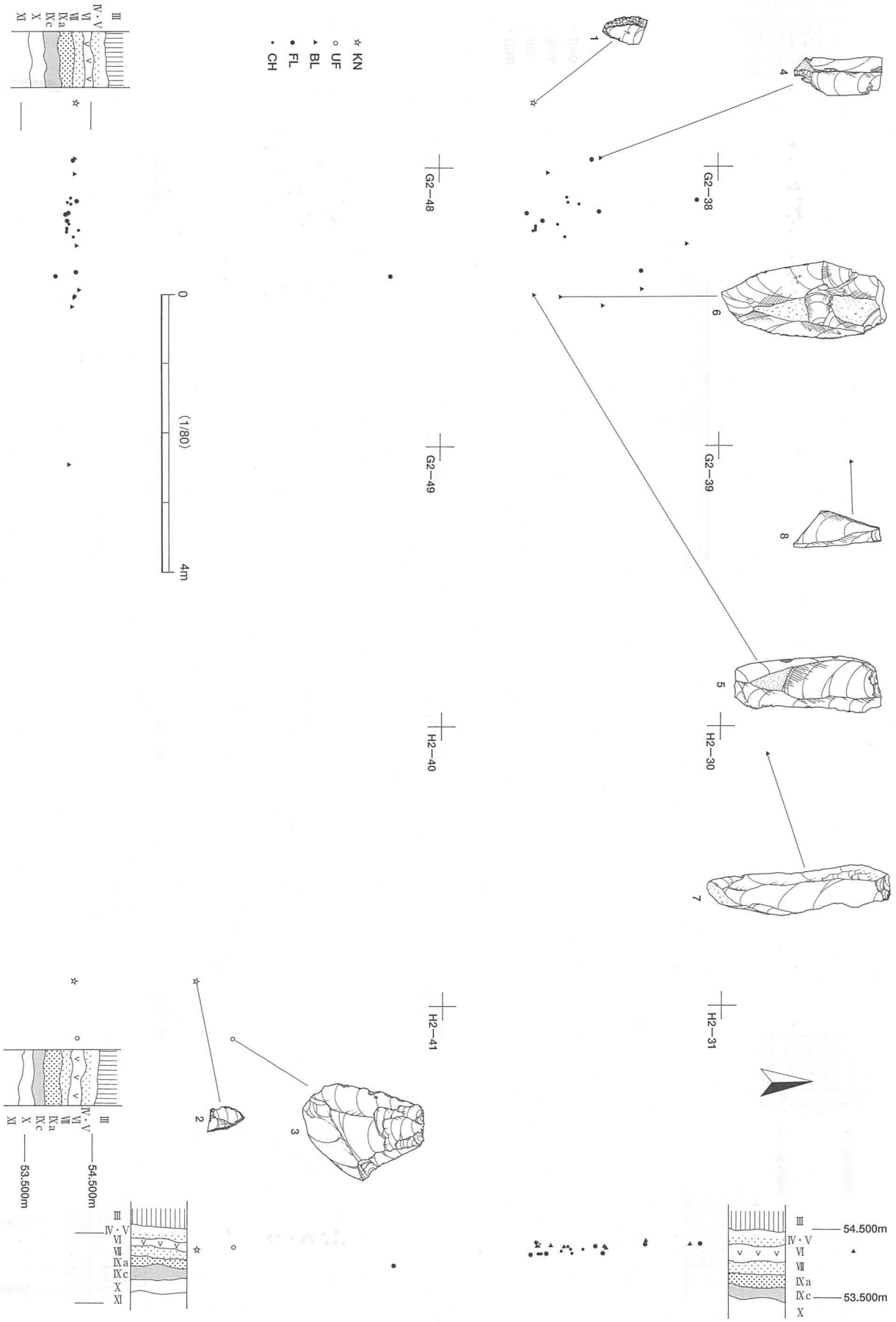
本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ３母岩（G2-4～6）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は32%（9/28点）である。

・**G2-4**：自然面は平滑で褐色がかったオリーブ黒色（5Y2/2），内部は褐色がかったオリーブ黒色（5Y5/2）半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点（27.3g）の単独資料である。

・**G2-5**：自然面は平滑で暗灰色（N3/0），内部は薄墨を流したような透明な地に黒色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃２点（19.9g）である。

・**G2-6**：自然面は比較的平滑で灰黄色（2.5Y6/2），内部は黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃５点，剥片１点の合計６点（5.5g）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｂのナイフ形石器２点，剥片４点，砕片９点の合計15点（11.5g），安山岩の石刃１点（13.3g），頁岩Ａの使用痕ある剥片１点（18.4g），頁岩Ｃの剥片２点（7.7g）がある。

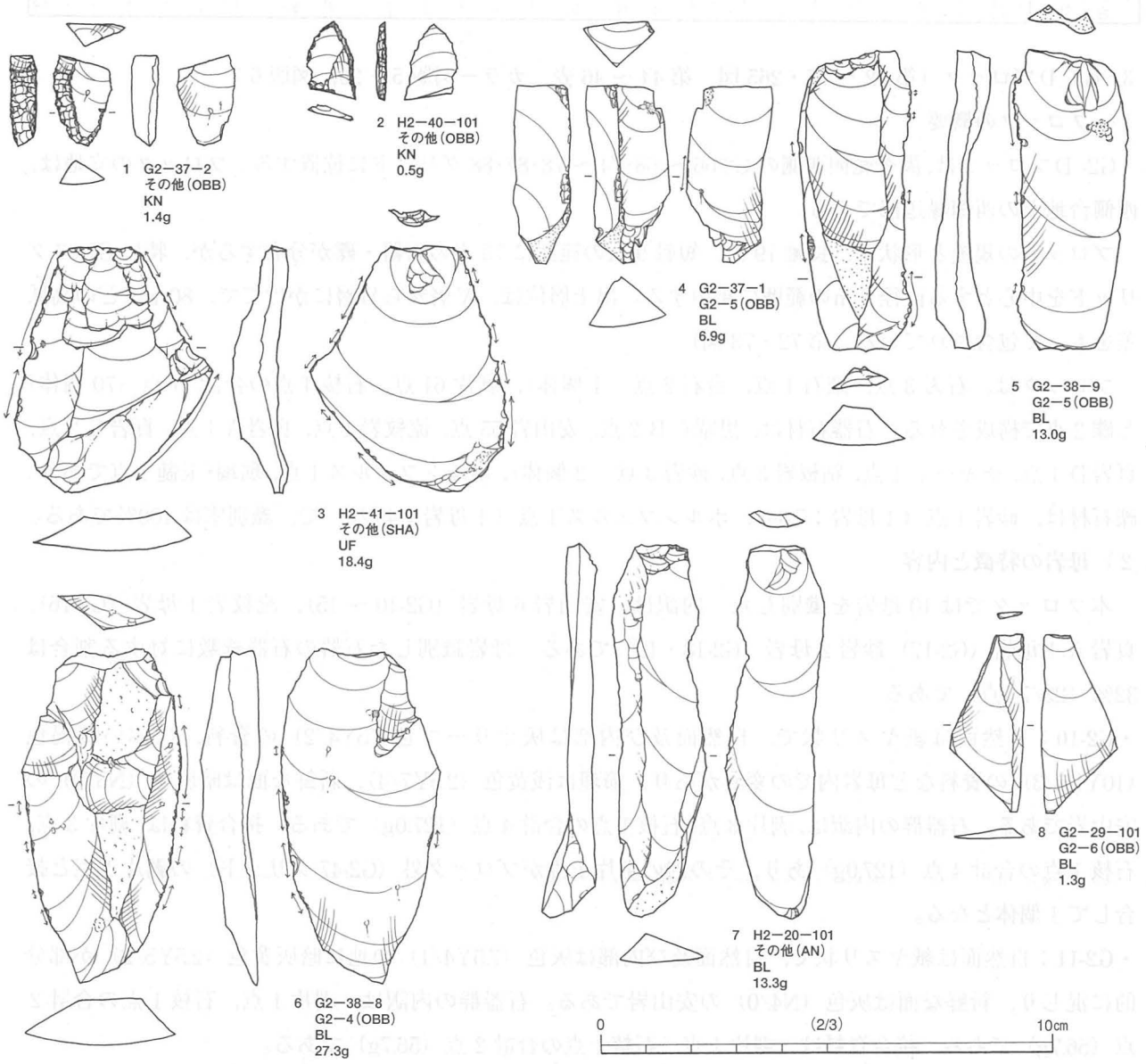


第69図　G2-Cブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－

第70図　G2-Cブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

3）出土遺物（第71図）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石によるナイフ形石器である。素材の打面部を先端部として，左側縁に両面から急角度の調整加工，右側縁の基部側に細かい調整加工を行っている。上部が欠損するため，形態は不明である。2は信州和田峠周辺産の黒曜石によるナイフ形石器である。素材の打面部を基部として，右側縁に細かい調整加工を行っている。下部が欠損するため，形態は不明である。3は東北産頁岩による使用痕ある剥片である。不定型な剥片を素材とし，打面と末端の一部を除く両面のほぼ全周に刃こぼれが見られる。4～6・8は信州和田峠周辺産の黒曜石，7は安山岩による石刃である。4は裏面左側縁の一部，5は表面両側縁の一部と裏面左側縁の一部，6は両面の両側縁の一部に刃こぼれが見られる。



第71図　G2-Cブロック出土遺物

第42表　Ｇ２-Ｃブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
G2-4(OBB)												1													1
G2-5(OBB)												2													2
G2-6(OBB)												5						1							6
その他(OBB)	2																	4	9						15
その他(AN)												1													1
その他(SHA)											1														1
その他(SHC)																		2							2
合　計	2										1	9						7	9						28

第43表　Ｇ２-Ｃブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)	2											8						5	9						24
安山岩(AN)												1													1
頁岩A(SHA)											1														1
頁岩C(SHC)																		2							2
合　計	2										1	9						7	9						28

3　G2- Ｄブロック（第72～75・265図，第44～46表，カラー図版５・20，図版６）

１）ブロックの概要

G2- Ｄブロックは，調査範囲西側のG2-66～68･74～78･87･88グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の西側縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸19ｍ，短軸９ｍの範囲に73点の石器・礫が分布するが，特にG2-67グリッドを中心とする直径５ｍの範囲に集中する。出土層位は，Ⅴ層からⅥ層にかけてで，80cmほどの高低差をもって包含されている（第72・73図）。

ブロックは，石刃３点，敲石１点，台石２点（１個体），剥片61点，石核４点の合計71点（70個体）と礫２点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ２点，安山岩55点，流紋岩１点，頁岩Ａ１点，頁岩Ｃ２点，頁岩Ｄ１点，チャート１点，粘板岩３点，砂岩３点（２個体），ホルンフェルス１点，瑪瑙･玉髄１点である。礫石材は，砂岩１点（１母岩；7.8g），ホルンフェルス１点（１母岩；49.2g）で，識別率は100%である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは10母岩を識別した。内訳は，安山岩６母岩（G2-10～15），流紋岩１母岩（G2-16），頁岩Ａ１母岩（G2-17）砂岩２母岩（G2-18・19）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は32%（23/71点）である。

・**G2-10**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の資料，にぶい黄褐色（10YR5/3）の資料など母岩内での変異があり，節理は浅黄色（2.5Y7/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点，石核１点の合計４点（127.0g）である。接合資料は，剥片３点，石核１点の合計４点（127.0g）あり，その内の剥片１点がブロック外（G2-47グリッド）の剥片１点と接合して１個体となる。

・**G2-11**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1）の地に暗灰黄色（2.5Y5/2）が部分的に混じり，新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（56.7g）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（56.7g）である。

・**G2-12**：自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片４点（19.4g）である。接合資料は，剥片３点（19.2g）である。

・**G2-13**：自然面は浅い爪形の裂痕が密でにぶい黄色（2.5Y6/4）・灰オリーブ色（5Y5/2），内部はにぶい黄色（2.5Y6/4），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（50.0g）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（46.6g）である。

・**G2-14**：灰オリーブ色（5Y4/2）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃１点（41.8g）の単独資料である。

・**G2-15**：自然面は平滑で灰白色（5Y7/1）・にぶい黄橙色（10YR7/2），内部は灰色（5Y7/1）の地に灰白色（2.5Y8/1）の斑が入る安山岩である。軟質の安山岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片３点，石核１点の合計４点（12.8g）である。

・**G2-16**：灰白色（2.5Y8/1）の流紋岩である。石英の結晶が見られる。石器群の内訳は，剥片１点（2.5g）の単独資料である。

・**G2-17**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰黄褐色（10YR4/2），節理は暗灰黄色（2.5Y5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点（5.8g）の単独資料である。

・**G2-18**：自然面は平滑で灰色（7.5Y5/1）の地に灰黄褐色（10YR4/2）が部分的に混じり，橙色（7.5YR6/6）の筋が入り，内部は灰色（7.5Y5/1），節理は明黄褐色（10YR6/6）の砂岩である。石器群の内訳は，台石２点（１個体；359.2g）である。接合資料は，台石２点（１個体；359.2g）である。

・**G2-19**：自然面は平滑で淡黄色（2.5Y8/3）の地に，にぶい黄橙色（10YR7/4）が部分的に混じる砂岩である。石器群の内訳は，敲石１点（181.1g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｂの剥片２点（1.7g），安山岩の剥片37点（85.0g），頁岩Ｃの剥片２点（9.6g），頁岩Ｄの剥片１点（6.2g），チャートの剥片１点（6.0g），粘板岩の剥片３点（13.3g），ホルンフェルスの剥片１点（1.0g），瑪瑙・玉髄の石刃１点（1.0g）がある。

３）出土遺物（第74図）

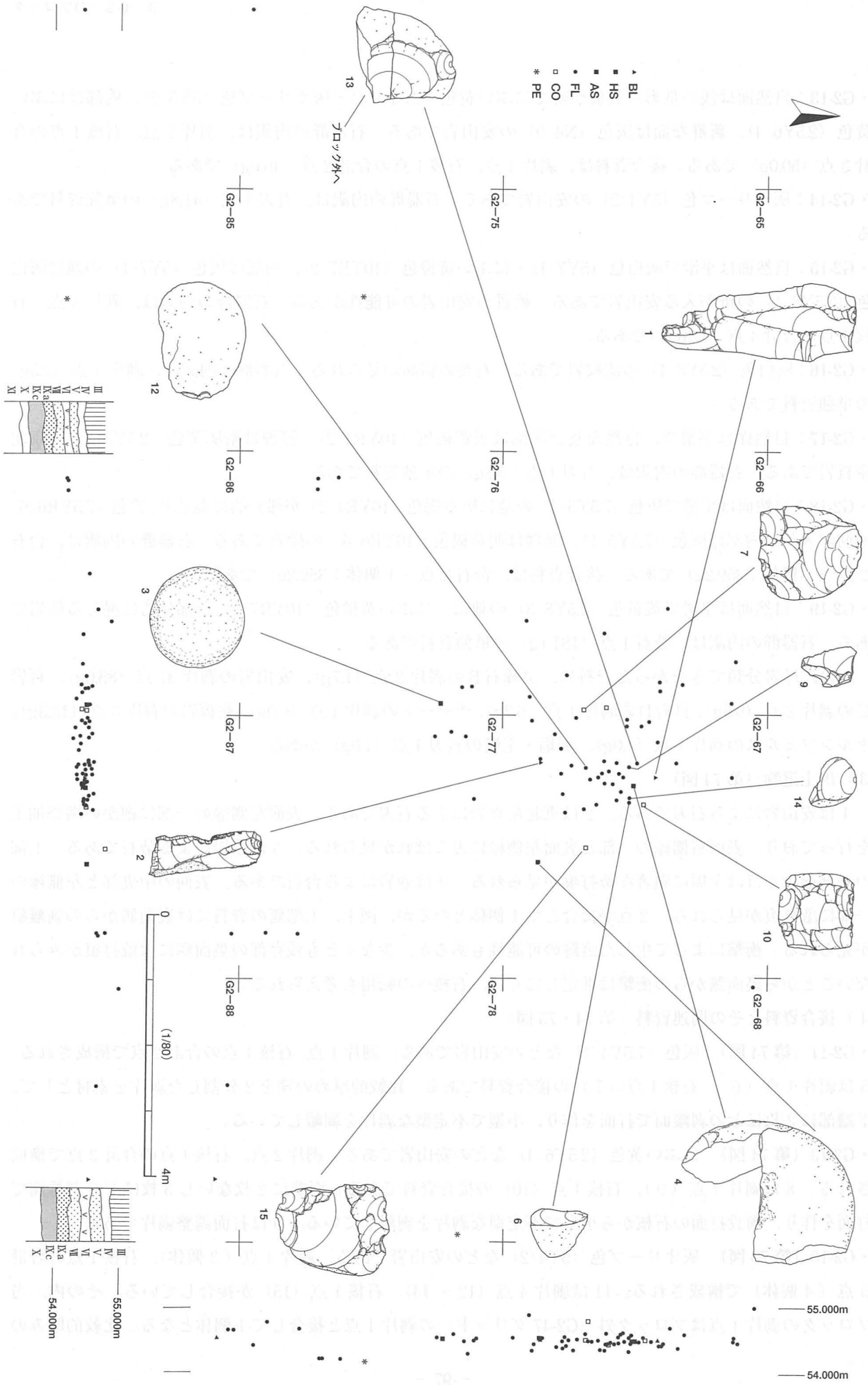
１は安山岩による石刃である。２は東北産頁岩による石刃である。表面左側縁の一部に細かい調整加工を行っており，表面右側縁の一部と裏面左側縁に刃こぼれが見られる。３は砂岩による敲石である。上部の一部を除くほぼ全周に顕著な敲打痕が見られる。４は砂岩による台石である。表面の中央部と左側縁の一部に敲打痕が見られる。２点が接合して１個体となるが，図上，上部側の資料には裏面側からの剥離痕が見られる。衝撃によって生じた痕跡の可能性もあるが，少なくとも残存部の裏面側には敲打痕がみられないことから裏面側からの衝撃は推定しにくく，石核への転用も考えられる。

４）接合資料とその関連資料（第74・75図）

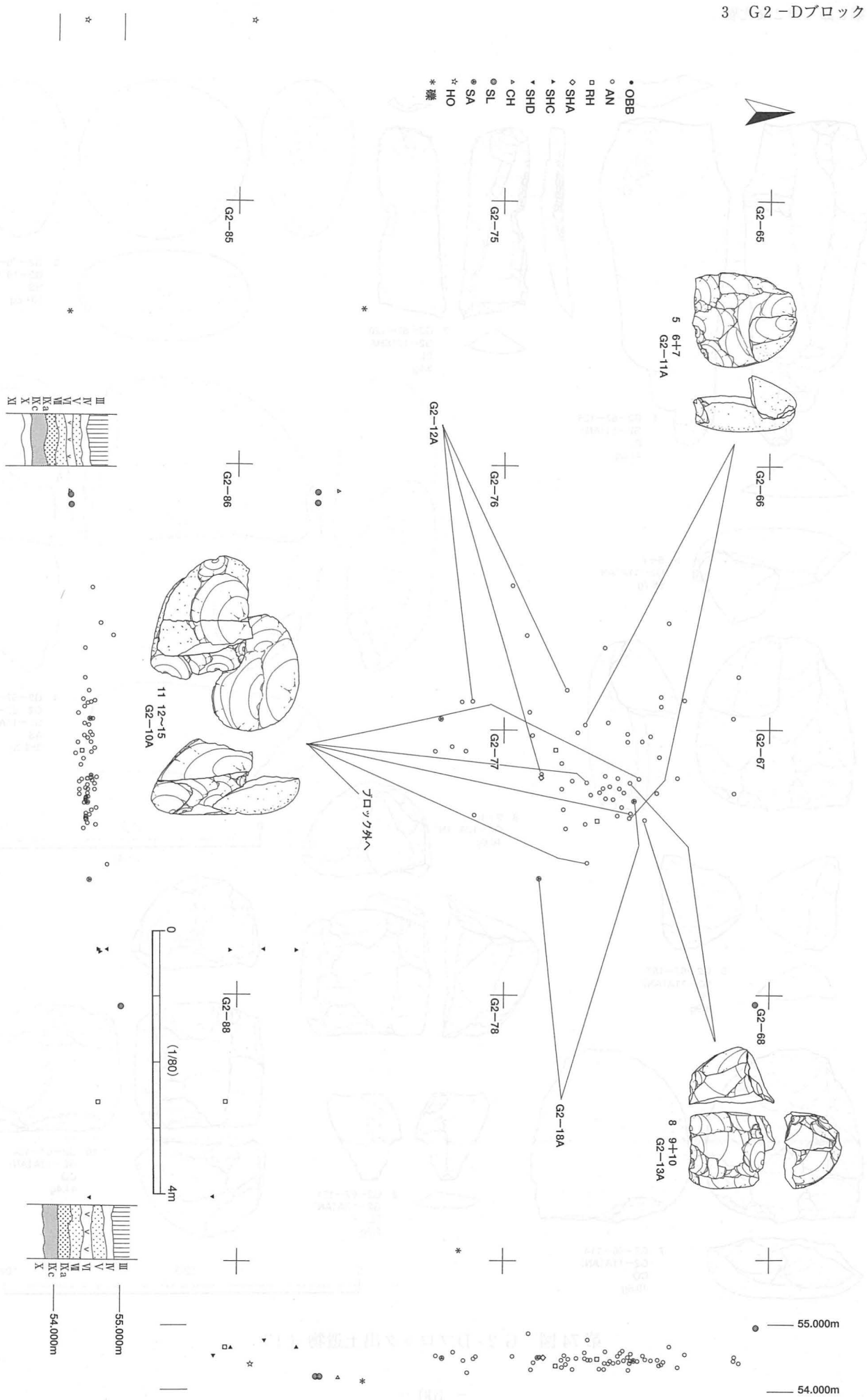
・**G2-11（第74図）**　灰色（7.5Y4/1）などの安山岩である。剥片１点，石核１点の合計２点で構成される。５は剥片１点（６），石核１点（７）の接合資料である。比較的厚めの礫を２分割した剥片を素材として，下端部に２枚ほどの剥離面で打面を作り，小型で不定型な剥片を剥離している。

・**G2-13（第74図）**　にぶい黄色（2.5Y6/4）などの安山岩である。剥片２点，石核１点の合計３点で構成される。８は剥片１点（９），石核１点（10）の接合資料である。両端に２枚ないし３枚ほどの剥離面で打面を作り，両設打面の石核から小型で不定型な剥片を剥離している。９は打面調整剥片である。

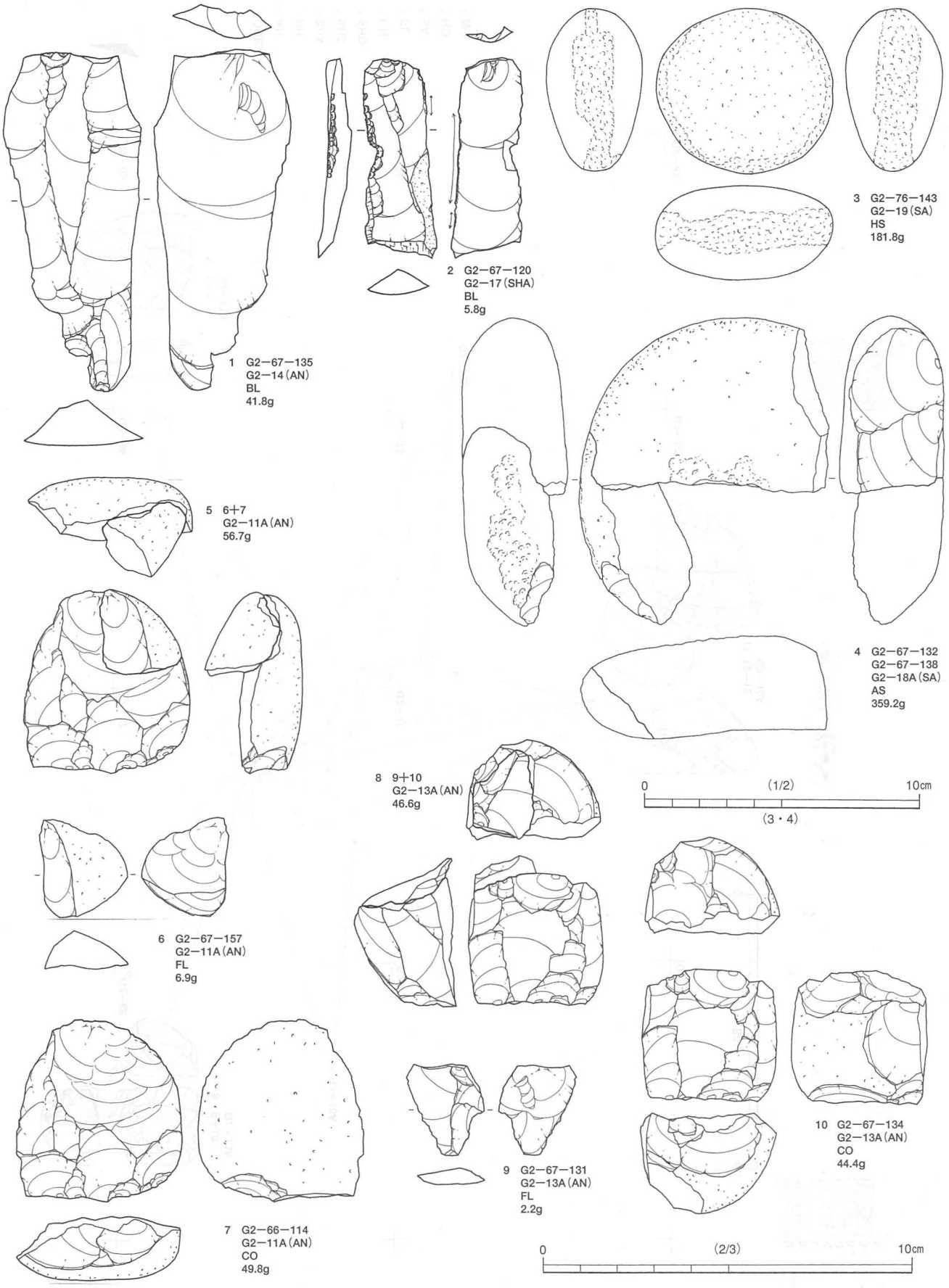
・**G2-10（第75図）**　灰オリーブ色（5Y4/2）などの安山岩である。剥片４点（３個体），石核１点の合計５点（４個体）で構成される。11は剥片４点（12～14），石核１点（15）が接合している。その内，当ブロックの剥片１点はブロック外（G2-47グリッド）の剥片１点と接合して１個体となる。比較的厚みの



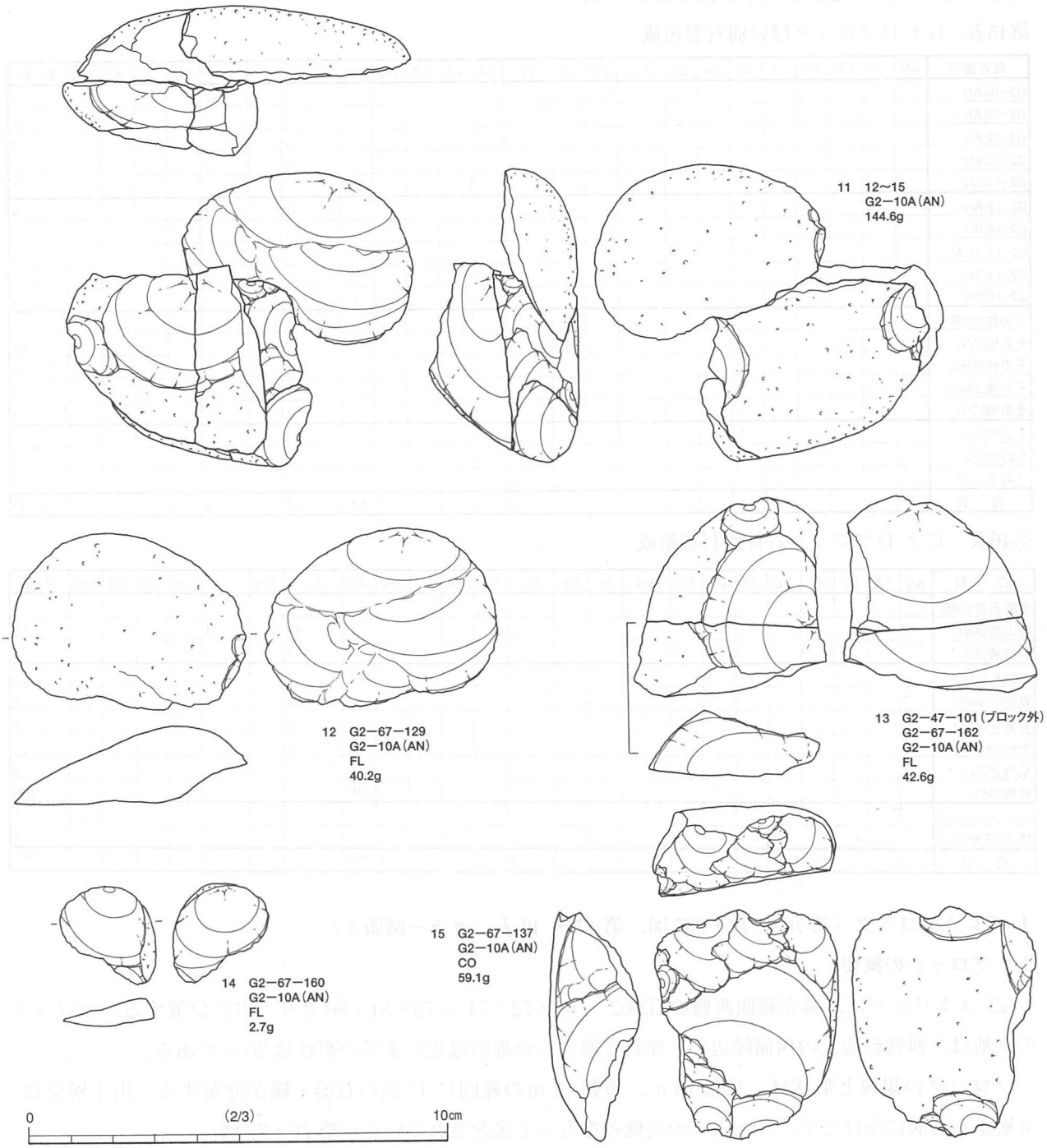
第72図　G 2 - Dブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第73図　G2-Dブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－



第74図　Ｇ２-Ｄブロック出土遺物（１）



第75図　G2-Dブロック出土遺物（2）

第44表　G2-Dブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
G2R-4	SA	1	49.2
G2R-5	HO	1	7.8

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	49.2
ホルンフェルス(HO)	1	7.8
合　計	2	57.0

ある礫を素材として，12・13などの大型で不定型な剥片を剥離し，最終的に求心的な剥離作業を行って，14を含む小型で不定型な剥片を剥離している。

第45表　Ｇ２-Ｄブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
G2-10(AN)																		3		1					4
G2-11(AN)																		1		1					2
G2-12(AN)																		4							4
G2-13(AN)																		2		1					3
G2-14(AN)												1													1
G2-15(AN)																		3		1					4
G2-16(RH)																		1							1
G2-17(SHA)												1													1
G2-18(SA)																	2(1)								2(1)
G2-19(SA)																1									1
その他(OBB)																		2							2
その他(AN)																		37							37
その他(SHC)																		2							2
その他(SHD)																		1							1
その他(CH)																		1							1
その他(SL)																		3							3
その他(HO)																		1							1
その他(CC)												1													1
合　計												3				1	2(1)	61		4					71(70)

第46表　Ｇ２-Ｄブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)																		2							2
安山岩(AN)												1						50		4					55
流紋岩(RH)																		1							1
頁岩A(SHA)												1													1
頁岩C(SHC)																		2							2
頁岩D(SHD)																		1							1
チャート(CH)																		1							1
粘板岩(SL)																		3							3
砂岩(SA)																1	2(1)								3(2)
ホルンフェルス(HO)																		1							1
瑪瑙・玉髄(CC)												1													1
合　計												3				1	2(1)	61		4					71(70)

4　G3-Ａブロック（第76～78・265図，第47～49表，カラー図版５）

１）ブロックの概要

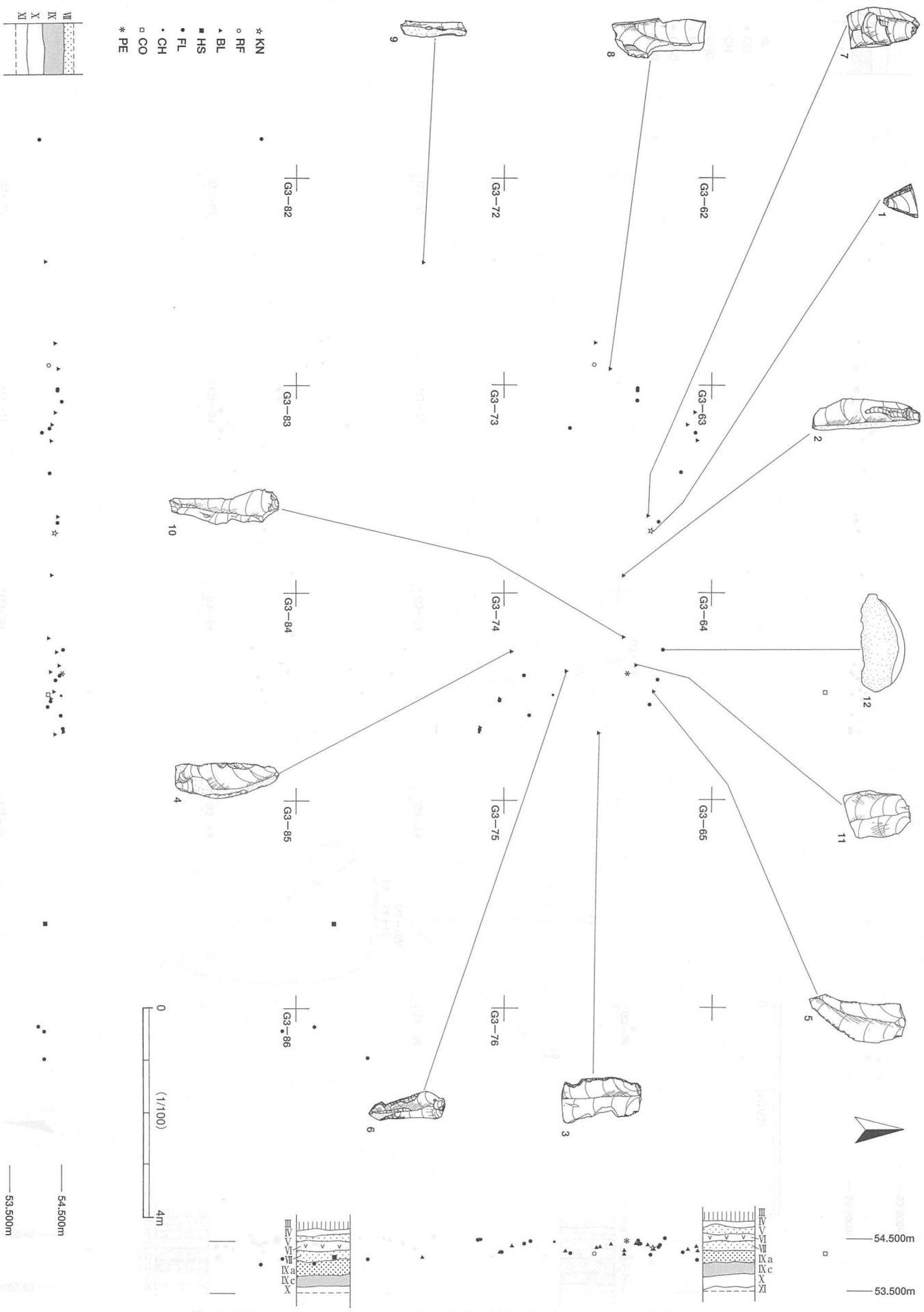
G3-Ａグリッドは，調査範囲西側のG3-62～64・72・74～76・81・86グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の西側縁辺で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸18ｍ，短軸12ｍの範囲に41点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅦ層にかけてで，50cmほどの高低差をもって包含されている（第76・77図）。

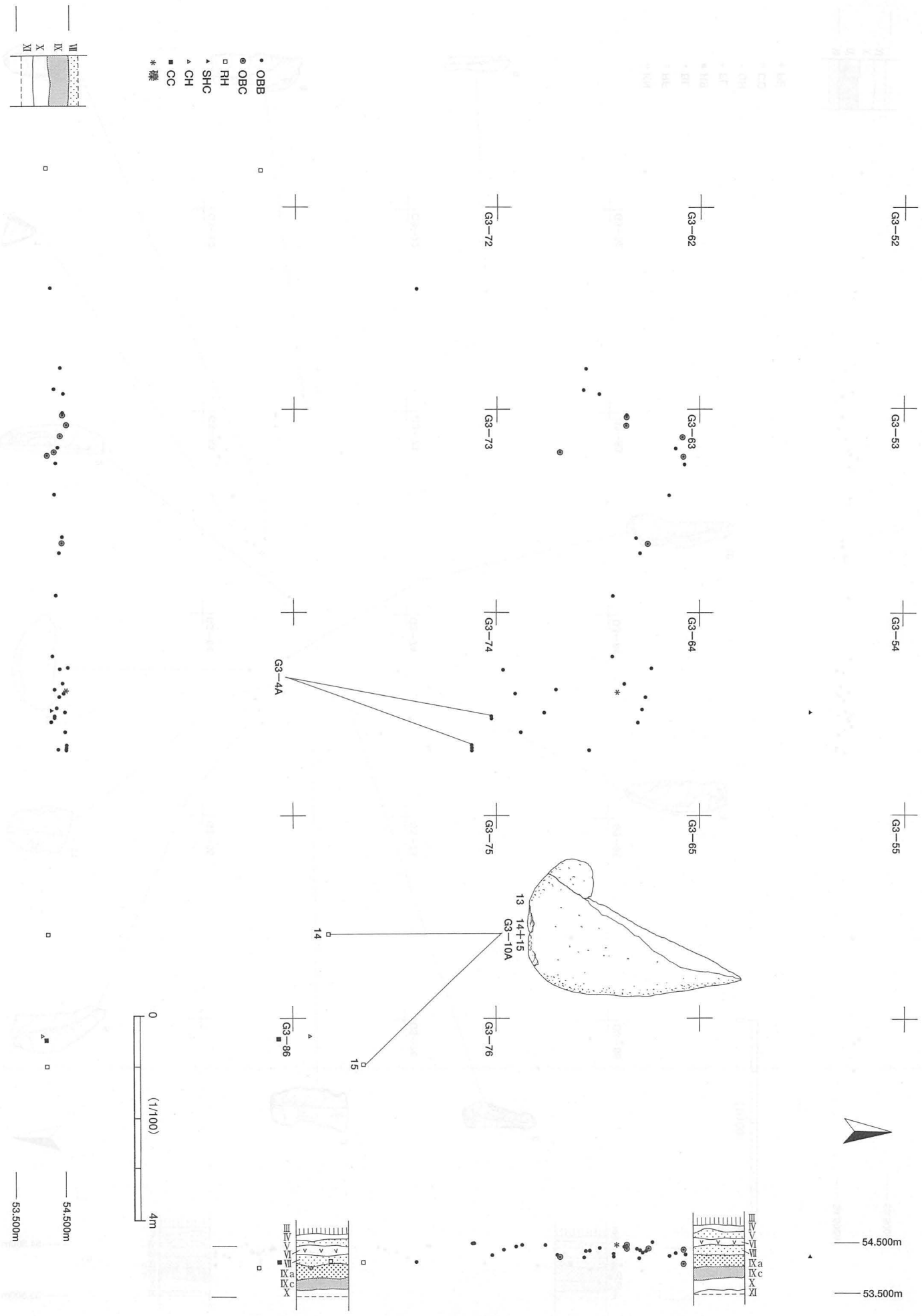
ブロックは，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，石刃16点（15個体），敲石１点，剥片18点，砕片２点，石核１点の合計40点（39個体）と礫１点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ28点（27個体），黒曜石Ｃ６点，流紋岩３点，頁岩Ｃ１点，チャート１点，瑪瑙・玉髄１点である。礫石材は，流紋岩１点（１母岩；31.8g）で，識別率は100%である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは９母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ７母岩（G3-1～4・6～8），黒曜石Ｃ１母岩（G3-5），流紋岩１母岩（G3-10）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は68%（27/40点）である。



第76図　G3-Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第77図　Ｇ３-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・G3-1：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は，薄墨を流したような半透明な地に淡黒褐色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃4点（10.5g）である。

・G3-2：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に淡黒灰色の筋が入るの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃3点（10.2g）である。

・G3-3：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒灰色半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，石刃3点の合計4点（6.4g）である

・G3-4：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃2点（1個体），剥片2点，砕片1点の合計5点（4個体；2.9g）である。接合資料は，石刃2点（1個体；2.6g）である。

・G3-5：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，石刃1点，剥片5点の合計6点（10.5g）である。

・G3-6：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点（9.0g）の単独資料である。

・G3-7：自然面は比較的平滑で黒灰色，内部は黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。本ブロックでは剥片1点（6.0g）の単独資料であるが，その他にH4-Aブロックに1点ある。

・G3-8：透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃1点（4.4g）の単独資料である。

・G3-10：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は浅黄色（2.5Y7/4），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の流紋岩である。石器群の内訳は，敲石1点，剥片1点の合計2点（160.2g）である。接合資料は，敲石1点，剥片1点の合計2点（160.2g）である。

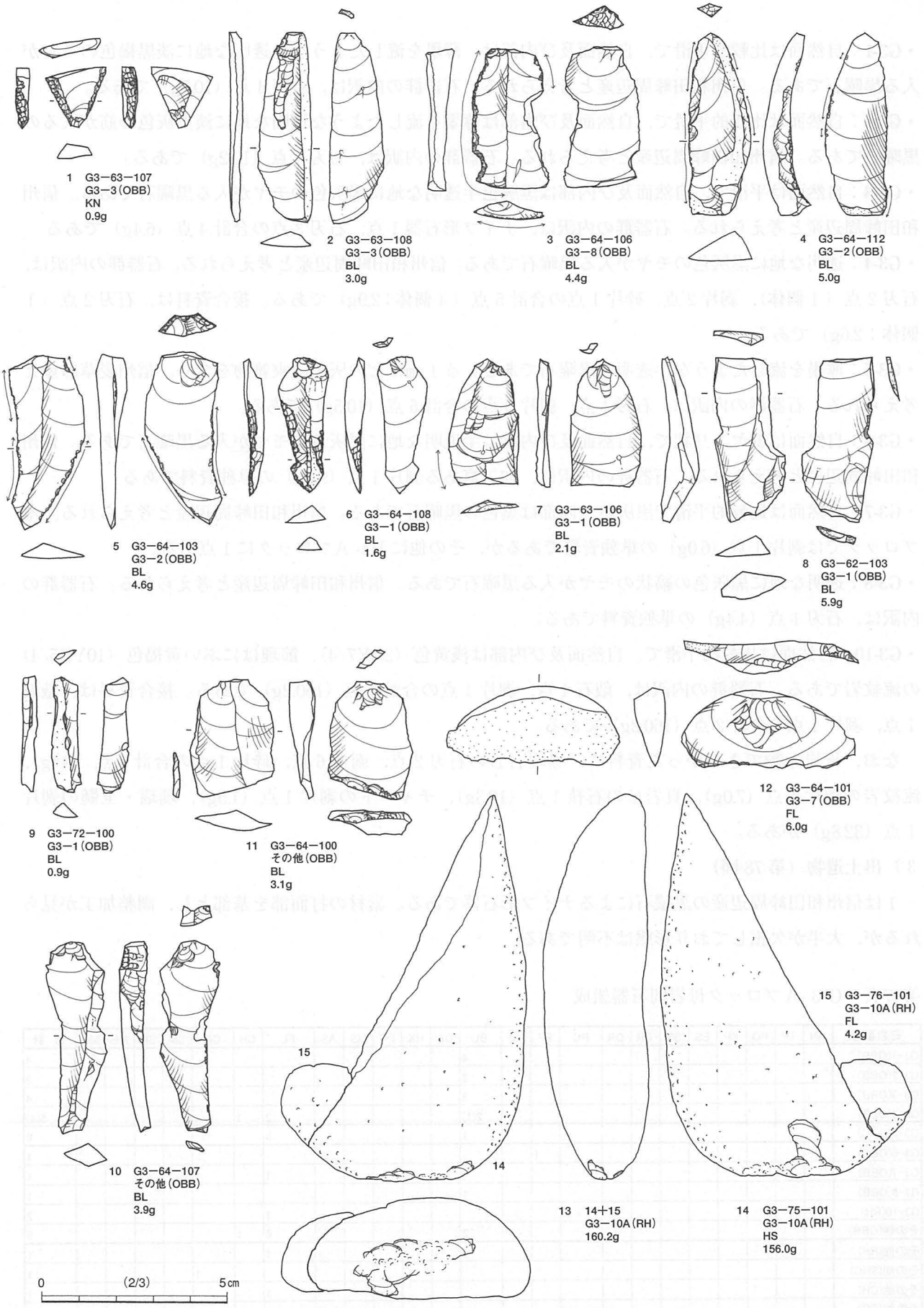
なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Bの石刃2点，剥片6点，砕片1点の合計9点（9.4g），流紋岩の剥片1点（7.0g），頁岩Cの石核1点（12.3g），チャートの剥片1点（1.5g），瑪瑙・玉髄の剥片1点（32.8g）がある。

3）出土遺物（第78図）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石によるナイフ形石器である。素材の打面部を基部とし，調整加工が見られるが，大半が欠損しており形態は不明である。

第47表　G3-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
G3-1(OBB)												4													4
G3-2(OBB)												3													3
G3-3(OBB)	1											3													4
G3-4(OBB)												2(1)						2	1						5(4)
G3-5(OBC)												1						5							6
G3-6(OBB)										1															1
G3-7(OBB)																		1							1
G3-8(OBB)												1													1
G3-10(RH)																1		1							2
その他(OBB)												2						6	1						9
その他(RH)																		1							1
その他(SHC)																				1					1
その他(CH)																		1							1
その他(CC)																		1							1
合　計	1									1		16(15)				1		18	2	1					40(39)



第78図　Ｇ３-Ａブロック出土遺物

2～11は信州和田峠周辺産の黒曜石による石刃である。3は表面左側縁に，6は両側縁の一部に調整加工が行われている。また，3は左側縁・右側縁の上部・折断面に，4は表面左側縁と右側縁の上部，裏面両側縁の一部に，5は表面左側縁と右側縁の一部，裏面両側縁の下半部に，7は左側縁の下部に刃こぼれが見られる。12は信州和田峠周辺産の黒曜石による横長剥片である。

4）接合資料とその関連資料（第78図）

・G3-10（第78図）浅黄色(2.5Y7/4)などの流紋岩である。敲石1点，剥片1点の合計2点で構成される。13は敲石1点（14），剥片1点（15）の接合資料である。14の下端部に剥離痕状の敲打痕が見られる。15は2つに分割あるいは欠損後，遺跡に残存しないもう一方の個体を石核として剥離された剥片である。

第48表　G3-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)	1									1		15(14)						9	2						28(27)
黒曜石C(OBC)												1						5							6
流紋岩(RH)																1		2							3
頁岩C(SHC)																				1					1
チャート(CH)																		1							1
瑪瑙・玉髄(CC)																		1							1
合　計	1									1		16(15)				1		18	2	1					40(39)

第49表　G3-Aブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
G3R-2	RH	1	31.8

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	31.8
合　計	1	31.8

5　H3-Cブロック（第79～81・265図，第50・51表，カラー図版5）

1）ブロックの概要

H3-Cブロックは，調査範囲西側のH3-87・88グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は70mである。

ブロックの規模と形状は，長軸3m，短軸2mの範囲に5点の石器が分布する。出土層位は，Ⅴ層からⅦ層にかけてで，40cmほどの高低差をもって包含されている（第79・80図）。

ブロックは，石刃3点，剥片2点の合計5点で構成される。石器石材は，黒曜石B1点，黒曜石C4点である。

2）母岩の特徴と内容

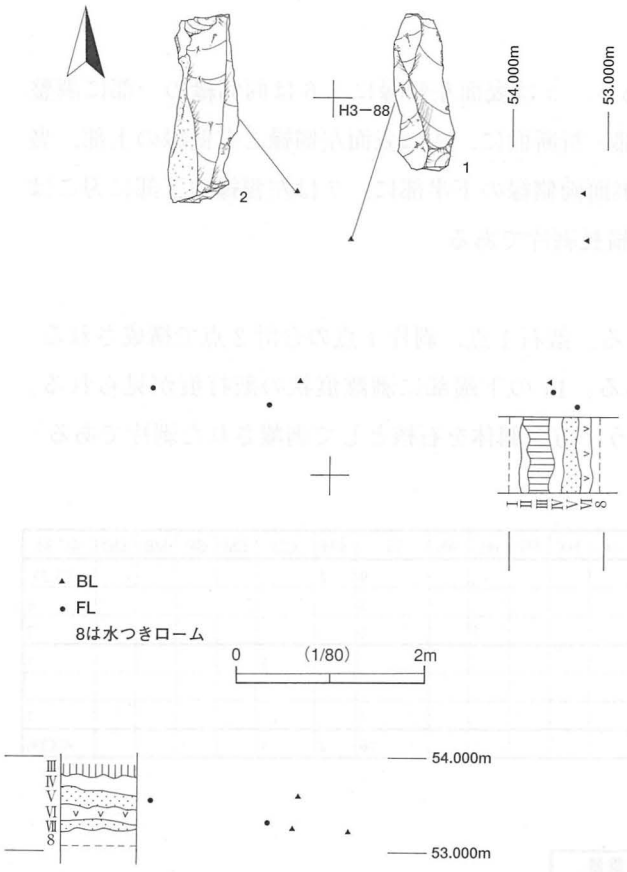
本ブロックでは3母岩を識別した。内訳は，黒曜石B1母岩（H3-8），黒曜石C2母岩（H3-6・7）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は60%（3/5点）である。

・H3-6：自然面は平坦で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。φ1㎜～5㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，石刃1点（8.2g）の単独資料である。

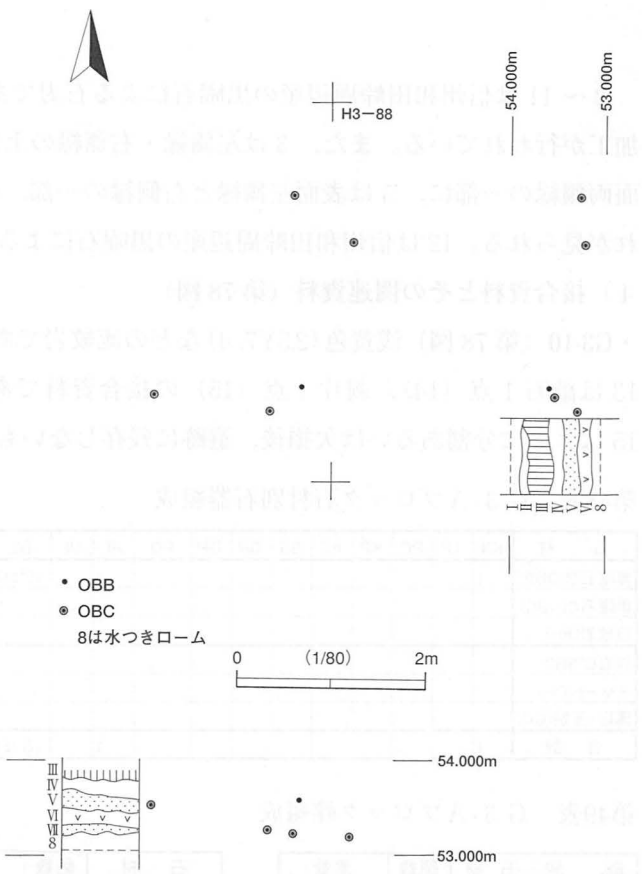
・H3-7：薄墨を流したような透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの灰色の夾雑物を多数含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，石刃1点（5.8g）の単独資料である。

・H3-8：薄墨を流したような透明な地に淡黒褐色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃1点（0.9g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Cの剥片2点（0.4g）がある。



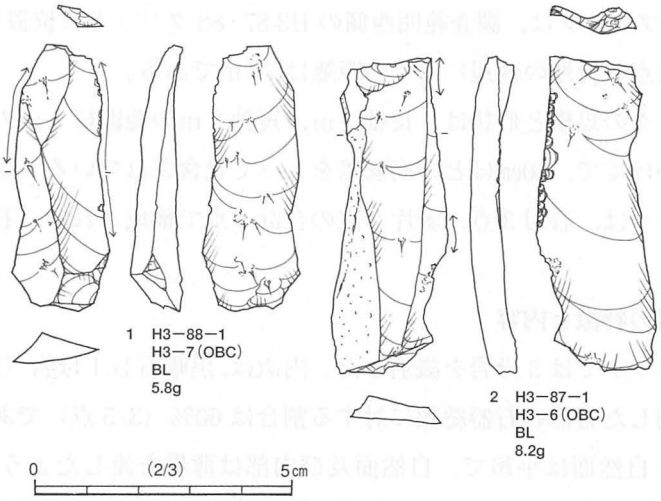
第79図　Ｈ３-Ｃブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



第80図　Ｈ３-Ｃブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－

３）出土遺物（第81図）

１・２は信州麦草峠産の黒曜石による石刃である。１は両側縁に，２は裏面左側縁の一部に調整加工が行われている。また，１は左側縁上部と右側縁に刃こぼれが見られる。２は表面右側縁の一部に刃こぼれが見られる。



第81図　Ｈ３-Ｃブロック出土遺物

第50表　Ｈ３-Ｃブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
H3-6(OBC)												1													1
H3-7(OBC)												1													1
H3-8(OBB)												1													1
その他(OBC)																		2							2
合　計												3						2							5

第51表　H3-Cブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)												1													1
黒曜石C(OBC)												2						2							4
合　計												3						2							5

6　G4-Aブロック（第82～84・265図，第52・53表，カラー図版5，図版5）

1）ブロックの概要

G4-Aブロックは，調査範囲西側のG4-69・77～79・89グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は60ｍである。

ブロックの規模と形状は，直径9ｍの範囲に12点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅦ層にかけてで，60cmほどの高低差をもっているが，中心はⅥ層からⅦ層で，40cmほどの高低差をもって包含されている（第82・83図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片1点，剥片6点，砕片3点，石核1点の合計12点で構成される。石器石材は，黒曜石A3点，黒曜石B5点，黒曜石G2点，頁岩A1点，頁岩D1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは6母岩を識別した。内訳は，黒曜石A3母岩（G4-2・3・6），黒曜石G1母岩（G4-5），頁岩A1母岩(G4-1)，頁岩D1母岩(G4-4)である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は58%(7/12点）である

・**G4-1**：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/3）・灰白色（2.5Y8/1），内部は灰黄褐色（10YR5/2）・灰黄色（2.5Y7/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点（5.7g）の単独資料である。

・**G4-2**：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒灰色半透明な黒曜石である。φ1㎜～2㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，石核1点（22.4g）の単独資料である。

・**G4-3**：黒灰色半透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片1点（4.1g）の単独資料である。

・**G4-4**：浅黄色（2.5Y7/3）・明黄褐色（10YR6/6）・灰色（7.5Y5/1）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点（3.6g）の単独資料である。

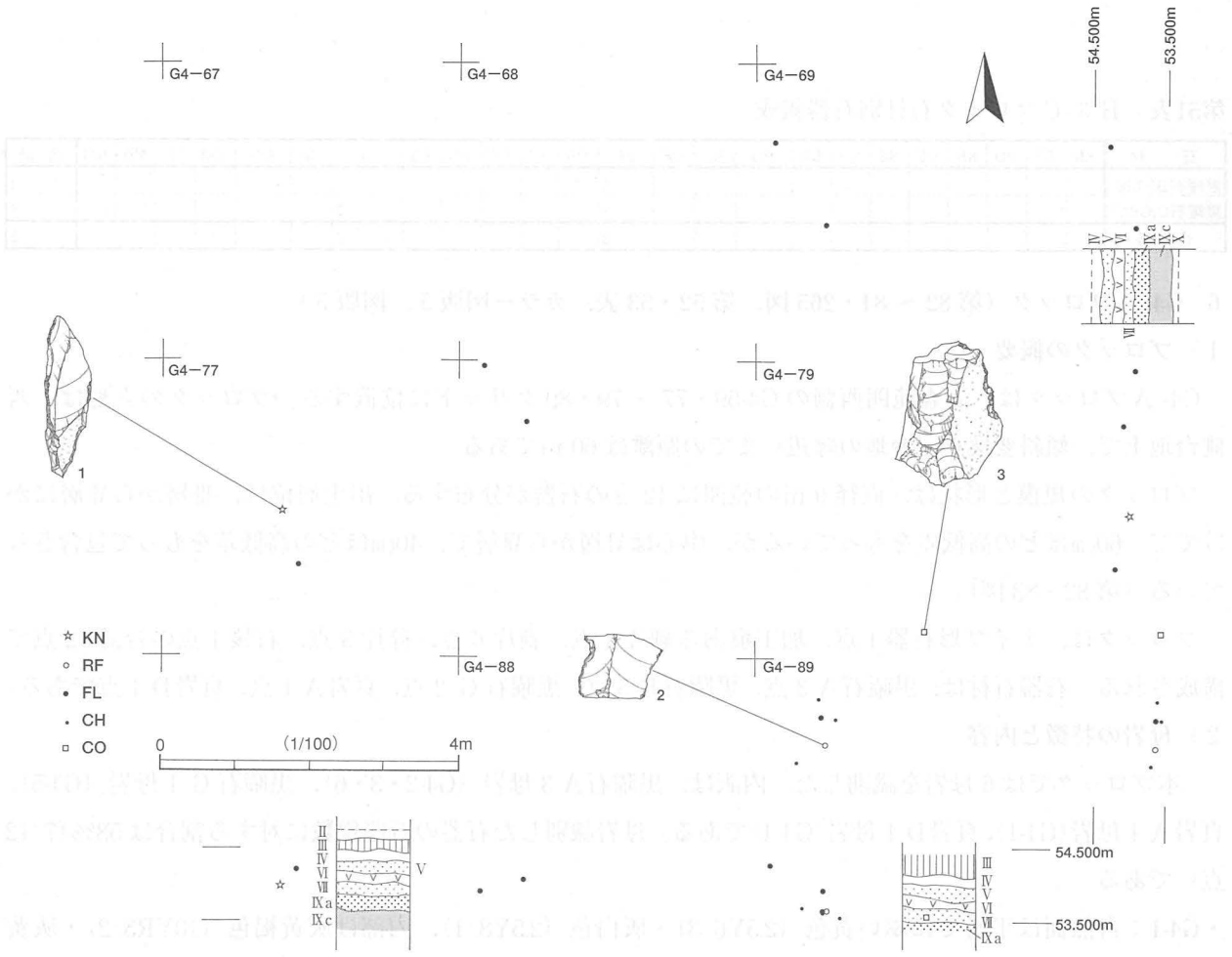
・**G4-5**：黒灰色半透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの黒灰色の夾雑物を含む。産地は不明である。石器群の内訳は，砕片2点（0.5g）である。

・**G4-6**：黒灰色半透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，砕片1点（0.5g）の単独資料である。

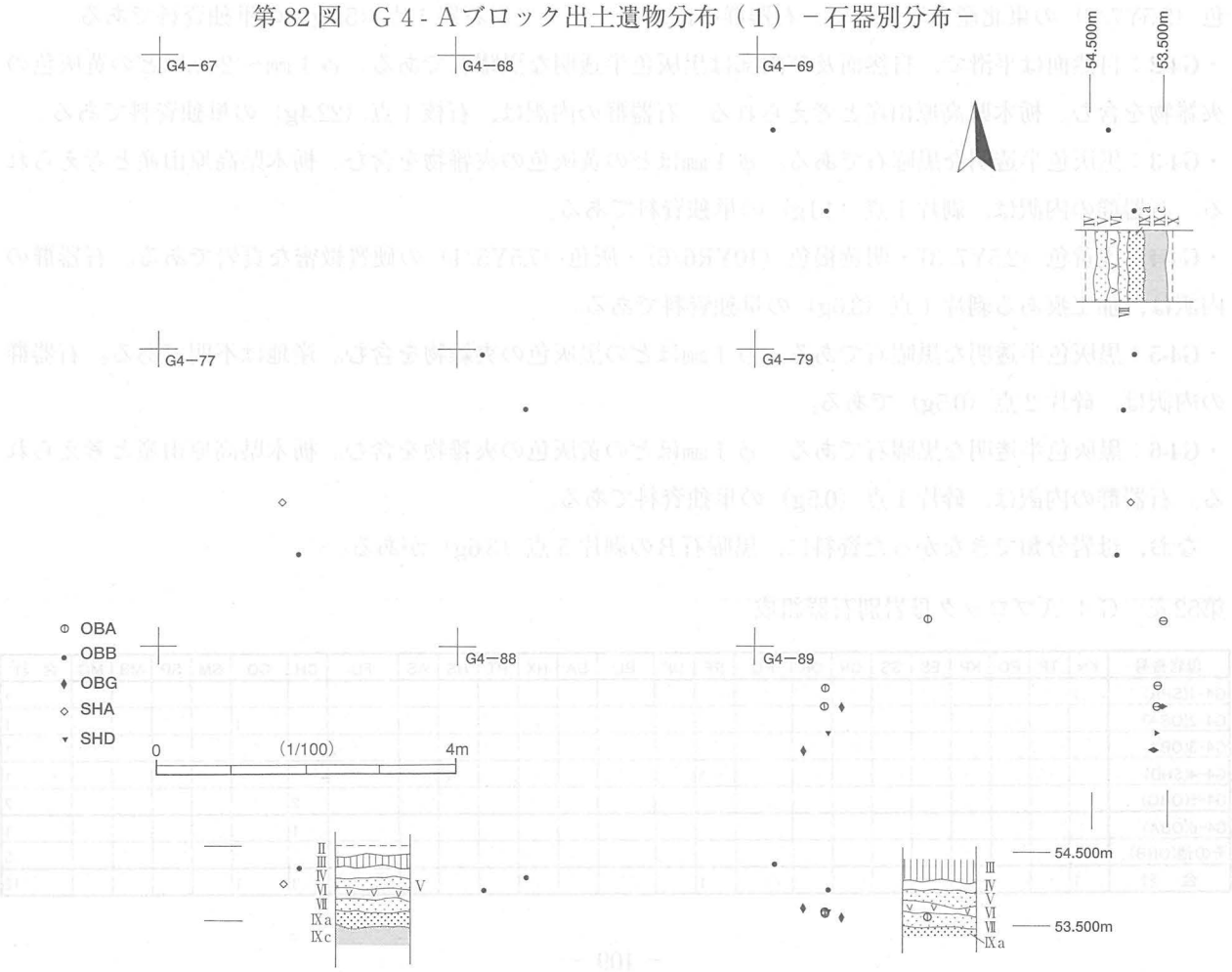
なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Bの剥片5点（3.6g）がある。

第52表　G4-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
G4-1(SHA)	1																								1
G4-2(OBA)																				1					1
G4-3(OBA)																		1							1
G4-4(SHD)										1															1
G4-5(OBG)																			2						2
G4-6(OBA)																			1						1
その他(OBB)																		5							5
合　計	1									1								6	3	1					12



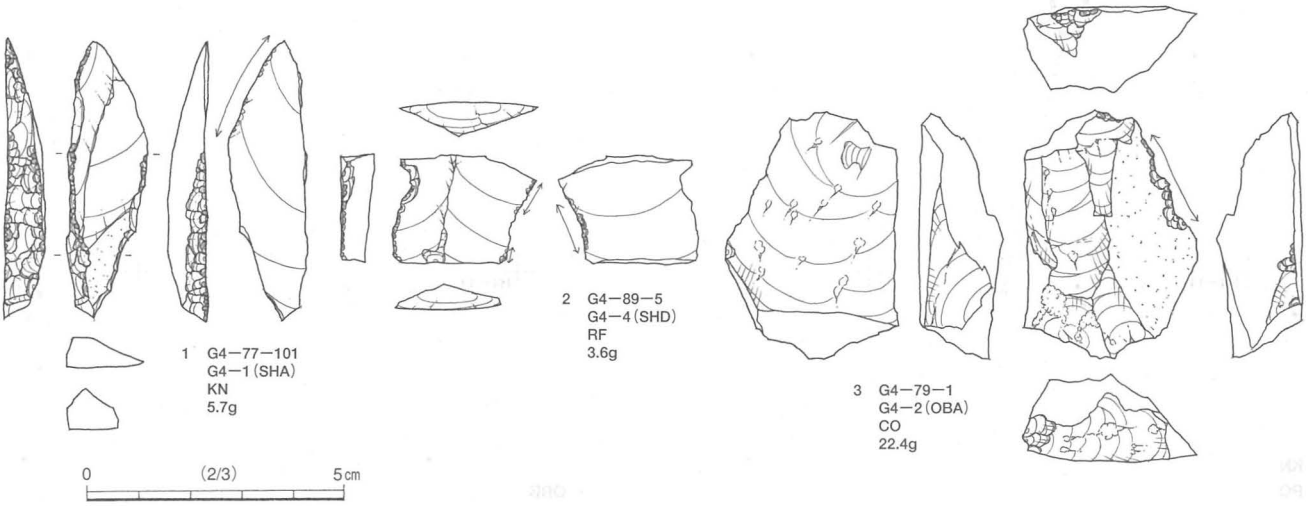
第 82 図　Ｇ４- Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第 83 図　Ｇ４- Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

3）出土遺物（第84図）

1は東北産頁岩による二側縁加工のナイフ形石器である。折断したと推定される石刃を用い，素材の打面部を先端としている。右刃の石器であるが，裏面左側縁側の刃部に刃こぼれが見られる。2は硬質緻密な頁岩による加工痕ある剥片である。左側縁に細かい調整加工を行っており，表面右側縁の一部と裏面左側縁に刃こぼれが見られる。3は栃木県高原山産の黒曜石による石核である。下端部に主要剥離面より新しい剥離痕が見られるが，折断により生じた可能性も高く，図上，裏面側の右側縁上部に細かい調整加工が見られることから，加工痕ある剥片とした方がよいかもしれない。なお，裏面右側縁上部に刃こぼれも見られる。



第84図　G4-Aブロック出土遺物

第53表　G4-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石A(OBA)																		1	1	1					3
黒曜石B(OBB)																		5							5
黒曜石G(OBG)																			2						2
頁岩A(SHA)	1																								1
頁岩D(SHD)										1															1
合　計	1									1								6	3	1					12

7　H4-Aブロック（第85～87・265図，第54～56表，カラー図版5，図版6）

1）ブロックの概要

H4-Aブロックは，調査範囲西側のH4-01・10・11グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は55mである。

ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸3mの範囲に8点の石器・礫が分布する。出土層位は，調査時の所見によればⅦ層からⅨa層にかけてで，20cmほどの高低差をもって包含されている（第85・86図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，楔形石器1点，石刃1点，剥片4点の合計7点と礫1点で構成される。石器石材は，黒曜石B2点，安山岩4点，チャート1点である。礫石材は，識別できなかった流紋岩1点（2.8g）で，識別率は0％である。

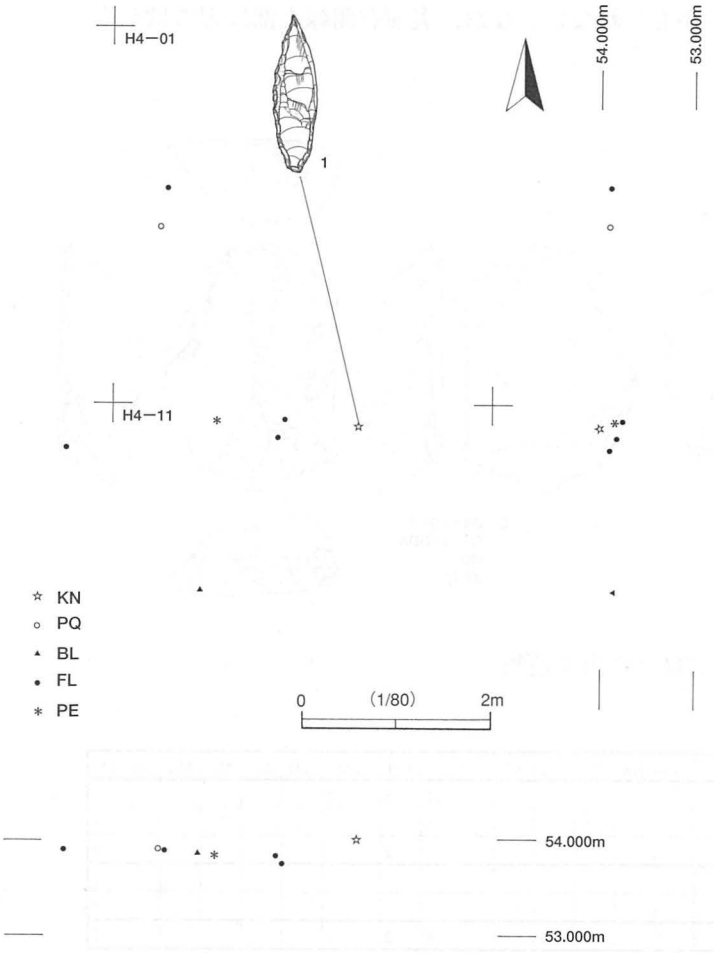
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは1母岩を識別した。内訳は，黒曜石B1母岩（G3-7）である。母岩識別した石器の石器

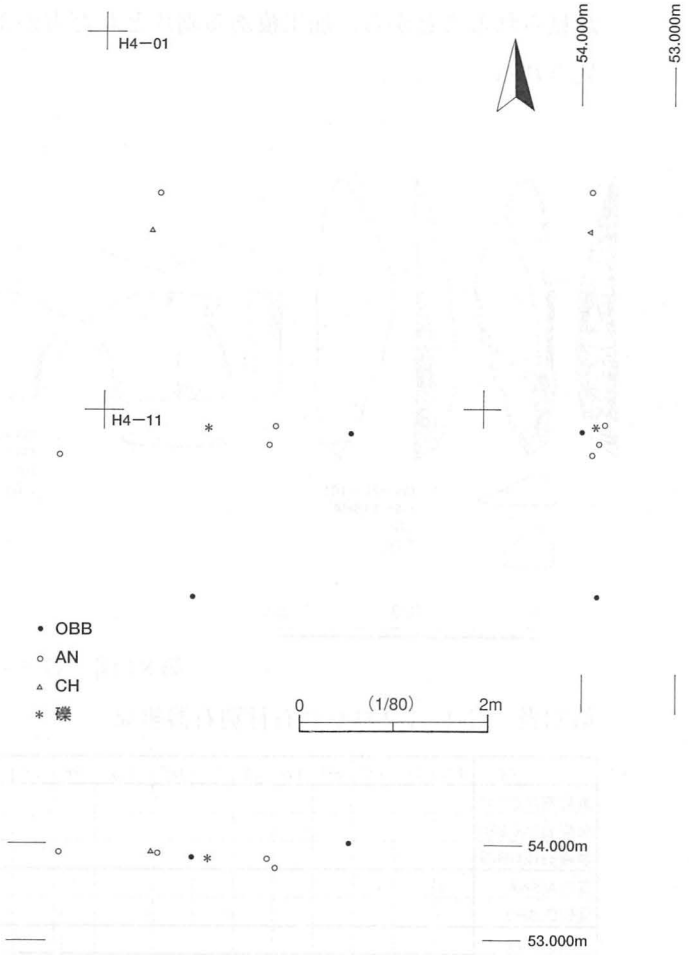
総数に対する割合は14%（1/7点）である。

・G3-7：黒色などの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はG3-Aブロックに記したとおりである。本ブロックではナイフ形石器１点（3.4g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がG3-Aブロックに１点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Bの石刃１点（6.8g），安山岩の剥片４点（25.6g），チャートの楔形石器１点（5.7g）がある。



第85図　H４-Aブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



第86図　H４-Aブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－

第54表　H４-Aブロック母岩別石器組成

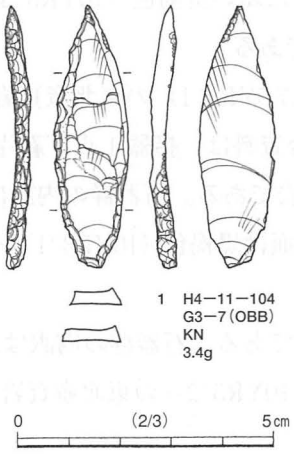
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
G3-7(OBB)	1																								1
その他(OBB)												1													1
その他(AN)																		4							4
その他(CH)									1																1
合　計	1								1			1						4							7

第55表　H４-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)	1											1													2
安山岩(AN)																		4							4
チャート(CH)									1																1
合　計	1								1			1						4							7

3）出土遺物（第87図）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器である。石刃を用い，素材の打面部を基部としている。右刃の石器であるが，刃部の両面に細かい剥離痕が見られる。また，右側面側の調整加工を除く剥離面はポジティブな面の可能性がある。



第56表　H4-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
その他	RH	1	2.8

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	2.8
合　計	1	2.8

第87図　H4-Aブロック出土遺物

8　K5-Aブロック（第88～93・265図，第57・58表，カラー図版5・6・20，図版6）

1）ブロックの概要

K5-Aブロックは，調査範囲西側のK5-63・64・73・74・83～86・93～95，K6-03～05・13～15・22・23・25・34・35グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は45mである。

ブロックの規模と形状は，長軸25m，短軸14mの範囲に140点の石器が分布する。出土層位は，Ⅴ層からⅦ層にかけてで，80cmほどの高低差をもって包含されている（第88・89図）。

ブロックは，ナイフ形石器2点，掻器5点，削器2点，楔形石器15点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片5点，石刃6点（5個体），敲石7点（3個体），剥片88点，砕片5点，石核4点の合計140点（135個体）で構成される。石器石材は，黒曜石A 20点，黒曜石B 13点，安山岩18点，流紋岩2点，頁岩A 45点（44個体），頁岩C 3点，頁岩D 16点，頁岩E 2点，チャート8点，凝灰岩A 1点，砂岩8点（4個体），瑪瑙・玉髄3点，不明1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは39母岩を識別した。内訳は，黒曜石A 1母岩（K5-31），黒曜石B 2母岩（K5-32・33），安山岩2母岩（K5-35・37），流紋岩1母岩（K5-38），頁岩A 24母岩（K5-1～24），頁岩C 1母岩（K5-25），頁岩D 2母岩（K5-26・27），頁岩E 2母岩（K5-28・29），チャート1母岩（K5-30），凝灰岩A 1母岩（K5-39），砂岩1母岩（K5-36），瑪瑙・玉髄1母岩（K5-34）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は56%（79/141点）である。

・**K5-1**：にぶい黄色（2.5Y6/3）・黒褐色（2.5Y3/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，掻器1点（36.3g）の単独資料である。

・**K5-2**：褐灰色（10YR4/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，掻器1点（33.2g）の単独資料である。

・**K5-3**：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は黒褐色（10YR3/1），新鮮な面は灰色（N4/0）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，掻器1点（13.2g）の単独資料である。

・**K5-4**：黒褐色（10YR3/1）・灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，掻器1点（7.8g）の単独資料である。

・K5-5：にぶい黄橙色（10YR7/2）の地ににぶい黄褐色（10YR5/3）が混じる東北産頁岩である。石器群の内訳は，削器１点（22.8g）の単独資料である。

・K5-6：にぶい黄色（2.5Y6/3）・褐灰色（7.5YR4/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，掻器１点，剥片１点の合計２点（19.0g）である。接合資料は，掻器１点，剥片１点の合計２点（19.0g）である。

・K5-7：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，削器１点（4.9g）の単独資料である。

・K5-8：内部は褐灰色（10YR4/1），新鮮な面は黒褐色（10YR3/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点（14.8g）の単独資料である。

・K5-9：褐灰色（10YR4/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点（14.0g）の単独資料である。

・K5-10：黒褐色（10YR3/2）・灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点（4.7g）の単独資料である。

・K5-11：黒褐色（10YR3/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃３点（２個体；8.4g）である。接合資料は，石刃３点（２個体；8.4g）である。

・K5-12：黒褐色（10YR3/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点（5.2g）の単独資料である。

・K5-13：黒褐色（10YR3/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点（2.0g）の単独資料である。

・K5-14：褐灰色（10YR4/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点（1.8g）の単独資料である。

・K5-15：黒褐色（10YR3/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点（6.7g）の単独資料である。

・K5-16：灰黄褐色（10YR4/2）・灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点（5.5g）の単独資料である。

・K5-17：自然面は平滑で灰黄褐色（10YR6/2），内部は灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。黒褐色（10YR3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，楔形石器１点（13.3g）の単独資料である。

・K5-18：褐灰色（10YR4/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点（3.8g）の単独資料である。

・K5-19：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（11.5g）の単独資料である。

・K5-20：にぶい黄褐色（10YR5/3）・灰黄褐色（10YR5/2）の地ににぶい黄橙色（10YR6/3）が混じる東北産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点（8.7g）の単独資料である。

・K5-21：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/3），内部は灰黄褐色（10YR4/2）・灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点（7.2g）の単独資料である。

・K5-22：自然面は平滑でにぶい黄橙色（10YR6/4），内部は灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（6.2g）の単独資料である。

・K5-23：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点（5.1g）の単独資料である。

・K5-24：黒褐色（10YR3/2）の資料，黒色（10YR1.7/1）の資料など母岩内での変異がある東北産頁岩であるが，色調の差は被熱によるものと思われる。石器群の内訳は，剥片２点（3.0g）である。接合資料は，剥片２点（3.0g）である。

・K5-25：内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（18.3g）である。

・K5-26：灰色（7.5Y5/1）・灰色（7.5Y4/1）・灰色（5Y4/1）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，

楔形石器1点，剥片4点の合計5点（13.8g）である。接合資料は，楔形石器1点（9.1g）が，K6-Bブロックの剥片1点と接合している。

・**K5-27**：内部は灰オリーブ色（5Y4/2)・浅黄色（5Y7/3)，節理は灰オリーブ色（5Y4/2)・浅黄色（5Y7/3）の地に灰白色（5Y7/2）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器1点，使用痕ある剥片1点，剥片8点，石核1点の合計11点（55.0g）である。接合資料は，2グループあり，Aは使用痕ある剥片1点，剥片2点，石核1点の合計4点（30.9g），Bは楔形石器1点，剥片1点の合計2点（10.5g）である。

・**K5-28**：灰オリーブ色（5Y6/2)・浅黄色（2.5Y7/3）の頁岩である。本ブロックでは剥片1点（6.0g）の単独資料であるが，K6-Aブロックの剥片1点と接合している。

・**K5-29**：自然面は平滑で浅黄色（5Y7/3）の地に明黄褐色（10YR6/6）が部分的に混じり，内部は浅黄色（5Y7/3）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点（8.3g）の単独資料である。

・**K5-30**：自然面は浅い爪形の裂痕が粗で褐色（7.5YR4/6)・極暗赤褐色（10R2/3），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）のチャートとしたが，嶺岡産頁岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（14.6g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（14.6g）である。

・**K5-31**：自然面は平滑で暗灰色（N3/0），内部は黒色の黒曜石である。φ1㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器2点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，剥片6点の合計10点（31.5g）である。接合資料は，楔形石器2点，使用痕ある剥片1点，剥片1点の合計4点（8.9g）である。

・**K5-32**：自然面は紙ヤスリ状と平滑な部分があり，灰色（N4/0），内部は半透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片3点の合計4点（5.2g）である。

・**K5-33**：半透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片2点（1.9g）である。

・**K5-34**：自然面は比較的平滑で明黄褐色（10YR6/6)，内部は浅黄色（2.5Y7/4）半透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片2点（8.8g）である。

・**K5-35**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰白色（7.5Y7/1）の安山岩である。石器群の内訳は，敲石1点（384.0g）の単独資料である。

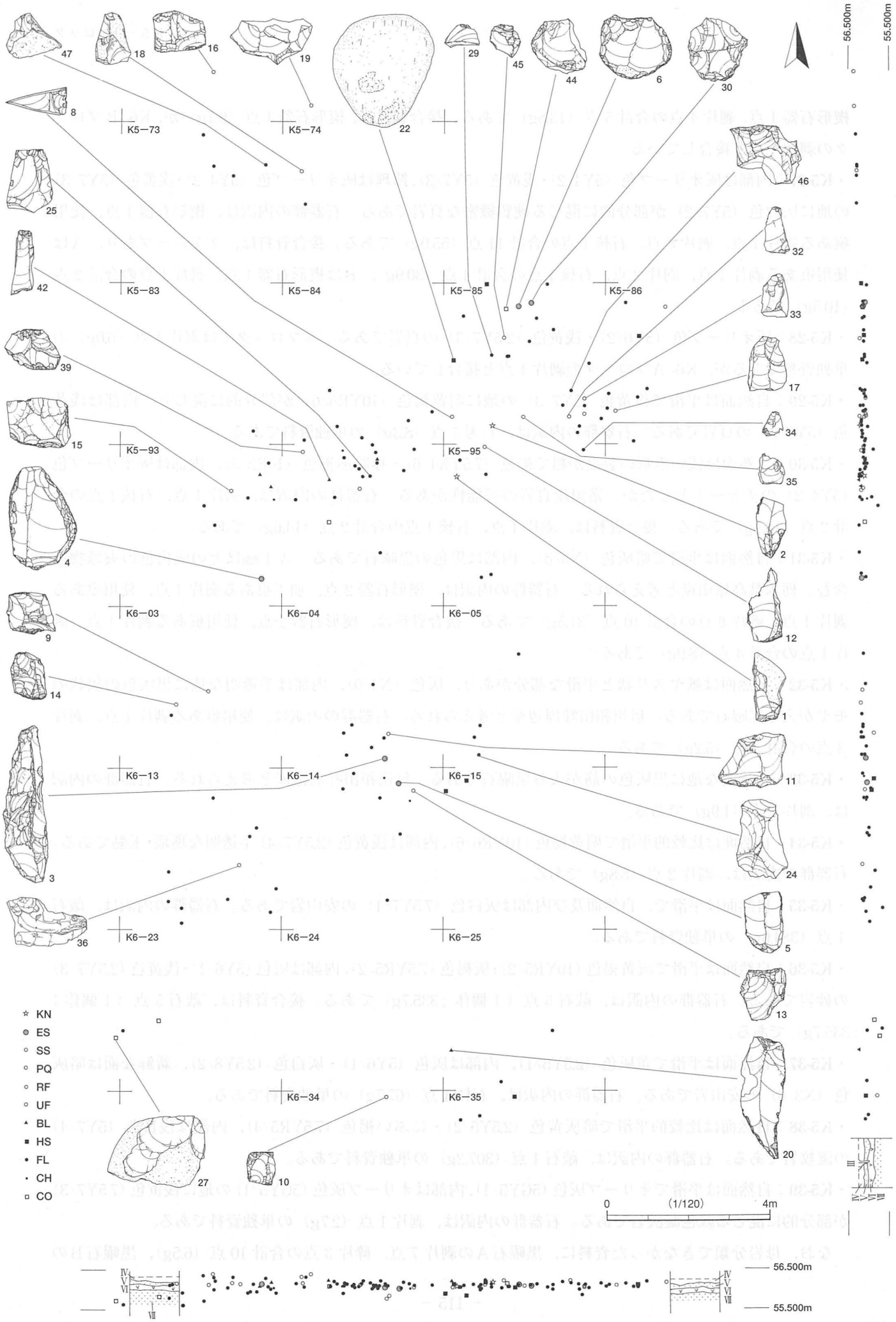
・**K5-36**：自然面は平滑で灰黄褐色（10YR5/2)・灰褐色（7.5YR5/2)，内部は灰色（5Y6/1)・浅黄色（2.5Y7/3）の砂岩である。石器群の内訳は，敲石5点（1個体；335.7g）である。接合資料は，敲石5点（1個体；335.7g）である。

・**K5-37**：自然面は平滑で黄灰色（2.5Y5/1），内部は灰色（5Y6/1)・灰白色（2.5Y8/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石核1点（67.7g）の単独資料である。

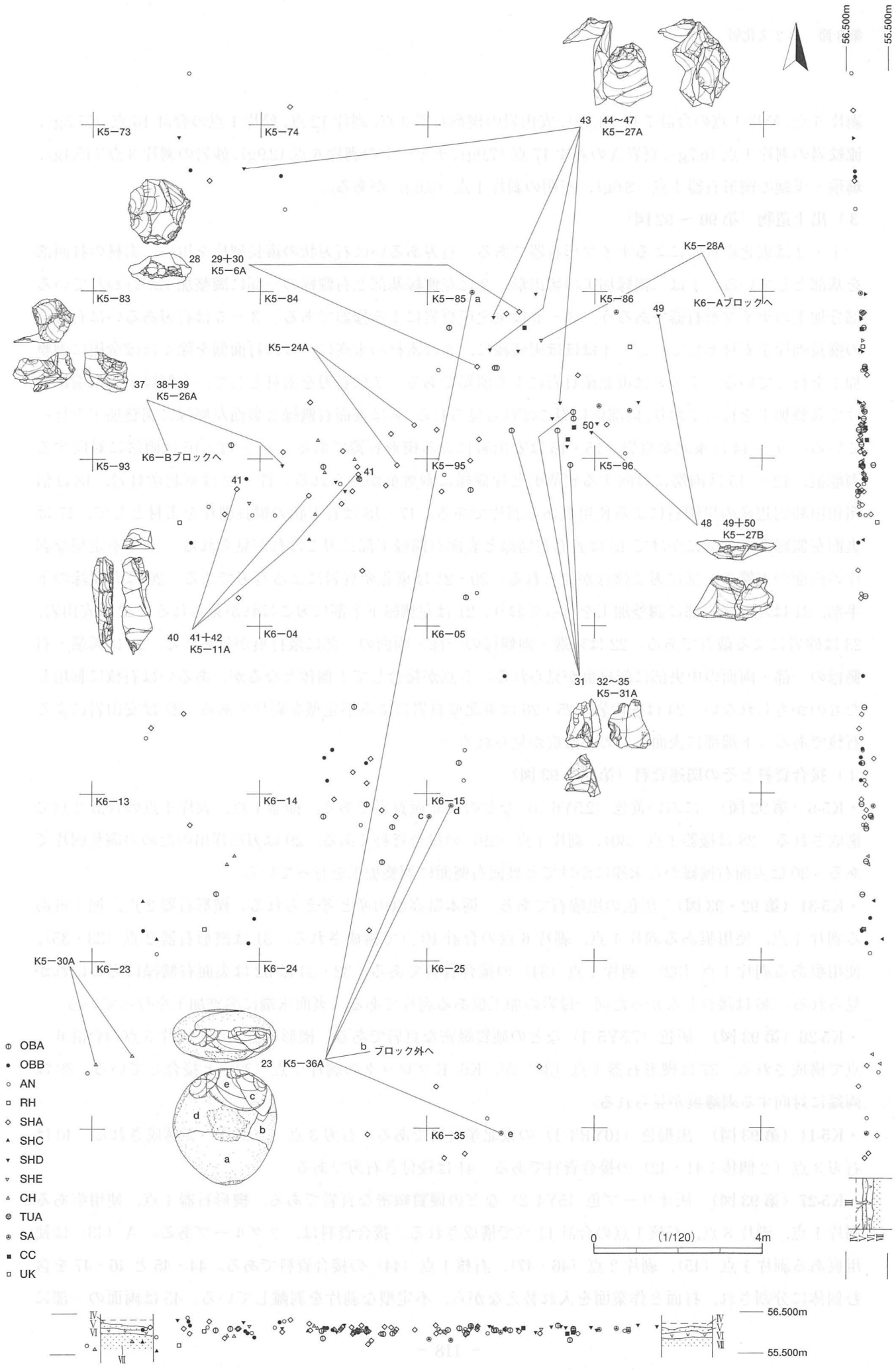
・**K5-38**：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y5/2)・にぶい褐色（7.5YR5/4），内部は浅黄色（5Y7/4）の流紋岩である。石器群の内訳は，敲石1点（307.2g）の単独資料である。

・**K5-39**：自然面は平滑でオリーブ灰色（5GY5/1)，内部はオリーブ灰色（5GY5/1）の地に浅黄色（7.5Y7/3）が部分的に混じる緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片1点（2.7g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Aの剥片7点，砕片3点の合計10点（6.5g），黒曜石Bの



第88図　K5-Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第89図　K5-Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

剥片6点，砕片1点の合計7点（1.4g），安山岩の楔形石器3点，剥片12点，砕片1点の合計16点（77.5g），流紋岩の剥片1点（6.7g），頁岩Aの剥片17点（7.9g），チャートの剥片6点（2.9g），砂岩の剥片3点（15.4g），瑪瑙・玉髄の楔形石器1点（8.6g），不明の剥片1点（3.6g）がある。

3）出土遺物（第90～92図）

1・2は東北産頁岩によるナイフ形石器である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片を用い，素材の打面部を基部としている。1は二側縁加工の切出形，2は左側縁基部と右側縁の一部に調整加工が行われている部分加工のナイフ形石器であろう。3～6は東北産頁岩による掻器である。3～5は石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材として，3・4はほぼ両側縁に，5は素材の末端に，6は打面側を除くほぼ全周に調整加工を行っている。7・8は東北産頁岩による削器である。7は石刃を素材として，右側縁から末端にかけて調整加工を行っており，同部位に刃こぼれも見られる。8は表面右側縁と裏面左側縁に調整加工を行っている。9～14は東北産頁岩，15・16は安山岩による楔形石器である。9～11・16は両端に対向する剥離痕，12～15は両端に対向する剥離痕と片側縁に剥離痕が見られる。17・19は東北産頁岩，18は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。17・18は石刃状の縦長剥片を素材として，17は裏面左側縁から末端にかけて18は表面右側縁と裏面右側縁下部に刃こぼれが見られる。19は不定型な剥片の両面の末端の一部に刃こぼれが見られる。20・21は東北産頁岩による石刃である。20は両側縁の下半部，21は左側縁上部に調整加工を行っており，21は左側縁下半部に刃こぼれが見られる。22は安山岩，23は砂岩による敲石である。22は末端・両側縁の一部・両面の一部に敲打痕が見られる。23は両端・右側縁の一部・両面の中央部に敲打痕が見られる。5点が接合して1個体となるが，あるいは石核に転用したものかもしれない。24は安山岩，25・26は東北産頁岩による不定型な剥片である。27は安山岩による石核である。下端部に表面からの剥離痕が見られる。

4）接合資料とその関連資料（第92・93図）

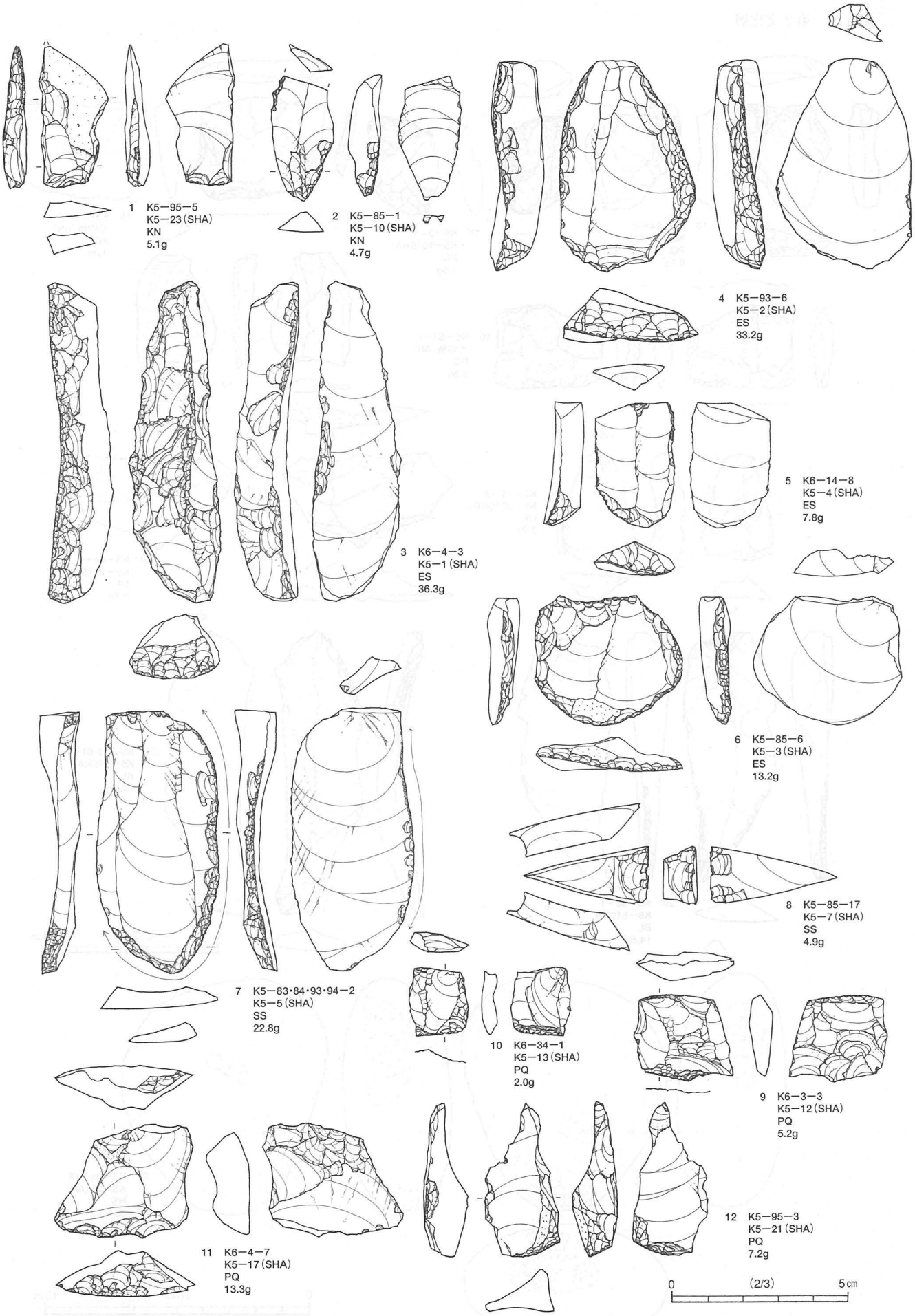
・K5-6（第92図）　にぶい黄色（2.5Y6/3）などの東北産頁岩である。掻器1点，剥片1点の合計2点で構成される。28は掻器1点（30），剥片1点（29）の接合資料である。29は刃部作出のための調整剥片である。30は表面右側縁から末端にかけてと裏面右側面に調整加工を行っている。

・K5-31（第92・93図）　黒色の黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。楔形石器2点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，剥片6点の合計10点で構成される。31は楔形石器2点（33・35），使用痕ある剥片1点（32），剥片1点（34）の接合資料である。32・34は32は裏面右側縁に刃こぼれが見られる。36は接合しなかった同一母岩の加工痕ある剥片である。裏面末端に調整加工を行っている。

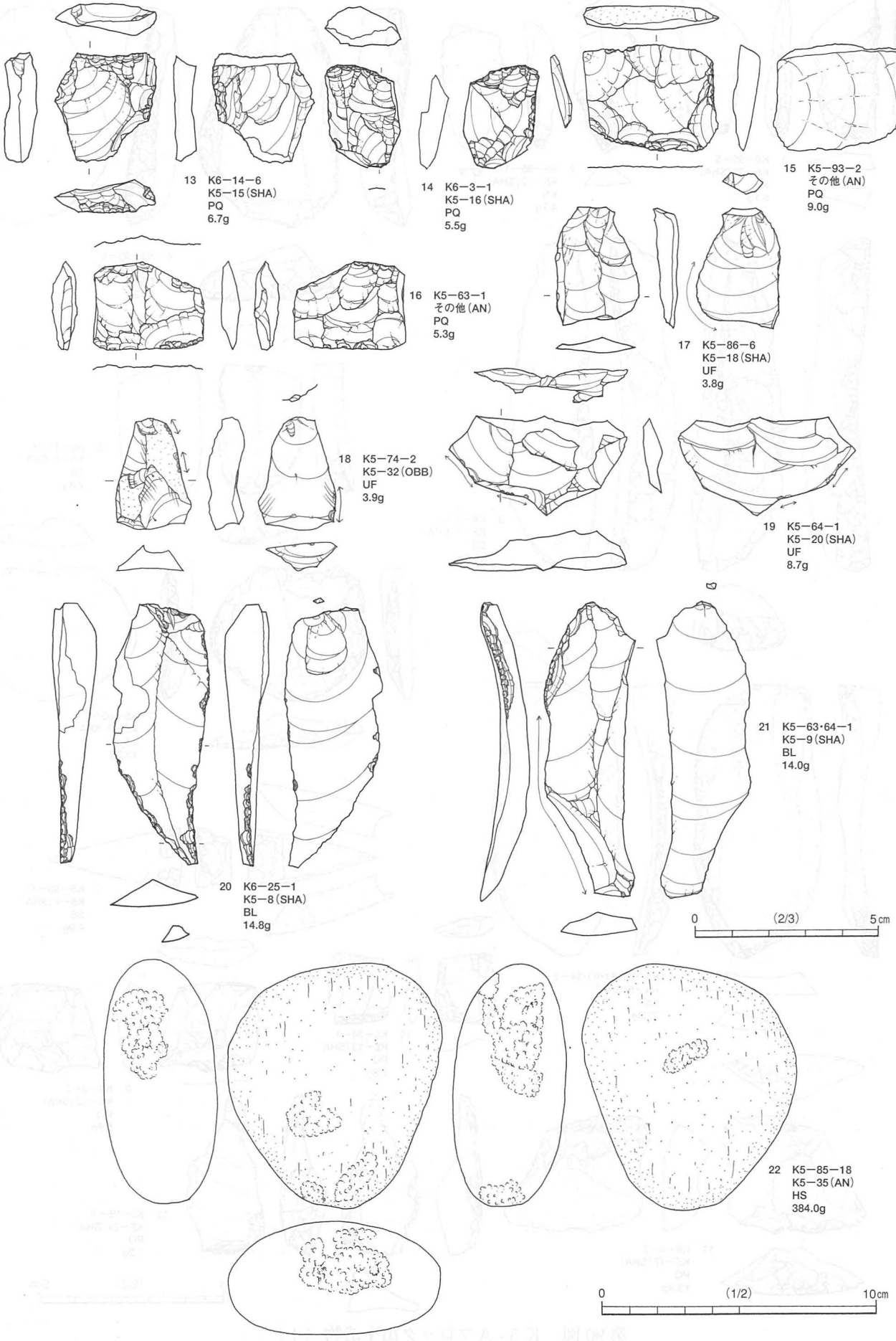
・K5-26（第93図）　灰色（7.5Y5/1）などの硬質緻密な頁岩である。楔形石器1点，剥片5点の合計6点で構成される。37は楔形石器1点（39）が，K6-Bブロックの剥片1点（38）と接合している。39は両端に対向する剥離痕が見られる。

・K5-11（第93図）　黒褐色（10YR3/1）の東北産頁岩である。石刃3点（2個体）で構成される。40は石刃3点（2個体；41・42）の接合資料である。41は稜付き石刃である。

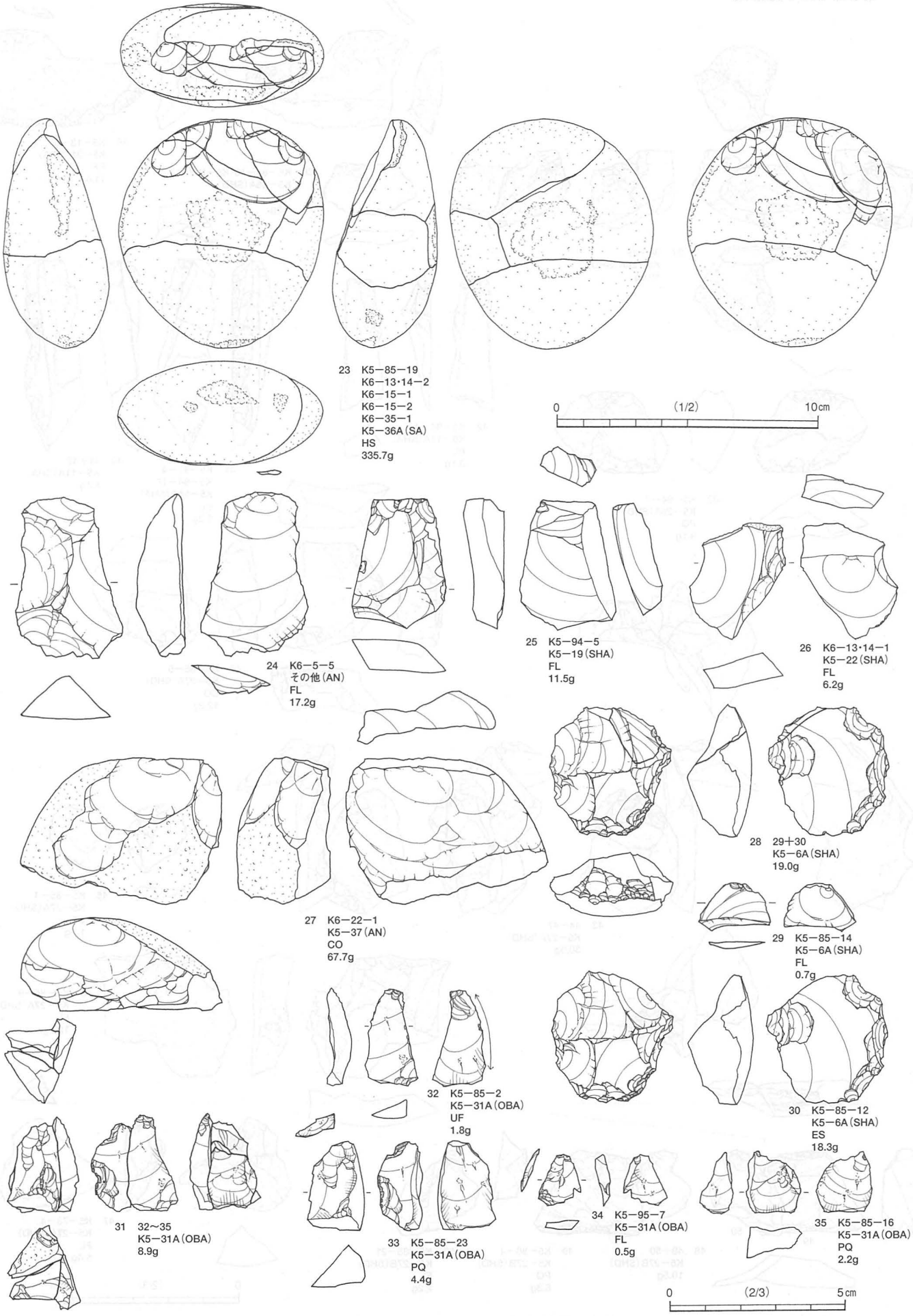
・K5-27（第93図）　灰オリーブ色（5Y4/2）などの硬質緻密な頁岩である。楔形石器1点，使用痕ある剥片1点，剥片8点，石核1点の合計11点で構成される。接合資料は，2グループある。A（43）は使用痕ある剥片1点（45），剥片2点（46・47），石核1点（44）の接合資料である。44・45と46・47を含む個体に分割され，打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。45は両面の一部に



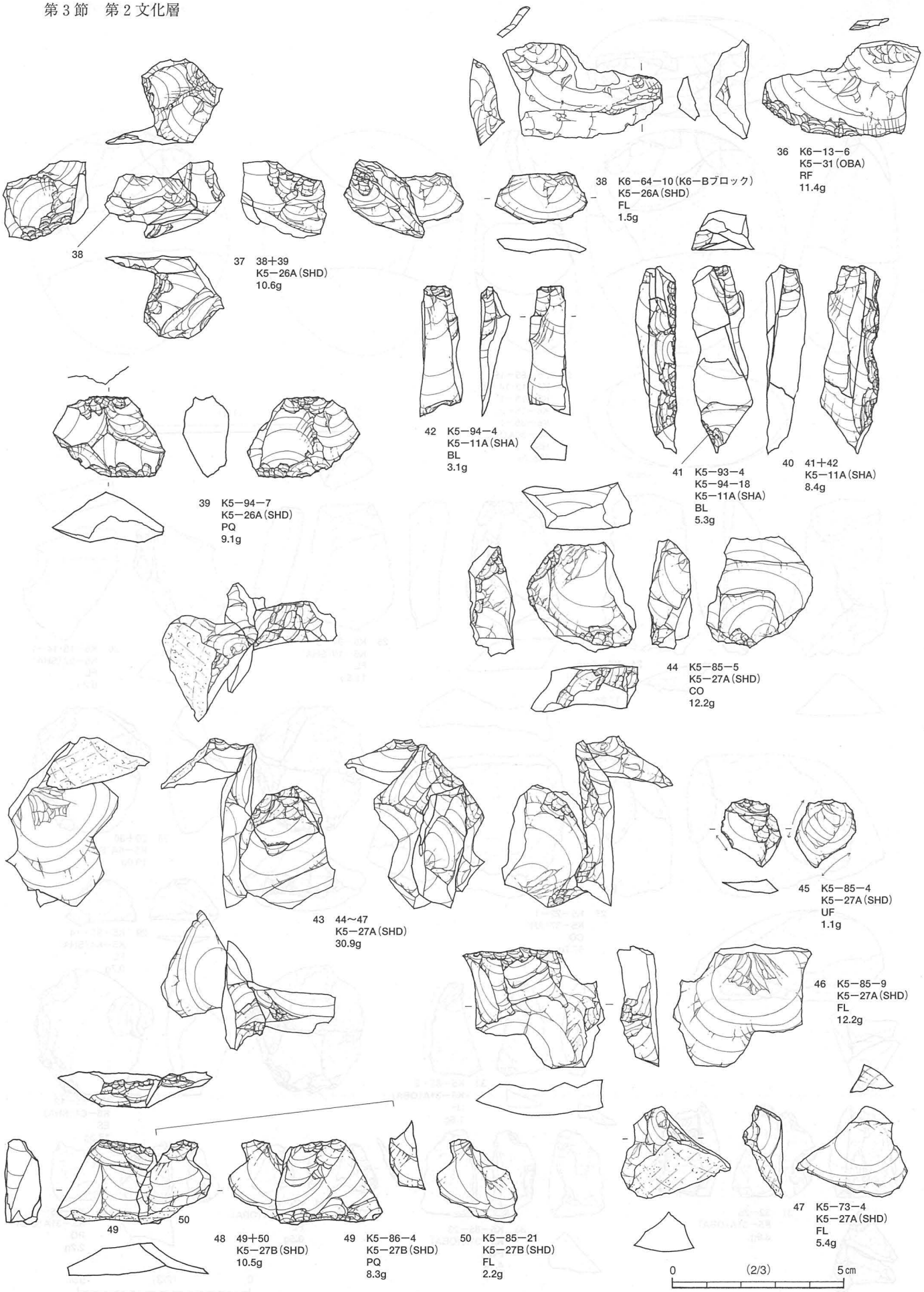
第90図　K5-Aブロック出土遺物（1）



第91図　Ｋ５-Ａブロック出土遺物（２）



第92図 K5-Aブロック出土遺物（3）



第93図　Ｋ５-Ａブロック出土遺物（４）

刃こぼれが見られる。B（48）は楔形石器1点（49），剥片1点（50）の接合資料である。49は両端に対向する剥離痕が見られる。

第57表　K5-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
K5-1(SHA)					1																				1
K5-2(SHA)					1																				1
K5-3(SHA)					1																				1
K5-4(SHA)					1																				1
K5-5(SHA)						1																			1
K5-6(SHA)					1													1							2
K5-7(SHA)						1																			1
K5-8(SHA)												1													1
K5-9(SHA)												1													1
K5-10(SHA)	1																								1
K5-11(SHA)												3(2)													3(2)
K5-12(SHA)									1																1
K5-13(SHA)									1																1
K5-14(SHA)									1																1
K5-15(SHA)									1																1
K5-16(SHA)									1																1
K5-17(SHA)									1																1
K5-18(SHA)											1														1
K5-19(SHA)																		1							1
K5-20(SHA)											1														1
K5-21(SHA)									1																1
K5-22(SHA)																		1							1
K5-23(SHA)	1																								1
K5-24(SHA)																		2							2
K5-25(SHC)																		2		1					3
K5-26(SHD)									1									4							5
K5-27(SHD)									1		1							8		1					11
K5-28(SHE)																		1							1
K5-29(SHE)												1													1
K5-30(CH)																		1		1					2
K5-31(OBA)									2	1	1							6							10
K5-32(OBB)											1							3							4
K5-33(OBB)																		2							2
K5-34(CC)																		2							2
K5-35(AN)																1									1
K5-36(SA)																5(1)									5(1)
K5-37(AN)																				1					1
K5-38(RH)																1									1
K5-39(TUA)																		1							1
その他(OBA)																		7	3						10
その他(OBB)																		6	1						7
その他(AN)									3									12	1						16
その他(RH)																		1							1
その他(SHA)																		17							17
その他(CH)																		6							6
その他(SA)																		3							3
その他(CC)									1																1
その他(UK)																		1							1
合　計	2				5	2			15	1	5	6(5)				7(3)		88	5	4					140(135)

第58表　Ｋ５-Ａブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
黒曜石A(OBA)									2	1	1							13	3						20
黒曜石B(OBB)											1							11	1						13
安山岩(AN)									3							1		12	1	1					18
流紋岩(RH)																1		1							2
頁岩A(SHA)	2				5	2			7		2	5(4)						22							45(44)
頁岩C(SHC)																		2		1					3
頁岩D(SHD)									2		1							12		1					16
頁岩E(SHE)												1						1							2
チャート(CH)																		7		1					8
凝灰岩A(TUA)																		1							1
砂岩(SA)																5(1)		3							8(4)
瑪瑙・玉髄(CC)									1									2							3
その他(UK)																		1							1
合　計	2				5	2			15	1	5	6(5)				7(3)		88	5	4					140(135)

9　K6-Ａブロック（第94～96・266図，第59・60表，カラー図版６，図版６）

１）ブロックの概要

K6-Ａブロックは，調査範囲西側のJ6-49・59・79・89，K6-61・70・71グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸11ｍ，短軸４ｍの範囲に24点の石器と７ｍほど離れて４点の石器が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅦ層にかけてで，40cmほどの高低差をもって包含されている（第94･95図）。

ブロックは，掻器２点，削器３点，楔形石器１点，使用痕ある剥片５点，石刃１点，剥片14点，砕片１点，石核１点の合計28点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ11点，黒曜石Ｃ１点，黒曜石Ｇ１点，頁岩Ａ12点，頁岩Ｂ２点，頁岩Ｅ１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは14母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（K6-11），黒曜石Ｃ１母岩（K6-16），黒曜石Ｇ１母岩（K6-15），頁岩Ａ８母岩（K6-1～8），頁岩Ｂ２母岩（K6-9・10），頁岩Ｅ１母岩（K5-28）である。岩識別した石器の石器総数に対する割合は89%（25/28点）である。

・**K5-28**：灰オリーブ色(5Y6/2)などの頁岩である。母岩の特徴はK5-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（3.4g）の単独資料であるが，K5-Ａブロックの剥片１点と接合している。

・**K6-1**：黒褐色（10YR3/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，掻器２点（32.7g）である。

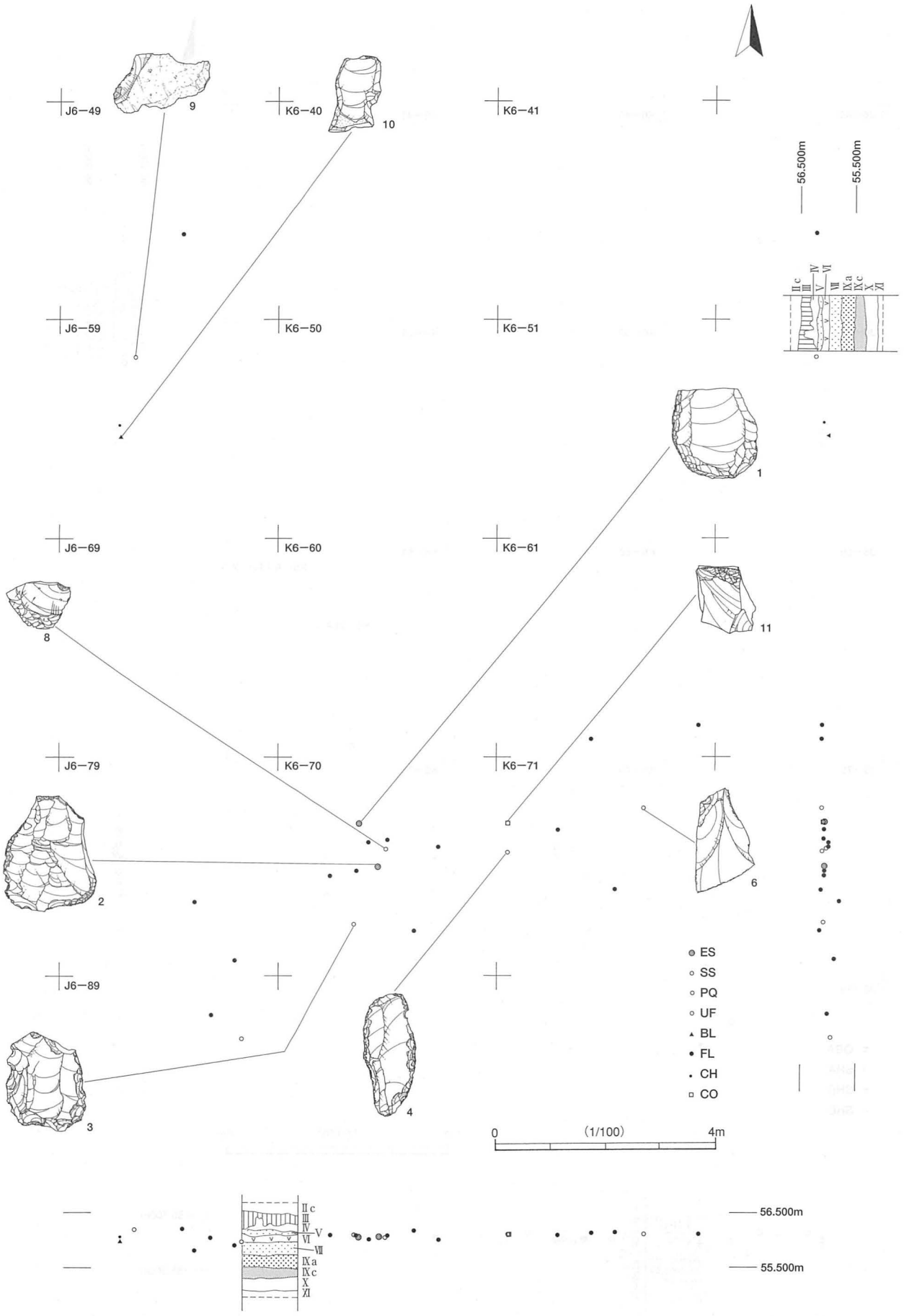
・**K6-2**：灰黄褐色（10YR5/2）・にぶい黄橙色（10YR6/3）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，削器１点（24.7g）の単独資料である。

・**K6-3**：灰黄褐色(10YR5/2)・褐灰色(10YR4/1)・灰黄色(2.5Y6/2)の東北産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点（9.5g）の単独資料である。

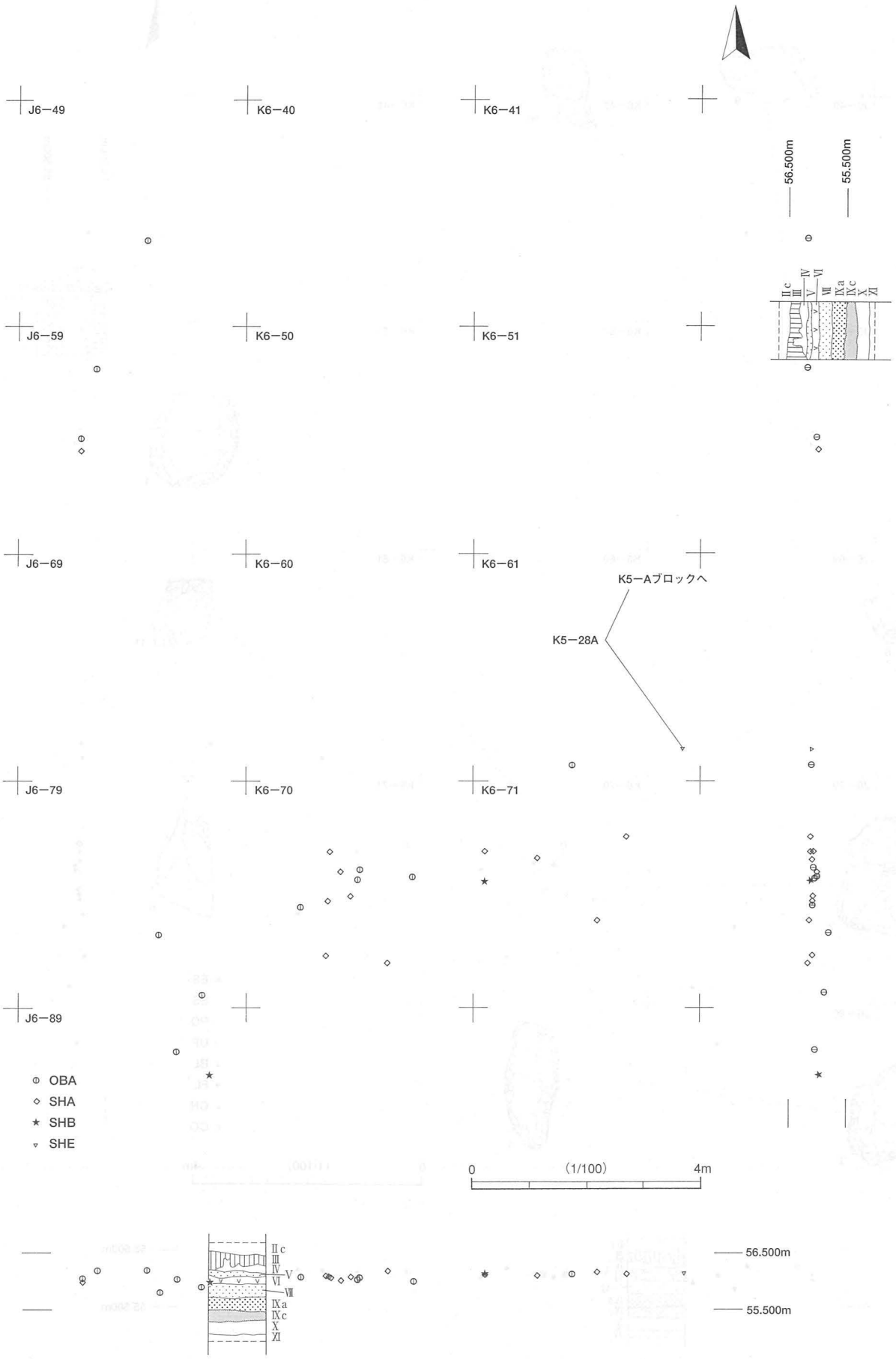
・**K6-4**：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒色（10YR2/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点（5.3g）の単独資料である。

・**K6-5**：自然面は平滑で灰黄色（2.5Y6/2），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（6.8g）の単独資料である。

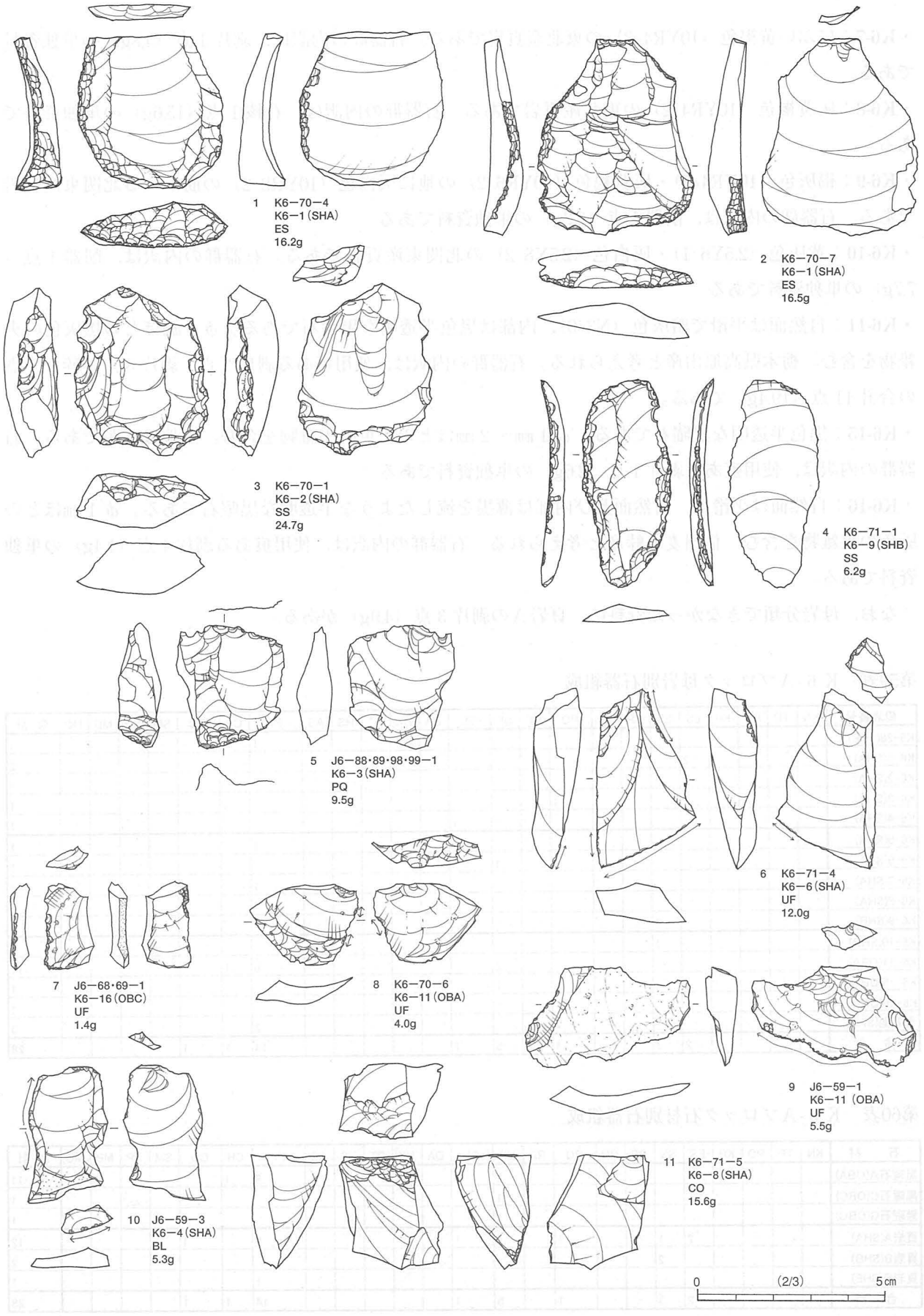
・**K6-6**：灰黄褐色（10YR4/2）・灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点（12.0g）の単独資料である。



第94図　K6-Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第95図　Ｋ６-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第96図　K6-Aブロック出土遺物

・**K6-7**：にぶい黄褐色（10YR4/3）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（4.8g）の単独資料である。

・**K6-8**：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石核１点（15.6g）の単独資料である。

・**K6-9**：褐灰色（10YR4/1）・灰黄褐色（10YR6/2）の地に灰白色（10YR8/2）の筋が入る北関東産頁岩である。石器群の内訳は，削器１点（6.2g）の単独資料である。

・**K6-10**：黄灰色（2.5Y6/1）・灰白色（2.5Y8/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，削器１点（7.7g）の単独資料である。

・**K6-11**：自然面は平滑で暗灰色（N3/0），内部は黒色半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの黒灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片２点，剥片８点，砕片１点の合計11点（19.4g）である。

・**K6-15**：黒色半透明な黒曜石である。φ１㎜～２㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。産地は不明である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点（2.6g）の単独資料である。

・**K6-16**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点（1.4g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，頁岩Ａの剥片３点（4.9g）がある。

第59表　Ｋ６-Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
K5-28(SHE)																		1							1
K6-1(SHA)					2																				2
K6-2(SHA)						1																			1
K6-3(SHA)									1																1
K6-4(SHA)												1													1
K6-5(SHA)																		1							1
K6-6(SHA)											1														1
K6-7(SHA)																		1							1
K6-8(SHA)																				1					1
K6-9(SHB)						1																			1
K6-10(SHB)						1																			1
K6-11(OBA)											2							8	1						11
K6-15(OBG)											1														1
K6-16(OBC)											1														1
その他(SHA)																		3							3
合　計					2	3			1		5	1						14	1	1					28

第60表　Ｋ６-Ａブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石A(OBA)											2							8	1						11
黒曜石C(OBC)											1														1
黒曜石G(OBG)											1														1
頁岩A(SHA)					2	1			1		1	1						5		1					12
頁岩B(SHB)						2																			2
頁岩E(SHE)																		1							1
合　計					2	3			1		5	1						14	1	1					28

3）出土遺物（第96図）

1・2は東北産頁岩による掻器である。寸詰まりの縦長剥片を素材として，左側縁から末端，さらに右側縁の一部にかけて90度近い急角度の調整加工を行っている。また，1は裏面右側縁にも細かい調整加工を行っている。3は東北産頁岩による削器である。寸詰まりの縦長剥片を素材として，打面側を除くほぼ全周に粗い多少鋸歯状の調整加工を行っている。また，末端は裏面からも調整加工を行っている。4は北関東産頁岩による削器である。石刃を素材として，両側縁に細かい調整加工を行っている。5は東北産頁岩による楔形石器である。両端に対向する剥離痕が見られる。

6は東北産頁岩，7は信州麦草峠産の黒曜石，8・9は栃木県高原山産の黒曜石による使用痕ある剥片である。6は表面末端・両側縁の一部と裏面末端の一部，7は表面左側縁と裏面右側の上部，8は表面右側縁の一部と裏面左側縁の一部，9は裏面末端に刃こぼれが見られる。10は東北産頁岩による石刃である。左側縁と末端側の折断面に刃こぼれが見られる。11は東北産頁岩による石核である。剥片を素材として，小型で不定型な剥片を剥離している。

10　K6-Bブロック（第97～99・266図，第61・62表，カラー図版6，図版8）

1）ブロックの概要

K6-Bブロックは，調査範囲西側のK6-63～65・73・74グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸7m，短軸5mの範囲に23点の石器が分布する。出土層位は，Ⅳ層からⅦ層にかけてで，50cmほどの高低差をもって包含されている（第97・98図）。

ブロックは，掻器1点，削器2点，楔形石器3点，加工痕ある剥片1点，石刃1点，剥片13点，砕片1点，石核1点の合計23点で構成される。石器石材は，黒曜石A4点，黒曜石B5点，安山岩9点，頁岩A3点，頁岩B1点，頁岩D1点である。

第61表　K6-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
K5-26(SHD)																		1							1
K6-12(SHA)					1																				1
K6-13(SHA)									1																1
K6-14(OBA)										1		1						2							4
その他(OBB)																		4	1						5
その他(AN)						2			2									4		1					9
その他(SHA)																		1							1
その他(SHB)																		1							1
合　計					1	2			3	1		1						13	1	1					23

第62表　K6-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石A(OBA)										1		1						2							4
黒曜石B(OBB)																		4	1						5
安山岩(AN)						2			2									4		1					9
頁岩A(SHA)					1				1									1							3
頁岩B(SHB)																		1							1
頁岩D(SHD)																		1							1
合　計					1	2			3	1		1						13	1	1					23

２）母岩の特徴と内容

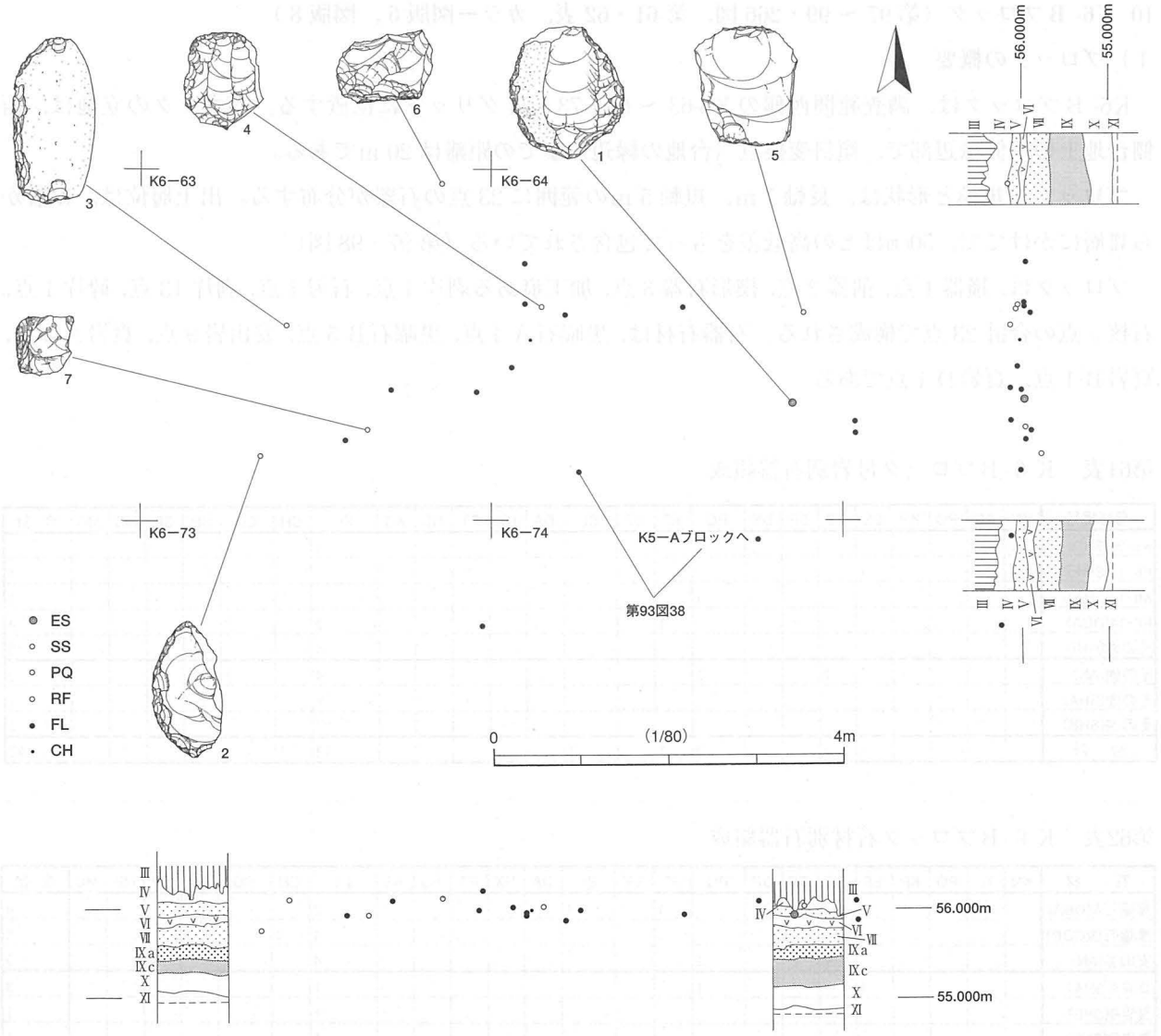
本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（K6-14），頁岩Ａ２母岩（K6-12・13），頁岩Ｄ１母岩（K5-26）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は30%（7/23点）である。

・**K5-26**：灰色（7.5Y5/1）などの硬質緻密な頁岩である。母岩の特徴はK5-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点(1.5g)の単独資料であるが，K5-Ａブロックの楔形石器１点と接合している。その他に同一母岩がK5-Ａブロックに４点ある。

・**K6-12**：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色（5Y5/2），内部は黒褐色（10YR3/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，掻器１点（21.2g）の単独資料である。

・**K6-13**：灰黄褐色（10YR5/2）・灰黄褐色（10YR6/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点（11.9g）の単独資料である。

・**K6-14**：自然面は比較的平滑で暗灰色（N3/0），内部は黒灰色半透明な黒曜石である。φ１㎜～２㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，石刃１点，剥片２点の合計４点（18.9g）である。

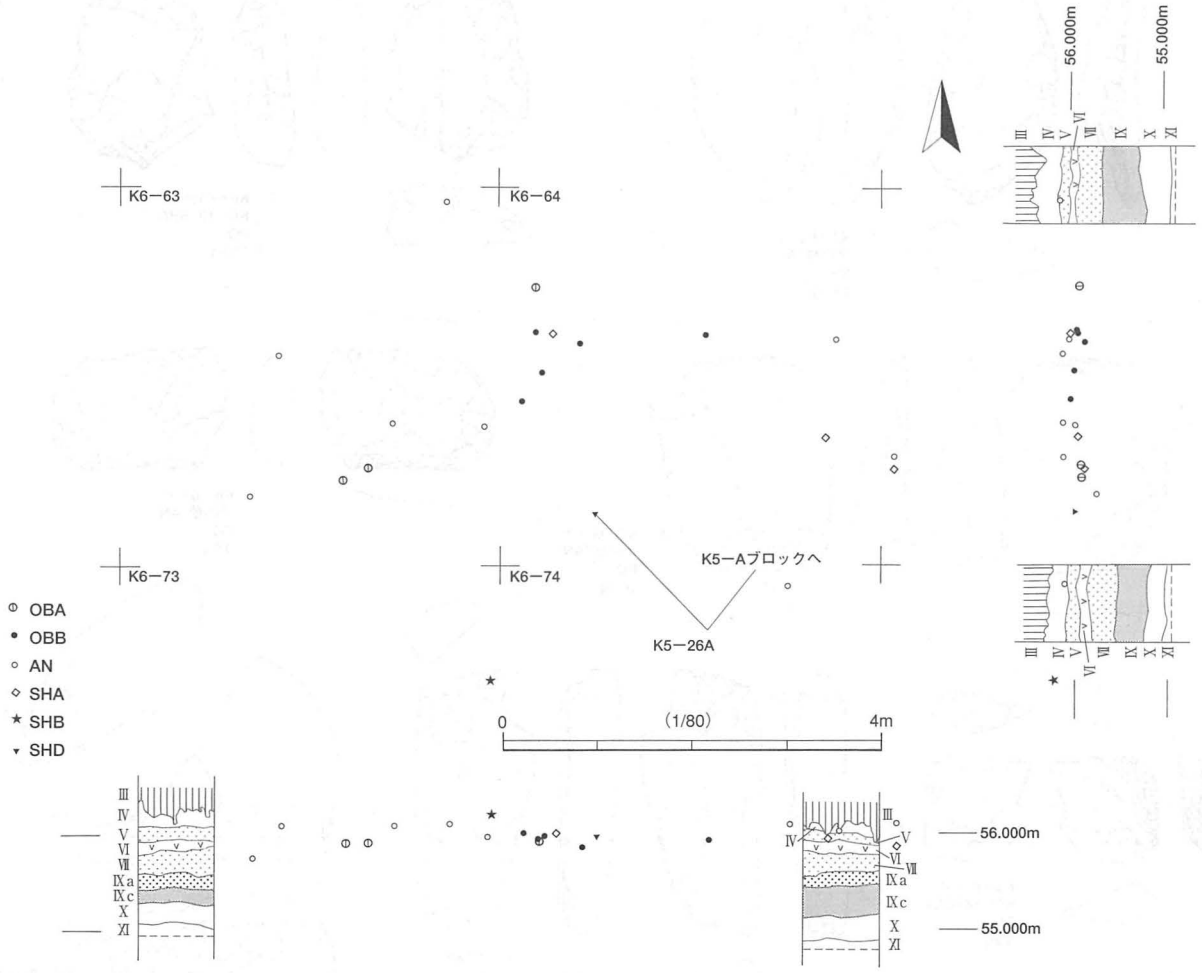


第97図　Ｋ６-Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

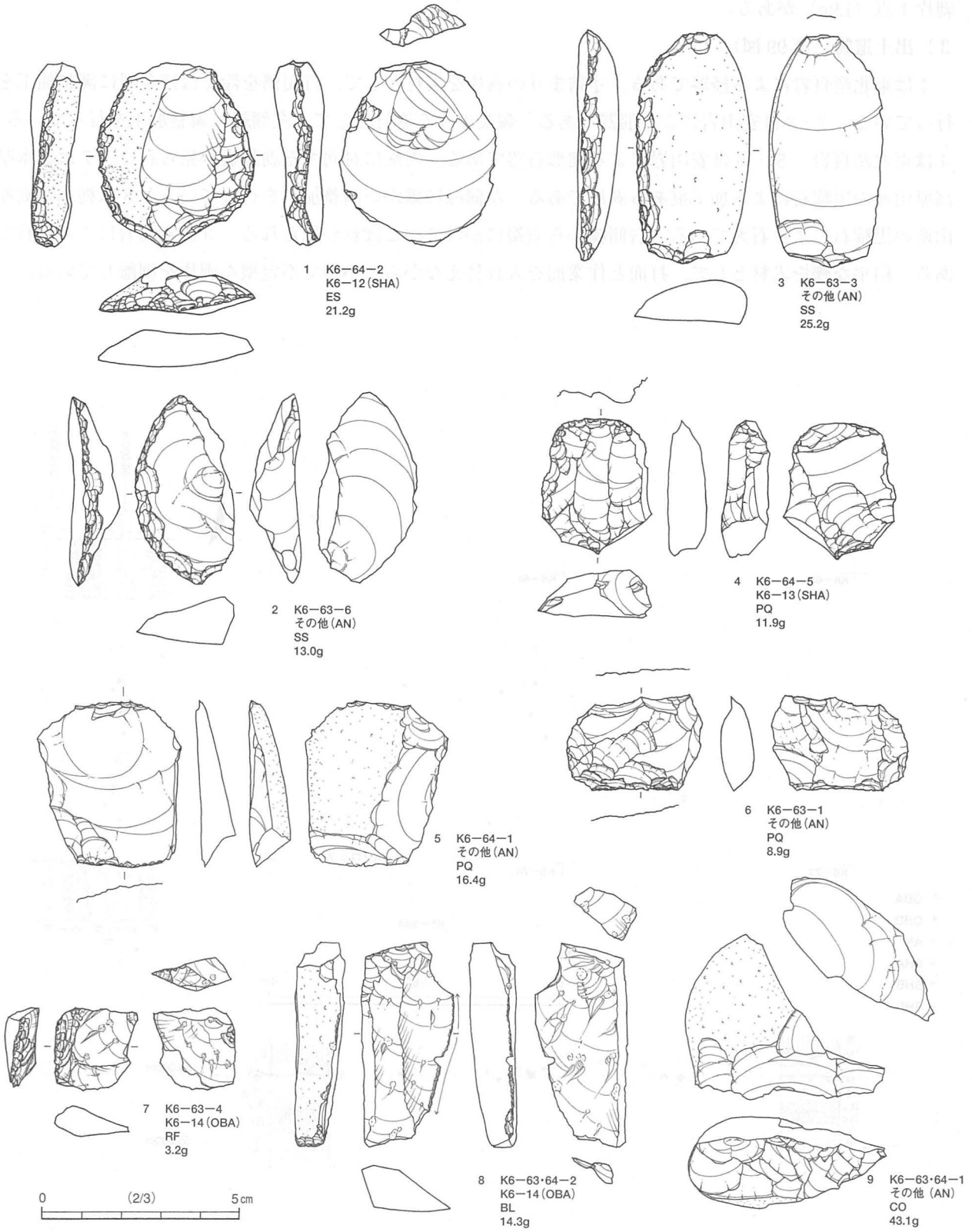
なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｂの剥片４点，砕片１点の合計５点（2.2g），安山岩の削器２点，楔形石器２点，剥片４点，石核１点の合計９点（136.0g），頁岩Ａの剥片１点（0.7g），頁岩Ｂの剥片１点（1.9g）がある。

３）出土遺物（第99図）

１は東北産頁岩による掻器である。寸詰まりの剥片を素材として，打面側を除くほぼ全周に調整加工を行っている。２・３は安山岩による削器である。縦長剥片を素材として，左側縁に調整加工を行っている。４は東北産頁岩，５・６は安山岩による楔形石器である。両端に対向する剥離痕が見られる。７は栃木県高原山産の黒曜石による加工痕ある剥片である。左側縁に細かい調整加工を行っている。８は栃木県高原山産の黒曜石による石刃である。右側縁から末端にかけて刃こぼれが見られる。９は安山岩による石核である。扁平な礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，小型で不定型な剥片を剥離している。



第98図　Ｋ６-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第99図　K６-Bブロック出土遺物

11 K7- Aブロック（第100～115・266図，第63～65表，カラー図版6～9・20，図版7）

1）ブロックの概要

K7- Aブロックは，調査範囲西側のJ7-29・39・49，K7-00～03・10～13・20～22・30～32・40～42・44・50～54・62・63グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は25 mである。

ブロックの規模と形状は，長軸30 m，短軸18 mの範囲に499点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅨc層にかけてで，140cmほどの高低差をもっているが，中心はⅥ層からⅦ層にかけてで，60cmほどの高低差をもって包含されている（第100～104図）。

ブロックは，ナイフ形石器16点，掻器1点，削器1点，楔形石器19点（16個体），加工痕ある剥片12点，使用痕ある剥片23点，石刃43点（40個体），敲石1点，剥片328点（324個体），砕片47点，石核7点（6個体）の合計498点（487個体）と礫1点で構成される。石器石材は，黒曜石A 1点，黒曜石B 186点（183個体），黒曜石C 3点，黒曜石D 1点，黒曜石G28点，流紋岩1点，頁岩A 111点（105個体），頁岩E 3点，凝灰岩A 3点，砂岩2点，ホルンフェルス1点，瑪瑙・玉髄158点（156個体）である。礫石材は，砂岩1点（1母岩；14.2g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは47母岩を識別した。内訳は，黒曜石B 9母岩（K7-29～37），黒曜石C 1母岩（K7-38），黒曜石D 1母岩（K7-39），流紋岩1母岩（K7-28），頁岩A 21母岩（K7-1～21），頁岩E 1母岩（K7-22），凝灰岩A 2母岩（K7-23・24），瑪瑙・玉髄11母岩（K7-25～27・40～47）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は60%（299/498点）である。

・**K7-1**：暗灰黄色(2.5Y5/2)の資料，暗灰黄色(2.5Y4/2)の資料，黒褐色(10YR3/2)の資料など母岩内での変異がある東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点，剥片2点，石核2点(1個体)の合計5点（4個体；19.5g)である。接合資料は，石刃1点，石核2点(1個体)の合計3点(2個体;15.9g)である。

・**K7-2**：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。黒褐色（10YR3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片2点の合計3点（9.0g）である。接合資料は，楔形石器1点，剥片2点の合計3点（9.0g）である。

・**K7-3**：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。黒褐色（10YR3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（21.9g）である。接合資料は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（21.9g）である。

・**K7-4**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。黒褐色（10YR3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，剥片4点，石核1点の合計5点（65.0g）である。接合資料は，剥片2点（17.4g）である。

・**K7-5**：内部は灰黄褐色（10YR4/2），節理は灰黄色（2.5Y6/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，楔形石器5点（3個体），使用痕ある剥片1点，剥片2点の合計9点（7個体；67.2g）である。接合資料は，2グループあり，Aは楔形石器1点，剥片1点の合計2点（10.9g），Bは楔形石器3点（1個体；18.5g）である。

・**K7-6**：内部は黄灰色（2.5Y4/1）の地に明黄褐色（10YR7/6）の砂粒が部分的に混じり，新鮮な面は黒褐色（2.5Y3/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃4点（3個体），剥片1点の合計5点（4個

体；26.5g）である。接合資料は，石刃2点（1個体；4.9g）である。

・K7-7：黒褐色（2.5Y3/1）・暗褐色（10YR3/3）・黒色（N2/0）・黒褐色（2.5Y3/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点，剥片3点（1個体）の合計4点（2個体；18.7g）である。接合資料は，剥片3点（1個体；16.1g）である。

・K7-8：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y5/2），内部は黒褐色（2.5Y3/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，楔形石器1点，石刃1点，剥片1点，石核1点の合計5点（38.2g）である。接合資料は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（5.7g）である。

・K7-9：黒褐色（2.5Y3/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（15.4g）である。

・K7-10：灰黄褐色（10YR4/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片4点（12.1g）である。

・K7-11：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/4），内部はにぶい黄褐色（10YR5/3）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点（4.1g）の単独資料である。

・K7-12：灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点（4.1g）の単独資料である。

・K7-13：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。黒褐色（10YR3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点（24.2g）の単独資料である。

・K7-14：内部及び新鮮な面は黒褐色（10YR3/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点（6.0g）の単独資料である。

・K7-15：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。黒褐色（10YR3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，楔形石器1点（8.9g）の単独資料である。

・K7-16：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。黒褐色（10YR3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，楔形石器1点（10.5g）の単独資料である。

・K7-17：自然面は平滑で灰黄色（2.5Y6/2），内部は黒褐色（10YR3/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点（19.3g）の単独資料である。

・K7-18：灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。褐灰色（10YR4/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，剥片1点（10.8g）の単独資料である。

・K7-19：自然面は凹凸が顕著で黒褐色（7.5YR3/2），内部はオリーブ黒色（7.5Y3/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（10.7g）の単独資料である。

・K7-20：内部及び新鮮な面はにぶい黄褐色（10YR5/3）の地に褐灰色（10YR5/1）が部分的に混じる東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（21.0g）の単独資料である。

・K7-21：にぶい黄色（2.5Y6/3）の東北産頁岩である。暗灰黄色（2.5Y4/2）の付着物が見られる。石器群の内訳は，剥片1点（25.4g）の単独資料である。

・K7-22：明黄褐色（2.5Y7/6）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（11.8g）である。

・K7-23：内部及び新鮮な面はオリーブ灰色（10Y4/2）の地ににぶい赤褐色（5YR4/4）が部分的に混じる緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃1点，剥片1点の合計2点（32.7g）である。

・K7-24：オリーブ灰色（10Y5/2）の緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片1点（1.1g）の単独資料である。

・K7-25：黒褐色（10YR3/1）・黄褐色（10YR5/6）・明黄褐色（10YR7/6）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片2点，石刃1点，剥片5点の合計8点（23.0g）である。接合資料は，使用痕ある剥片1点，石刃1点の合計2点（8.1g）である。

・K7-26：暗灰黄色（2.5Y4/2）・褐色（10YR4/6）・黒褐色（10YR3/2）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片5点（12.9g）である。接合資料は，剥片2点（9.0g）である。

・K7-27：暗灰黄色（2.5Y4/2）・淡黄色（2.5Y8/4）・灰白色（2.5Y8/1）の地に黄褐色（2.5Y5/3）の縞が入る瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，石核1点（20.7g）の単独資料である。

・K7-28：自然面は平滑で灰オリーブ色（7.5Y6/2）の地にオリーブ褐色（2.5Y4/4）・浅黄色（2.5Y7/4）・黄灰色（2.5Y5/1）・灰黄色（2.5Y7/2）の点紋が入る流紋岩である。石英の結晶が顕著である。石器群の内訳は，敲石1点（133.0g）の単独資料である。

・K7-29：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，石刃5点（4個体），剥片13点の合計19点（18個体；137.8g）である。接合資料は，2グループあり，Bは石刃2点（1個体；2.4g），Cは剥片2点（1.0g）である。，

・K7-30：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片8点の合計9点（16.2g）である。

・K7-31：自然面は平滑で多少凹凸があり，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。φ1㎜ほどの夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片7点の合計8点（20.1g）である。

・K7-32：自然面は比較的平滑で灰色（N4/0）の資料と灰白色（N8/0）の資料があり，内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器2点，楔形石器1点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，石刃5点，剥片17点（16個体）の27点（26個体;55.9g）である。接合資料は，2グループあり，Aは石刃2点（2.5g），Bは剥片2点（1個体;1.3g）である。

・K7-33：自然面は紙ヤスリ状で，自然面・内部・新鮮な面は透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。光沢に若干差が見られるが，被熱によるものかもしれない。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器1点，石刃3点（2個体），剥片3点の合計7点（6個体;14.6g）である。接合資料は，2グループあり，Aは石刃2点（1個体；4.7g），Bは剥片2点（2.5g）である。

・K7-34：自然面は平滑で，自然面及び内部は透明な黒曜石である。φ6㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃2点，剥片2点の合計4点（17.1g）である。

・K7-35：黒灰色半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，楔形石器1点の合計2点（7.9g）である。

・K7-36：自然面は平滑で灰黄色（2.5Y7/2），内部は半透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片5点（10.1g）である。

・K7-37：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（7.2g）である。接合資料は、楔形石器1点，剥片1点の合計2点（7.2g）である。

・K7-38：薄墨を流したような透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，剥片3点（4.6g）である。

・K7-39：黒灰色半透明な地に繊維状のモヤが入る黒曜石である。箱根・畑宿産としたが，別な産地も考えられる。石器群の内訳は，掻器1点（6.7g）の単独資料である。

・K7-40：灰白色（2.5Y8/1）の地に明黄褐色（10YR6/6）が部分的に混じる資料，灰白色（2.5Y8/1）・浅黄色（2.5Y7/4）の地ににぶい黄褐色（10YR5/4）が部分的に混じる資料など母岩内での変異がある瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，楔形石器1点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片3点，石刃9点，剥片29点，砕片2点，石核2点の合計47点（238.3g）である。接合資料は，5グループあり，Aは石刃2点（28.2g），Bは剥片1点，石核1点の合計2点（25.4g），Cは剥片3点（18.7g），Dは楔形石器1点，剥片3点の合計4点（17.9g），Eは剥片2点（8.3g）である。

・K7-41：淡黄色（2.5Y8/4）半透明な地に灰白色（2.5Y8/1）・灰白色（2.5Y7/1）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，削器1点，加工痕ある剥片3点，剥片4点の合計8点（46.9g）である。

・K7-42：褐色（10YR4/4）・黒褐色（10YR3/1）半透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片3点，剥片3点，砕片1点の合計8点（9.9g）である。

・K7-43：半透明な明黄褐色（2.5Y6/6）・黄褐色（10YR5/6）の地に不透明な灰白色（5Y8/1）・灰白色（2.5Y8/1）が混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片2点，剥片26点，砕片2点の合計30点（78.8g）である。接合資料は、剥片2点（24.6g）である。

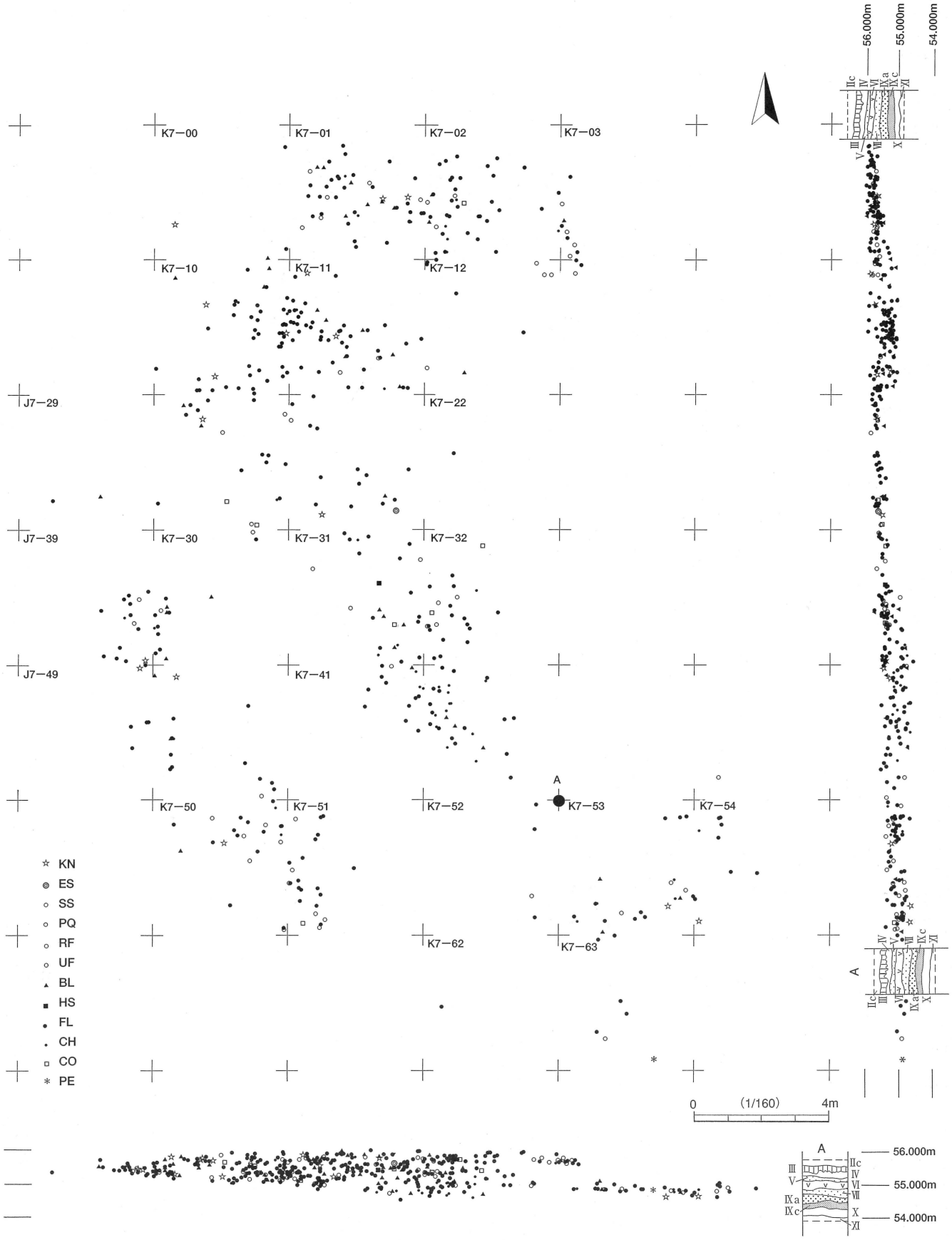
・K7-44：自然面は凹凸がありオリーブ黒色（5Y3/1），内部は暗赤褐色（2.5YR3/3）・灰白色（5Y8/1）の地に浅黄橙色（10YR8/3）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片2点，剥片9点（8個体），砕片1点の合計12点（11個体；26.0g）である。接合資料は、2グループあり、Aは剥片3点（6.1g）、Bは剥片2点（1個体；1.0g）である。

・K7-45：にぶい黄褐色（10YR5/4）の地に灰白色（2.5Y8/1）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，楔形石器1点，使用痕ある剥片1点，剥片9点の合計11点（27.3g）である。接合資料は、剥片3点（6.1g）である。

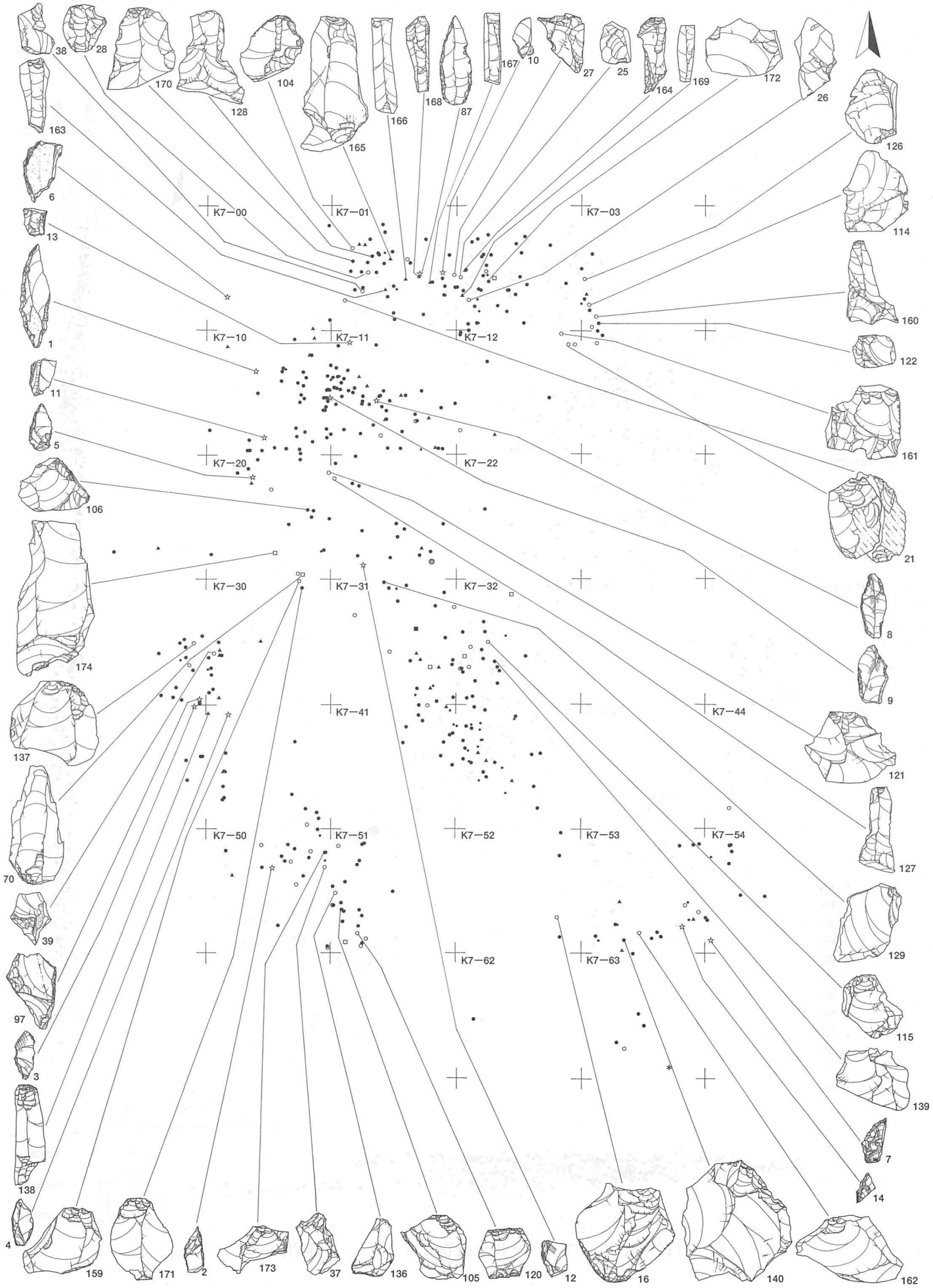
・K7-46：内部は半透明な褐色（10YR4/4）・不透明な灰白色（5Y8/2）の地に黄褐色（10YR5/6）・灰白色（N7/0）・淡黄色（2.5Y8/4）が部分的に混じり，新鮮な面は灰白色（N8/0）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，楔形石器2点（1個体），剥片1点の合計3点（2個体；49.9g）である。接合資料は、楔形石器2点（1個体；28.7g）である。

・K7-47：黄褐色（10YR5/6）・淡黄色（2.5Y8/4）の資料，灰白色（N8/0）・黒褐色（10YR3/1）・にぶい黄橙色（10YR7/4）の資料など母岩内での変異ある瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片4点，使用痕ある剥片1点，石刃1点，剥片12点の合計18点（87.7g）である。接合資料は、加工痕ある剥片3点，剥片2点の合計5点（14.2g）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Aの剥片1点（1.0g），黒曜石Bのナイフ形石器3点，楔形石器1点，使用痕ある剥片1点，石刃5点，剥片89点，砕片4点の合計103点（84.3g），黒曜石Gのナイフ形石器1点，剥片1点，砕片26点の合計28点（3.6g），頁岩Aのナイフ形石器6点，使用痕ある剥片3点，石刃2点，剥片40点，砕片5点の合計56点（58.8g），頁岩Eの剥片1点（4.4g），砂岩の剥片2点（30.0g），ホルンフェルスの砕片1点（0.1g），瑪瑙・玉髄の剥片2点，砕片5点の合計7点（31.0g）

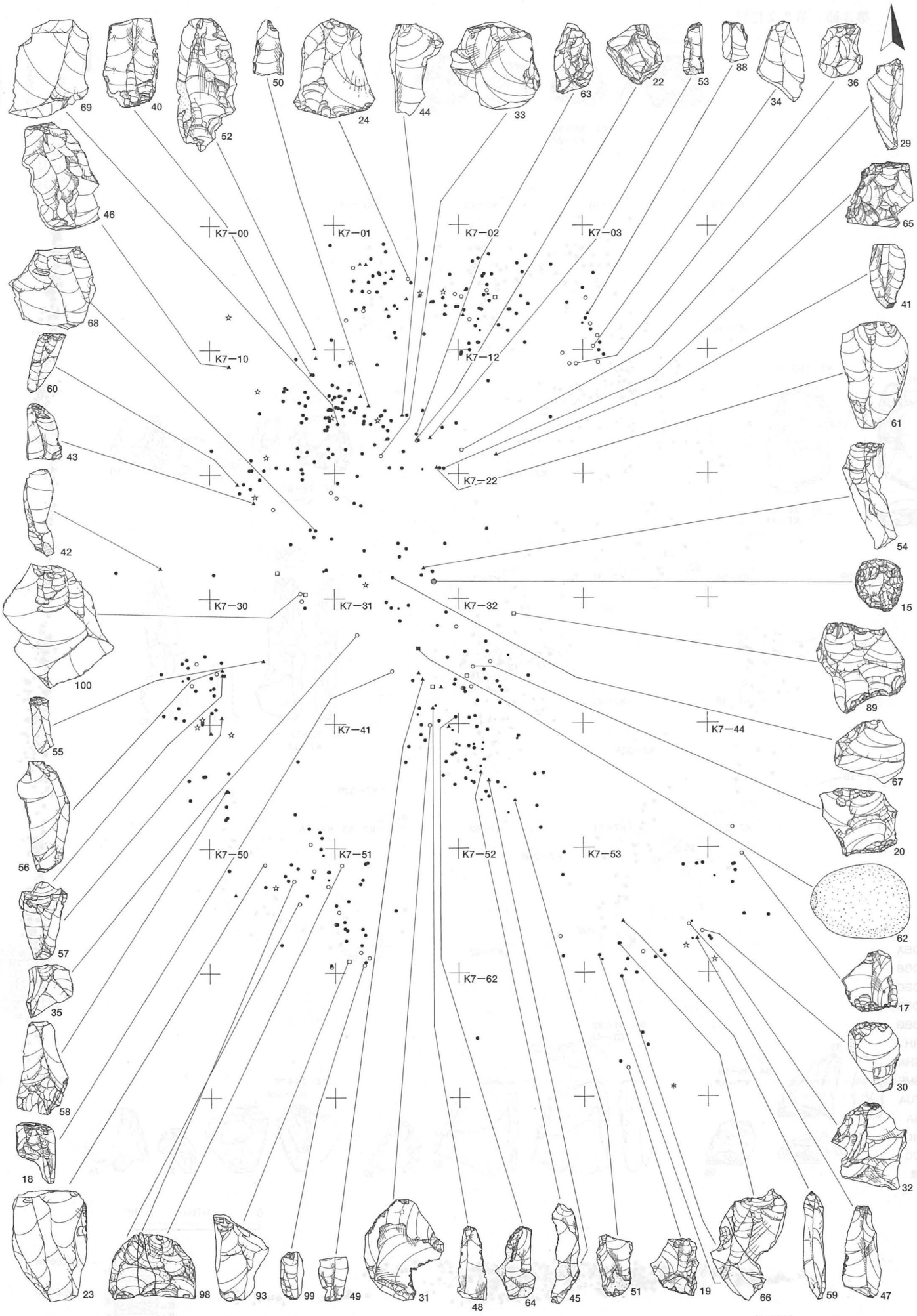


第100図　K７-Aブロック出土遺物分布（１）－石器別分布（１）－

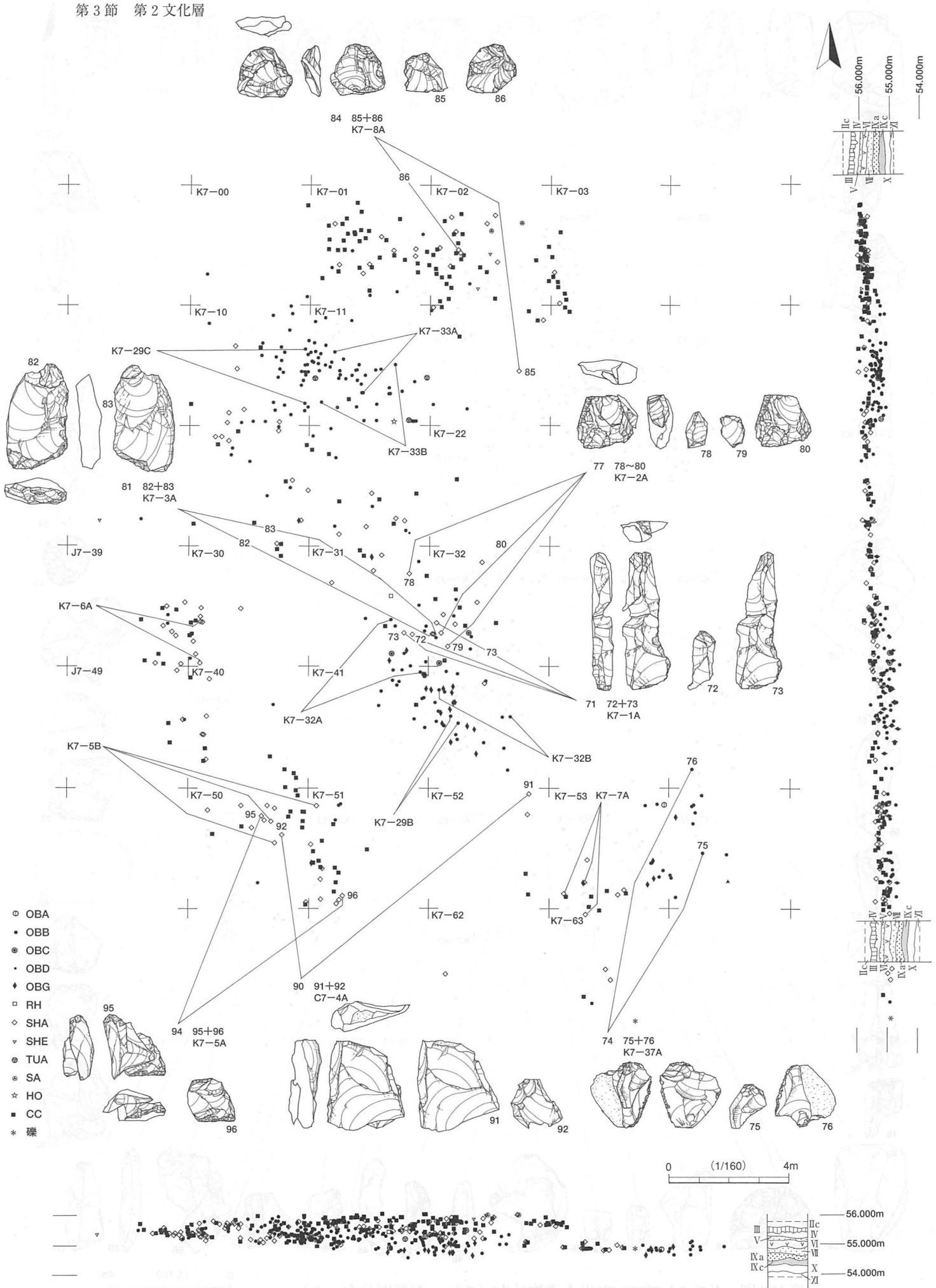


第101図　K7-Aブロック出土遺物分布（2）－石器別分布（2）－

0　(1/160)　4m



第102図　K7-Aブロック出土遺物分布（3）－石器別分布（3）－



第103図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物分布（４）－石材別分布（１）－

第104図　K 7 - Aブロック出土遺物分布（5）－石材別分布（2）－

がある。

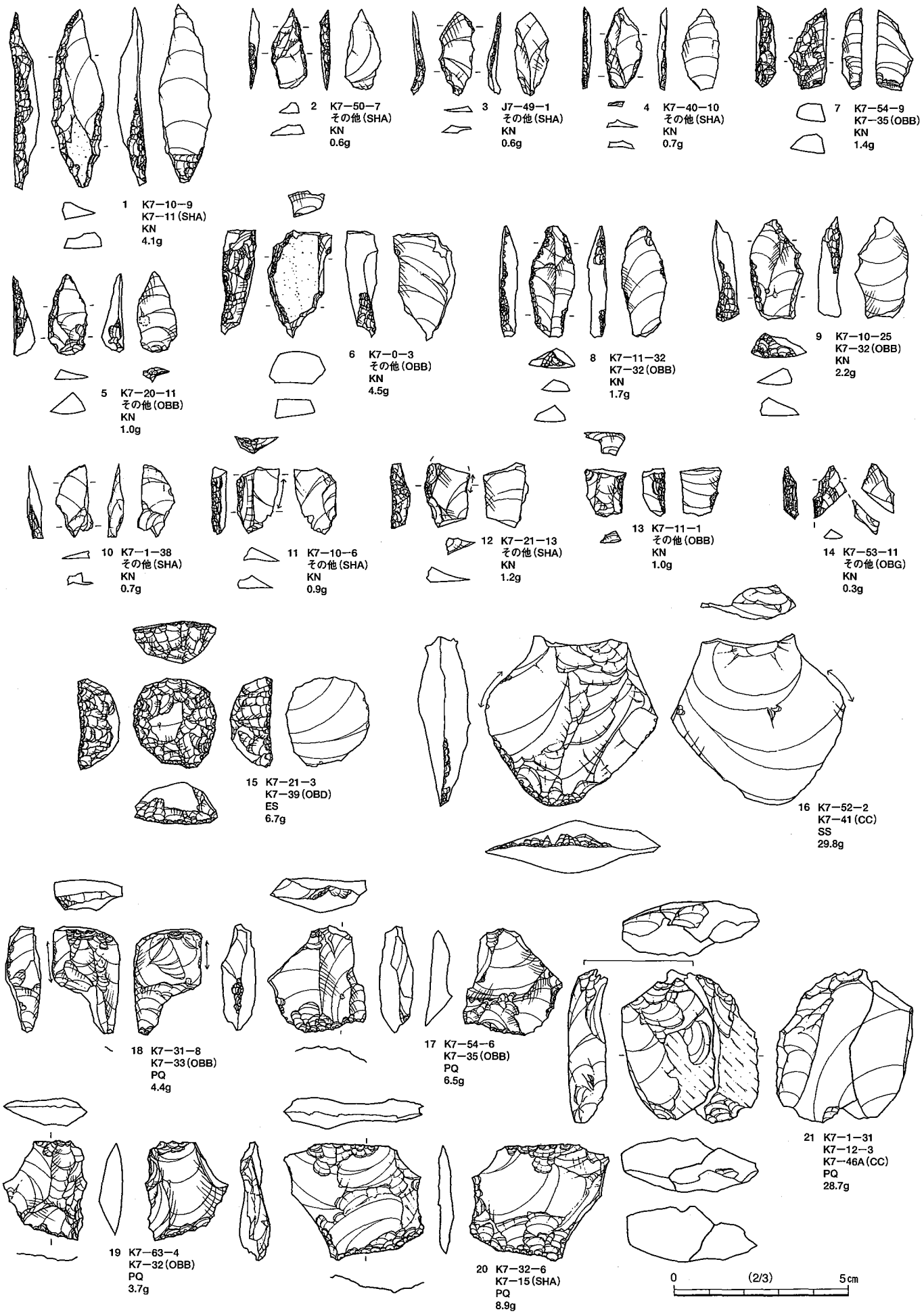
3）出土遺物（第105～108図）

1～4・10～12は東北産頁岩，5～9・13は信州和田峠周辺産の黒曜石，14は産地不明の黒曜石によるナイフ形石器で，1～6・8は二側縁加工，7・11・13は一側縁加工，9・10は部分加工，12・14は欠損のため形態は不明である。1・4～8は石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材として，打面側を基部とし，9・13は石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材として，打面側を先端部とし，2・3・10・11は不定型な剥片などを横位に用いている。11は折断面にも調整加工が見られ，右側縁の刃部には刃こぼれも見られる。12は右側縁の刃部の一部に刃こぼれが見られる。15は箱根・畑宿産の黒曜石による掻器である。全周に90度近い急角度の調整加工を行っている。16は瑪瑙・玉髄による削器である。不定型な剥片を素材として，左側縁から末端にかけて細かい調整加工を行っている。表面右側縁の一部と裏面右側縁の一部に刃こぼれが見られる。17～19は信州和田峠周辺産の黒曜石，20は東北産頁岩，21は瑪瑙・玉髄による楔形石器であり，両端に対向する剥離痕が見られる。18は表面左側縁，裏面右側縁に刃こぼれが見られる。21は2点が接合して1個体となる。22は信州和田峠周辺産の黒曜石，23･24は東北産頁岩，25～28は瑪瑙・玉髄による加工痕ある剥片である。22・24は末端，23は末端と右側縁の一部，25は打面側，26・28は右側縁，27は左側縁に調整加工を行っており，27は両側縁に刃こぼれが見られる。29～33は信州和田峠周辺産の黒曜石，34～36は東北産頁岩，37～39は瑪瑙・玉髄による使用痕ある剥片である。29は表面左側縁と裏面右側縁，30は両側縁，31・35・38は末端と左側縁の一部，33は表面右側縁と裏面左側縁，34は右側縁，36は末端，37は左側縁，39は裏面右側縁に刃こぼれが見られる。なお，32は明確な刃こぼれが見られないことから，剥片の可能性が高いかもしれない。40～53は信州和田峠周辺産の黒曜石，54～60は東北産頁岩，61は緑色凝灰岩による石刃である。40・48は両面両側縁，41・57は右側縁，42は表面両側縁と裏面右側縁，43は裏面左側縁，44・54は表面左側縁と裏面右側縁，45は表面両側縁と裏面右側縁，46は表面右側縁と裏面両側縁の一部，47・55は左側縁，50・53は左側縁下部，51は末端に刃こぼれが見られる。59は裏面基部に調整加工が見られる。70の様な石刃を素材とした石核から剥離されたものと考えられる。57は2点が接合して1個体となる。62は流紋岩による敲石としたが，左側縁の先端の浅い敲打痕は明確なものではない。63～65は信州和田峠周辺産の黒曜石，66～68は東北産頁岩，69は緑色凝灰岩による剥片である。63・64は石刃状の縦長剥片である。65・68などは打面調整等に関係する剥片であろうか。66は3点が接合して1個体となる。70は瑪瑙・玉髄による石核である。上部から両側縁側に小石刃状の剥離痕が見られる。加工痕のある石刃を素材とした石核であるが，裏面右側縁に細かい剥離痕が見られることから，これらの側縁の剥離痕は刃部再生に伴う可能性もある。

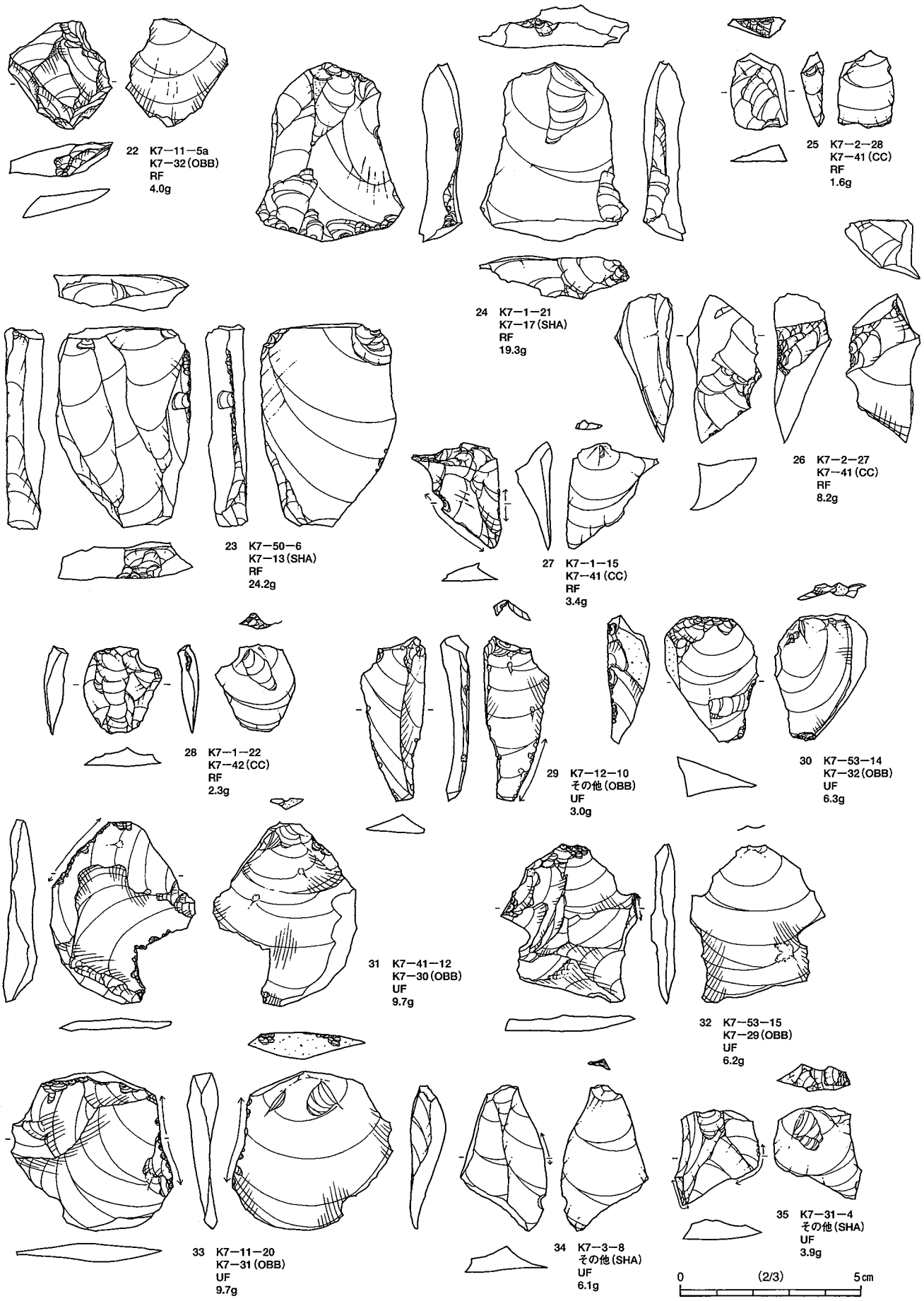
4）接合資料とその関連資料（第109～115図）

・K7-1（第109図）　暗灰黄色（2.5Y5/2）などの東北産頁岩である。石刃1点，剥片2点，石核2点（1個体）の合計5点（4個体）で構成される。71は石刃1点（72），石核2点（1個体；73）の接合資料である。加工痕のある石刃を素材とした石核で，両端から両側縁側に小石刃状の剥離痕が見られる。表面右側縁に細かい剥離痕が見られることから，これらの側縁の剥離痕は刃部再生に伴う可能性もある。

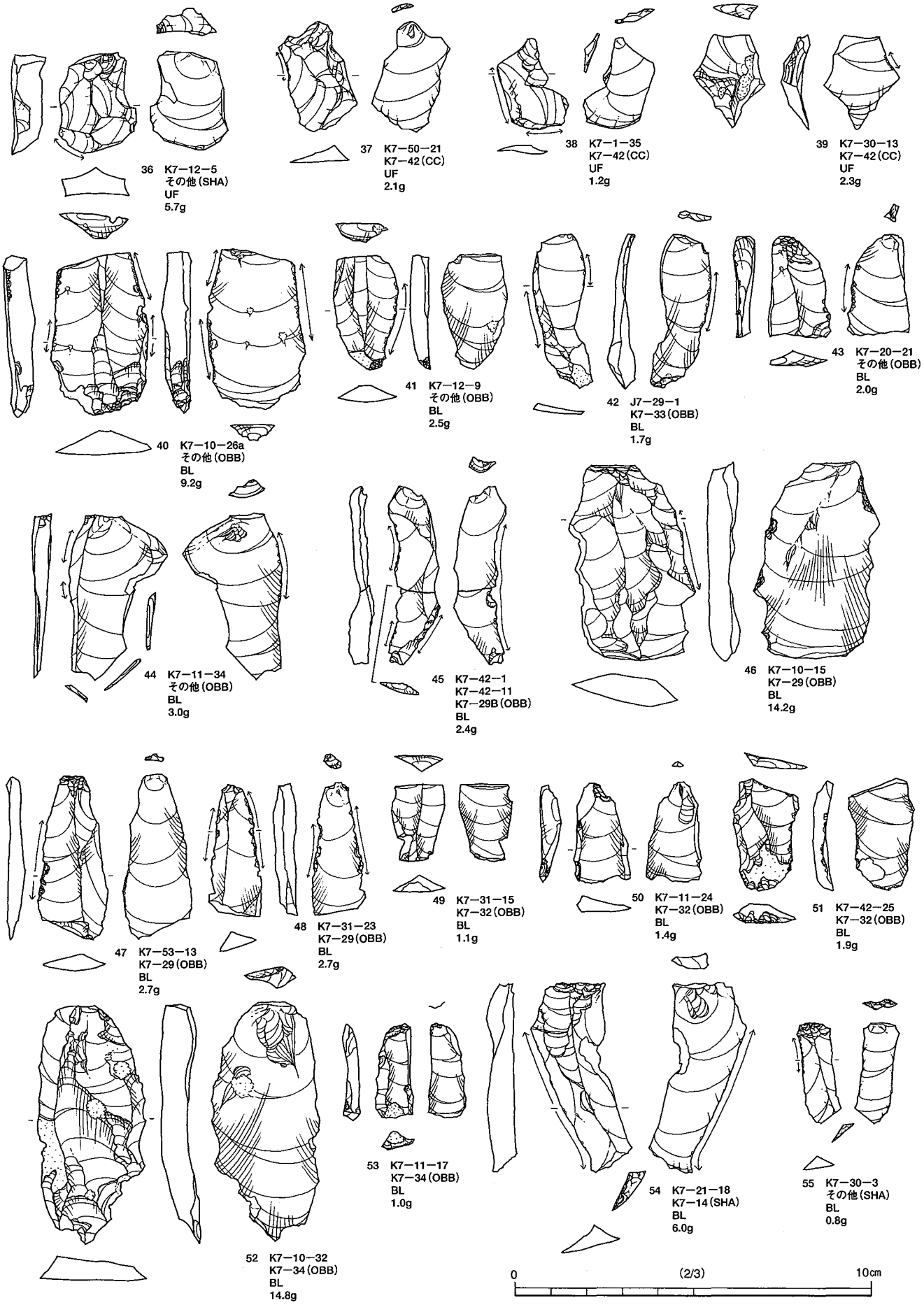
・K7-37（第109図）　黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。楔形石器1点，剥片1点の合計2点で構成される。74は楔形石器1点（76），剥片1点（75）の接合資料である。76は両端に対向する剥離痕，表面左側縁と裏面右側縁に細かい剥離痕が見られ，両面両側縁に刃こぼれも見られる。



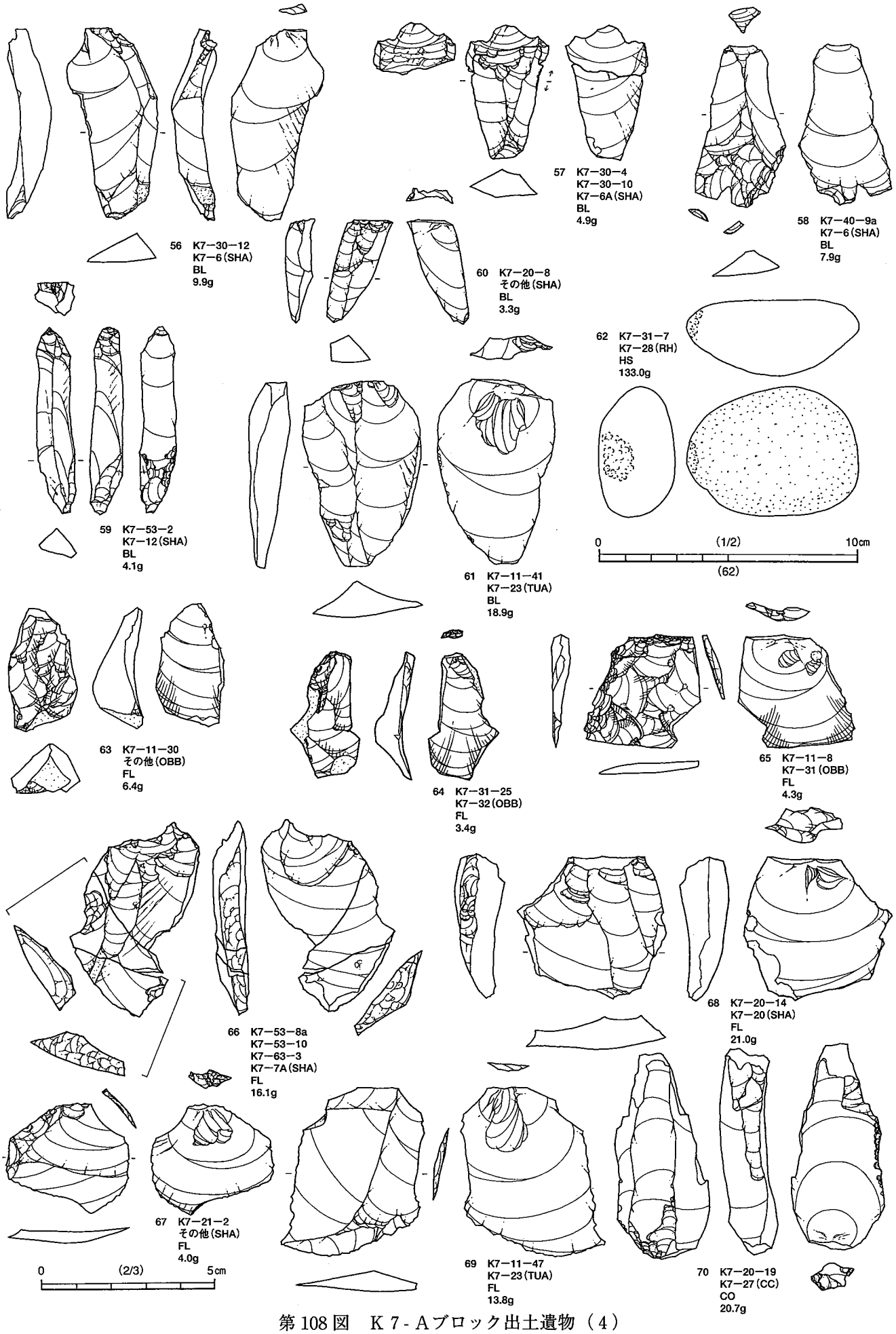
第105図　K7-Aブロック出土遺物（1）



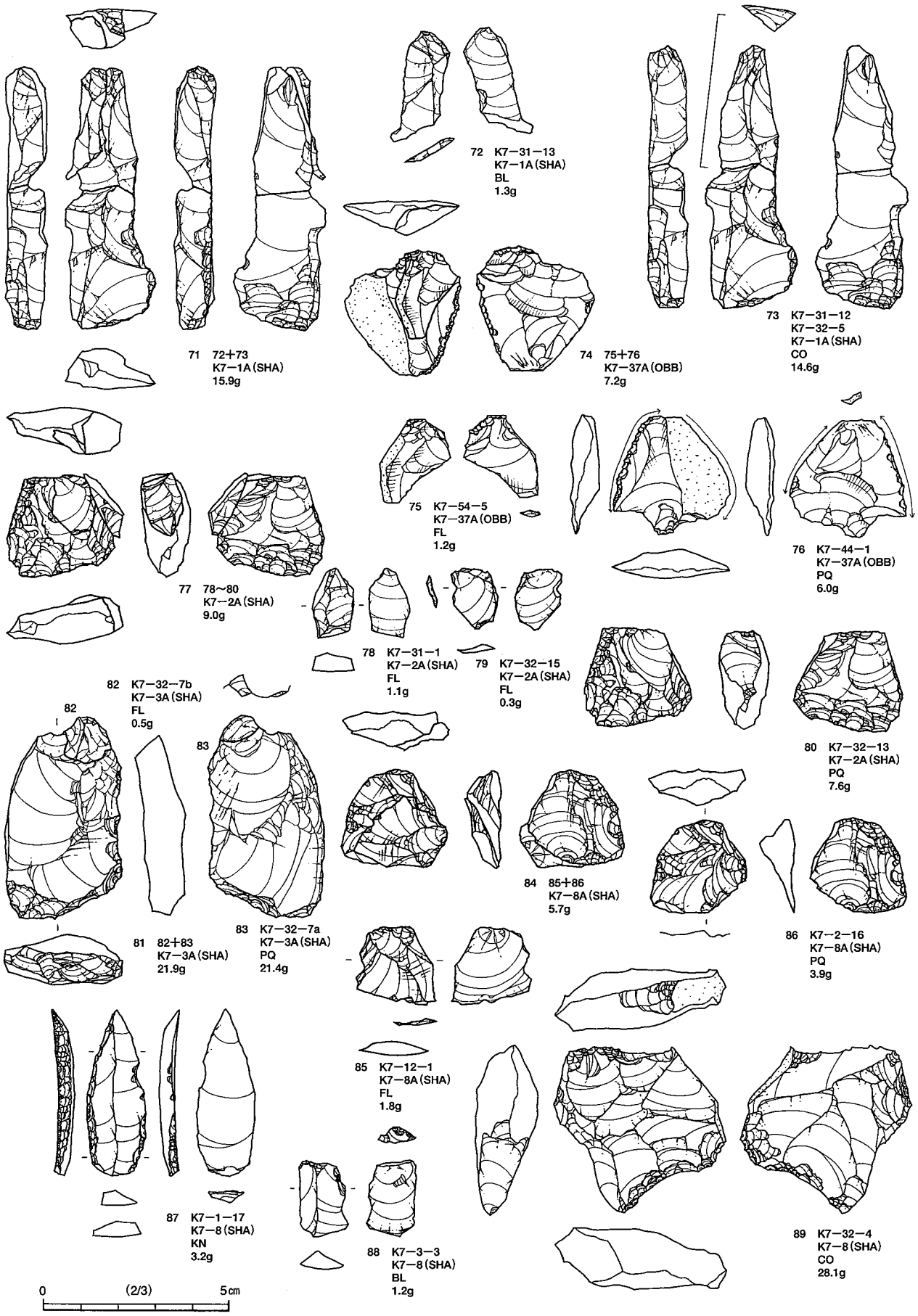
第106図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物（２）



第107図　K7-Aブロック出土遺物（3）



第108図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物（４）



第109図　K7-Aブロック出土遺物（5）

・**K7-2（第109図）**　灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。楔形石器1点，剥片2点の合計3点で構成される。77は楔形石器1点（80），剥片2点（78・79）の接合資料である。80は両端に対向する剥離痕と表面左側縁に細かい剥離痕が見られる。

・**K7-3（第109図）**　灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。楔形石器1点，剥片1点の合計2点で構成される。81は楔形石器1点（83），剥片1点（82）の接合資料である。83は両端に対向する剥離痕と表面右側縁に剥離痕が見られる。

・**K7-8（第109図）**　黒褐色（2.5Y3/2）などの東北産頁岩である。ナイフ形石器1点，楔形石器1点，石刃1点，剥片1点，石核1点の合計5点で構成される。84は楔形石器1点（86），剥片1点（85）の接合資料である。86は両端と両側縁にそれぞれ対向する剥離痕が見られる。87～89は接合しなかった同一母岩の資料である。87は石刃を素材として，打面側を先端部とした二側縁加工のナイフ形石器である。88は石刃である。89は両端，裏面の右側縁上部と左側縁下部の対角線上に対向する剥離痕が見られる石核である。楔形石器の可能性もある。

・**K7-4（第110図）**　灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。剥片4点，石核1点の合計4点で構成される。90は剥片2点（91・92）の接合資料である。93は接合しなかった同一母岩の石核である。90度あるいは180度の打面転移を行って小型で不定型な剥片を剥離している。

・**K7-5（第110図）**　灰黄褐色（10YR4/2）などの東北産頁岩である。ナイフ形石器1点，楔形石器5点（3個体），使用痕ある剥片1点，剥片2点の合計9点（7個体）で構成される。接合資料は，2グループある。A（94）は楔形石器1点（96），剥片1点（95）の接合資料である。96は両端に対向する剥離痕が見られる。B（98）は楔形石器3点が接合して1個体となる。両端に対向する剥離痕が見られる。97・99・100は接合しなかった同一母岩の資料である。97は二側縁加工の台形石器様のナイフ形石器である。不定型な剥片を素材として，打面側を基部としている。99は両端に対向する剥離痕が見られる楔形石器である。100は使用痕ある剥片である。両側縁に刃こぼれが見られる。

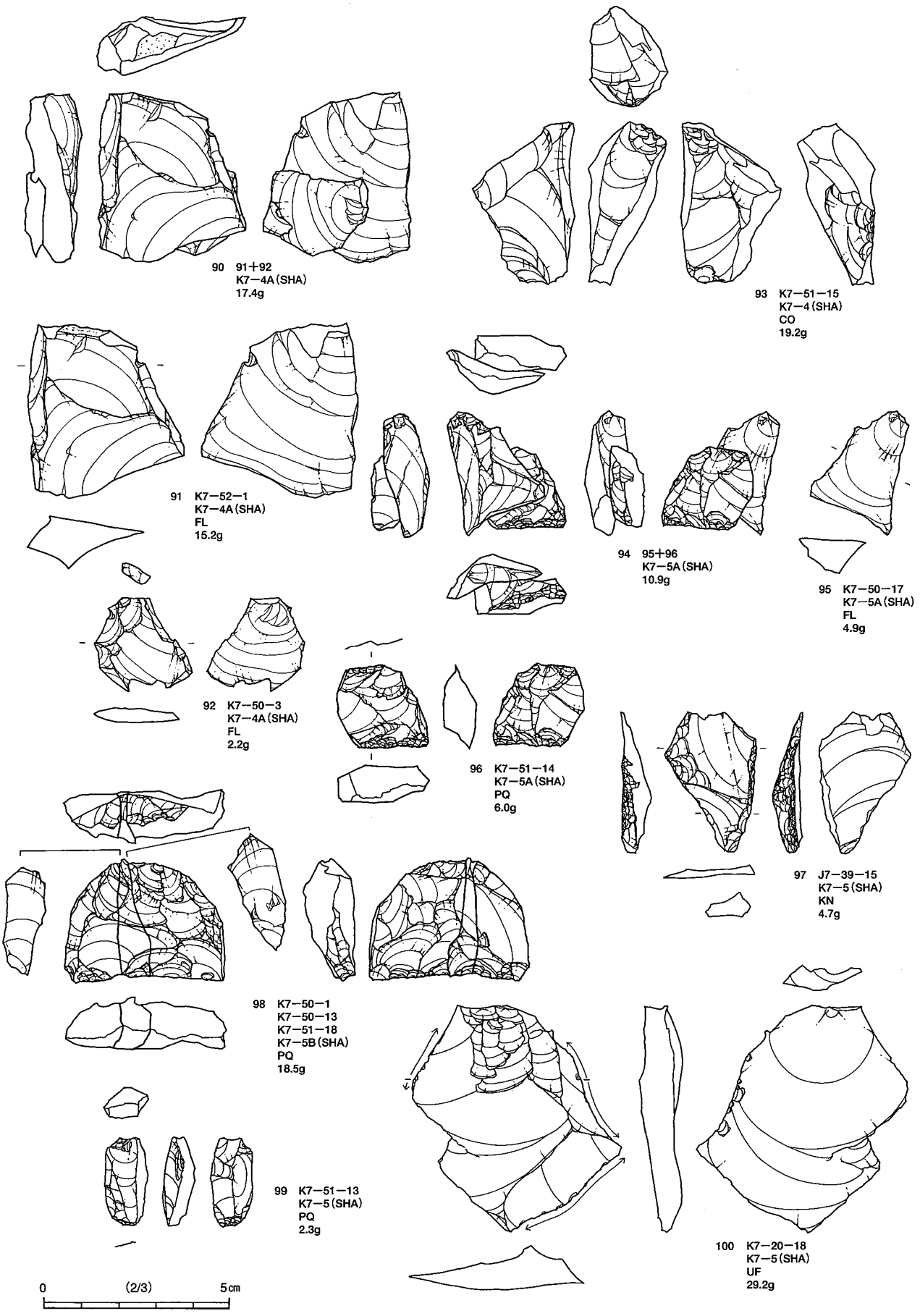
・**K7-25（第111図）**　黒褐色（10YR3/1）などの瑪瑙・玉髄である。使用痕ある剥片2点，石刃1点，剥片5点の合計8点で構成される。101は使用痕ある剥片1点（103），石刃1点（102）の接合資料である。102は右側縁の上半部，103は右側縁に刃こぼれが見られる。

104～106は接合しなかった同一母岩の資料である。104は左側縁の一部に刃こぼれがある使用痕ある剥片である。105は・106は不定型な剥片である。

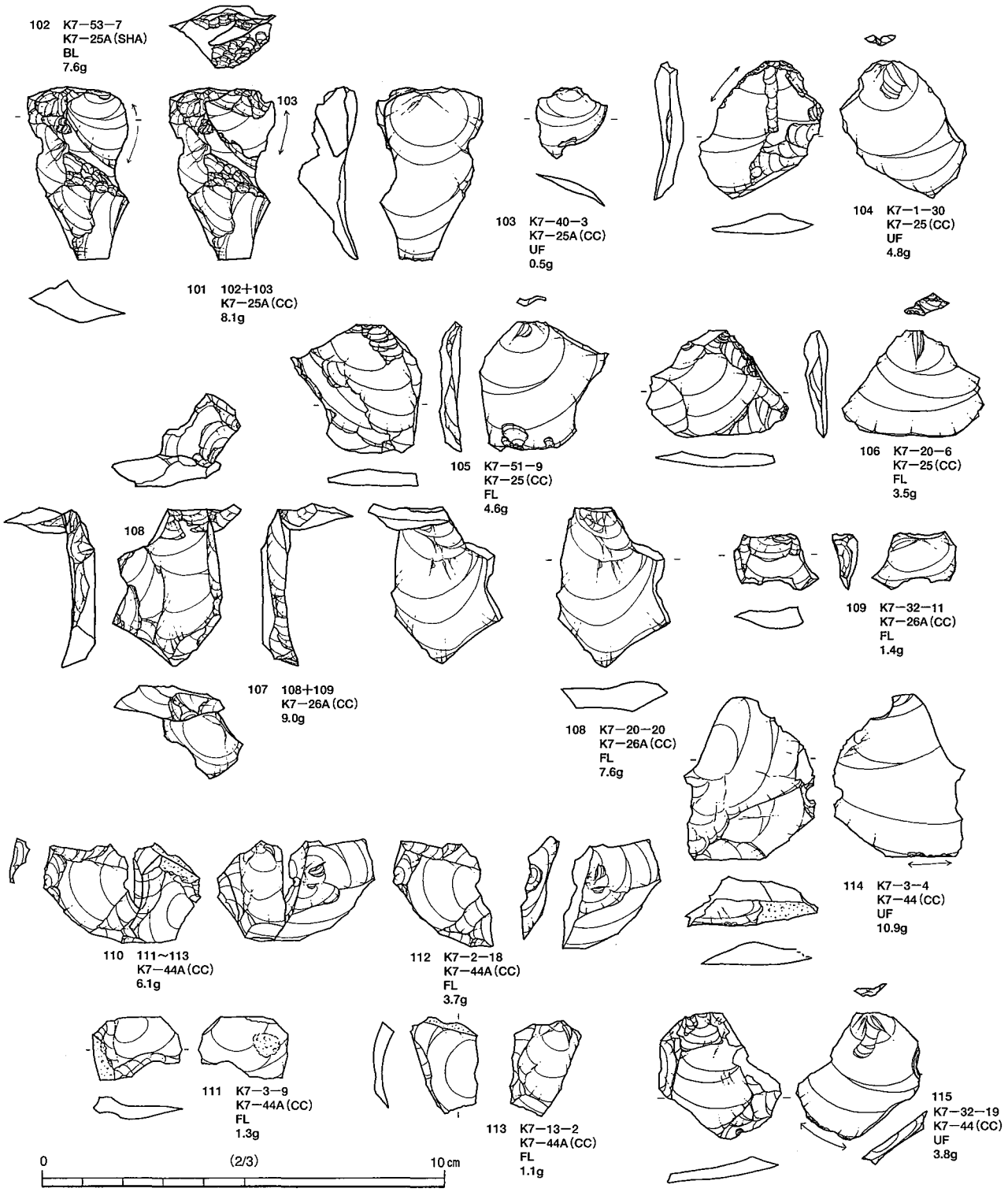
・**K7-26（第111図）**　暗灰黄色（2.5Y4/2）などの瑪瑙・玉髄である。剥片5点で構成される。107は剥片2点（108・109）の接合資料である。

・**K7-44（第111図）**　暗赤褐色（2.5YR3/3）などの瑪瑙・玉髄である。使用痕ある剥片2点，剥片9点（8個体），砕片1点の合計12点（11個体）で構成される。接合資料は、2グループある。A（110）は剥片3点（111～113）の接合資料である。114・115は接合しなかった同一母岩の使用痕ある剥片で，裏面末端の一部に刃こぼれが見られる。

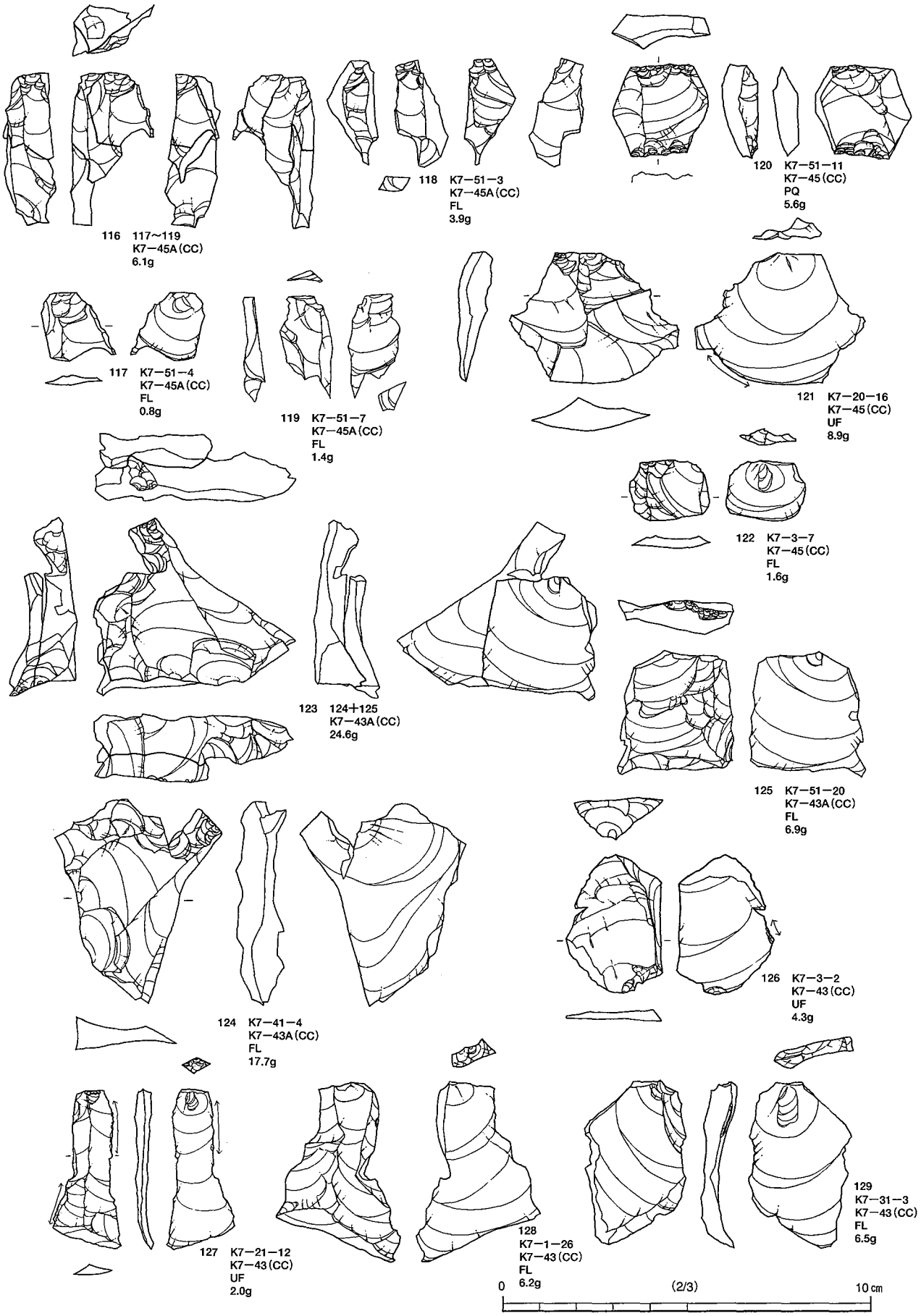
・**K7-45（第112図）**　にぶい黄褐色（10YR5/4）などの瑪瑙・玉髄である。楔形石器1点，使用痕ある剥片1点，剥片9点の合計11点で構成される。116は剥片3点（117～119）の接合資料である。120～122は接合しなかった同一母岩の資料である。120は両端に対向する剥離痕が見られる楔形石器である。121は使用痕ある剥片である。裏面末端に刃こぼれが見られる。122は不定型な剥片である。



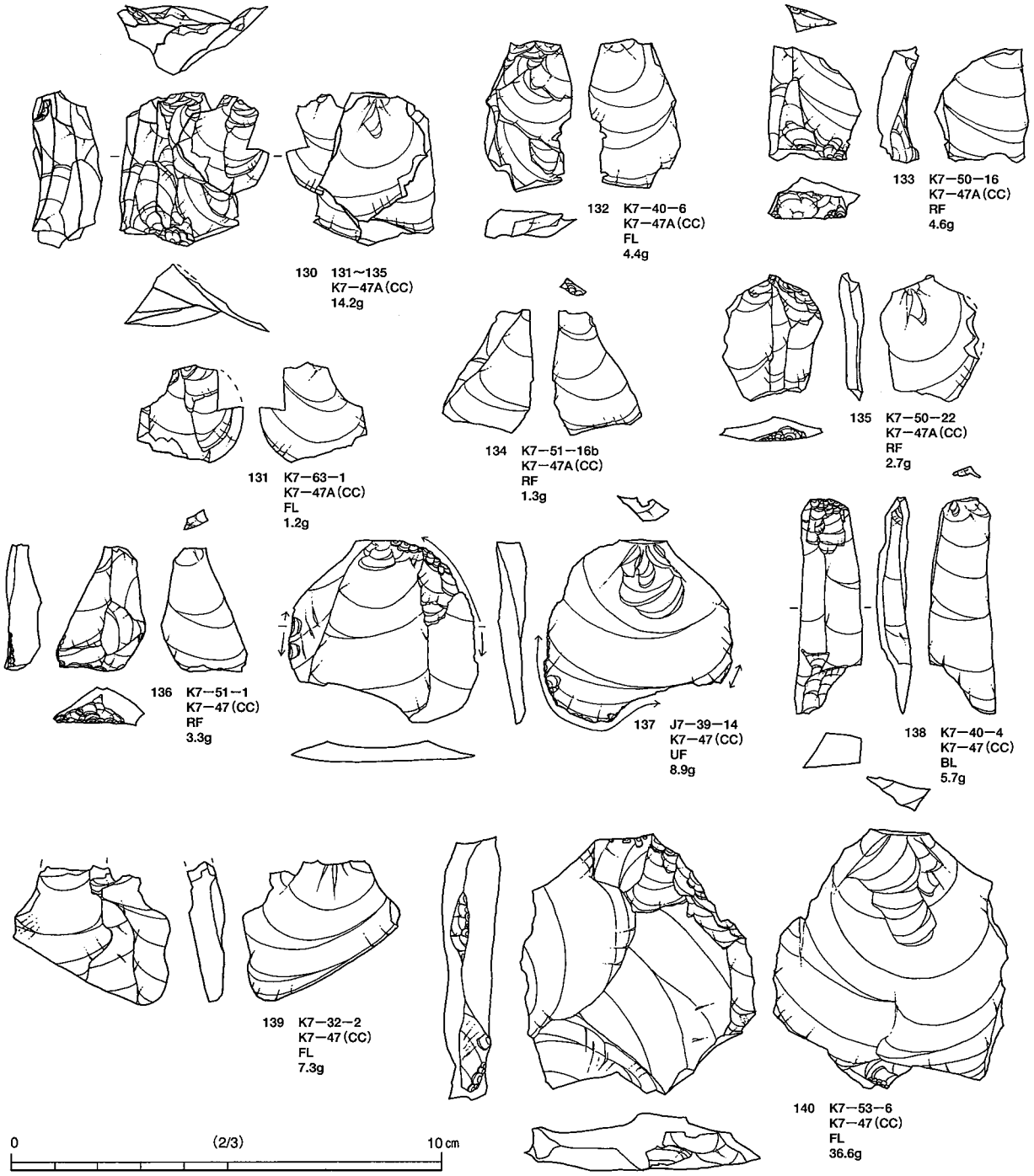
第110図　K7-Aブロック出土遺物（6）



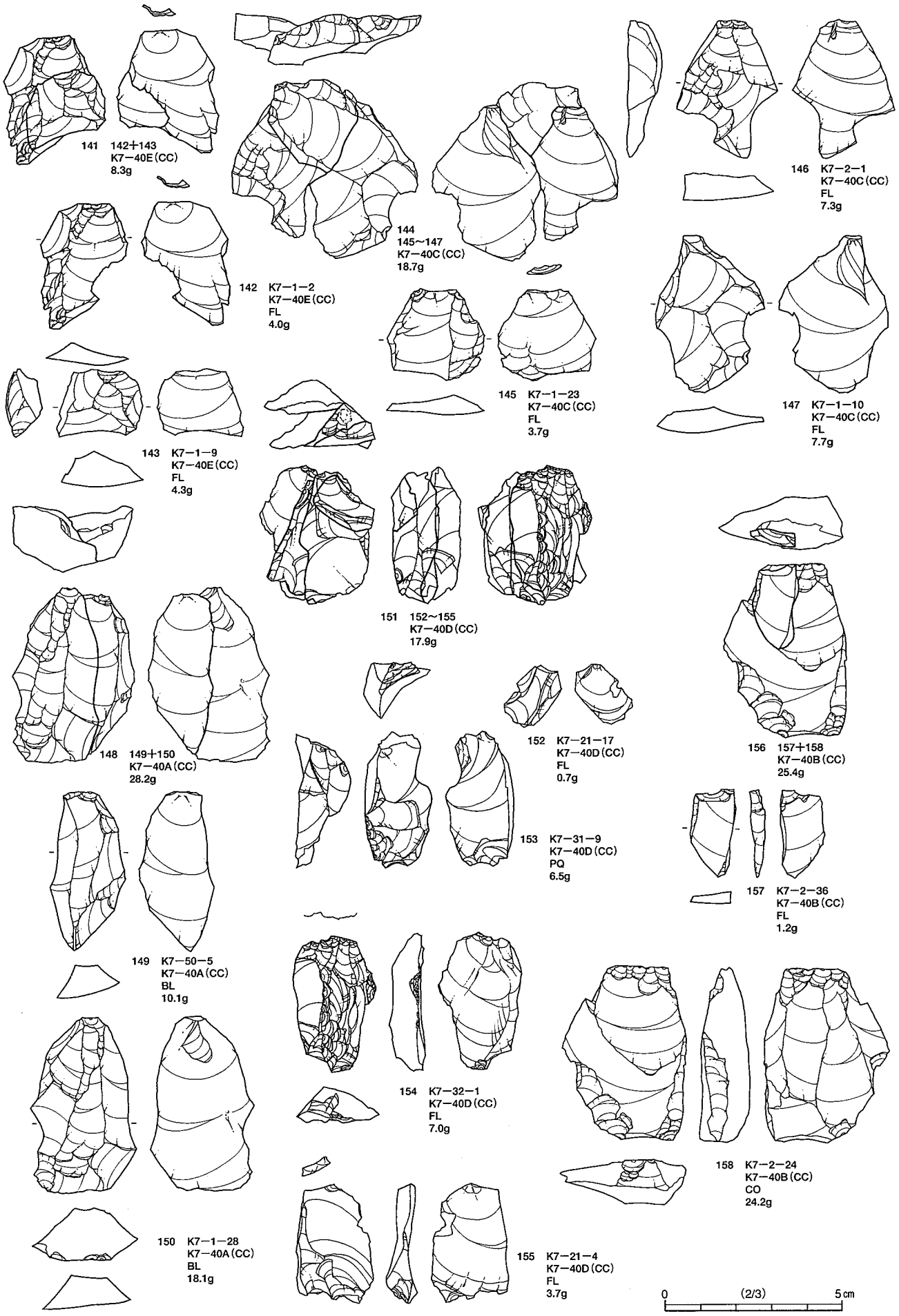
第111図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物（７）



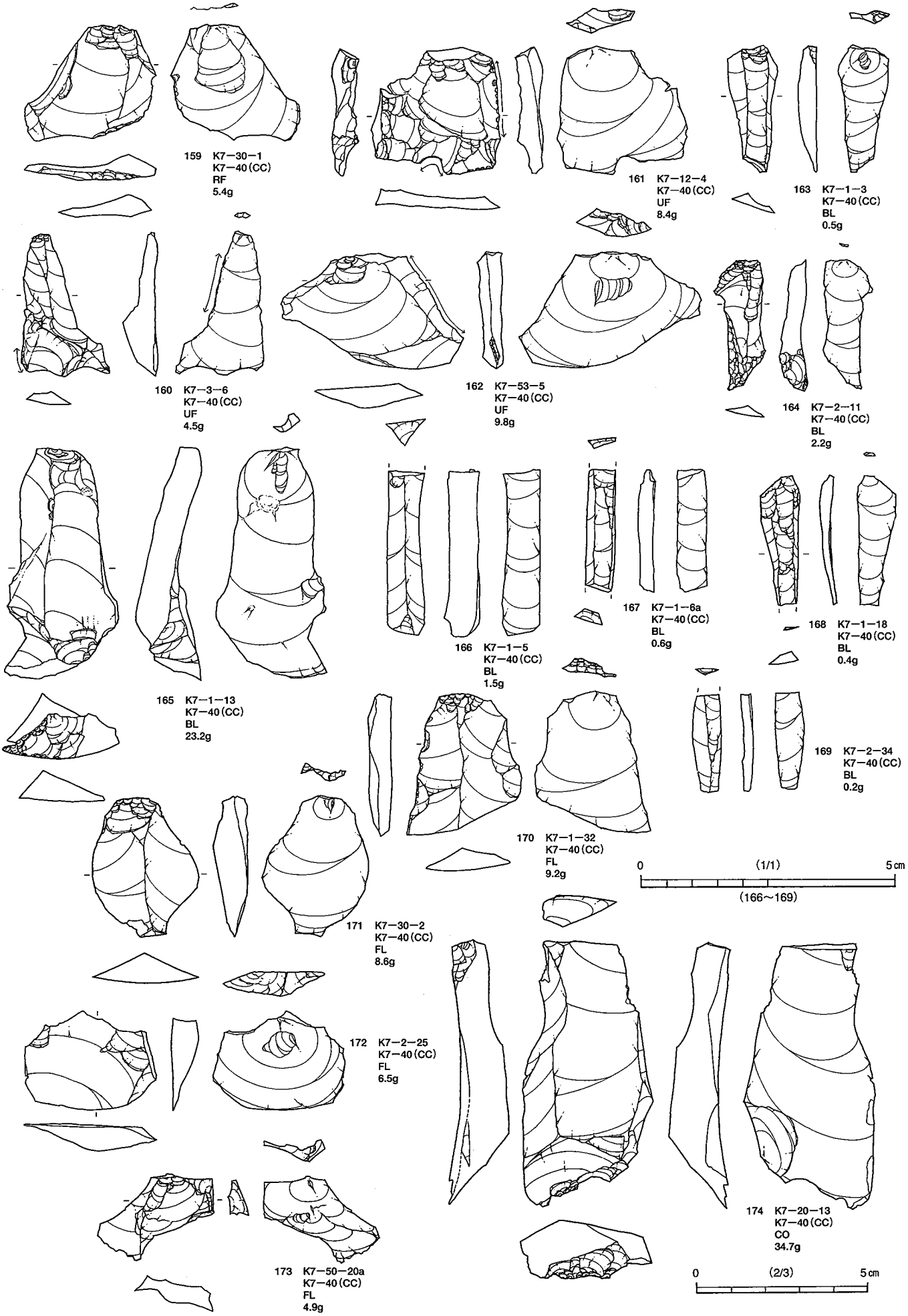
第112図　K7-Aブロック出土遺物（8）



第113図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物（９）



第114図　K7-Aブロック出土遺物（10）



第115図　Ｋ７-Ａブロック出土遺物（11）

第63表　K7-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
K7-1(SHA)												1						2		2(1)					5(4)
K7-2(SHA)									1									2							3
K7-3(SHA)									1									1							2
K7-4(SHA)																		4		1					5
K7-5(SHA)	1								5(3)		1							2							9(7)
K7-6(SHA)												4(3)						1							5(4)
K7-7(SHA)												1						3(1)							4(2)
K7-8(SHA)	1								1			1						1		1					5
K7-9(SHA)																		2							2
K7-10(SHA)																		4							4
K7-11(SHA)	1																								1
K7-12(SHA)												1													1
K7-13(SHA)										1															1
K7-14(SHA)												1													1
K7-15(SHA)									1																1
K7-16(SHA)									1																1
K7-17(SHA)										1															1
K7-18(SHA)																		1							1
K7-19(SHA)																		1							1
K7-20(SHA)																		1							1
K7-21(SHA)																		1							1
K7-22(SHE)																		2							2
K7-23(TUA)												1						1							2
K7-24(TUA)																		1							1
K7-25(CC)											2	1						5							8
K7-26(CC)																		5							5
K7-27(CC)																				1					1
K7-28(RH)																1									1
K7-29(OBB)											1	5(4)						13							19(18)
K7-30(OBB)											1							8							9
K7-31(OBB)											1							7							8
K7-32(OBB)	2								1	1	1	5						17(16)							27(26)
K7-33(OBB)									1			3(2)						3							7(6)
K7-34(OBB)												2						2							4
K7-35(OBB)	1								1																2
K7-36(OBB)																		5							5
K7-37(OBB)									1									1							2
K7-38(OBC)																		3							3
K7-39(OBD)					1																				1
K7-40(CC)									1	1	3	9						29	2	2					47
K7-41(CC)						1				3								4							8
K7-42(CC)										1	3							3	1						8
K7-43(CC)											2							26	2						30
K7-44(CC)											2							9(8)	1						12(11)
K7-45(CC)									1		1							9							11
K7-46(CC)									2(1)									1							3(2)
K7-47(CC)										4	1	1						12							18
その他(OBA)																		1							1
その他(OBB)	3								1		1	5						89	4						103
その他(OBG)	1																	1	26						28
その他(SHA)	6										3	2						40	5						56
その他(SHE)																		1							1
その他(SA)																		2							2
その他(HO)																			1						1
その他(CC)																		2	5						7
合　計	16				1	1			19(16)	12	23	43(40)				1		328(324)	47	7(6)					498(487)

第64表　K7-Aブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
K7R-1	SA	1	14.2

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	14.2
合　計	1	14.2

第65表　Ｋ７-Ａブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石A(OBA)																		1							1
黒曜石B(OBB)	6								5	1	5	20(18)						145(144)	4						186(183)
黒曜石C(OBC)																		3							3
黒曜石D(OBD)					1																				1
黒曜石G(OBG)	1																	1	26						28
流紋岩(RH)																1									1
頁岩A(SHA)	9								10(8)	2	4	11(10)						66(64)	5	4(3)					111(105)
頁岩E(SHE)																		3							3
凝灰岩A(TUA)												1						2							3
砂岩(SA)																		2							2
ホルンフェルス(HO)																			1						1
瑪瑙・玉髄(CC)						1			4(3)	9	14	11						105(104)	11	3					158(156)
合　計	16				1	1			19(16)	12	23	43(40)				1		328(324)	47	7(6)					498(487)

・K7-43（第112図）　半透明な明黄褐色（2.5Y6/6）などの瑪瑙・玉髄である。使用痕ある剥片２点，剥片26点，砕片２点の合計30点で構成される。123は剥片２点（124・125）の接合資料である。126～129は接合しなかった同一母岩の資料である。126・127は使用痕ある剥片で，126は裏面右側縁の一部，127は表面両側縁の一部と裏面右側縁の一部に刃こぼれが見られる。128・129は不定型な剥片である。

・K7-47（第113図）　黄褐色（10YR5/6）などの瑪瑙・玉髄である。加工痕ある剥片４点，使用痕ある剥片１点，石刃１点，剥片12点の合計18点で構成される。130は加工痕ある剥片３点（133～135），剥片２点（131・132）の接合資料である。133・135は末端，134は打面側に裏面側から調整加工を行っている。136～140は接合しなかった同一母岩の資料である。136は末端に調整加工を行っている加工痕ある剥片，137は表面両側縁の一部と裏面右側縁の一部・末端に刃こぼれが見られる使用痕ある剥片，138は石刃，139・140は剥片である。140は打面再生剥片と考えられる。

・K7-40（第114・115図）　灰白色（2.5Y8/1）などの瑪瑙・玉髄である。楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片３点，石刃９点，剥片29点，砕片２点，石核２点の合計47点で構成される。接合資料は，５グループある。Ｅ（141）は剥片２点（142・143）の接合資料である。Ｃ（144）は剥片３点（145～147）の接合資料である。Ａ（148）は石刃２点（149・150）の接合資料である。Ｄ（151）は楔形石器１点（153），剥片３点（152・154・155）の接合資料である。153は両端に対向する剥離痕と表面左側縁に剥離痕が見られる。Ｂ（156）は剥片１点（157），石核１点（158）の接合資料である。158は両端に対向する剥離痕が見られる両設打面の石核であるが，両端に残る細かい剥離痕から楔形石器の可能性もある。159～174は接合しなかった同一母岩の資料である。159は末端に調整加工を行っている加工痕ある剥片で，裏面左側縁の一部に刃こぼれが見られる。160～162は使用痕ある剥片である。160は表面左側縁下部と裏面左側縁の一部，161は右側縁と末端，162は右側縁に刃こぼれが見られる，163～169は石刃である。164は稜付き石刃，165は石核の底面を残している。170～173は不定型な剥片である。174は石刃を素材とした石核で，裏面に比較的大きな剥離痕が見られる。また，末端と表面右側縁・裏面左側縁上部に樋状の細かい剥離痕が見られることから，加工痕のある石刃を素材としたとも考えられる。

12　F7-Ａブロック（第116～118・266図，第66・67表，カラー図版９）

１）ブロックの概要

F7-Ａブロックは，調査範囲西側のF7-31・41・50・61グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側

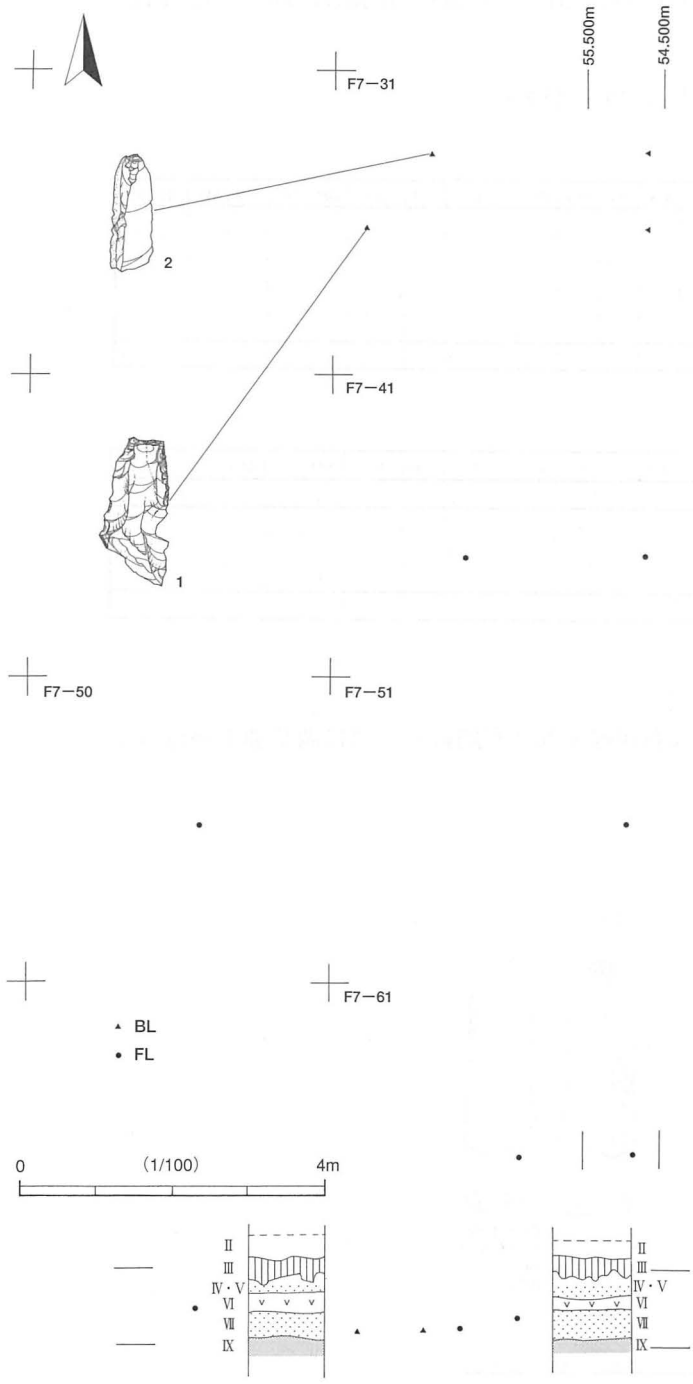
台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は160ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸13ｍ，短軸４ｍの範囲に５点の石器が分布する。出土層位は，Ⅶ層で，30cmほどの高低差をもって包含されている（第116・117図）。

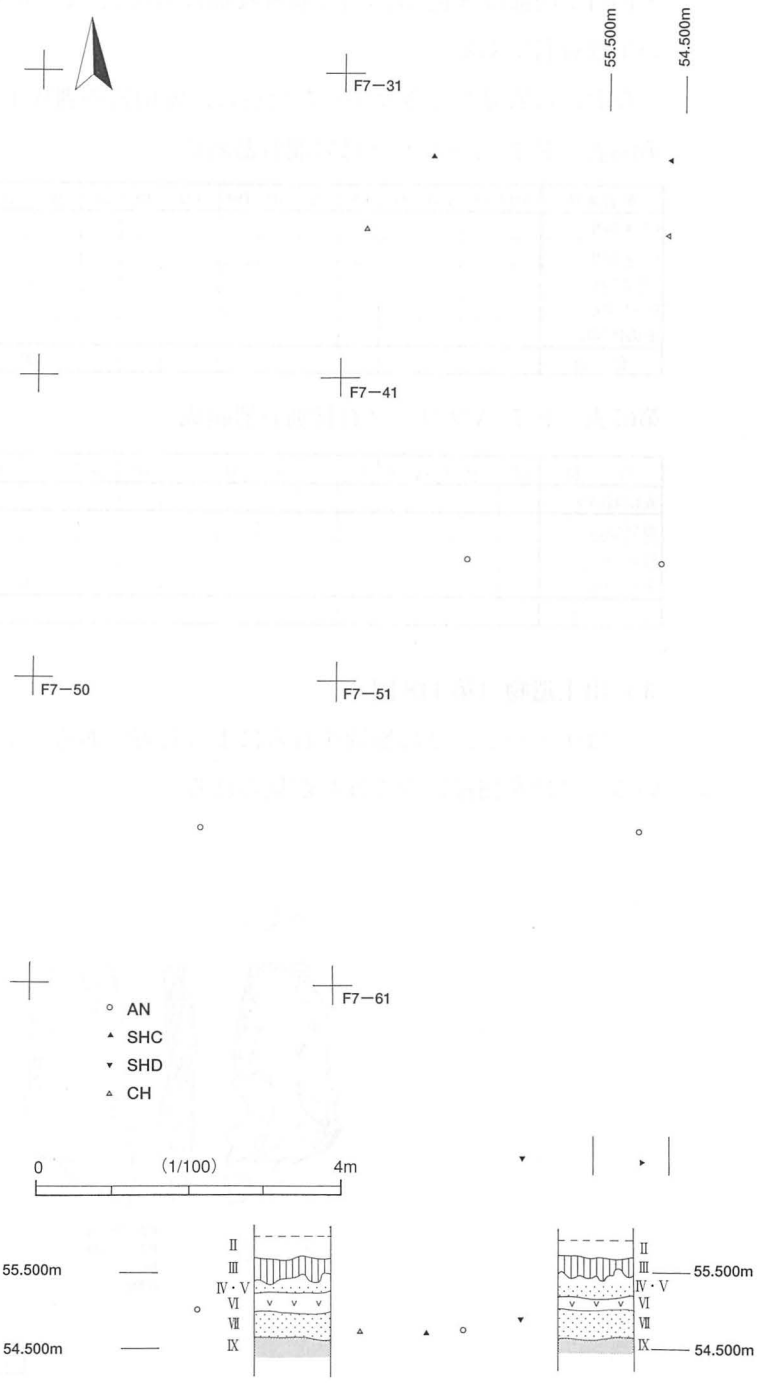
ブロックは，石刃２点，剥片３点の合計５点で構成される。石器石材は，安山岩２点，頁岩Ｃ１点，頁岩Ｄ１点，チャート１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（F7-4），頁岩Ｃ１母岩（F7-1），頁岩Ｄ１母



第116図　Ｆ７-Ａブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



第117図　Ｆ７-Ａブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－

岩（F7-2），チャート１母岩（F7-3）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は80%（4/5点）である。

・**F7-1**：自然面は浅い爪形の裂痕が密でにぶい褐色（7.5YR5/4），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩としたが，硬質緻密な頁岩の可能性がある。石器群の内訳は，石刃１点（3.3g）の単独資料である。

・**F7-2**：浅黄色（2.5Y7/3）・灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰色（5Y4/1）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（5.6g）の単独資料である。

・**F7-3**：オリーブ黒色（7.5Y3/1）のチャートである。石器群の内訳は，石刃１点（6.8g）の単独資料である。

・**F7-4**：内部は灰色（5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片１点（1.7g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片１点（1.2g）がある。

第66表　Ｆ７-Ａブロック母岩別石器組成

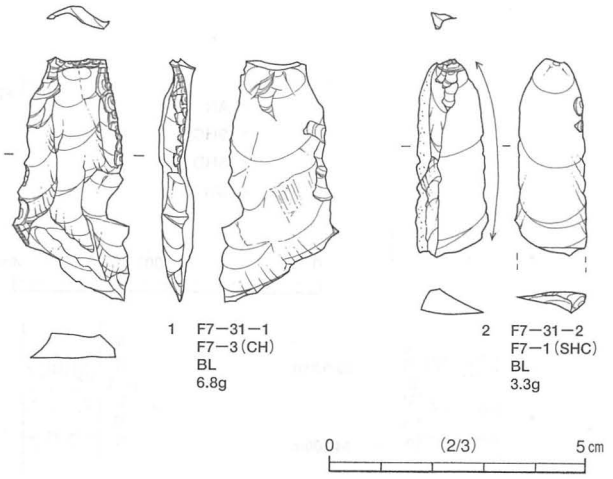
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
F7-1(SHC)												1													1
F7-2(SHD)																		1							1
F7-3(CH)												1													1
F7-4(AN)																		1							1
その他(AN)																		1							1
合　計												2						3							5

第67表　Ｆ７-Ａブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
安山岩(AN)																		2							2
頁岩C(SHC)												1													1
頁岩D(SHD)																		1							1
チャート(CH)												1													1
合　計												2						3							5

３）出土遺物（第118図）

１はチャート，２は嶺岡産頁岩による石刃である。１は右側縁上部と左側縁の一部に調整加工を行っている。２は左側縁に刃こぼれが見られる。



第118図　Ｆ７-Ａブロック出土遺物

13 I8- Aブロック（第119～121・266図，第68・69表，カラー図版9・20）

1）ブロックの概要

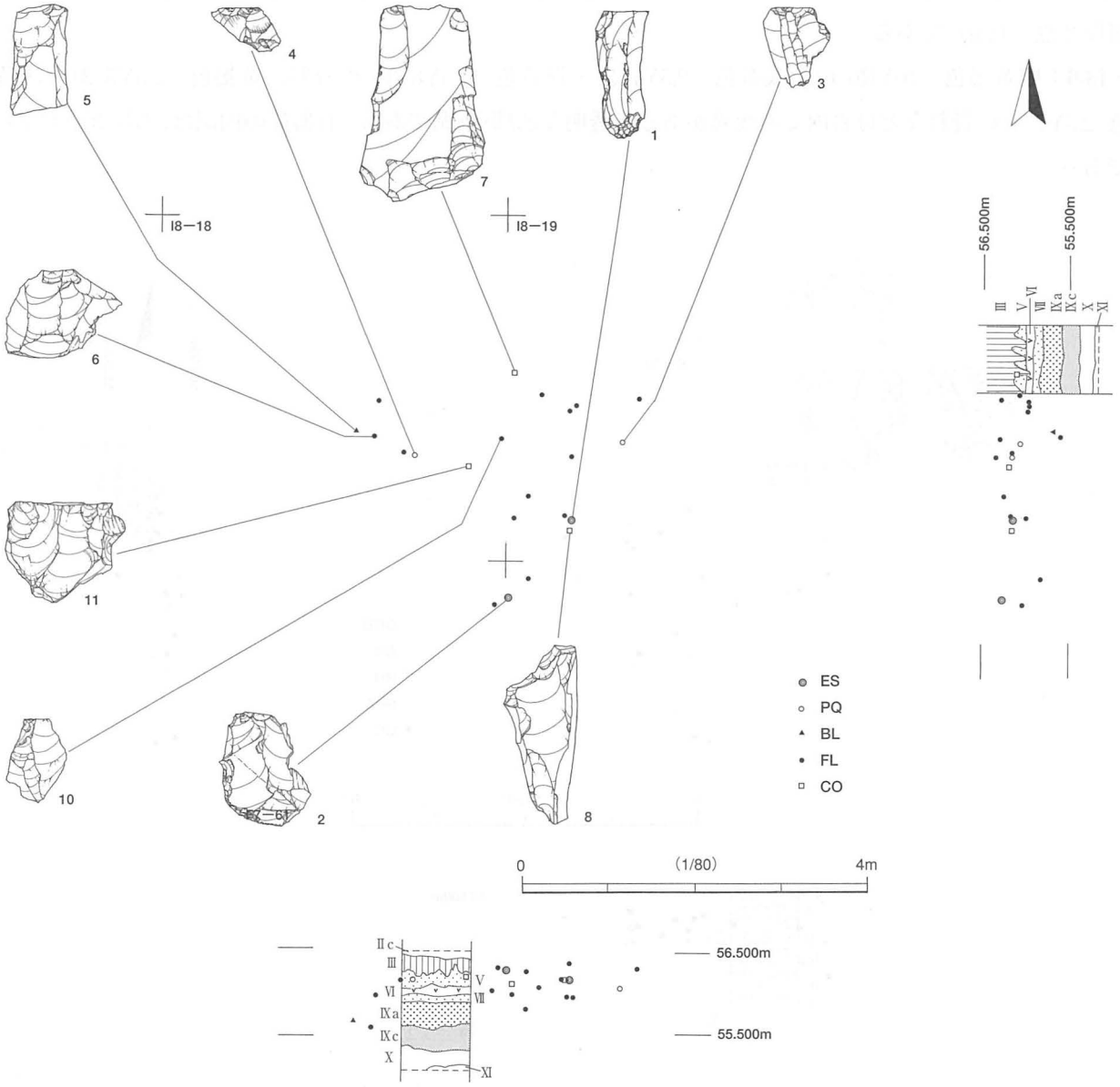
I8- Aブロックは，調査範囲西側のI8-18・19・28・29グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は50 mである。

ブロックの規模と形状は，直径3 mの範囲に22点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅨc層にかけてで，70cmほどの高低差をもっているが，中心はⅢ層からⅦ層にかけてで，50cmほどの高低差をもって包含されている（第119・120図）。

ブロックは，掻器2点，楔形石器2点，石刃1点，剥片14点，石核3点の合計22点で構成される。石器石材は，黒曜石B 6点，安山岩1点，流紋岩1点，頁岩A 3点，瑪瑙・玉髄11点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは12母岩を識別した。内訳は，黒曜石B 2母岩（I8-9・10），安山岩1母岩（I8-12），流



第119図　I 8- Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－

紋岩１母岩（I8-11），頁岩Ａ２母岩（I8-1・2），瑪瑙・玉髄６母岩（I8-3～8）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（22/22点）である。

・I8-1：灰黄褐色（10YR4/2）・明赤褐色（5YR5/6）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，掻器１点，石核１点の合計２点（37.4g）である。

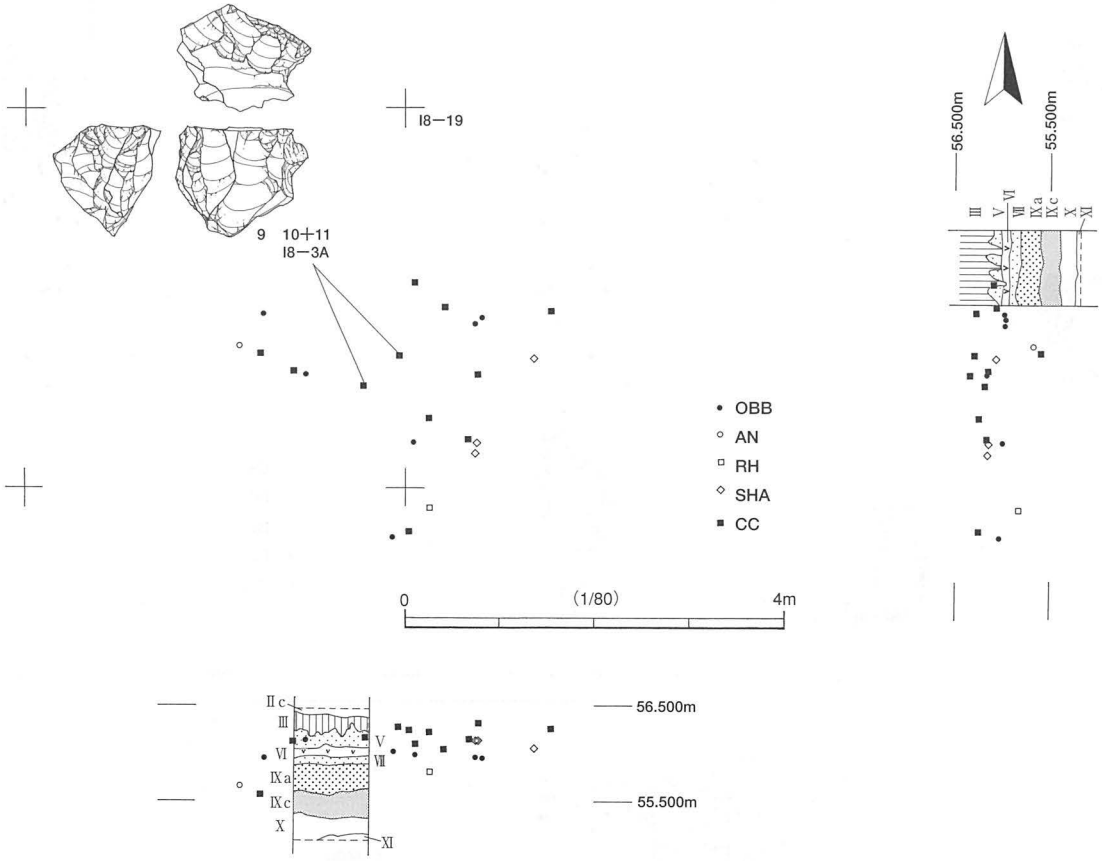
・I8-2：内部は灰黄褐色（10YR5/2），新鮮な面は褐灰色（10YR4/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点（3.4g）の単独資料である。

・I8-3：淡黄色（2.5Y8/4）・にぶい黄褐色（10YR5/4）・にぶい黄橙色（10YR7/4）・灰白色（2.5Y8/1）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（44.5g）である。接合資料は、剥片１点，石核１点の合計２点（44.5g）である。

・I8-4：オリーブ黄色（5Y6/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰白色（N7/0）・明黄褐色（2.5Y7/6）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，石核１点（45.9g）の単独資料である。

・I8-5：半透明な暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）・透明な黄色（2.5Y8/6）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片２点（1.9g）である。

・I8-6：明黄褐色（10YR6/6）・浅黄色（2.5Y7/3）・淡黄色（2.5Y8/3）の資料，黄褐色（2.5Y5/3）・浅黄色（2.5Y7/4）の資料など母岩内での変異がある半透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片３点（1.7g）である。



第120図　Ｉ８-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・I8-7：内部は半透明なにぶい黄褐色（10YR4/3）・灰白色（5Y7/2）・暗灰色（N3/0），不透明な淡黄色（2.5Y8/3），新鮮な面は白色の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，掻器1点（16.2g）の単独資料である。

・I8-8：半透明なにぶい黄色（2.5Y6/4）・オリーブ褐色（2.5Y4/4）・不透明な灰白色（2.5Y8/1）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片2点（2.0g）である。

・I8-9：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片3点（1.9g）である。

・I8-10：透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片2点の合計3点（4.2g）である。

・I8-11：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は白色，節理は明黄褐色（10YR7/6）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片1点（7.9g）の単独資料である。

・I8-12：内部は灰色(5Y5/1)，新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点(6.8g)の単独資料である。

第68表　I 8-Aブロック母岩別石器組成

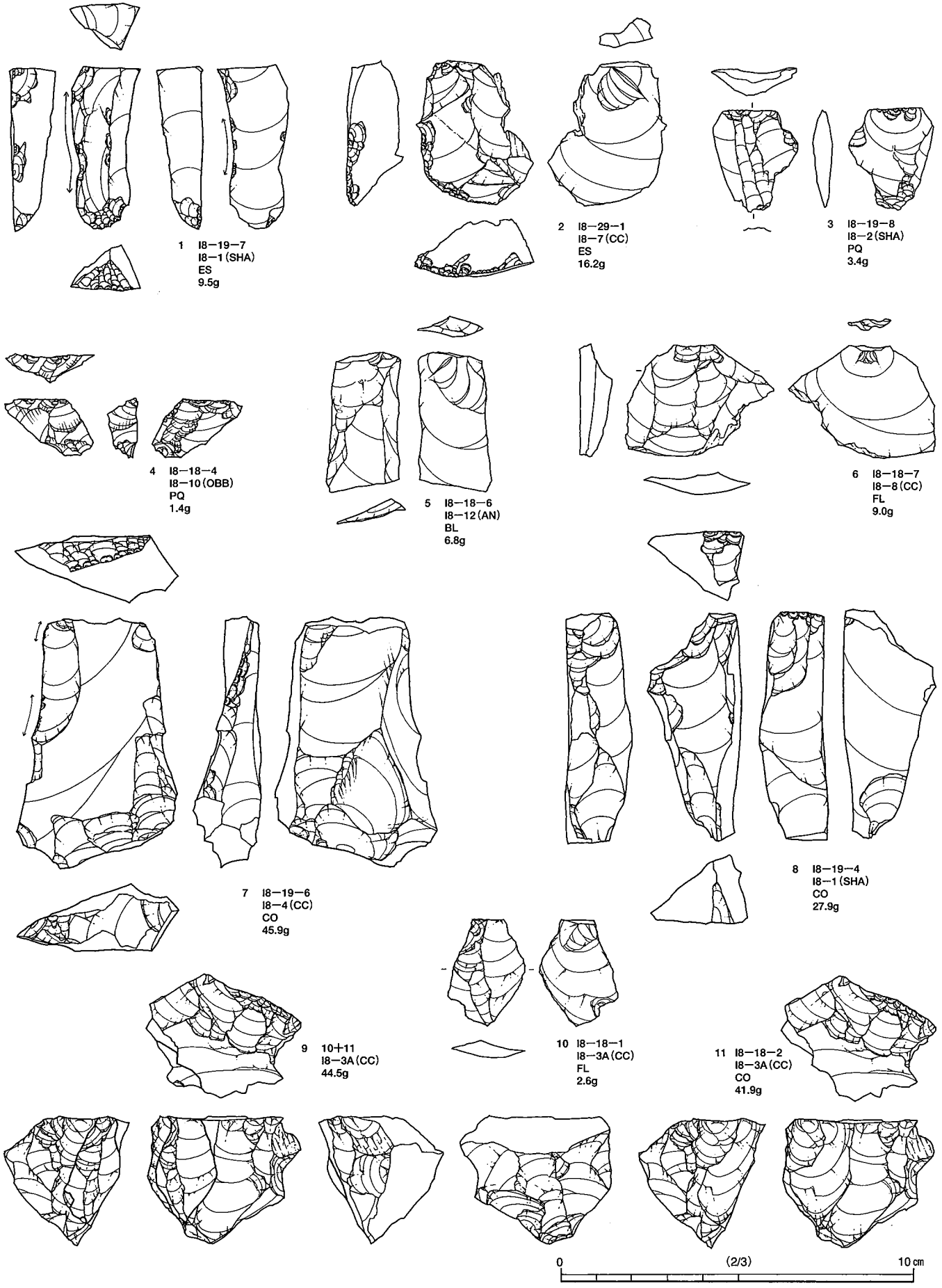
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
I 8-1(SHA)					1															1					2
I 8-2(SHA)									1																1
I 8-3(CC)																		1		1					2
I 8-4(CC)																				1					1
I 8-5(CC)																		2							2
I 8-6(CC)																		3							3
I 8-7(CC)					1																				1
I 8-8(CC)																		2							2
I 8-9(OBB)																		3							3
I 8-10(OBB)									1									2							3
I 8-11(RH)																		1							1
I 8-12(AN)												1													1
合　計					2				2			1						14		3					22

第69表　I 8-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石B(OBB)									1									5							6
安山岩(AN)												1													1
流紋岩(RH)																		1							1
頁岩A(SHA)					1				1											1					3
瑪瑙・玉髄(CC)					1													8		2					11
合　計					2				2			1						14		3					22

3）出土遺物（第121図）

1は東北産頁岩，2は瑪瑙・玉髄による掻器である。1は石刃の末端と左側縁の一部に90度近い急角度の調整加工を行っており，表面左側縁と裏面左側縁に刃こぼれが見られる。2は剥片の左側縁下部から末端にかけて細かい調整加工を行っている。3は東北産頁岩，4は信州和田峠周辺産の黒曜石による楔形石器である。両端に対向する剥離痕が見られる。5は安山岩による石刃である。6は瑪瑙・玉髄による不定型な剥片である。7は瑪瑙・玉髄，8は東北産頁岩による石核である。7は両端と右側縁に小石刃状の剥離痕が見られる。右側縁に表面側からの細かい剥離痕が見られることから，加工痕のある石刃を素材としたとも考えられ，これらの剥離痕は刃部再生に伴う可能性もある。なお，表面左側縁の剥離痕（作業面）には刃こぼれが見られる。8は石刃あるいは石刃状の大型剥片を素材とし，両側縁に小石刃状あるいは小型で不定型な剥離痕が見られる。



第121図　Ⅰ8-Aブロック出土遺物

4）接合資料とその関連資料（第121図）

・I8-3（第121図） 淡黄色（2.5Y8/4）などの瑪瑙・玉髄である。剥片1点，石核1点の合計2点で構成される。9は剥片1点（10），石核1点（11）の接合資料である。11は両設打面の石核と考えられるが，90度の打面転移を行いながら不定型な剥片を剥離した可能性もある。

14 I9-Aブロック（第122～125・266図，第70・71表，カラー図版9，図版8）

1）ブロックの概要

I9-Aブロックは，調査範囲西側のI9-41・42・50～52・61グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40mである。

ブロックの規模と形状は，直径7mの範囲に203点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層にかけてで，60cmほどの高低差をもって包含されている（第122・123図）。

ブロックは，ナイフ形石器5点（4個体），加工痕ある剥片2点，使用痕ある剥片2点，剥片119点（115個体），砕片74点，石核1点の合計203点（198個体）で構成される。石器石材は，黒曜石A 200点（195個体），頁岩E 1点，チャート1点，ホルンフェルス1点である。

なお，I9-Aブロックは，I9-71母岩がI9-Bブロック（第2文化層）と接合関係があることからは，同文化層としたが，出土層位や石器群の内容に周辺のブロックとは差があることから，第3文化層の可能性も考えられる。あるいは接合した資料については，別文化層のブロック外と扱った方が良かったかもしれない。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは7母岩を識別した。内訳は，黒曜石A 4母岩（I9-65～68），頁岩E 1母岩（I9-69），チャート1母岩（I9-71），ホルンフェルス1母岩（I9-70）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は22%（45/203点）である。

・**I9-65**：自然面は紙ヤスリ状で灰色（7.5Y4/1），内部は黒灰色半透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器4点（3個体），剥片2点（1個体）の合計6点（4個体；33.6g）である。接合資料は，2グループあり，Aはナイフ形石器2点（1個体；6.7g），Bは剥片2点（1個体；15.7g）である。

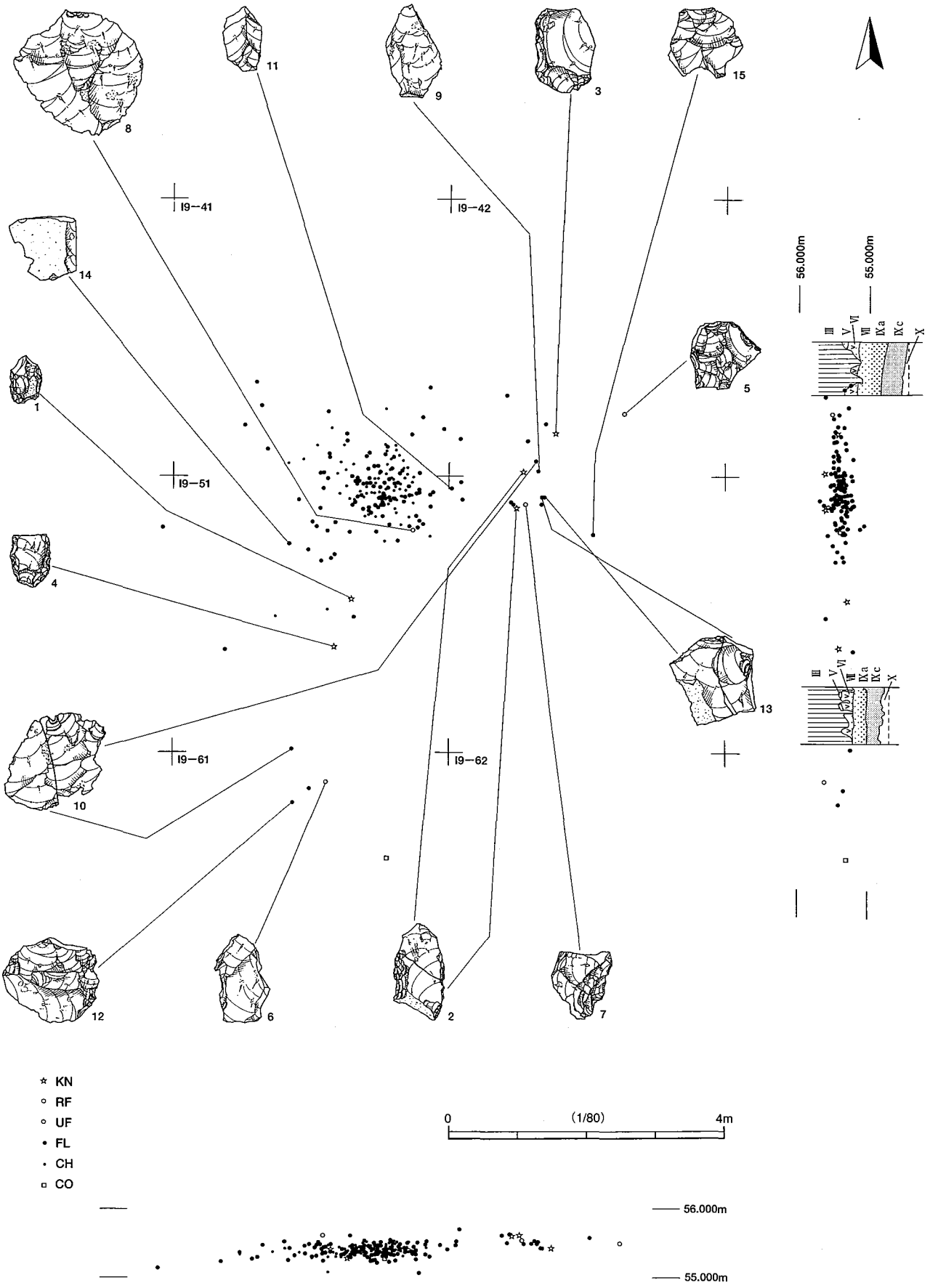
・**I9-66**：黒灰色半透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの灰色・黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片7点の合計8点（30.1g）である。

・**I9-67**：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒灰色半透明な黒曜石である。φ1㎜～2㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，使用痕ある剥片1点，剥片16点（13個体）の合計18点（15個体；81.9g）である。接合資料は，3グループあり，Aは剥片2点（1個体；1.3g），Bは剥片2点（1個体；1.4g），Cは剥片2点（1個体；2.4g）である。

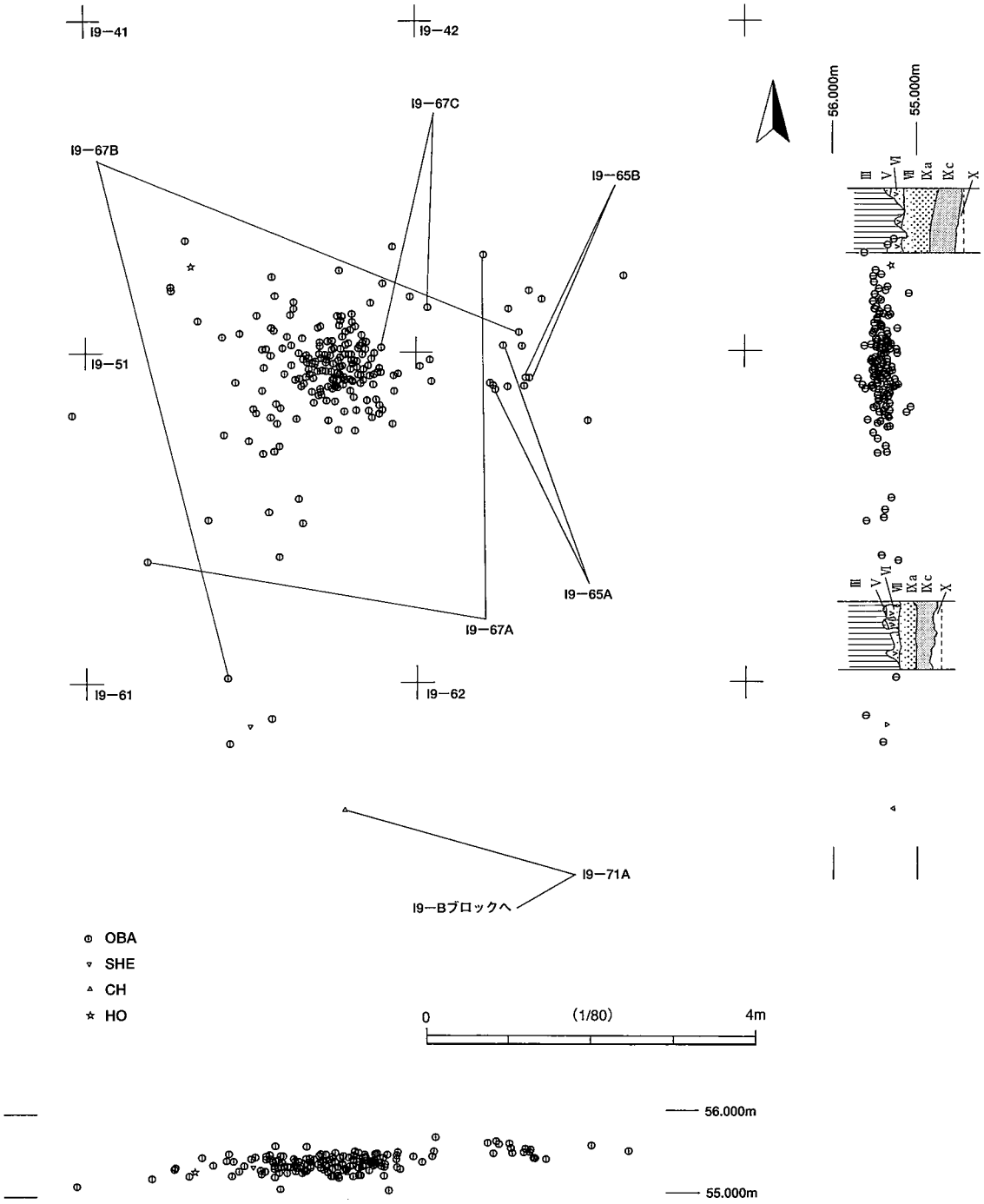
・**I9-68**：自然面は紙ヤスリ状で灰オリーブ色（5Y4/2），内部は黒色の黒曜石である。φ1㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片10点（3.7g）である。

・**I9-69**：灰黄色（2.5Y6/2）・黄灰色（2.5Y6/1）・灰黄色（2.5Y7/2）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（1.6g）の単独資料である。

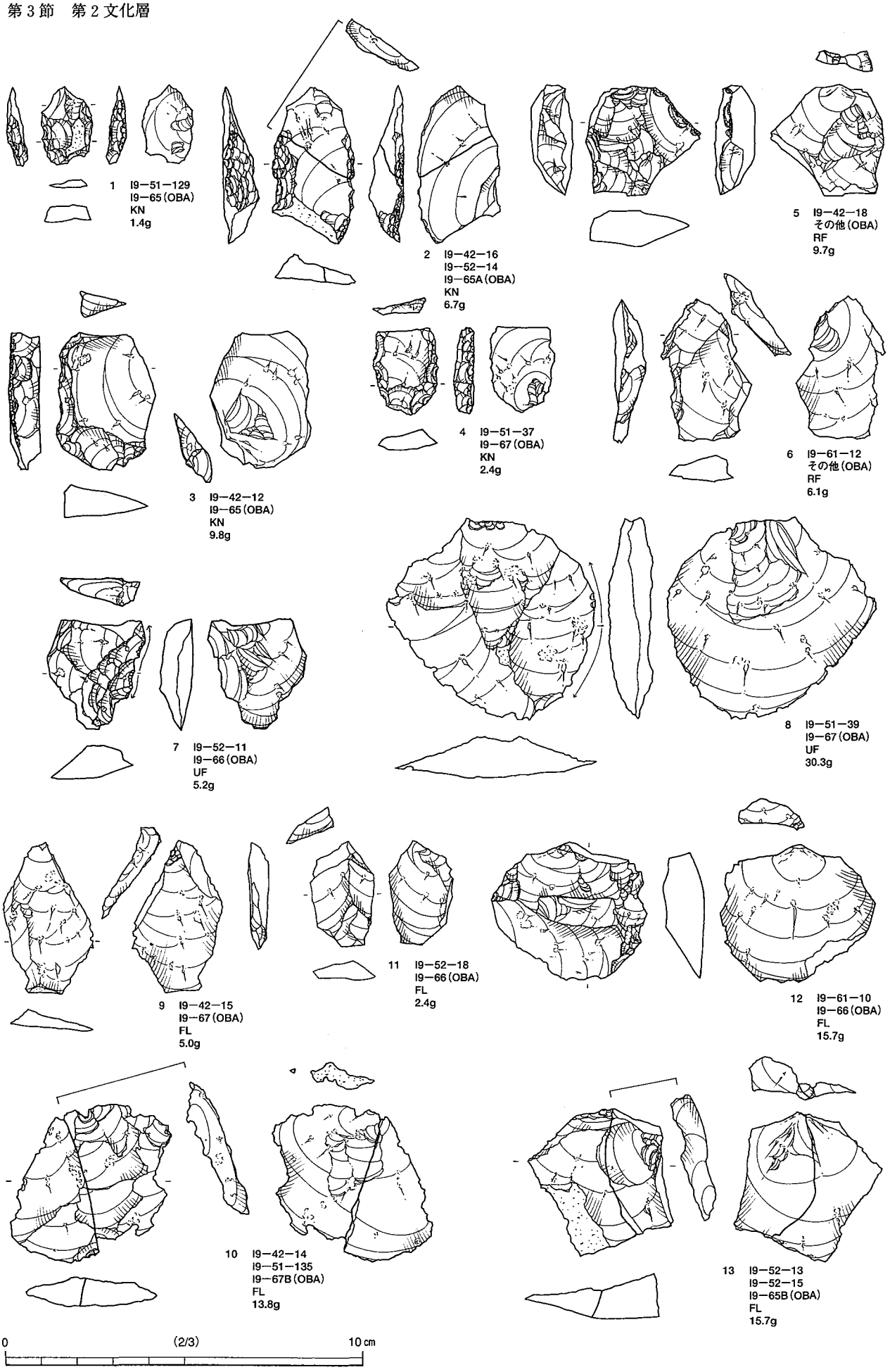
・**I9-70**：内部は灰色（N4/0），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）のホルンフェルスである。石器群の内訳



第122図　Ｉ９-Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第123図　Ｉ９-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第124図　Ｉ９-Ａブロック出土遺物（１）

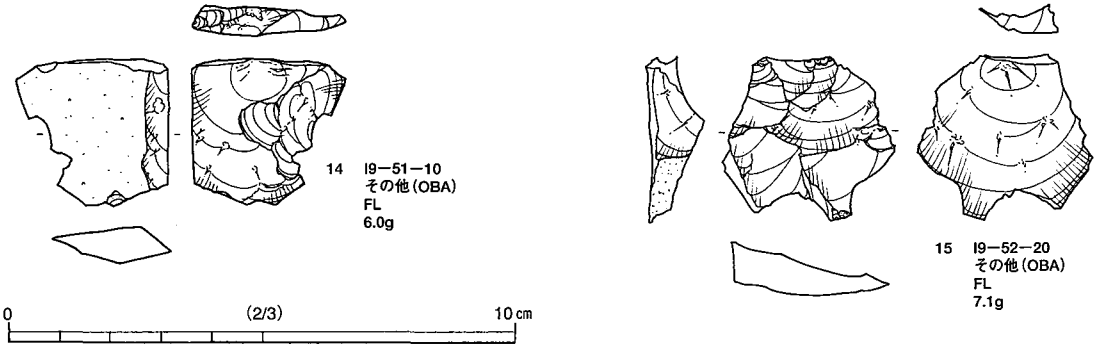
は，剥片１点（0.2g）の単独資料である。

・**I9-71**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1）・明黄褐色（10YR7/6）のチャートである。本ブロックでは石核１点（32.9g）の単独資料であるが、I9- Bブロックの剥片１点と接合している。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Aの加工痕ある剥片２点，剥片82点，砕片74点の合計158点（60.9g）がある。

3）出土遺物（第124・125図）

１～15は栃木県高原山産の黒曜石による石器である。１～４はナイフ形石器である。１・２は横長剥片を素材として，横位に用い，二側縁に，３は不定型な剥片を用い，打面側を基部として左側縁に，４は不定型な剥片を用い，打面側を基部として二側縁に調整加工を行っている。５・６は加工痕ある剥片である。５は左側縁の折断面と右側縁上半部，６は左側縁に調整加工を行っている。７・８は使用痕ある剥片で，右側縁に刃こぼれが見られる。９～15は剥片である。10・13は２点が接合して１個体となる。



第125図　Ｉ９-Ａブロック出土遺物（２）

第70表　Ｉ９-Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
Ｉ９-65(OBA)	4(3)																	2(1)							6(4)
Ｉ９-66(OBA)											1							7							8
Ｉ９-67(OBA)	1										1							16(13)							18(15)
Ｉ９-68(OBA)																		10							10
Ｉ９-69(SHE)																		1							1
Ｉ９-70(HO)																		1							1
Ｉ９-71(CH)																				1					1
その他(OBA)										2								82	74						158
合　計	5(4)									2	2							119(115)	74	1					203(198)

第71表　Ｉ９-Ａブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石A(OBA)	5(4)									2	2							117(113)	74						200(195)
頁岩E(SHE)																		1							1
チャート(CH)																				1					1
ホルンフェルス(HO)																		1							1
合　計	5(4)									2	2							119(115)	74	1					203(198)

15 I9- Bブロック（第126～130・266図，第72～74表，カラー図版９・20，図版８）

1）ブロックの概要

I9- Bブロックは，調査範囲西側のI9-71・80・81・90・91グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸7m，短軸5mの範囲に54点の石器・礫と3mほど離れて1点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅨa層にかけてで，70cmほどの高低差をもって包含されている（第126・127図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，楔形石器1点，加工痕ある剥片3点，使用痕ある剥片3点，敲石1点，剥片39点（38個体），石核5点（3個体）の合計53点（50個体）と礫2点で構成される。石器石材は，黒曜石A1点，安山岩1点，流紋岩3点，頁岩C3点，頁岩D1点，頁岩E4点，チャート32点（29個体），凝灰岩A1点，粘板岩2点，ホルンフェルス5点である。礫石材は，砂岩1点（1母岩；257.9g），識別できなかった砂岩1点（0.8g）で，識別率は50%である。

なお，I9-Bブロックは，I9-71母岩がI9-Aブロック（第2文化層）と接合関係があるが，出土層位や石器群の内容には差がある。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは19母岩を識別した。内訳は，黒曜石A1母岩（I9-63），安山岩1母岩（I9-64），流紋岩1母岩（I9-58），頁岩C3母岩（I9-52・53・55），頁岩E2母岩（I9-54・57），チャート6母岩（I9-47～51・71），凝灰岩A1母岩（I9-62），粘板岩1母岩（I9-56），ホルンフェルス3母岩（I9-59～61）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は92%（49/53点）である。

・**I9-47**：自然面は平滑で，自然面及び内部は暗灰色（N3/0）の資料，自然面は平滑で灰色（5Y6/1）の地に暗赤灰色（10R3/1）が部分的に混じり，内部は灰色（5Y6/1）の資料など母岩内での変異があるチャートである。石器群の内訳は，剥片11点（10個体），石核3点（1個体）の合計14点（11個体；213.0g）である。接合資料は、剥片9点（8個体），石核3点（1個体）の合計12点（9個体；212.5g）である。

・**I9-48**：自然面は平滑で灰色（7.5Y4/1）・オリーブ灰色（10Y5/2），内部は暗灰色（N3/0）のチャートである。石器群の内訳は，楔形石器1点，使用痕ある剥片1点，剥片8点の合計10点（40.4g）である。接合資料は、2グループあり、Aは使用痕ある剥片1点，剥片4点の合計5点（25.1g）、Bは楔形石器1点，剥片1点の合計2点（13.3g）である。

・**I9-49**：自然面は平滑で黄褐色（10YR5/6），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に浅黄色（2.5Y7/3）が部分的に混じり，節理はにぶい赤褐色（2.5YR4/3）・にぶい橙色（7.5YR6/4）のチャートである。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片1点，石核1点の合計3点（40.2g）である。接合資料は、使用痕ある剥片1点，剥片1点，石核1点の合計3点（40.2g）である。

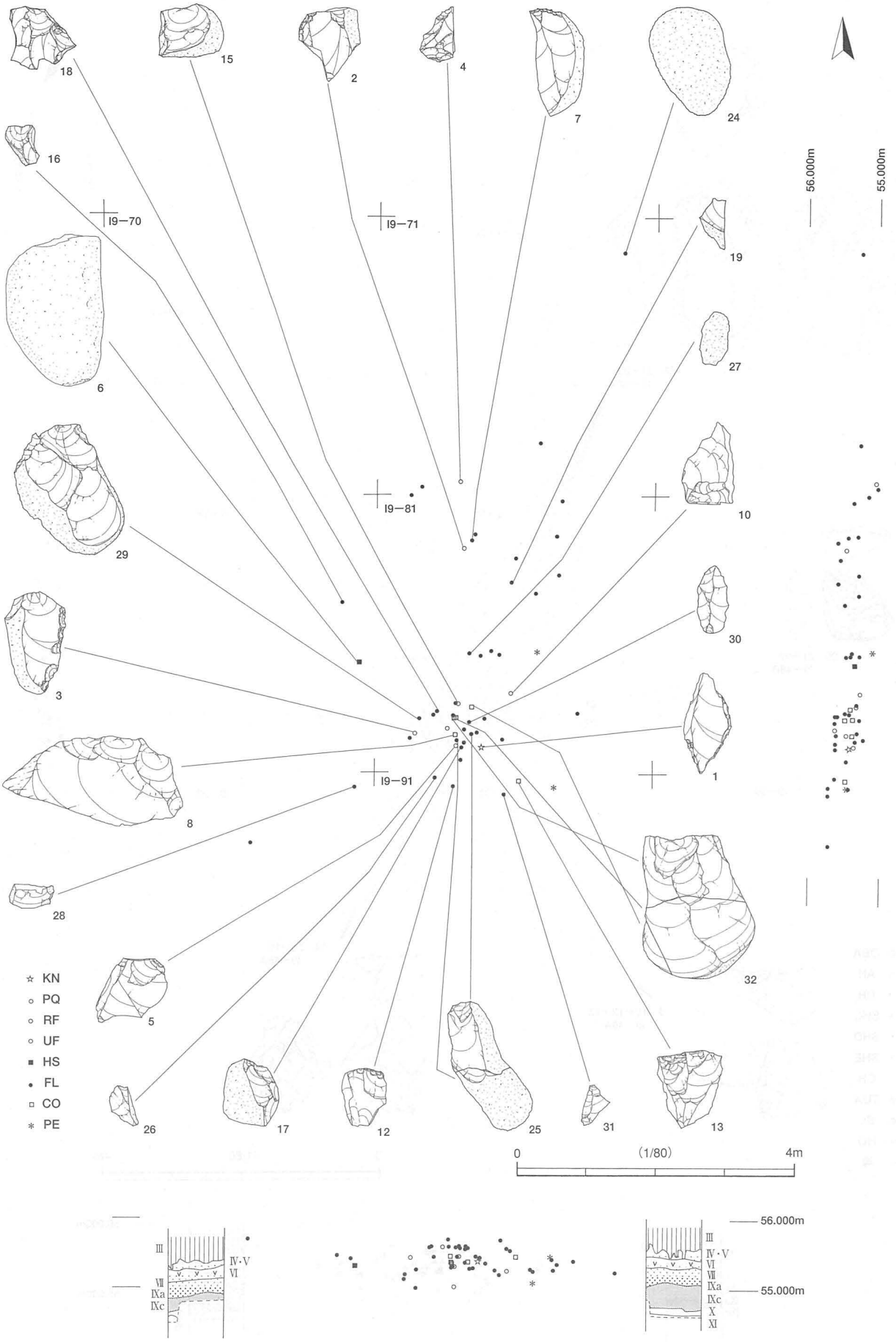
・**I9-50**：灰色（7.5Y4/1）の地に暗灰色（N3/0）の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点（5.7g）の単独資料である。

・**I9-51**：自然面は平滑で灰色（7.5Y4/1），内部は灰色（N4/0）の地に灰オリーブ色（7.5Y5/2）が部分的に混じるチャートである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点（6.7g）の単独資料である。

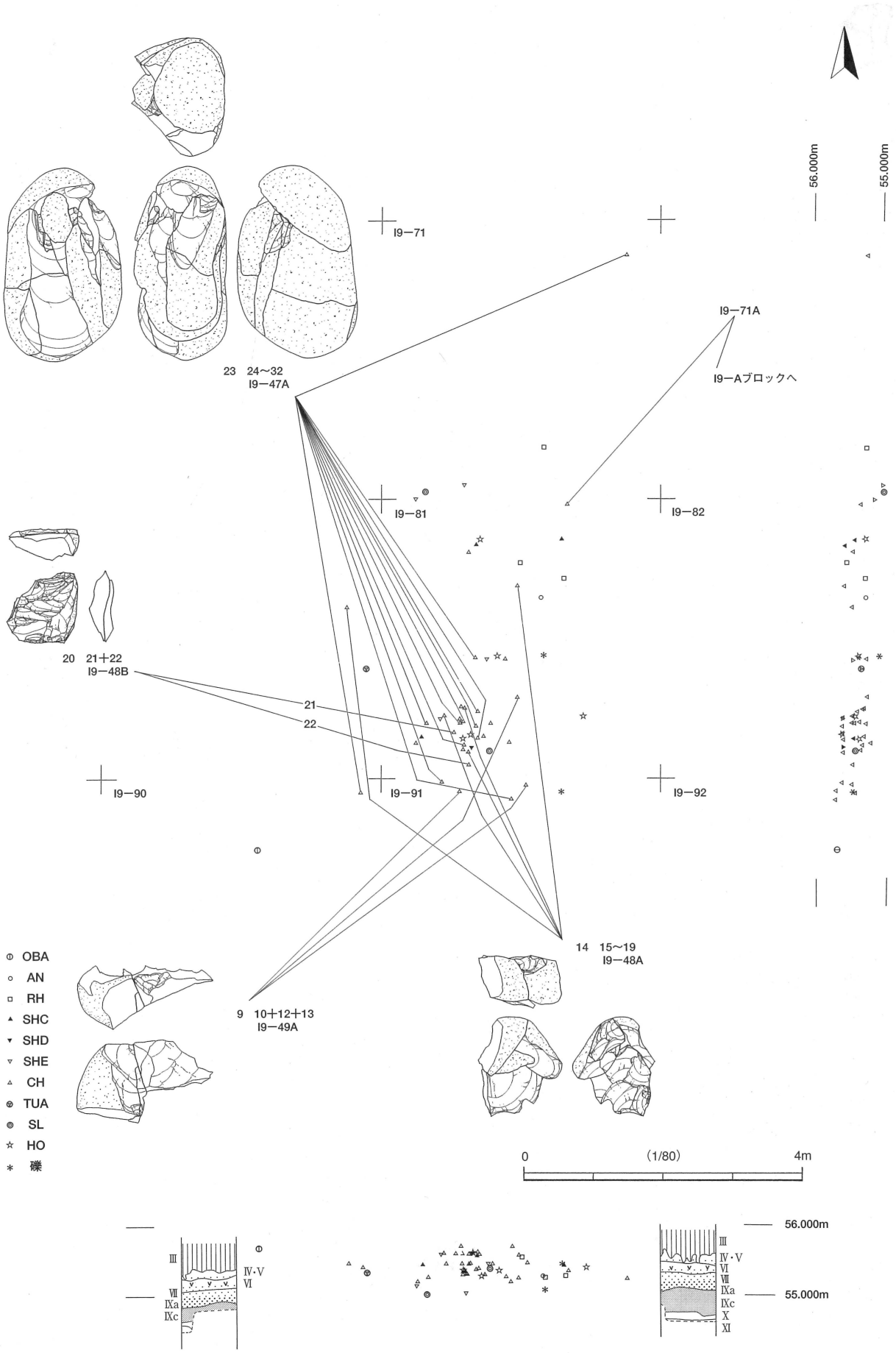
・**I9-52**：自然面は平滑でオリーブ黄色（5Y6/3），内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（11.2g）の単独資料である。

・**I9-53**：自然面は平滑で褐色（10YR4/4），内部は黄褐色（2.5Y5/4），にぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩としたが，硬質緻密な頁岩の可能がある。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点（17.3g）の単独資料である。

・**I9-54**：自然面は平滑で黒褐色（2.5Y3/2），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）の地に暗褐色（7.5YR3/3）が



第126図　I 9 - Bブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第127図　Ｉ９-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

部分的に混じる頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（20.7g）である。

・**I9-55**：灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（2.1g）の単独資料である。

・**I9-56**：暗灰色（N3/0）の粘板岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片１点の合計２点（6.1g）である。

・**I9-57**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y5/1），節理は黄褐色（2.5Y5/3）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（10.3g）の単独資料である。

・**I9-58**：自然面は平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/4）の資料，平滑でにぶい黄色（2.5Y6/4）の資料など母岩内での変異があり，内部は灰オリーブ色（5Y6/2），節理は褐色（10YR4/4）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片３点（9.3g）である。

・**I9-59**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y6/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（4.8g）である。

・**I9-60**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，石核１点（44.6g）の単独資料である。

・**I9-61**：自然面は比較的平滑で黄灰色（2.5Y5/1）・浅黄色（2.5Y7/3），内部は浅黄色（2.5Y7/3）の地に黄灰色（2.5Y5/1）の筋が入るホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点（17.2g）の単独資料である。

・**I9-62**：自然面は平滑でオリーブ灰色（2.5GY6/1）の地に灰白色（N8/0）・暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）が部分的に混じり，内部は緑灰色（7.5GY6/1）の地に暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）の緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，敲石１点（279.0g）の単独資料である。

・**I9-63**：自然面は凹凸があり灰色（N4/0），内部は暗黒灰色の黒曜石である。φ 1㎜～２㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片１点（8.2g）の単独資料である。

・**I9-64**：自然面は紙ヤスリ状で浅黄色（2.5Y7/4），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片１点（7.4g）の単独資料である。

・**I9-71**：灰色（7.5Y4/1）などのチャートである。母岩の特徴はI9- Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（24.9g）の単独資料であるが、I9- Aブロックの石核１点と接合している。

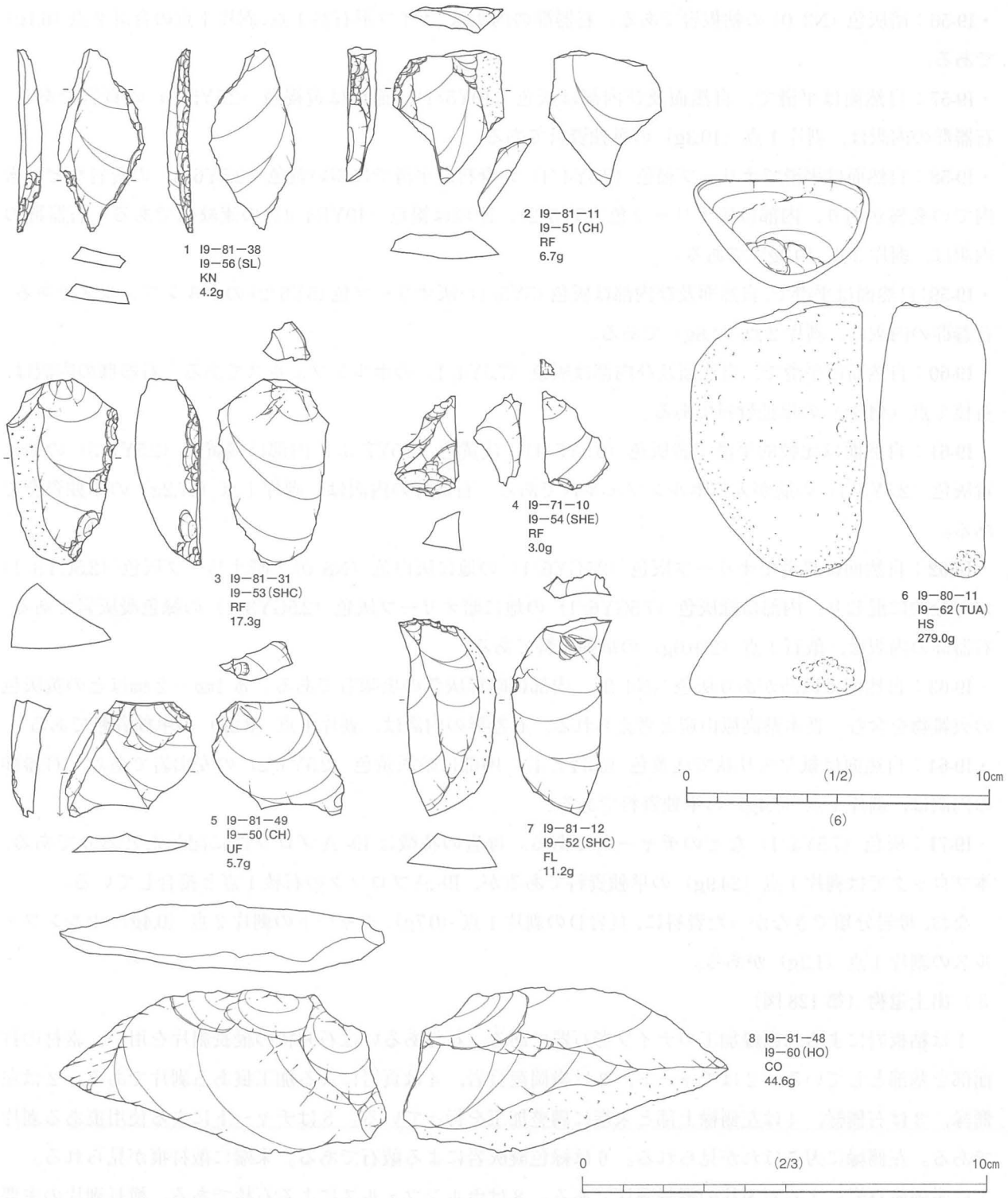
なお，母岩分類できなかった資料に，頁岩Dの剥片１点（0.7g），チャートの剥片２点（0.4g），ホルンフェルスの剥片１点（1.2g）がある。

３）出土遺物（第128図）

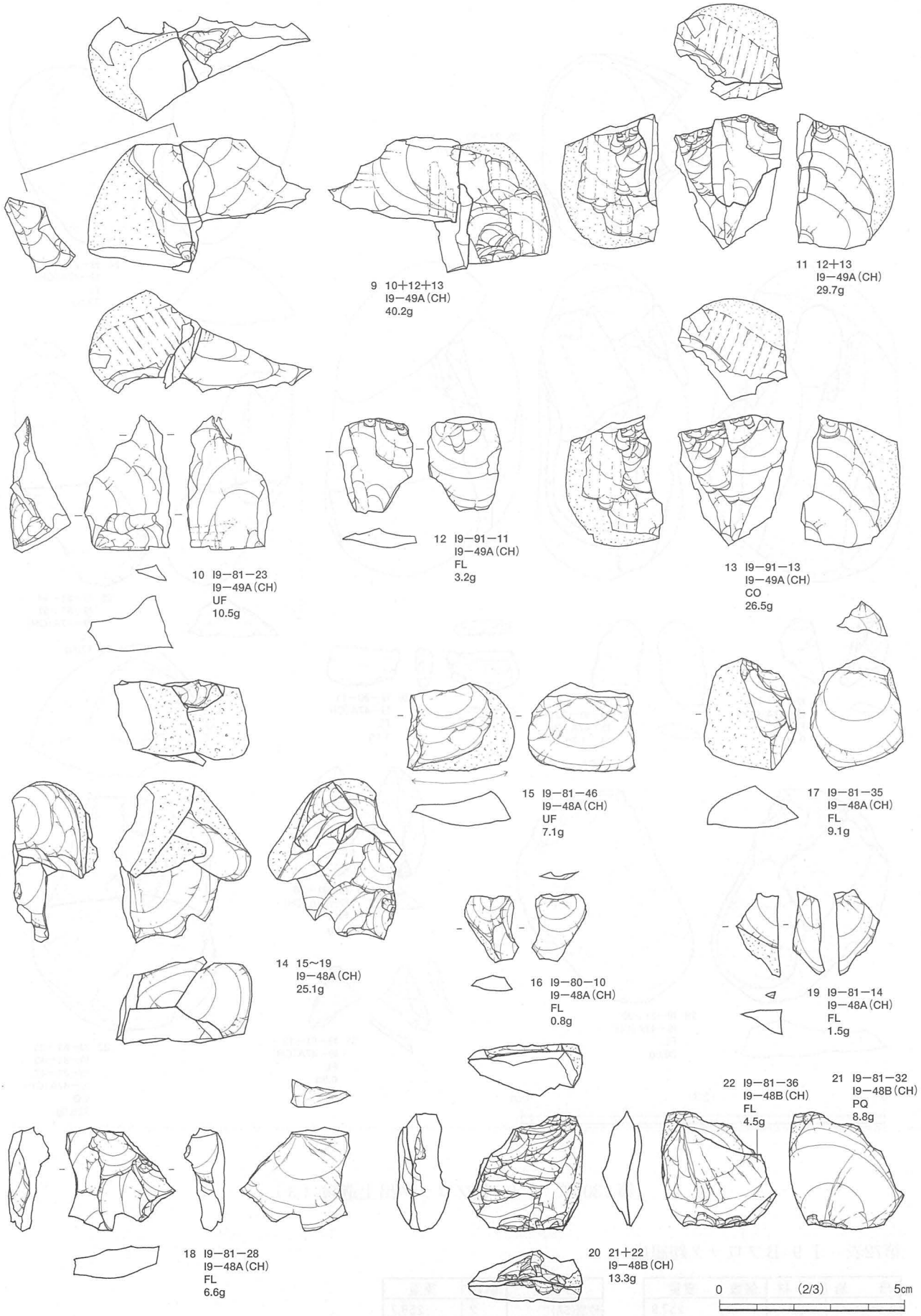
１は粘板岩による二側縁加工のナイフ形石器である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片を用い，素材の打面部を基部としている。２はチャート，３は嶺岡産頁岩，４は頁岩による加工痕ある剥片である。２は左側縁，３は右側縁，４は左側縁上部と末端に調整加工を行っている。５はチャートによる使用痕ある剥片である。左側縁に刃こぼれが見られる。６は緑色凝灰岩による敲石である。末端に敲打痕が見られる。７は嶺岡産頁岩による石刃状の縦長剥片である。８はホルンフェルスによる石核である。横長剥片の主要剥離面側で不定型な剥片を剥離している。

４）接合資料とその関連資料（第129・130図）

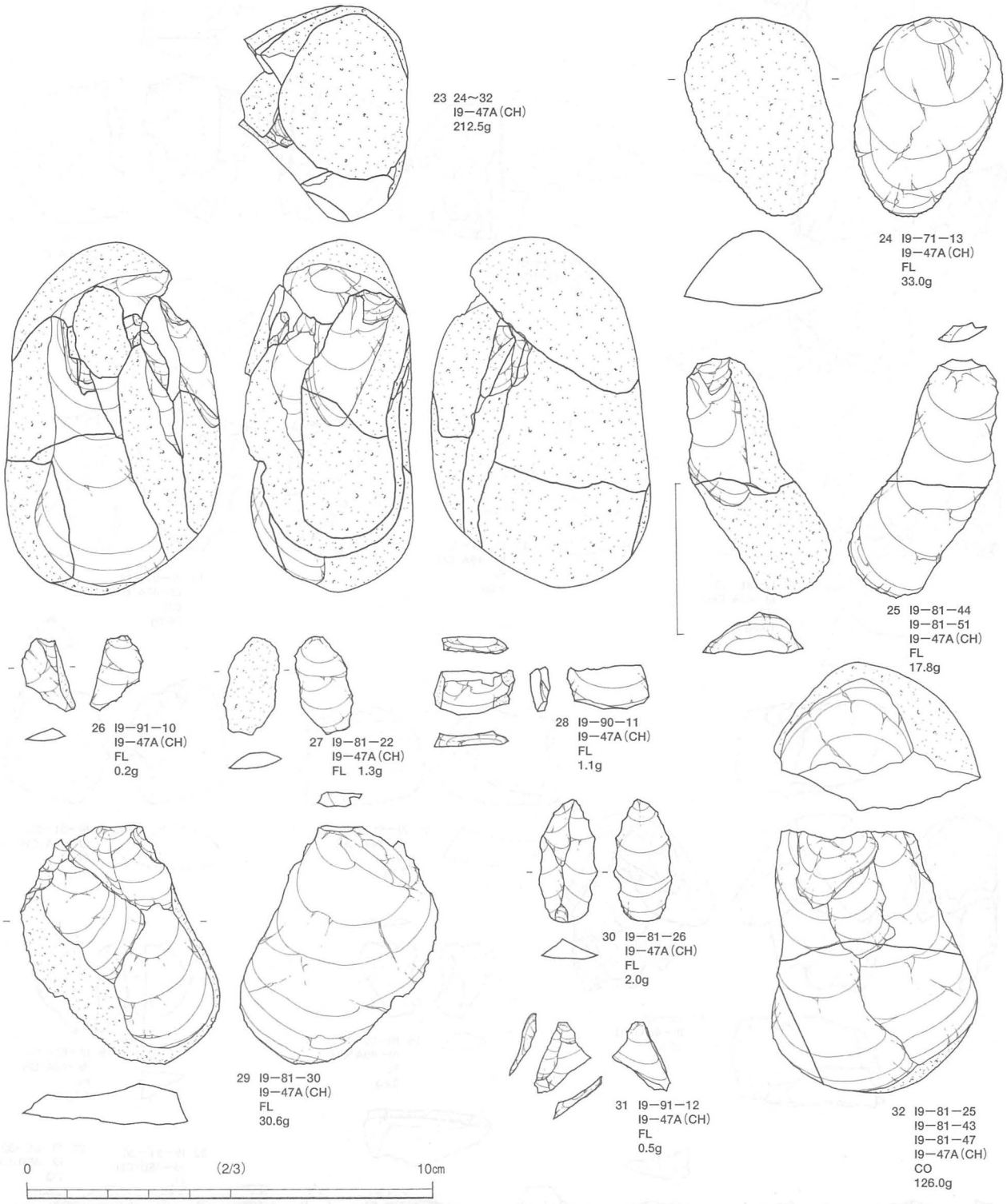
・**I9-49（第129図）** 灰オリーブ色（5Y5/2）などのチャートである。使用痕ある剥片１点，剥片１点，石核１点の合計３点で構成される。９は使用痕ある剥片１点（10），剥片１点（12），石核１点（13）の接



第128図　Ｉ９-Ｂブロック出土遺物（１）



第129図　I 9-Bブロック出土遺物（2）



第130図　Ｉ９-Ｂブロック出土遺物（３）

第72表　Ｉ９-Ｂブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
Ｉ9R-6	SA	1	257.9
その他	SA	1	0.8

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	2	258.7
合　計	2	258.7

合資料である。10は裏面右側縁上部に刃こぼれが見られる。11は平坦な節理を打面として，12を含む不定型な剥片を剥離している。

・**I9-48（第129図）** 暗灰色（N3/0）などのチャートである。楔形石器1点，使用痕ある剥片1点，剥片8点の合計10点で構成される。接合資料は、2グループある。A（14）は使用痕ある剥片1点（15），剥片4点（16～19）の接合資料である。90度打面転移しながら，不定型な剥片を剥離している。15は末端に刃こぼれが見られる。B（20）は楔形石器1点（21），剥片1点（22）の接合資料である。21は両端に対向する剥離痕が見られる。

・**I9-47（第130図）** 暗灰色（N3/0）などのチャートである。剥片11点（10個体），石核3点（1個体）の合計14点（11個体）で構成される。23は剥片9点（8個体；24～31），石核3点（1個体；32）の接合資料である。子供の拳大の礫を素材として，24を剥離して打面を作出し，縦長剥片や小型で不定型な剥片を剥離している。25は2点が接合して1個体，32は3点が接合して1個体となる。

第73表　I 9-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
I 9-47(CH)																		11(10)		3(1)					14(11)
I 9-48(CH)									1		1							8							10
I 9-49(CH)											1							1		1					3
I 9-50(CH)											1														1
I 9-51(CH)										1															1
I 9-52(SHC)																		1							1
I 9-53(SHC)										1															1
I 9-54(SHE)										1								2							3
I 9-55(SHC)																		1							1
I 9-56(SL)	1																	1							2
I 9-57(SHE)																		1							1
I 9-58(RH)																		3							3
I 9-59(HO)																		2							2
I 9-60(HO)																				1					1
I 9-61(HO)																		1							1
I 9-62(TUA)																1									1
I 9-63(OBA)																		1							1
I 9-64(AN)																		1							1
I 9-71(CH)																		1							1
その他(SHD)																		1							1
その他(CH)																		2							2
その他(HO)																		1							1
合　計	1								1	3	3					1		39(38)		5(3)					53(50)

第74表　I 9-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
黒曜石A(OBA)																		1							1
安山岩(AN)																		1							1
流紋岩(RH)																		3							3
頁岩C(SHC)										1								2							3
頁岩D(SHD)																		1							1
頁岩E(SHE)										1								3							4
チャート(CH)									1	1	3							23(22)		4(2)					32(29)
凝灰岩A(TUA)																1									1
粘板岩(SL)	1																	1							2
ホルンフェルス(HO)																		4		1					5
合　計	1								1	3	3					1		39(38)		5(3)					53(50)

16 I9- Ｃブロック（第 131 ～ 139・266 図，第 75 ～ 77 表，カラー図版 10・11・20，図版 7）

１）ブロックの概要

I9- Ｃブロックは，調査範囲西側の I9-26・27・36 ～ 39・46 ～ 48・56 ～ 59・67 グリッドに位置す。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は 25 ｍである。

ブロックの規模と形状は，直径 17 ｍの範囲に 150 点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ｖ層からＸ層にかけてで，140㎝ほどの高低差をもって包含されている（第 131 ～ 133 図）。

ブロックは，ナイフ形石器 7 点，楔形石器 11 点，加工痕ある剥片 3 点，使用痕ある剥片 3 点，石刃 14 点（13 個体），敲石 1 点，剥片 96 点（94 個体），砕片 4 点，石核 5 点，原石 1 点の合計 145 点（142 個体）と礫 5 点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ 4 点（２個体），黒曜石Ｂ 14 点，安山岩 24 点，頁岩Ａ 24 点，頁岩Ｂ 8 点，頁岩Ｃ 2，頁岩Ｅ 6 点，チャート 11 点，砂岩 1 点，ホルンフェルス 4 点，瑪瑙・玉髄 47 点（46 個体）である。礫石材は，流紋岩 1 点（１母岩；37.3g），砂岩 3 点（３母岩；128.8g），ホルンフェルス 1 点（１母岩；58.7g）で，識別率は 100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは 45 母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ 1 母岩（I9-39），安山岩 5 母岩（I9-42 ～ 46），頁岩Ａ 24 母岩（I9-3 ～ 23・25 ～ 27），頁岩Ｂ 4 母岩（I9-2・28・29・34），頁岩Ｃ 2 母岩（I9-35・36），頁岩Ｅ 5 母岩（I9-30 ～ 33・40），チャート 2 母岩（I9-37・38），砂岩 1 母岩（I9-41），瑪瑙・玉髄 1 母岩（I9-1）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は 66％（95/145 点）である。

・**I9-1**：自然面は平滑で，自然面及び内部は明黄褐色（2.5Y7/6）・灰白色（5Y8/2）の資料，黒褐色（10YR3/2）の資料，褐色（10YR4/4）の資料，黒褐色（10YR3/1）の資料，灰白色（5Y8/1）の資料，にぶい黄色（2.5Y6/4）の資料，褐色（10YR4/4）の資料など母岩内での変異がある瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，ナイフ形石器 2 点，楔形石器 1 点，加工痕ある剥片 1 点，使用痕ある剥片 1 点，石刃 5 点（４個体），剥片 29 点，砕片 1 点の合計 40 点（39 個体；212.8g）である。接合資料は、２グループあり、Ａは石刃 2 点（１個体；23.0g），Ｂは剥片 2 点（16.0g）である。

・**I9-2**：自然面は平滑で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）・にぶい赤褐色（5YR4/4），新鮮な面は黄灰色（2.5Y4/1）の北関東産頁岩である。黒褐色（5YR3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片 2 点（10.7g）である。接合資料は、使用痕ある剥片 2 点（10.7g）である。

・**I9-3**：灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。黒褐色（10YR3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，ナイフ形石器 1 点（3.5g）の単独資料である。

・**I9-4**：暗灰黄色（2.5Y5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器 1 点（2.7g）の単独資料である。

・**I9-5**：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器 1 点（1.6g）の単独資料である。

・**I9-6**：黄褐色（2.5Y5/3）の地に明黄褐色（10YR6/6）が部分的に混じる東北産頁岩である。黒褐色（10YR3/1）の付着物が見られる。ナイフ形石器 1 点（0.8）の単独資料である。

・**I9-7**：灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。ナイフ形石器 1 点（1.0g）の単独資料である。

・**I9-8**：灰黄褐色（10YR4/2）・灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器 1 点（7.8g）の単独資料である。

・I9-9：灰黄褐色(10YR5/2)の東北産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点(5.0g)の単独資料である。
・I9-10：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰黄褐色（10YR5/2）の地に灰黄褐色（10YR6/2）が部分的に混じる東北産頁岩である。黒褐色（10YR3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，石刃１点（12.2g）の単独資料である。
・I9-11：灰黄褐色（10YR5/2）・灰黄色（2.5Y6/2）の地に灰黄褐色（10YR4/2）が部分的に混じる東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点（18.2g）の単独資料である。
・I9-12：灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。黒褐色（10YR3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，石刃１点（24.4g）の単独資料である。
・I9-13：灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。灰黄褐色（10YR4/2）の付着物が見られる。石器群の内訳は，石刃１点（36.1g）の単独資料である。
・I9-14：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点（1.4g）の単独資料である。
・I9-15：灰黄褐色（10YR5/2）の地に褐灰色（10YR6/1）が部分的に混じる東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点（1.4g）の単独資料である。
・I9-16：灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点（0.4g）の単独資料である。
・I9-17：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（11.8g）の単独資料である。
・I9-18：灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（2.4g）の単独資料である。
・I9-19：灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（3.9g）の単独資料である。
・I9-20：内部は灰黄褐色（10YR5/2），節理はにぶい黄褐色（10YR5/3）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（7.6g）の単独資料である。
・I9-21：灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。黒褐色（10YR3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，剥片１点（6.8g）の単独資料である。
・I9-22：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。黒褐色（10YR3/1）の付着物が見られる。石器群の内訳は，剥片１点（4.0g））の単独資料である。
・I9-23：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（2.5g）の単独資料である。
・I9-25：灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（1.9g）の単独資料である。
・I9-26：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（1.1g）の単独資料である。
・I9-27：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（2.1g）の単独資料である。
・I9-28：自然面は比較的平滑で凹凸があり，自然面及び内部は灰黄色（2.5Y6/2）・黄灰色（2.5Y4/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点（19.0g）の単独資料である。
・I9-29：にぶい黄色(2.5Y6/3)・灰黄色(2.5Y7/2)の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点(4.1g)の単独資料である。
・I9-30：にぶい黄橙色（10YR6/4）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（1.8g）の単独資料である。
・I9-31：浅黄色（5Y7/3）の地に灰色（5Y6/1）が部分的に混じる頁岩としたが，凝灰岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片１点（1.5g）の単独資料である。
・I9-32：内部は浅黄色（5Y7/3），新鮮な面は灰色（5Y4/1）の頁岩としたが，凝灰岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片１点（1.1g）の単独資料である。

・I9-33：オリーブ灰色（10Y5/2）・灰色（10Y4/1）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（4.4g）の単独資料である。

・I9-34：オリーブ黒色（5Y3/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点（13.6g）である。

・I9-35：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の地に浅黄色（2.5Y8/3）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（3.2g）の単独資料である。

・I9-36：自然面は比較的平滑で灰黄褐色（10YR4/2），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（1.1g）の単独資料である。

・I9-37：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y4/2），内部は灰色（7.5Y4/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）のチャートである。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片２点の合計３点（30.6g）である。接合資料は，楔形石器１点，剥片２点の合計３点（30.6g）である。

・I9-38：黒褐色（10YR3/1）のチャートとしたが，硬質緻密な頁岩の可能性がある。石器群の内訳は，楔形石器１点（2.9g））の単独資料である。

・I9-39：黒色の黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（１個体；3.8g）である。接合資料は，剥片３点（１個体；3.8g）である。

・I9-40：内部は灰色（7.5Y5/1），節理及び新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（16.2g）である。

・I9-41：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（N4/0）・灰色（5Y6/1）の地に浅黄色（2.5Y7/4）が部分的に混じる砂岩である。石器群の内訳は，敲石１点（63.8g）の単独資料である。

・I9-42：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は暗オリーブ色（5Y4/4）・灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（82.8g）である。接合資料は，剥片３点（82.8g）である。

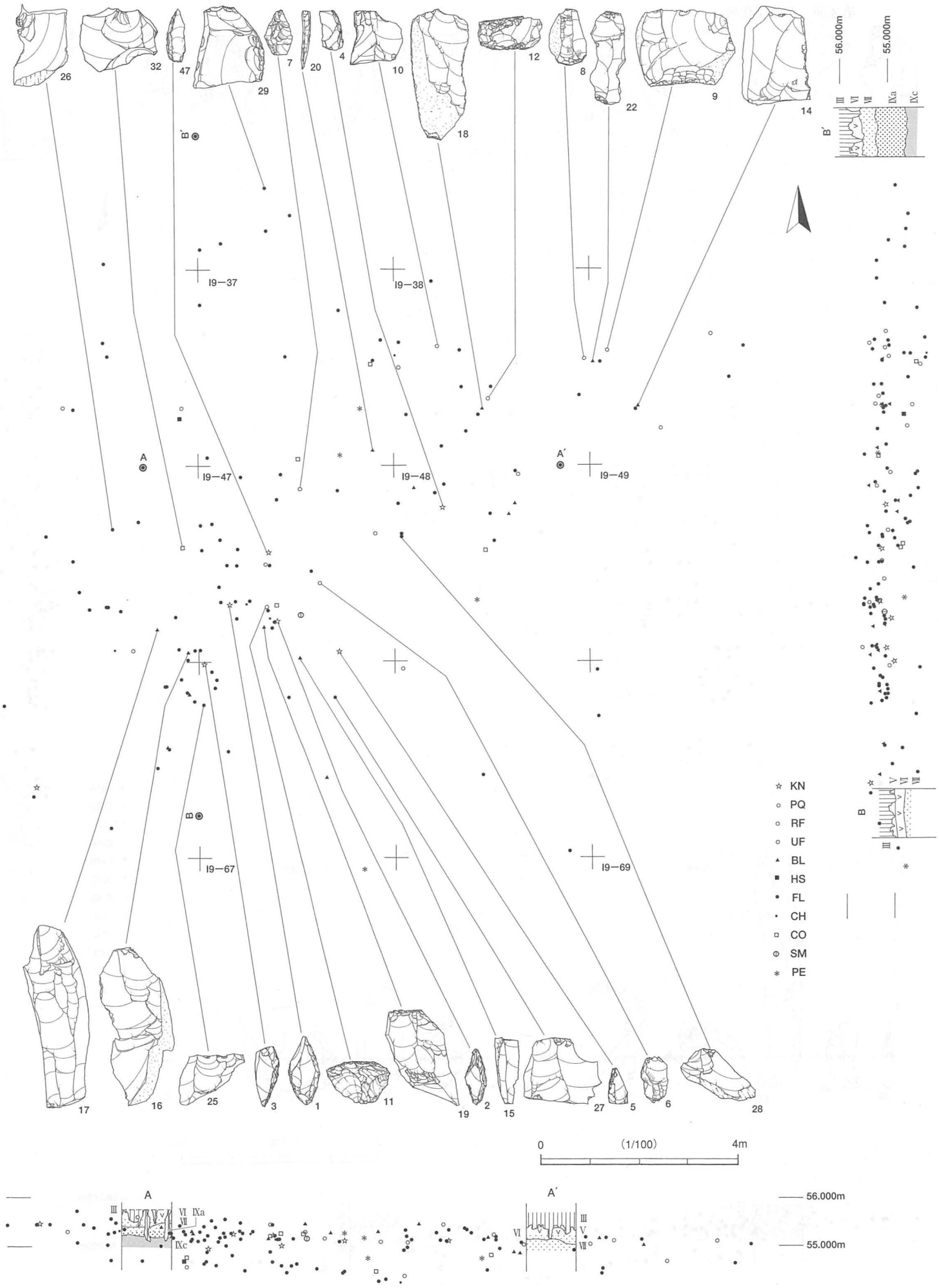
・I9-43：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）の安山岩である。石器群の内訳は，石核１点（165.8g）の単独資料である。

・I9-44：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の安山岩である。石器群の内訳は，石核１点（131.4g）の単独資料である。

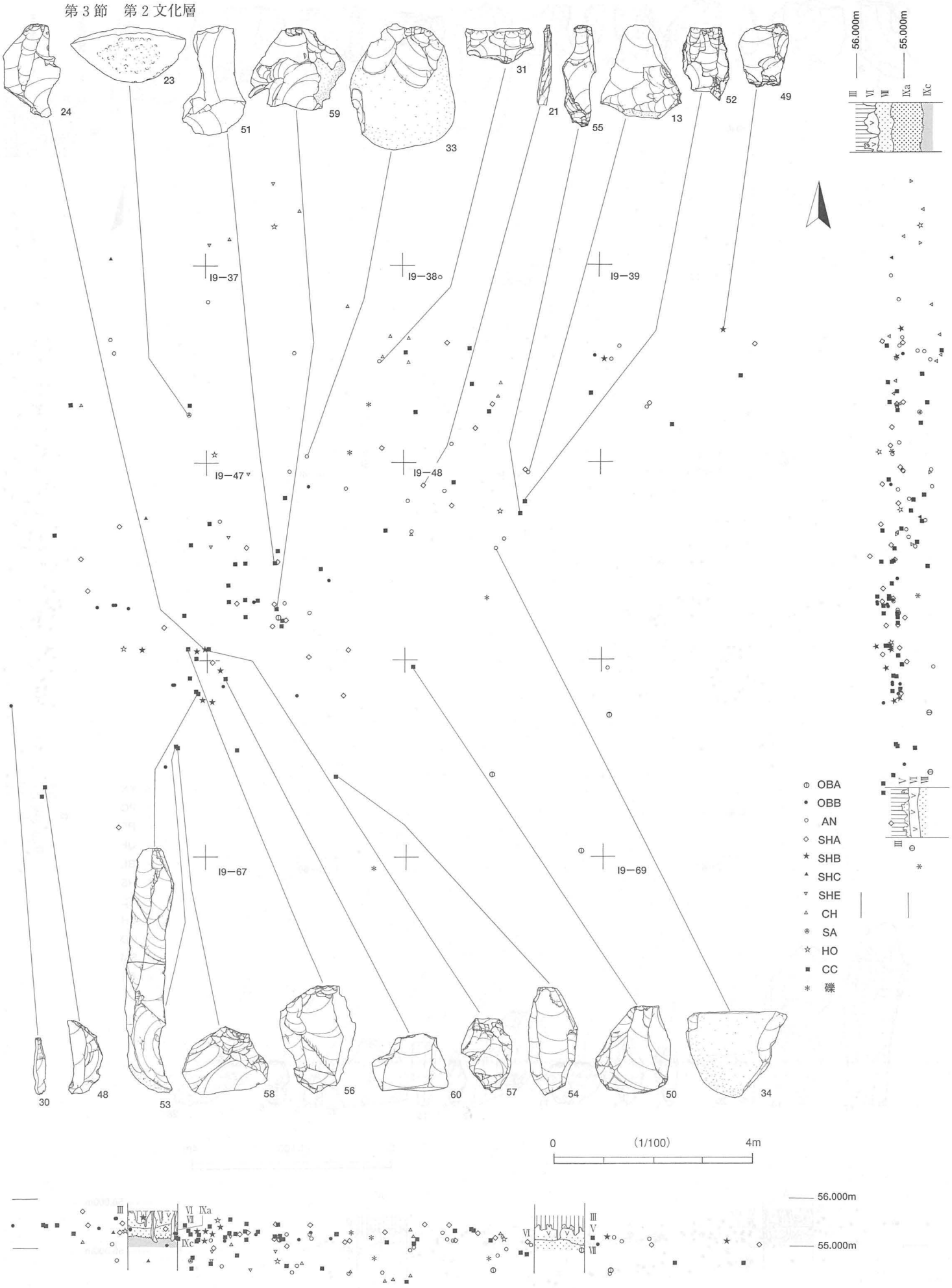
・I9-45：自然面は紙ヤスリ状で灰オリーブ色（5Y4/2）の安山岩である。石器群の内訳は，原石１点（120.5g）の単独資料である。

・I9-46：自然面は平滑で灰白色（5Y7/2）の地に灰褐色（7.5YR5/2）が部分的に混じり，内部は灰色（5Y6/1）・灰白色（5Y8/2）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片１点（9.9g）の単独資料である。

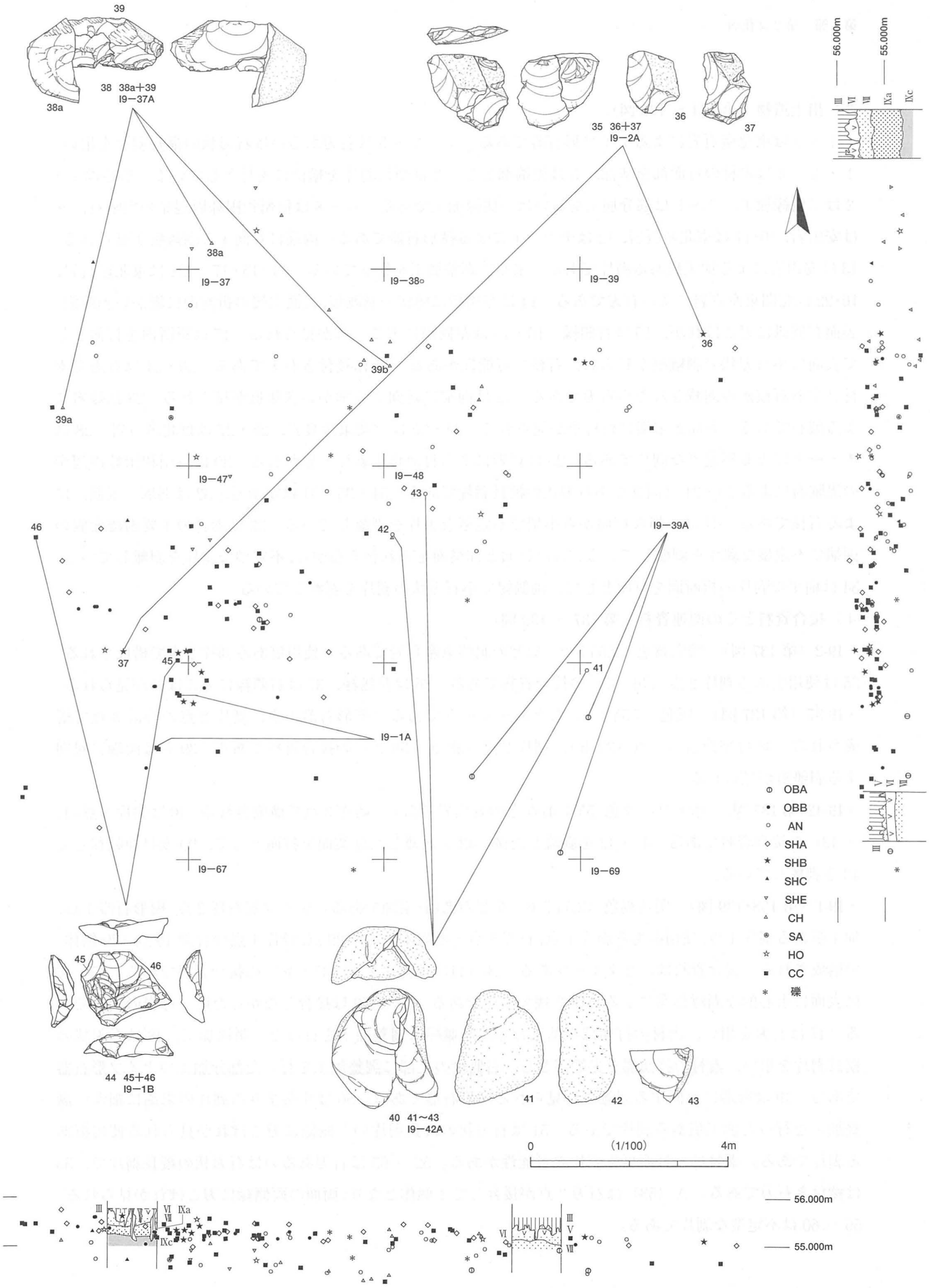
なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ａの砕片１点（0.01g），黒曜石Ｂの楔形石器３点，剥片10点，砕片１点の合計14点（14.8g），安山岩の楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片13点，石核２点の合計17点（126.7g），チャートの剥片７点（22.0g），ホルンフェルスの剥片３点，砕片１点の合計４点（5.3g），瑪瑙・玉髄の楔形石器２点，加工痕ある剥片１点，剥片３点，石核１点の合計７点（32.2g）がある。



第131図　Ⅰ9-Cブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第132図　Ⅰ9-Ｃブロック出土遺物分布（２）－石材別分布（１）－



第133図　Ⅰ9-Cブロック出土遺物分布（3）－石材別分布（2）－

3）出土遺物（第134～136図）

1～5は東北産頁岩によるナイフ形石器である。1・3～5は石刃あるいは石刃状の縦長剥片を用い，1・3・4は素材の打面部を基部，5は先端部とし，2は横長剥片を横位に素材としている。形態は1・2は二側縁加工，3～5は部分加工あるいは一側縁加工である。6～8は信州和田峠周辺産の黒曜石，9は安山岩，10･11は東北産頁岩，12はチャートによる楔形石器である。両端に対向する剥離痕が見られる。13は安山岩による加工痕ある剥片である。末端に調整加工を行っている。14･15･17～21は東北産頁岩，16･22は北関東産頁岩による石刃である。14は左側縁に樋状の剥離痕，裏面末端の折断面に細かい剥離痕，表面右側縁に刃こぼれが，15は右側縁，16・18は左側縁に刃こぼれが見られる。17は折断面を打面として表面に小石刃状の剥離痕が見られ，石核の可能性がある。19は稜付き石刃である。20・21は石刃を素材とする石核から剥離された小石刃である。22は両端に対向する細かい剥離痕が見られる。23は砂岩による敲石である。両面と末端に敲打痕が見られる。24・25は北関東産頁岩，26・27は東北産頁岩，28はチャートによる不定型な剥片である。29は頁岩による打面再生剥片と思われる。30は信州和田峠周辺産の黒曜石による20・21と同様な小石刃状の縦長剥片である。31・33・34は安山岩，32は瑪瑙・玉髄，による石核である。31は平坦な打面から小型で不定型な剥片を剥離している。32は素材の主要剥離面側の両端で不定型な剥片を剥離している。33は打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。34は扁平な剥片の折断面を打面として，両側縁で小石刃状の剥片を剥離している。

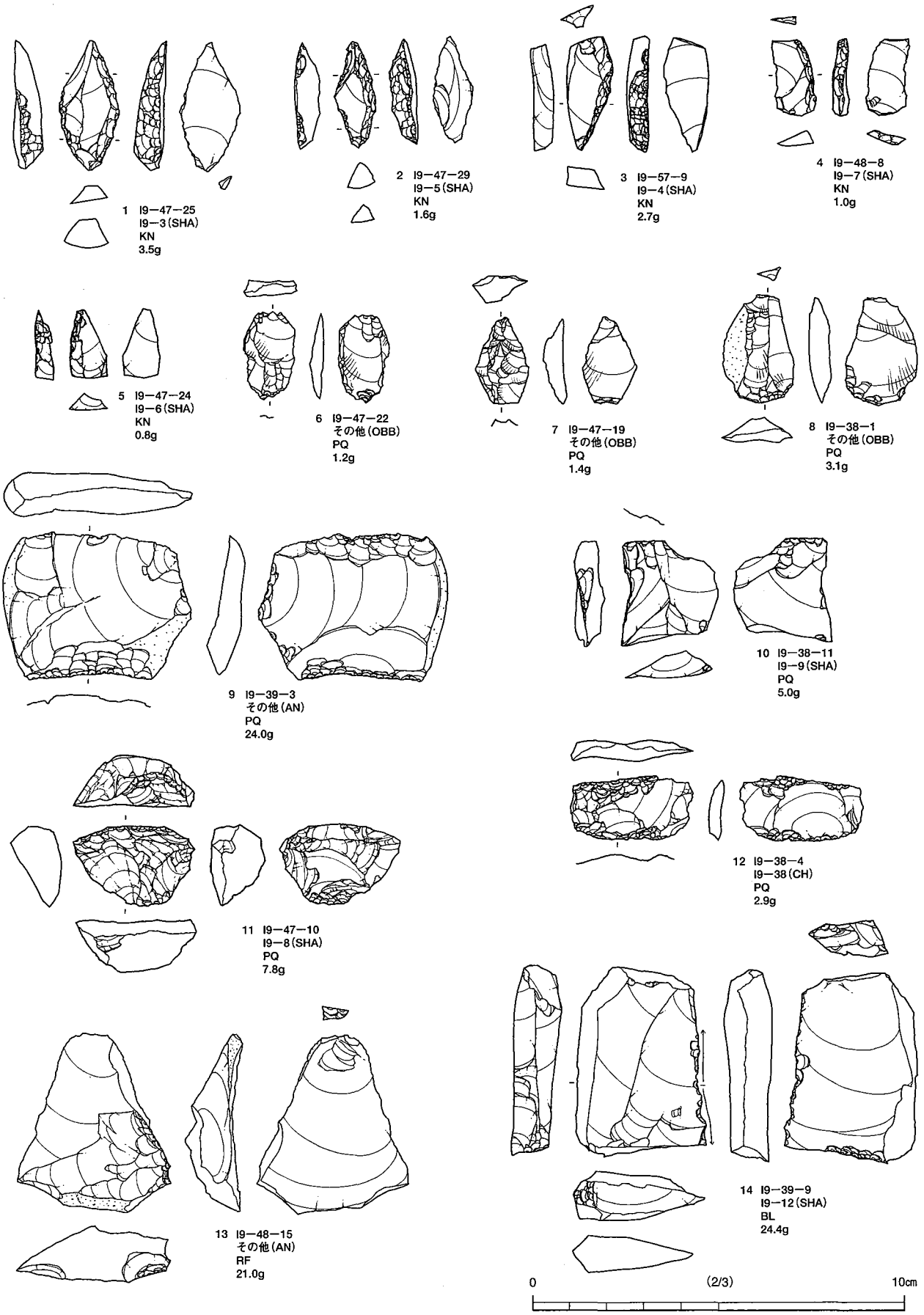
4）接合資料とその関連資料（第137～139図）

・I9-2（第137図）　暗灰黄色（2.5Y5/2）などの北関東産頁岩である。使用痕ある剥片2点で構成される。35は使用痕ある剥片2点（36・37）の接合資料である。36は左側縁，37は右側縁に刃こぼれが見られる。

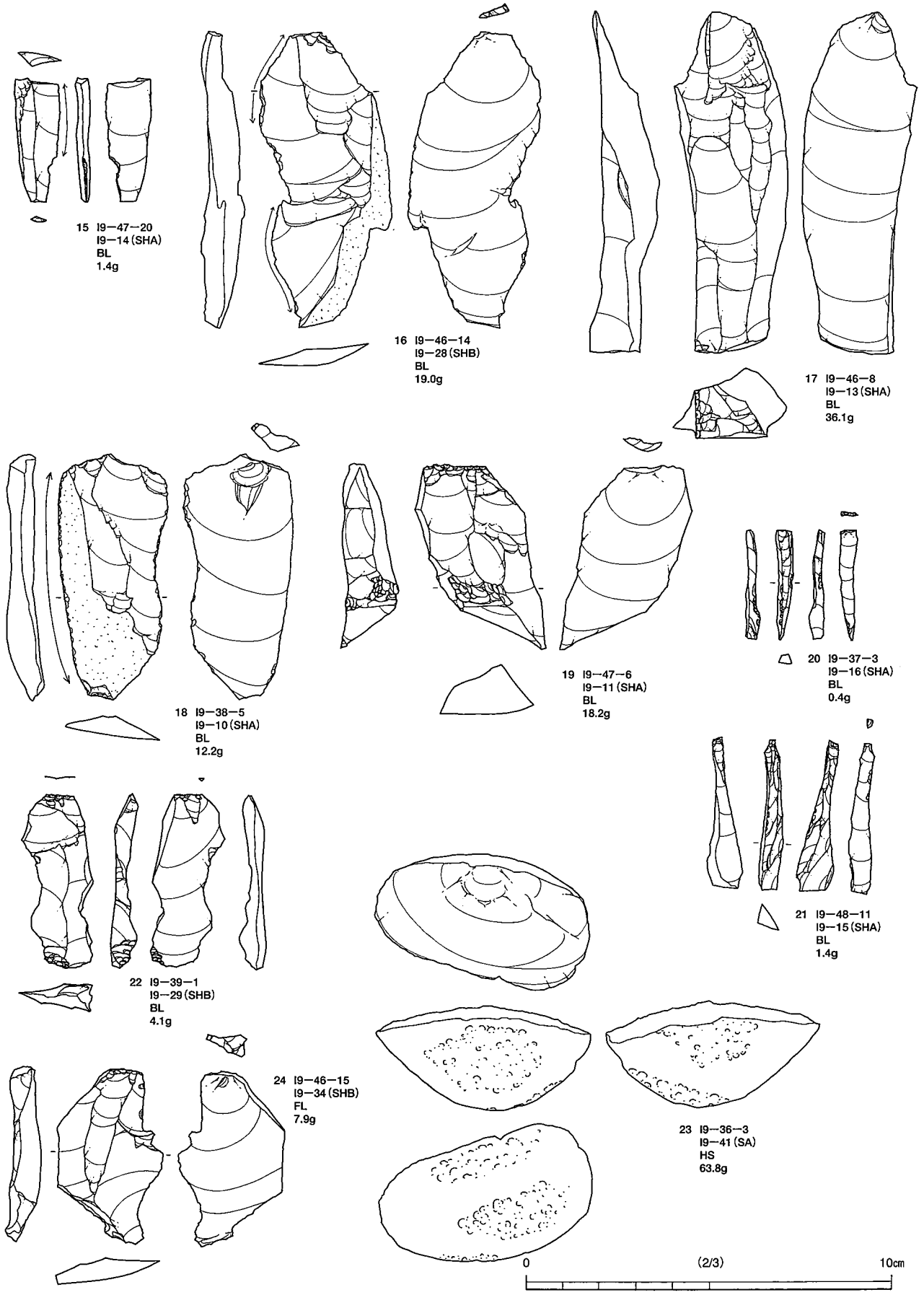
・I9-37（第137図）　灰色（7.5Y4/1）などのチャートである。楔形石器1点，剥片2点の合計3点で構成される。38は楔形石器1点（39 b），剥片2点（38 a・39 a）の接合資料である。39 bは両端に対向する剥離痕が見られる。

・I9-42（第137図）　暗オリーブ色（5Y4/4）などの安山岩である。剥片3点で構成される。40は剥片3点（41～43）の接合資料である。41・42を剥離した後，42を剥離した作業面を打面として，90度打面転移して43を剥離している。

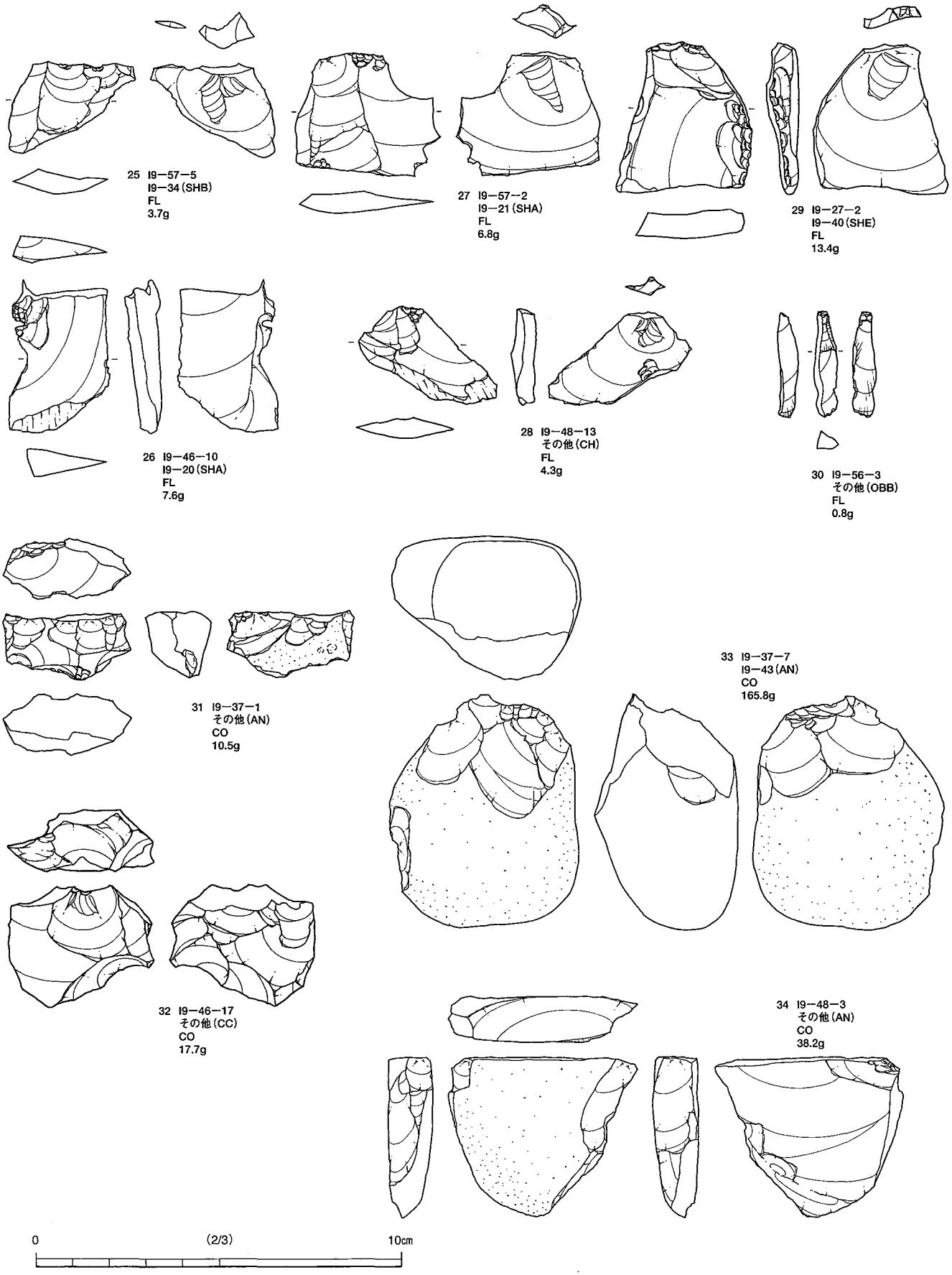
・I9-1（第138･139図）　明黄褐色（2.5Y7/6）などの瑪瑙･玉髄である。ナイフ形石器2点，楔形石器1点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，石刃5点（4個体），剥片29点，砕片1点の合計40点（39個体）で構成される。接合資料は、2グループある。B（44）は剥片2点（45・46）の接合資料である。45・46は表面に求心的な剥離作業による痕跡を残す剥片である。47～60は接合しなかった同一母岩の資料である。47は石刃を用い，素材の打面部を基部とし，左側縁に調整加工を行った一側縁加工，48は石刃状の縦長剥片を用い，素材の打面部を先端部とし，右側縁の上部に調整加工を行った部分加工のナイフ形石器である。49は両端に対向する剥離痕が見られる楔形石器である。50は寸詰まりの剥片の末端に細かい調整加工を行った加工痕ある剥片である。51は石刃状の縦長剥片の右側縁に刃こぼれが見られる使用痕ある剥片である。素材は，打面再生剥片の可能性がある。52～55は石刃あるいは石刃状の縦長剥片で，55は稜付き石刃である。A（53）は石刃2点が接合して1個体となり，両面の両側縁に刃こぼれが見られる。56～60は不定型な剥片である。



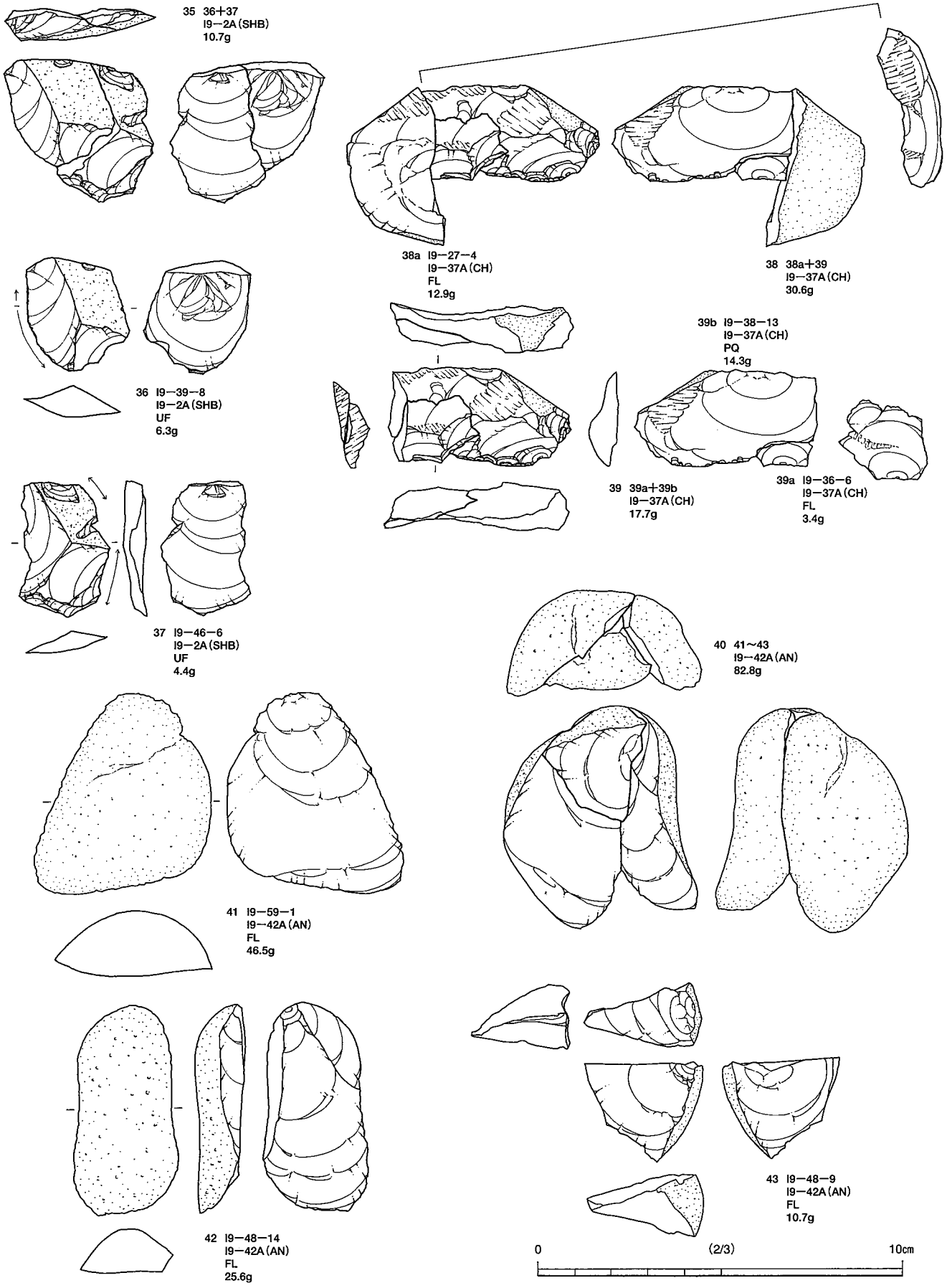
第134図　I 9 - Cブロック出土遺物（1）



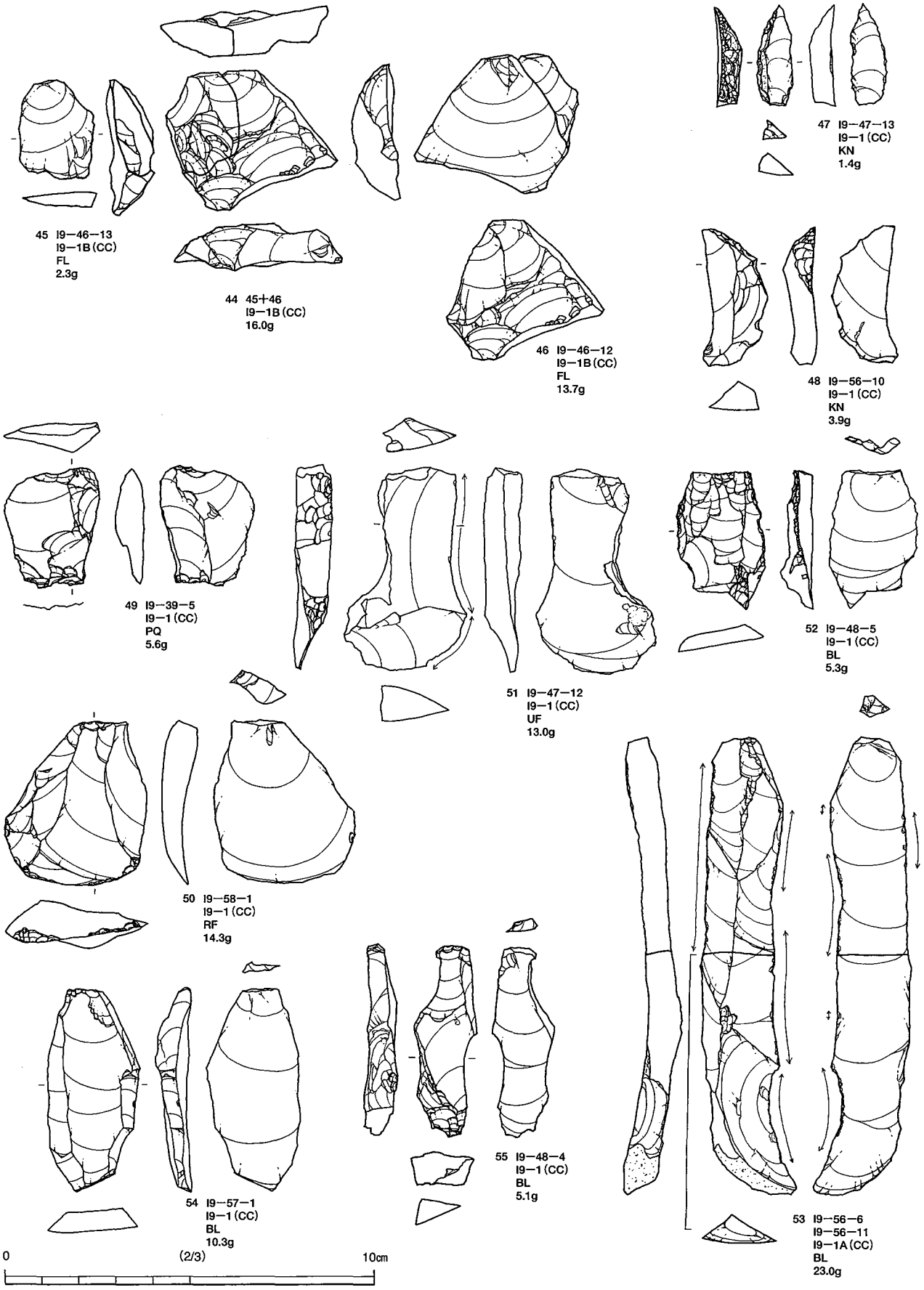
第135図　Ｉ９-Ｃブロック出土遺物（２）



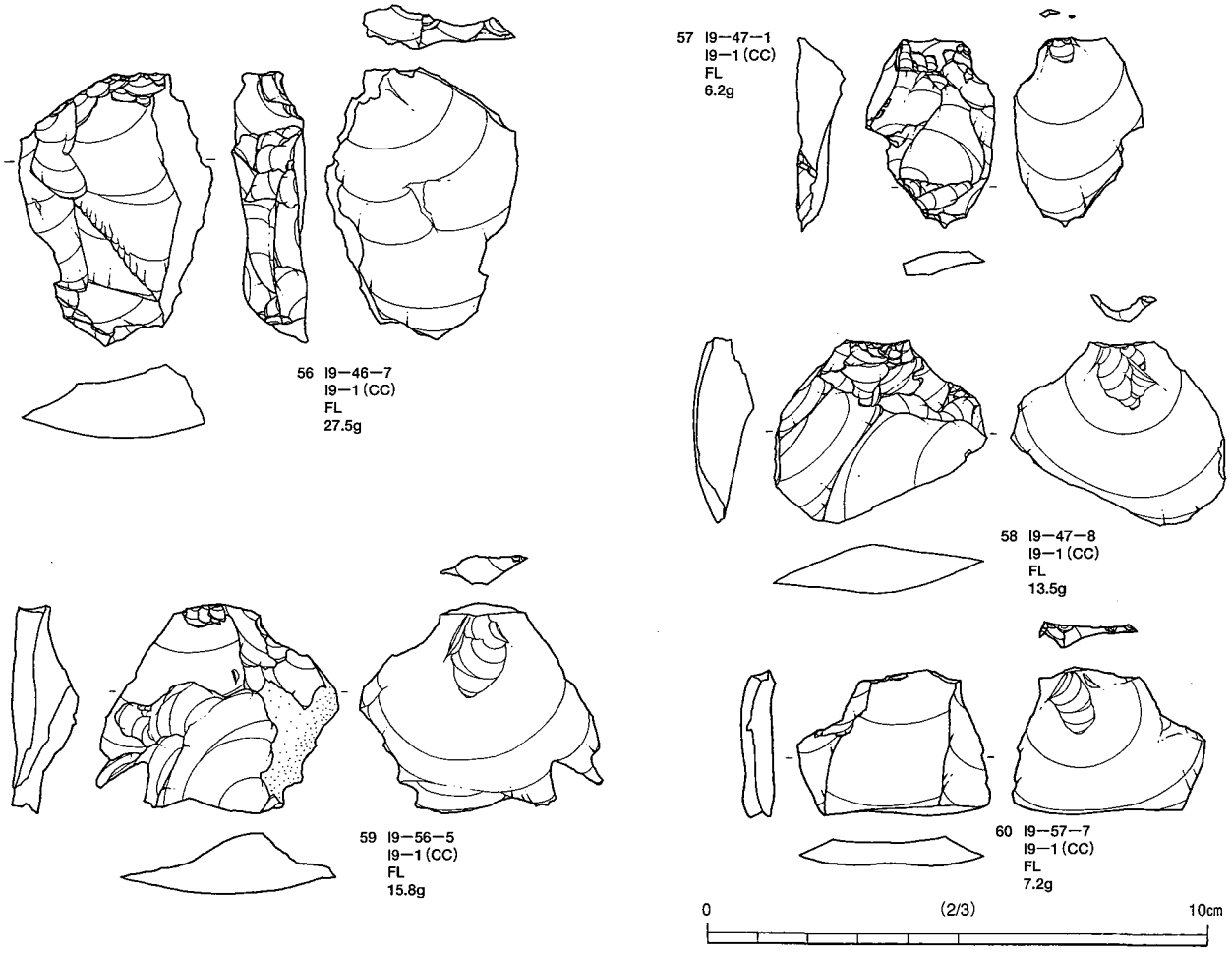
第136図　Ⅰ9-Cブロック出土遺物（3）



第137図　Ｉ９-Ｃブロック出土遺物（４）



第138図　Ｉ９-Ｃブロック出土遺物（５）



第139図　Ⅰ9-Cブロック出土遺物（6）

第75表　Ⅰ9-Cブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石A(OBA)																		3(1)	1						4(2)
黒曜石B(OBB)									3									10	1						14
安山岩(AN)									1	1								17		4	1				24
頁岩A(SHA)	5								2			7						10							24
頁岩B(SHB)											2	2						4							8
頁岩C(SHC)																		2							2
頁岩E(SHE)																		6							6
チャート(CH)									2									9							11
砂岩(SA)																1									1
ホルンフェルス(HO)																		3	1						4
瑪瑙・玉髄(CC)	2								3	2	1	5(4)						32	1	1					47(46)
合　計	7								11	3	3	14(13)				1		96(94)	4	5	1				145(142)

第76表　Ｉ９-Ｃブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
Ｉ9-1(CC)	2								1	1	1	5(4)						29	1						40(39)
Ｉ9-2(SHB)											2														2
Ｉ9-3(SHA)	1																								1
Ｉ9-4(SHA)	1																								1
Ｉ9-5(SHA)	1																								1
Ｉ9-6(SHA)	1																								1
Ｉ9-7(SHA)	1																								1
Ｉ9-8(SHA)									1																1
Ｉ9-9(SHA)									1																1
Ｉ9-10(SHA)												1													1
Ｉ9-11(SHA)												1													1
Ｉ9-12(SHA)												1													1
Ｉ9-13(SHA)												1													1
Ｉ9-14(SHA)												1													1
Ｉ9-15(SHA)												1													1
Ｉ9-16(SHA)												1													1
Ｉ9-17(SHA)																		1							1
Ｉ9-18(SHA)																		1							1
Ｉ9-19(SHA)																		1							1
Ｉ9-20(SHA)																		1							1
Ｉ9-21(SHA)																		1							1
Ｉ9-22(SHA)																		1							1
Ｉ9-23(SHA)																		1							1
Ｉ9-25(SHA)																		1							1
Ｉ9-26(SHA)																		1							1
Ｉ9-27(SHA)																		1							1
Ｉ9-28(SHB)												1													1
Ｉ9-29(SHB)												1													1
Ｉ9-30(SHE)																		1							1
Ｉ9-31(SHE)																		1							1
Ｉ9-32(SHE)																		1							1
Ｉ9-33(SHE)																		1							1
Ｉ9-34(SHB)																		4							4
Ｉ9-35(SHC)																		1							1
Ｉ9-36(SHC)																		1							1
Ｉ9-37(CH)									1									2							3
Ｉ9-38(CH)									1																1
Ｉ9-39(OBA)																		3(1)							3(1)
Ｉ9-40(SHE)																		2							2
Ｉ9-41(SA)																1									1
Ｉ9-42(AN)																		3							3
Ｉ9-43(AN)																				1					1
Ｉ9-44(AN)																				1					1
Ｉ9-45(AN)																					1				1
Ｉ9-46(AN)																		1							1
その他(OBA)																			1						1
その他(OBB)									3									10	1						14
その他(AN)									1	1								13		2					17
その他(CH)																		7							7
その他(HO)																		3	1						4
その他(CC)									2	1								3		1					7
合　計	7								11	3	3	14(13)				1		96(94)	4	5	1				145(142)

第77表　Ｉ９-Ｃブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
Ｉ9R-1	SA	1	56.3
Ｉ9R-2	SA	1	48.1
Ｉ9R-3	SA	1	24.4
Ｉ9R-4	HO	1	58.7
Ｉ9R-5	RH	1	37.3

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	37.3
砂岩(SA)	3	128.8
ホルンフェルス(HO)	1	58.7
合　計	5	224.8

17 E9-Aブロック（第140～143・266図，第78～80表，カラー図版11・21，図版8）

1）ブロックの概要

E9-Aブロックは，調査範囲西側のE9-37・45・46・55～57・65・66グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側谷頭である。

ブロックの規模と形状は，長軸14m，短軸8mの範囲に60点の石器・礫が分布するが，特にE9-56グリッドを中心に集中する。出土層位は，Ⅴ層からⅦ層にかけてで，50cmほどの高低差をもって包含されている（第140・141図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片1点，石刃17点，敲石1点，剥片35点（33個体）砕片3点，石核1点の合計59点（57個体）と礫1点で構成される。石器石材は，黒曜石B 57点（55個体），安山岩1点，チャート1点である。礫石材は，砂岩1点（1母岩；51.2g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは12母岩を識別した。内訳は，黒曜石B 10母岩（E9-1～10），安山岩1母岩（E9-12），チャート1母岩（E9-11）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は80%（47/59点）である。

・**E9-1**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。φ1mmほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃4点，剥片1点の合計5点（21.9g）である。接合資料は，石刃3点（10.4g）である。

・**E9-2**：黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片9点（7個体），砕片1点，石核1点の合計11点（9個体；20.5g）である。接合資料は，剥片4点（2個体），石核1点の合計5点（3個体；119.6g）である。

・**E9-3**：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃2点（6.6g）である。接合資料は，石刃2点（6.6g）である。

・**E9-4**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃1点，剥片5点の合計6点（12.7g）である。接合資料は，剥片2点（3.0g）である。

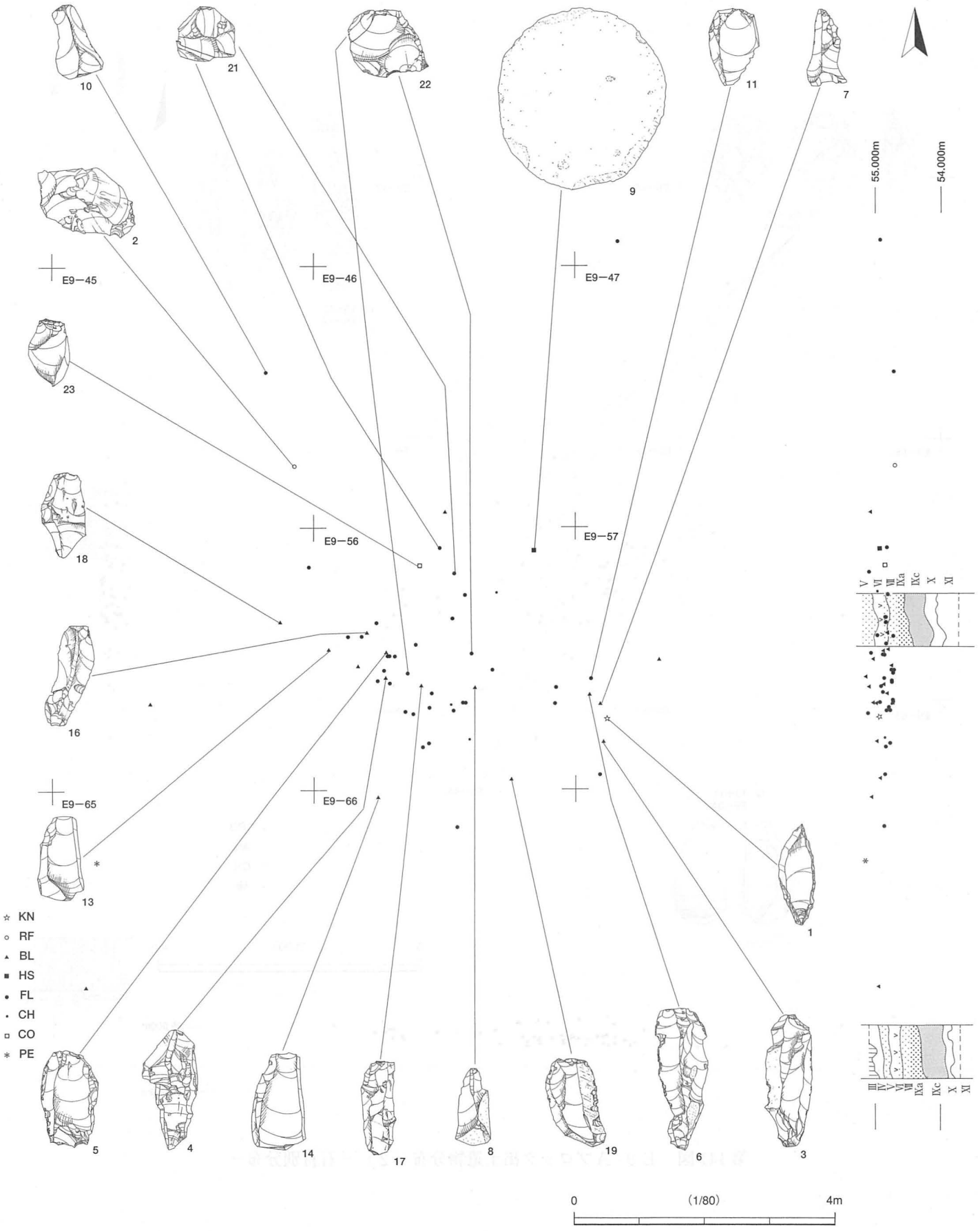
・**E9-5**：透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片3点（9.2g）である。

・**E9-6**：自然面は平滑で，自然面及び内部は透明な地に黒灰色・灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。

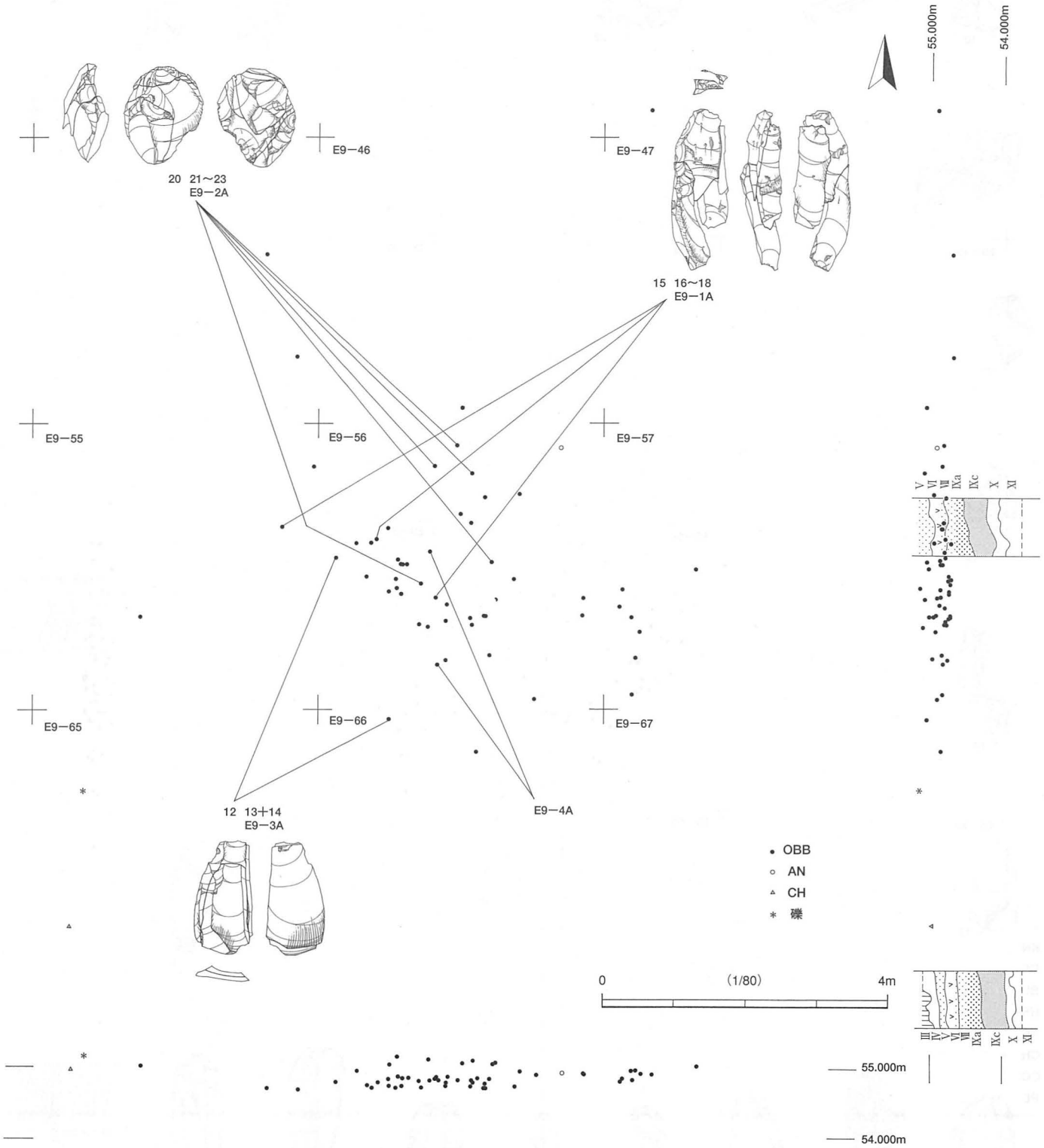
第78表　E9-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
E9R-1	SA	1	51.2

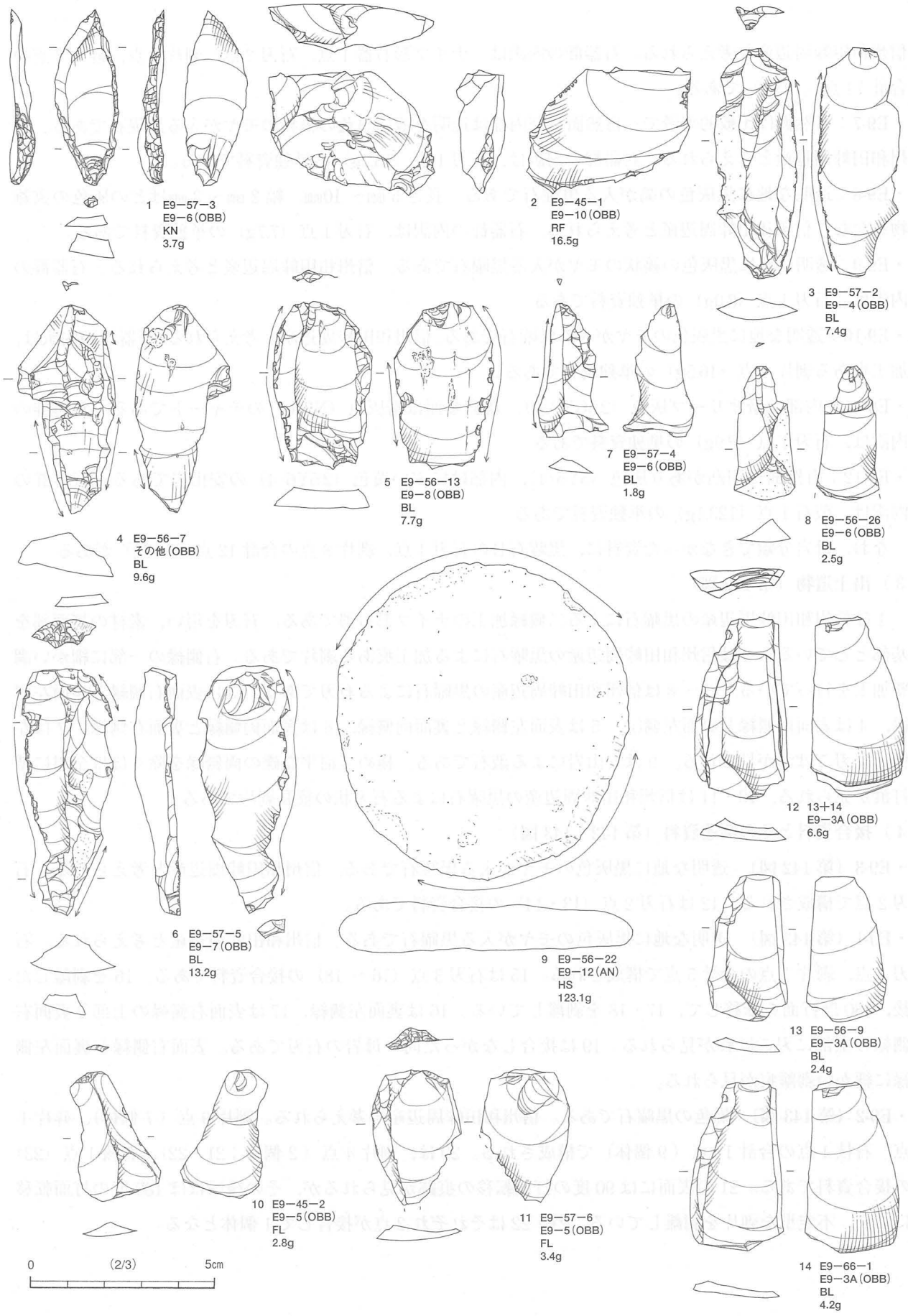
石　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	51.2
合　計	1	51.2



第140図　E9-Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第 141 図　Ｅ９- Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第142図　E9-Aブロック出土遺物（1）

信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，石刃2点，剥片9点，砕片2点の合計14点（10.9g）である。

・E9-7：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は透明な地に黒色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃1点（13.2g）の単独資料である。

・E9-8：透明な地に黒灰色の縞が入る黒曜石である。長さ5㎜～10㎜，幅2㎜～3㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃1点（7.7g）の単独資料である。

・E9-9：透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃1点（3.0g）の単独資料である。

・E9-10：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点（16.5g）の単独資料である。

・E9-11：内部は暗オリーブ灰色（2.5GY3/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のチャートである。石器群の内訳は，石刃1点（2.9g）の単独資料である。

・E9-12：自然面は凹凸があり灰色（5Y5/1），内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）の安山岩である。石器群の内訳は，敲石1点（123.1g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Bの石刃4点，剥片8点の合計12点（54.6g）がある。

3）出土遺物（第142図）

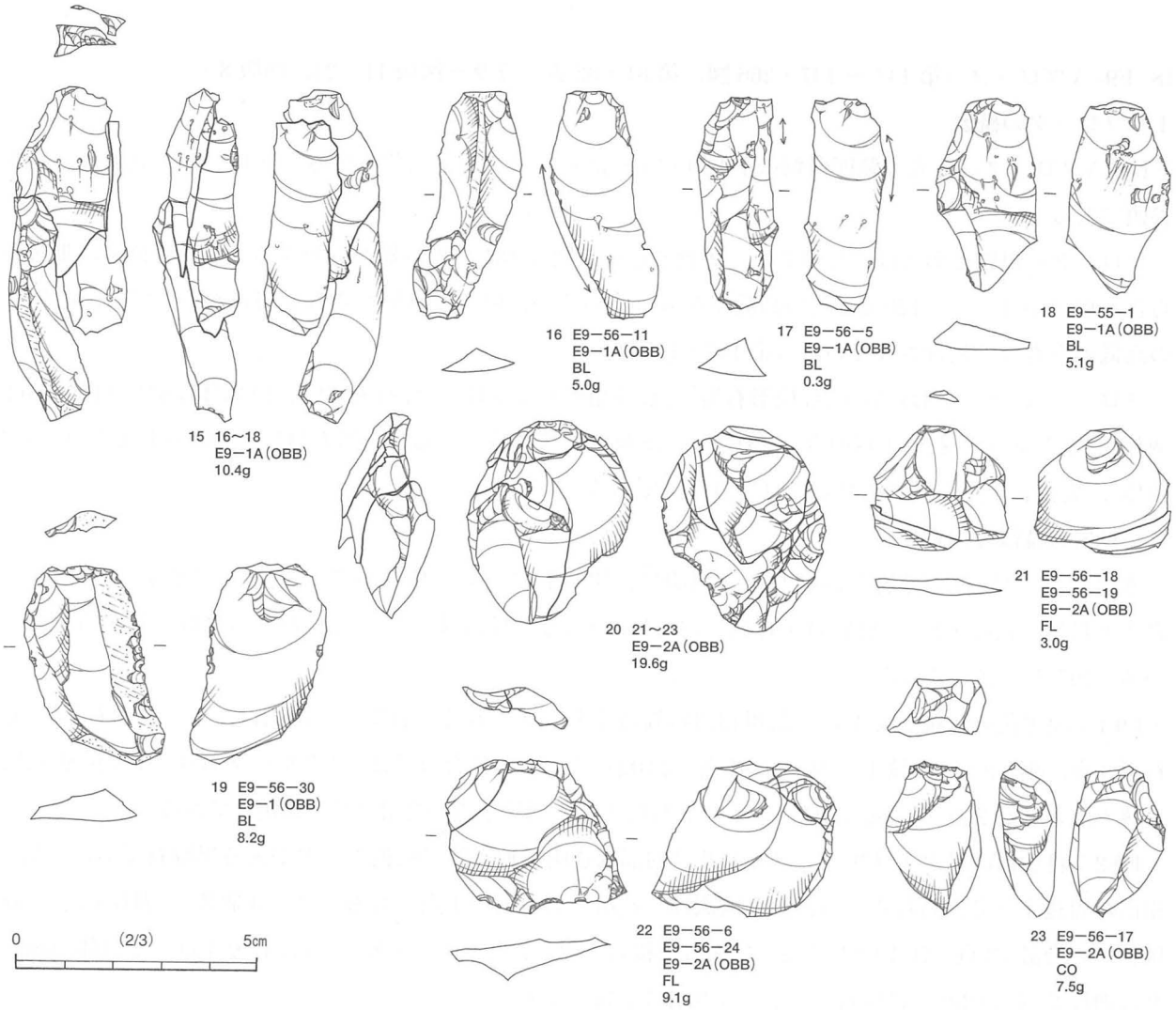
1は信州和田峠周辺産の黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器である。石刃を用い，素材の打面部を基部としている。2は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。右側縁の一部に細かい調整加工を行っている。3～8は信州和田峠周辺産の黒曜石による石刃である。3は表面右側縁と裏面左側縁，4は表面両側縁と裏面左側縁，5は表面左側縁と裏面両側縁，6は表面両側縁と裏面右側縁，7は左側縁に刃こぼれが見られる。9は安山岩による敲石である。極めて扁平な礫の両側縁を除くほぼ全周に敲打痕が見られる。10・11は信州和田峠周辺産の黒曜石による石刃状の縦長剥片である。

4）接合資料とその関連資料（第142・143図）

・**E9-3（第142図）**　透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃2点で構成される。12は石刃2点（13・14）の接合資料である。

・**E9-1（第143図）**　透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃4点，剥片1点の合計5点で構成される。15は石刃3点（16～18）の接合資料である。16を剥離した後，180度打面を転移して，17・18を剥離している。16は裏面左側縁，17は表面右側縁の上部と裏面右側縁の上部に刃こぼれが見られる。19は接合しなかった同一母岩の石刃である。表面右側縁と裏面左側縁に細かい剥離痕が見られる。

・**E9-2（第143図）**　黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片9点（7個体），砕片1点，石核1点の合計11点（9個体）で構成される。20は，剥片4点（2個体；21・22），石核1点（23）の接合資料である。21の表面には90度の打面転移の痕跡が見られるが，その後はほぼ180度の打面転移により，不定型な剥片を剥離している。21・22はそれぞれ2点が接合して1個体となる。



第143図　E9-Aブロック出土遺物（2）

第79表　E9-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
E9-1(OBB)												4						1							5
E9-2(OBB)																		9(7)	1	1					11(9)
E9-3(OBB)												2													2
E9-4(OBB)												1						5							6
E9-5(OBB)																		3							3
E9-6(OBB)	1											2						9	2						14
E9-7(OBB)												1													1
E9-8(OBB)												1													1
E9-9(OBB)												1													1
E9-10(OBB)										1															1
E9-11(CH)												1													1
E9-12(AN)																1									1
その他(OBB)												4						8							12
合　計	1									1		17				1		35(33)	3	1					59(57)

第80表　E9-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石B(OBB)	1									1		16						35(33)	3	1					57(55)
安山岩(AN)																1									1
チャート(CH)												1													1
合　計	1									1		17				1		35(33)	3	1					59(57)

18 F9- Aブロック（第144～147・266図，第81・82表，カラー図版11・21，図版8）

1）ブロックの概要

F9- Aブロックは，調査範囲西側のF9-30・31・40・41グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側谷頭である。

ブロックの規模と形状は，長軸7m，短軸6mの範囲に181点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅨa層にかけてで，120cmほどの高低差をもっているが，中心はⅥ層からⅨa層にかけてで，50cmほどの高低差をもって包含されている（第144・145図）。

ブロックは，ナイフ形石器4点，楔形石器4点，使用痕ある剥片1点，石刃12点（10個体），剥片110点（109個体），砕片49点，石核1点の合計181点（178個体）で構成される。石器石材は，黒曜石B 177点（174個体），安山岩1点，頁岩A 2点，頁岩D 1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは11母岩を識別した。内訳は，黒曜石7母岩（F9-1～7），安山岩1母岩（F9-8），頁岩A 2母岩（F9-9・10），頁岩D 1母岩（F9-11）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は59%（107/181点）である。

・**F9-1**：漆黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，石刃3点，剥片9点，石核1点の合計14点（23.0g）である。接合資料は，2グループあり，Aは石刃1点，石核1点の合計2点（17.8g），Bはナイフ形石器1点，剥片1点の合計2点（3.4g）である。

・**F9-2**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は透明な地に淡黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，石刃5点（3個体），剥片67点（66個体）の合計73点（70個体;52.3g）である。接合資料は，3グループあり，Aは石刃4点（2個体;4.8g），Bは剥片2点（3.2g），Cは剥片2点（1個体；1.4g）である。

・**F9-3**：自然面は平滑で，自然面及び内部は半透明な地に黒灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（9.2g）である。接合資料は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（9.2g）が，ブロック外（F9-62グリッド）の剥片1点と接合している。

・**F9-4**：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，剥片4点の合計5点（11.1g）である。

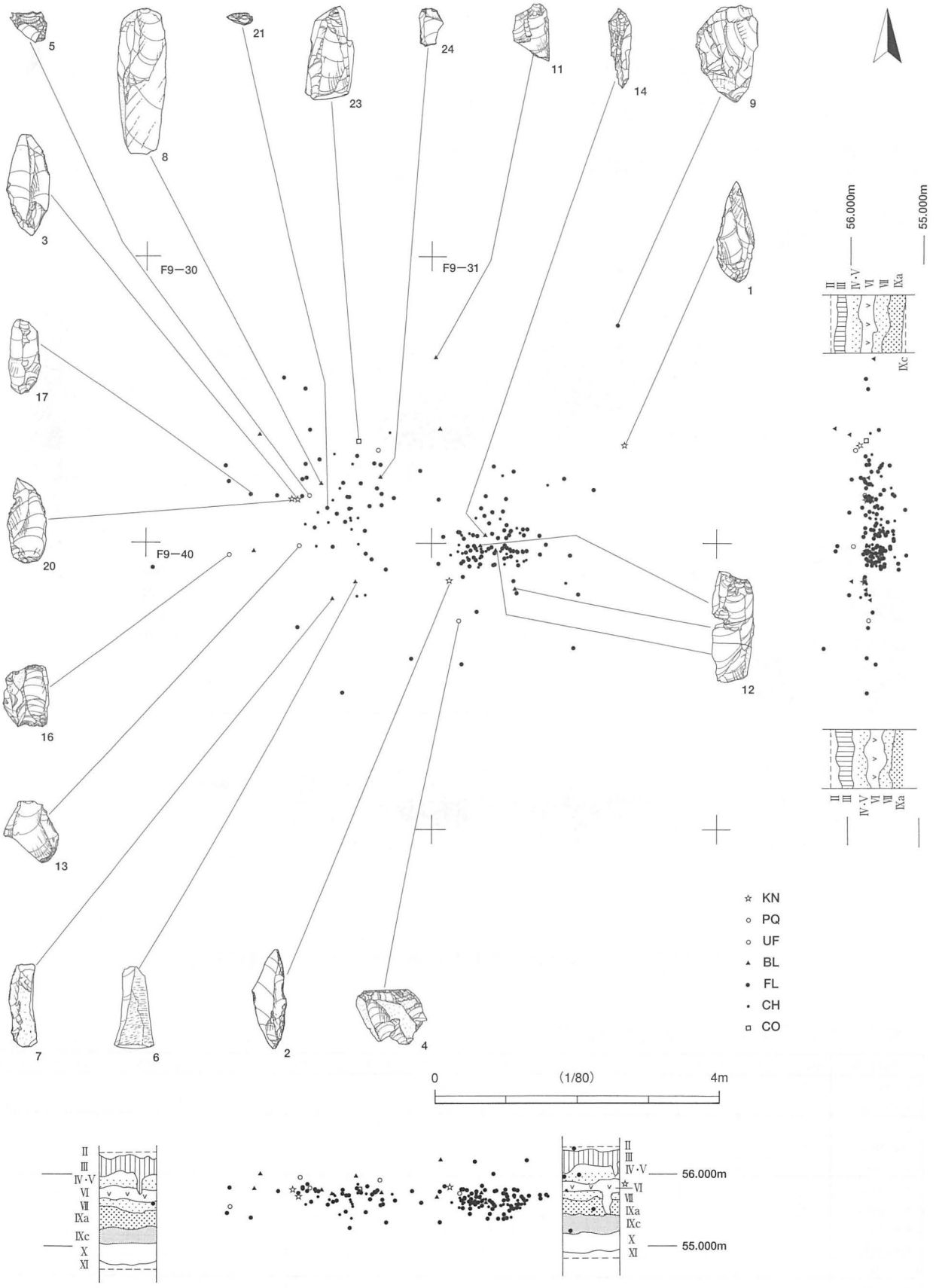
・**F9-5**：半透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片5点（3.2g）である。

・**F9-6**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は半透明な地に黒灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃1点，剥片2点の合計3点（3.2g）である。

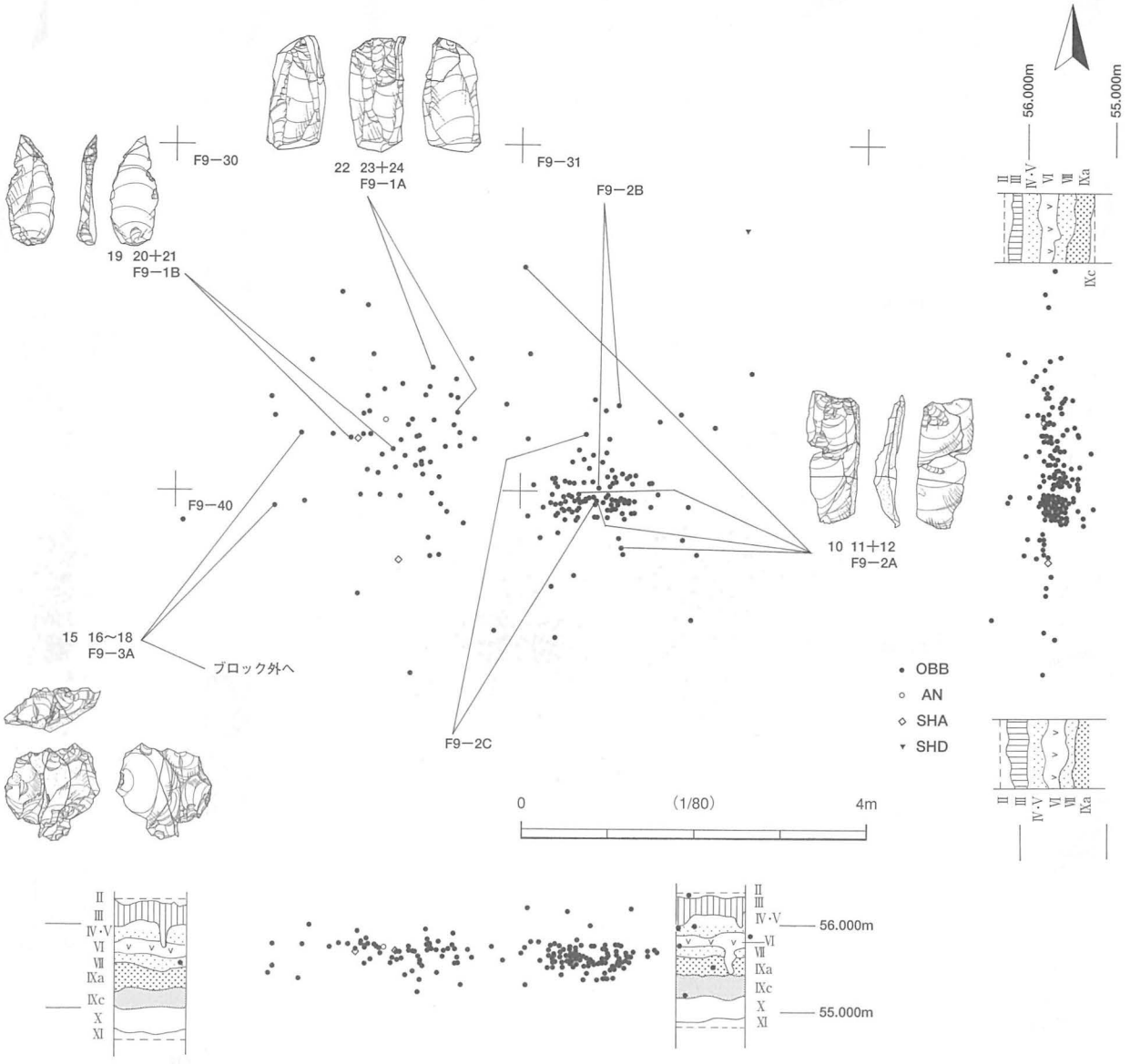
・**F9-7**：半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点（2.1g）の単独資料である。

・**F9-8**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃1点（16.4g）の単独資料である。

・**F9-9**：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点（5.5g）の単独資料である。



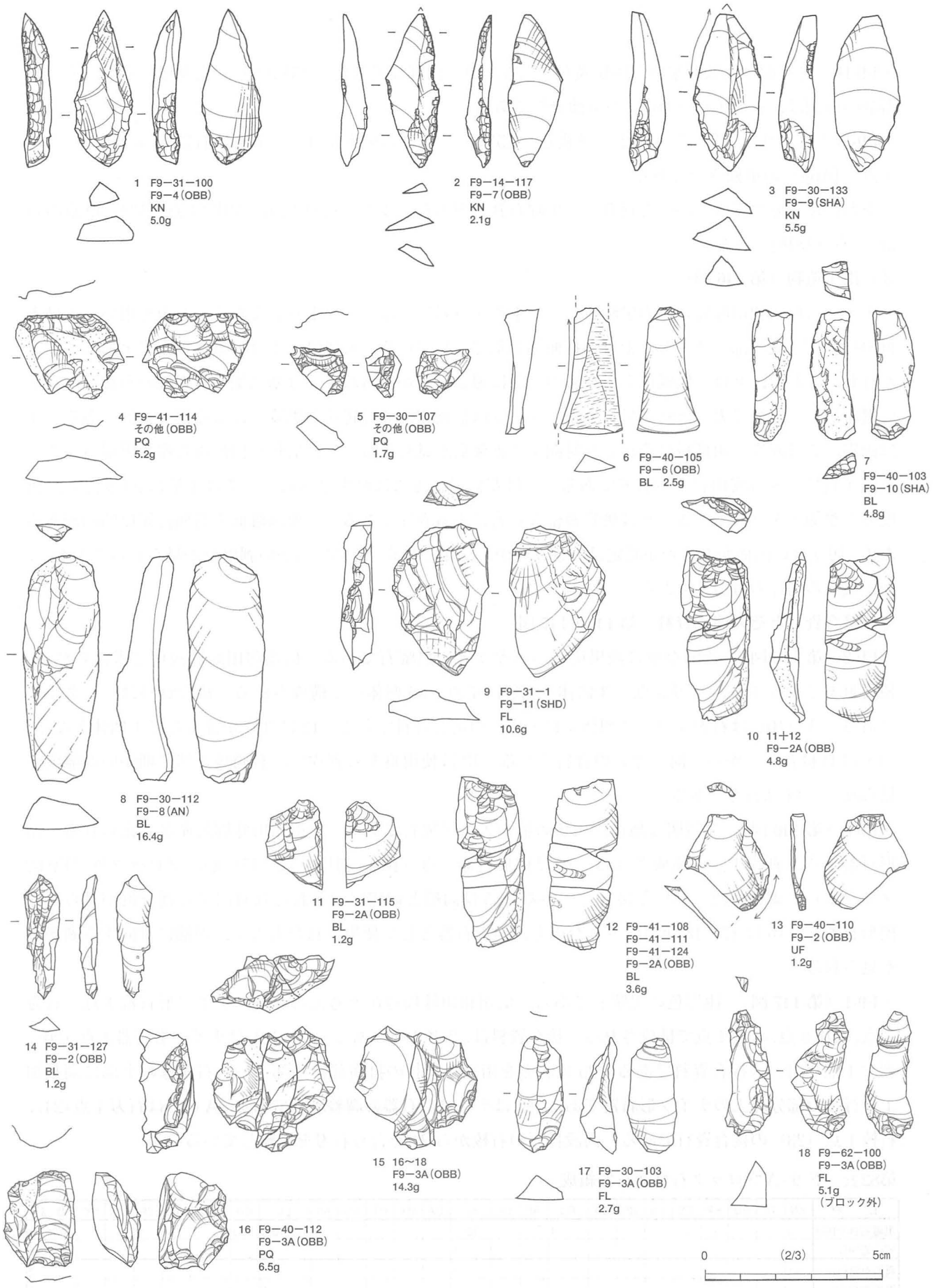
第144図　F９-Aブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第145図　Ｆ９-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

第81表　Ｆ９-Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
F9-1(OBB)	1											3						9		1					14
F9-2(OBB)											1	5(3)						67(66)							73(70)
F9-3(OBB)									1									1							2
F9-4(OBB)	1																	4							5
F9-5(OBB)																		5							5
F9-6(OBB)												1						2							3
F9-7(OBB)	1																								1
F9-8(AN)												1													1
F9-9(SHA)	1																								1
F9-10(SHA)												1													1
F9-11(SHD)																		1							1
その他(OBB)									3			1						21	49						74
合　計	4								4		1	12(10)						110(109)	49	1					181(178)



第146図　F９-Aブロック出土遺物（１）

・**F9-10**：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は黒褐色（2.5Y3/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点（4.8g）の単独資料である。

・**F9-11**：灰オリーブ色（7.5Y5/2）・黄褐色（2.5Y5/4）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（10.6g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｂの楔形石器３点，石刃１点，剥片 21 点，砕片 49 点の合計 74 点（18.9g）がある。

３）出土遺物（第 146 図）

１・２は信州和田峠周辺産の黒曜石，３は東北産頁岩によるナイフ形石器である。石刃を用い，１は素材の打面部を先端部，２・３は素材の打面部を基部としている。形態は，１は二側縁加工で裏面基部加工が行われており，２は一側縁加工で左刃の一部に刃こぼれが見られ，３は基部加工で刃部の右側縁に細かい剥離痕，左側縁に刃こぼれが見られる。４・５は信州和田峠周辺産の黒曜石による楔形石器である。４は両端，５は両端と両側縁にそれぞれ対向する剥離痕が見られる。６は信州和田峠周辺産の黒曜石，７は東北産頁岩，８は安山岩よる石刃である。６は左側縁に刃こぼれが見られる。７は末端に 90 度近い急角度の調整加工を行っている。９は硬質緻密な頁岩による剥片である。主要剥離面の右側縁側は凹凸があるため，切り合い関係があるのか断定はできないが，表面左側縁の一部に細かい剥離痕が見られることから，加工痕ある剥片の可能性もある。

４）接合資料とその関連資料（第 146・147 図）

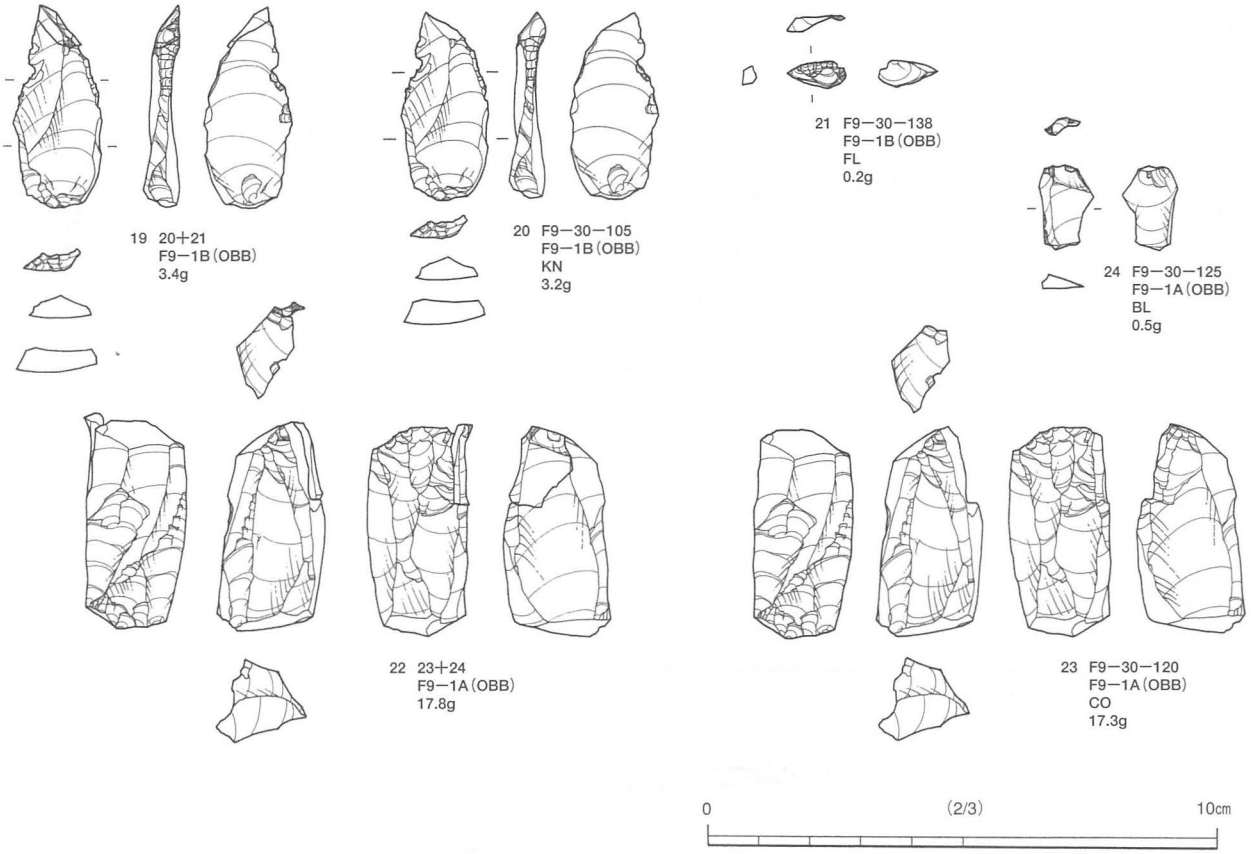
・**F9-2（第 146 図）**　透明な地に淡黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点，石刃５点（３個体），剥片 67 点（66 個体）で構成される。接合資料は，３グループある。Ａ（10）は石刃４点（２個体；11・12）の接合資料である。12 は３点が接合して１個体となる。13・14 は接合しなかった同一母岩の資料である。13 は使用痕ある剥片で，右側縁下部に細かい剥離痕が見られる。14 は石刃である。

・**F9-3（第 146 図）**　半透明な地に黒灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。楔形石器１点，剥片１点で構成される。15 は楔形石器１点（16），剥片１点（17）が，ブロック外（F9-62 グリッド）の剥片１点（18）と接合している。15 は両端と両側縁にそれぞれ対向する剥離痕が見られる楔形石器で，16 は 17・18 が剥離された後も，楔形石器として使用されたもので，両端に対向する剥離痕が見られる。

・**F9-1（第 147 図）**　漆黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点，石刃３点，剥片９点，石核１点で構成される。接合資料は，２グループある。Ｂ（19）はナイフ形石器１点（20），剥片１点（21）の接合資料である。20 は石刃を用い，素材の打面部を基部とし，右側縁の上部に調整加工を行った部分加工のナイフ形石器である。21 はナイフ形石器の調整剥片である。Ａ（22）は石刃１点（24），石核１点（23）の接合資料である。両設打面の石核から 24 を含む石刃を剥離している。

第82表　Ｆ９-Ａブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)	3								4		1	10(8)						109(108)	49	1					177(174)
安山岩(AN)												1													1
頁岩A(SHA)	1											1													2
頁岩D(SHD)																		1							1
合　計	4								4		1	12(10)						110(109)	49	1					181(178)



第147図　F９-Aブロック出土遺物（２）

19 F9- Bブロック（第148～150・267図，第83・84表，カラー図版11・21，図版８）

１）ブロックの概要

F9- Bブロックは，調査範囲西側のF9-63・64・73・74グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側谷頭である。

ブロックの規模と形状は，直径５ｍの範囲に40点の石器が分布する。出土層位は，Ⅴ層からⅦ層にかけてで，60cmほどの高低差をもって包含されている（第148・149図）。

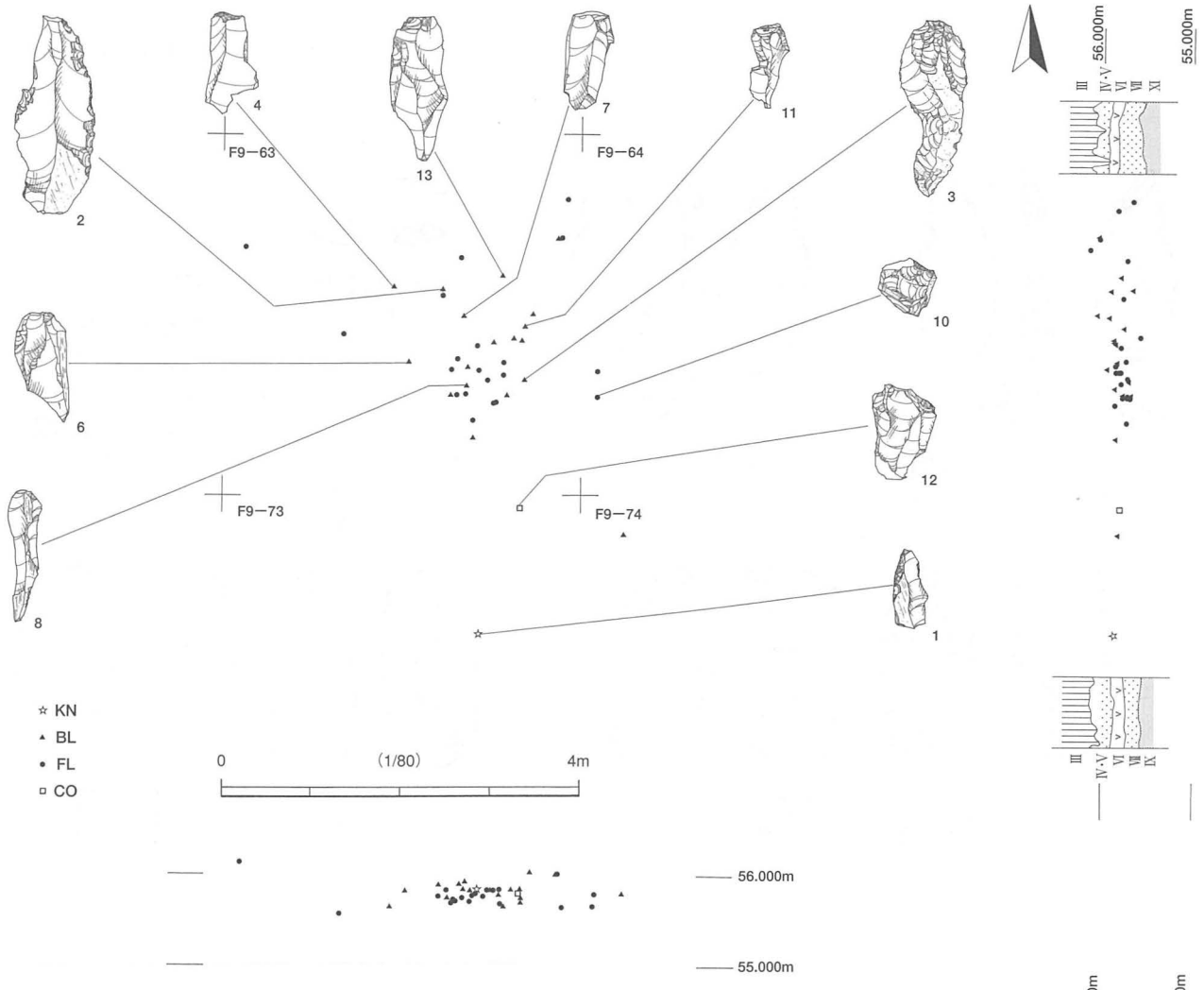
ブロックは，ナイフ形石器１点，石刃18点（17個体），剥片20点，石核１点の合計40点（39個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ40点（39個体）である。

２）母岩の特徴と内容

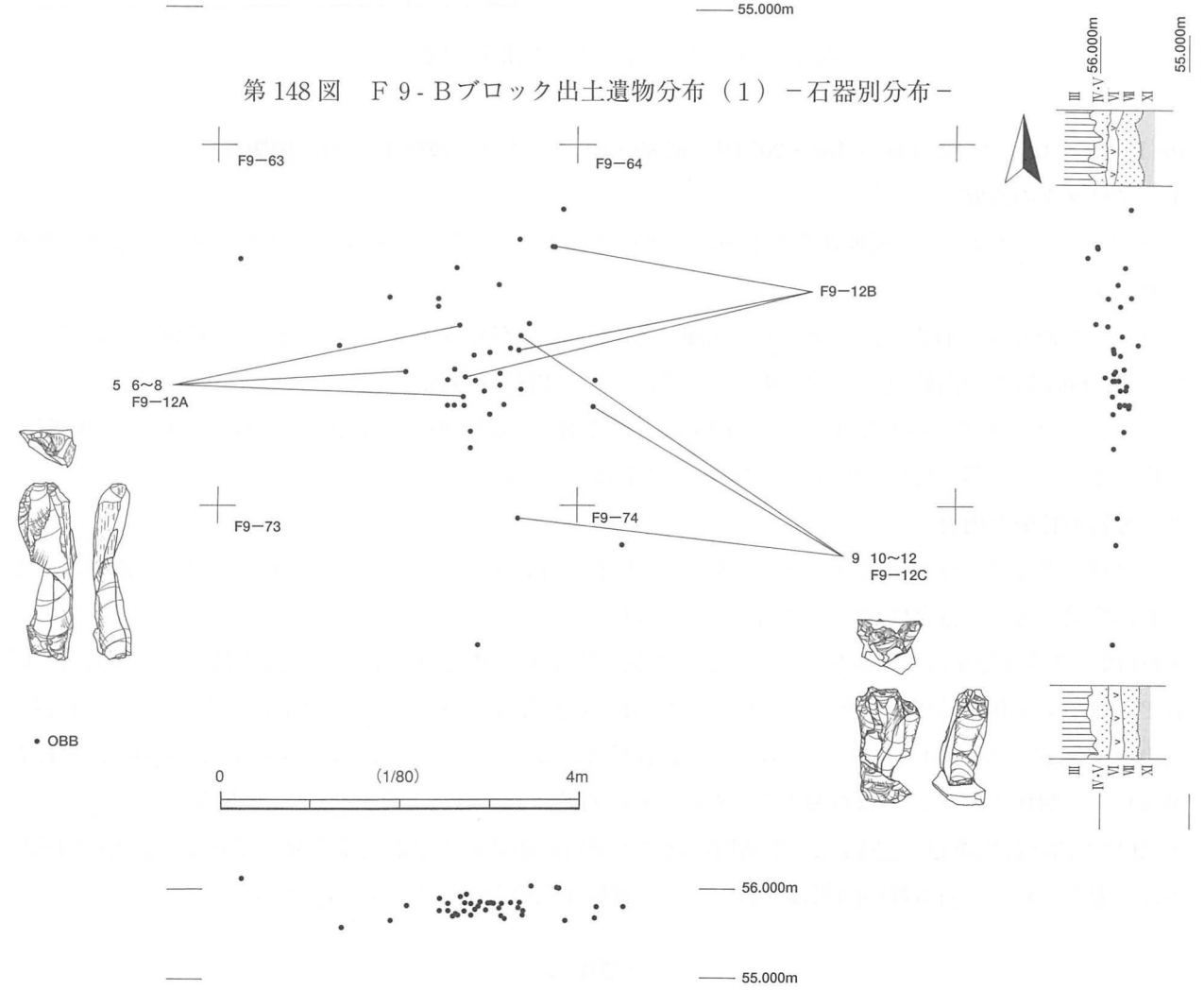
本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ４母岩（F9-12～15）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は98%（39/40点）である。

・**F9-12**：自然面は平滑で灰黄色（2.5Y7/2）・灰色（5Y4/1），内部は透明な地に淡灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃15点（14個体），剥片15点，石核１点の合計31点（30個体；53.0g）である。接合資料は，３グループあり，Ａは石刃３点（11.0g），Ｂは石刃３点（２個体；7.8g），Ｃは石刃１点，剥片１点，石核１点の合計３点（11.9g）である。

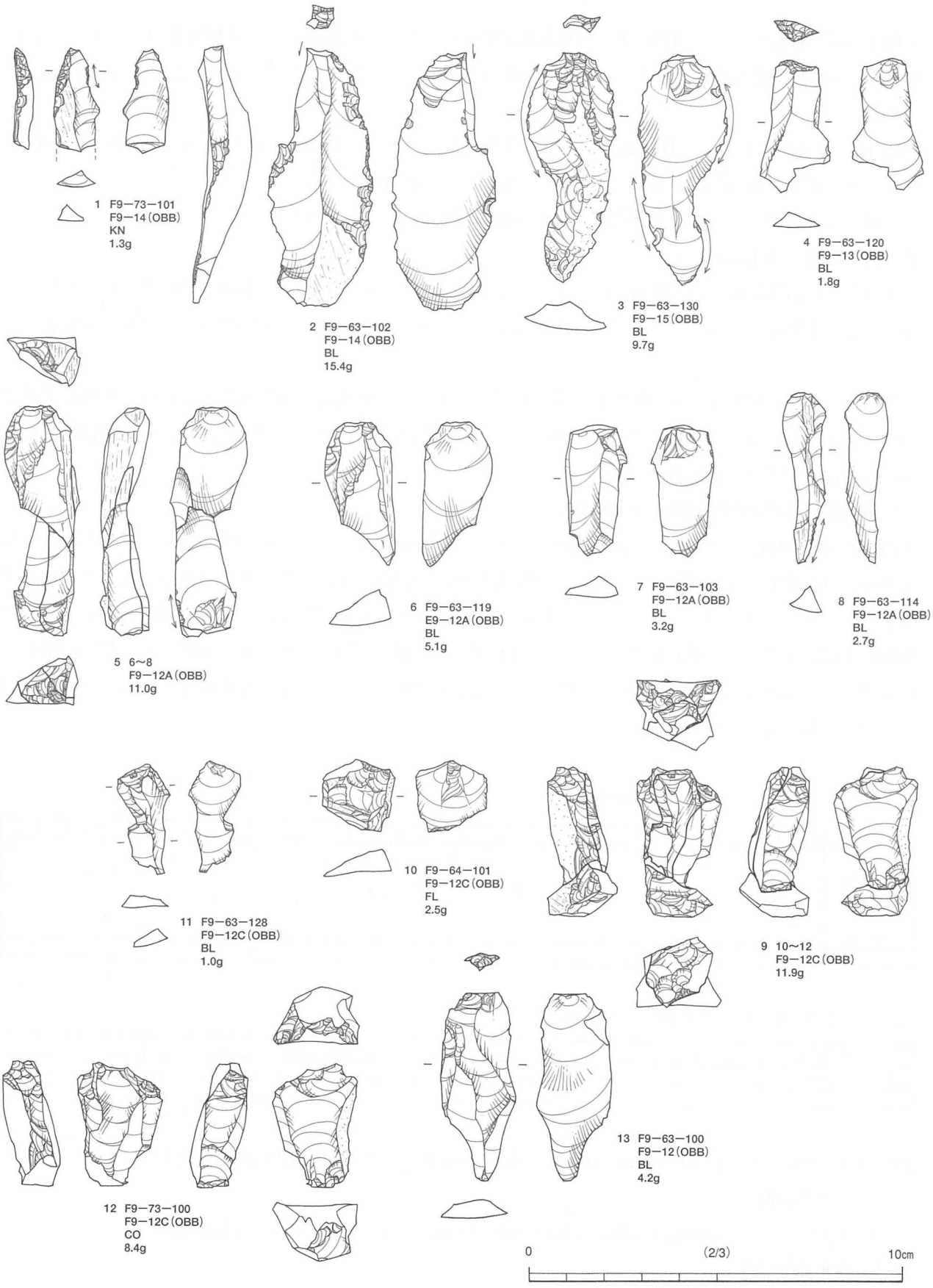
・**F9-13**：内部は灰黄色（2.5Y7/2）半透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点，剥片４点の合計５点（3.6g）である。



第148図　Ｆ９-Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第149図　Ｆ９-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第150図　Ｆ９-Ｂブロック出土遺物

・**F9-14**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に淡黒灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，石刃１点の合計２点(16.7g)である。

・**F9-15**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点（9.7g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｂの剥片１点（1.0g）がある。

３）出土遺物（第150図）

１は信州和田峠周辺産の黒曜石によるナイフ形石器である。石刃を用い，素材の打面部を基部としている。下半部が欠損しているため，形態は不明である。左側縁に調整加工，右側縁の一部に刃こぼれが見られる。

２～４は信州和田峠周辺産の黒曜石による石刃である。２は両側縁に調整加工が見られ，左側縁ではその調整加工を切るように樋状の剥離が行われている。彫器か刃部再生かは不明である。３は表面左側縁，裏面両側縁に刃こぼれが見られる。

４）接合資料とその関連資料（第150図）

・**F9-12（第150図）**　透明な地に淡灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃15点（14個体），剥片15点，石核１点で構成される。接合資料は，３グループある。Ａ（５）は石刃３点（６～８）の接合資料である。６を剥離した後，180度打面転移して，７・８を剥離している。８は右側縁下部に刃こぼれが見られる。Ｃ（９）は石刃１点（11），剥片１点（10），石核１点（12）の接合資料である。10は打面再生剥片である。12は両設打面の石核で，11を含む石刃を剥離している。13は接合しなかった同一母岩の石刃である。

第83表　Ｆ９-Ｂブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
F9-12(OBB)												15(14)						15		1					31(30)
F9-13(OBB)												1						4							5
F9-14(OBB)	1											1													2
F9-15(OBB)												1													1
その他(OBB)																		1							1
合　計	1											18(17)						20		1					40(39)

第84表　Ｆ９-Ｂブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)	1											18(17)						20		1					40(39)
合　計	1											18(17)						20		1					40(39)

20　F9-Ｃブロック（第151～160・267図，第85・86表，カラー図版12・21，図版８）

１）ブロックの概要

F9-Ｃブロックは，調査範囲西側のE9-89・99，F9-80・90，F10-00グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側谷頭である。

ブロックの規模と形状は，長軸９ｍ，短軸４ｍの範囲に251点の石器が分布する。出土層位は，Ⅴ層からⅦ層にかけてで，70cmほどの高低差をもって包含されている（第151～154図）。

ブロックは，ナイフ形石器３点，削器１点，加工痕ある剥片３点（２個体），使用痕ある剥片５点，石刃19点（18個体），剥片182点（177個体），砕片33点，石核５点の合計251点（244個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ246点（239個体），頁岩Ｂ１点，頁岩Ｅ２点，チャート２点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは17母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ13母岩（F9-19・31～40，F10-2・4）頁岩Ｂ１母岩（F9-43），頁岩Ｅ１母岩（F9-44），チャート２母岩（F9-41・42）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は30%（76/251点）である。

・**F9-19**：自然面は凹凸があり紙ヤスリ状で，自然面及び内部は半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。本ブロックでは剥片１点（3.5g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がF9-Ｄブロックに３点ある。

・**F9-31**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。φ３㎜～５㎜ほどの夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点（１個体），使用痕ある剥片２点，剥片24点（19個体），石核２点の合計30点（24個体；169.3g）である。接合資料は，２グループあり，Ａは加工痕ある剥片２点（１個体），使用痕ある剥片２点，剥片22点（18個体），石核２点の合計28点（23個体；167.8g）あり，その内の加工痕ある剥片２点がブロック外（F9-61グリッド）の加工痕ある剥片１点と接合して合計３点で１個体となり，さらにブロック外の剥片１点が接合している。Ｂは剥片２点（１個体；1.5g）である。

・**F9-32**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ６㎜ほどの夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（1.8g）である。接合資料は，剥片２点（1.8g）である。

・**F9-33**：自然面は平滑で，自然面及び内部は透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，削器１点，石刃１点，剥片２点の合計４点（21.0g）である。接合資料は，削器１点，石刃１点，剥片２点の合計４点（21.0g）である。

・**F9-34**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃２点，剥片４点，石核１点の合計７点（43.8g）である。接合資料は，石刃１点，剥片４点，石核１点の合計６点（39.7g）である。

・**F9-35**：透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃２点（１個体；6.0g）である。接合資料は，石刃２点（１個体；6.0g）である。

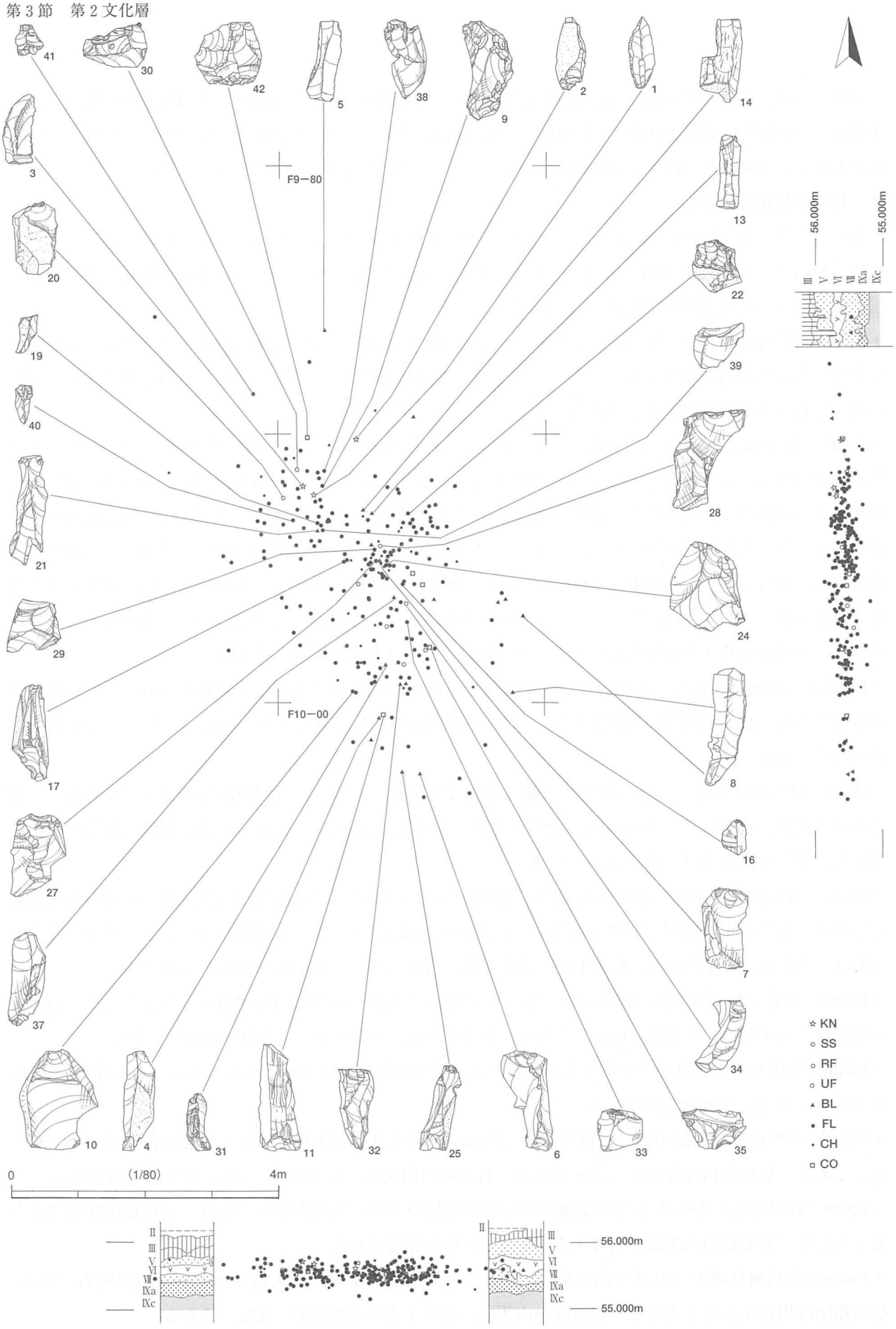
・**F9-36**：透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点（12.4g）の単独資料である。

・**F9-37**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は透明な地に若干褐色がかった黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点（5.9g）の単独資料である。

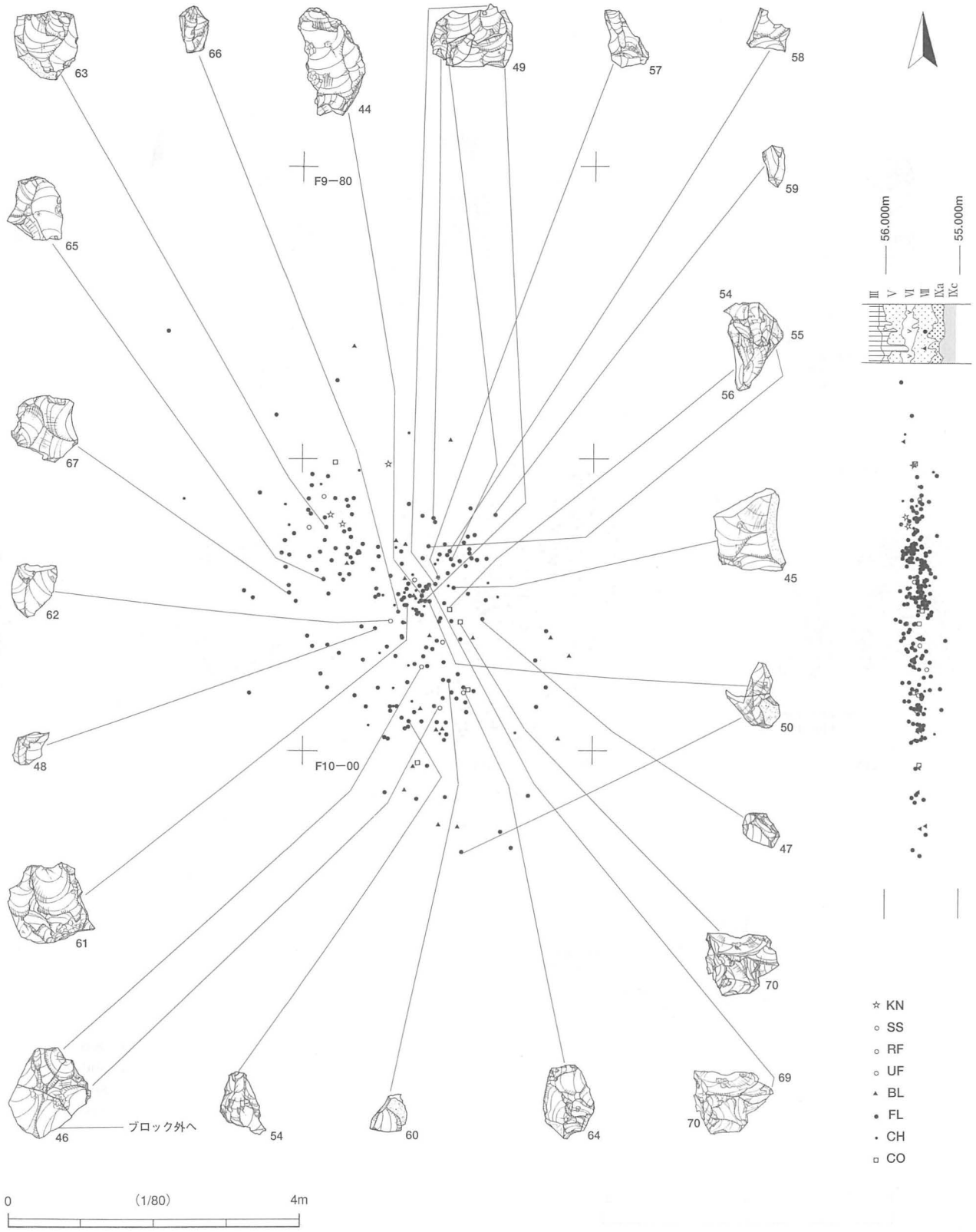
・**F9-38**：薄墨を流したような透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点（2.8g）の単独資料である。

・**F9-39**：自然面は紙ヤスリ状で暗灰色（N3/0），内部は透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片１点の単独資料（9.2g）である。

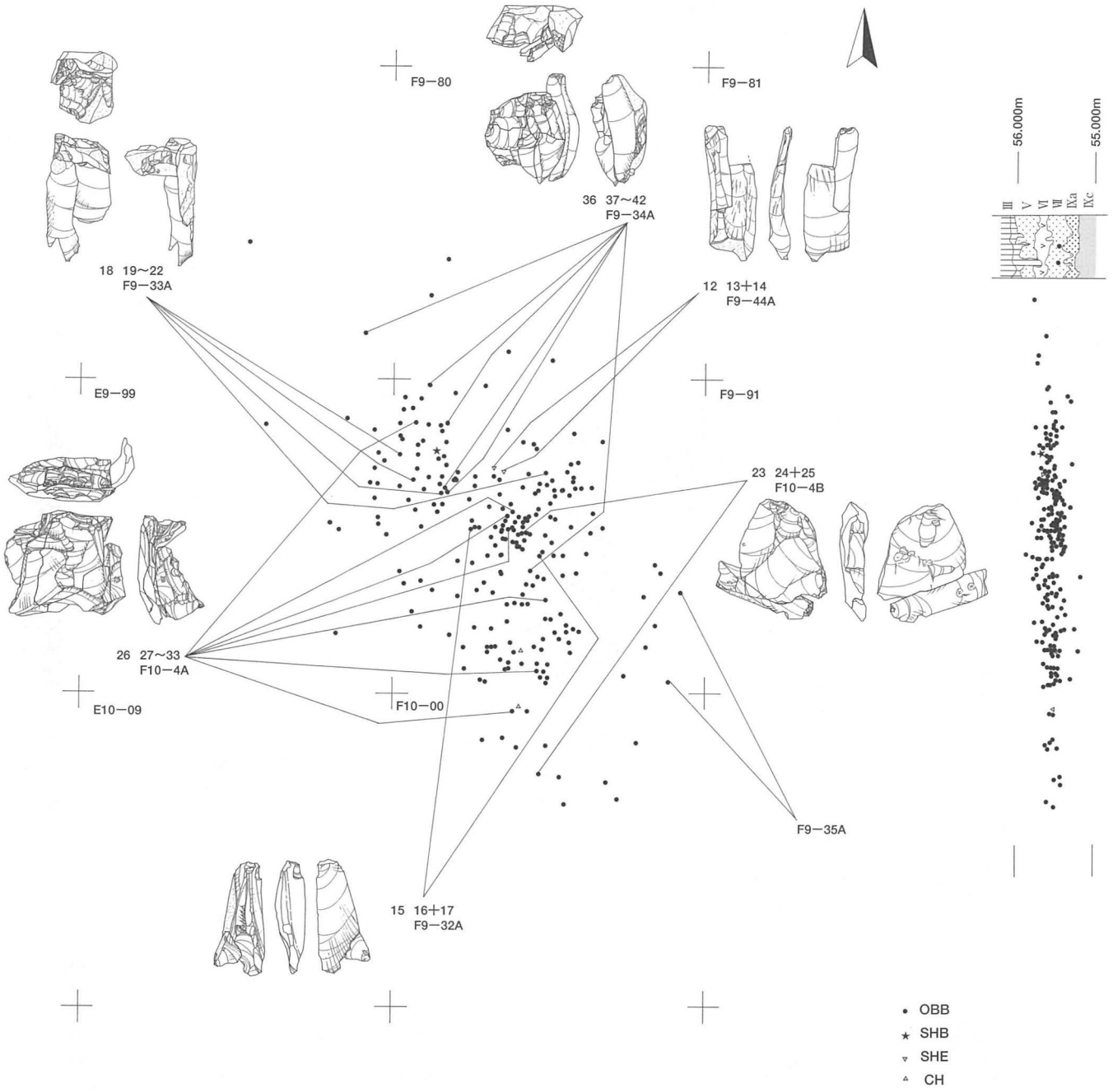
・**F9-40**：透明な地に灰白色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，



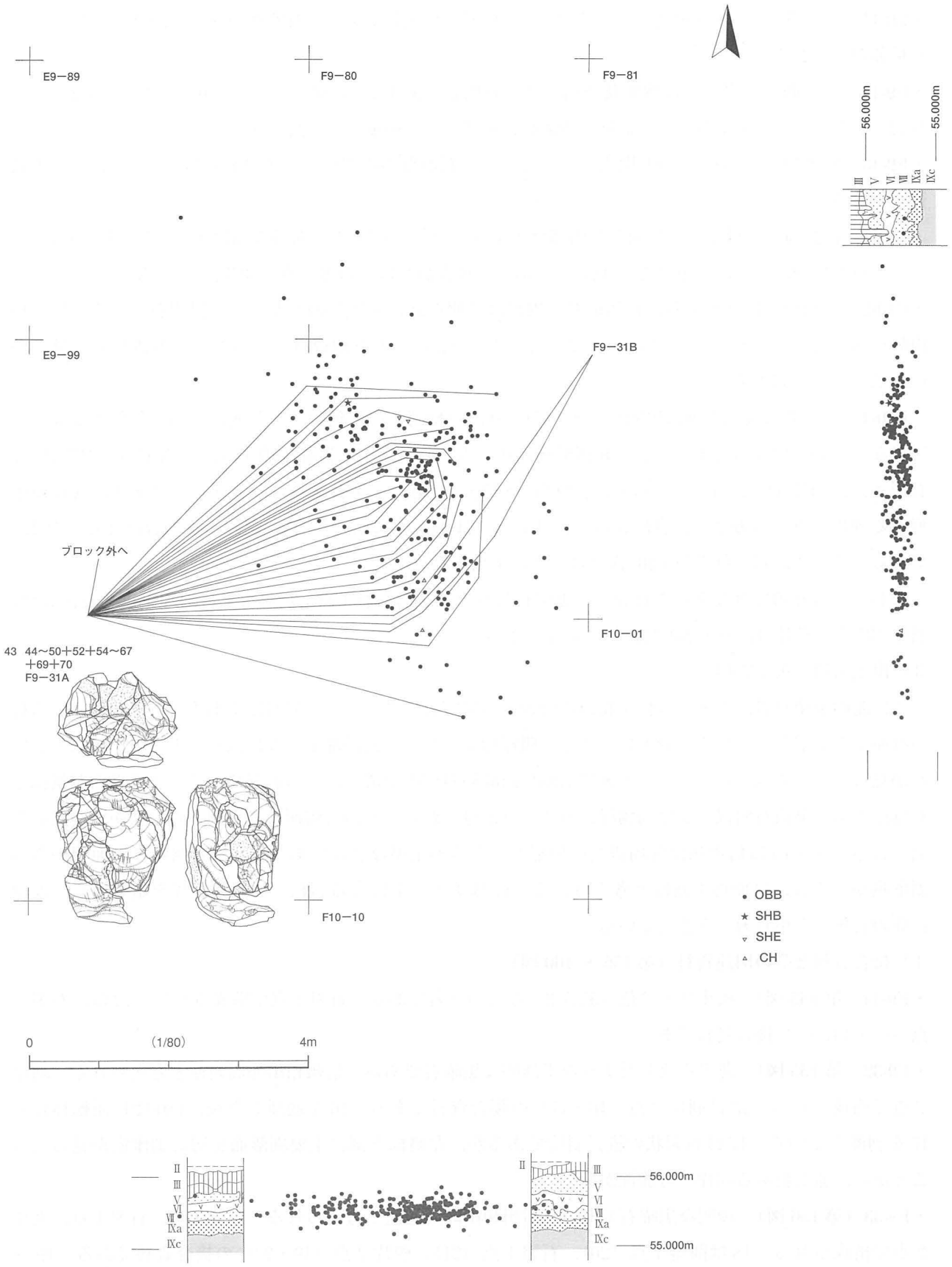
第151図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物分布（１）－石器別分布（１）－



第152図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物分布（２）－石器別分布（２）－



第153図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物分布（３）－石材別分布（１）－



第154図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物分布（４）－石材別分布（２）－

ナイフ形石器１点（2.1g）の単独資料である。

・**F9-41**：暗灰色（N3/0）のチャートとしたが，粘板岩の可能性がある。石器群の内訳は，石核１点（25.9g）の単独資料である。

・**F9-42**：自然面は平滑で，自然面及び内部は暗緑灰色（5G4/1）の地にオリーブ灰色（2.5GY6/1）が部分的に混じるチャートである。石器群の内訳は，石刃１点（6.6g）の単独資料である。

・**F9-43**：灰黄色（2.5Y6/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点（2.4g）の単独資料である。

・**F9-44**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は灰色（N4/0）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点（10.5g）である。接合資料は，石刃２点（10.5g）である。

・**F10-2**：自然面は凹凸があり，自然面及び内部は透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。本ブロックでは石刃１点（2.3g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がF10- Aブロックに２点ある。

・**F10-4**：全体的に透明な地に黒灰色のモヤが入り，つや消しの灰色の部分と光沢のある黒色の部分が互層になっている黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片３点，石刃４点，剥片11点，石核１点の合計19点（88.3g）である。接合資料は，２グループあり，Aは使用痕ある剥片２点，石刃２点，剥片３点の合計７点（31.0g），Bは石刃１点，剥片１点の合計２点（21.2g）である。その他に同一母岩がF10- Aブロックに１点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Bのナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，石刃３点，剥片137点，砕片33点の合計175点（98.5g）がある。

３）出土遺物（第155図）

１は北関東産頁岩，２・３は信州和田峠周辺産の黒曜石によるナイフ形石器である。石刃を用い，素材の打面部を基部としている。形態は，１は二側縁加工，２は一側縁加工，３は部分加工で両側縁に刃こぼれが見られる。４はチャート，５～８は信州和田峠周辺産の黒曜石による石刃である。４は表面左側縁と右側縁上部，裏面右側縁，５は両側縁に刃こぼれが見られる。８の右側面に表面側からの細かい剥離痕が見られる。９・10は信州和田峠周辺産の黒曜石による不定型な剥片である。９は右側面に表面側からの剥離痕が見られ，打面再生剥片と考えられる。11はチャートによる石核である。剥片を素材とし，両設打面の石核から小石刃を剥離している。

４）接合資料とその関連資料（第155～160図）

・**F9-44（第155図）**　灰オリーブ色（5Y5/2）などの頁岩である。石刃２点で構成される。12は，石刃２点（13・14）ので接合資料である。

・**F9-32（第155図）**　薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片２点で構成される。15は剥片２点（16・17）の接合資料である。16を剥離した後，180度打面転移して17を剥離している。17は石刃状の縦長剥片であるが，左側縁下部に主要剥離面を切る剥離痕が見られることから，加工痕ある剥片の可能性がある。

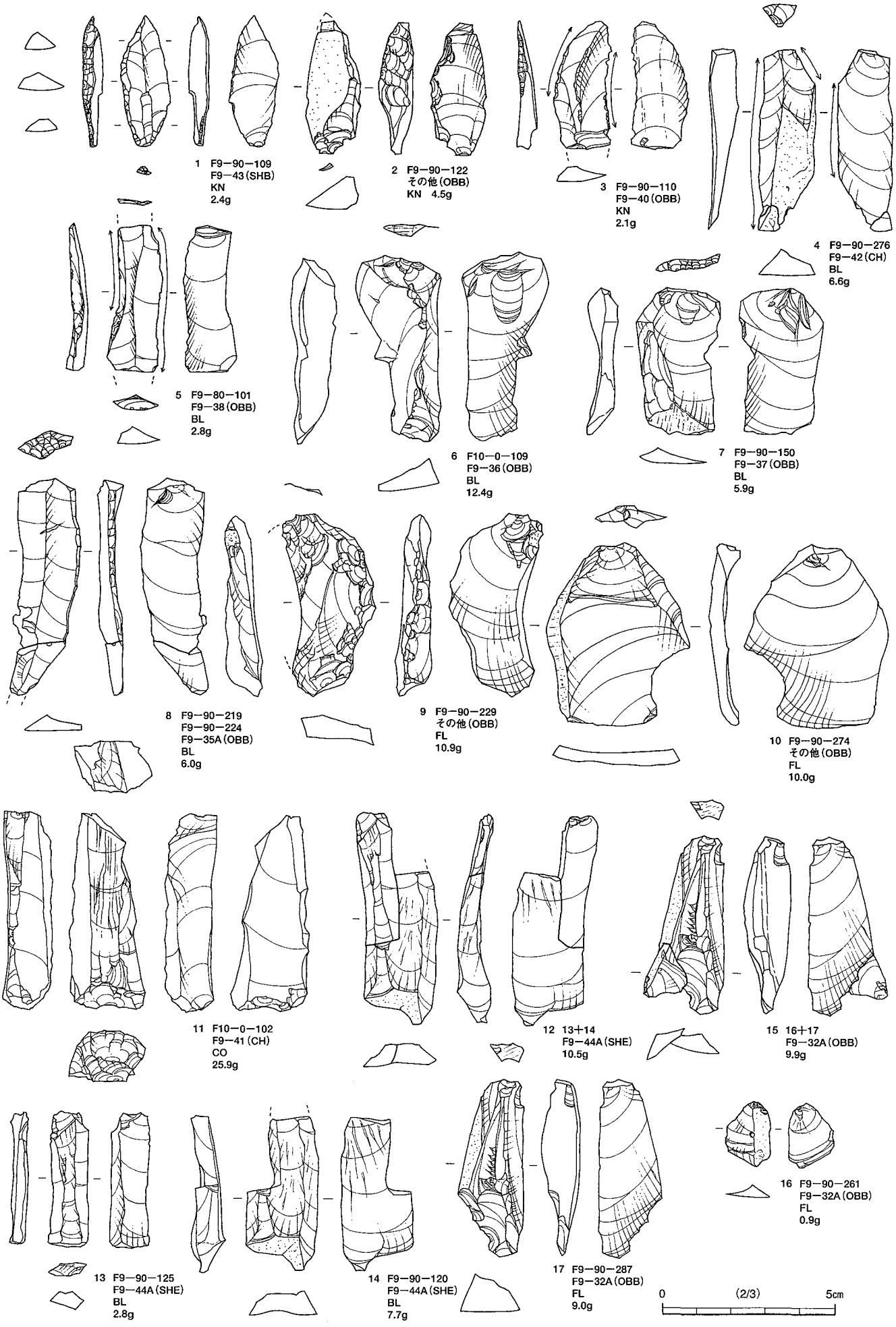
・**F9-33（第156図）**　透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。削器１点，石刃１点，剥片２点で構成される。18は削器１点（20），石刃１点（21），剥片２点（19・22）の接合資料である。19～21は石刃あるいは石刃状の縦長剥片，22は打面再生剥片である。20は右側縁に細かい調整加工を行って

いる。

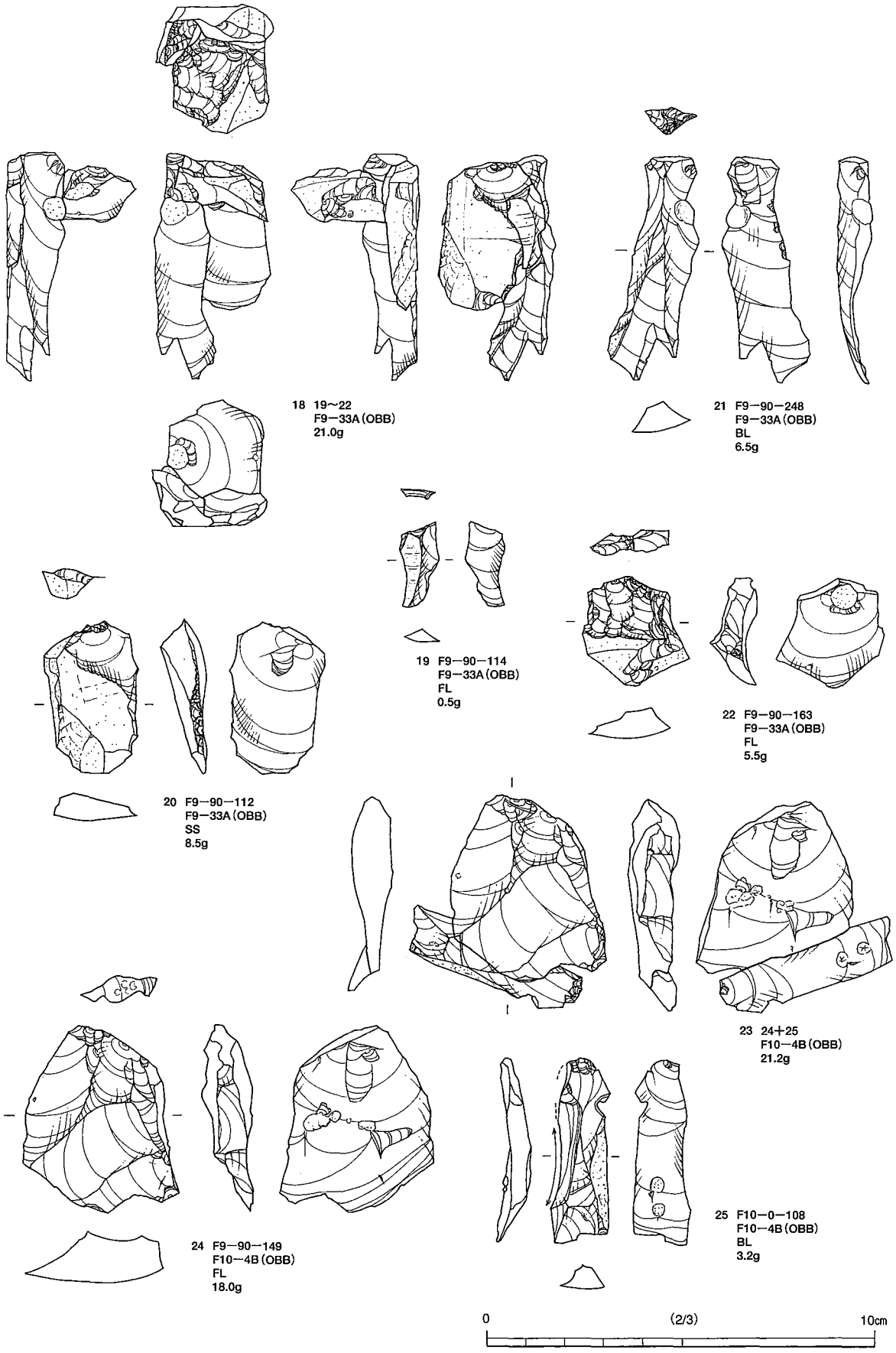
・**F10-4（第156・157図）**　全体的に透明な地に黒灰色のモヤが入り，つや消しの灰色の部分と光沢のある黒色の部分が互層になっている黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片3点，石刃5点，剥片11点，石核1点の合計20点で構成される。接合資料は，2グループある。B（23）は石刃1点（25），剥片1点（24）の接合資料である。24を剥離した後，90度打面転移して25を剥離している。25は石刃あるいは石刃状の縦長剥片で左側縁に刃こぼれが見られる。A（26）は，使用痕ある剥片2点（28・30），石刃2点（31・32），剥片3点（27・29・33）の接合資料である。27・28を剥離し，90度打面転移して，30を剥離する一方で，同様に90度打面転移して，27・28を剥離した作業面を打面として稜上調整を行った後31・32の様な石刃状の縦長剥片を剥離し，再び90度打面転移して32を剥離した作業面を打面として，33を剥離している。28は，おそらく3点に欠損した個体の内の1点を素材としたもので，表面左側縁下半部と折断面の表面側に細かい剥離痕，同じく折断面の裏面側に刃こぼれが見られる。30は裏面末端の一部に刃こぼれが見られる。31・32は石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。なお，この母岩については，遺跡に残された石刃が少ないことから，多数の不定型な剥片は，石核の打面調整や側面調整に伴うものと考えることもできるが，あるいはF9-31母岩やF9-34母岩のように，90度の打面転移により，不定型な剥片を剥離しながら，あわせて石刃状の縦長剥片を剥離した可能性もある。34・35は接合しなかった同一母岩の資料である。34は使用痕ある剥片で，石刃あるいは石刃状の縦長剥片の裏面末端と右側縁の一部に細かい剥離痕，左側縁下部に刃こぼれが見られる。35は石核で，剥片を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，小型で不定型な剥片を剥離している。

・**F9-34（第158図）**　薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃2点，剥片4点，石核1点で構成される。36は石刃1点（37），剥片4点（38～41），石核1点（42）の接合資料である。36の右側面側で37を剥離した後，表面側に打点を移して，38・39を剥離している。40・41の剥離順序は不明だが，40は37～39と同方向から，41は90度打面転移して剥離されている。42はその後も90度打面転移しながら，小型で不定型な剥片を剥離している。37は表面左側縁，裏面右側縁に刃こぼれが見られる。

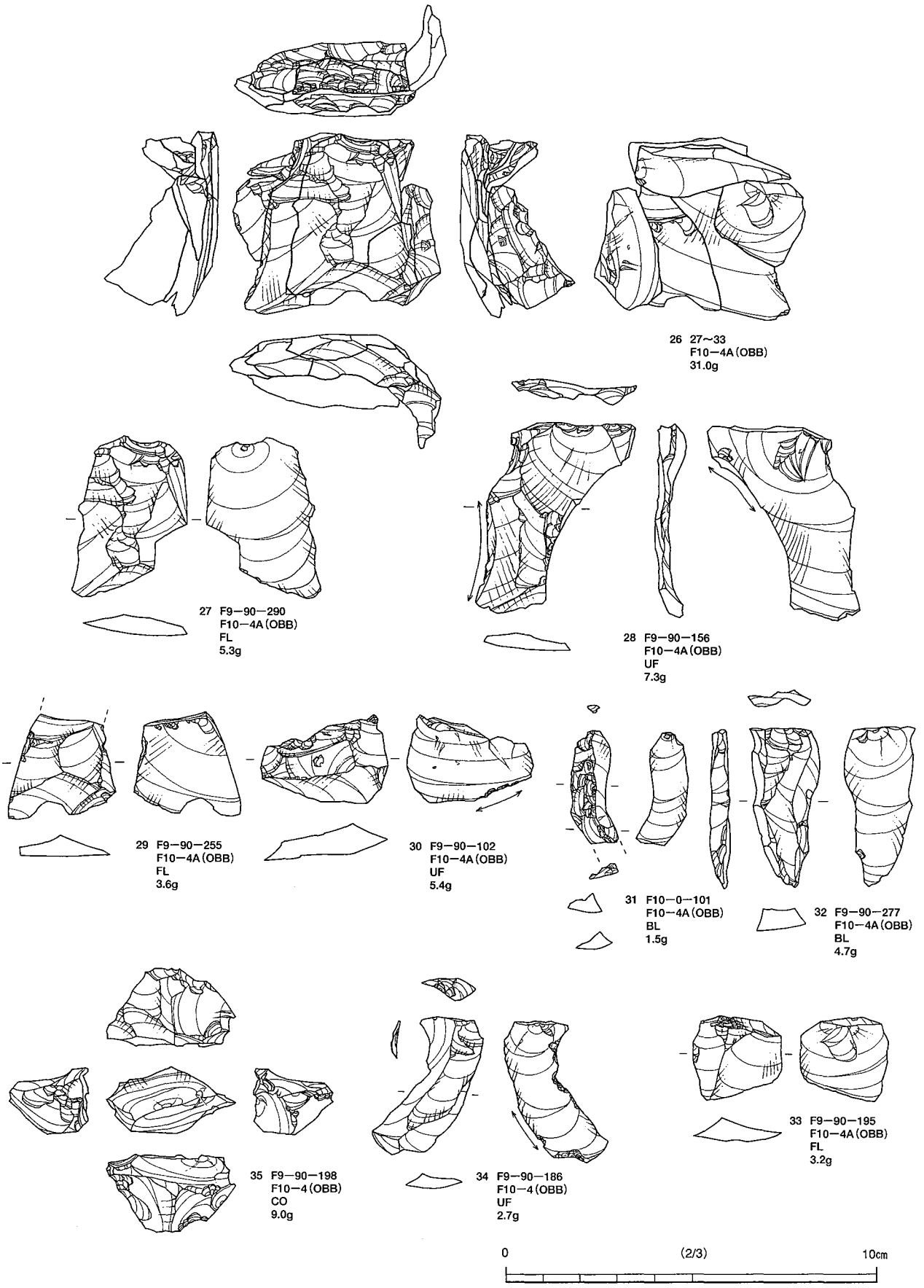
・**F9-31（第158～160図）**　薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片2点（1個体），使用痕ある剥片2点，剥片24点（19個体），石核2点の合計30点（24個体）で構成される。接合資料は，2グループある。A（43）は加工痕ある剥片3点（1個体；46），使用痕ある剥片2点（62・64），剥片22点（18個体；44・45・47～50・54・55・57～61・63・65～67・69），石核2点（56・70）とブロック外の剥片1点（52）が接合している。その内，当ブロックの加工痕ある剥片2点はブロック外（F9-61グリッド）の加工痕ある剥片1点と接合して1個体となる。入念に打面調整や打面再生を行い，180度打面転移しながら，初期の段階では石刃状の縦長剥片を剥離しているが，結果的には，大粒の夾雑物を含むため，寸詰まりの剥片や途中で折断された剥片が多く剥離されている。また，最終的には，求心的な剥離作業により，不定型な剥片を剥離して，生産を終えている。46は右側縁の一部に比較的急角度の粗い調整加工を行っている。後述するように3点が接合して，1個体となる資料で，1個体とすれば，折断は使用による欠損ということになろうが，3点の折断剥片の1点に調整加工を行ったものと思われる。62・64は右側縁下部の一部に刃こぼれが見られる。なお，46は加工痕ある剥片2点がブロック外（F9-61グリッド）の加工痕ある剥片1点と接合して1個体，



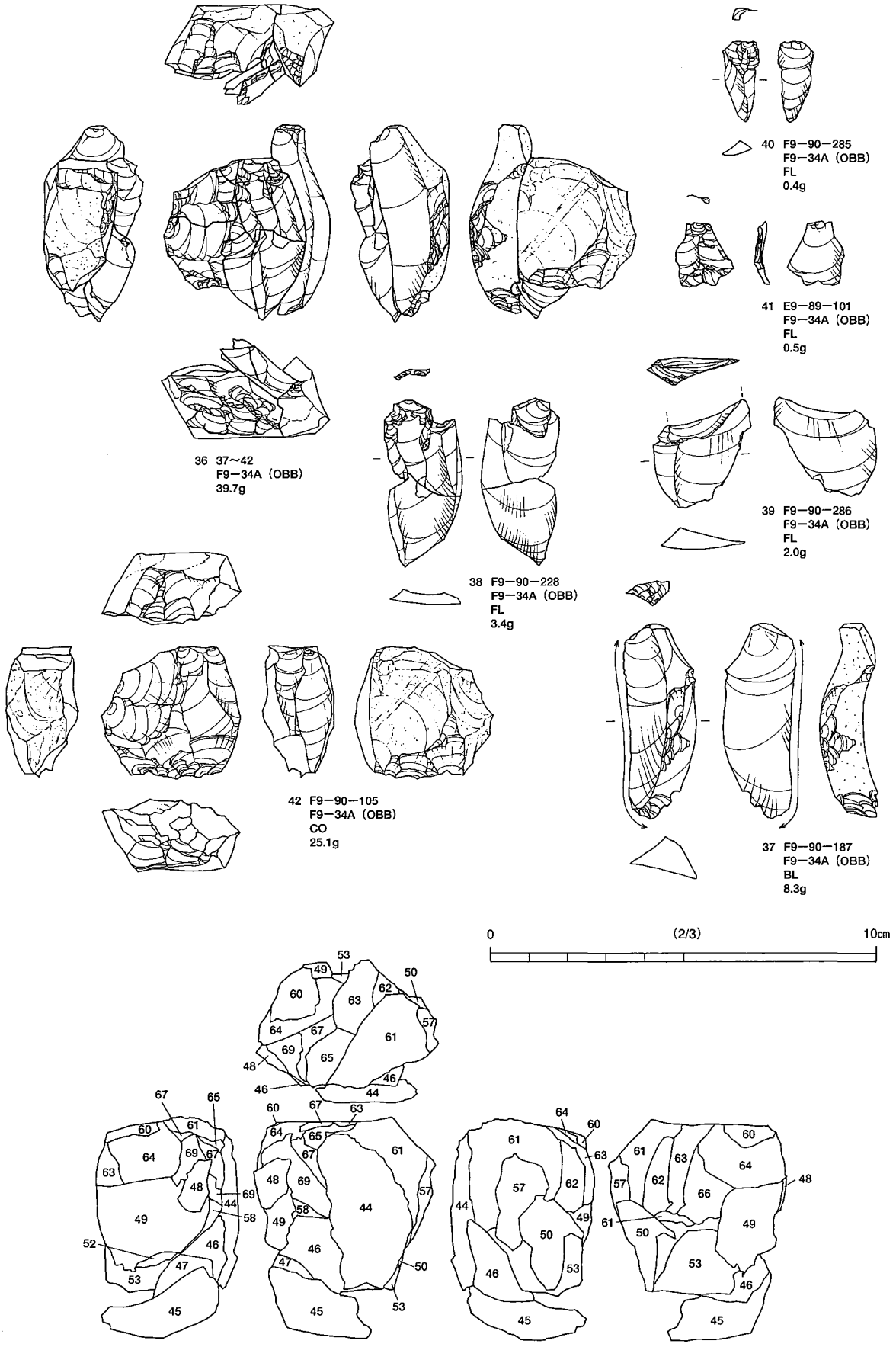
第155図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物（１）



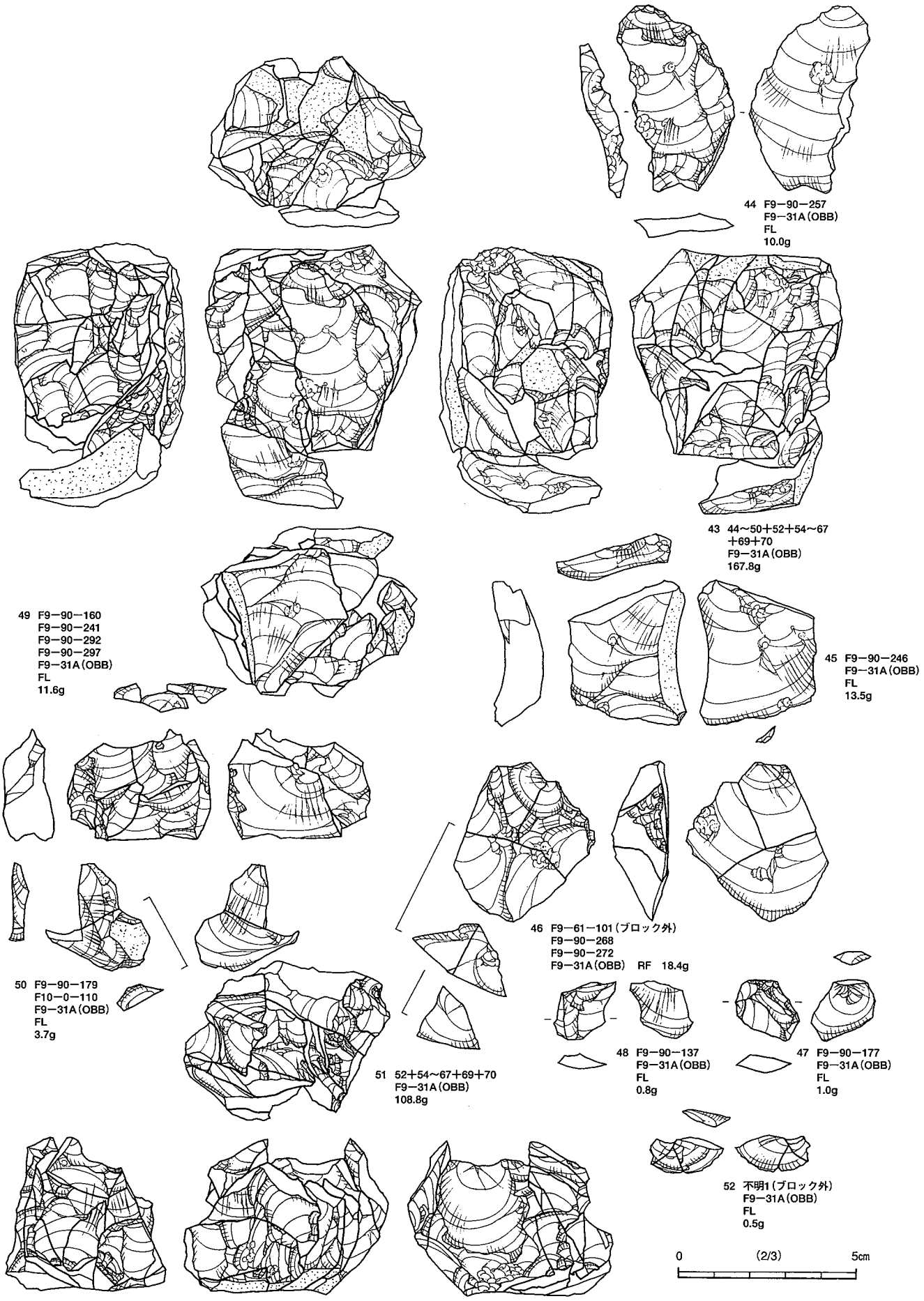
第156図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物（２）



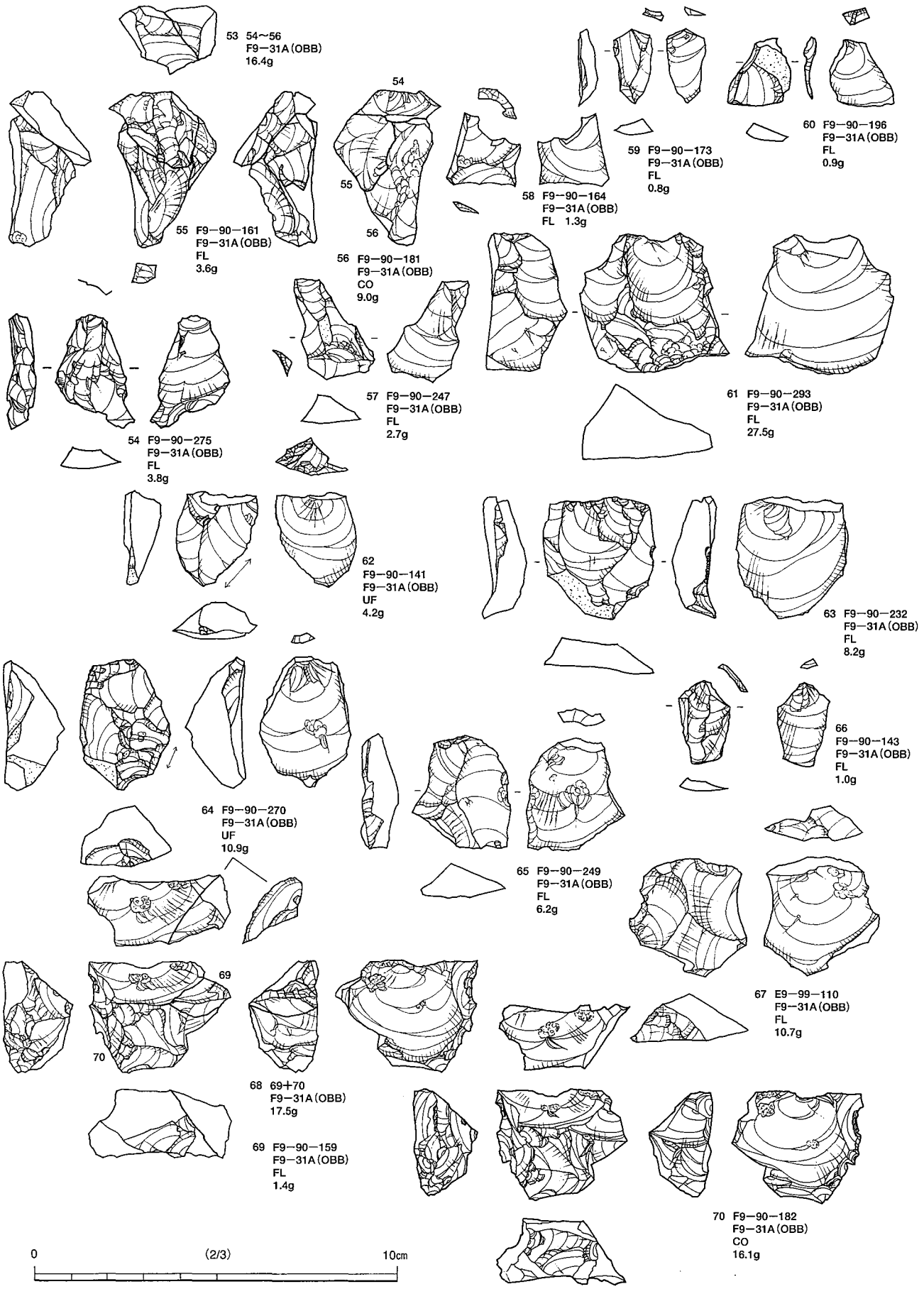
第157図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物（３）



第158図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物（４）



第159図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物（５）



第160図　Ｆ９-Ｃブロック出土遺物（６）

49は４点が接合して１個体，50は１点が接合して１個体となる。

第85表　Ｆ９-Ｃブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
F9-19(OBB)																		1							1
F9-31(OBB)										2(1)	2							24(19)		2					30(24)
F9-32(OBB)																		2							2
F9-33(OBB)						1						1						2							4
F9-34(OBB)												2						4		1					7
F9-35(OBB)												2(1)													2(1)
F9-36(OBB)												1													1
F9-37(OBB)												1													1
F9-38(OBB)												1													1
F9-39(OBB)																		1							1
F9-40(OBB)	1																								1
F9-41(CH)																				1					1
F9-42(CH)												1													1
F9-43(SHB)	1																								1
F9-44(SHE)												2													2
F10-2(OBB)												1													1
F10-4(OBB)											3	4						11		1					19
その他(OBB)	1									1		3						137	33						175
合　計	3					1				3(2)	5	19(18)						182(177)	33	5					251(244)

第86表　Ｆ９-Ｃブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石B(OBB)	2					1				3(2)	5	16(15)						182(177)	33	4					246(239)
頁岩B(SHB)	1																								1
頁岩E(SHE)												2													2
チャート(CH)												1								1					2
合　計	3					1				3(2)	5	19(18)						182(177)	33	5					251(244)

21　F9-Ｄブロック（第161～163・267図，第87・88表，カラー図版12・13，図版８）

１）ブロックの概要

F9-Ｄブロックは，調査範囲西側のF9-85・95・96グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側谷頭である。

ブロックの規模と形状は，長軸７ｍ，短軸４ｍの範囲に55点の石器が分布する。出土層位は，Ⅴ層からⅦ層にかけてで，70cmほどの高低差をもって包含されている（第161・162図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，彫器１点，石刃18点（17個体），剥片32点（30個体），砕片３点の合計55点（52個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ38点（37個体），黒曜石Ｃ２点，安山岩７点（５個体），頁岩Ａ１点，粘板岩３点，砂岩１点，ホルンフェルス２点，瑪瑙・玉髄１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは16母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ８母岩（F9-16～20・22～24），黒曜石Ｃ１母岩（F9-21），安山岩１母岩（F9-25），頁岩Ａ１母岩（F9-26），粘板岩１母岩（F9-27），砂岩１母岩（F9-45），ホルンフェルス２母岩（F9-28・29），瑪瑙・玉髄１母岩（F9-30）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は78%（43/55点）である。

・**F9-16**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃３点，剥片５点の合計８点（13.1g）である。接合資料は，剥片２点（10.0g）である。

・**F9-17**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片６点（8.4g）である。

・**F9-18**：自然面は紙ヤスリ状で黒灰色，内部は透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃２点，剥片１点の合計３点（18.4g）である。

・**F9-19**：半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はF9-Ｃブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片３点（11.9g）である。その他に同一母岩がF9-Ｃブロックに１点ある。

・**F9-20**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（２個体;5.6g）である。接合資料は，剥片２点（１個体；4.2g）である。

・**F9-21**：薄墨を流したような透明な黒曜石である。φ0.5㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（0.7g）である。

・**F9-22**：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点（6.7g）の単独資料である。

・**F9-23**：半透明な地に黒灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点（5.8g）の単独資料である。

・**F9-24**：黒灰色半透明な黒曜石である。φ５㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点（13.6g）の単独資料である。

・**F9-25**：内部は灰色（N4/0）の地に灰オリーブ色（5Y5/2）が部分的に混じり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃５点（４個体），剥片２点（１個体）の合計７点（５個体;38.3g）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片２点（１個体;7.2g），Ｂは石刃２点（１個体;3.6g）である。

・**F9-26**：黒褐色（10YR3/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，彫器１点（11.9g）の単独資料である。

・**F9-27**：暗灰色（N3/0）の粘板岩である。石器群の内訳は，石刃３点（13.7g）である。

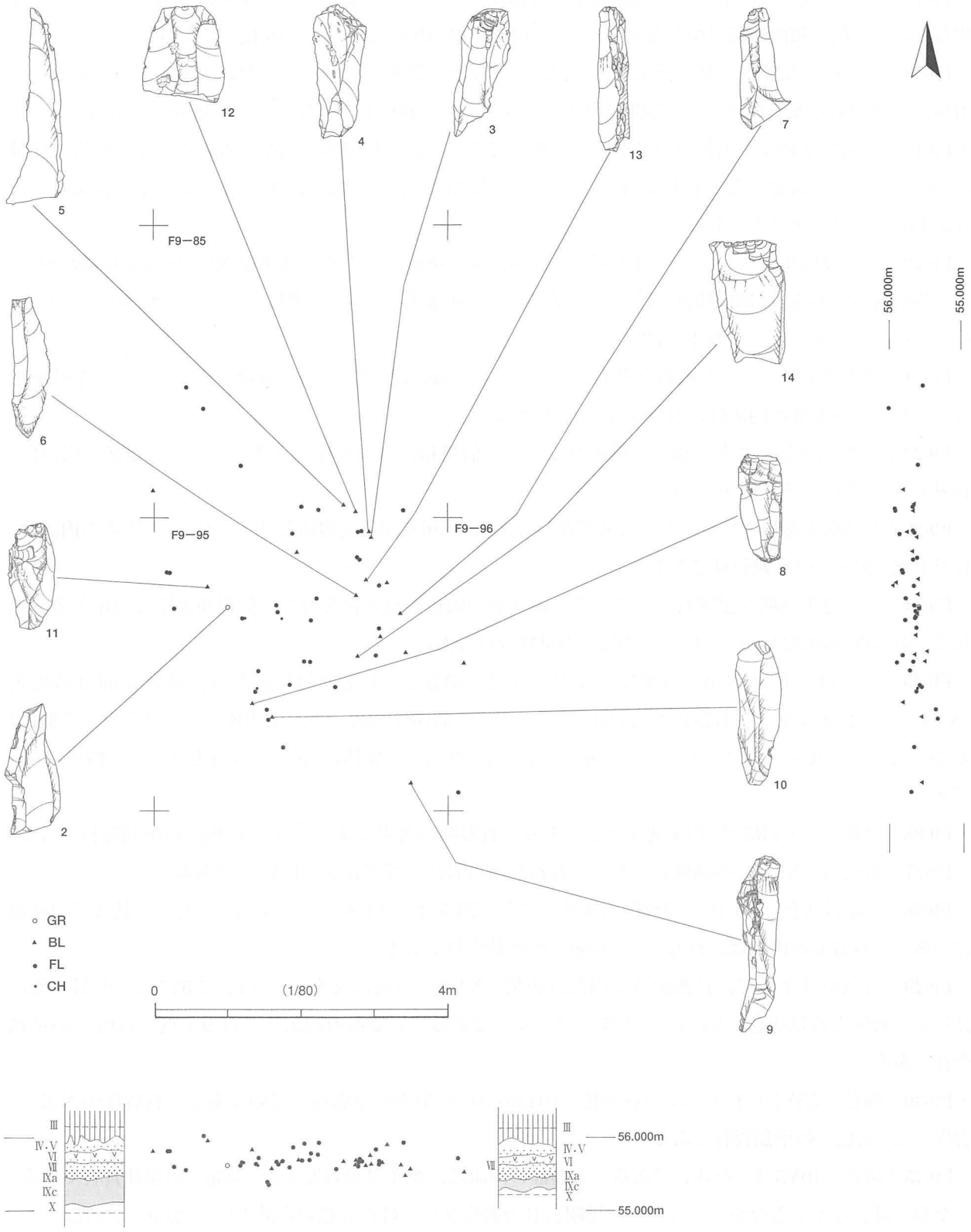
・**F9-28**：内部は灰色（N4/0），節理は灰オリーブ色（5Y5/2）のホルンフェルスとしたが，粘板岩の可能性がある。石器群の内訳は，石刃１点（6.6g）の単独資料である。

・**F9-29**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（N4/0）の地に灰オリーブ色（7.5Y5/2）が部分的に混じり，新鮮な面は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，石刃１点（14.0g）の単独資料である。

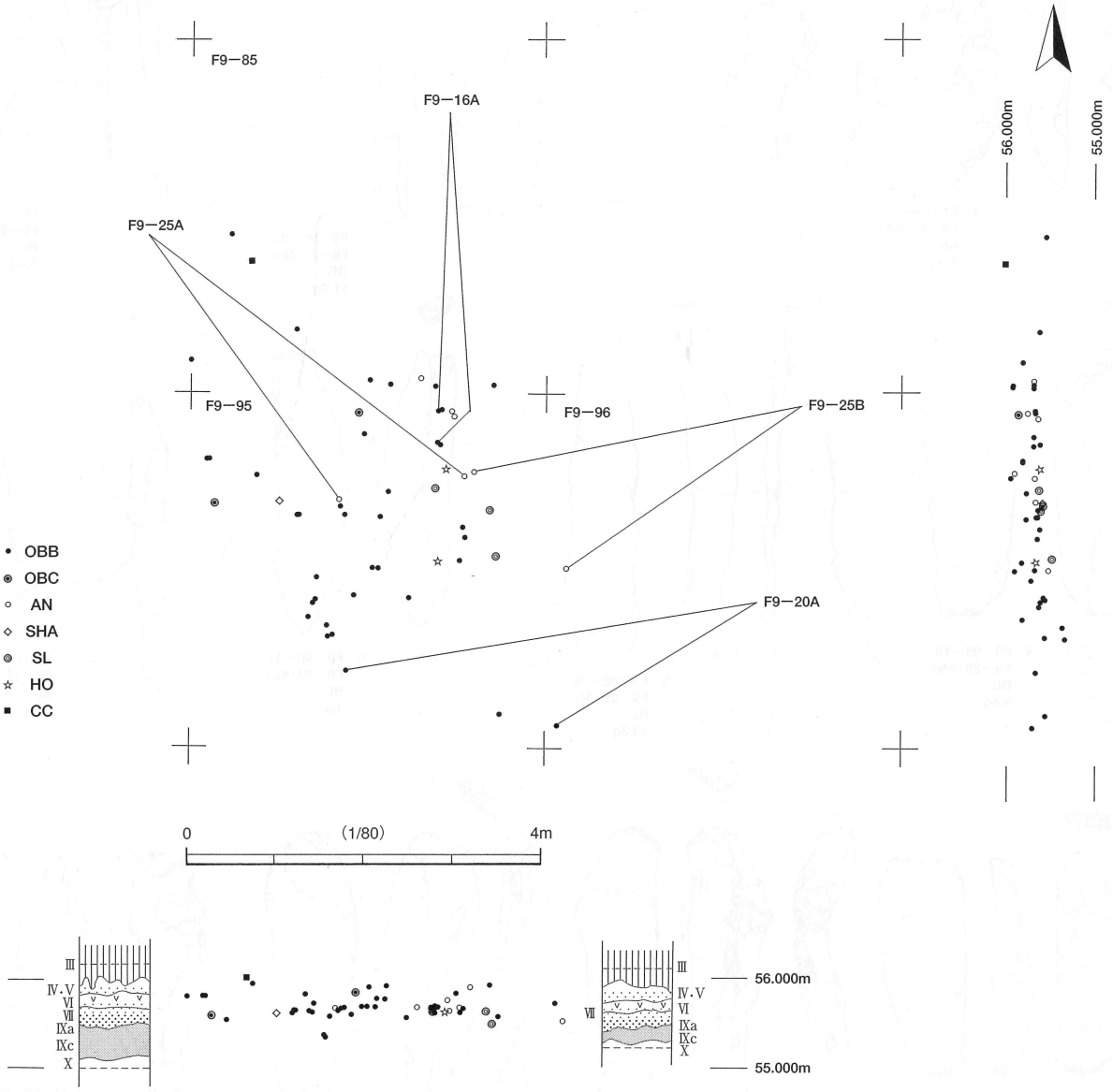
・**F9-30**：褐色（7.5YR4/4）・にぶい黄橙色（10YR6/4）で半透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片１点（5.4g）の単独資料である。

・**F9-45**：灰色（10Y5/1）の砂岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点（5.3g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｂの剥片９点，砕片３点の合計12点（2.6g）がある。



第161図　Ｆ９-Ｄブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

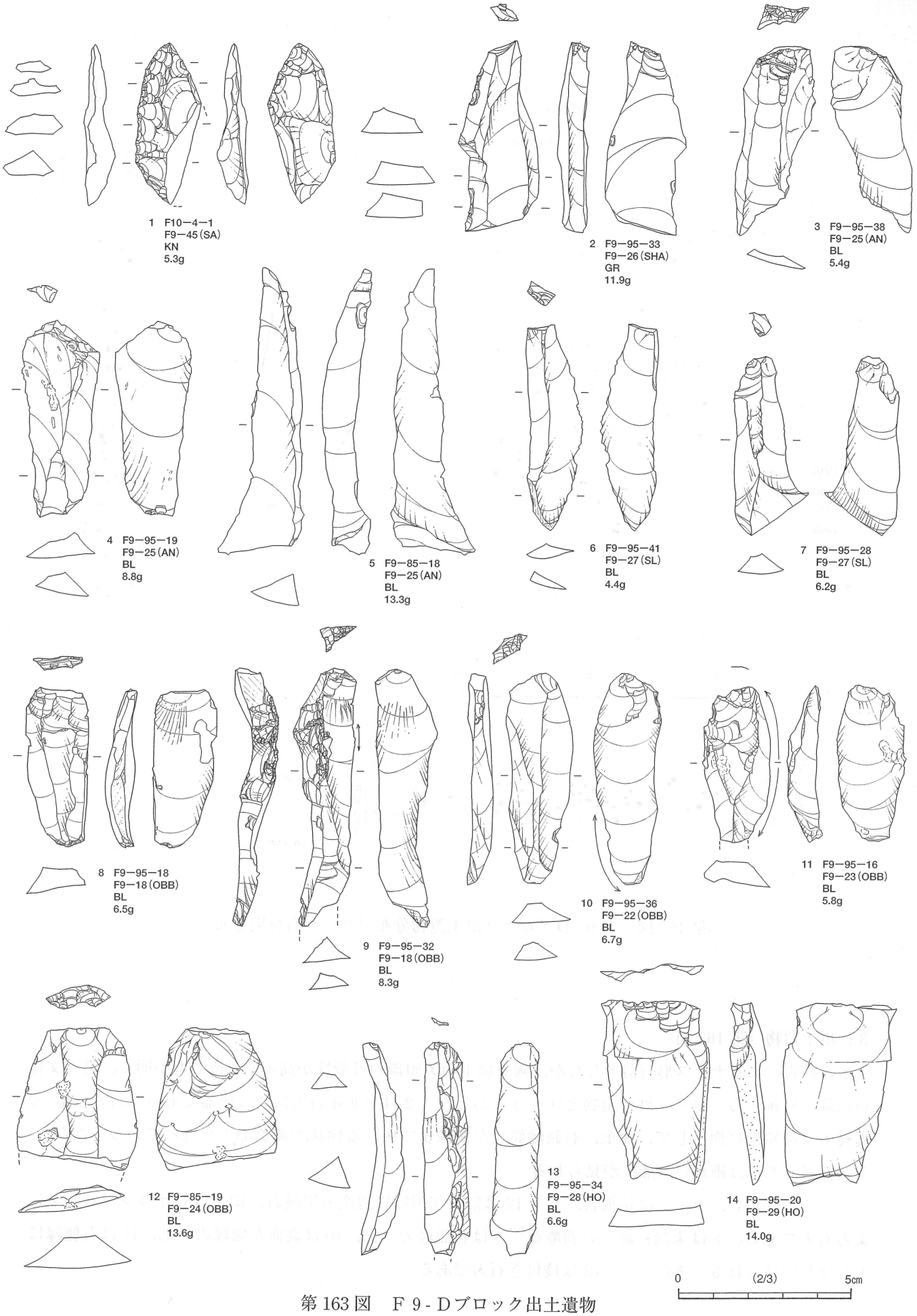


第162図　Ｆ９-Ｄブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

３）出土遺物（第163図）

１は砂岩によるナイフ形石器としたが，両面加工の尖頭器の可能性が高い。原位置も不明で，第４文化層以降に帰属するブロック外の遺物とすべきであった。２は東北産頁岩による彫器である。石刃を用い，素材の末端側を打面として，図上，右側縁側に左側縁まで抜ける樋状の調整加工を行っている。さらに，左側縁の一部には細かい剥離痕が見られる。

３～５は安山岩，６・７は粘板岩，８～12は信州和田峠周辺産の黒曜石，13・14はホルンフェルスによる石刃である。８は末端に細かい剥離痕，９は右側縁の一部，10は裏面左側縁の一部，11は右側縁に刃こぼれが見られる。また，９・13は稜付き石刃である。



第163図　Ｆ９-Ｄブロック出土遺物

第87表　F９-Dブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
F9-16(OBB)												3						5							8
F9-17(OBB)																		6							6
F9-18(OBB)												2						1							3
F9-19(OBB)																		3							3
F9-20(OBB)																		3(2)							3(2)
F9-21(OBC)																		2							2
F9-22(OBB)												1													1
F9-23(OBB)												1													1
F9-24(OBB)												1													1
F9-25(AN)												5(4)						2(1)							7(5)
F9-26(SHA)							1																		1
F9-27(SL)												3													3
F9-28(HO)												1													1
F9-29(HO)												1													1
F9-30(CC)																		1							1
F9-45(SA)	1																								1
その他(OBB)																		9	3						12
合　計	1						1					18(17)						32(30)	3						55(52)

第88表　F９-Dブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)												8						27(26)	3						38(37)
黒曜石C(OBC)																		2							2
安山岩(AN)												5(4)						2(1)							7(5)
頁岩A(SHA)							1																		1
粘板岩(SL)												3													3
砂岩(SA)	1																								1
ホルンフェルス(HO)												2													2
瑪瑙・玉髄(CC)																		1							1
合　計	1						1					18(17)						32(30)	3						55(52)

22　F10- Aブロック（第164～166・267図，第89・90表，カラー図版13・21，図版８）

１）ブロックの概要

F10- Aブロックは，調査範囲西側のF10-05・06・15・16グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側谷頭である。

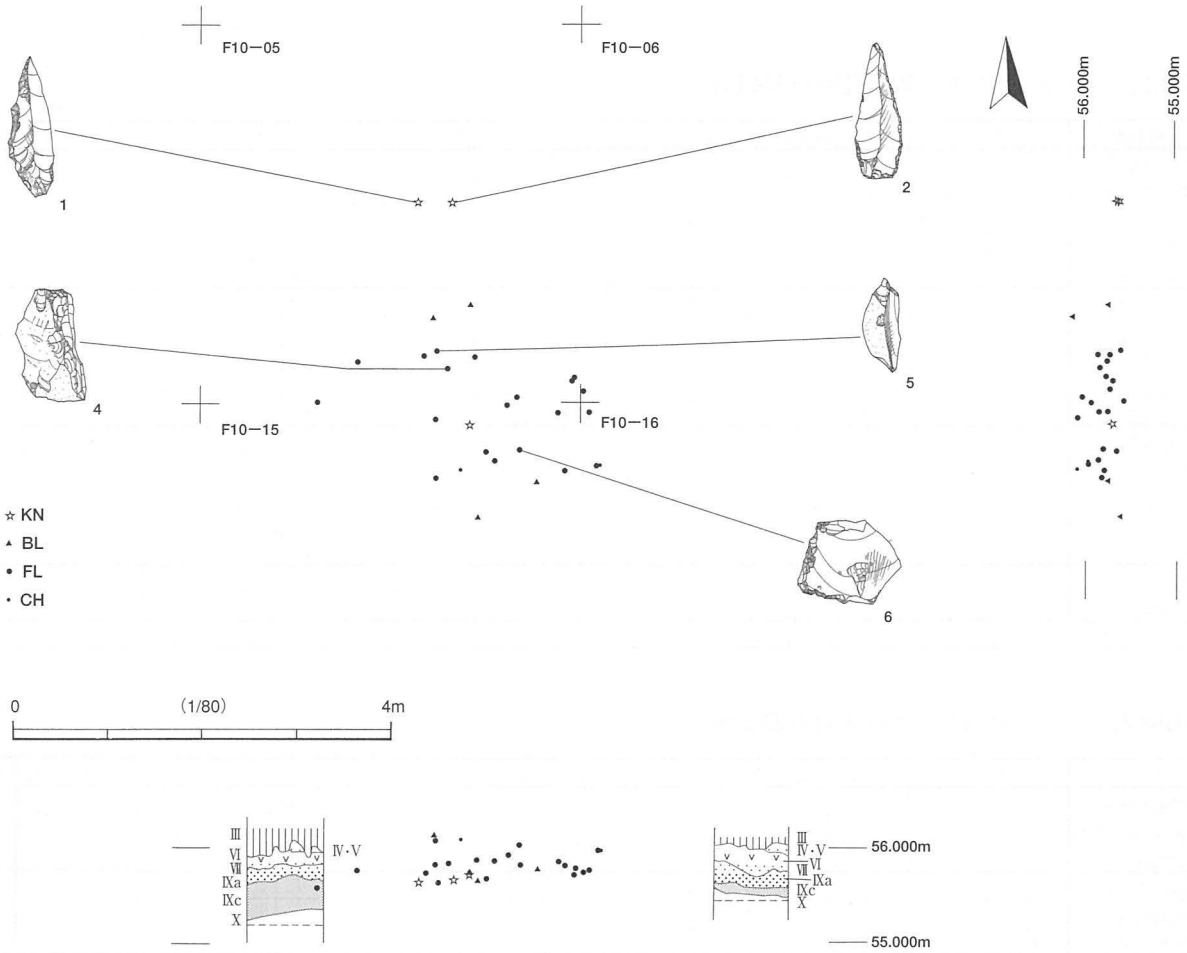
ブロックの規模と形状は，直径３ｍの範囲に29点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅨｃ層にかけてで，50cmほどの高低差をもっているが，中心は，Ⅵ層からⅨａにかけてで，40cmほどの高低差をもって包含されている（第164・165図）。

ブロックはナイフ形石器３点，石刃４点，剥片20点，砕片２点の合計29点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ27点，ホルンフェルス２点である。

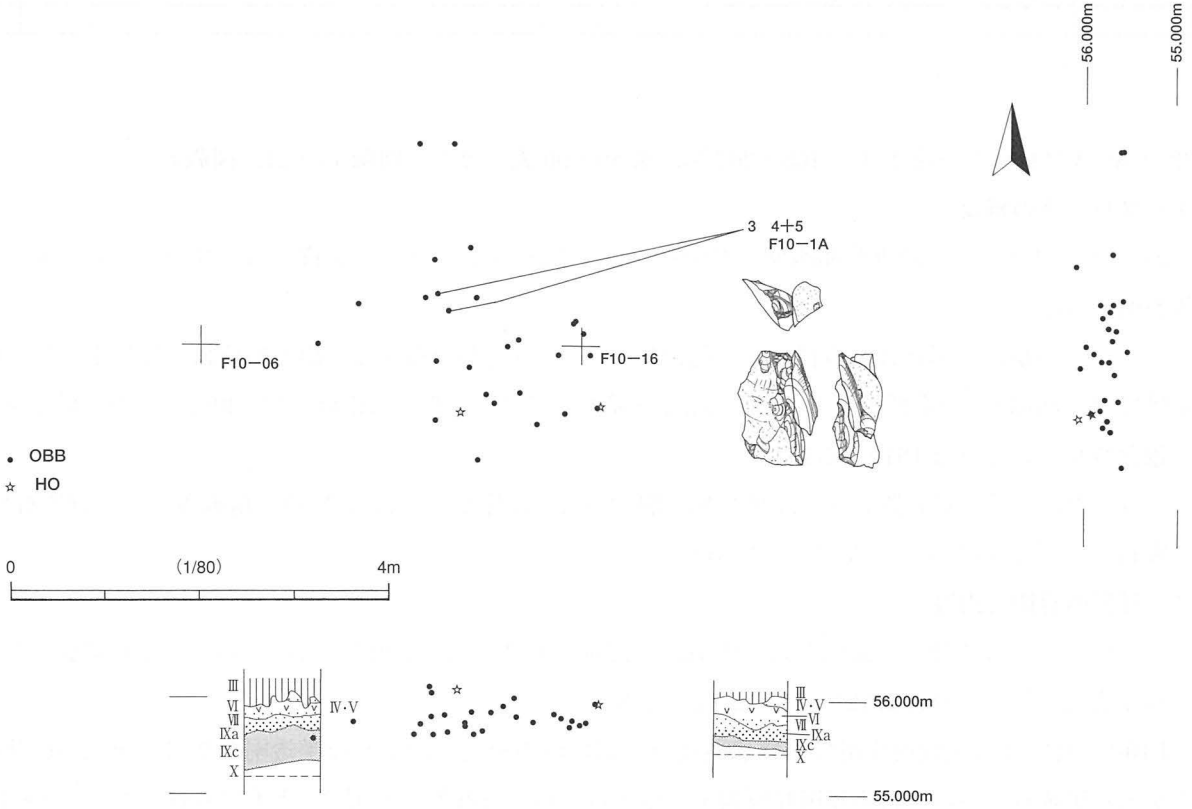
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ４母岩（F10-1～4）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は72%（21/29点）である。

・**F10-1**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，石刃３点，剥片８点の合計12点（26.4g）である。接合資料は，剥片２点（10.5g）である。



第164図　F 10- Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第165図　F 10- Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

・**F10-2**：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はF9- Cブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，ナイフ形石器2点（7.0g）である。その他に同一母岩がF9- Cブロックに1点ある。

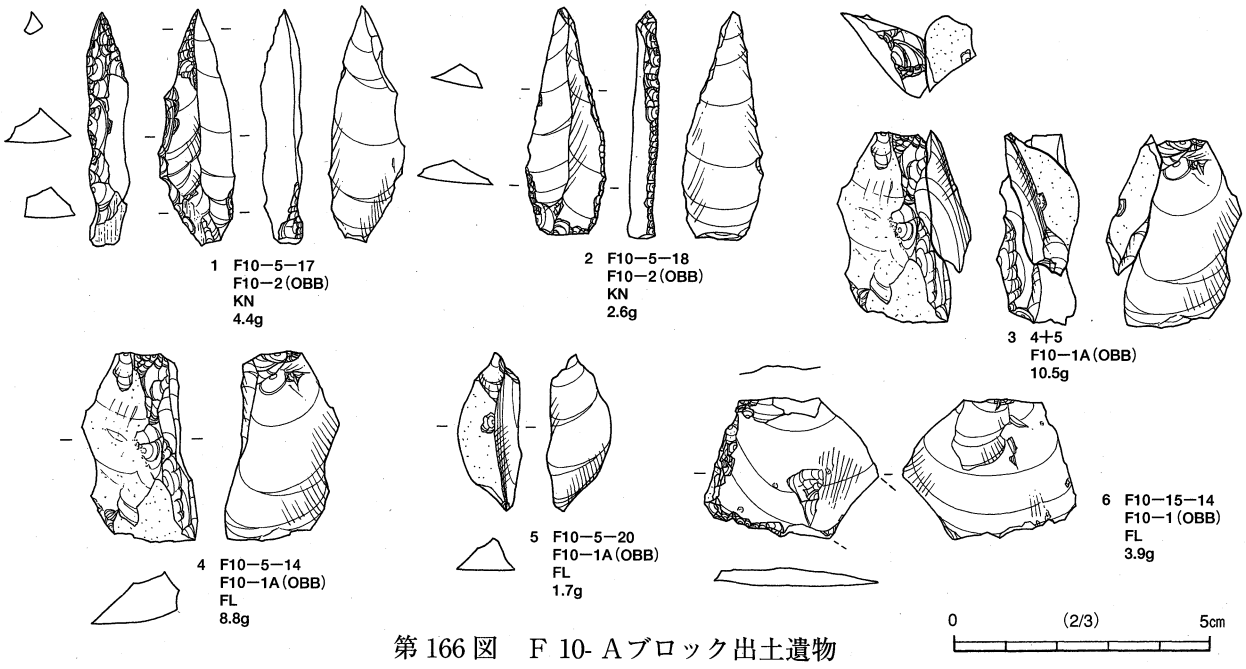
・**F10-3**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片6点（8.4g）である。

・**F10-4**：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はF9- Cブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃1点（2.4g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がF9- Cブロックに19点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石B剥片6点（7.0g），ホルンフェルスの砕片2点（0.1g）がある。

3）出土遺物（第166図）

1・2は信州和田峠周辺産の黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器である。石刃を用い，素材の打面部を先端部としている。



第166図　F 10- Aブロック出土遺物

第89表　F10-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
F10-1(OBB)	1											3						8							12
F10-2(OBB)	2																								2
F10-3(OBB)																		6							6
F10-4(OBB)												1													1
その他(OBB)																		6							6
その他(HO)																			2						2
合　計	3											4						20	2						29

第90表　F10-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)	3											4						20							27
ホルンフェルス(HO)																			2						2
合　計	3											4						20	2						29

4）接合資料とその関連資料（第166図）

・F10-1（第166図）　薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点，石刃3点，剥片8点で構成される。3は剥片2点（4・5）の接合資料である。6は接合しなかった同一母岩の不定型な剥片である。

23 F10-Bブロック（第167～169・267図，第91・92表，カラー図版13・21，図版9）

1）ブロックの概要

F10-Bブロックは，調査範囲西側のF10-10・11・13・21～24・32～34グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側谷頭である。

ブロックの規模と形状は，長軸19m，短軸8mの範囲に29点の石器が分布する。出土層位は，Ⅴ層からⅦ層にかけてで，80cmほどの高低差をもって包含されている（第167・168図）。

ブロックは，使用痕ある剥片1点，剥片27点（24個体），石核1点の合計29点（26個体）で構成される。石器石材は，黒曜石A1点，黒曜石G2点，安山岩10点（8個体），頁岩A1点，頁岩C1点，頁岩E5点，チャート4点，粘板岩1点，ホルンフェルス1点，瑪瑙・玉髄3点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは11母岩を識別した。内訳は，黒曜石A1母岩（F10-6），黒曜石G1母岩（F10-5），安山岩2母岩（F10-7･8），頁岩A1母岩（F10-11），頁岩C1母岩（F10-12），頁岩E2母岩（F10-13･14），チャート2母岩（F10-9・10），ホルンフェルス1母岩（F10-15）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は76%（22/29点）である。

・F10-5：自然面は比較的平滑で暗灰色（N3/0），内部は黒灰褐色の黒曜石である。産地は不明である。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（34.9g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（34.9g）である。

・F10-6：自然面は凹凸があり浅黄色(2.5Y7/2)，内部は黒灰色の黒曜石である。φ1㎜の黄灰色・灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片1点（4.8g）の単独資料である。

・F10-7：自然面は紙ヤスリ状で黄灰色（2.5Y6/1），内部は黄灰色（2.5Y6/1）の資料，灰色（5Y5/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の資料など母岩内での変異があり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片4点（3個体；31.0g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；25.4g）である。

・F10-8：内部は灰色(N6/0)，節理はにぶい黄色(2.5Y6/3)の安山岩である。石器群の内訳は，剥片5点（4個体；52.6g）である。接合資料は，剥片3点（2個体；47.7g）である。

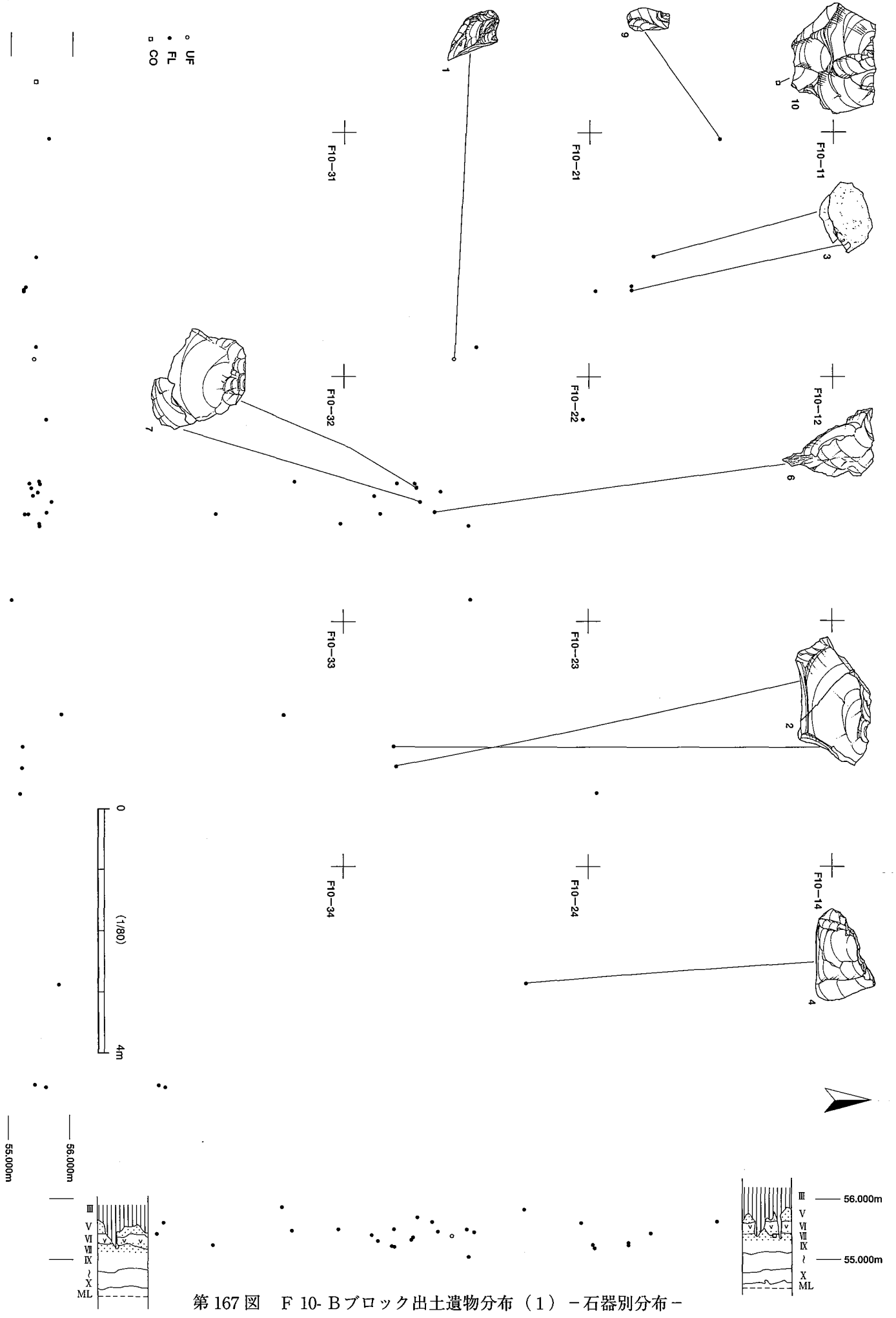
・F10-9：半透明な部分・暗灰色（N3/0）のチャートである。石器群の内訳は，剥片2点（2.8g）である。

・F10-10：灰色（N4/0）・オリーブ灰色（10Y6/2）のチャートである。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点（4.1g）の単独資料である。

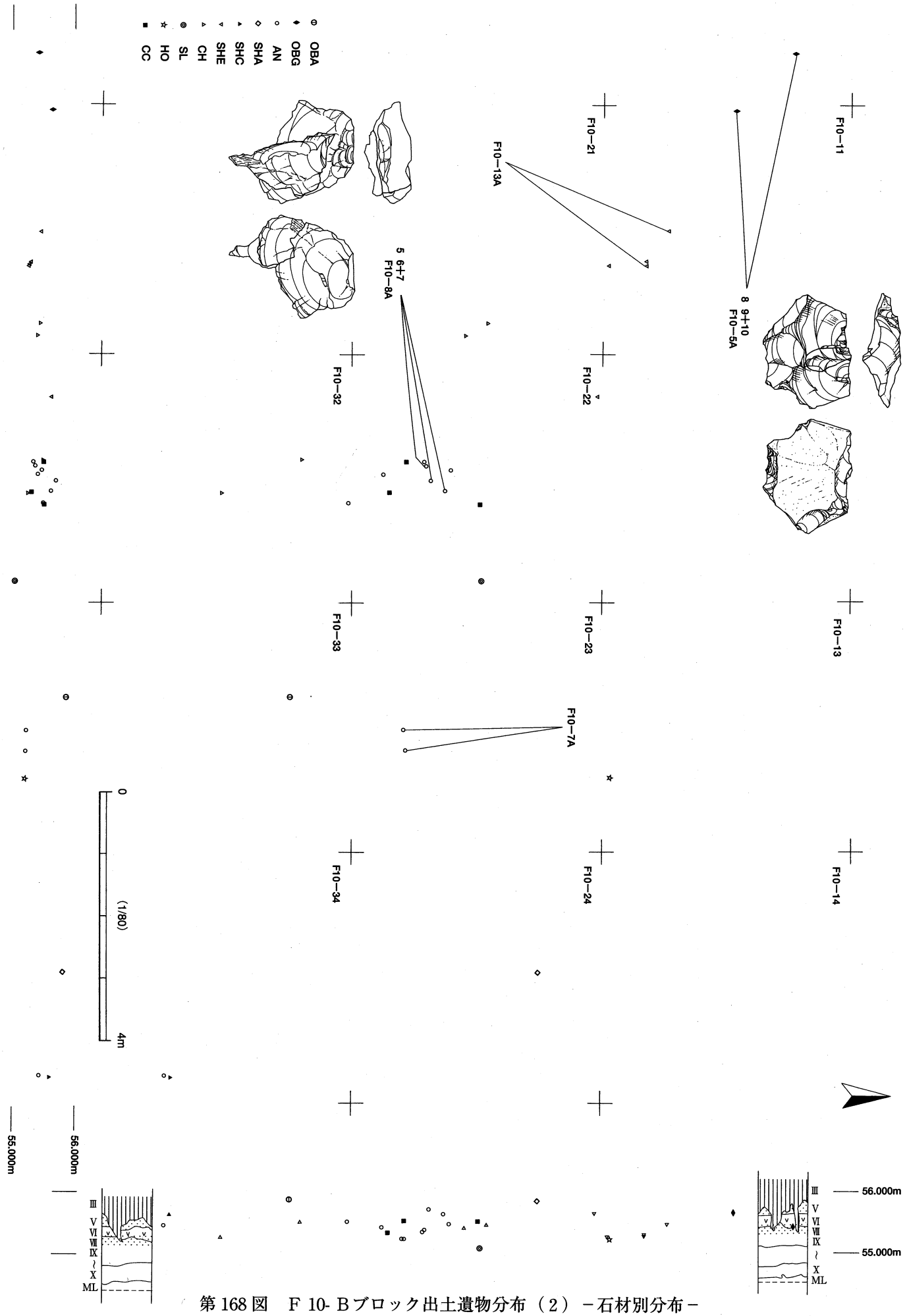
・F10-11：にぶい黄橙色（10YR6/3）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（7.7g）の単独資料である。

・F10-12：灰色（5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（0.5g）の単独資料である。

・F10-13：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y6/1）・にぶい黄色（2.5Y6/4），新鮮な面は灰色（N6/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（1個体；6.2g）である。接合資料は，剥片2



第167図　F 10- Bブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第168図　F 10- Bブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

点（1個体；6.2g）である。

・**F10-14**：内部は灰色（10Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（8.2g）である。

・**F10-15**：内部は自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片1点（10.2g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片1点（1.4g），頁岩Eの剥片1点（3.6g），チャートの剥片1点（0.6g），粘板岩の剥片1点（8.5g），瑪瑙・玉髄の剥片3点（2.6g）がある。

3）出土遺物（第169図）

1はチャートによる使用痕ある剥片である。不定型な折断剥片を素材とし，左側縁の一部に刃こぼれが見られる。2は安山岩，3は頁岩，4は東北産頁岩による不定型な剥片である。2は2点が接合して1個体となる。

4）接合資料とその関連資料（第169図）

・**F10-8（第169図）**　灰色（N6/0）などの安山岩である。剥片5点（4個体）で構成される。5は剥片3点（2個体；6・7）の接合資料である。7は2点が接合して1個体となる。

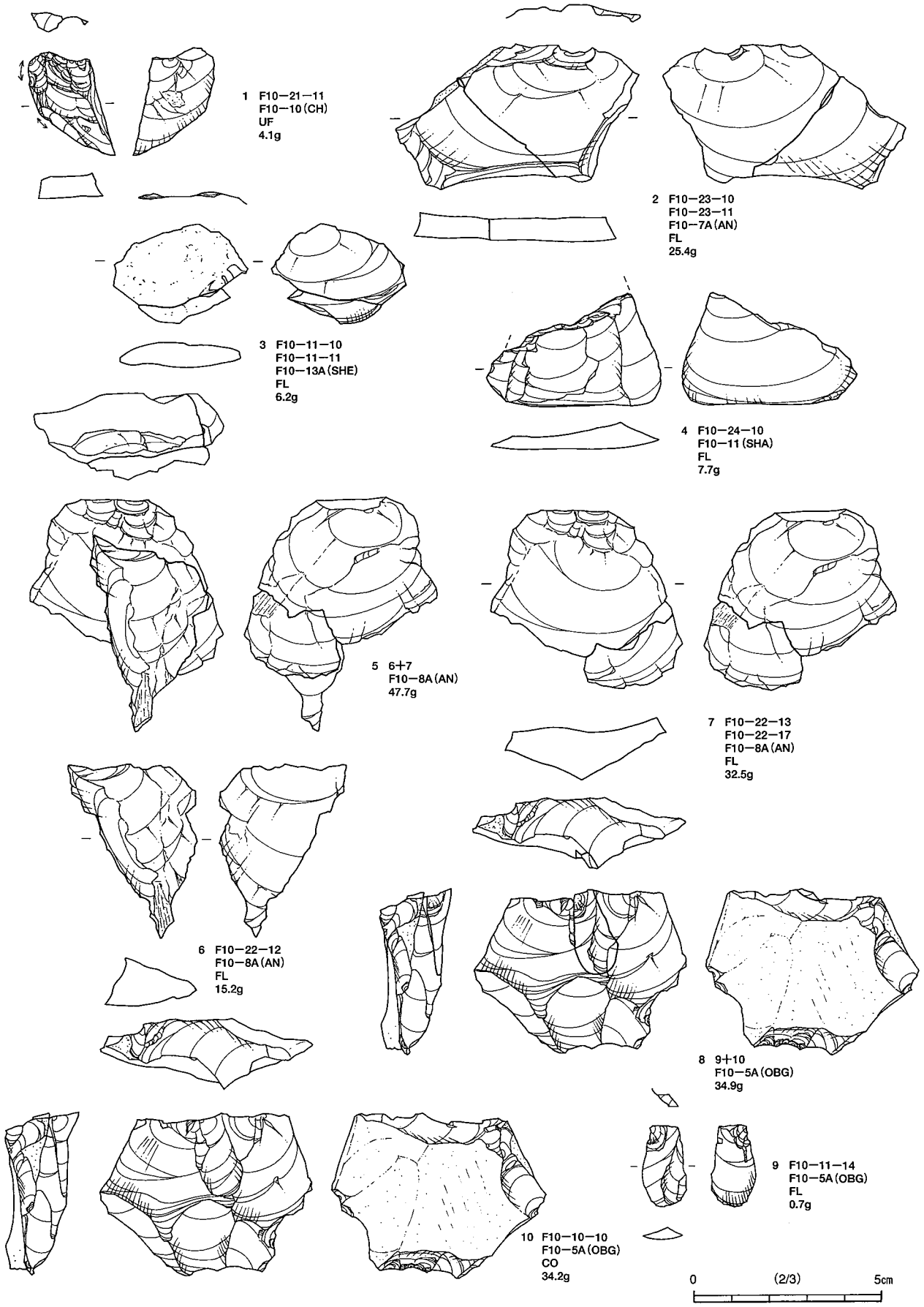
・**F10-5（第169図）**　黒灰褐色の黒曜石である。産地は不明である。剥片1点，石核1点で構成される。8は剥片1点（9），石核1点（10）の接合資料である。平坦な剥離面打面から9を含む不定型な剥片を剥離している。

第91表　F10-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
F10-5(OBG)																		1		1					2
F10-6(OBA)																		1							1
F10-7(AN)																		4(3)							4(3)
F10-8(AN)																		5(4)							5(4)
F10-9(CH)																		2							2
F10-10(CH)											1														1
F10-11(SHA)																		1							1
F10-12(SHC)																		1							1
F10-13(SHE)																		2(1)							2(1)
F10-14(SHE)																		2							2
F10-15(HO)																		1							1
その他(AN)																		1							1
その他(SHE)																		1							1
その他(CH)																		1							1
その他(SL)																		1							1
その他(CC)																		3							3
合　計											1							27(24)		1					29(26)

第92表　F10-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石A(OBA)																		1							1
黒曜石G(OBG)																		1		1					2
安山岩(AN)																		10(8)							10(8)
頁岩A(SHA)																		1							1
頁岩C(SHC)																		1							1
頁岩E(SHE)																		5							5
チャート(CH)											1							3							4
粘板岩(SL)																		1							1
ホルンフェルス(HO)																		1							1
瑪瑙・玉髄(CC)																		3							3
合　計											1							27(24)		1					29(26)



第169図　Ｆ10-Ｂブロック出土遺物

24 G10- Aブロック（第170～172・267図，第93～95表，カラー図版13）

1）ブロックの概要

G10- Aブロックは，調査範囲西側のG10-63・64・72～74グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20 mである。

ブロックの規模と形状は，直径6 mの範囲に32点の石器・礫と4 mほど離れて1点の石器が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅦ層にかけてで，50cmほどの高低差をもって包含されている（第170・171図）。

ブロックは，加工痕ある剥片3点，使用痕ある剥片1点，剥片20点，砕片2点の合計26点と礫7点で構成される。石器石材は，安山岩2点，頁岩C 11点，頁岩E 6点，チャート2点，ホルンフェルス5点である。礫石材は流紋岩4点（3母岩;442.8g)，砂岩2点（2母岩;204.4g)，不明1点（1母岩;18.7g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは4母岩を識別した。内訳は，頁岩E 2母岩（G10-1･2)，ホルンフェルス2母岩（G10-3･4）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は42%（11/26点）である。

・**G10-1**：自然面は平滑で，自然面及び節理はオリーブ灰色（2.5GY5/1)，内部は灰色（10Y5/1)，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片3点の合計4点（48.6g）である。

・**G10-2**：灰オリーブ色（7.5Y6/2）の地に暗褐色（10YR3/3）が部分的に混じる頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（5.0g）である。

・**G10-3**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2)，新鮮な面は暗灰色（N8/0)，節理はにぶい褐色（7.5YR5/4）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片3点の合計4点（34.1g）である。

・**G10-4**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色(10Y4/1)，新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片1点（8.7g）の単独資料である。

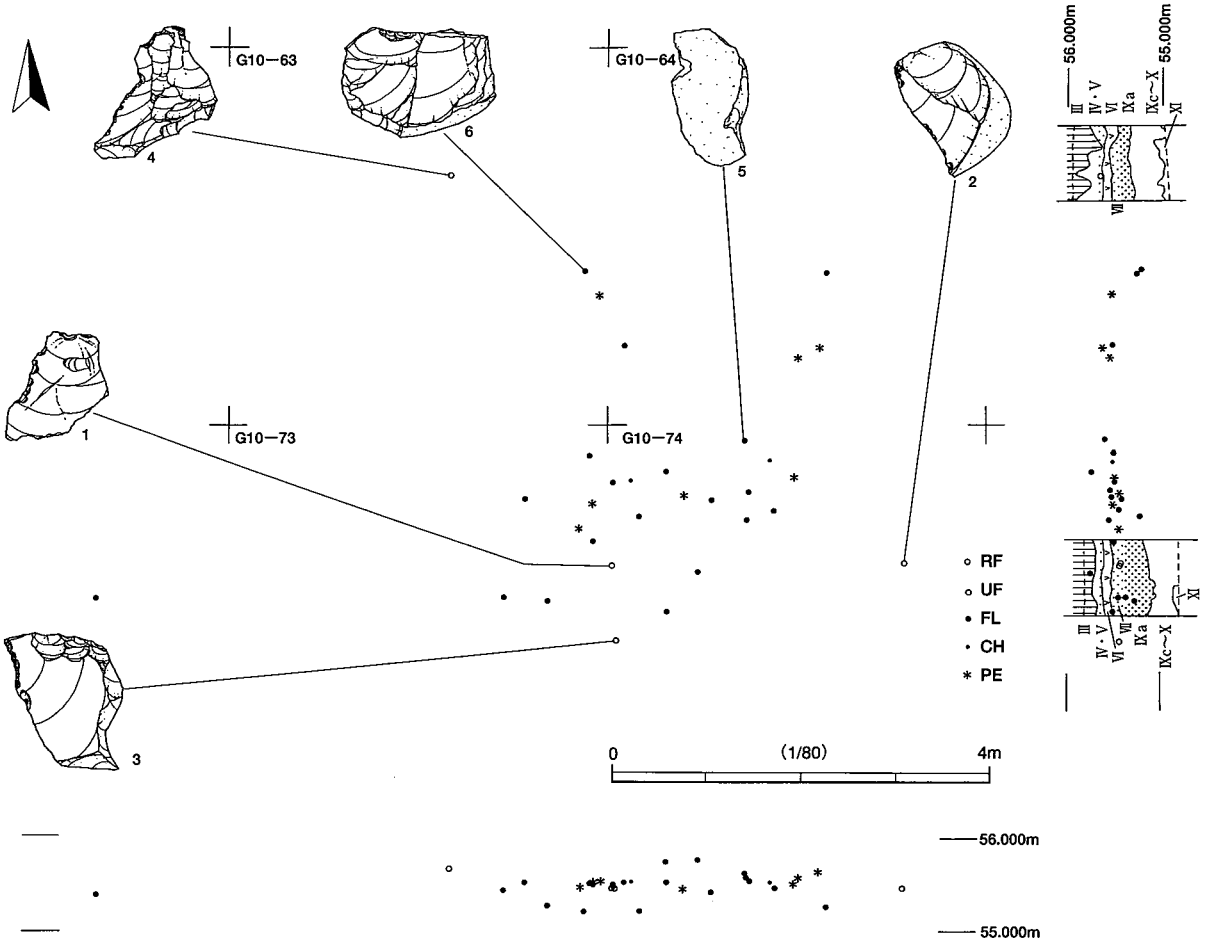
なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片2点（37.1g)，頁岩Cの使用痕ある剥片1点，剥片8点，砕片2点の合計11点（30.8g)，チャートの剥片2点（1.7g）がある。

第93表　G10-Aブロック母岩別石器組成

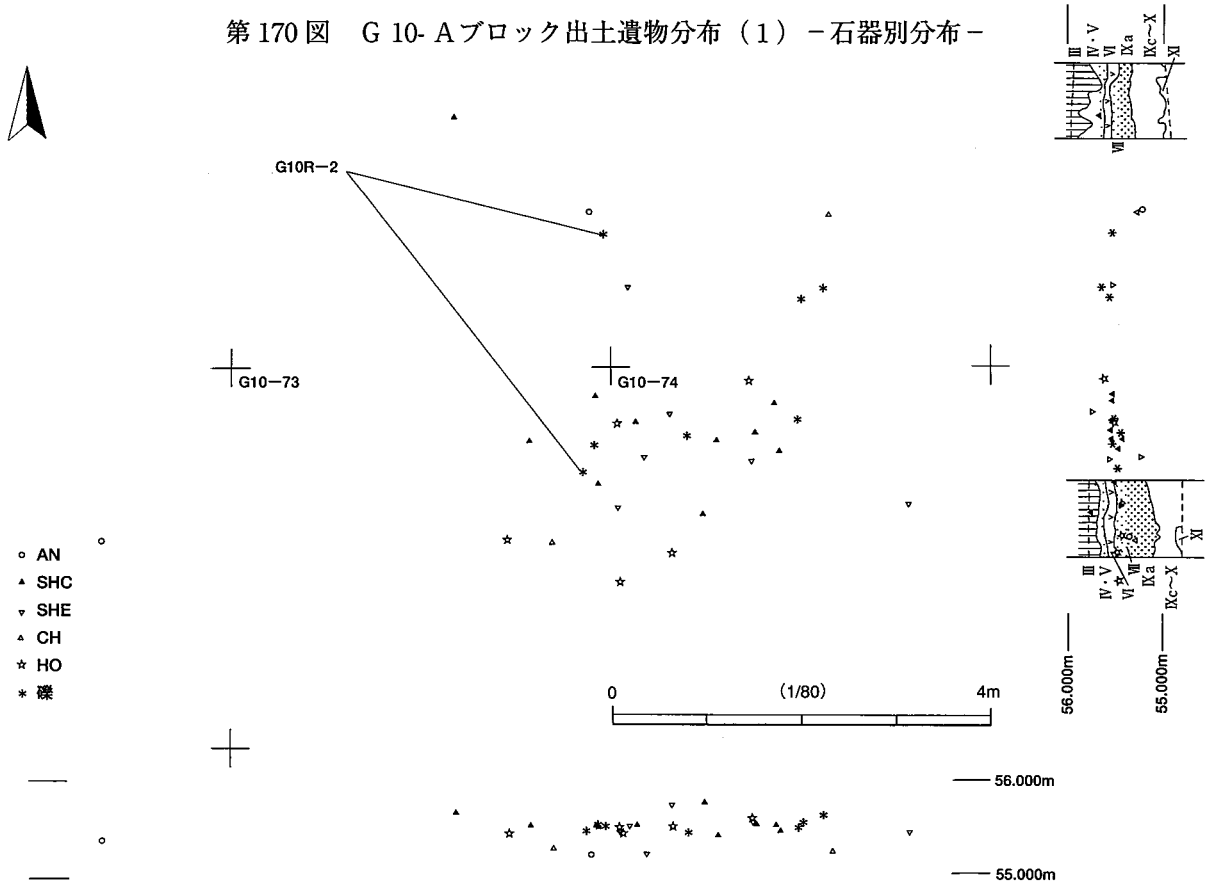
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
G10-1(SHE)										1								3							4
G10-2(SHE)										1								1							2
G10-3(HO)										1								3							4
G10-4(HO)																		1							1
その他(AN)																		2							2
その他(SHC)											1							8	2						11
その他(CH)																		2							2
合　計										3	1							20	2						26

第94表　G10-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
安山岩(AN)																		2							2
頁岩C(SHC)											1							8	2						11
頁岩E(SHE)										2								4							6
チャート(CH)																		2							2
ホルンフェルス(HO)										1								4							5
合　計										3	1							20	2						26



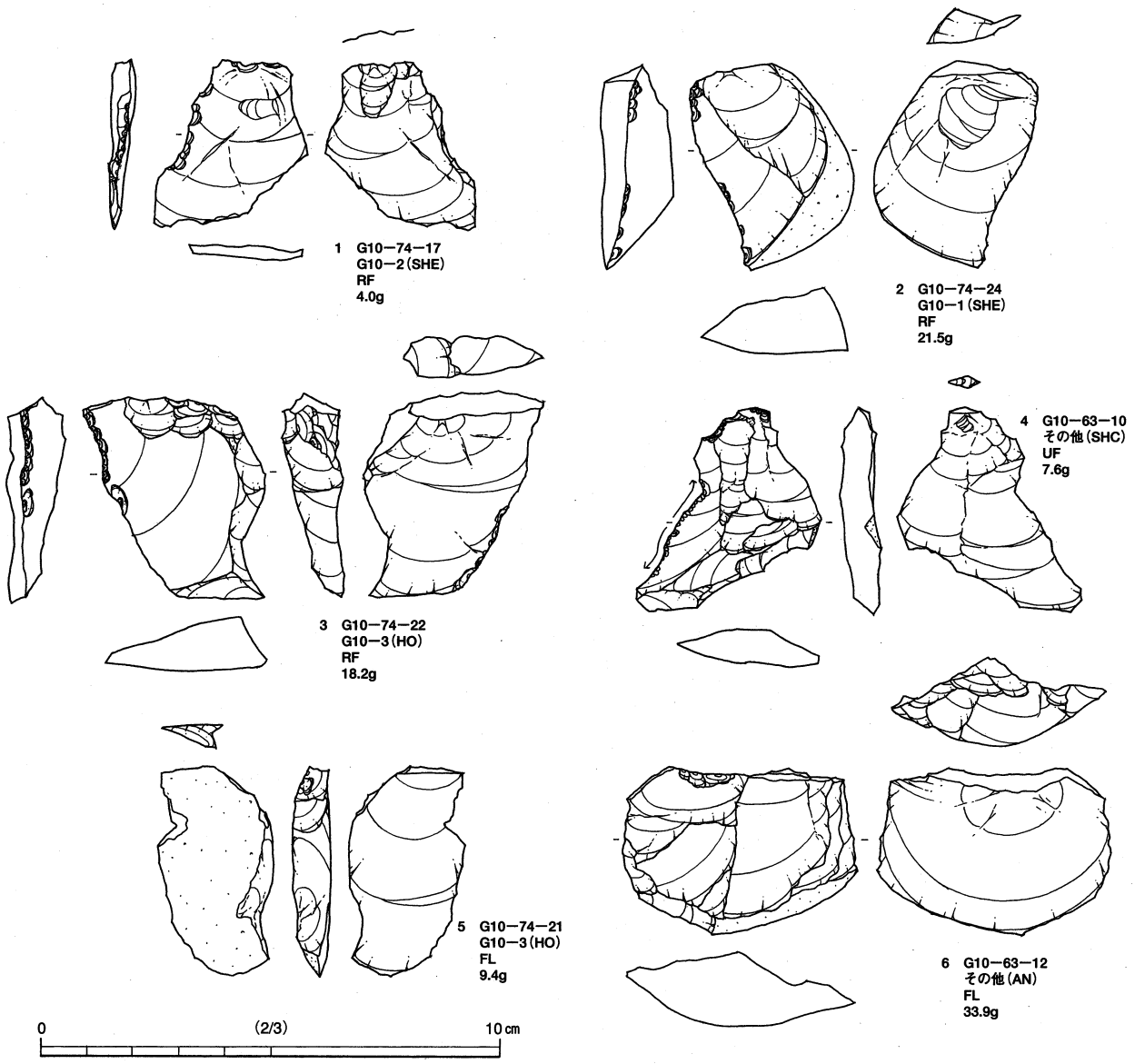
第170図　G 10- Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第171図　G 10- Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

3）出土遺物（第172図）

1・2は頁岩，3はホルンフェルスによる加工痕ある剥片である。不定型な剥片を素材とし，1・2は左側縁，3は表面左側縁上部と裏面右側縁下部に細かい調整加工を行っている。4は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。不定型な剥片を素材とし，左側縁に刃こぼれが見られる。5はホルンフェルスによる縦長剥片，6は安山岩による横長剥片である。



第172図　G 10- Aブロック出土遺物

第95表　G10-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
G10R-1	RH	1	387.3
G10R-2	RH	2	51.6
G10R-8	SA	1	189.5
G10R-10	SA	1	14.9
G10R-11	UK	1	18.7
G10R-12	RH	1	3.9

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	4	442.8
砂岩(SA)	2	204.4
不明(UK)	1	18.7
合　計	7	665.9

25 H10- Aブロック（第173～175・267図，第96～98表，カラー図版13，図版9）

１）ブロックの概要

H10- Aブロックは，調査範囲西側のH10-42・50～54・63グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は35ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸13ｍ，短軸8ｍの範囲に22点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅨａ層にかけてで，70cmほどの高低差をもって包含されている（第173･174図）。このブロックは，出土層位や石斧と思われる石器などから，第１文化層とした方が良いかもしれない。

ブロックは，楔形石器１点，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片２点，礫器１点，敲石１点，台石２点（１個体），剥片10点の合計19点（18個体）と礫３点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ１点，黒曜石Ｇ１点，安山岩１点，流紋岩２点（１個体），頁岩Ｃ７点，頁岩Ｅ１点，チャート４点，凝灰岩Ｂ１点ホルンフェルス１点である。礫石材は，チャート３点（１母岩；75.7g）で，識別率は100%である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは15母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（H10-25），黒曜石Ｇ１母岩（H10-33），安山岩１母岩（H10-46），流紋岩１母岩（H10-31），頁岩Ｃ６母岩（H10-17～21･23），頁岩Ｅ１母岩（H10-32），チャート１母岩（H10-29・99），凝灰岩１母岩（H10-28），ホルンフェルス１母岩（H10-34）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は89%（17/19点）である。

・**H10-17**：灰オリーブ色（5Y5/2）の地ににぶい黄褐色（10YR5/4）・にぶい赤褐色（5YR4/4）・オリーブ黒（5Y3/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（21.2g）である。

・**H10-18**：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰色（5Y4/1）・黄褐色（2.5Y5/3）・褐色（10YR4/4）が部分的に混じり，節理は暗褐色（7.5YR3/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点（13.7g）の単独資料である。

・**H10-19**：内部は黄褐色（2.5Y5/4），節理はにぶい褐色（10YR4/6）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（26.7g）の単独資料である。

・**H10-20**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（9.6g）の単独資料である。

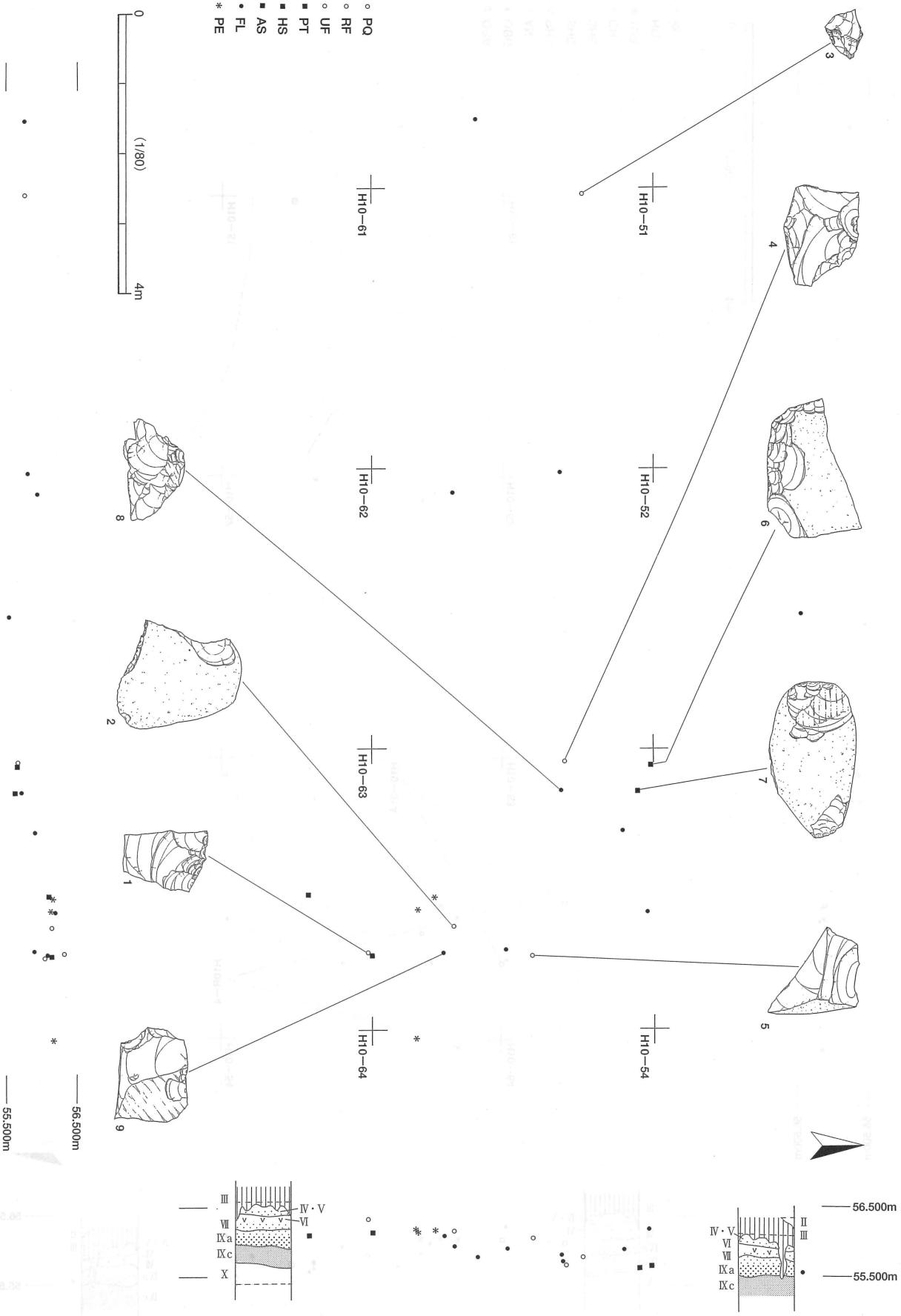
・**H10-21**：内部はにぶい褐色（10YR4/6）・灰オリーブ色（5Y5/3），節理は灰黄褐色（10YR4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（11.8g）の単独資料である。

・**H10-23**：暗灰黄色（2.5Y4/2）の地に黄褐色（10YR5/6）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（3.4g）の単独資料である。

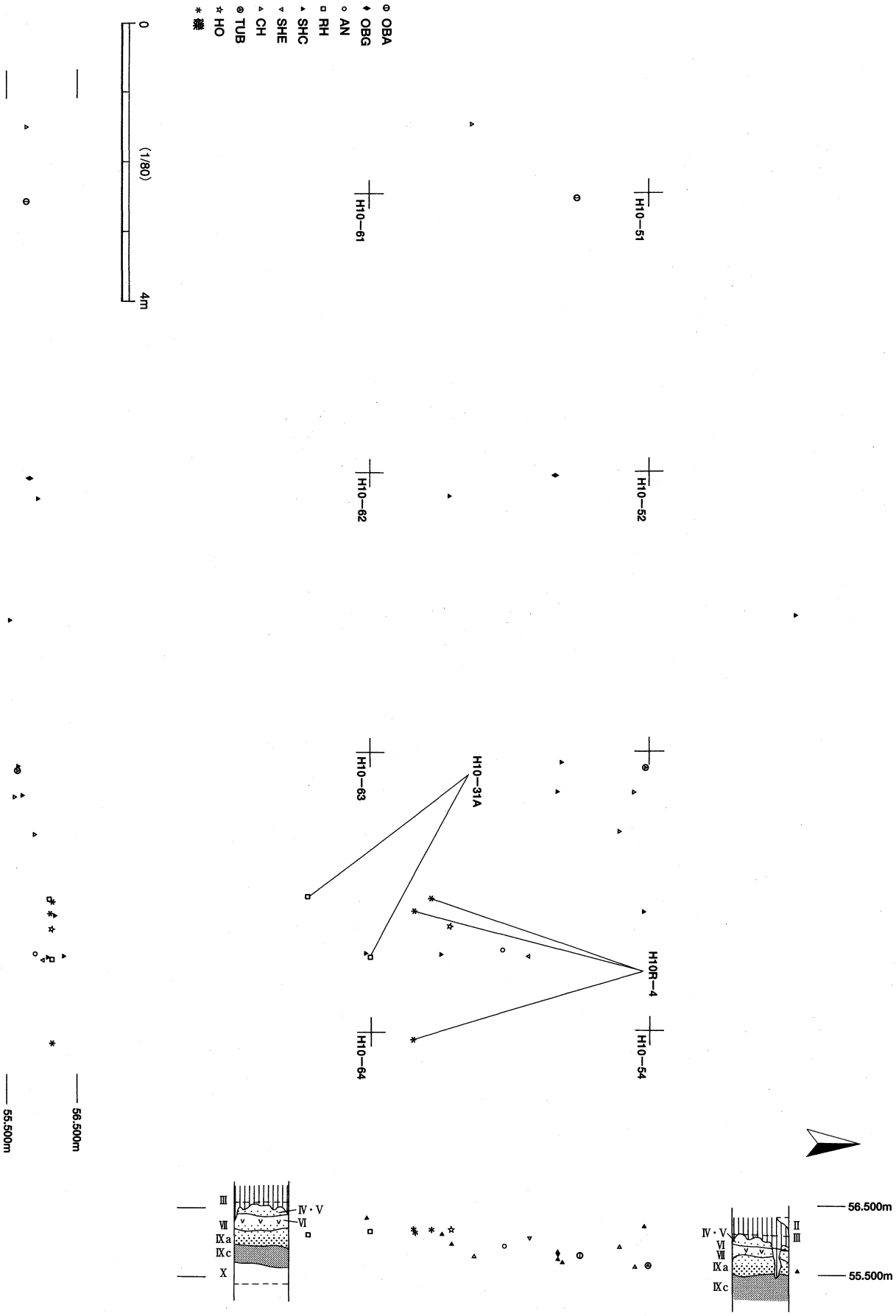
・**H10-25**：黒灰色の黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点（1.7g）の単独資料である。

・**H10-28**：自然面は平滑で灰色（7.5Y6/1）・灰色（10Y5/1）の地に灰黄色（2.5Y7/2）が部分的に混じり，内部は灰色（7.5Y6/1）・灰色（10Y5/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，礫器１点（46.7g）の単独資料である。

・**H10-29**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（N4/0），節理は暗灰黄色（2.5Y5/2）のチャートである。石器群の内訳は，敲石１点（98.5g）の単独資料である。



第173図　H 10- Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第174図　H 10- Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

・**H10-31**：自然面は平滑で灰黄褐色（10YR4/2）・黒褐色（5YR3/1），内部は灰黄褐色（10YR6/2）・にぶい赤褐色（5YR4/3）の流紋岩である。石器群の内訳は，台石２点（１個体;399.3g）である。接合資料は，台石２点（１個体；399.3g）である。

・**H10-32**：自然面は平滑で，自然面及び内部は暗灰色（N3/0），節理はオリーブ灰色（10Y4/2）の頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点（10.7g）の単独資料である。

・**H10-33**：黒灰色の黒曜石である。産地は不明である。石器群の内訳は，剥片１点（1.3g）の単独資料である。

・**H10-34**：自然面は平滑で灰色（7.5Y4/1）の地に灰オリーブ色（7.5Y6/2）が部分的に混じり，内部は灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点（25.3g）の単独資料である。

・**H10-46**：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y6/2），内部は灰白色（5Y7/1）の地に灰白色（5Y8/1）が部分的に混じり，新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。本ブロックでは剥片１点（15.4g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がH10-Ｃブロックに24点，H10-Ｄブロックに２点ある。

・**H10-99**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2）のチャートである。石器群の内訳は，剥片１点（1.8g）の単独資料である。

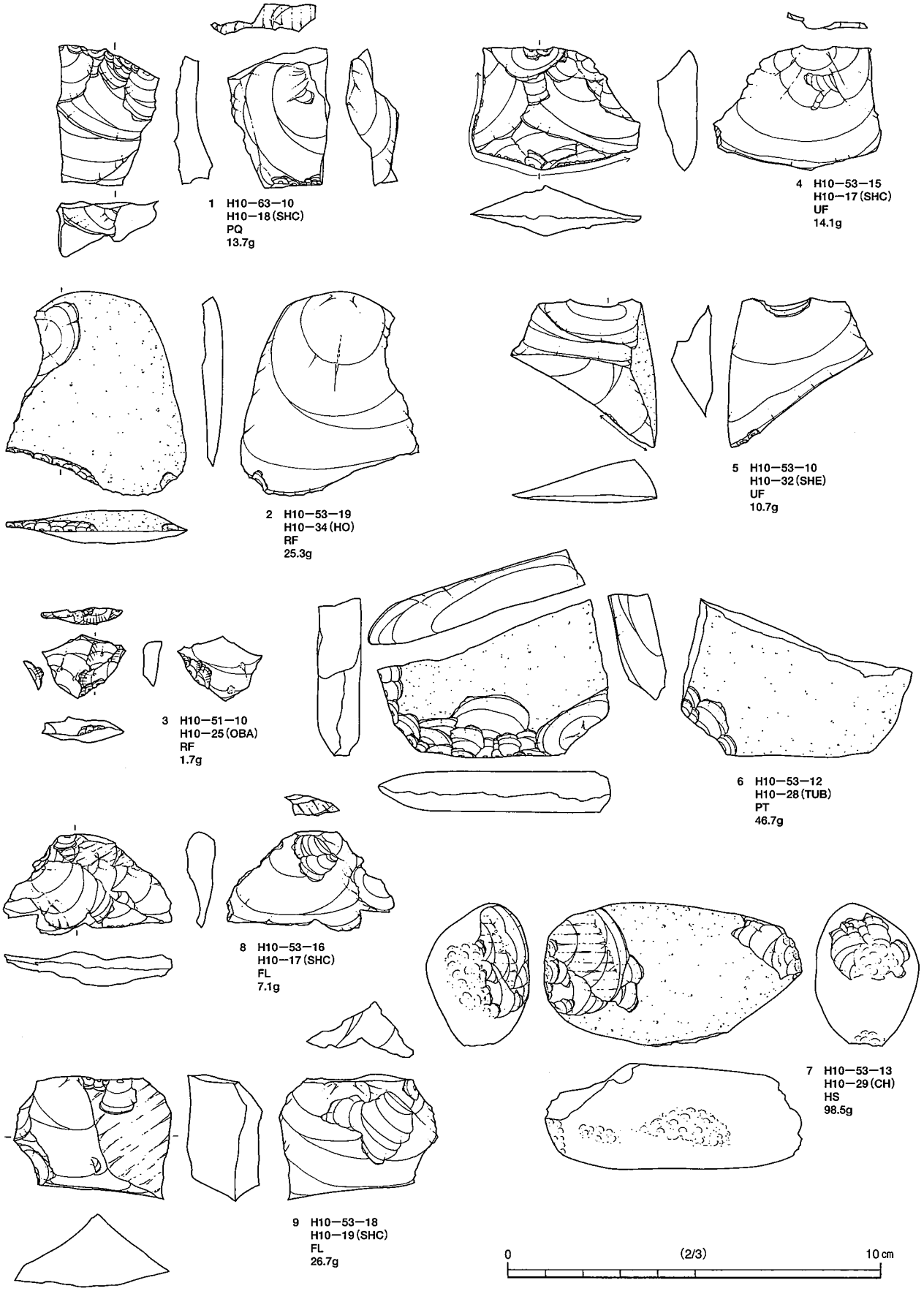
なお，母岩分類できなかった資料に，チャートの剥片２点（6.6g）がある。

第96表　H10-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
H10-17(SHC)											1							1							2
H10-18(SHC)									1																1
H10-19(SHC)																		1							1
H10-20(SHC)																		1							1
H10-21(SHC)																		1							1
H10-23(SHC)																		1							1
H10-25(OBA)										1															1
H10-28(TUB)															1										1
H10-29(CH)																1									1
H10-31(RH)																	2(1)								2(1)
H10-32(SHE)											1														1
H10-33(OBG)																		1							1
H10-34(HO)										1															1
H10-46(AN)																		1							1
H10-99(CH)																		1							1
その他(CH)																		2							2
合　計									1	2	2				1	1	2(1)	10							19(18)

第97表　H10-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石A(OBA)										1															1
黒曜石G(OBG)																		1							1
安山岩(AN)																		1							1
流紋岩(RH)																	2(1)								2(1)
頁岩C(SHC)									1		1							5							7
頁岩E(SHE)											1														1
チャート(CH)																1		3							4
凝灰岩B(TUB)															1										1
ホルンフェルス(HO)										1															1
合　計									1	2	2				1	1	2(1)	10							19(18)



第175図　H 10- Aブロック出土遺物

3）出土遺物（第175図）

1は嶺岡産頁岩による楔形石器である。表面上部と裏面下部に対向する剥離痕が見られる。2はホルンフェルス，3は栃木県高原山産の黒曜石による加工痕ある剥片である。2は末端，3は表面末端の一部と裏面左側縁の一部に細かい調整加工を行っている。4は嶺岡産頁岩，5は頁岩による使用痕ある剥片である。不定型な剥片を素材とし，4は左側縁から末端にかけて，5は両面の末端の一部に刃こぼれが見られる。6は凝灰岩による礫器としたが，打製石斧あるいは局部磨製石斧の可能性が高い。扁平な礫の周辺に調整加工を行っている。出土層位は，後述する7と共に若干低い。7はチャートによる敲石である。細長い礫の短軸の末端と長軸の両端に敲打痕や剥離痕が見られる。8・9嶺岡産頁岩による不定型な剥片である。なお，9の表面の器体中央右側の節理として図示した面は自然面の可能性がある。

第98表　H10-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
H10R-4	CH	3	75.7

石　材	個数	重量
チャート(CH)	3	75.7
合　計	3	75.7

26 H10- Bブロック（第176～181・267図，第99～101表，カラー図版13・14・21，図版9）

1）ブロックの概要

H10- Bブロックは，調査範囲西側のH10-90～92，H11-00～03・11～13グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸13m，短軸10mの範囲に113点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅨc層にかけてで，130cmほどの高低差をもっているが，中心はⅥ層からⅨa層にかけてで，50cmほどの高低差をもって包含されている（第176・177図）。

ブロックは，ナイフ形石器2点，楔形石器4点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片2点（1個体），石刃1点，剥片90点（86個体），砕片1点，石核5点の合計106点（101個体）と礫7点で構成される。石器石材は，黒曜石B 4点，安山岩3点，頁岩C 7点，頁岩E 12点，チャート38点（35個体），粘板岩19点（17個体），砂岩2点，ホルンフェルス21点である。礫石材は，流紋岩2点（1母岩;182.5g），チャート1点（1母岩；31.0g），砂岩4点（3母岩；231.8g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは23母岩を識別した。内訳は，黒曜石B 4母岩（H10-8～10・88），頁岩C 2母岩（H10-13・89），頁岩E 1母岩（H10-92），チャート4母岩（H10-1・4・16・94），粘板岩3母岩（H10-2・3・5），砂岩1母岩（H10-7），ホルンフェルス8母岩（H 10-6・11・12・26・27・90・91・93）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は65%（69/106点）である。

・**H10-1**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1）・灰色（7.5Y5/1）・灰色（7.5Y6/1）・灰白色（7.5Y7/2）・灰オリーブ色（7.5Y5/2）の地に暗灰色（N3/0）が混じり，節理は暗灰黄色（2.5Y5/2）のチャートである。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片16点（15個体），石核1点の合計18点（17個体;175.3g）である。接合資料は，剥片11点（10個体），石核1点の合計12点（11個体;166.0g）である。

・**H10-2**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（N4/0），節理は黄褐色（2.5Y5/3）の粘板岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片2点（1個体），剥片7点（6個体）の合計9点（7個体;54.9g）である。

接合資料は，２グループあり，Ａは使用痕ある剥片２点（１個体；17.6g），Ｂは剥片２点（１個体；7.2g）である。

・**H10-3**：内部は暗灰色（N3/0），節理は灰色（N5/0）の粘板岩である。石器群の内訳は，剥片３点（２個体），石核１点の合計４点（３個体;47.4g）である。接合資料は，剥片３点（２個体），石核１点の合計４点（３個体；47.4g）である。

・**H10-4**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（N4/0）・暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）のチャートである。石器群の内訳は，剥片６点（５個体），石核１点の合計７点（６個体；29.6g）である。接合資料は，剥片２点（１個体；2.6g）である。

・**H10-5**：自然面は平滑で，自然面及び内部は暗灰色（N3/0）の粘板岩である。石器群の内訳は，剥片５点，石核１点の６点（43.8g）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片３点（12.2g），Ｂは剥片１点，石核１点の２点（28.0g）である。

・**H10-6**：自然面は比較的平滑でにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰黄色（2.5Y6/2）の地に黄灰色（2.5Y5/1）が部分的に混じり，節理は灰色（5Y5/1），新鮮な面は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点，石核１点の合計４点（90.0g）である。接合資料は，剥片３点，石核１点の合計４点（90.0g）である。

・**H10-7**：自然面は平滑で灰色（5Y5/1），内部は灰色（5Y5/1）・浅黄色（2.5Y7/3）の砂岩である。本ブロックでは剥片１点（3.7g）の単独資料であるが，H10-Ｃブロックの剥片１点と接合している。

・**H10-8**：薄墨を流したような透明な地に筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点（6.3g）の単独資料である。

・**H10-9**：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点（3.7g）の単独資料である。

・**H10-10**：薄墨を流したような透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点（10.2g）の単独資料である。

・**H10-11**：自然面は紙ヤスリ状で灰色（10Y4/1），内部は灰色（10Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点（24.4g）の単独資料である。

・**H10-12**：内部は黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点（5.4g）の単独資料である。

・**H10-13**：灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（2.3g）の単独資料である。

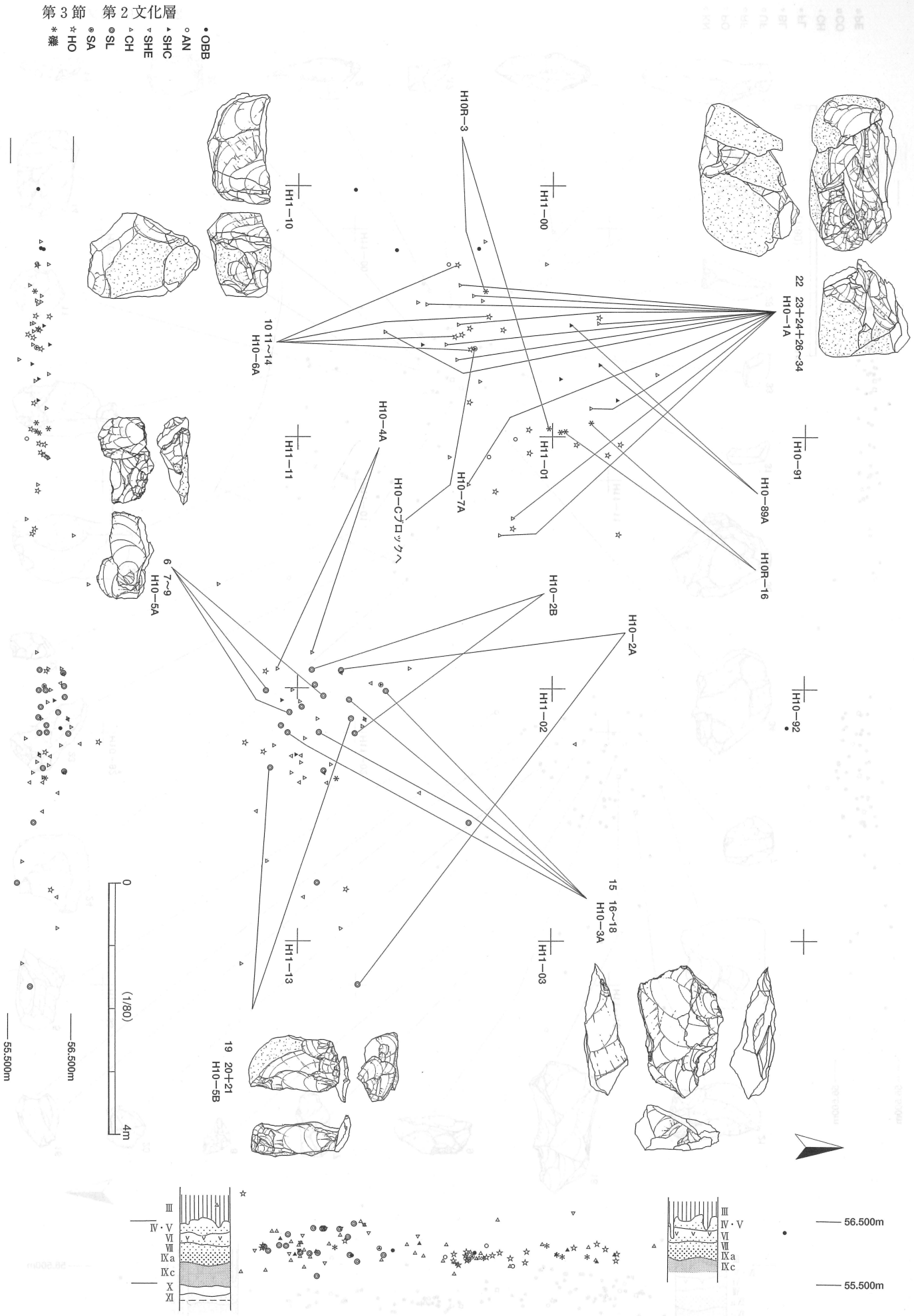
・**H10-16**：オリーブ灰色（10Y5/2）のチャートである。石器群の内訳は，剥片１点（3.8g）の単独資料である。

・**H10-26**：自然面は平滑で灰色（7.5Y5/1）・灰オリーブ色（7.5Y6/2），内部は灰色（7.5Y5/1）・灰オリーブ色（7.5Y6/2）の地ににぶい黄褐色（10YR4/3）が部分的に混じるホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点（47.8g）の単独資料である。

・**H10-27**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点（9.0g）の単独資料である。

・**H10-88**：黒灰色半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片１点（4.1g）の単独資料である。

第176図　H 10- Bブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第177図　Ｈ10-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・**H10-89**：自然面は比較的平滑でにぶい褐色（7.5YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰色（5Y5/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点（82.9g）である。接合資料は，剥片２点（17.9g）である。

・**H10-90**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（N4/0）・オリーブ灰色（2.5GY5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点（73.0g）の単独資料である。

第99表　H10-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
H10-1(CH)									1									16(15)		1					18(17)
H10-2(SL)											2(1)							7(6)							9(7)
H10-3(SL)																		3(2)		1					4(3)
H10-4(CH)																		6(5)		1					7(6)
H10-5(SL)																		5		1					6
H10-6(HO)																		3		1					4
H10-7(SA)																		1							1
H10-8(OBB)	1																								1
H10-9(OBB)	1																								1
H10-10(OBB)												1													1
H10-11(HO)																		1							1
H10-12(HO)																		1							1
H10-13(SHC)																		1							1
H10-16(CH)																		1							1
H10-26(HO)																		1							1
H10-27(HO)																		1							1
H10-88(OBB)																		1							1
H10-89(SHC)																		4							4
H10-90(HO)																		1							1
H10-91(HO)									1																1
H10-92(SHE)									1																1
H10-93(HO)									1									1							2
H10-94(CH)																		1							1
その他(AN)																		3							3
その他(SHC)										1								1							2
その他(SHE)																		11							11
その他(CH)																		10	1						11
その他(SA)																		1							1
その他(HO)																		9							9
合　計	2								4	1	2(1)	1						90(86)	1	5					106(101)

第100表　H10-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)	2											1						1							4
安山岩(AN)																		3							3
頁岩C(SHC)										1								6							7
頁岩E(SHE)									1									11							12
チャート(CH)									1									34(31)	1	2					38(35)
粘板岩(SL)											2(1)							15(14)		2					19(17)
砂岩(SA)																		2							2
ホルンフェルス(HO)									2									18		1					21
合　計	2								4	1	2(1)	1						90(86)	1	5					106(101)

第101表　H10-Bブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
H10R-1	SA	1	54.4
H10R-2	CH	1	31.0
H10R-3	SA	2	19.4
H10R-15	SA	1	158.0
H10R-16	RH	2	182.5

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	2	182.5
チャート(CH)	1	31.0
砂岩(SA)	4	231.8
合　計	7	445.3

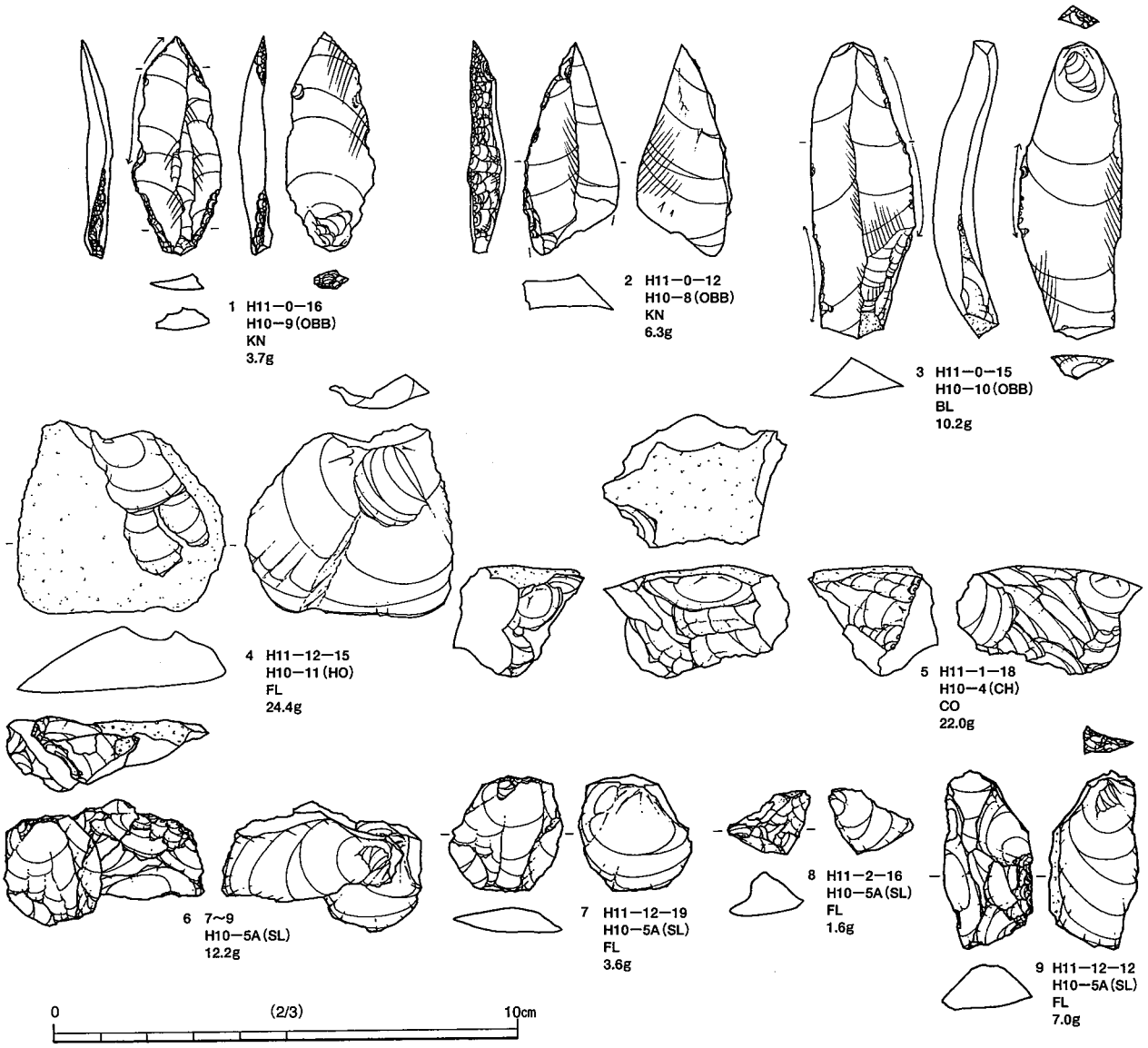
・**H10-91**：灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，楔形石器1点（9.6g）の単独資料である。

・**H10-92**：オリーブ黄色（5Y6/3）の頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器1点（0.5g）の単独資料である。

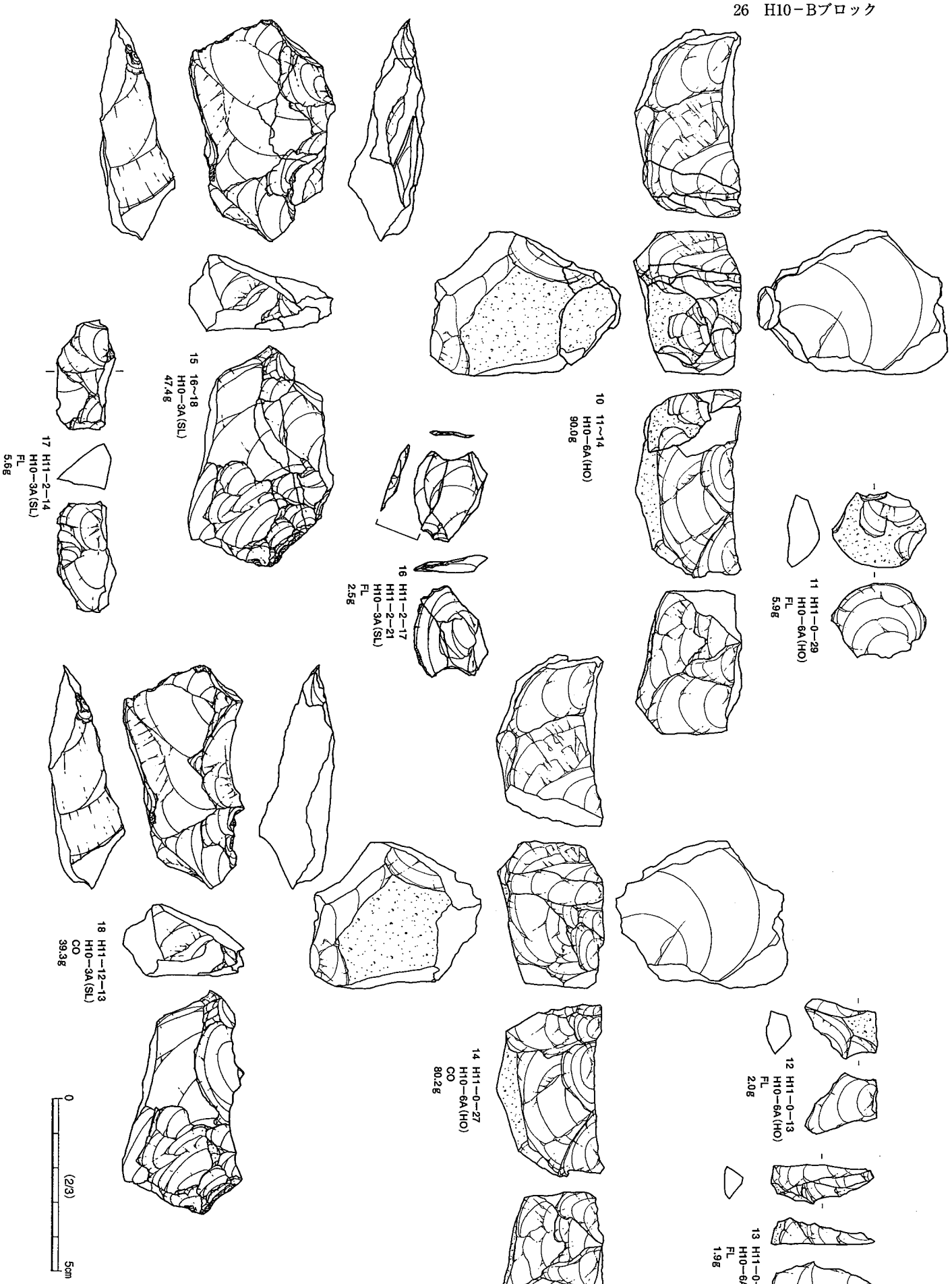
・**H10-93**：灰色（7.5Y4/1）ホルンフェルスである。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（8.9g）である。

・**H10-94**：暗緑灰色（7.5GY4/1）のチャートである。石器群の内訳は，剥片1点（1.3g）の単独資料である。

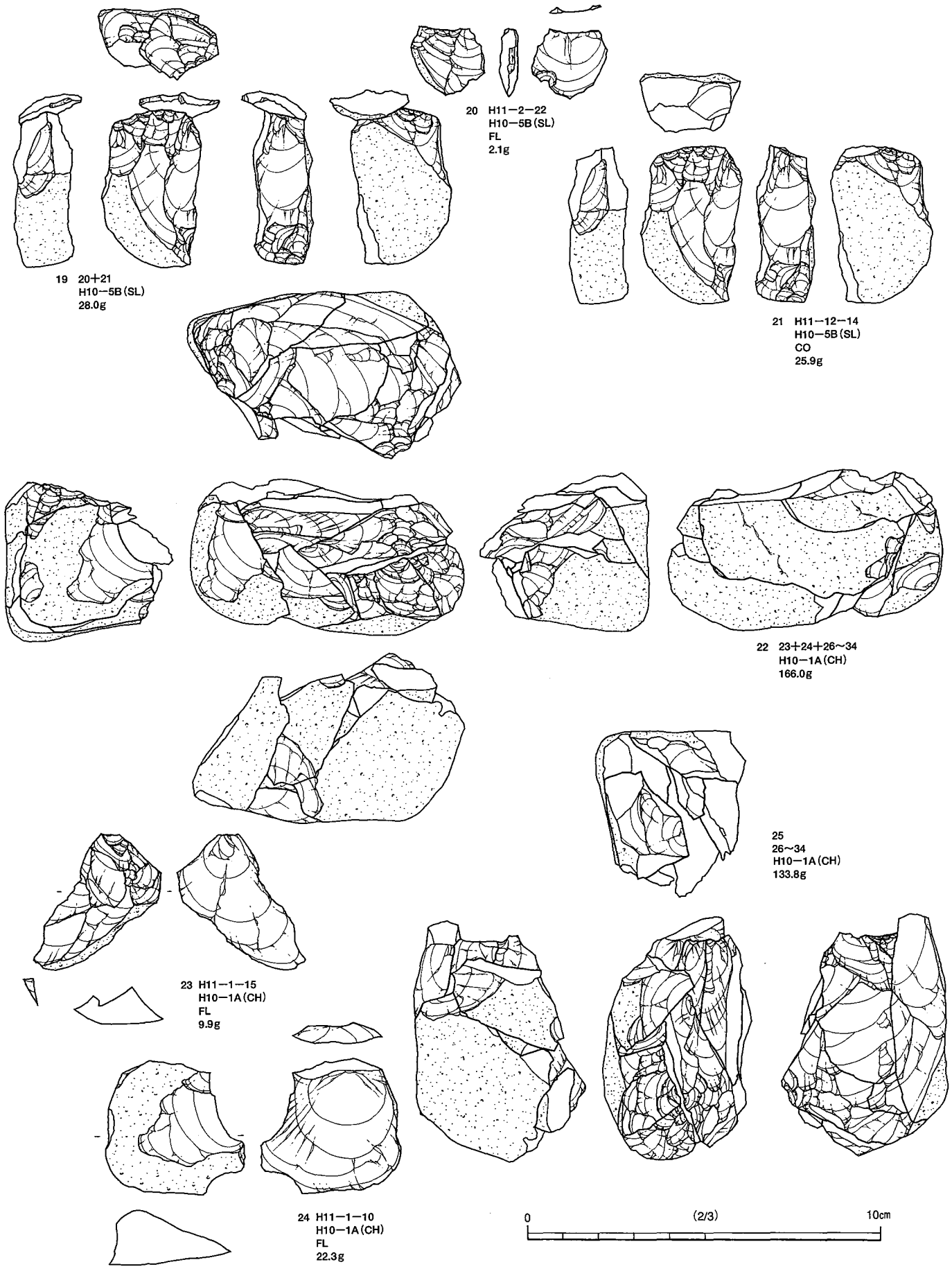
なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片3点（5.8g），頁岩Cの加工痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（12.5g），頁岩Eの剥片11点（5.2g），チャートの剥片10点，砕片1点の合計11点（19.8g），砂岩の剥片1点（1.7g），ホルンフェルスの剥片9点（11.8g）がある。



第178図　H 10- Bブロック出土遺物（1）



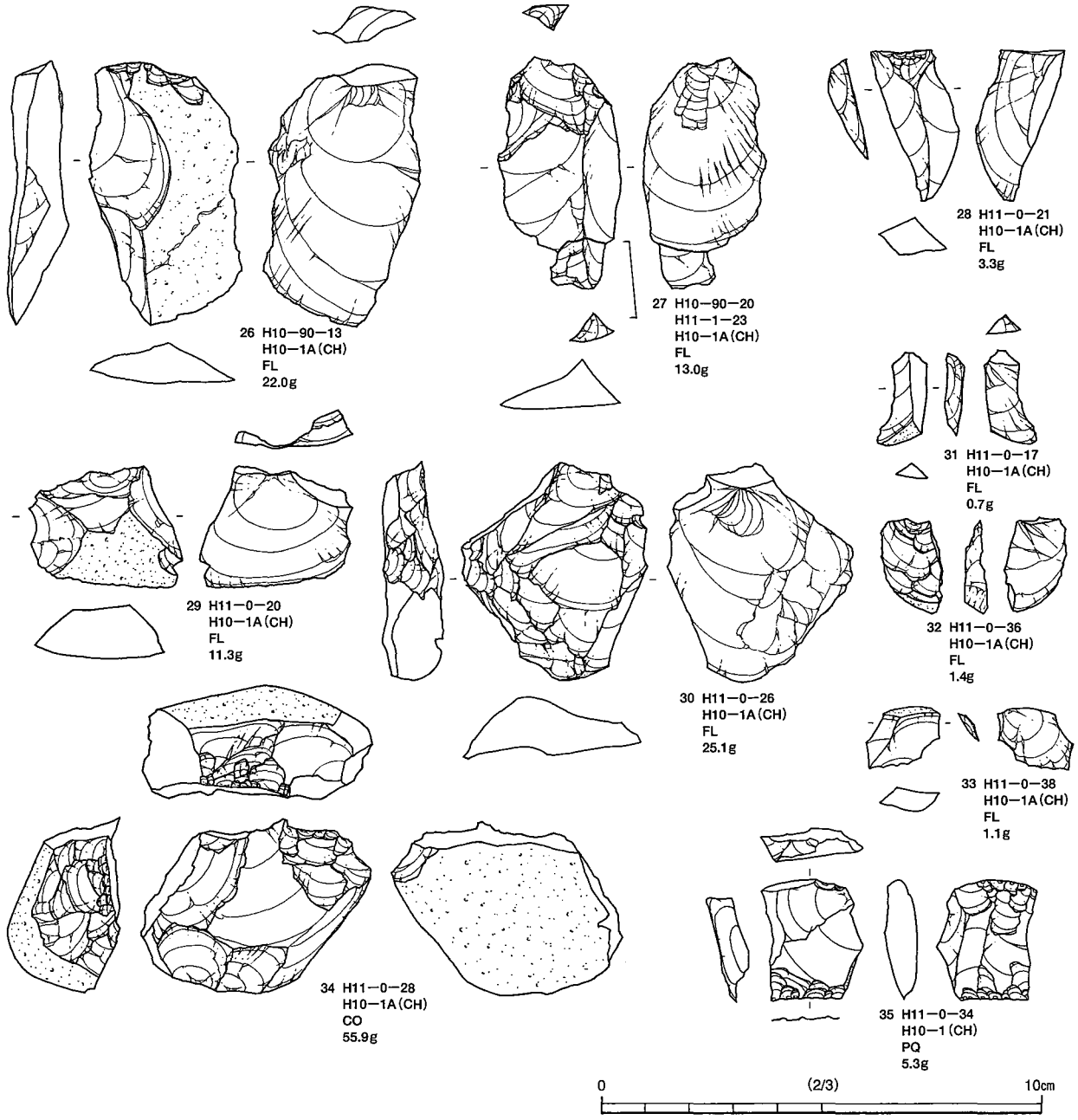
第179図　H 10- Bブロック出土遺物（2）



第180図　H 10- Bブロック出土遺物（３）

3）出土遺物（第178図）

1・2は信州和田峠周辺産の黒曜石によるナイフ形石器である。1は石刃の打面部を基部としている。基部と右側縁上部に調整加工を行っており，左側縁に刃こぼれが見られる。基部加工のナイフ形石器である。2は石刃の打面部を基部としている。左側縁に調整加工が見られるが，下半部が欠損するため，形態は不明である。3は信州和田峠周辺産の黒曜石による石刃である。表面両側縁と裏面左側縁に刃こぼれが見られる。4はホルンフェルスによる不定型な剥片である。5はチャートによる石核である。頻繁に打面転移を行いながら，不定型な剥片を剥離しているが，右側面に平坦な剥離面を打面として，細石刃状の作業面が見られる。



第181図　H 10- Bブロック出土遺物（4）

4）接合資料とその関連資料（第178～181図）

・H10-5（第178・180図）　暗灰色（N3/0）の粘板岩である。剥片5点，石核1点ので構成される。接合資料は，2グループある。A（6）は剥片3点（7～9）の接合資料である。90度の打面転移を行いながら，不定型な剥片を剥離している。B（19）は剥片1点（20），石核1点（21）の接合資料である。細かい打面調整を行いながら，剥片を剥離している。20は打面調整剥片である。

・H10-6（第179図）　灰黄色（2.5Y6/2）などのホルンフェルスである。剥片3点,石核1点で構成される。10は剥片3点（11～13），石核1点（14）の接合資料である。素材の主要剥離面を打面として，不定型な剥片を剥離している。

・H10-3（第179図）　暗灰色（N3/0）などの粘板岩である。剥片3点（2個体),石核1点で構成される。15は剥片3点（2個体；16・17），石核1点（18）の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。16は2点が接合して1個体となる。

・H10-1（第180･181図）　灰色（7.5Y4/1）などのチャートである。楔形石器1点，剥片16点（15個体），石核1点で構成される。22は剥片11点（10個体；23・24・26～33），石核1点（34）の接合資料である。小振りで不定型な礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。27は2点が接合して1個体となる。35は接合しなかった同一母岩の楔形石器である。両面の両端に対向する剥離痕が見られる。

27　H10-Cブロック（第182～185・267図，第102～104表，カラー図版14・21，図版9）

1）ブロックの概要

H10-Cブロックは，調査範囲西側のH11-07・14～17・23～26・33グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸19m，短軸7mの範囲に132点の石器・礫が分布する。出土層位は，調査時の所見によればⅥ層からⅦ層にかけてで，140cmほどの高低差をもって包含されている（第182・183図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，楔形石器6点，加工痕ある剥片1点，敲石1点，剥片89点（87個体），砕片12点，石核4点の合計114点（112個体）と礫18点で構成される。石器石材は，黒曜石B 10点，黒曜石G 9点，安山岩32点，流紋岩1点，頁岩C 16点，頁岩D 3点，頁岩E 5点，チャート22点，砂岩12点（10個体），瑪瑙・玉髄4点である。礫石材は，流紋岩2点（2母岩；224.9g），チャート6点（4母岩;982.6g），砂岩8点（2母岩;523.3g），識別できなかったチャート1点（2.5g），砂岩1点（2.0g）で，識別率は89%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは24母岩を識別した。内訳は、黒曜石B 1母岩（H10-42），黒曜石G 2母岩（H10-43・102），安山岩3母岩（H10-44～46），流紋岩1母岩（H10-96），頁岩C 2母岩（H10-39・51），頁岩D 3母岩（H10-98・104・105），チャート8母岩（H 10-15・35～38・95・97・103），砂岩3母岩（H10-7・30・41），瑪瑙･玉髄1母岩（H10-40）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は82%（94/114点）である。

・H10-7：灰色（5Y5/1）などの砂岩である。母岩の特徴はH10-Bブロックに記したとおりである。本ブ

ロックでは剥片１点（7.0g）の単独資料であるが，H10- Bブロックの剥片１点と接合している。

・**H10-15**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y4/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）のチャートである。石器群の内訳は，剥片１点（7.5g）の単独資料である。

・**H10-30**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y5/1）の地に黄褐色（10YR5/6）の鉄分が混じり，節理は灰褐色（5YR4/2）の砂岩である。石器群の内訳は，敲石１点（47.6g）の単独資料である。

・**H10-35**：自然面は平滑で灰色（7.5Y4/1），節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）の資料，自然面は平滑で黒褐色（5YR3/1）の地に暗灰色（N3/0）の筋が入り，内部は灰オリーブ色（5Y5/2）や灰色（N4/0）の地に暗灰色（N3/0）の筋が入る資料など母岩内での変異があるチャートである。石器群の内訳は，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片６点，石核１点の合計９点（343.3g）である。接合資料は，加工痕ある剥片１点，剥片２点，石核１点の合計４点（315.6g）である。

・**H10-36**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1）のチャートである。石器群の内訳は，楔形石器２点，剥片１点の合計３点（7.9g）である。接合資料は，楔形石器２点，剥片１点の合計３点（7.9g）あり，その内の楔形石器１点がH10- Dブロックの楔形石器１点と接合して１個体となる。

・**H10-37**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の地に灰色（N4/0）の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，剥片１点（11.3g）の単独資料である。

・**H10-38**：暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）の地に褐色（10YR4/4）の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，石核１点（7.9g）の単独資料である。

・**H10-39**：自然面は平滑で褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器２点，剥片12点の合計14点（39.9g）である。接合資料は，楔形石器１点，剥片３点の合計４点（26.9g）である。

・**H10-40**：自然面は比較的平滑で明黄褐色（10YR7/6），内部は褐灰色（10YR5/1）の地に淡黄色（2.5Y8/3）の点紋が入る瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，石核１点（6.1g）の単独資料である。

・**H10-41**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2）の地に灰白色（2.5Y8/2）・オリーブ褐色（2.5Y4/4）・黒褐色（2.5Y3/1）が部分的に混じる砂岩である。石器群の内訳は，剥片６点（４個体），石核１点の合計７点（５個体；213.7g）である。接合資料は，２グループあり，Aは剥片４点（２個体；30.7g），Bは剥片２点（125.9g）である。

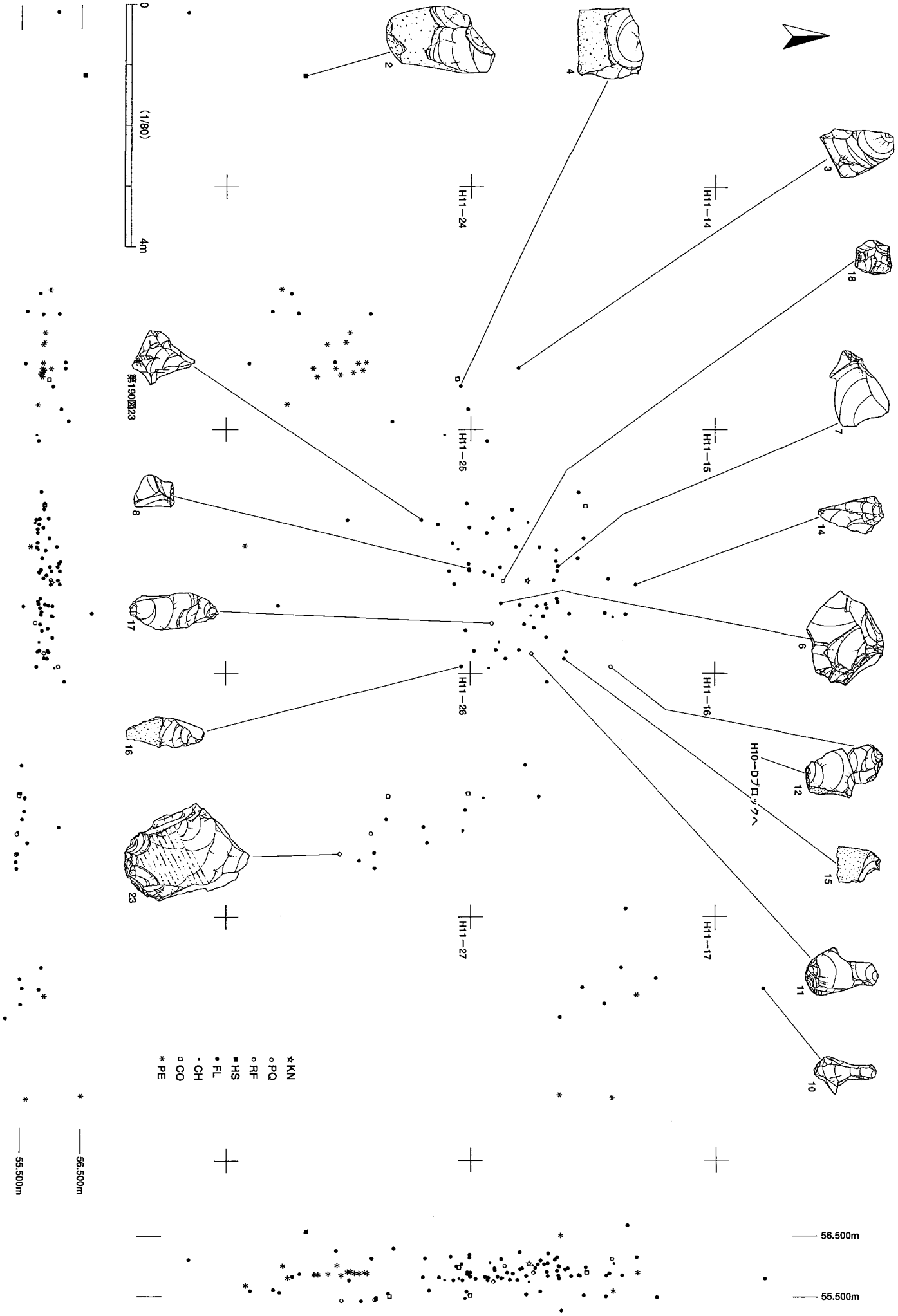
・**H10-42**：薄墨を流したような透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片４点，砕片５点の合計10点（1.3g）である。

・**H10-43**：黒褐灰色半透明な黒曜石である。産地は不明である。石器群の内訳は，剥片３点，砕片４点の合計７点（1.9g）である。

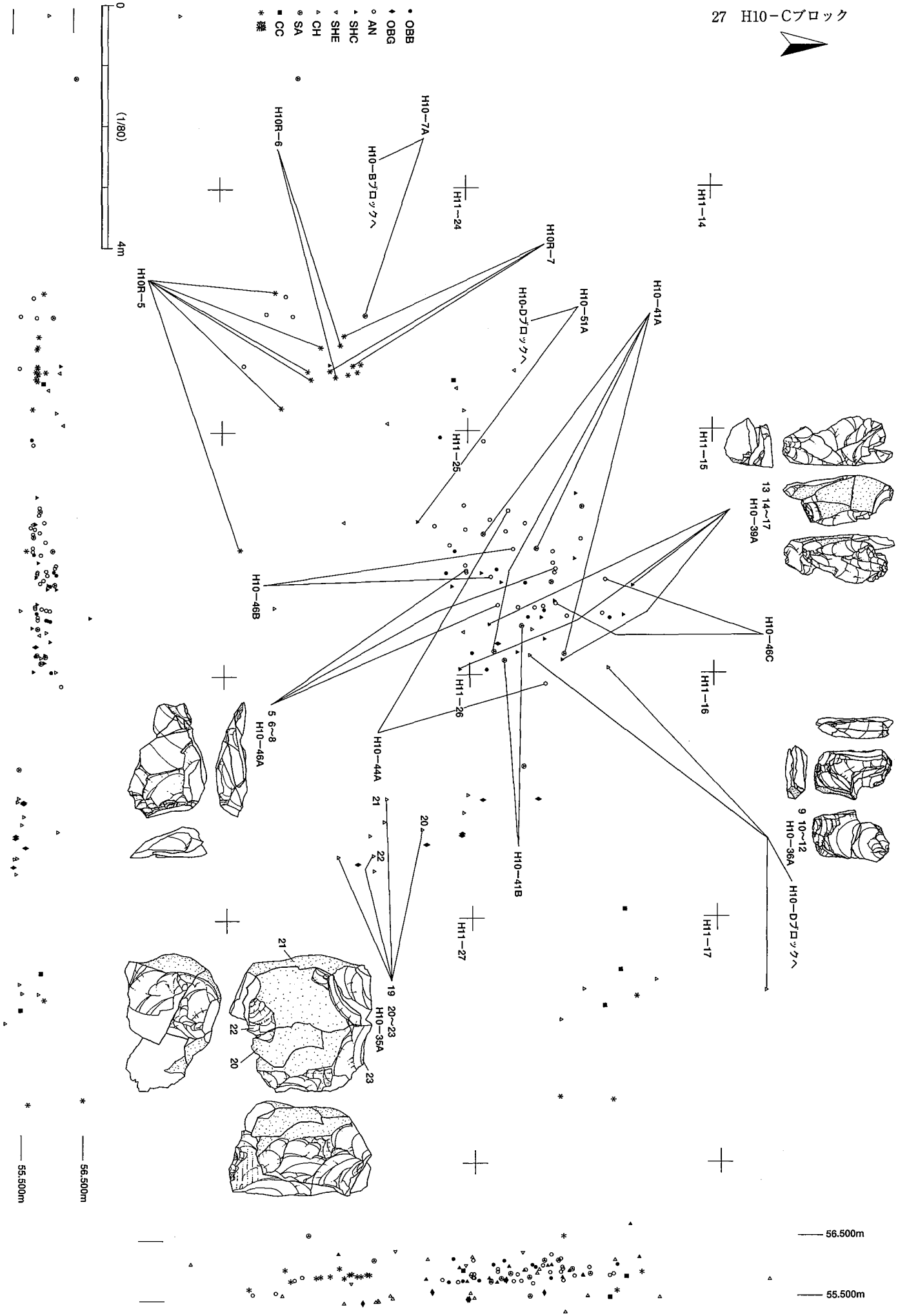
・**H10-44**：内部は灰色（N4/0），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（26.3g）である。接合資料は，剥片２点（26.3g）である。

・**H10-45**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（5.8g）である。

・**H10-46**：灰白色（5Y7/1）などの安山岩である。母岩の特徴はH10- Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片24点（59.7g）である。接合資料は，３グループあり，Aは剥片３点（22.1g），Bは剥片２点（3.6g），Cは剥片２点（9.3g）である。その他に同一母岩がH10- Aブロックに１点，H10- D



第182図　H 10- Cブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第183図　H 10- Cブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

ブロックに2点ある。

・**H10-51**：灰オリーブ色（5Y5/2）・にぶい褐色（7.5YR5/4）の地に褐色（7.5YR4/4）が部分的にまじる嶺岡産頁岩である。本ブロックでは剥片1点（3.4g）の単独資料であるが，H10-Dブロックの加工痕ある剥片2点（1個体），剥片1点の合計3点（2個体）と接合している。その他に同一母岩がH10-Dブロックに2点ある。

・**H10-95**：自然面は比較的平滑で灰褐色（7.5YR4/2），内部はにぶい褐色（7.5YR5/3）の地に灰褐色（7.5YR4/2）・にぶい赤褐色（2.5YR4/4）が部分的に混じるチャートである。石器群の内訳は，剥片1点（10.6g）の単独資料である。

・**H10-96**：自然面は平滑でにぶい橙色（7.5YR6/4），内部は黄灰色（2.5Y6/1）・明緑灰色（10GY7/1）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の地に灰褐色（7.5YR4/2）の点紋が入る流紋岩である。石器群の内訳は，剥片1点（6.9g）の単独資料である。

・**H10-97**：暗灰黄色（2.5Y5/2）の地に暗灰色（N3/0）の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，剥片1点（3.2g）の単独資料である。

・**H10-98**：自然面は平滑でオリーブ黒色（7.5Y3/1），内部は灰色（7.5Y4/1）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器1点（6.4g）の単独資料である。

・**H10-102**：透明な地に黒灰色の筋状のもやが入る黒曜石である。産地は不明である。石器群の内訳は，砕片2点（0.6g）である。

・**H10-103**：自然面は平滑で灰オリーブ色（7.5Y5/2）の地に浅黄橙色（10YR8/4）の筋が入り，内部は灰色（7.5Y4/1）の地に浅黄橙色（10YR8/4）の筋が入り，節理はにぶい黄橙色（10YR6/3）のチャートである。石器群の内訳は，剥片1点（3.7g）の単独資料である。

・**H10-104**：褐色（7.5YR4/3）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（0.4g）の単独資料である。

・**H10-105**：暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y6/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（1.8g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片3点，砕片1点の合計4点（8.8g），頁岩Cの剥片1点（0.2g），頁岩Eの剥片5点（31.3g），チャートの剥片4点（5.4g），砂岩の剥片3点（8.3g），瑪瑙・玉髄の剥片3点（5.2g）がある。

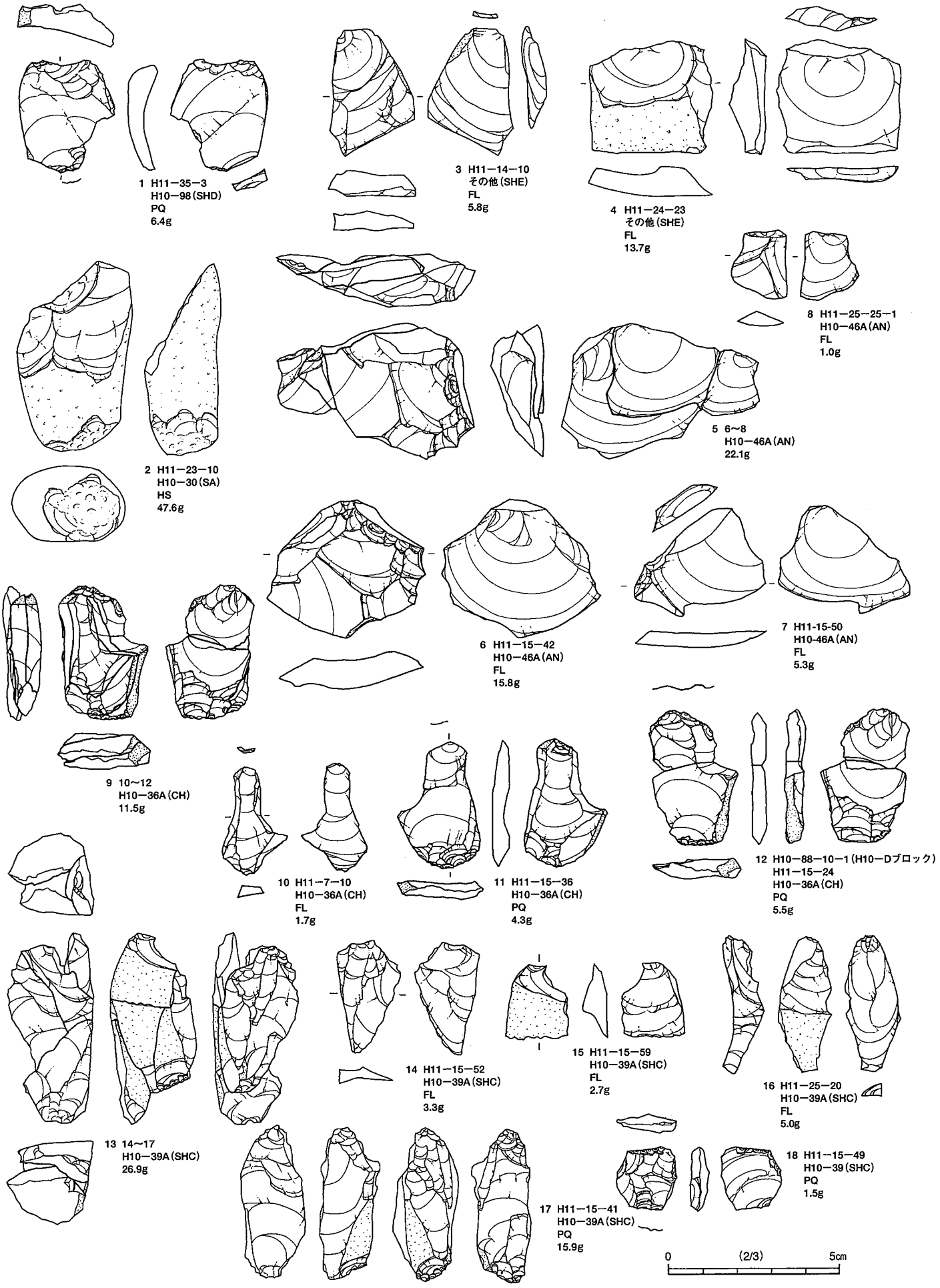
3）出土遺物（第184図）

1は硬質緻密な頁岩による楔形石器である。両端に対向する剥離痕が見られる。2は砂岩による敲石である。上部が欠損するが，下端部に敲打痕が見られる。3・4は頁岩による不定型な剥片である。

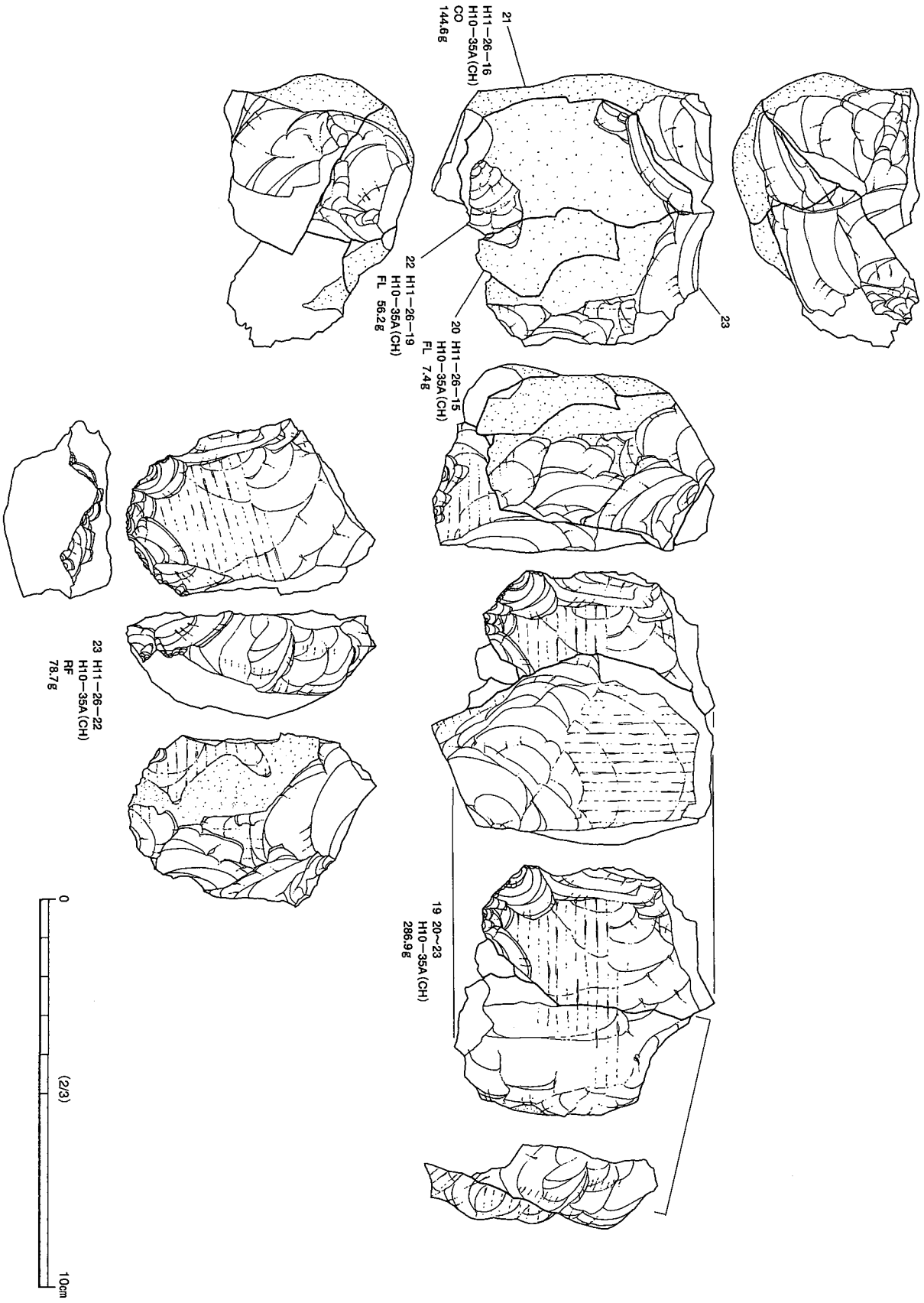
4）接合資料とその関連資料（第184・185図）

・**H10-46（第184図）**　灰白色（5Y7/1）などの安山岩である。剥片27点で構成される。接合資料は，3グループある。A（5）は剥片3点（6～8）の接合資料である。6の表面には打撃軸に直交する剥離痕が見られる。

・**H10-36（第184図）**　灰色（7.5Y4/1）のチャートである。楔形石器3点（2個体），剥片1点の合計4点（3個体）で構成される。9は楔形石器3点（2個体；11・12），剥片1点（10）の接合資料で，その内の楔形石器1点がH10-Dブロックの楔形石器1点と接合して1個体となる。11・12は両端に対向する剥離痕が見られる。



第184図　H 10- Cブロック出土遺物（1）



第185図　H 10- Cブロック出土遺物（2）

第102表　H10-Cブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
H10-7(SA)																		1							1
H10-15(CH)																		1							1
H10-30(SA)																1									1
H10-35(CH)									1	1								6		1					9
H10-36(CH)									2									1							3
H10-37(CH)																		1							1
H10-38(CH)																				1					1
H10-39(SHC)									2									12							14
H10-40(CC)																				1					1
H10-41(SA)																		6(4)		1					7(5)
H10-42(OBB)	1																	4	5						10
H10-43(OBG)																		3	4						7
H10-44(AN)																		2							2
H10-45(AN)																		2							2
H10-46(AN)																		24							24
H10-51(SHC)																		1							1
H10-95(CH)																		1							1
H10-96(RH)																		1							1
H10-97(CH)																		1							1
H10-98(SHD)									1																1
H10-102(OBG)																			2						2
H10-103(CH)																		1							1
H10-104(SHD)																		1							1
H10-105(SHD)																		1							1
その他(AN)																		3	1						4
その他(SHC)																		1							1
その他(SHE)																		5							5
その他(CH)																		4							4
その他(SA)																		3							3
その他(CC)																		3							3
合　計	1								6	1						1		89(87)	12	4					114(112)

第103表　H10-Cブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)	1																	4	5						10
黒曜石G(OBG)																		3	6						9
安山岩(AN)																		31	1						32
流紋岩(RH)																		1							1
頁岩C(SHC)									2									14							16
頁岩D(SHD)									1									2							3
頁岩E(SHE)																		5							5
チャート(CH)									3	1								16		2					22
砂岩(SA)																1		10(8)		1					12(10)
瑪瑙・玉髄(CC)																		3		1					4
合　計	1								6	1						1		89(87)	12	4					114(112)

第104表　H10-Cブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
H10R-5	SA	6	192.9
H10R-6	SA	2	330.4
H10R-7	CH	3	260.1
H10R-8	CH	1	390.2
H10R-9	CH	1	290.9
H10R-10	CH	1	41.4
H10R-11	RH	1	197.1
H10R-12	RH	1	27.8
その他	CH	1	2.5
その他	SA	1	2.0

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	2	224.9
チャート(CH)	7	985.1
砂岩(SA)	9	525.3
合　計	18	1735.3

・**H10-39（第184図）** 灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。楔形石器2点，剥片12点で構成される。13は楔形石器1点（17），剥片3点（14～16）の接合資料である。13は両端に対向する剥離痕が見られる。18は接合しなかった同一母岩の楔形石器である。両面の両端と表面右側縁・裏面右側縁にそれぞれ対向する剥離痕が見られる。

・**H10-35（第185図）** 灰オリーブ色（5Y5/2）などのチャートである。石器群の内訳は，楔形石器1点，加工痕ある剥片1点，剥片6点，石核1点の合計9点（343.3g）である。19は加工痕ある剥片1点（23），剥片2点（20・22），石核1点（21）の接合資料である。20・22・23は同時に塊状に剥離した剥片で，23は末端に調整加工を行っているが，石核の可能性もある。

28 H10-Dブロック（第186～191・267図，第105～107表，カラー図版14・15・21，図版10）

1）ブロックの概要

H10-Dブロックは，調査範囲西側のH10-48・58・59・67～69・75～79・85～89・99，H11-08・09，I10-42・43・52・53・61～63・71・72・80・90グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は25mである。

ブロックの規模と形状は，長軸34m，短軸21mの範囲に258点の石器・礫が分布する。出土層位は，調査時の所見によればⅥ層からⅦ層にかけてで，140cmほどの高低差をもって包含されている（第186・187図）。

ブロックは，掻器3点，楔形石器16点（13個体），加工痕ある剥片5点（3個体），使用痕ある剥片1点，石刃2点，敲石1点，台石7点（1個体），剥片185点（183個体），砕片17点，石核16点（15個体），原石1点の合計254点（240個体）と礫4点で構成される。石器石材は，黒曜石F 2点，黒曜石G 2点，安山岩58点，頁岩A 2点，頁岩C 54点（52個体），頁岩D 5点，頁岩E 18点，チャート33点（29個体），凝灰岩A 8点，凝灰岩B 4点（2個体），砂岩28点（22個体），ホルンフェルス27点，瑪瑙・玉髄13点である。礫石材は，砂岩3点（2母岩；165.0g），識別できなかったチャート1点（1.6g）で，識別率は75%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは48母岩を識別した。内訳は，黒曜石F 1母岩（H10-82），安山岩7母岩（H10-46・83～87・100），頁岩A 2母岩（H10-65・66），頁岩C 9母岩（H10-22・24・51～55・58・59），頁岩D 2母岩（H10-57・68），頁岩E 4母岩（H10-61・64・67・69），チャート7母岩（H-14・36・47～50・56），凝灰岩A 2母岩（H10-60・70），凝灰岩B 1母岩（H10-71），砂岩4母岩（H10-62・63・76・77），ホルンフェルス5母岩（H10-72～75・101），瑪瑙・玉髄4母岩（H10-78～81）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は69%（174/254点）である。

・**H10-14**：自然面は平滑で，自然面及び内部は暗灰色（N3/0）の地に灰色（7.5Y6/1）が帯状に入り，節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）のチャートである。石器群の内訳は，楔形石器1点（29.9g）の単独資料である。

・**H10-22**：自然面は平滑で，自然面及び内部はにぶい黄褐色（10YR5/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（11.4g）の単独資料である。

・**H10-24**：自然面は爪形の裂痕が密で灰色（5Y4/1），内部は灰色（5Y4/1）の地ににぶい褐色（7.5YR5/4）

が部分的に混じり，節理はにぶい褐色（7.5YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（7.0g）の単独資料である。

・**H10-36**：灰色（7.5Y4//1）のチャートである。母岩の特徴はH10-Cブロックに記したとおりである。本ブロックでは楔形石器1点（3.6g）の単独資料であるが，H10-Cブロックの楔形石器1点と接合して1個体となり，さらにH10-Cブロックの楔形石器1点，剥片1点と接合している。

・**H10-46**：灰白色（5Y7/1）などの安山岩である。母岩の特徴はH10-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片2点（17.7g）である。その他に同一母岩がH10-Aブロックに1点，H10-Cブロックに24点ある。

・**H10-47**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1）・オリーブ黄色（5Y6/3），節理は灰褐色（5YR4/2）のチャートである。石器群の内訳は，楔形石器7点（4個体），剥片3点，砕片1点の合計11点（8個体；19.3g）である。接合資料は，2グループあり，Aは楔形石器6点（3個体），剥片2点の合計8点（5個体；15.4g），Bは楔形石器が1点，剥片1点の合計2点（3.8g）である。

・**H10-48**：自然面は爪形の裂痕が粗でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は緑灰色（5G5/1）・暗灰色（N3/0）の地ににぶい赤褐色（2.5YR4/4）が混じり，節理は灰オリーブ色（7.5Y5/2）のチャートである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片2点（1個体），使用痕ある剥片1点の合計3点（2個体；23.0g）である。接合資料は，加工痕ある剥片2点（1個体；3.3g）である。

・**H10-49**：自然面は平滑で灰色（5Y5/1）・にぶい赤褐色（5YR5/3）・灰白色（5Y7/2），内部・節理は褐色（10YR5/1）の地ににぶい褐色（7.5YR5/3）が混じる灰色（5Y5/1）のチャートである。石器群の内訳は，石核1点（100.7g）の単独資料である。

・**H10-50**：自然面は平滑で灰色（7.5Y4/1），内部は灰色（N4/0），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4）のチャートである。石器群の内訳は，石核1点（40.8g）の単独資料である。

・**H10-51**：灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。母岩の特徴はH10-Cブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片2点（1個体），剥片3点の合計5点（4個体；42.5g）である。接合資料は，加工痕ある剥片2点（1個体），剥片1点の合計3点（2個体；33.2g）が，H10-Cブロックの剥片1点と接合している。

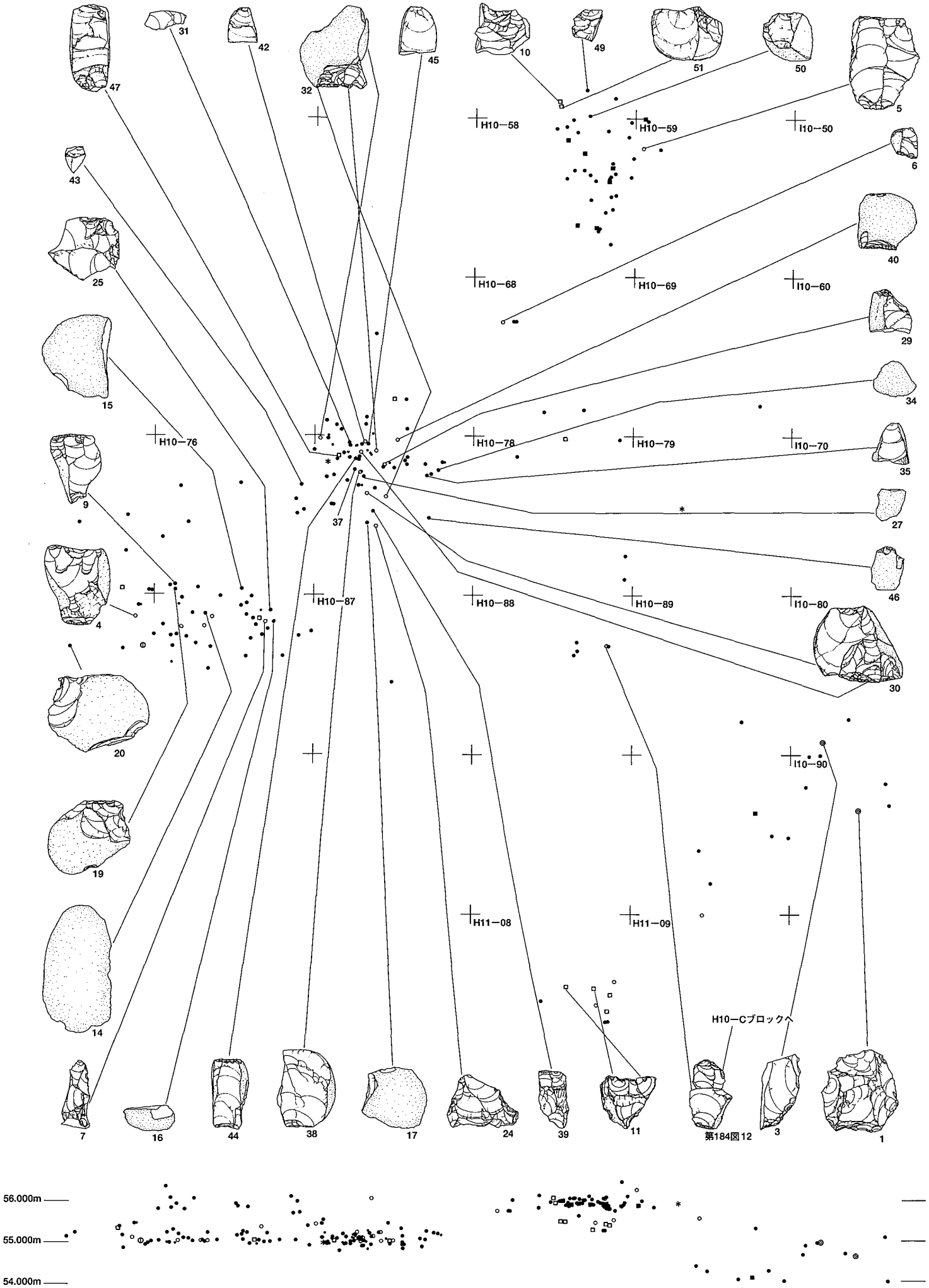
・**H10-52**：自然面は平滑で黒褐色（2.5Y3/2），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（141.0g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（141.0g）である。

・**H10-53**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片3点の合計4点（40.6g）である。接合資料は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（4.3g）である

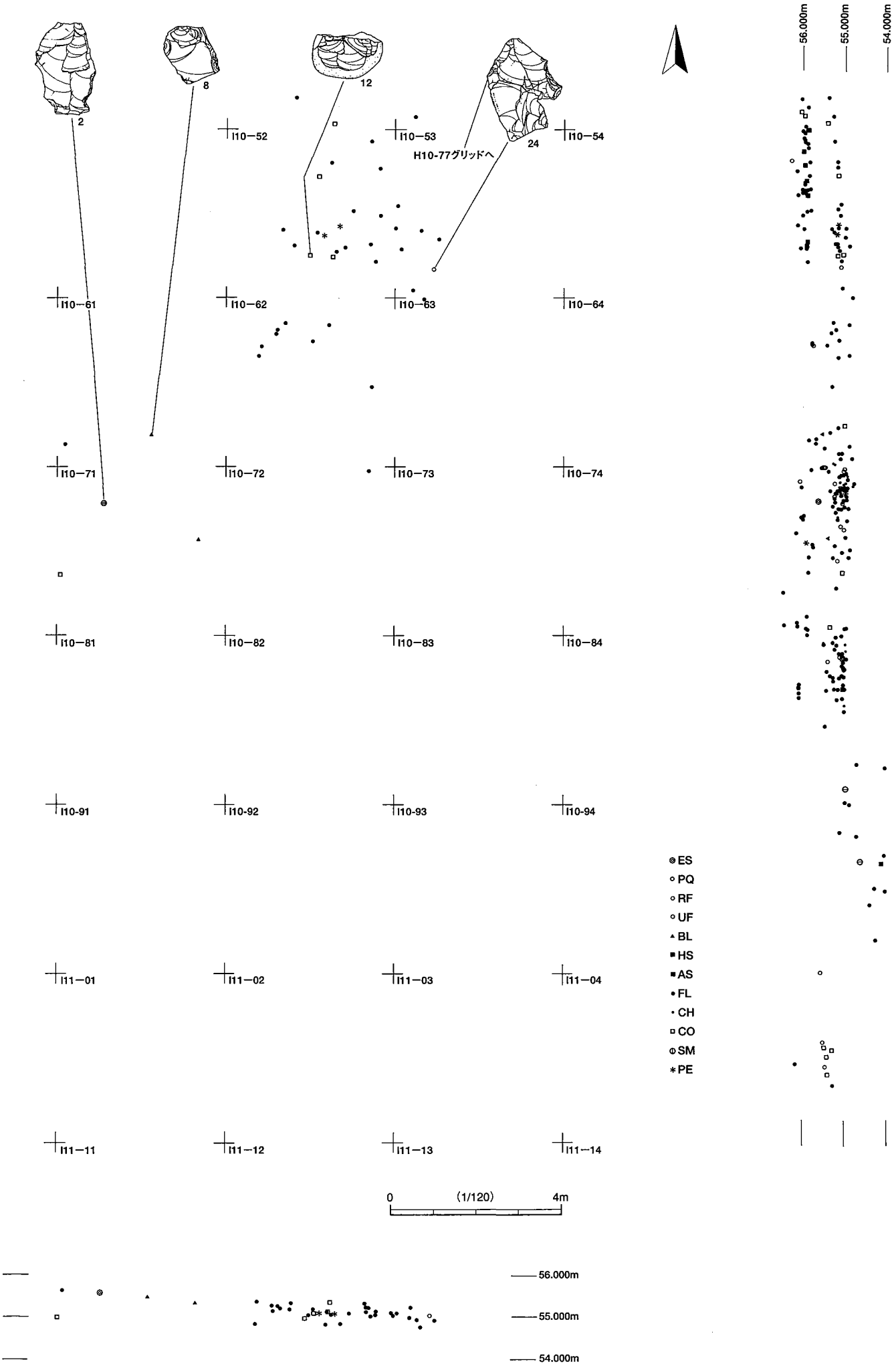
・**H10-54**：自然面は比較的平滑で暗褐色（7.5YR3/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理は黒褐色（7.5YR3/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核2点（1個体）の合計3点（2個体；15.5g）である。接合資料は，石核2点（1個体；14.8g）である。

・**H10-55**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は明黄褐色（10YR6/6）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片4点（3.2g）である。

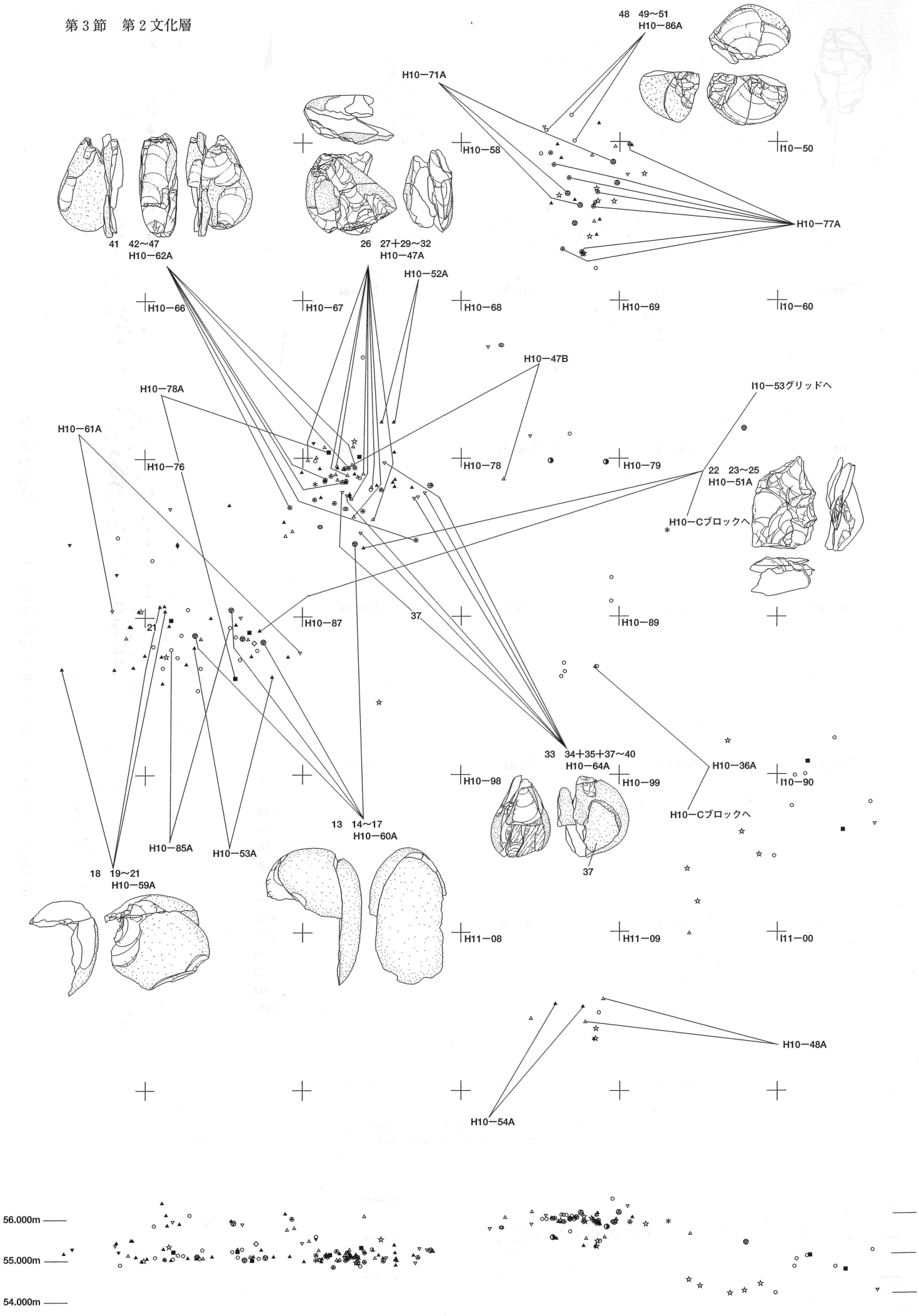
・**H10-56**：自然面は浅い爪形の裂痕が粗で褐色（10YR4/4），内部はオリーブ灰色（2.5GY5/1）・灰黄褐

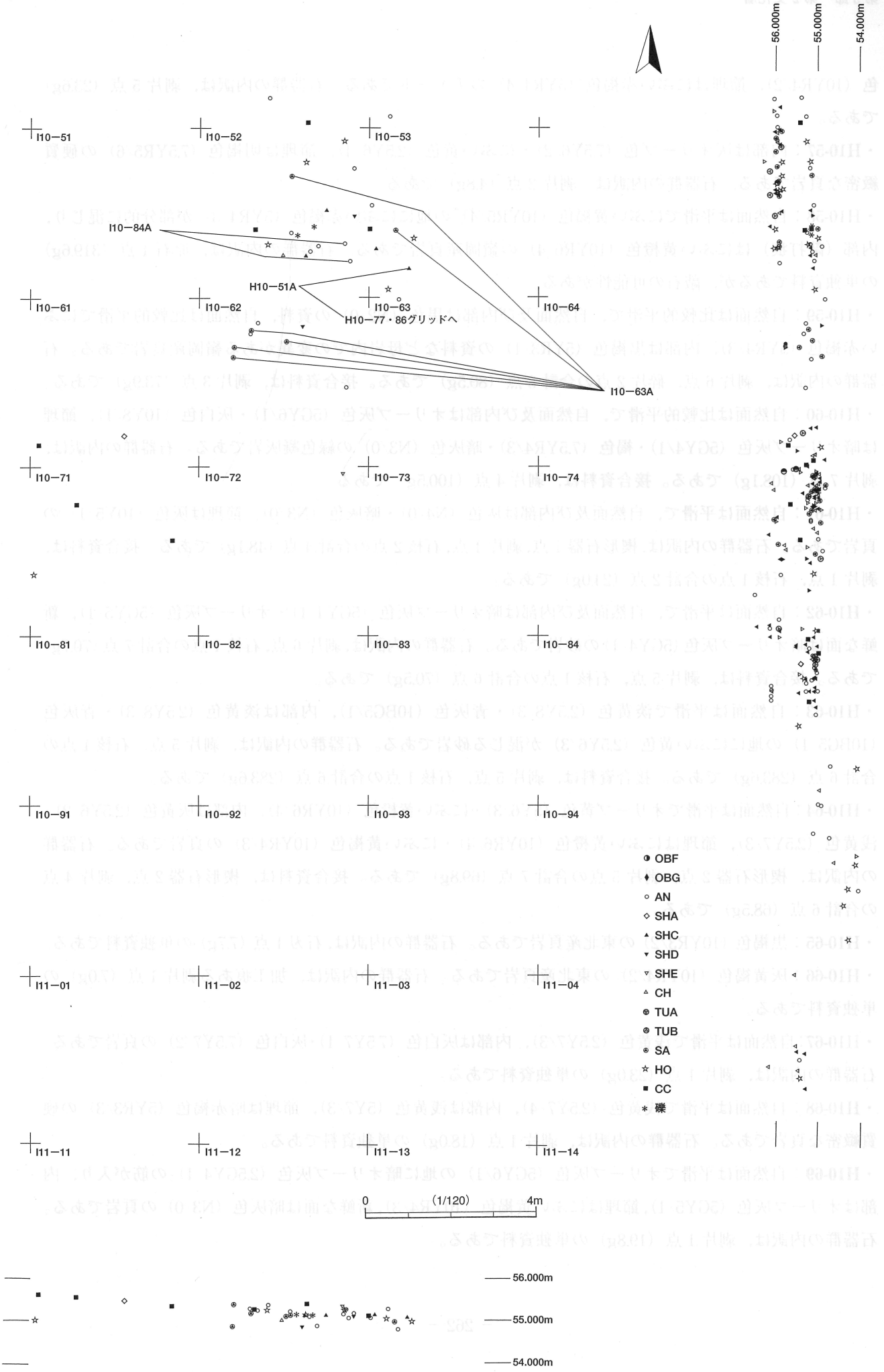

H10−58
H10−59
I10−50
H10−68
H10−69
I10−60
H10−76
H10−78
H10−79
I10−70
H10−87
H10−88
H10−89
I10−80
I10−90
H11−08
H11−09
H10−Cブロックへ
56.000m
55.000m
54.000m

第184図12



第186図　H 10-Dブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－


48　49～51
H10－86A
H10－71A
H10－58
I10－50
H10－77A
41　42～47
H10－62A
26　27＋29～32
H10－47A
H10－52A
H10－66
H10－67
H10－68
H10－69
I10－60
H10－47B
H10－78A
I10－53グリッドへ
H10－61A
H10－76
H10－78
H10－79
22　23～25
H10－51A
H10－Cブロックへ
21
H10－87
37
H10－89
33　34＋35＋37～40
H10－64A
H10－36A
H10－98
H10－99
I10－90
H10－Cブロックへ
13　14～17
H10－60A
H10－85A
H10－53A
37
18　19～21
H10－59A
H11－08
H11－09
I11－00
H10－48A
H10－54A
56.000m
55.000m
54.000m



第187図　H 10-Dブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

色（10YR4/2），節理はにぶい赤褐色（5YR4/4）のチャートである。石器群の内訳は，剥片5点（23.6g）である。

・**H10-57**：内部は灰オリーブ色（7.5Y6/2）・にぶい黄色（2.5Y6/4），節理は明褐色（7.5YR5/6）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（4.8g）である。

・**H10-58**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4）の地ににぶい赤褐色（5YR4/3）が部分的に混じり，内部（敲打痕）はにぶい黄橙色（10YR6/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，原石1点（319.6g）の単独資料であるが，敲石の可能性がある。

・**H10-59**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は黒色（N2/0）の資料，自然面は比較的平滑でにぶい赤褐色（5YR4/3），内部は黒褐色（5YR3/1）の資料など母岩内での変異がある嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片6点，砕片2点の合計8点（80.5g）である。接合資料は，剥片3点（73.9g）である。

・**H10-60**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はオリーブ灰色（5GY6/1）・灰白色（10Y8/1），節理は暗オリーブ灰色（5GY4/1）・褐色（7.5YR4/3）・暗灰色（N3/0）の緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片7点（108.1g）である。接合資料は，剥片4点（100.5g）である。

・**H10-61**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（N4/0）・暗灰色（N3/0），節理は灰色（10Y5/1）の頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片1点，石核2点の合計4点（48.1g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（24.0g）である。

・**H10-62**：自然面は平滑で，自然面及び内部は暗オリーブ灰色（5GY4/1）・オリーブ灰色（5GY5/1），新鮮な面は暗オリーブ灰色（5GY4/1）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片6点，石核1点の合計7点（70.7g）である。接合資料は，剥片5点，石核1点の合計6点（70.5g）である。

・**H10-63**：自然面は平滑で淡黄色（2.5Y8/3）・青灰色（10BG5/1），内部は淡黄色（2.5Y8/3）・青灰色（10BG5/1）の地ににぶい黄色（2.5Y6/3）が混じる砂岩である。石器群の内訳は，剥片5点，石核1点の合計6点（283.6g）である。接合資料は，剥片5点，石核1点の合計6点（283.6g）である。

・**H10-64**：自然面は平滑でオリーブ黄色（5Y6/3）・にぶい黄橙色（10YR6/4），内部は灰黄色（2.5Y6/2）・浅黄色（2.5Y7/3），節理はにぶい黄橙色（10YR6/4）・にぶい黄褐色（10YR4/3）の頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器2点，剥片5点の合計7点（69.8g）である。接合資料は，楔形石器2点，剥片4点の合計6点（68.5g）である。

・**H10-65**：黒褐色（10YR3/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点（7.7g）の単独資料である。

・**H10-66**：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点（7.0g）の単独資料である。

・**H10-67**：自然面は平滑で浅黄色（2.5Y7/3），内部は灰白色（7.5Y7/1）・灰白色（7.5Y7/2）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（23.0g）の単独資料である。

・**H10-68**：自然面は平滑で浅黄色（2.5Y7/4），内部は浅黄色（5Y7/3），節理は暗赤褐色（5YR3/3）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（18.0g）の単独資料である。

・**H10-69**：自然面は平滑でオリーブ灰色（5GY6/1）の地に暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）の筋が入り，内部はオリーブ灰色（5GY5/1），節理はにぶい黄褐色（10YR4/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（19.8g）の単独資料である。

・**H10-70**：自然面は平滑でオリーブ黄色（5Y6/4），内部はオリーブ灰色（10Y6/2），新鮮な面は灰色（N5/0）の緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片１点（7.8g）の単独資料である。

・**H10-71**：自然面は平滑で浅黄色（2.5Y7/3），内部は灰白色（5Y7/1），節理は黄褐色（2.5Y5/4），新鮮な面は灰色（N4/0）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片４点（２個体；89.8g）である。接合資料は，剥片３点（１個体；87.7g）である。

・**H10-72**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y4/1），節理はオリーブ灰色（10Y5/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点（25.3g）である。

・**H10-73**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片４点（17.0g）である。

・**H10-74**：灰色（N4/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片６点（15.7g）である。

・**H10-75**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，敲石１点（59.5g）の単独資料である。

・**H10-76**：灰色（5Y5/1）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片３点（8.5g）である。

・**H10-77**：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR5/3）・褐色（7.5YR4/3）・極暗赤褐色（2.5YR2/3），内部は灰色（10Y5/1）の砂岩である。石器群の内訳は，台石７点（１個体;925.4g）である。接合資料は，台石７点（１個体；925.4g）である。

・**H10-78**：自然面は浅い爪形の裂痕が粗で黒褐色（7.5YR3/2），内部は灰黄色（2.5Y7/2）・明褐色（7.5YR5/6）・灰白色（2.5Y8/2）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片３点，砕片１点の合計４点（7.6g）である。接合資料は，剥片２点（4.5g）である。

・**H10-79**：灰黄色（2.5Y7/2）・黄灰色（2.5Y6/1）・明褐色（7.5YR5/6）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，掻器２点（71.7g）である。

・**H10-80**：不透明で灰白色（2.5Y8/1）の部分と不透明で淡黄色（2.5Y8/3）・黄橙色（10YR8/6）の部分がある瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，掻器１点，剥片１点の合計２点（17.7g）である。

・**H10-81**：灰黄褐色（10YR6/2）・浅黄橙色（10YR8/3）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（11.6g）である。

・**H10-82**：淡黒灰色の黒曜石である。φ１㎜ほどの白色の夾雑物を含む。神津島産である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（3.0g）である。

・**H10-83**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片４点（42.8g）である。

・**H10-84**：自然面は爪形の裂痕が密で黄灰色（2.5Y5/1），内部は灰色（N4/0），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片20点，砕片１点の合計21点（71.8g）である。接合資料は，剥片２点（1.2g）である。

・**H10-85**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片８点の合計９点（21.5g）である。接合資料は，楔形石器１点，剥片１点の合計２点（8.9g）である。

・**H10-86**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（63.0g）である。接合資料は，剥片２点，

石核1点の合計3点（63.0g）である。

・**H10-87**：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰白色（N7/0）・浅黄色（2.5Y7/3）・灰白色（2.5Y8/2）の安山岩である。石器群の内訳は，石核1点（65.3g）の単独資料である。

・**H10-100**：黄褐色（2.5Y5/3）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片1点（2.4g）の単独資料である。

・**H10-101**：浅黄色（2.5Y7/4）・暗灰黄色（2.5Y4/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点（8.1g）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Gの剥片1点，砕片1点の合計2点（1.4g），安山岩の剥片16点，砕片1点の合計17点（28.1g），頁岩Cの剥片20点，砕片4点，石核1点の合計25点（38.5g），頁岩Dの剥片2点（14.4g），頁岩Eの楔形石器1点，剥片4点の合計5点（53.9g），チャートの楔形石器1点，剥片5点，砕片4点の合計10点（16.5g），砂岩の剥片4点，砕片1点の合計5点（4.6g），ホルンフェルスの剥片9点，石核2点の合計11点（75.8g），瑪瑙・玉髄の石刃1点，剥片1点，砕片1点の合計3点（1.9g）がある。

3）出土遺物（第188図）

1～3は瑪瑙・玉髄による掻器である。1は寸詰まりの剥片を素材として，末端に90度近い急角度の調整加工を行っている。2は末端と表面両側縁，裏面左側縁に調整加工が行われており，表面左側縁上部には刃こぼれが見られる。3は折断剥片を素材としたのか，欠損なのか不明だが，右側縁下部から末端にかけて急角度の調整加工を行っている。4はチャート，5・6は頁岩による楔形石器である。4・6は両面の両端に対向する剥離痕が見られる。5は両面の両端と裏面の両側縁の一部に対向する剥離痕が見られ，表面左側縁には刃こぼれが見られる。7は東北産頁岩による加工痕ある剥片である。石核の底面を残す稜付き石刃を素材として，末端の裏面側に細かい剥離痕が見られ，右側縁には刃こぼれが見られる。8は東北産頁岩による石刃である。折断した石刃を素材としたのか，欠損なのか不明だが，右側縁に調整加工を行っており，左側縁には刃こぼれが見られる。9は嶺岡産頁岩による不定型な剥片である。10は頁岩，11は嶺岡産頁岩，12はチャートによる石核である。打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。

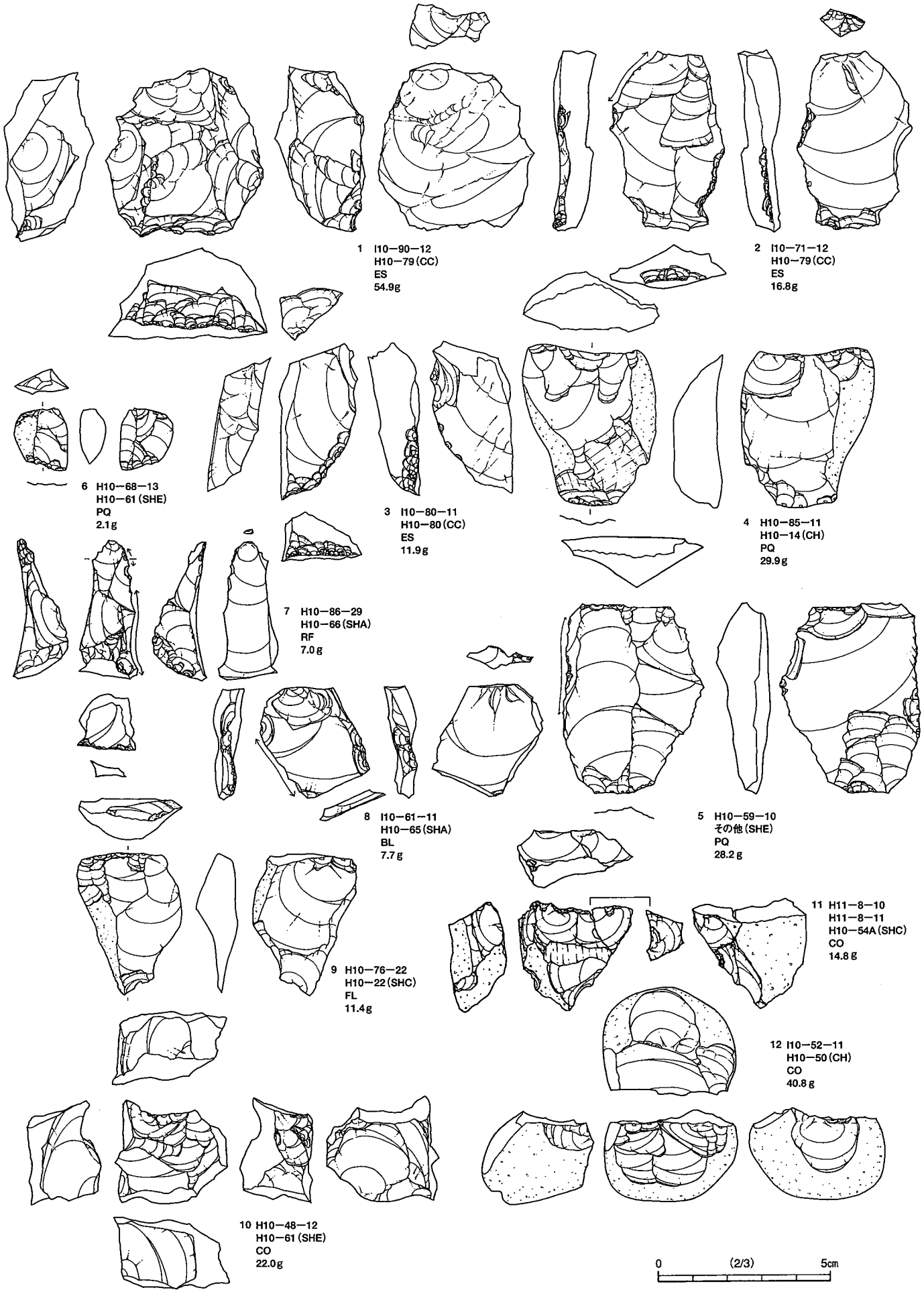
4）接合資料とその関連資料（第189～191図）

・**H10-60（第189図）**　オリーブ灰色（5GY6/1）などの緑色凝灰岩である。剥片7点で構成される。13は剥片4点（14～17）の接合資料である。比較的細長い礫を素材として，14・15・17は上方向，16は90度打面転移して剥離している。

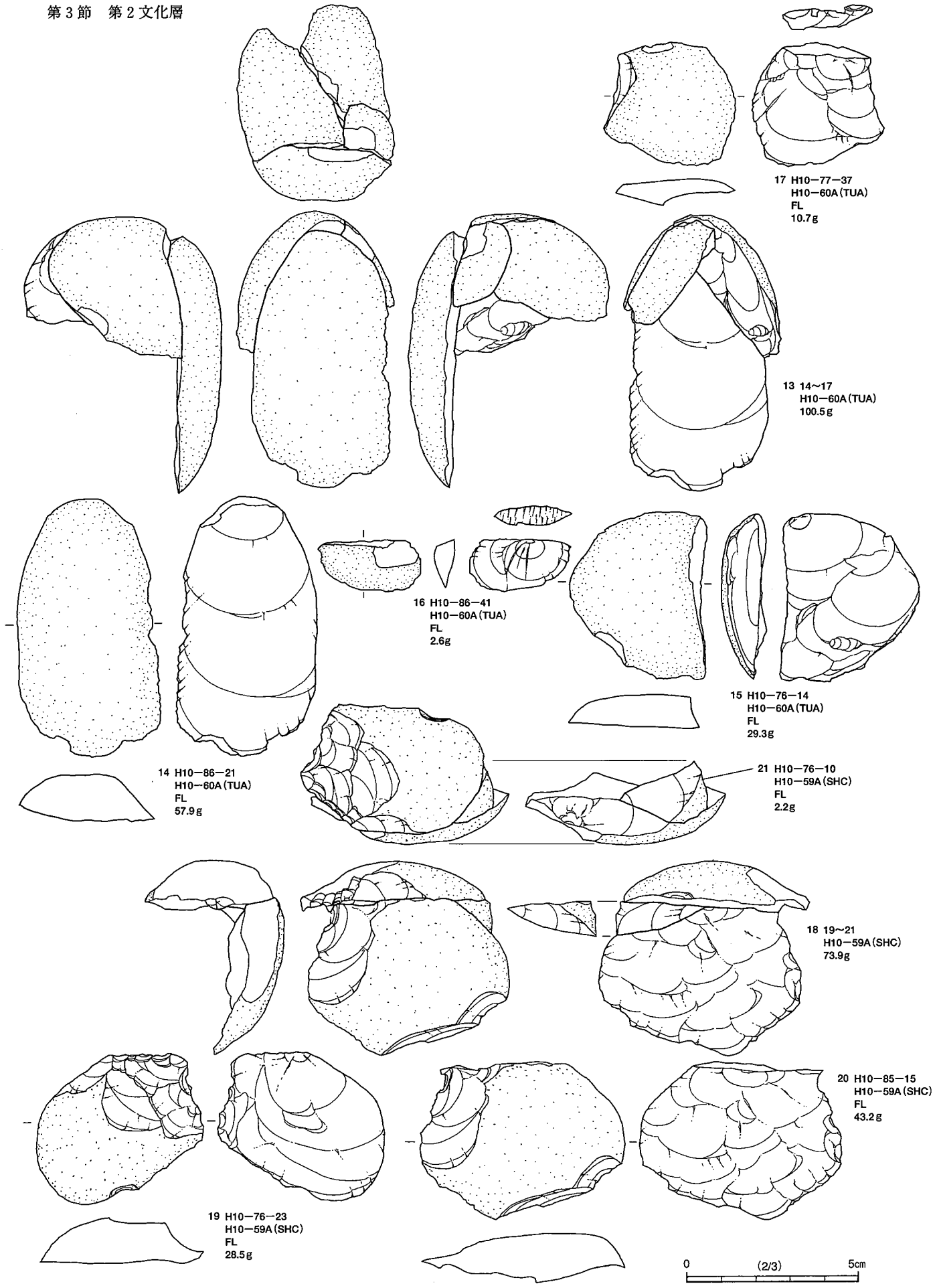
・**H10-59（第189図）**　黒色（N2/0）などの嶺岡産頁岩である。剥片6点，砕片2点で構成される。18は剥片3点（19～21）の接合資料である。90度打面転移しながら，不定型な剥片を剥離している。

・**H10-51（第190図）**　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片2点（1個体），剥片4点の合計6点（5個体）で構成される。22は加工痕ある剥片2点（1個体;24），剥片1点（25）が，H10-Cブロックの剥片1点（23）と接合している。23・24は上方向，25は90度打面転移して剥離している。なお，24は2点が接合して1個体となる。

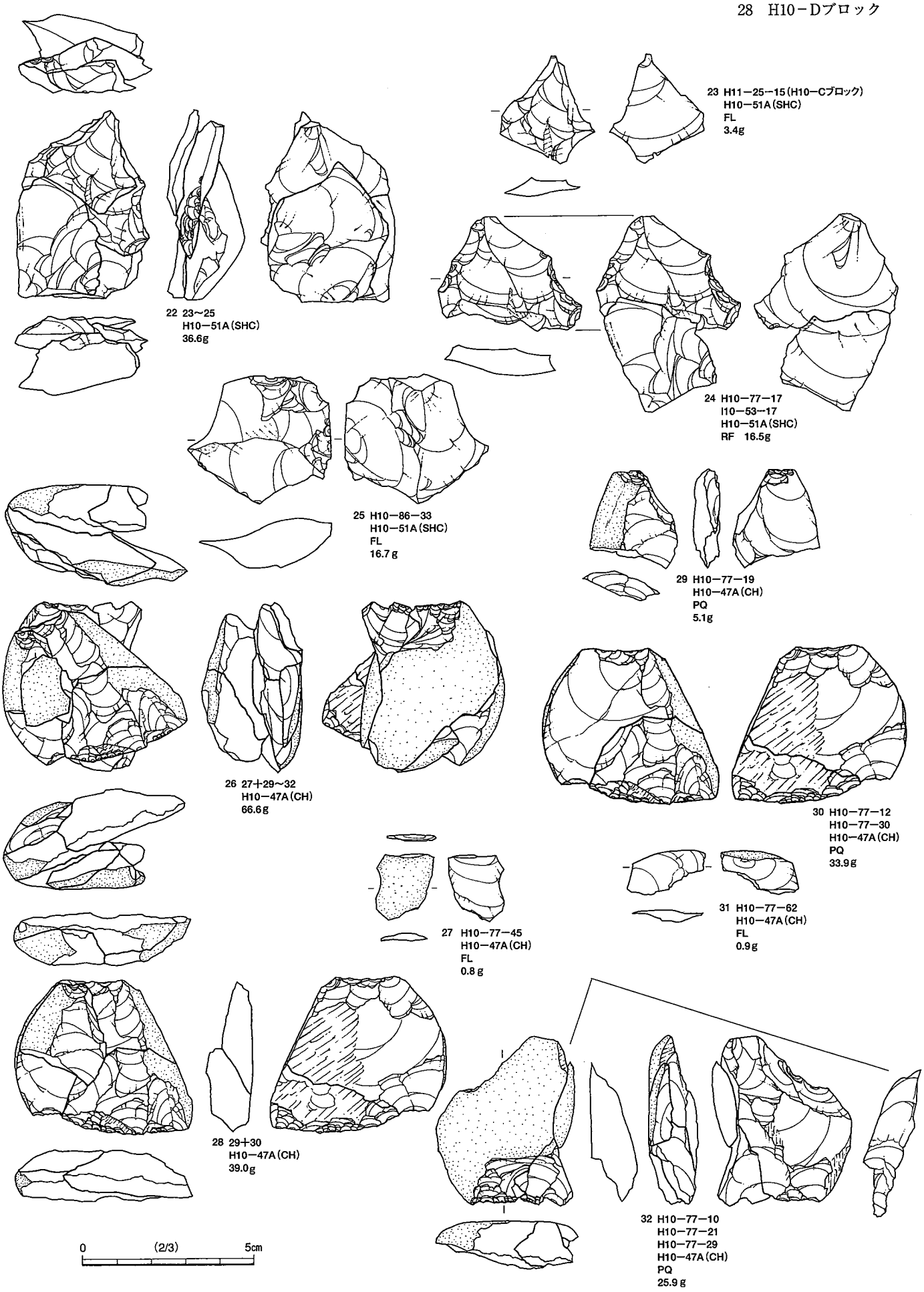
・**H10-47（第190図）**　灰色（7.5Y4/1）などのチャートである。楔形石器7点（4個体），剥片3点，砕片1点で構成される。接合資料は，2グループある。A（26）は楔形石器6点（3個体；29・30・32），剥片2点（27・31）の接合資料である。



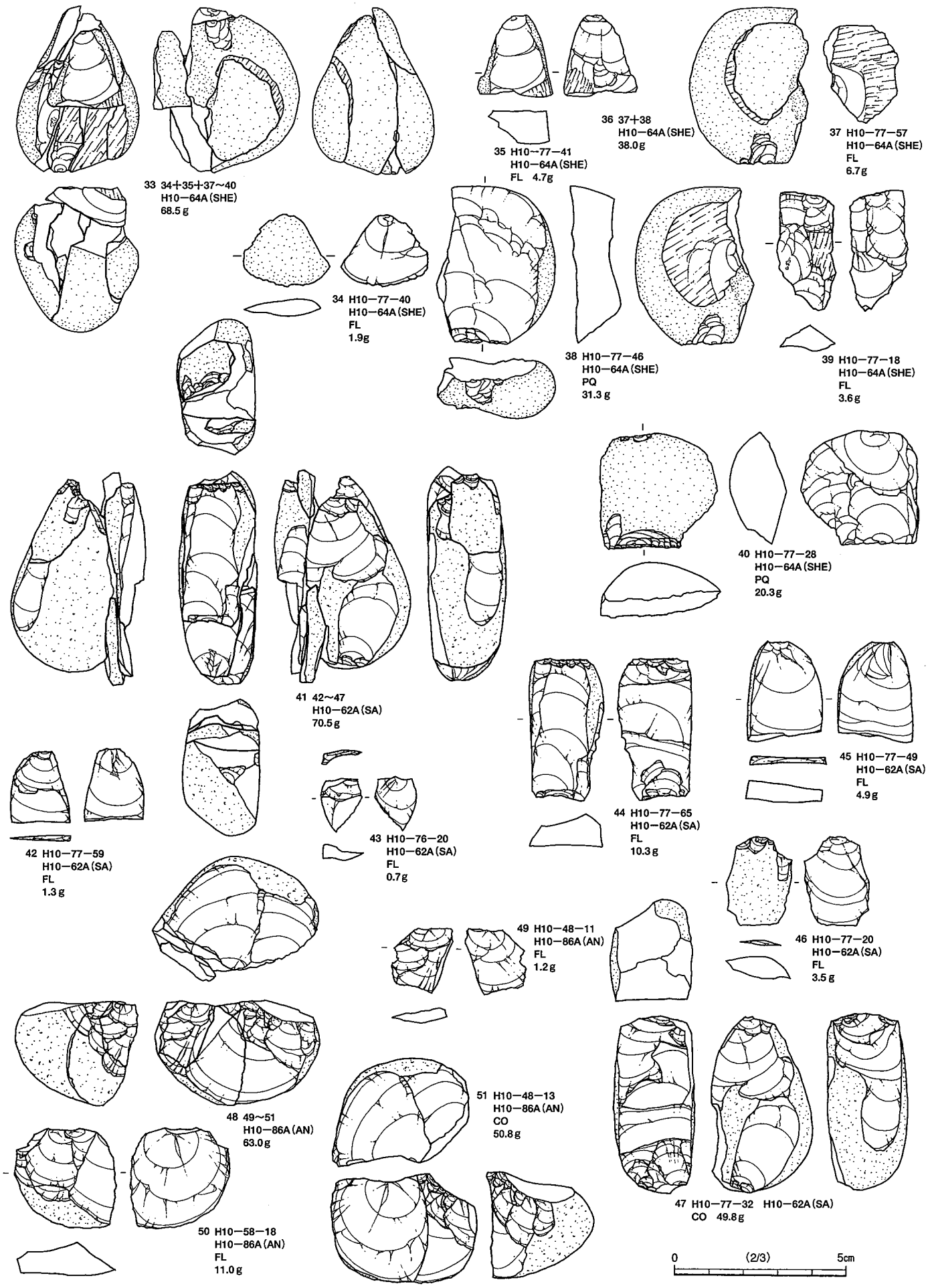
第188図　H 10- Dブロック出土遺物（1）



第189図　H 10- Dブロック出土遺物（2）



第190図　H 10- Dブロック出土遺物（3）



第191図　H 10- Dブロック出土遺物（4）

第105表　H10-Dブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
H10-14(CH)									1																1
H10-22(SHC)																		1							1
H10-24(SHC)																		1							1
H10-36(CH)									1																1
H10-46(AN)																		2							2
H10-47(CH)									7(4)									3	1						11(8)
H10-48(CH)										2(1)	1														3(2)
H10-49(CH)																				1					1
H10-50(CH)																				1					1
H10-51(SHC)										2(1)								3							5(4)
H10-52(SHC)																		1		1					2
H10-53(SHC)									1									3							4
H10-54(SHC)																		1		2(1)					3(2)
H10-55(SHC)																		4							4
H10-56(CH)																		5							5
H10-57(SHD)																		2							2
H10-58(SHC)																					1				1
H10-59(SHC)																		6	2						8
H10-60(TUA)																		7							7
H10-61(SHE)									1									1		2					4
H10-62(SA)																		6		1					7
H10-63(SA)																		5		1					6
H10-64(SHE)									2									5							7
H10-65(SHA)												1													1
H10-66(SHA)										1															1
H10-67(SHE)																		1							1
H10-68(SHD)																		1							1
H10-69(SHE)																		1							1
H10-70(TUA)																		1							1
H10-71(TUB)																		4(2)							4(2)
H10-72(HO)																		3							3
H10-73(HO)																		4							4
H10-74(HO)																		6							6
H10-75(HO)																1									1
H10-76(SA)																		3							3
H10-77(SA)																	7(1)								7(1)
H10-78(CC)																		3	1						4
H10-79(CC)					2																				2
H10-80(CC)					1													1							2
H10-81(CC)																		1		1					2
H10-82(OBF)																		1		1					2
H10-83(AN)																		4							4
H10-84(AN)																		20	1						21
H10-85(AN)									1									8							9
H10-86(AN)																		2		1					3
H10-87(AN)																				1					1
H10-100(AN)																		1							1
H10-101(HO)																		2							2
その他(OBG)																		1	1						2
その他(AN)																		16	1						17
その他(SHC)																		20	4	1					25
その他(SHD)																		2							2
その他(SHE)									1									4							5
その他(CH)									1									5	4						10
その他(SA)																		4	1						5
その他(HO)																		9		2					11
その他(CC)												1						1	1						3
合　計					3				16(13)	5(3)	1	2				1	7(1)	185(183)	17	16(15)	1				254(240)

30は両面の両端に対向する剥離痕，32は裏面両端に対向する剥離痕と表面下端部に剥離痕，29は下部を欠損するが，両面の上端に潰痕状の剥離痕が見られる。なお，30は2点，32は3点が接合して1個体となる。

・**H10-64（第191図）** 灰黄色（2.5Y6/2）などの頁岩である。楔形石器2点，剥片5点で構成される。33は楔形石器2点（38・40），剥片4点（34・35・37・39）の接合資料である。厚みのある不定型な礫を素材として，40は分割された剥片の両面の両端に対向する離痕が見られる。38は両面の下端に潰痕状の剥離痕が見られることから楔形石器としたが，剥片の可能性もある。

・**H10-62（第191図）** 暗オリーブ灰色（5GY4/1）などの砂岩である。剥片6点，石核1点で構成される。41は剥片5点（42～46），石核1点（47）の接合資料である。比較的厚みのある不定型な礫を素材として，正面図側を主体として，両設打面の石核から縦長剥片を剥離し，その後，右側縁図側でも若干幅広の縦長剥片を剥離している。

・**H10-86（第191図）** 灰オリーブ色（5Y4/2）などの安山岩である。剥片2点，石核1点で構成される。48は剥片2点（49・50），石核1点（51）の接合資料である。厚みのある不定型な礫を素材として，平坦な剥離面打面から不定型な剥片を剥離している。48の正面図には頭部調整状の細かい剥離痕が見られることから，上面図の剥離面は打面として，当初から意識されて剥離されたものと思われるが，単に打面と作業面を入れ替えた際の剥離面の可能性もある。

第106表　H10-Dブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
黒曜石F(OBF)																		1		1					2
黒曜石G(OBG)																		1	1						2
安山岩(AN)									1									53	2	2					58
頁岩A(SHA)										1		1													2
頁岩C(SHC)									1	2(1)								40	6	4(3)	1				54(52)
頁岩D(SHD)																		5							5
頁岩E(SHE)									4									12		2					18
チャート(CH)									10(7)	2(1)	1							13	5	2					33(29)
凝灰岩A(TUA)																		8							8
凝灰岩B(TUB)																		4(2)							4(2)
砂岩(SA)																	7(1)	18	1	2					28(22)
ホルンフェルス(HO)																1		24		2					27
瑪瑙・玉髄(CC)					3							1						6	2	1					13
合　計					3				16(13)	5(3)	1	2				1	7(1)	185(183)	17	16(15)	1				254(240)

第107表　H10-Dブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
H10R-13	SA	2	138.3
H10R-14	SA	1	26.7
その他	CH	1	1.6

石　材	個数	重量
チャート(CH)	1	1.6
砂岩(SA)	3	165.0
合　計	4	166.6

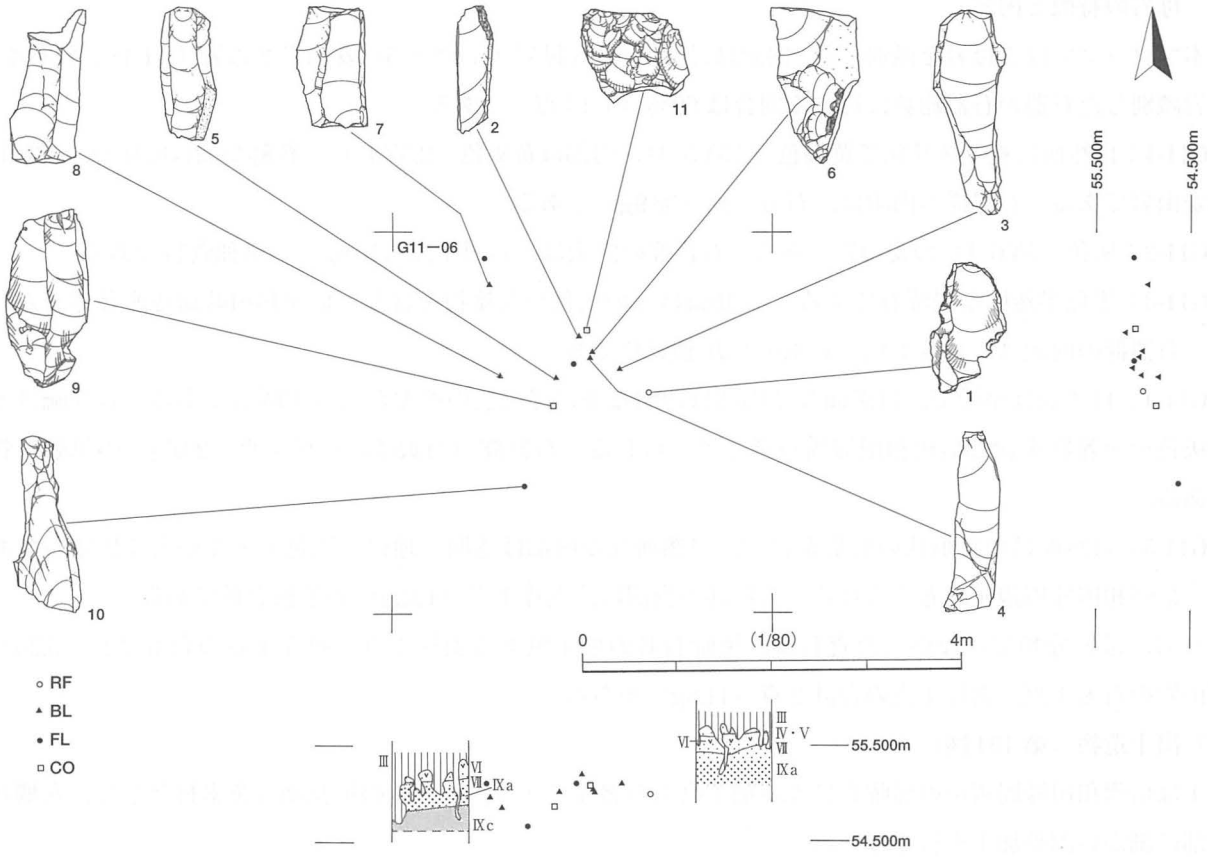
29 G11-Aブロック（第192～194・267図，第108・109表，カラー図版15）

1）ブロックの概要

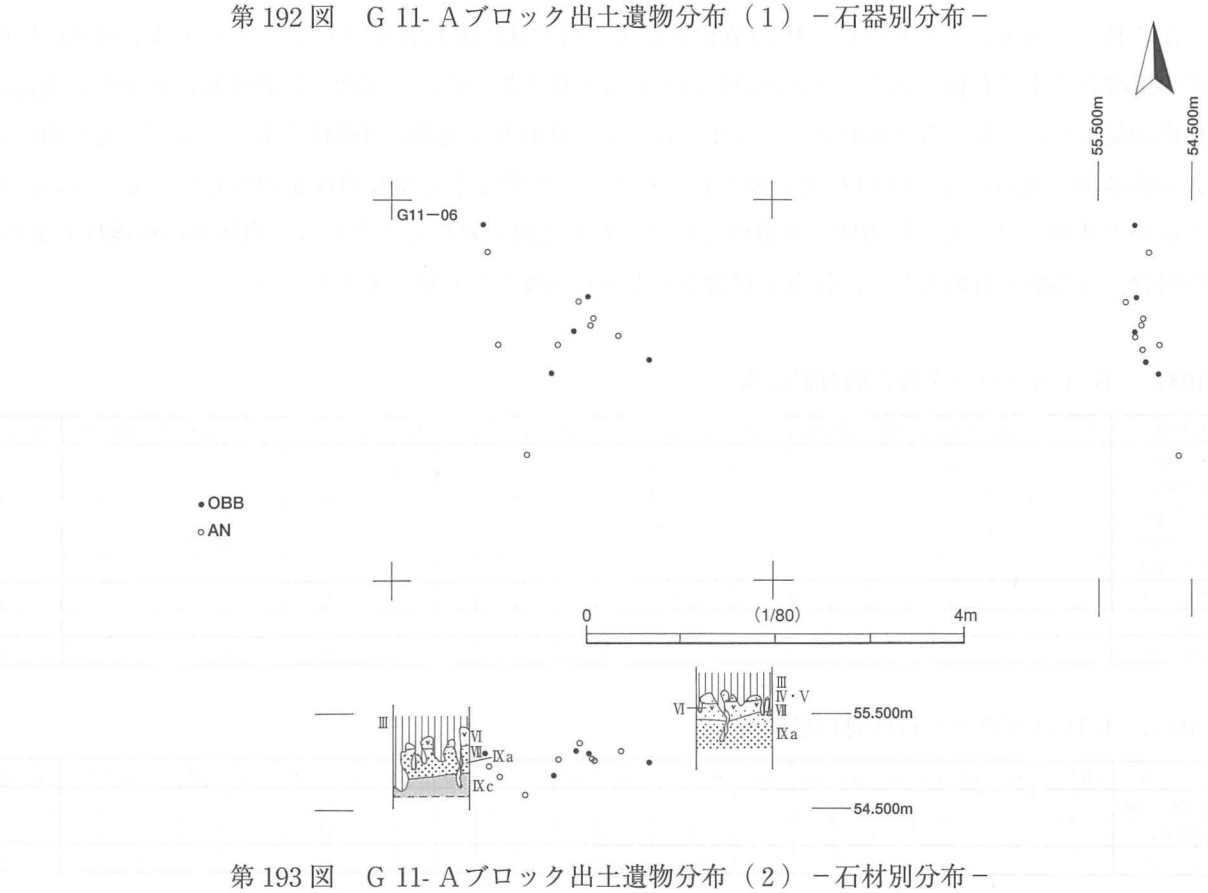
G11-Aブロックは，調査範囲西側のG11-06グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，直径3mの範囲に13点の石器が分布する。出土層位は，Ⅶ層からⅩ層にかけてで，50cmほどの高低差をもって包含されている（第192・193図）。

ブロックは，加工痕ある剥片1点，石刃7点，剥片3点，石核2点の合計13点で構成される。石器石材は，黒曜石B 5点，安山岩8点である。



第 192 図　G 11- Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第 193 図　G 11- Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ３母岩（G11-3～5），安山岩２母岩（G11-1･2）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は69%（9/13点）である。

・**G11-1**：自然面は紙ヤスリ状で黄褐色（2.5Y5/4），内部は黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃５点（38.9g）である。

・**G11-2**：灰色（5Y6/1）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃１点（10.6g）の単独資料である。

・**G11-3**：黒色半透明な黒曜石である。φ10㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石核１点（34.3g）の単独資料である。

・**G11-4**：自然面は平滑で，自然面及び内部は透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。φ５㎜ほどの灰色の夾雑物を含む信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石核１点（20.6g）の単独資料である。

・**G11-5**：自然面は敲打痕状の裂痕が密で，自然面及び内部は透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片１点（12.2g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｂの加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（5.2g），安山岩の石刃１点，剥片１点の合計２点（11.8g）がある。

３）出土遺物（第194図）

１は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。石刃状の縦長剥片を素材として，左側縁上部に細かい調整加工を行っている。

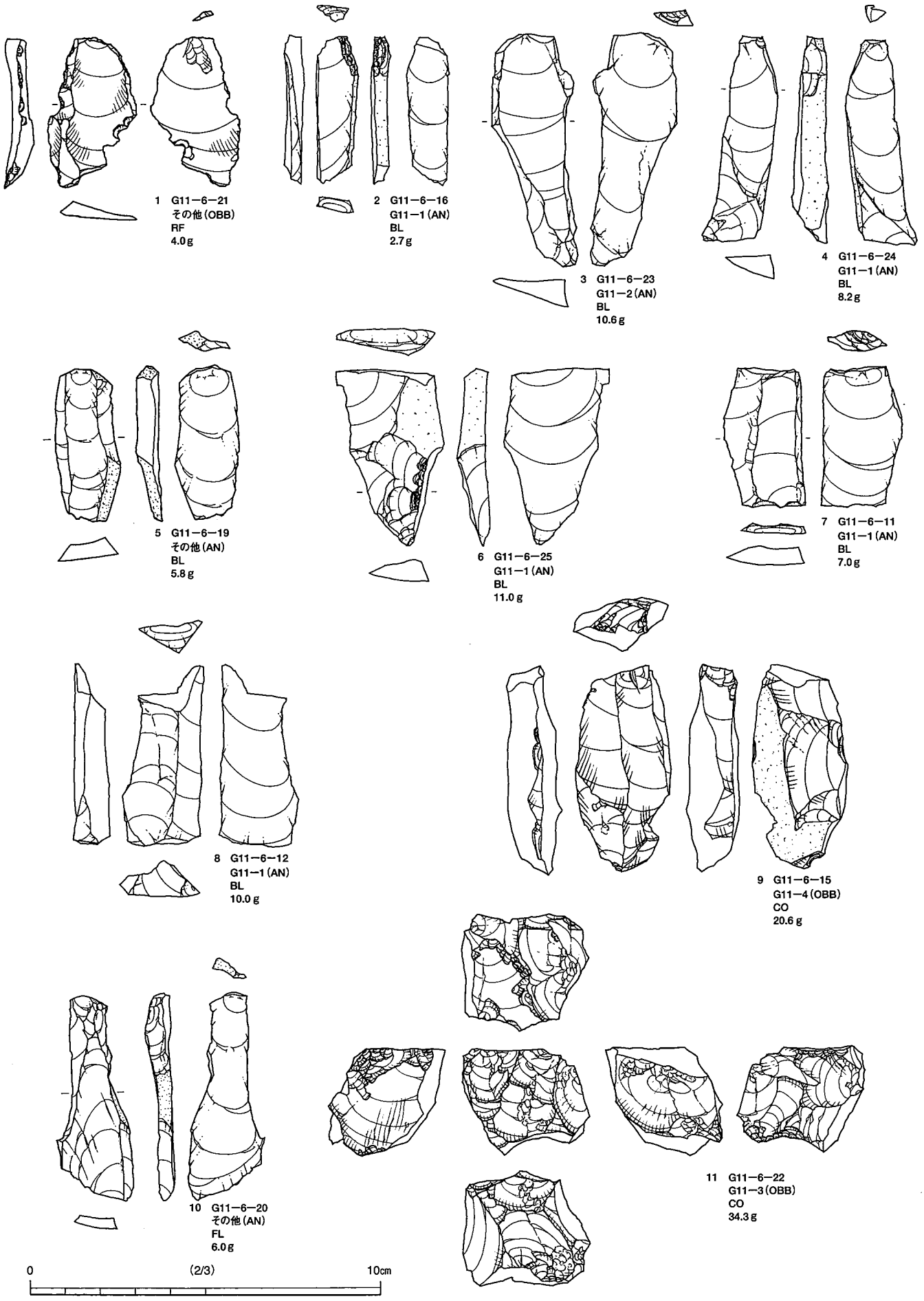
２～８は安山岩による石刃である。２は右側縁上部に調整加工が行われている。６は稜上調整が見られることから稜付き石刃かもしれない。10は安山岩による石刃状の縦長剥片である。９・11は信州和田峠周辺産の黒曜石による石核である。９は両設打面の石刃石核と思われる。裏面には剥離軸に直交する横長の剥離面が見られ，一見すると側面調整と考えられるが，目的的な剥離の可能性もある。また，両側面にも縦長の剥離面が見られる。11は打面転移を行いながら，小型で不定型な剥片を剥離している。なお，11の上面の剥離面のほとんどは周囲の剥離面と比べ，若干光沢が異なることから，自然面の可能性もある。その場合，自然面を打面として，打点を移動させながら剥離した石核と考えられる。

第108表　G11-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
G11-1(AN)												5													5
G11-2(AN)												1													1
G11-3(OBB)																				1					1
G11-4(OBB)																				1					1
G11-5(OBB)																		1							1
その他(OBB)										1								1							2
その他(AN)												1						1							2
合　計										1		7						3		2					13

第109表　G11-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石B(OBB)										1								2		2					5
安山岩(AN)												7						1							8
合　計										1		7						3		2					13



第194図　G 11- Aブロック出土遺物

30　ブロック外（第195・196図，カラー図版15）

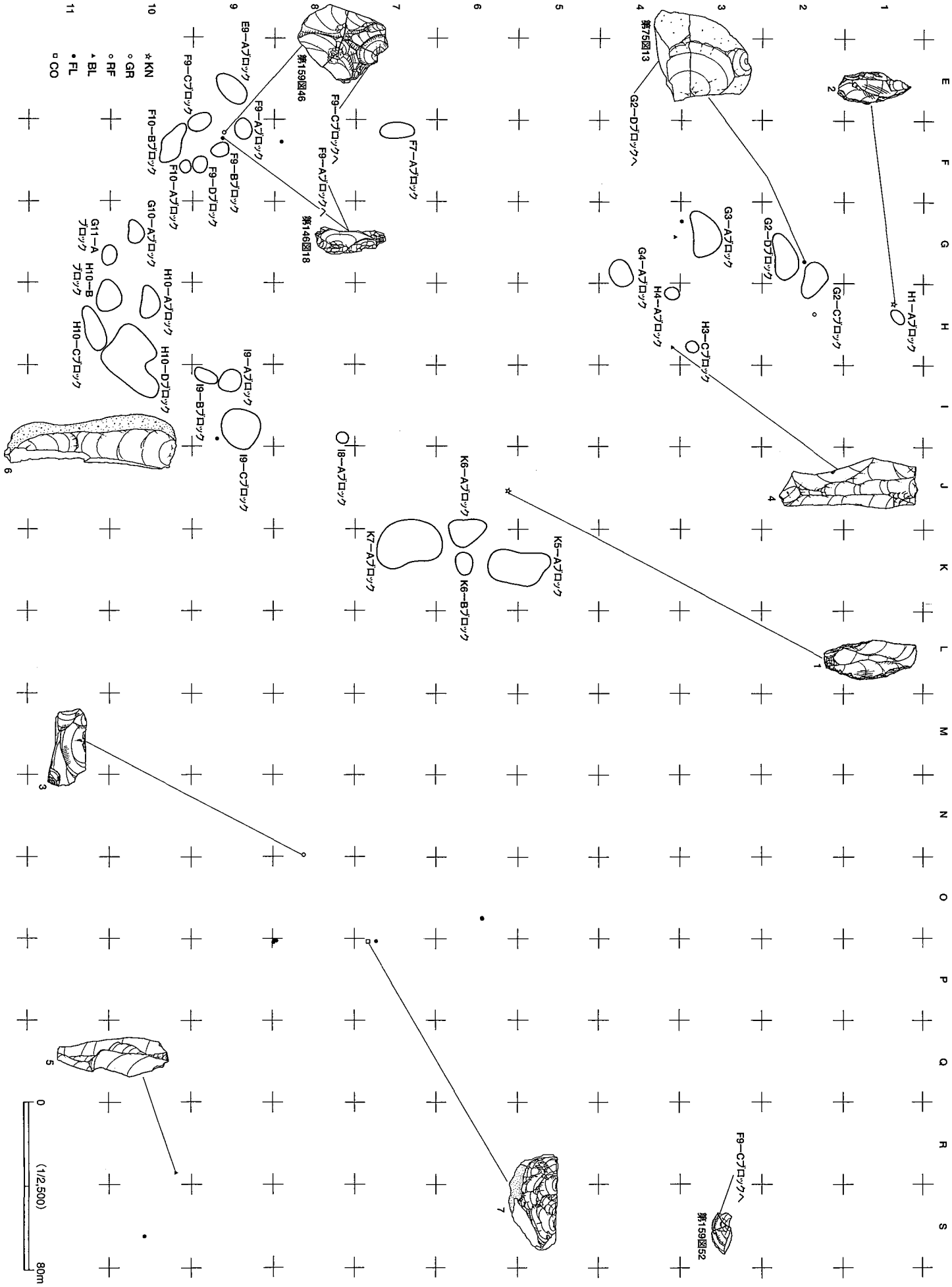
1は黒灰色半透明な黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃の打面部を基部としている。J6-15グリッドのⅣ層上部から出土した。2は薄墨を流したような半透明な地に淡黒灰色の縞が入る黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃の打面部を先端部としている。H1-32グリッドのⅣ層上部から出土した。3は黒灰色の黒曜石による加工痕ある剥片である。信州和田峠周辺産と考えられる。裏面左側縁に調整加工を行っている。N8-69グリッドのⅥ層下部～Ⅶ層から出土した。4は黒褐色（10YR3/2）の東北産頁岩による石刃である。両面の両側縁に刃こぼれが見られる。H4-07グリッドのⅢ～Ⅴ層で出土した。5は暗灰黄色（2.5Y4/2）の硬質緻密な頁岩による石刃である。左側縁に刃こぼれが見られる。R10-18グリッドのⅦ層上部から出土した。6は自然面は紙ヤスリ状でにぶい黄色（2.5Y6/4），内部は灰色（5Y5/1）・にぶい黄色（2.5Y6/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩による石刃状の縦長剥片である。G11-07グリッドから出土したが，出土層位は不明である。7は自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は黒灰色・黄褐色の黒曜石による石核である。φ3㎜ほどの黄灰色の夾雑物を多く含む。栃木県高原山産と考えられる。大型の礫を分割した剥片の主要剥離面を打面として，不定型な剥片を剥離している。P7-80グリッドのⅥ層下部から出土した。

31　炭化物集中地点（第197図，図版10）

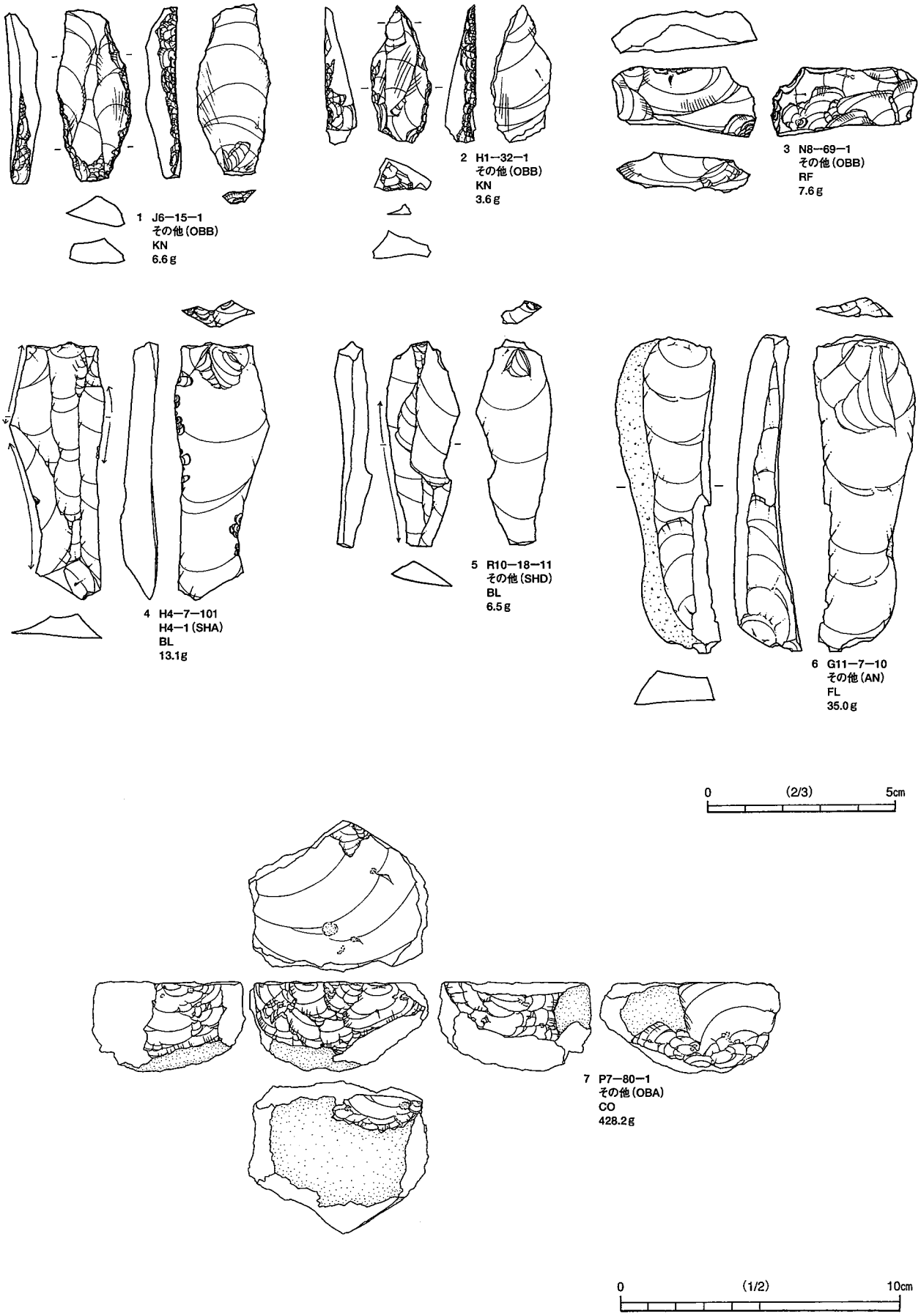
J6-59・69，K6-50・60グリッドのⅦ層中で，比較的大型の炭化材・焼土を伴う現存径5ｍほどの炭化物集中地点を検出した。西側台地上の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40ｍである。同一文化層のK6-Ａブロックと重複する。

この集中地点については，同層中の他の地点でも炭化物の散布が見られるということから，調査を途中で終了している。しかし，成因に関して人為的か自然的要因か未だに確定していないことから，他地点での散布の有無自体は，自然的要因によるものという根拠にはならない。従って，標本抽出における偏向など問題はあるが，この炭化物の集中分布に対して，炭化物集中地点（Ｃ－１）と呼称し，記載した。

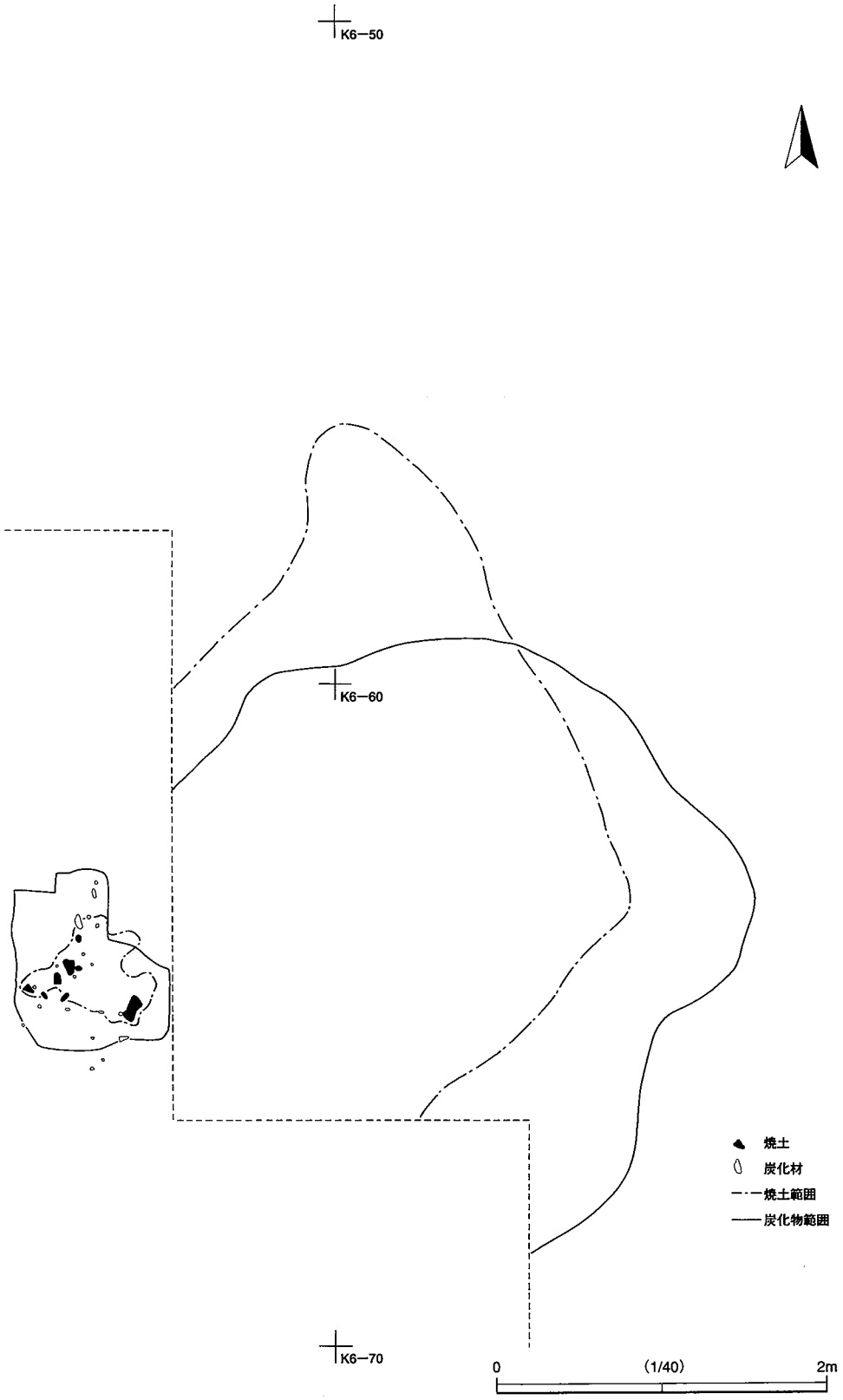
その性格については，炭化物の分布状況の確認に問題があり，遺構として認識するには不確定な要素も多いが，既報告の炭化物集中地点と共通する点もあることから，有力な類例の発見をまって判断すべきと思われる。



第 195 図　第 2 文化層ブロック外出土遺物分布



第196図　第2文化層ブロック外出土遺物



第 197 図　炭化物集中地点

第4節　第3文化層

第3文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅲ層）からハードローム層最上部（Ⅳ層）にかけて包含されている石器群である。I3- C，H4- B，H6- A，E11- A，E12- A，N5- A，V11- Aブロックの7か所が該当する。武蔵野台地のⅣ層下部の石器群に概ね相当すると考えられる。

1　I3- Cブロック（第198～202・268図，第110・111表，カラー図版15・16・22，図版10）

1）ブロックの概要

I3- Cブロックは，調査範囲西側のI3-77・78・87～89・98グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は110mである。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸6mの範囲に2カ所に分かれて70点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層にかけてで，60cmほどの高低差をもって包含されている（第198・199図）。

ブロックは，ナイフ形石器2点，掻器2点，剥片58点（56個体），砕片1点，石核7点の合計70点（68個体）で構成される。石器石材は，黒曜石B 1点，安山岩1点，頁岩B 26点（25個体），凝灰岩A 29点（28個体），砂岩1点，ホルンフェルス1点，瑪瑙・玉髄11点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは8母岩を識別した。内訳は，安山岩1母岩（I3-21），頁岩B 3母岩（I3-16～18），凝灰岩A 1母岩（I3-20），砂岩1母岩（I3-23），ホルンフェルス1母岩（I3-22），瑪瑙・玉髄1母岩（I3-19）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は80%（56/70点）である。

・**I3-16**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は浅黄色（2.5Y7/4）・黒褐色（10YR3/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，掻器1点，剥片1点の合計2点（19.8g）である。接合資料は，掻器1点，剥片1点の合計2点（19.8g）である。

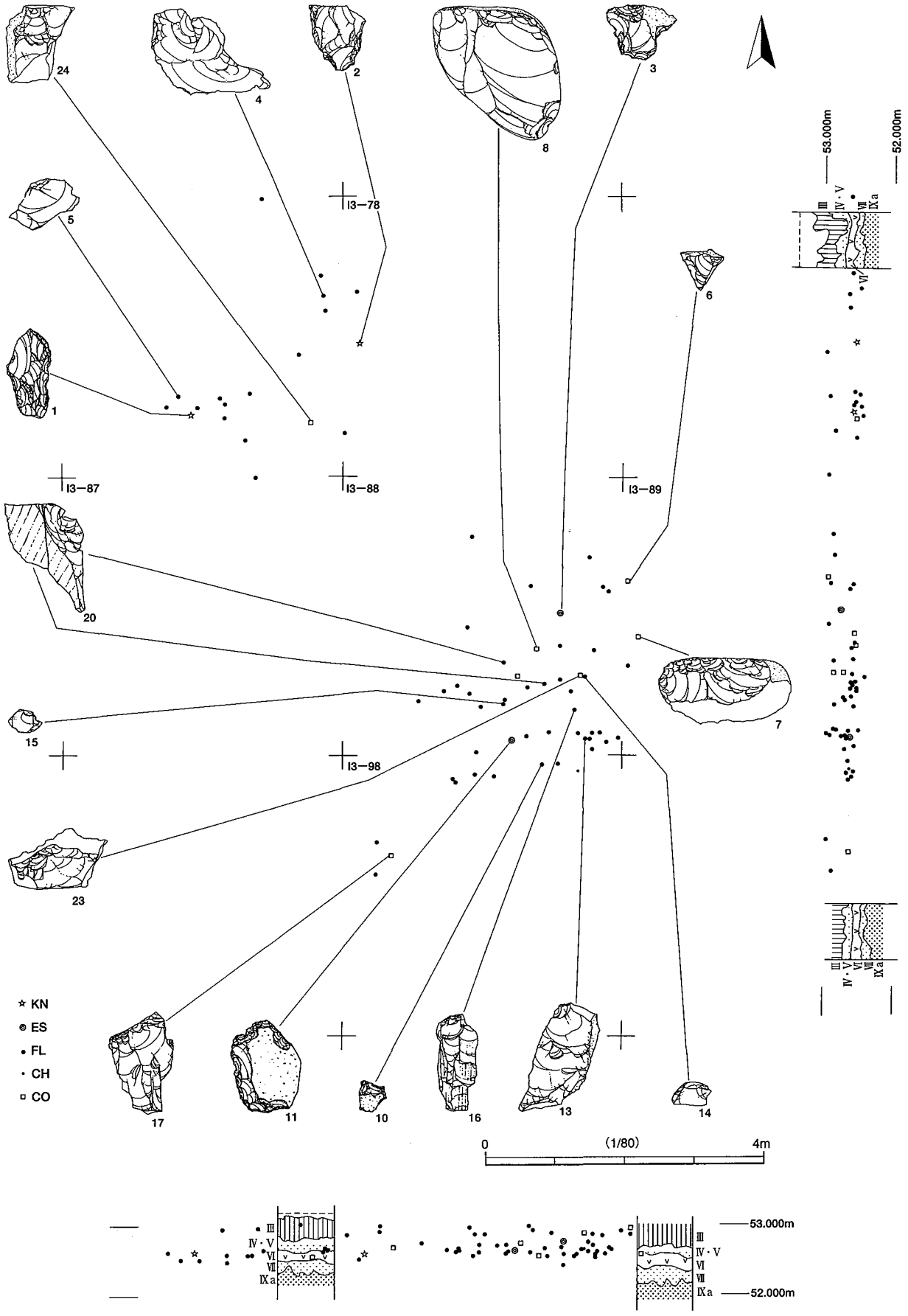
・**I3-17**：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は黒褐色（10YR3/1）・灰黄褐色（10YR5/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，剥片10点（9個体）の合計11点（10個体；12.5g）である。接合資料は，2グループあり，Aは剥片2点（1個体;1.3g），Bは剥片2点（0.6g）である。

・**I3-18**：灰黄褐色（10YR5/2）の資料，灰黄褐色（10YR6/2）の資料など母岩内での変異がある北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片5点（7.4g）である。接合資料は，剥片3点（2.8g）である。

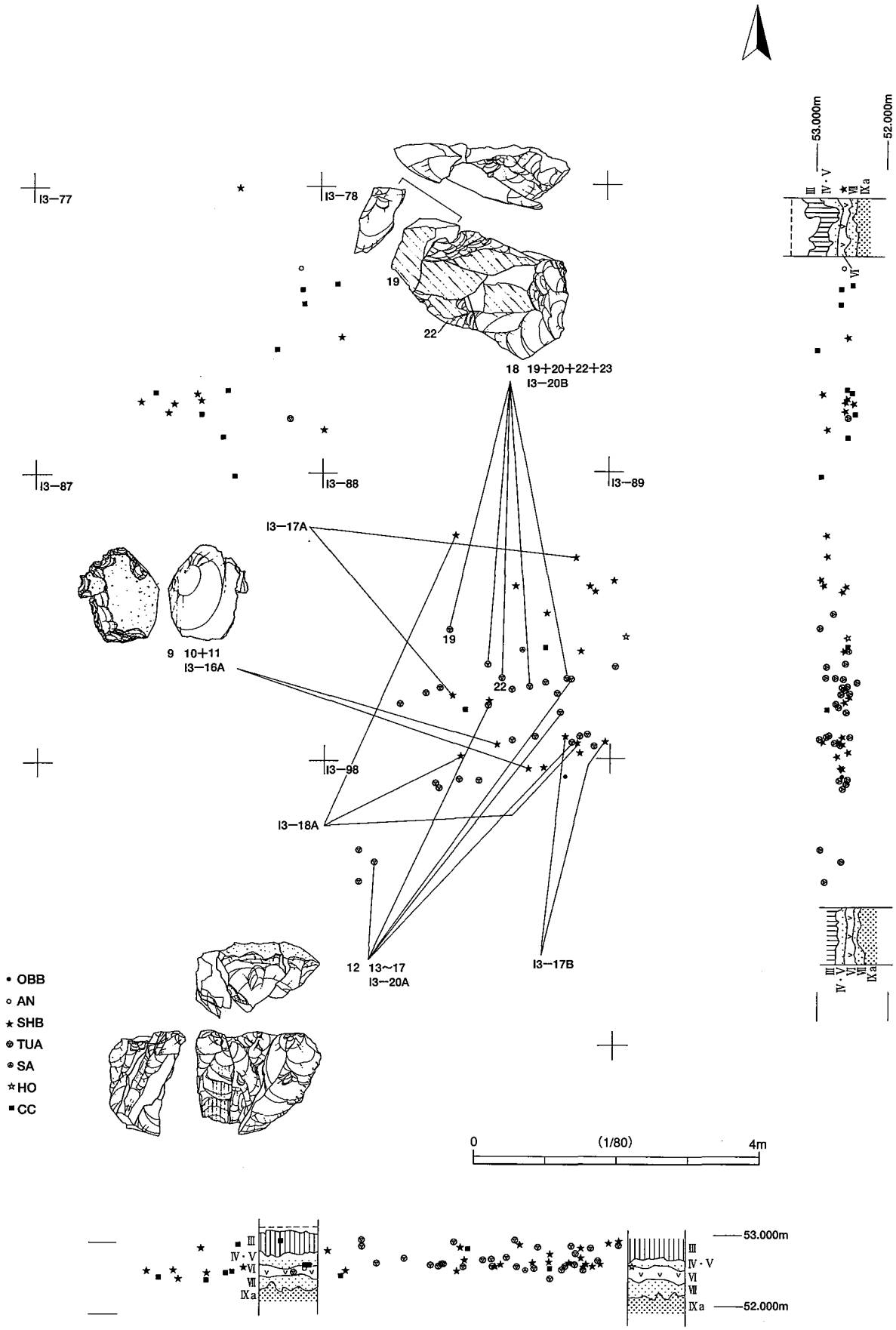
・**I3-19**：灰白色（2.5Y8/1）・灰白色（2.5Y8/2）・浅黄色（2.5Y7/4）の地に黄灰色（2.5Y4/1）・橙色（7.5YR6/6）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片7点（31.2g）である。

・**I3-20**：自然面は凹凸が顕著で暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰白色（5Y8/2）で鉱物が目立ち，内部は灰白色（5Y8/2）の資料，灰白色（7.5Y7/2）の地に緑灰色（7.5GY6/1）が部分的に混じる資料，淡黄色（5Y8/3）の資料など母岩内での変異がある緑色凝灰岩である。また，16の様に若干白色化し，表面が浅いあばた状を呈する資料については被熱の可能性が考えられる。石器群の内訳は，剥片24点（23個体），石核4点の合計28点（27個体；220.3g）である。接合資料は，2グループあり，Aは剥片4点，石核1点の合計5点（56.9g），Bは剥片3点（2個体），石核2点の合計5点（4個体；68.7g）である。

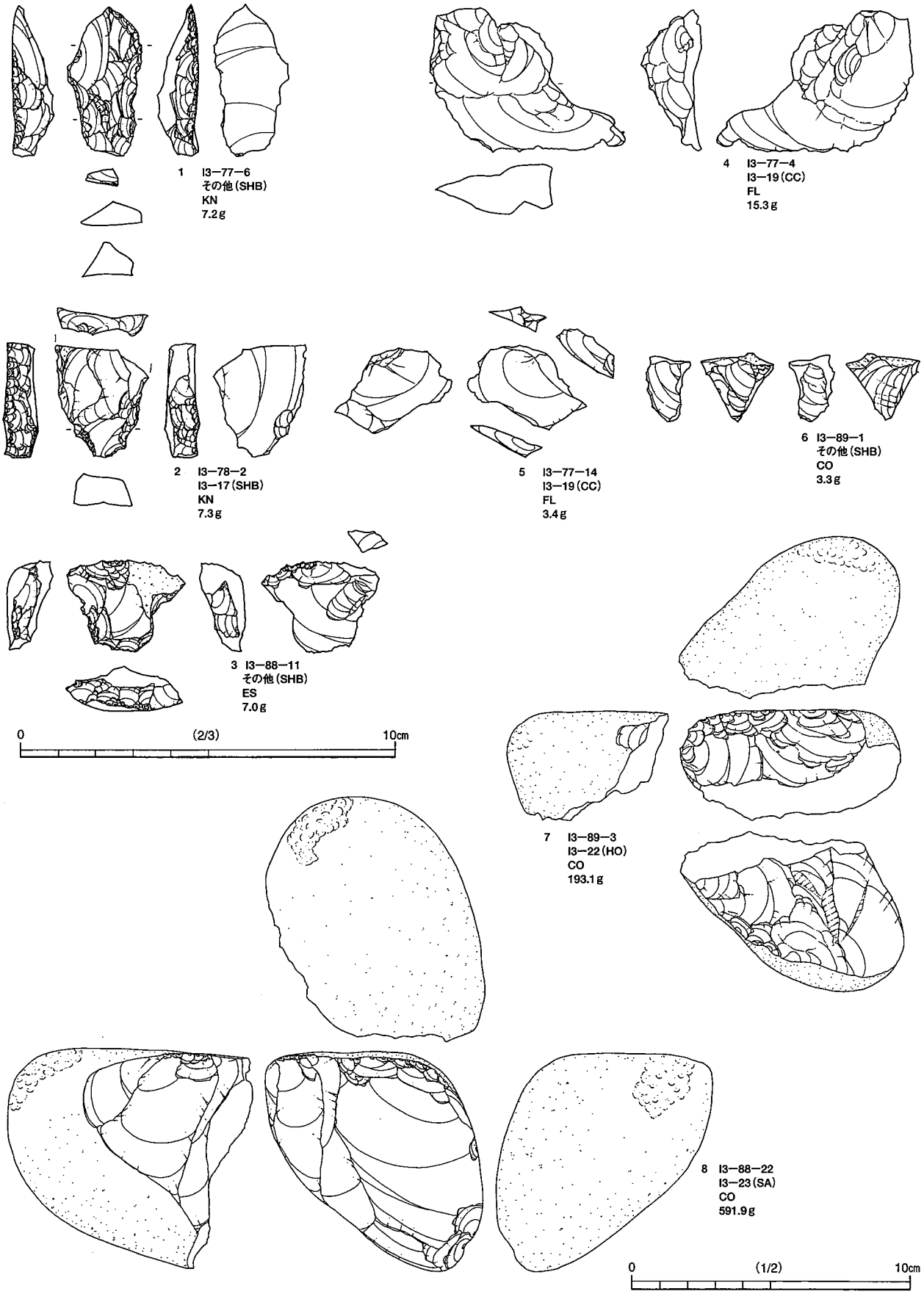
・**I3-21**：内部は黄灰色（2.5Y6/1）の地に黄灰色（2.5Y5/1）が部分的に混じり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片1点（25.1g）の単独資料である。



第198図　I 3-Cブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第199図　Ⅰ3-Ｃブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第200図　Ⅰ3-Cブロック出土遺物（1）

・I3-22：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰黄色（2.5Y6/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，石核１点（193.1g）の単独資料である。

・I3-23：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y5/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の砂岩である。石器群の内訳は，石核１点（591.9g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｂの砕片１点（0.02g），頁岩Ｂのナイフ形石器１点，掻器１点，剥片５点，石核１点の合計８点（32.0g），凝灰岩Ａの剥片１点（2.9g），瑪瑙・玉髄の剥片４点（8.8g）がある。

第110表　Ｉ３-Ｃブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
Ｉ３-16(SHB)					1													1							2
Ｉ３-17(SHB)	1																	10(9)							11(10)
Ｉ３-18(SHB)																		5							5
Ｉ３-19(CC)																		7							7
Ｉ３-20(TUA)																		24(23)		4					28(27)
Ｉ３-21(AN)																		1							1
Ｉ３-22(HO)																				1					1
Ｉ３-23(SA)																				1					1
その他(OBB)																			1						1
その他(SHB)	1				1													5		1					8
その他(TUA)																		1							1
その他(CC)																		4							4
合　計	2				2													58(56)	1	7					70(68)

第111表　Ｉ３-Ｃブロック石材別石器組成

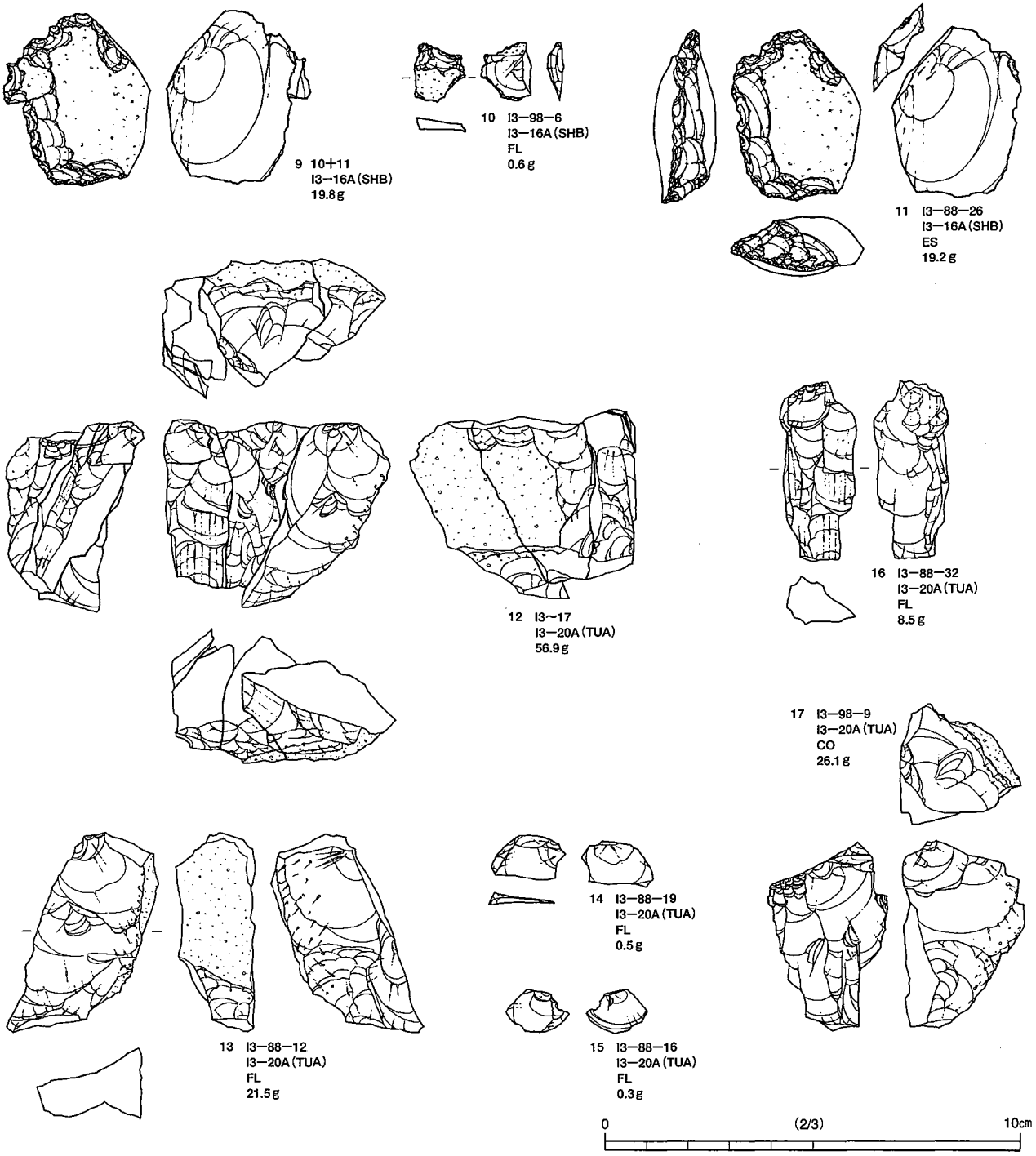
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)																			1						1
安山岩(AN)																		1							1
頁岩B(SHB)	2				2													21(20)		1					26(25)
凝灰岩A(TUA)																		25(24)		4					29(28)
砂岩(SA)																				1					1
ホルンフェルス(HO)																				1					1
瑪瑙・玉髄(CC)																		11							11
合　計	2				2													58(56)	1	7					70(68)

３）出土遺物（第200図）

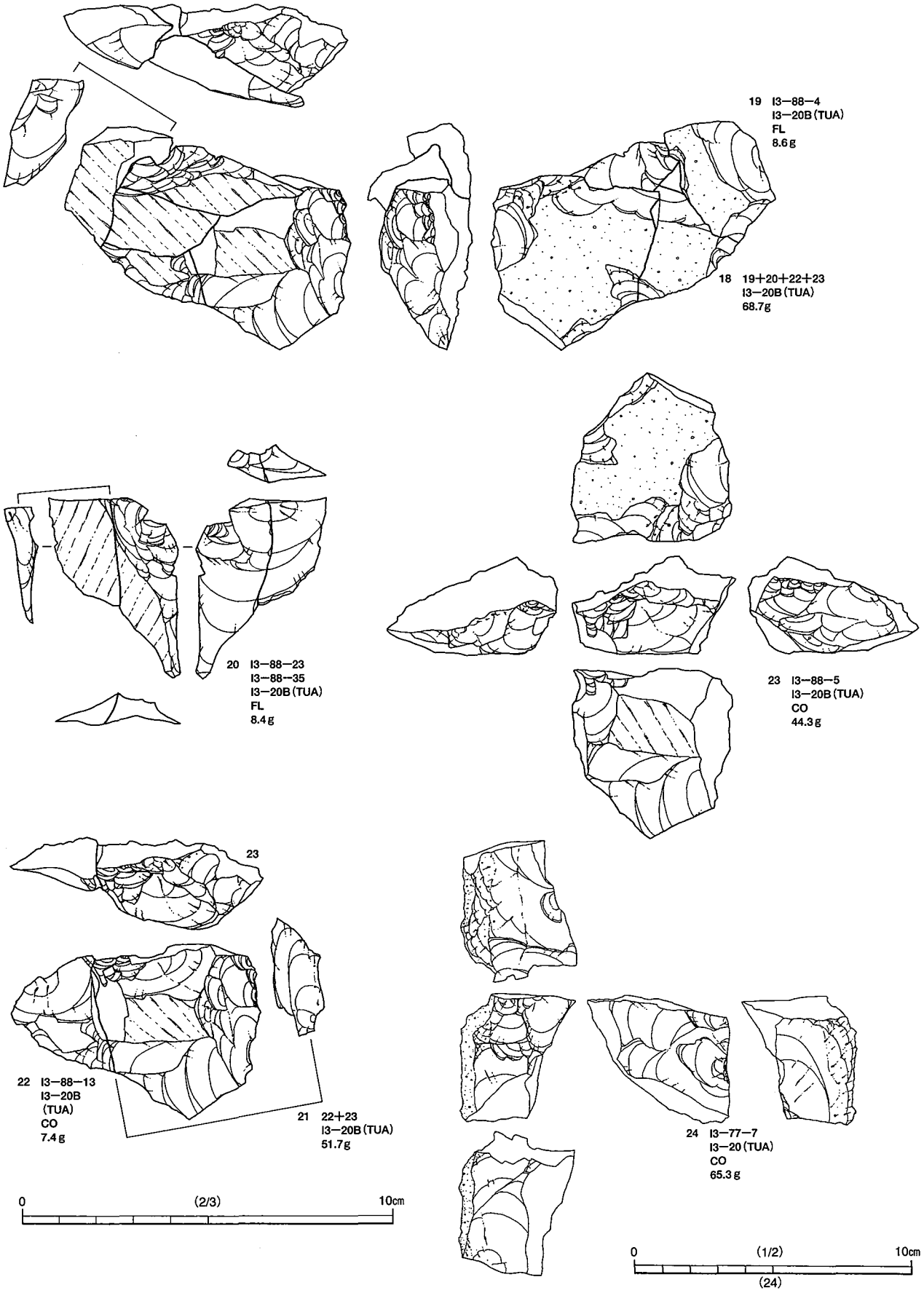
１・２は北関東産頁岩によるナイフ形石器である。１は素材の打面部を基部としている。二側縁加工のナイフ形石器である。２は剥片を横位に用い，上部が欠損するため，形態は不明であるが，両側縁に90度に近い急角度の調整加工が見られる。３は北関東産頁岩による掻器である。不定型な剥片を素材として，表面左側縁から末端にかけてと裏面頭部に調整加工を行っている。４・５は瑪瑙・玉髄による不定型な剥片である。６は北関東産頁岩，７はホルンフェルス，８は砂岩による石核である。６は折断面と思われる右側面を切る剥離痕が正面図に見られることから石核としたが，折断面かどうか不明である。７は不定型な礫の自然面を打面として，求心的な剥離作業を行っている。８は大型で不定型な礫の平坦な自然面を打面として，比較的大型で不定型な剥片を剥離している。一部に敲打痕が見られることから，敲石としても使用されていたことがわかる。なお，敲石からの転用か石核からの転用かは，直接切り合い関係がないことから，不明である。

４）接合資料とその関連資料（第201・202図）

・I3-16（第201図）　浅黄色（2.5Y7/4）などの北関東産頁岩である。掻器１点，剥片１点で構成される。９は掻器１点（11），剥片１点（10）の接合資料である。10は掻器の刃部作出剥片である。11は不定型な剥片を素材として，右側縁を除く，ほぼ全周に調整加工を行っている。



第201図　Ⅰ3-Cブロック出土遺物（2）



第202図　Ｉ３-Ｃブロック出土遺物（３）

・**I3-20（第201・202図）**　灰白色（5Y8/2）などの緑色凝灰岩としたが，瑪瑙・玉髄の可能性が高い。剥片24点（23個体），石核4点で構成される。接合資料は，2グループある。A（12）は剥片4点（13～16），石核1点（17）の接合資料である。縦長剥片を主体的に剥離した母岩と思われる。なお，16の変色は被熱によるものと考えられ，14の剥離後であるが，15については13や14の一部と16の色調の間で，被熱の有無は判然としない。B（18）は剥片3点（2個体;19･20),石核2点（22･23）の接合資料である。21は節理で剥落した剥片を素材として，19・20などの不定型な剥片を剥離し，22と23に欠損あるいは分割した後も，23は求心的な剥離作業により，不定型な剥片を剥離している。なお，20は2点が接合して1個体となる。24は接合しなかった同一母岩の石核である。上面図と裏面図に見られる平坦な剥離面を打面として，不定型な剥片を剥離している。

2　H4- Bブロック（第203・204・268図，第112・113表，図版10）

1）ブロックの概要

H4- Bブロックは，調査範囲西側のH4-16・17グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は75ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸3ｍ，短軸1ｍの範囲に5点の石器が分布する。出土層位は，Ⅳ層からⅤ層にかけてで，30cmほどの高低差をもって包含されている（第203・204図)。

ブロックは，剥片5点で構成される。石器石材は，頁岩Ｃ2点，ホルンフェルス3点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは2母岩を識別した。内訳は,頁岩Ｃ1母岩(H4-2),ホルンフェルス1母岩(H4-3)である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（5/5点）である。

・**H4-2**：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（4.9g）である。

・**H4-3**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2)・灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片3点（10.0g）である。

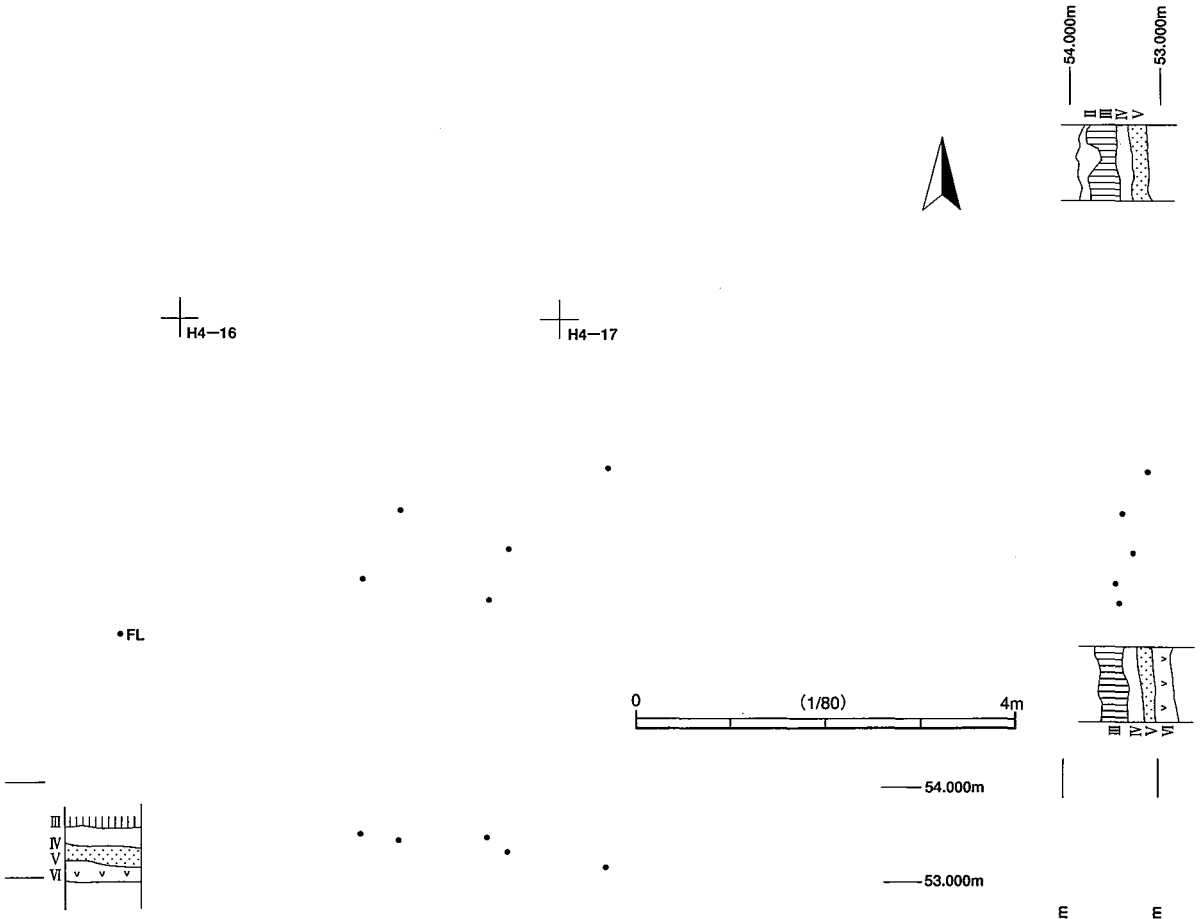
比較的小型で不定型な剥片が主体で，特に，図示できる資料はなかった。

第112表　Ｈ4-Bブロック母岩別石器組成

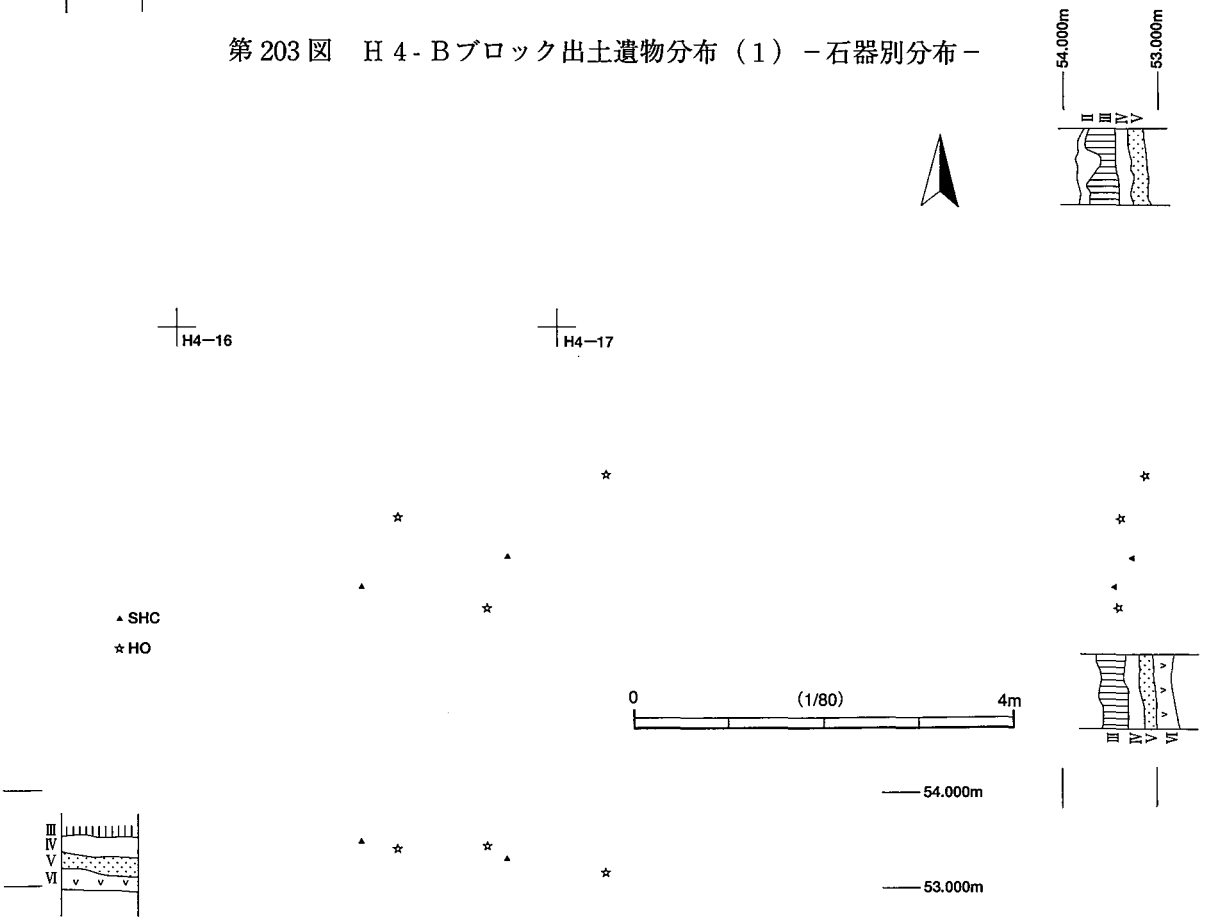
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
H4-2(SHC)																		2							2
H4-3(HO)																		3							3
合　計																		5							5

第113表　Ｈ4-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
頁岩C(SHC)																		2							2
ホルンフェルス(HO)																		3							3
合　計																		5							5



第203図　H4-Bブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第204図　H4-Bブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

3 H6- Aブロック（第205～207・268図，第114・115表，カラー図版16）

1）ブロックの概要

H6- Aブロックは，調査範囲西側のH6-31・41グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は120ｍである。

ブロックの規模と形状は，直径3ｍの範囲に7点の石器が分布する。出土層位は，調査時の所見によればⅢ層で，20cmほどの高低差をもって包含されている（第205・206図）。

ブロックは，使用痕ある剥片2点，剥片4点，石核1点の合計7点で構成される。石器石材は，頁岩Ａ4点，頁岩Ｄ3点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは5母岩を識別した。内訳は，頁岩Ａ3母岩（H6-1・2・4），頁岩Ｄ2母岩（H6-3・5）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（7/7点）である。

・**H6-1**：黒褐色（10YR3/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点（4.1g）の単独資料である。

・**H6-2**：自然面は凹凸が顕著で黄褐色（2.5Y5/3），内部は黒褐色（2.5Y3/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，石核1点（11.3g）の単独資料である。

・**H6-3**：灰黄色（2.5Y7/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（1.6g）の単独資料である。

・**H6-4**：内部及び節理はにぶい黄橙色（10YR6/4）・黒褐色（10YR3/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（5.0g）である。

・**H6-5**：自然面は平滑で淡黄色（2.5Y8/4），内部は淡黄色（2.5Y8/3）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（6.9g）である。

3）出土遺物（第207図）

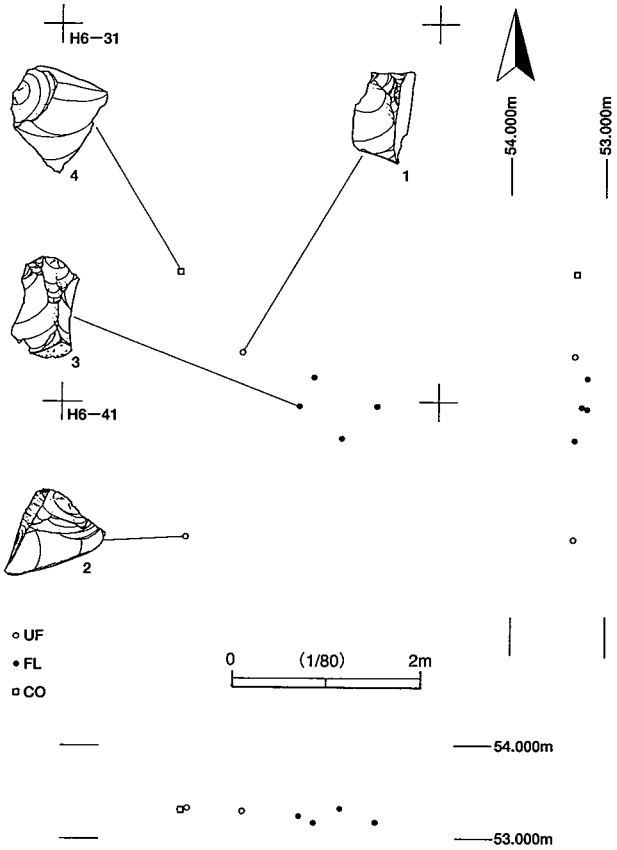
1・2は東北産頁岩による使用痕ある剥片である。不定型な剥片を素材とし，1は裏面右側縁，2は表面末端と裏面左側縁の一部に刃こぼれが見られる。3は硬質緻密な頁岩による縦長剥片である。図上，自然面として図示した部分は節理の可能性がある。4は東北産頁岩による石核である。素材の主要剥離面側で不定型な剥片を剥離している。裏面右側縁下部には比較的大きな90度近い急角度の剥離痕が見られる。また，裏面左側縁下部には細かい調整加工が行われており，刃こぼれも見られる。削器あるいは掻器への転用あるいは削器あるいは掻器からの転用が考えられる。

第114表　Ｈ６-Ａブロック母岩別石器組成

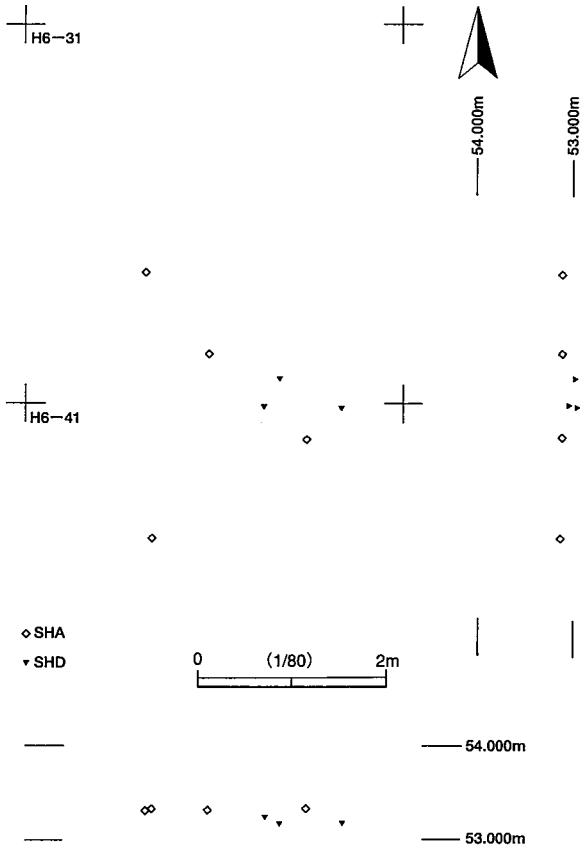
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
H6-1(SHA)											1														1
H6-2(SHA)																				1					1
H6-3(SHD)																		1							1
H6-4(SHA)											1							1							2
H6-5(SHD)																		2							2
合　計											2							4		1					7

第115表　Ｈ６-Ａブロック石材別石器組成

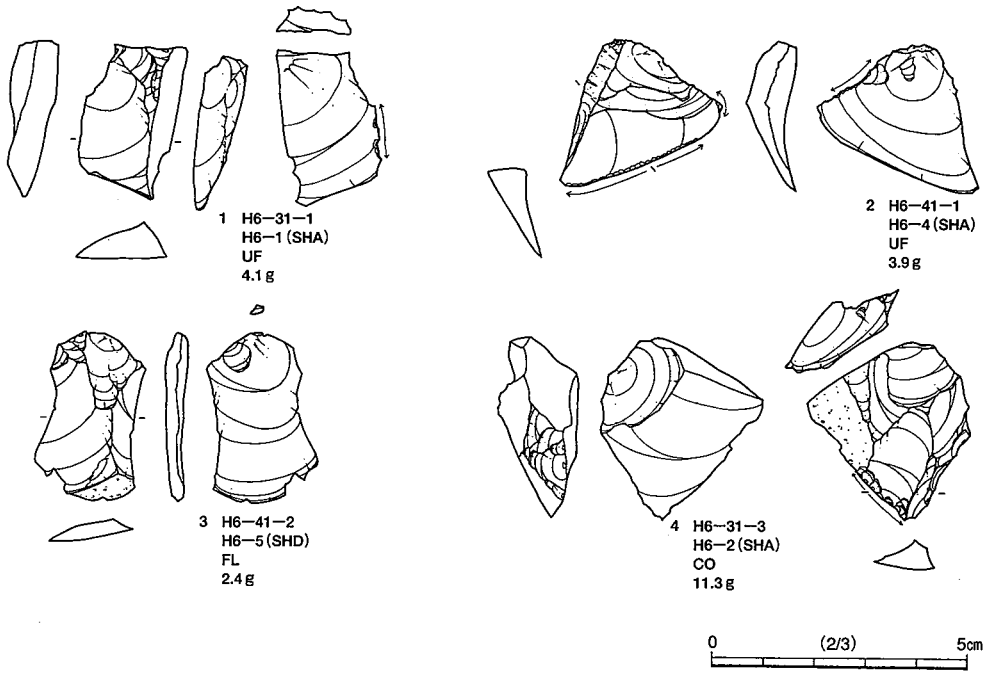
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
頁岩A(SHA)											2							1		1					4
頁岩D(SHD)																		3							3
合　計											2							4		1					7



第205図　H 6 - Aブロック出土遺物分布（1）
－石器別分布－



第206図　H 6 - Aブロック出土遺物分布（2）
－石材別分布－



第207図　H 6 - Aブロック出土遺物

4 E11- Aブロック（第208～213・268図，第116～118表，カラー図版16・22，図版11）

1）ブロックの概要

E11- Aブロックは，調査範囲西側のE11-65･66･74～76･85･86グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側谷頭である。

ブロックの規模と形状は，長軸8ｍ，短軸6ｍの範囲に175点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層にかけてで，80cmほどの高低差をもっているが，中心はⅢ層からⅤ層にかけてで，40cmほどの高低差をもって包含されている（第208・209図）。

ブロックは，ナイフ形石器9点，角錐状石器1点，楔形石器1点，加工痕ある剥片3点，石刃1点，敲石1点，剥片140点（136個体），砕片9点，石核8点（7個体）の合計173点（168個体）と礫2点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ10点，黒曜石Ｂ2点，黒曜石Ｇ2点，安山岩26点，頁岩Ａ1点，頁岩Ｄ1点，チャート1点，砂岩1点，ホルンフェルス12点，瑪瑙・玉髄117点（112個体）である。礫石材は不明2点（1母岩；124.7g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは13母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ3母岩（E11-2～4），黒曜石Ｂ2母岩（E11-5･6），安山岩1母岩（E11-10），頁岩Ａ1母岩（E11-7），チャート1母岩（E11-8），砂岩1母岩（E11-9），ホルンフェルス3母岩（E11-11～13），瑪瑙・玉髄1母岩（E11-1）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は95%（164/173点）である。

・**E11-1**：自然面は凹凸が顕著で褐色（7.5YR4/4）・明黄褐色（2.5Y7/6），内部は灰黄色（2.5Y7/2）・明黄褐色（2.5Y7/6）の地に灰色（2.5Y8/1）が部分的に混じる資料，黄褐色（10YR5/6）の資料など母岩内での変異がある瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，ナイフ形石器5点，角錐状石器1点，加工痕ある剥片3点，石刃1点，剥片96点（92個体），砕片5点，石核6点（5個体）の合計117点（112個体；384.4g）である。接合資料は，9グループあり，Ａは剥片3点，石核2点（1個体）の合計5点（4個体；89.4g），Ｂは剥片3点，石核1点の合計4点（34.7g），Ｃは剥片2点（4.0g），Ｄは加工痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（10.1g），Ｅは剥片5点（4個体；11.1g），Ｆは剥片2点（1個体；12.7g），Ｇは剥片2点（1個体；3.5g），Ｈは剥片2点（1.5g），Ｉは剥片2点（1個体；0.8g）である。

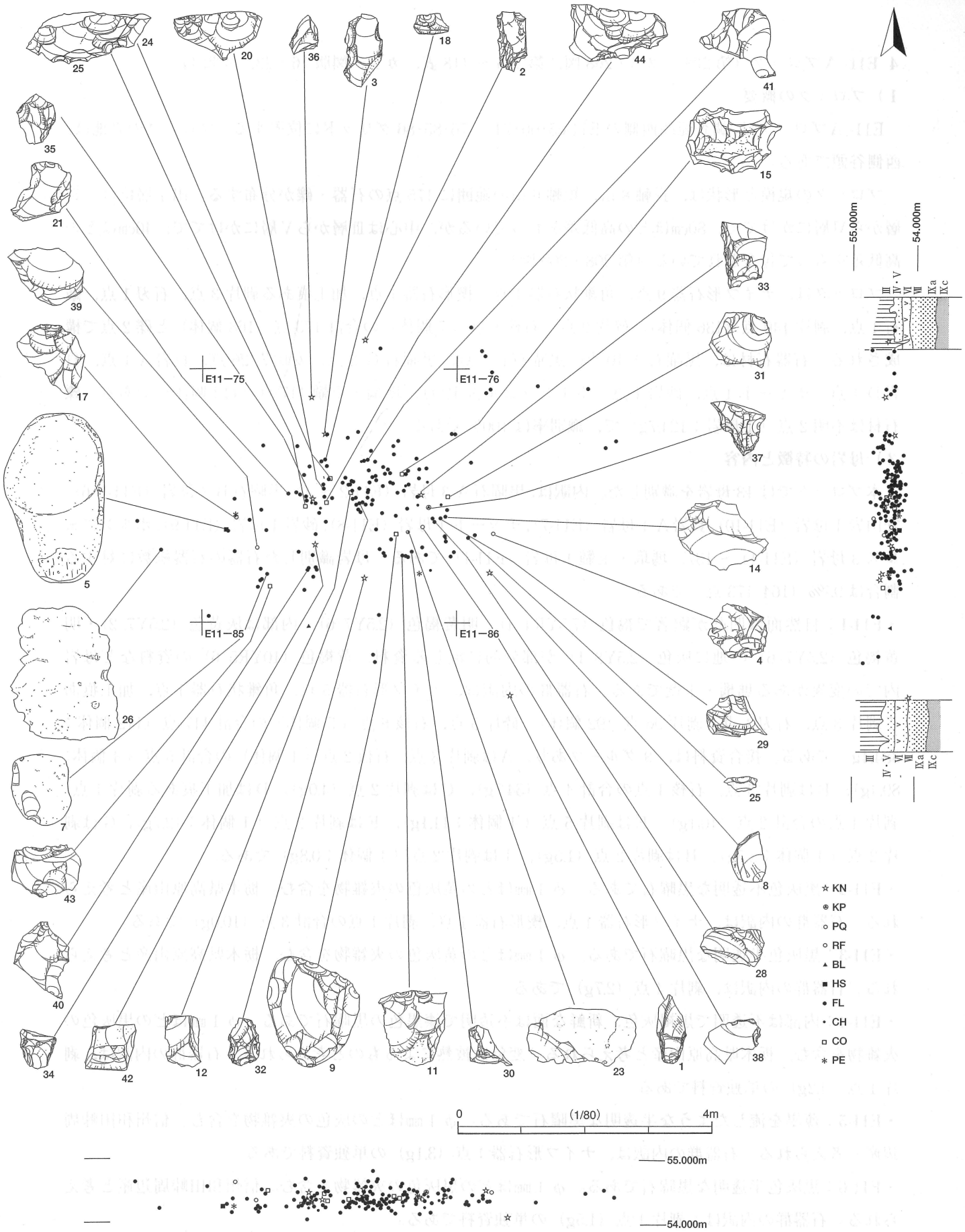
・**E11-2**：黒灰色不透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，楔形石器1点，剥片1点の合計3点（10.0g）である。

・**E11-3**：黒灰色半透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片4点（2.7g）である。

・**E11-4**：内部は不透明で黒褐灰色，新鮮な面は不透明で漆黒色の黒曜石である。φ1㎜ほどの黒灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。変色は被熱によるものと考えられる。石器群の内訳は，剥片1点（4.2g）の単独資料である。

・**E11-5**：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点（3.1g）の単独資料である。

・**E11-6**：黒灰色半透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの黒灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片1点（1.5g）の単独資料である。



第 208 図　Ｅ 11- Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

・**E11-7**：自然面は平滑で灰黄色（2.5Y6/2），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点（3.9g）の単独資料である。

・**E11-8**：内部は灰色(N4/0)，節理は黄褐色(2.5Y5/4)のチャートである。石器群の内訳は，剥片１点(3.5g)の単独資料である。

・**E11-9**：自然面は平滑で灰オリーブ色（7.5Y5/2)・オリーブ黄色（5Y6/3)，内部はオリーブ黄色（5Y6/3）の砂岩である。石器群の内訳は，敲石１点（202.0g）の単独資料である。

・**E11-10**：自然面は紙ヤスリ状で黄褐色（2.5Y5/3)，内部は暗灰黄色（2.5Y4/2)，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片22点，砕片２点，石核１点の合計25点（106.0g）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片１点，石核１点の合計２点（64.3g），Ｂは剥片２点（22.0g）である。

・**E11-11**：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片２点，石核１点の合計４点（85.9g）である。接合資料は，ナイフ形石器１点，剥片１点，石核１点の合計３点（84.7g）である。

・**E11-12**：灰色（10Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点（6.9g）である。

・**E11-13**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（4.8g）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ａの剥片２点（1.4g），黒曜石Ｇの剥片１点，砕片１点の合計２点（0.2g），安山岩の剥片１点（1.4g），頁岩Ｄの剥片１点（0.2g），ホルンフェルスの剥片２点，砕片１点の合計３点（0.6g）がある。

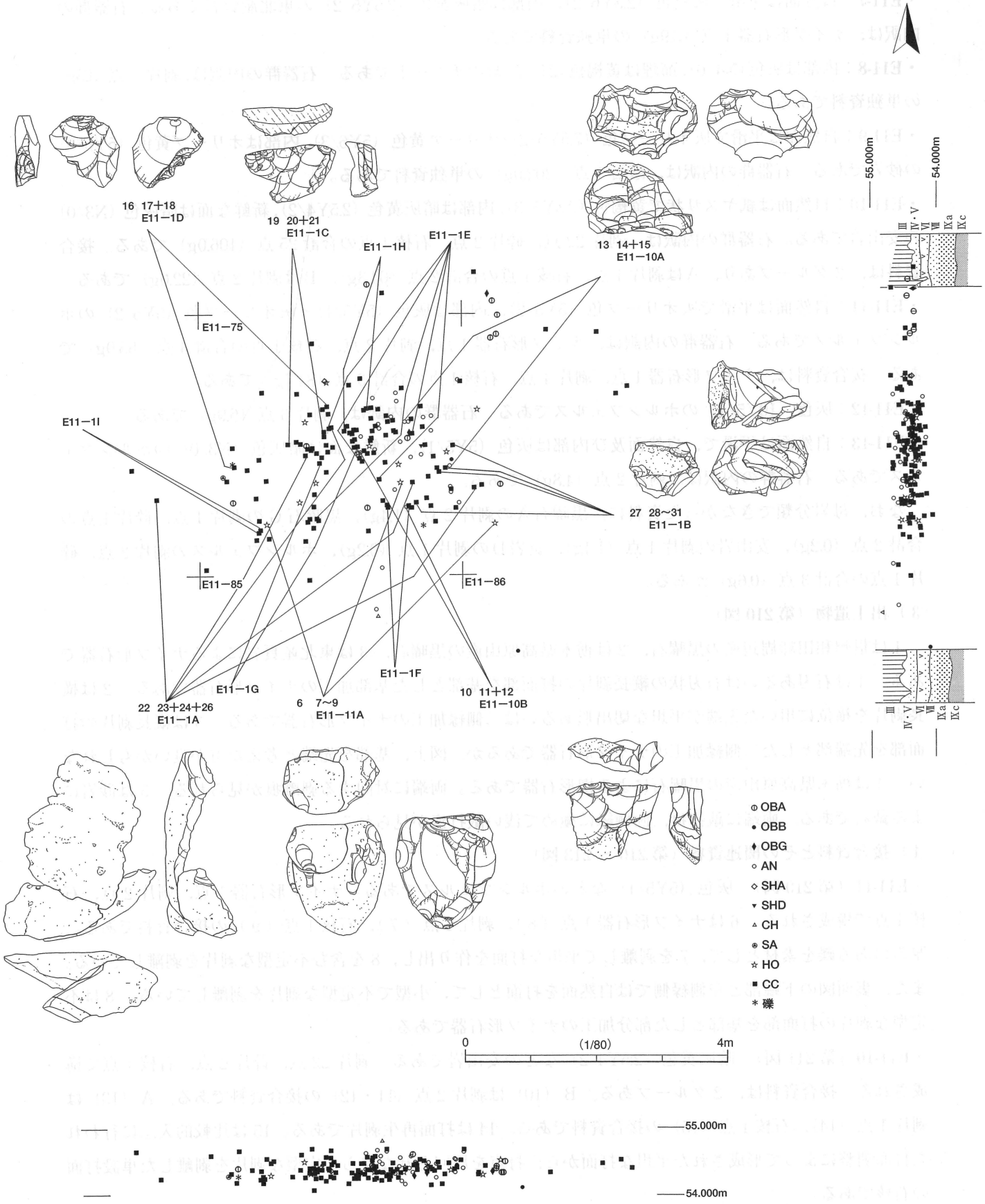
３）出土遺物（第210図）

１は信州和田峠周辺産の黒曜石，２は栃木県高原山産の黒曜石，３は東北産頁岩によるナイフ形石器である。１は石刃あるいは石刃状の縦長剥片の打面部を基部とした基部加工のナイフ形石器である。２は横長剥片を横位に用いた先端が平坦な切出形あるいは二側縁加工のナイフ形石器である。３は縦長剥片の打面部を先端部とした二側縁加工のナイフ形石器であるが，図上，基部を先端と考えた方が良いかもしれない。４は栃木県高原山産の黒曜石による楔形石器である。両端に対向する剥離痕が見られる。５は砂岩による敲石である。両端に敲打痕，両側縁に極めて浅い敲打痕が見られる。

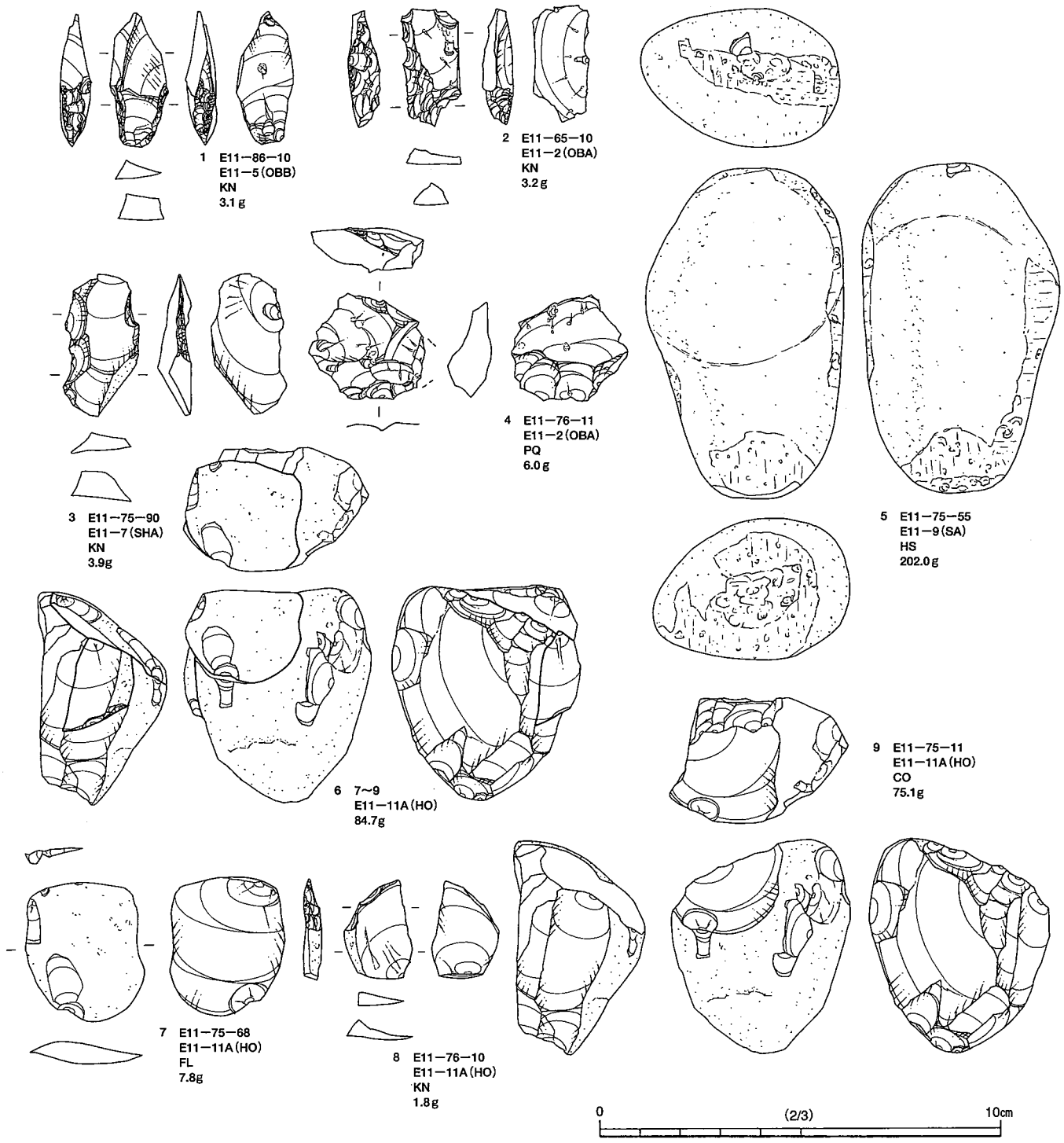
４）接合資料とその関連資料（第210～213図）

・**E11-11（第210図）**　灰色（5Y5/1）などのホルンフェルスである。ナイフ形石器１点，剥片２点，石核１点で構成される。６はナイフ形石器１点（８），剥片１点（７），石核１点（９）の接合資料である。厚みのある礫を素材として，７を剥離して平坦な打面を作り出し，８を含む不定型な剥片を剥離している。また，裏面図の下端部と左側縁側では自然面を打面として，小型で不定型な剥片を剥離している。８は不定型な剥片の打面部を基部とした部分加工のナイフ形石器である。

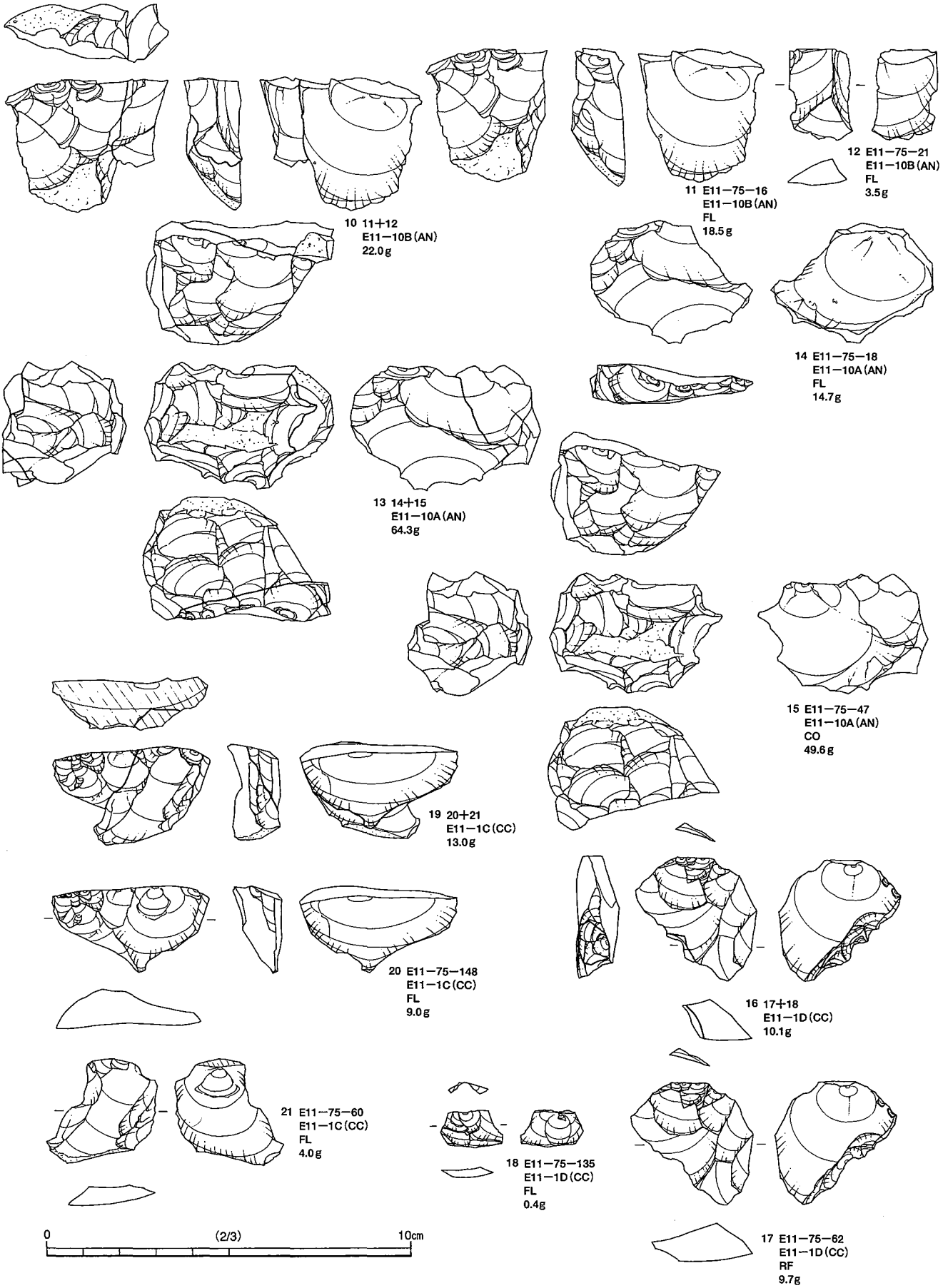
・**E11-10（第211図）**　暗灰黄色（2.5Y4/2）などの安山岩である。剥片22点，砕片２点，石核１点で構成される。接合資料は，２グループある。Ｂ（10）は剥片２点（11・12）の接合資料である。Ａ（13）は剥片１点（14），石核１点（15）の接合資料である。14は打面再生剥片である。15は比較的入念に行われた打面調整によって形成された平坦な打面から，打点を周回させながら不定型な剥片を剥離した単設打面の石核である。



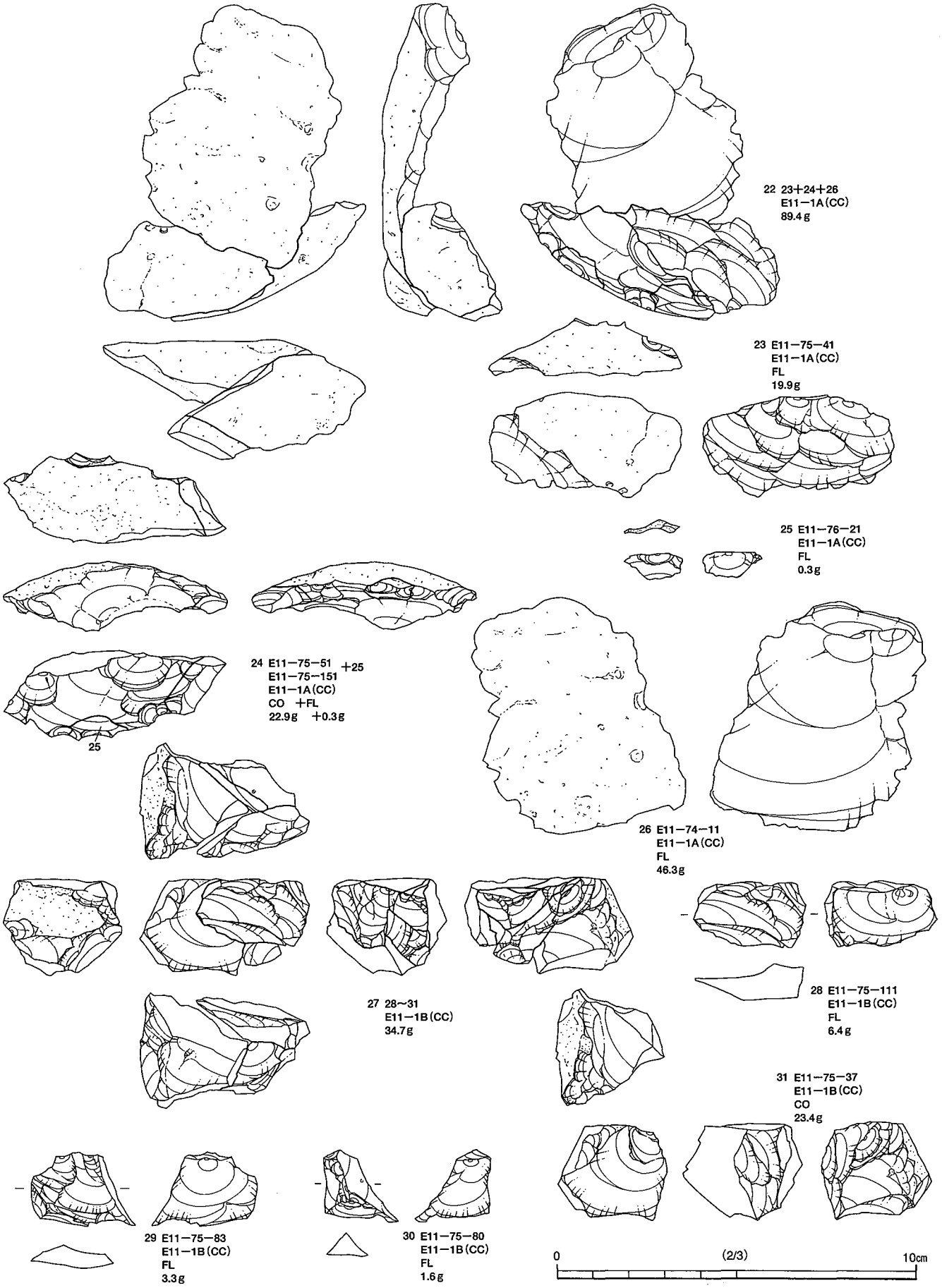
第209図　Ｅ11-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



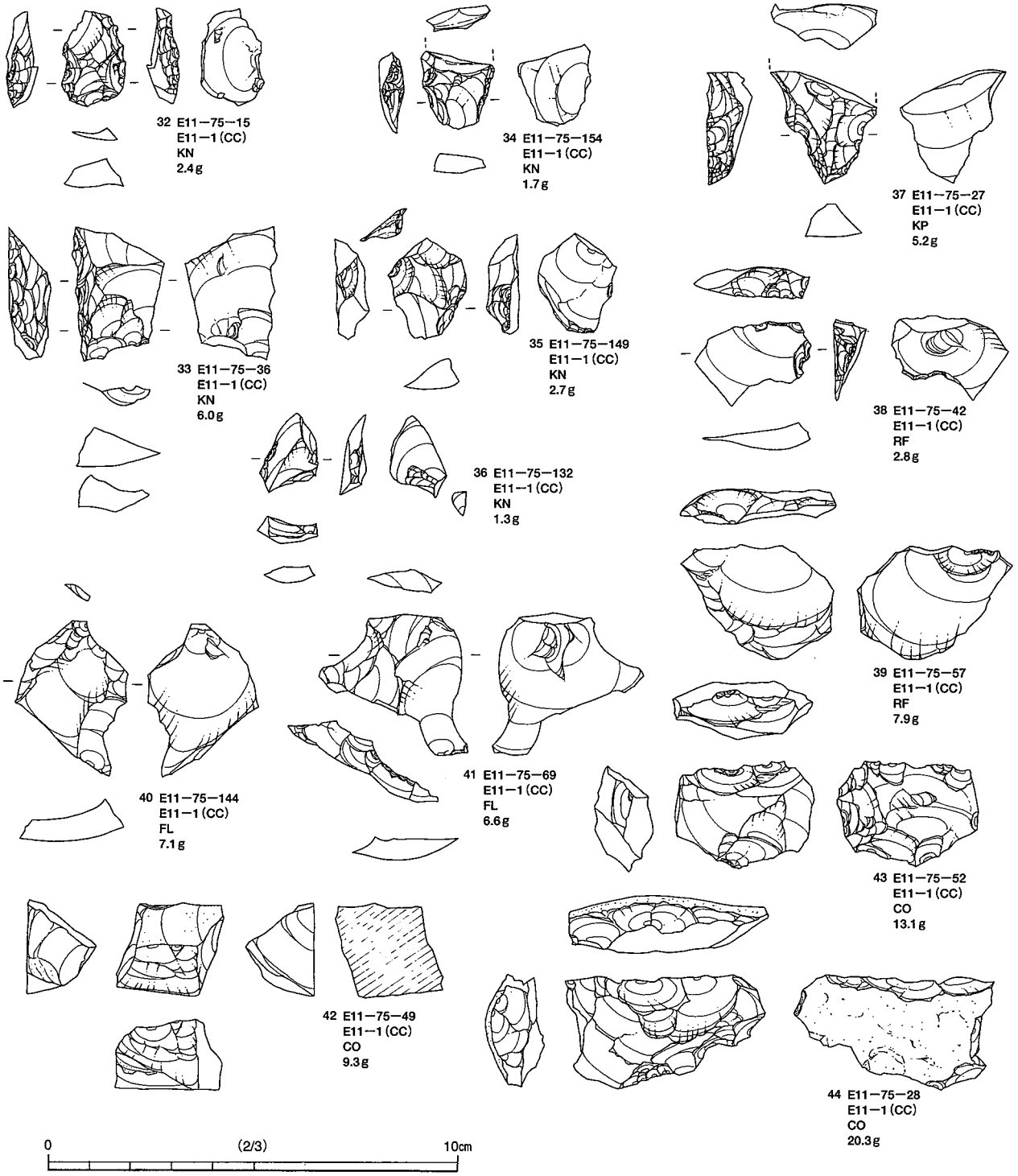
第210図　E 11- Aブロック出土遺物（1）



第211図　Ｅ11-Ａブロック出土遺物（２）



第212図　E 11- Aブロック出土遺物（3）



第213図　E 11- Aブロック出土遺物（４）

・**E11-1（第211～213図）**　灰黄色(2.5Y7/2)などの瑪瑙・玉髄である。ナイフ形石器5点，角錐状石器1点，加工痕ある剥片3点，石刃1点，剥片96点（92個体），砕片5点，石核6点（5個体）で構成される。接合資料は，9グループある。D（16）は加工痕ある剥片1点（17），剥片1点（18）の接合資料である。18は刃部作出のための調整剥片である。17は裏面側の右側縁に表面側から鋸歯状の調整加工を行っている。C（19）は剥片2点（20・21）の接合資料である。A（22）は剥片3点（23・25・26），石核2点（1個体;24）の接合資料である。24は求心的な剥離作業を行って小型で不定型な剥片を剥離している。また，24は2点が接合して1個体となる。B（27）は剥片3点（28～30），石核1点（31）の接合資料である。27は打面と作業面を入れ替えながら不定型な剥片を剥離している。32～44は接合しなかった同一母岩の資料である。32・34は横長剥片を横位に用いた二側縁加工，33・36は打面側を基部とした一側縁加工，35は打面側を先端部とした部分加工のナイフ形石器である。37は上半部を欠損した角錐状石器である。両側縁に鋸歯状の調整加工が行われている。38・39は加工痕ある剥片である。38・39は不定型な剥片を素材として，それぞれ38は右側縁，39は裏面側頭部に調整加工を行っている。40・41は不定型な剥片で，41は打面再生剥片と考えられる。42～44は石核である。42は打面と作業面を入れ替えながら，43は両面で，求心的な剥離作業を行いながら，44は求心的な剥離作業を行いながら，小型で不定型な剥片を剥離している。

第116表　E11-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
E11-1(CC)	5			1						3		1						96(92)	5	6(5)					117(112)
E11-2(OBA)	1								1									1							3
E11-3(OBA)																		4							4
E11-4(OBA)																		1							1
E11-5(OBB)	1																								1
E11-6(OBB)																		1							1
E11-7(SHA)	1																								1
E11-8(CH)																		1							1
E11-9(SA)																1									1
E11-10(AN)																		22	2	1					25
E11-11(HO)	1																	2		1					4
E11-12(HO)																		3							3
E11-13(HO)																		2							2
その他(OBA)																		2							2
その他(OBG)																		1	1						2
その他(AN)																		1							1
その他(SHD)																		1							1
その他(HO)																		2	1						3
合　計	9			1					1	3		1				1		140(136)	9	8(7)					173(168)

第117表　E11-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石A(OBA)	1								1									8							10
黒曜石B(OBB)	1																	1							2
黒曜石G(OBG)																		1	1						2
安山岩(AN)																		23	2	1					26
頁岩A(SHA)	1																								1
頁岩D(SHD)																		1							1
チャート(CH)																		1							1
砂岩(SA)																1									1
ホルンフェルス(HO)	1																	9	1	1					12
瑪瑙・玉髄(CC)	5			1						3		1						96(92)	5	6(5)					117(112)
合　計	9			1					1	3		1				1		140(136)	9	8(7)					173(168)

第118表　E11-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
E11R-1	UK	2	124.7

石　材	個数	重量
不明(UK)	2	124.7
合　計	2	124.7

5 E12- Aブロック（第214～216図，第119～121表，カラー図版16，図版11）

1）ブロックの概要

E12- Aブロックは，調査範囲西側のE12-61グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側谷頭である。

ブロックの規模と形状は，直径３ｍの範囲に27点の石器・礫が分布する。出土層位は，調査時の所見によればⅣ・Ⅴ～Ⅵ層である（第214・215図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，削器１点，剥片８点，砕片15点，石核１点の合計26点と礫１点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ13点，黒曜石Ｇ８点，安山岩１点，頁岩Ａ２点，頁岩Ｄ２点である。礫石材は砂岩１点（１母岩；5.3g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（E12-4），安山岩１母岩（E12-3），頁岩Ａ１母岩（E12-1），頁岩Ｄ１母岩（E12-2）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は69%（18/26）である。

・**E12-1**：自然面は平滑でにぶい黄橙色（10YR6/3），内部はにぶい黄褐色（10YR5/3）・灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，石核１点の合計２点（13.5g）である。

・**E12-2**：自然面は平滑で黄褐色（10Y5/6），内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）・淡黄色（2.5Y8/4）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，砕片１点の合計２点（3.8g）である。

・**E12-3**：暗灰黄色（2.5Y5/2）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片１点（1.1g）の単独資料である。

・**E12-4**：自然面は凹凸が顕著で黒灰色，内部は黒灰色半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，削器１点，剥片６点，砕片６点の合計13点（15.9g）である。

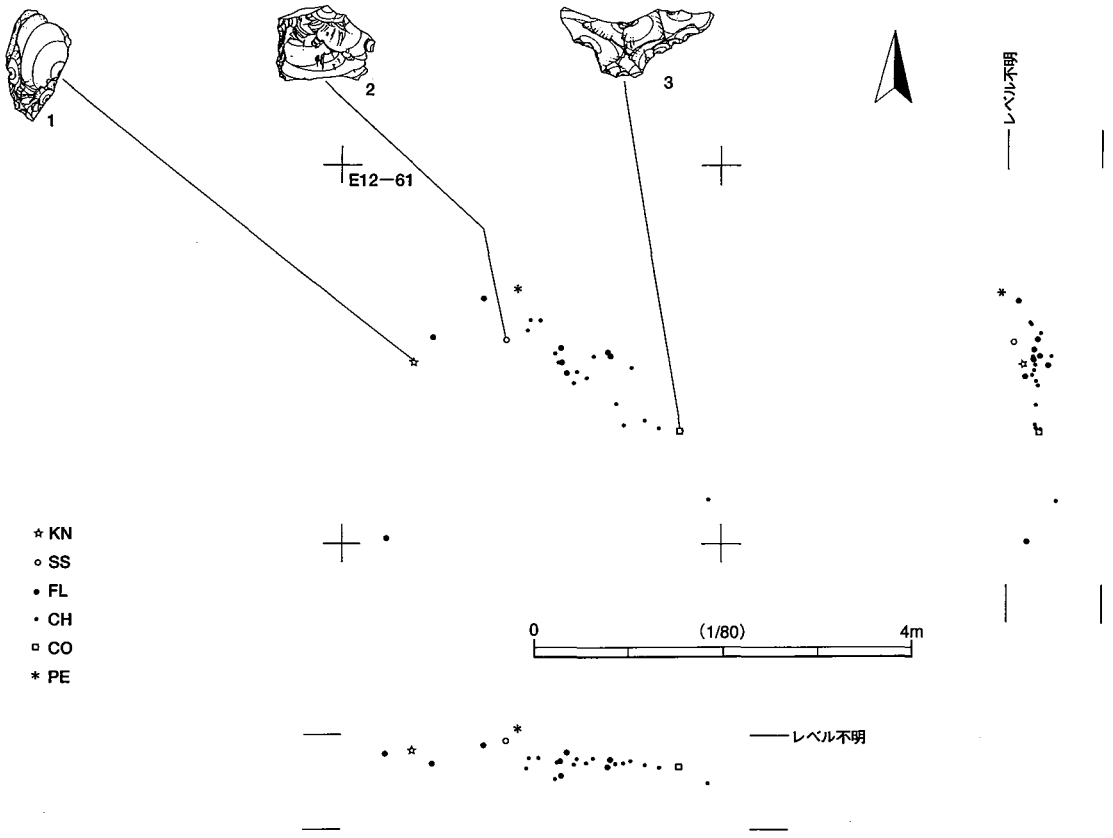
なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｇの砕片８点（0.9g）がある。

3）出土遺物（第216図）

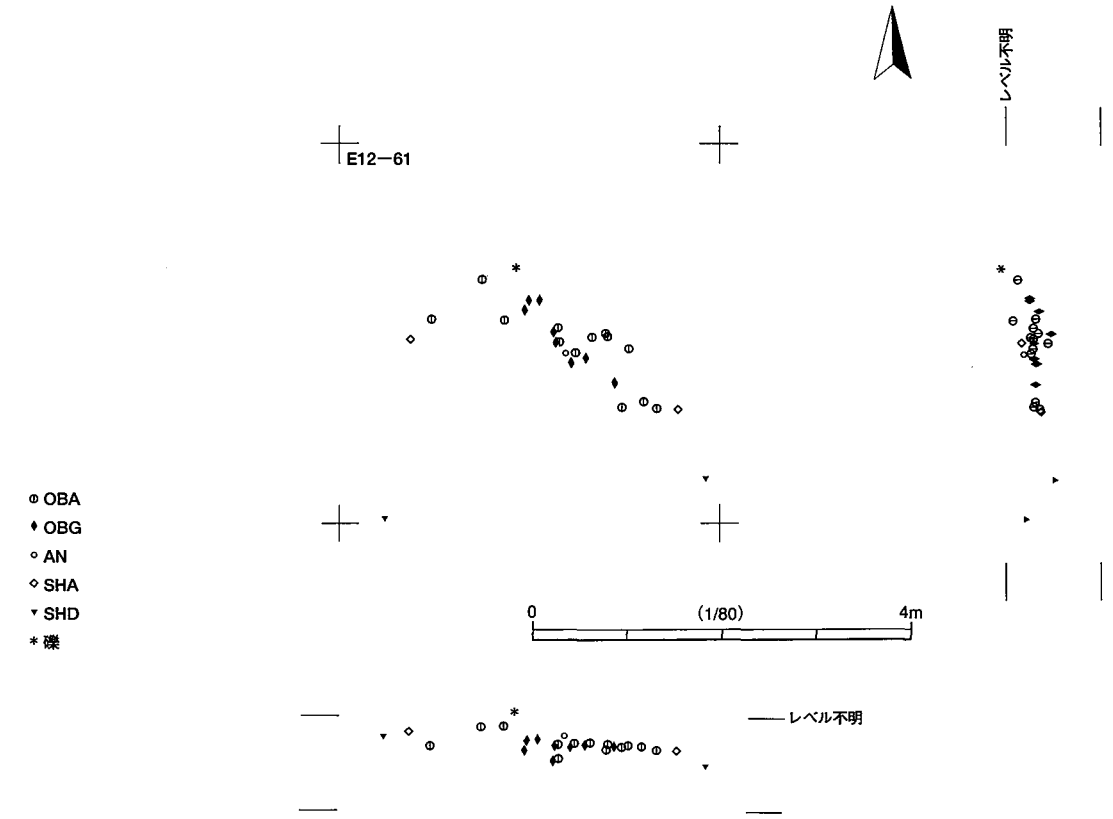
１は東北産頁岩にナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い，基部に調整加工を行った切出形のナイフ形石器である。２は栃木県高原山産の黒曜石による削器である。不定型な剥片を素材として左側縁に，細かい調整加工を行っている。３は東北産頁岩よる石核である。不定型な剥片を素材として，求心的な剥離作業を行いながら，小型で不定型な剥片を剥離している。

第119表　E12-Aブロック母岩別石器組成

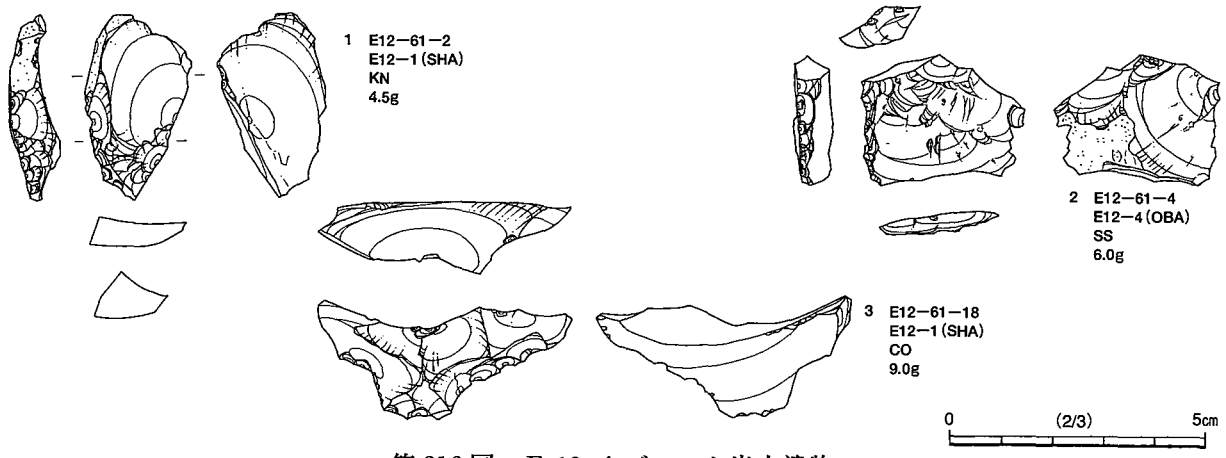
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
E12-1(SHA)	1																			1					2
E12-2(SHD)																		1	1						2
E12-3(AN)																		1							1
E12-4(OBA)						1												6	6						13
その他(OBG)																			8						8
合　計	1					1												8	15	1					26



第214図　E 12- Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第215図　E 12- Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－



第216図　E 12- Aブロック出土遺物

第120表　E12-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石A(OBA)						1												6	6						13
黒曜石G(OBG)																			8						8
安山岩(AN)																		1							1
頁岩A(SHA)	1																			1					2
頁岩D(SHD)																		1	1						2
合　計	1					1												8	15	1					26

第121表　E12-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
E12R-1	SA	1	5.3

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	5.3
合　計	1	5.3

6 N5- Aブロック（第217・218・268図，第122表，図版11）

1）ブロックの概要

N5- Aブロックは，調査範囲東側のN5-97・98グリッドに位置する。ブロックの立地は，東側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は60 mである。

ブロックの規模と形状は，長軸5 m，短軸2 mの範囲に87点の礫が分布するが，特にN5-98グリッドを中心とする直径3 mの範囲に集中する。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層にかけてで，40cmほどの高低差をもって包含されている（第217・218図）。

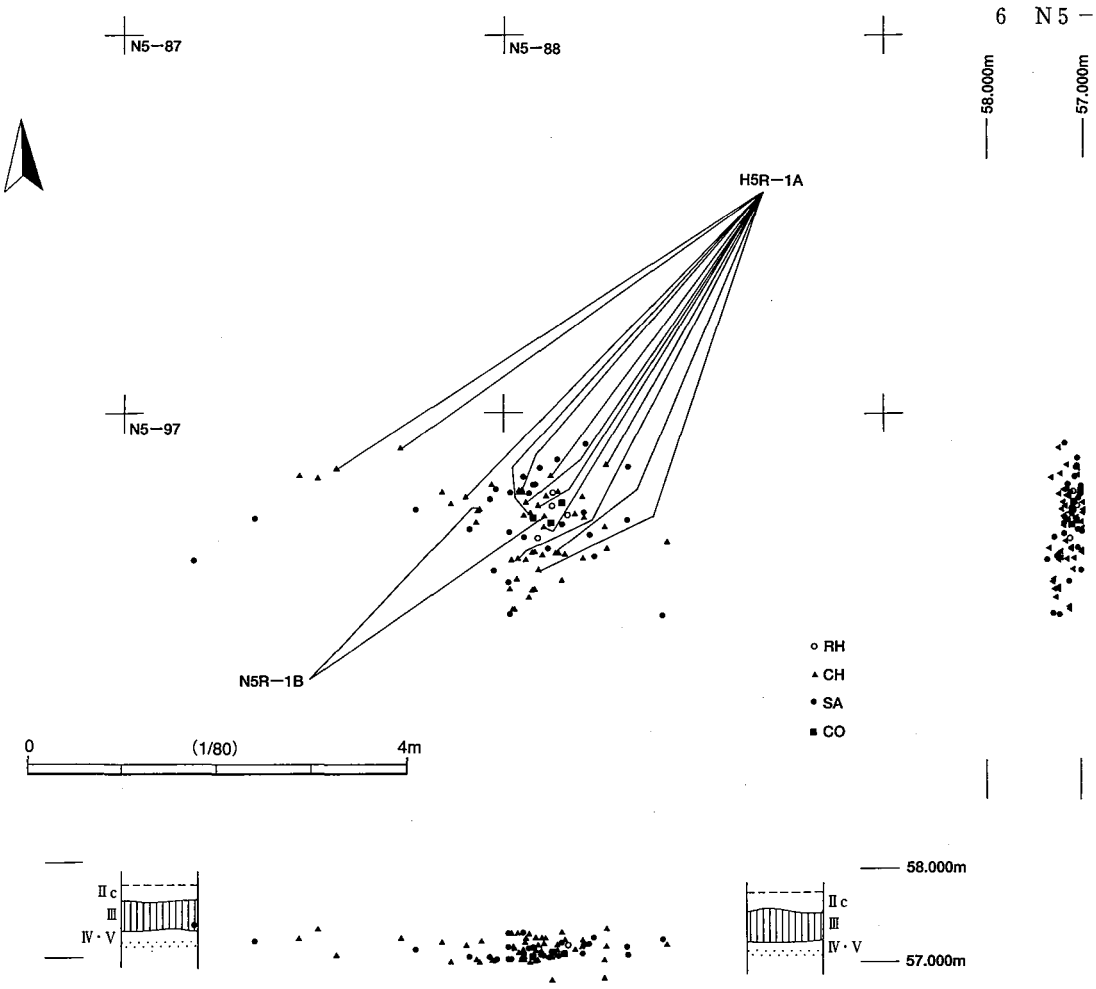
ブロックは，礫87点で構成される。礫石材は，流紋岩4点（4母岩;464.2g），チャート44点（3母岩;492.4g），砂岩8点（5母岩;195.8g），礫岩3点（1母岩;348.0g），識別できなかったチャート9点（3.5g），砂岩19点（64.0g）で，識別率は68%である。

第122表　N 5 -Aブロック礫組成

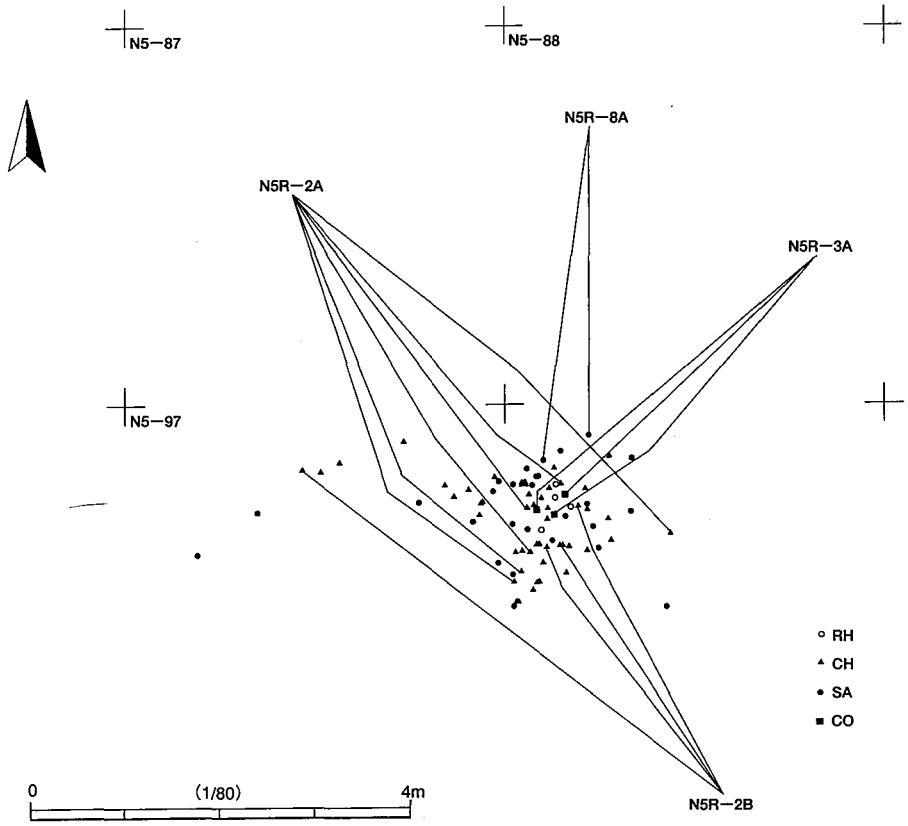
母　岩	石 材	個数	重量
N5R-1	CH	20	281.2
N5R-2	CH	21	117.9
N5R-3	CO	3	348.0
N5R-4	RH	1	26.4
N5R-5	RH	1	48.8
N5R-6	RH	1	224.8
N5R-7	RH	1	164.2
N5R-8	SA	4	82.7
N5R-9	SA	1	26.4
N5R-10	SA	1	35.5

母　岩	石 材	個数	重量
N5R-11	SA	1	33.0
N5R-12	SA	1	18.2
N5R-13	CH	3	93.3
その他	CH	9	3.5
その他	SA	19	64.0

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	4	464.2
チャート(CH)	53	495.9
砂岩(SA)	27	259.8
礫岩(CO)	3	348.0
合　計	87	1567.9



第217図　N5-Aブロック出土遺物分布（1）－礫石材別分布（1）－



第218図　N5-Aブロック出土遺物分布（2）－礫石材別分布（2）－

7 V11- Aブロック（第219～221・268図，第123・124表，カラー図版16・22）

1）ブロックの概要

V11- Aブロックは，調査範囲東側のV11-83･93グリッドに位置する。ブロックの立地は，東側谷頭である。

ブロックの規模と形状は，長軸3m，短軸2mの範囲に12点の石器が分布する。出土層位は，調査時の所見によればⅣ層からⅤ層にかけてで，20cmほどの高低差をもって包含されている（第219・220図）。

ブロックは，剥片7点，砕片4点，石核1点の合計12点で構成される。石器石材は，黒曜石A 7点，黒曜石G 2点，安山岩3点である。

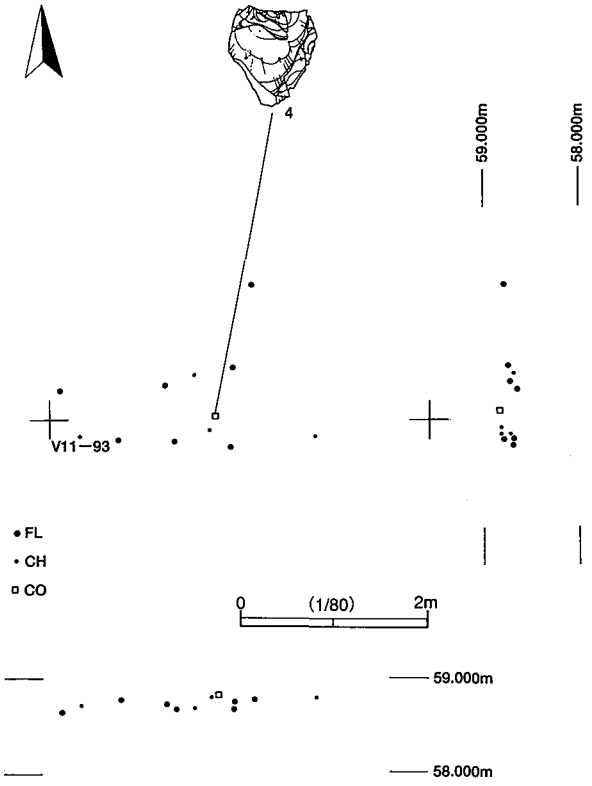
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは2母岩を識別した。内訳は，黒曜石A 1母岩（V11-1），安山岩1母岩（V11-2）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は83%（10/12点）である。

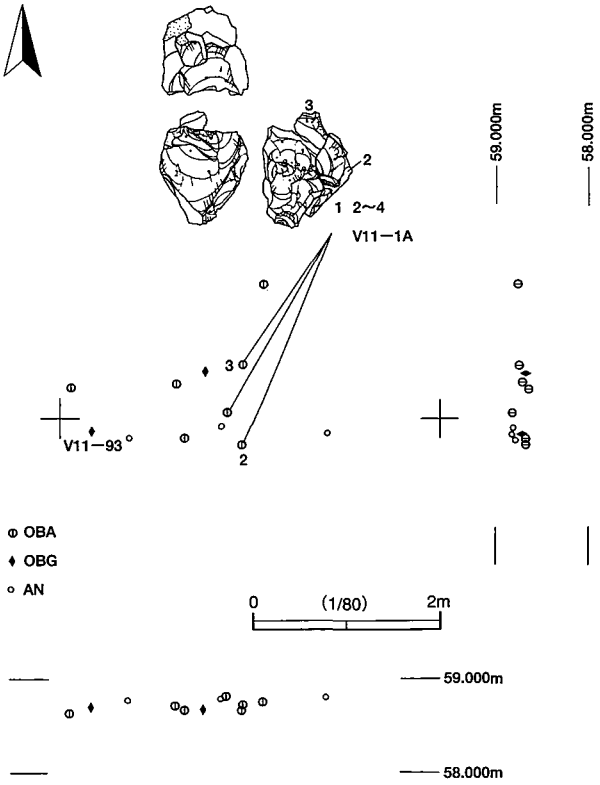
・V 11-1：自然面は凹凸が顕著で，自然面及び内部は黒灰色半透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片6点，石核1点の合計7点（29.5g）である。接合資料は，剥片2点，石核1点の合計3点（24.0g）である。

・V 11-2：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片1点，砕片2点の合計3点（2.1g）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Gの砕片2点（0.2g）がある。



第219図　V 11- Aブロック出土遺物分布（1）
－石器別分布－

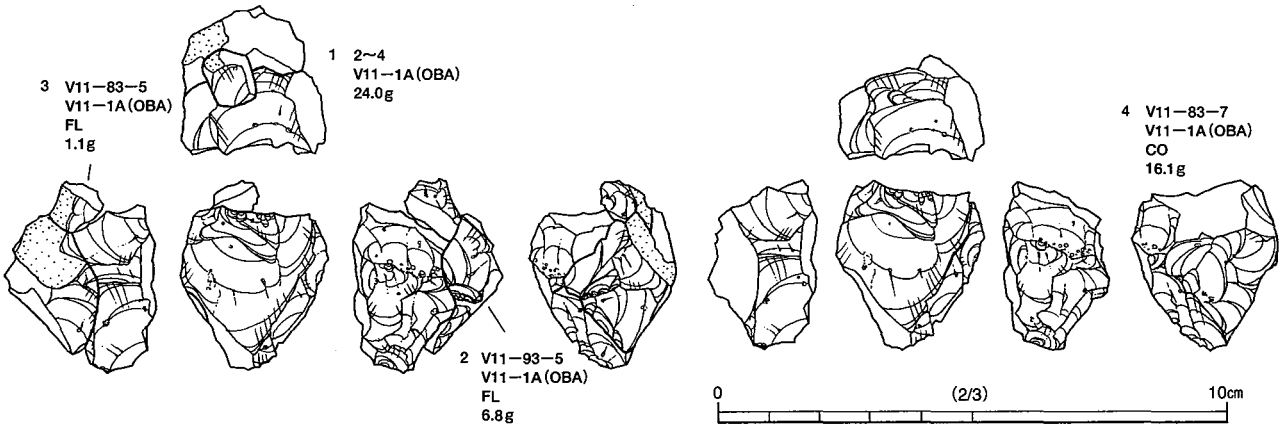


第220図　V 11- Aブロック出土遺物分布（2）
－石材別分布－

3）接合資料とその関連資料（第221図）

・V 11-1（第221図）　黒灰色半透明な黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。剥片6点，石核1

点で構成される。1は剥片2点(2・3),石核1点(4)の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら,小型で不定型な剥片を剥離している。



第221図　V 11- Aブロック出土遺物

第123表　V11-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
V11-1(OBA)																		6		1					7
V11-2(AN)																		1	2						3
その他(OBG)																			2						2
合　計																		7	4	1					12

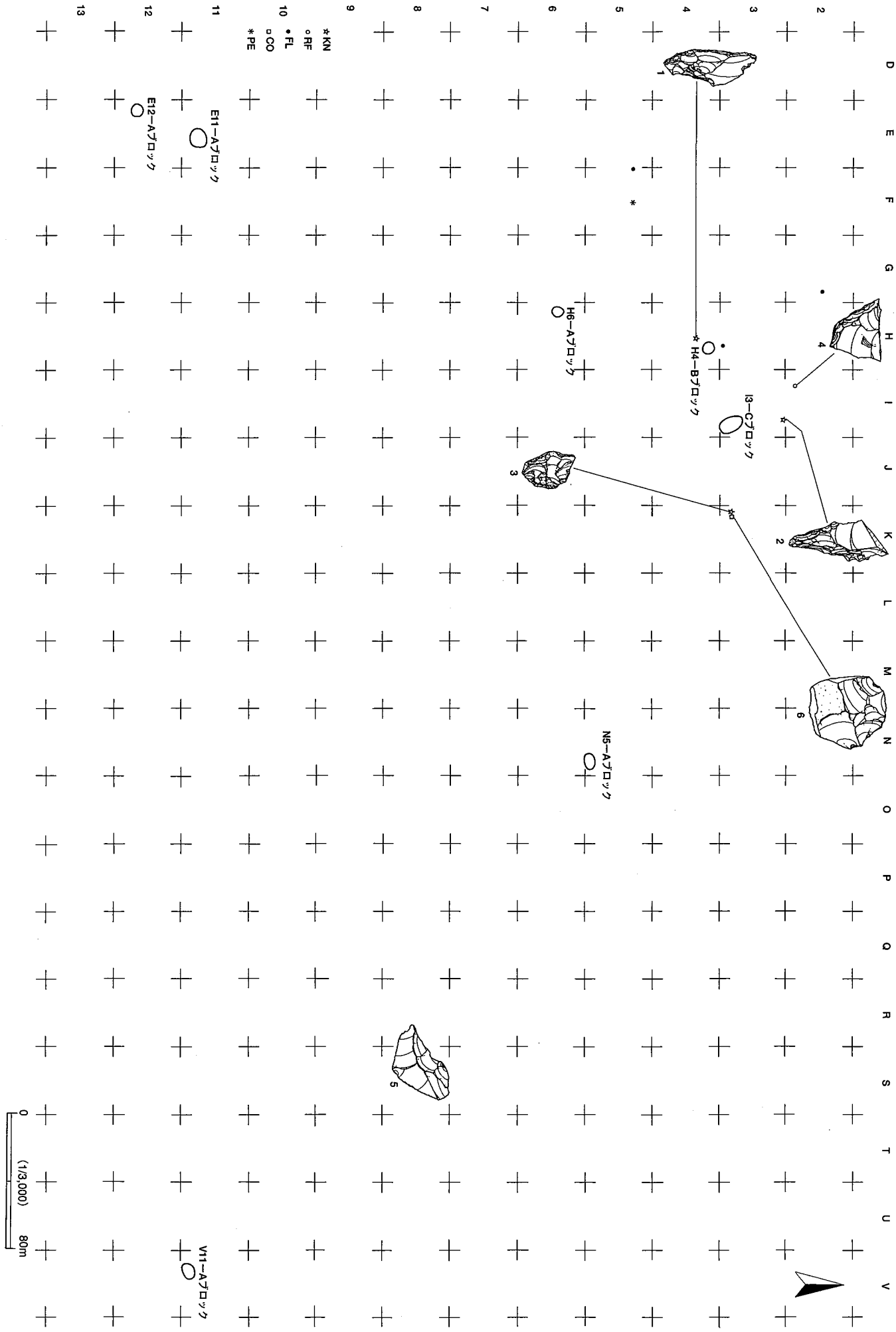
第124表　V11-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
黒曜石A(OBA)																		6		1					7
黒曜石G(OBG)																			2						2
安山岩(AN)																		1	2						3
合　計																		7	4	1					12

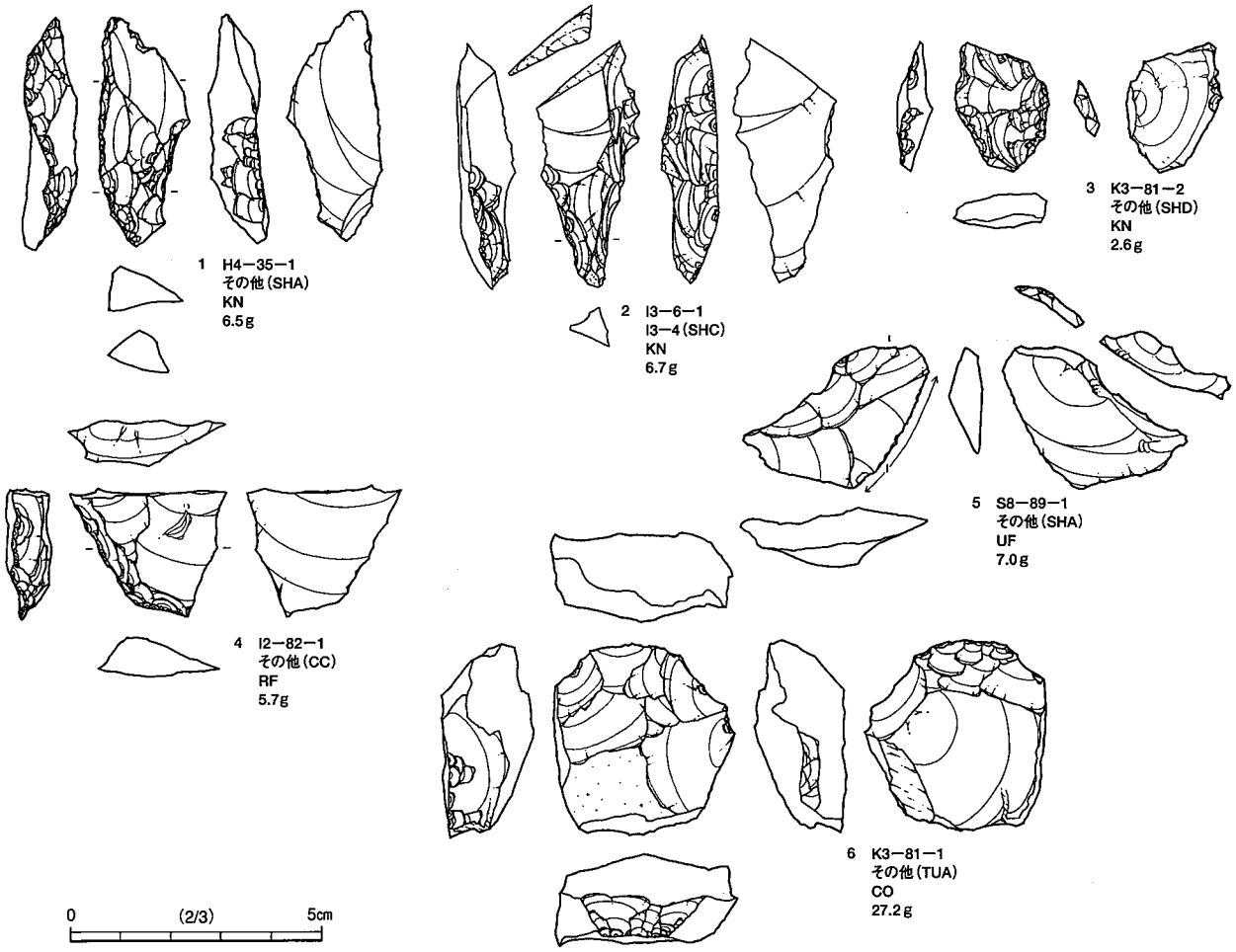
8　ブロック外（第222・223図，カラー図版17）

1は褐灰色（10YR4/1）・黒褐色（10YR3/1）の東北産頁岩による二側縁加工あるいは切出形のナイフ形石器である。素材の打面部を先端部としている。右側縁側の刃部に刃こぼれが見られる。H4-35グリッドのⅢ層下部から出土した。2はにぶい黄褐色（10YR5/3）・灰黄褐色（10YR5/2）・灰白色（10YR8/2）の嶺岡産頁岩による切出形のナイフ形石器である。素材の打面部を先端部としている。I3-6グリッドのⅢ層上部から出土した。3は暗灰黄色（2.5Y5/2）の硬質緻密な頁岩による二側縁加工あるいは切出形のナイフ形石器である。寸詰まりの不定型な剥片を横位に用いている。K3-81グリッドのⅣ層上部から出土した。4は淡黄色（2.5Y8/3）半透明な瑪瑙・玉髄による加工痕ある剥片である。折断剥片の左側縁から末端にかけて調整加工を行っている。I2-82グリッドのⅣ層上部から出土した。

5は灰褐色（7.5YR4/2）の東北産頁岩による使用痕ある剥片である。不定型な剥片の右側縁に刃こぼれが見られる。打面再生剥片を素材としたものかもしれない。S8-89グリッドのⅣ～Ⅴ層中部から出土した。6は自然面は比較的平滑で明オリーブ灰色（2.5GY7/1），内部は明オリーブ灰色（2.5GY7/1）・明オリーブ灰色（5GY7/1），節理は緑灰色（7.5GY5/1）の緑色凝灰岩による石核である。打面と作業面を入れ替えながら，小型で不定型な剥片を剥離している。末端や左側面に細かい剥離痕が見られることから，削器の可能性もある。K3-81グリッドのⅣ層上部から出土した。



第 222 図　第 3 文化層ブロック外出土遺物分布



第223図　第3文化層ブロック外出土遺物

第5節　第4文化層

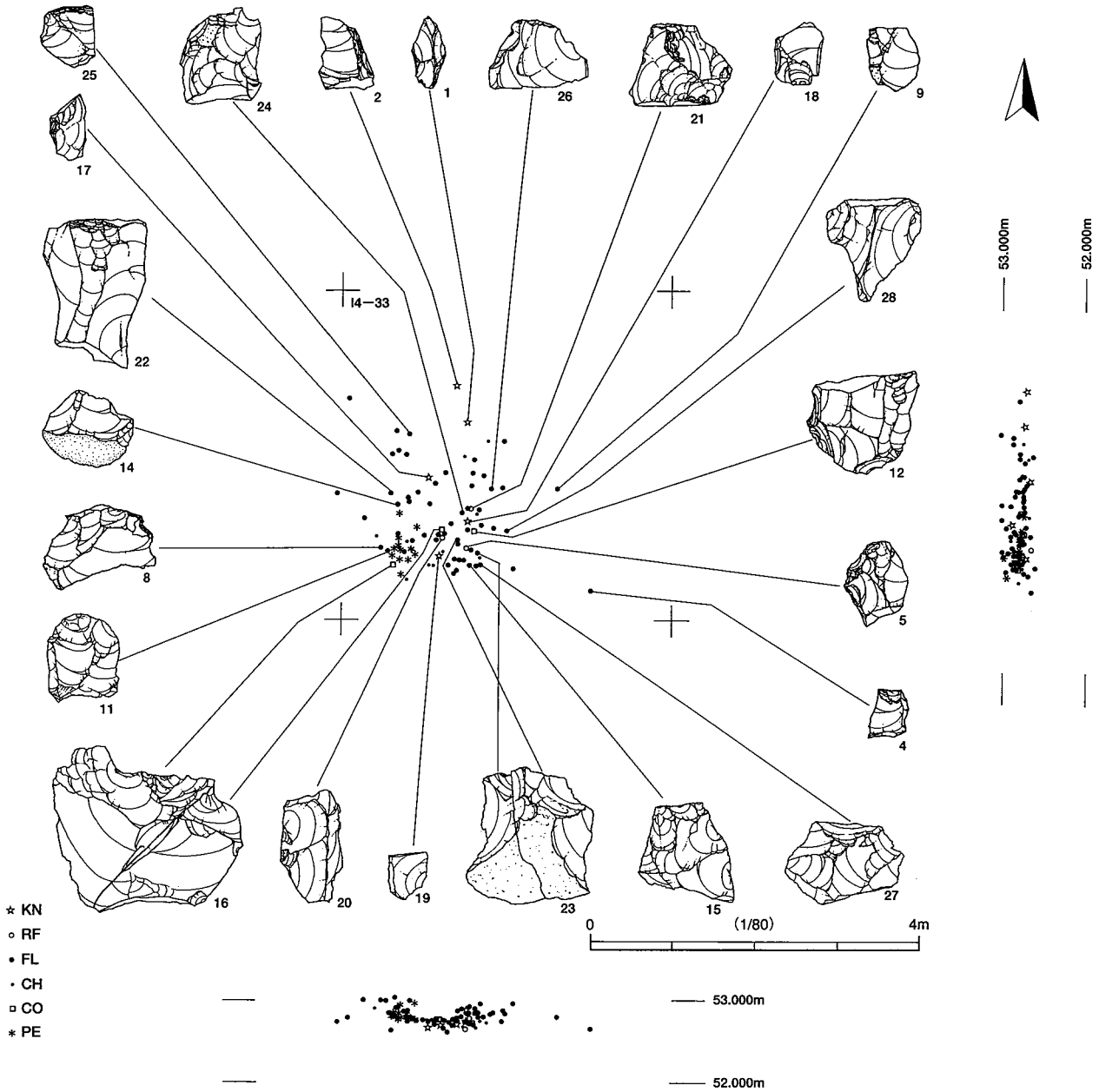
第4文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）を中心に包含されている石器群である。I4-A・B，J4-A，H5-A，G10-B，R8-Aブロックの6か所が該当する。武蔵野台地のⅣ層上部の砂川期の石器群に概ね相当すると考えられる。

1　I4-Aブロック（第224～228・268図，第125～127表，カラー図版17・22，図版11）

1）ブロックの概要

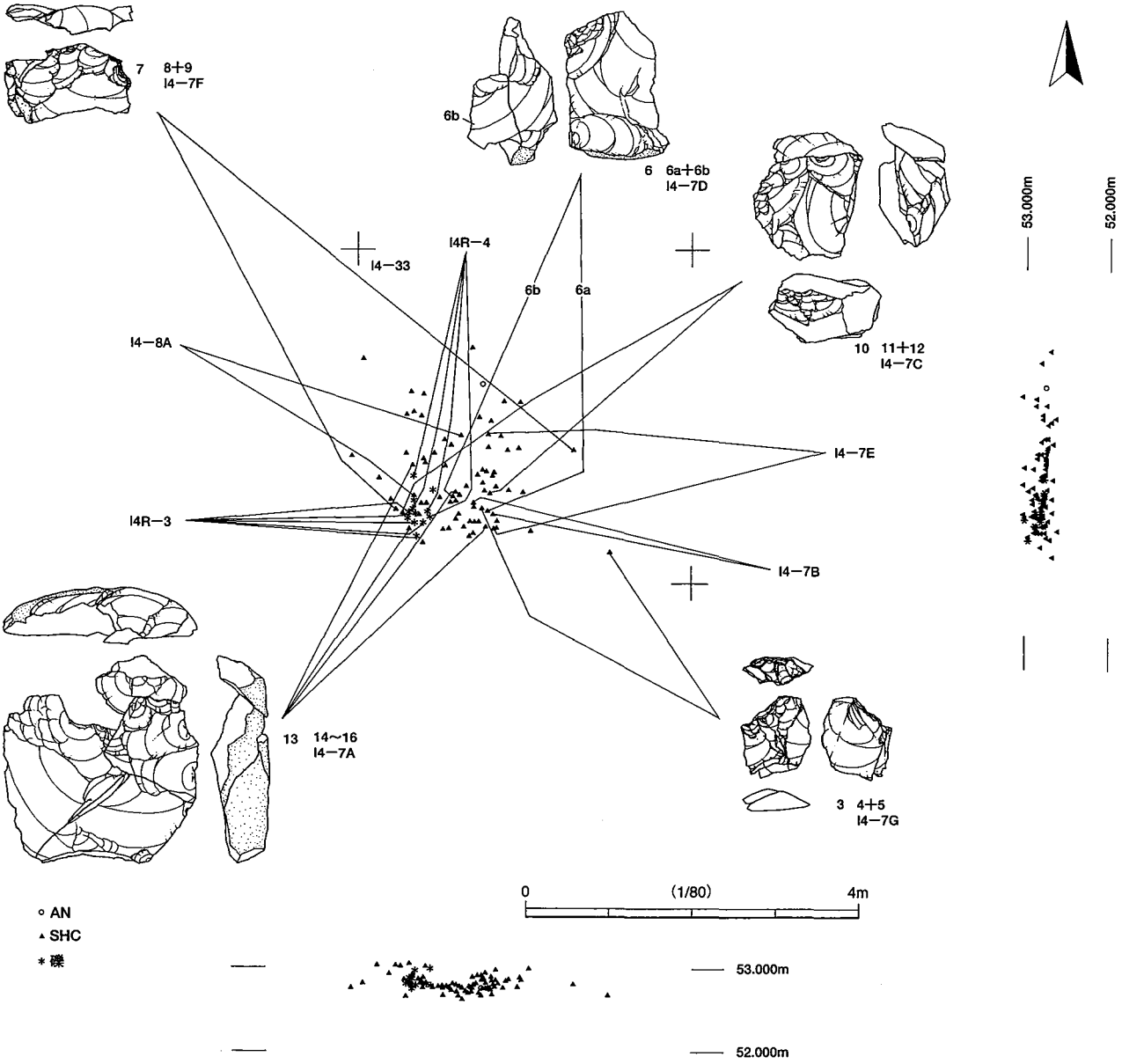
I4-Aブロックは，調査範囲西側のI4-32・33グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は100mである。

ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸2mの範囲に89点の石器・礫が分布する。出土層位は，調査時の所見よればⅢ層で，40cmほどの高低差をもって包含されている（第224・225図）。



第224図　I4-Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－

ブロックは，ナイフ形石器5点，加工痕ある剥片3点，剥片56点（54個体），砕片10点，石核3点（2個体）の合計77点（74個体）と礫12点で構成される。石器石材は，安山岩1点，頁岩C 76点（73個体）である。礫石材は，砂岩12点（4母岩；893.7g）で，識別率は100%である。



第225図　I 4-Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

第125表　I 4-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
I 4-7(SHC)	3									3								52(50)	10	3(2)					71(68)
I 4-8(SHC)	1																	4							5
I 4-10(AN)	1																								1
合　計	5									3								56(54)	10	3(2)					77(74)

第126表　I 4-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
安山岩(AN)	1																								1
頁岩C(SHC)	4									3								56(54)	10	3(2)					76(73)
合　計	5									3								56(54)	10	3(2)					77(74)

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（I4-10），頁岩Ｃ２母岩（I4-7・8）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（77/77点）である。

・**I4-7**：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/4），内部が灰オリーブ色（5Y5/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の資料，灰白色（7.5Y7/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の資料など母岩内での変異がある嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器３点，加工痕ある剥片３点，剥片52点（50個体），砕片10点，石核３点（２個体）の合計71点（68個体;440.1g）である。接合資料は，７グループあり，Ａは剥片２点，石核２点（１個体）の合計４点（３個体;100.7g），Ｂは剥片２点（１個体;27.4g），Ｃは剥片１点，石核１点の合計２点（46.2g），Ｄは剥片２点（36.3g），Ｅは剥片２点（１個体；8.7g），Ｆは剥片２点（11.1g），Ｇは加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（1.4g）である。

・**I4-8**：内部は灰黄褐色（10YR6/2）・黒褐色（10YR3/2）・緑灰色（7.5GY6/1），節理は褐色（7.5YR4/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片４点の合計５点（7.8g）である。接合資料は，剥片２点（1.1g）である。

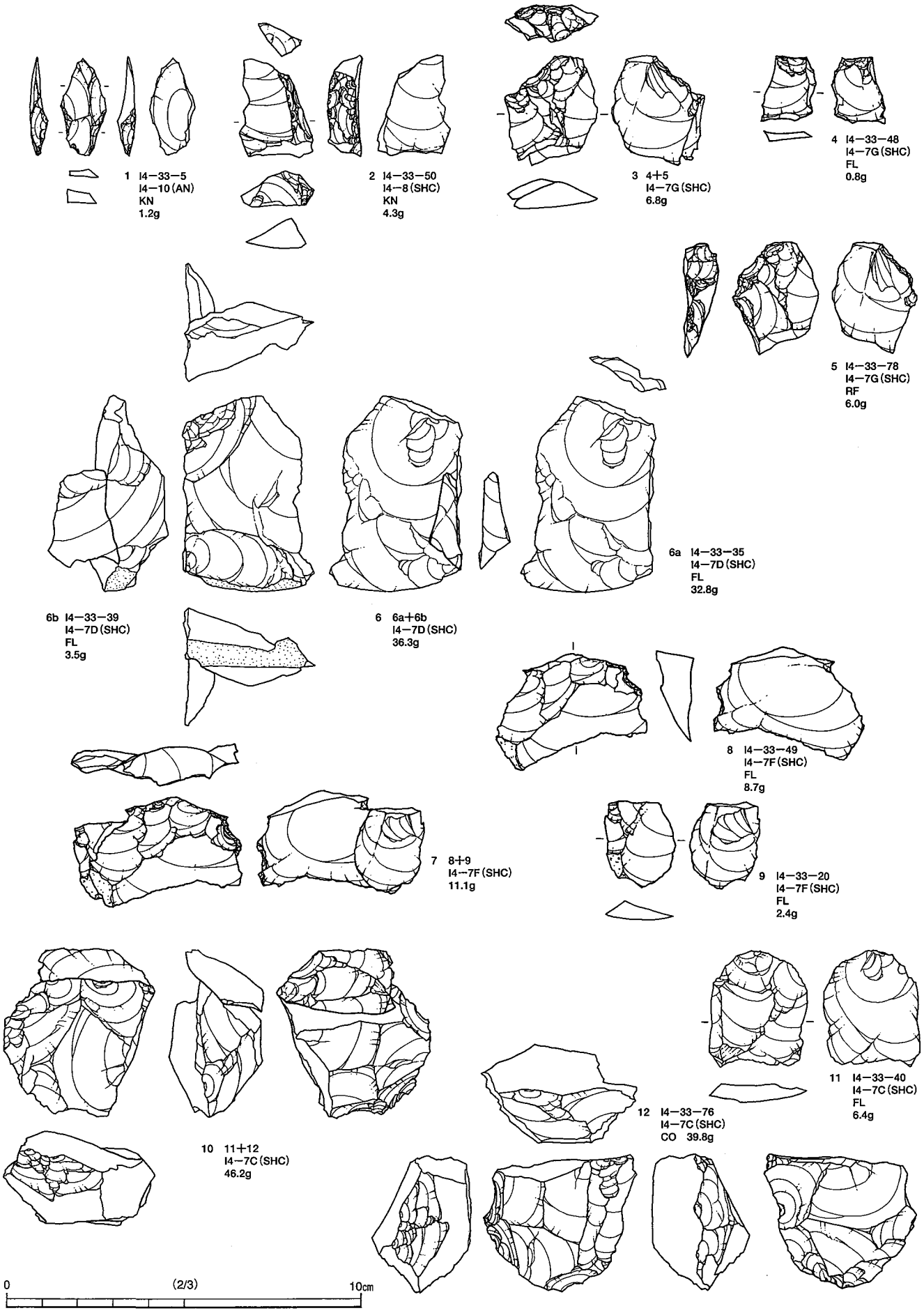
・**I4-10**：暗灰黄色（2.5Y5/2）の安山岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点（1.2g）の単独資料である。

３）出土遺物（第226図）

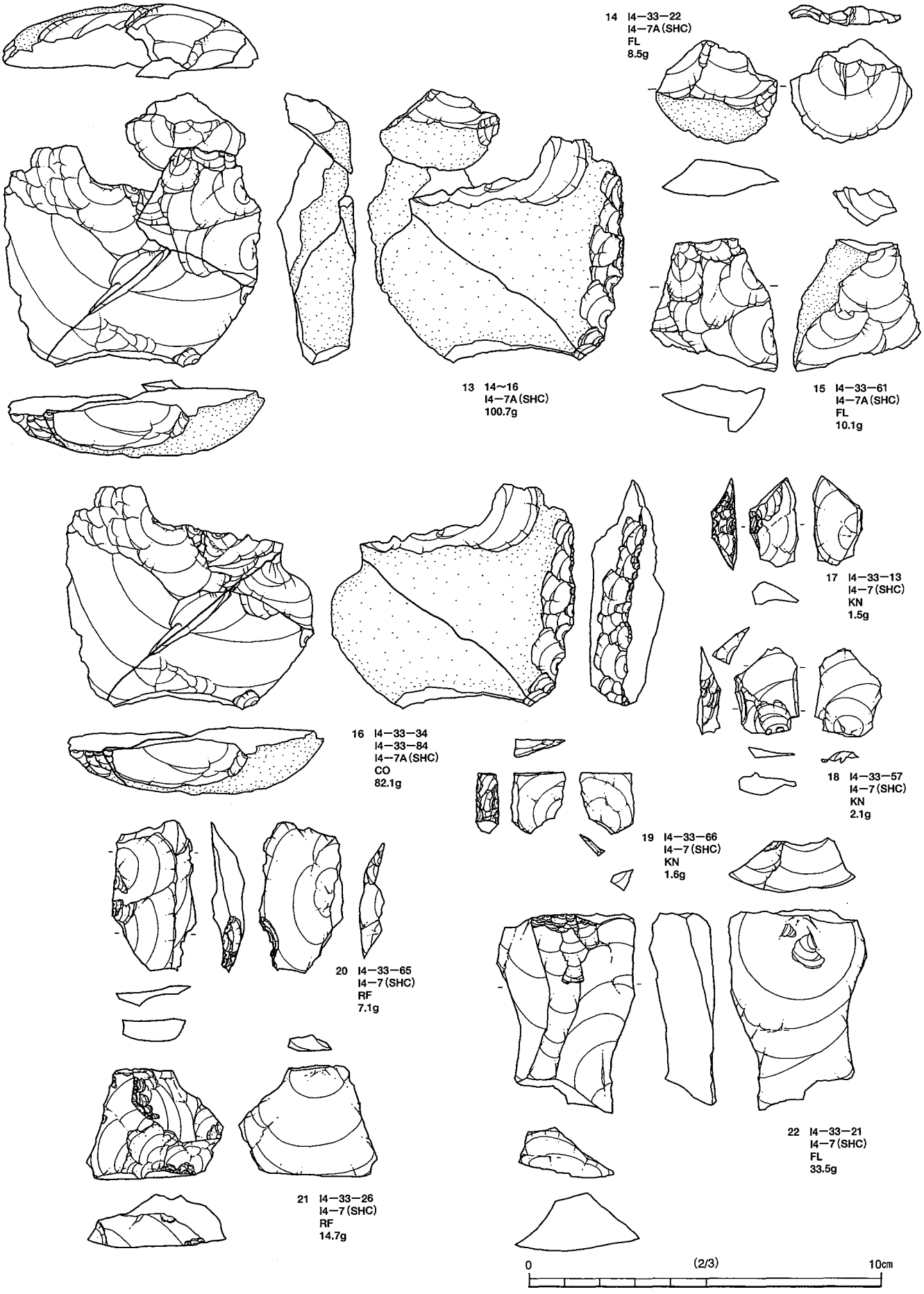
１は安山岩による基部加工のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用いている。２は嶺岡産頁岩による一側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片を用い，素材の打面部を先端部としている。また，下面は石核の底面である。

４）接合資料とその関連資料（第226～228図）

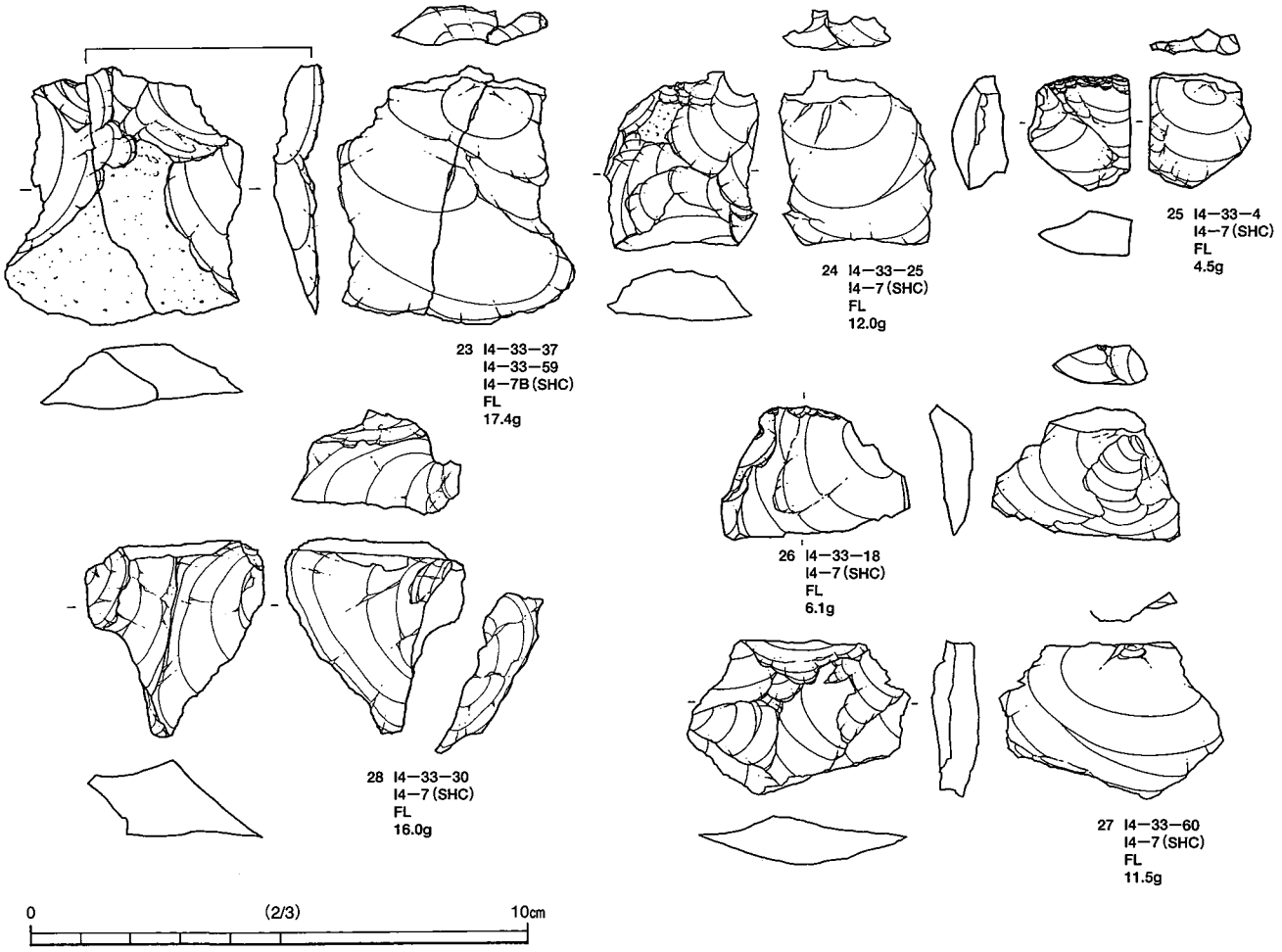
・**I4-7（第226～228図）**　灰オリーブ色（5Y5/3）などの嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器３点，加工痕ある剥片３点，剥片52点（50個体），砕片10点，石核３点（２個体）で構成される。接合資料は，７グループある。Ｇ（３）は加工痕ある剥片１点（５），剥片１点（４）の接合資料である。５は不定型な剥片の頭部から左側縁にかけて調整加工を行っている。Ｄ（６）は剥片２点（６ａ・６ｂ）の接合資料である。Ｆ（７）は剥片２点（８・９）の接合資料である。Ｃ（10）は剥片１点（11），石核１点（12）の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら，求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。Ａ（13）は剥片２点（14・15），石核２点（１個体；16）の接合資料である。14を剥離した後，15・16を含む比較的大型の剥片を剥離している。その後，この剥片を素材として，表面の右側縁と上部，裏面の右側縁で不定型な剥片を剥離している。16は２点が接合して１個体となる。17～27は接合しなかった同一母岩の資料である。17は横長剥片を横位に用い，素材の末端に調整加工を行った一側縁加工のナイフ形石器である。18は剥片の打面を基部として，左側縁に調整加工を行った部分加工あるいは一側縁加工のナイフ形石器である。左側縁の上部を欠損する。19は剥片の打面を基部として，左側縁に調整加工を行ったナイフ形石器である。上半部を欠損するため，形態は不明である。20・21は加工痕ある剥片である。20は裏面左側縁下部に調整加工を行っている。21は末端の一部に調整加工を行っている。22～27は不定型な剥片である。25は頭部調整が顕著である。23は２点が接合して１個体となる。



第226図　Ⅰ4-Aブロック出土遺物（1）



第227図　Ｉ４-Ａブロック出土遺物（２）



第228図　Ⅰ4-Aブロック出土遺物（3）

第127表　Ⅰ4-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
Ⅰ4R-1	SA	2	316.2
Ⅰ4R-2	SA	1	197.6
Ⅰ4R-3	SA	5	234.2
Ⅰ4R-4	SA	4	145.7

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	12	893.7
合　計	12	893.7

2　I4-Bブロック（第229～231・268図，第128・129表，カラー図版17・22，図版11）

1）ブロックの概要

I4-Bブロックは，調査範囲西側のI4-81・91・92，I5-01・02グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は110ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸7ｍ，短軸1ｍの範囲に27点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層上部で，30cmほどの高低差をもって包含されている（第229・230図）。

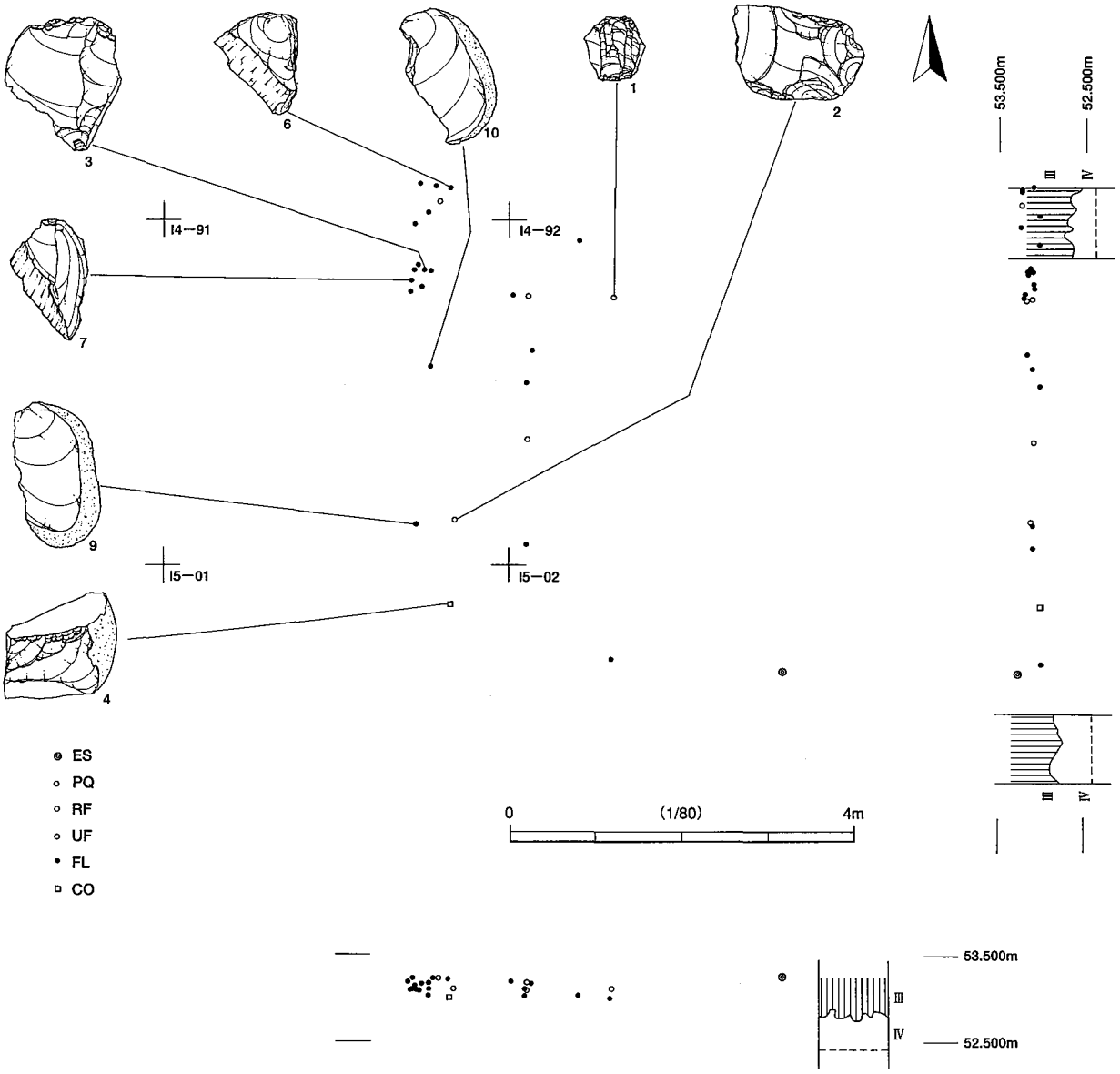
ブロックは，掻器1点，楔形石器2点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片2点，剥片20点（19個体），石核1点の合計27点（26個体）で構成される。石器石材は，安山岩13点，頁岩Ａ4点，頁岩Ｃ9点（8個体），頁岩Ｅ1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは6母岩を識別した。内訳は，安山岩3母岩（I4-1～3），頁岩Ａ1母岩（I4-4），頁岩Ｃ

１母岩（I4-5），頁岩Ｅ１母岩（I4-6）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は63%（17/27点）である。

・I4-1：自然面は爪形の裂痕が密で黄褐色（2.5Y5/3），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（36.4g）である。接合資料は，剥片２点（36.4g）である。



第229図　Ｉ４-Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

第128表　Ｉ４-Ｂブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
Ｉ４-1(AN)																		2							2
Ｉ４-2(AN)																		2		1					3
Ｉ４-3(AN)																		3							3
Ｉ４-4(SHA)									1		2							1							4
Ｉ４-5(SHC)																		4(3)							4(3)
Ｉ４-6(SHE)																		1							1
その他(AN)									1	1								3							5
その他(SHC)					1													4							5
合　計					1				2	1	2							20(19)		1					27(26)

・I4-2：自然面は浅い爪形の裂痕が密でにぶい黄褐色（10YR5/3），内部はオリーブ褐色（2.5Y4/3）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（89.3g）である。

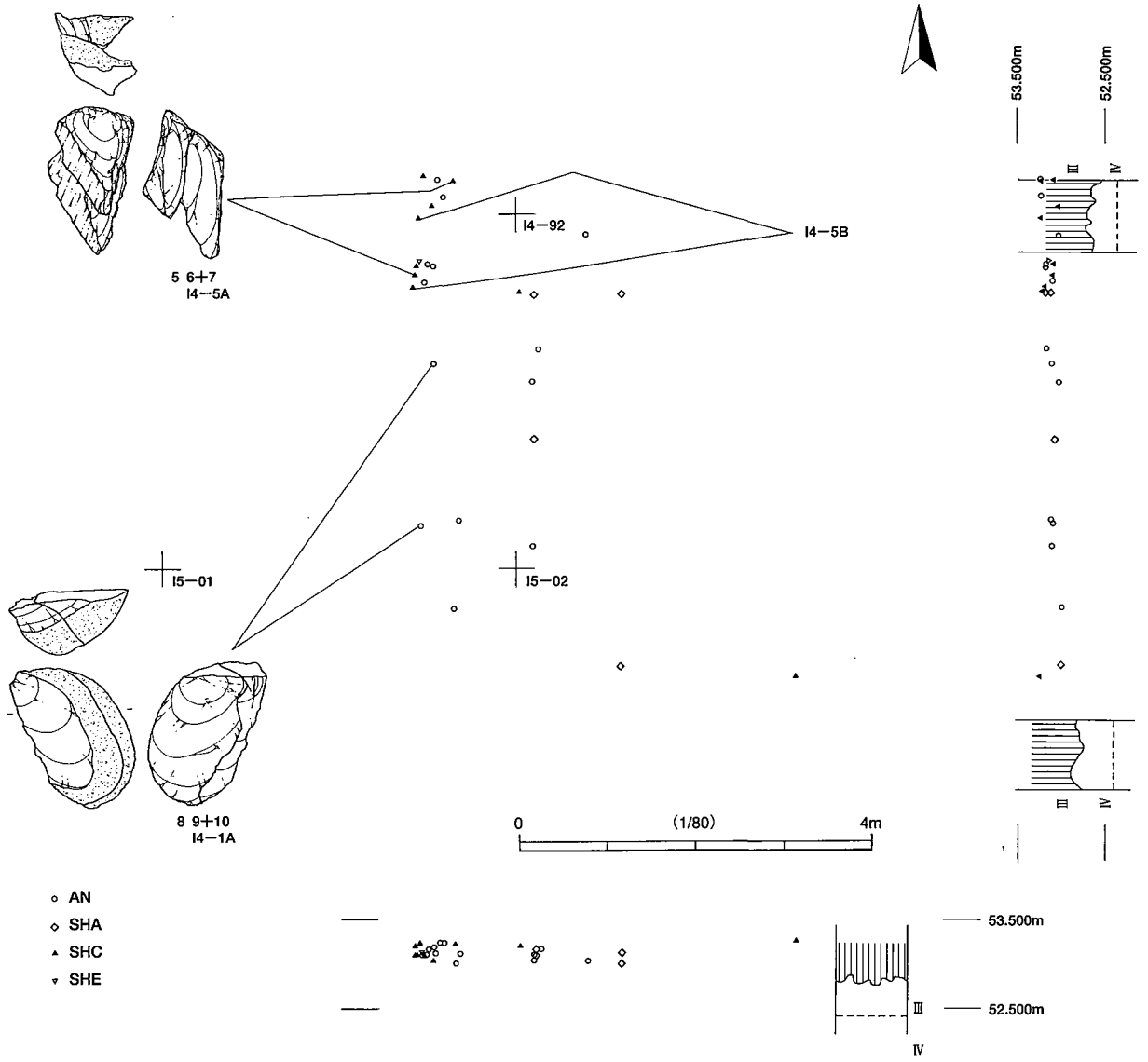
・I4-3：自然面は爪形の裂痕が密で黄灰色（2.5Y4/1）の地に明褐色（7.5YR5/6）が部分的に混じり，内部は黄灰色（2.5Y4/1）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（23.8g）である。

・I4-4：灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，使用痕ある剥片２点，剥片１点の合計４点（8.3g）である。

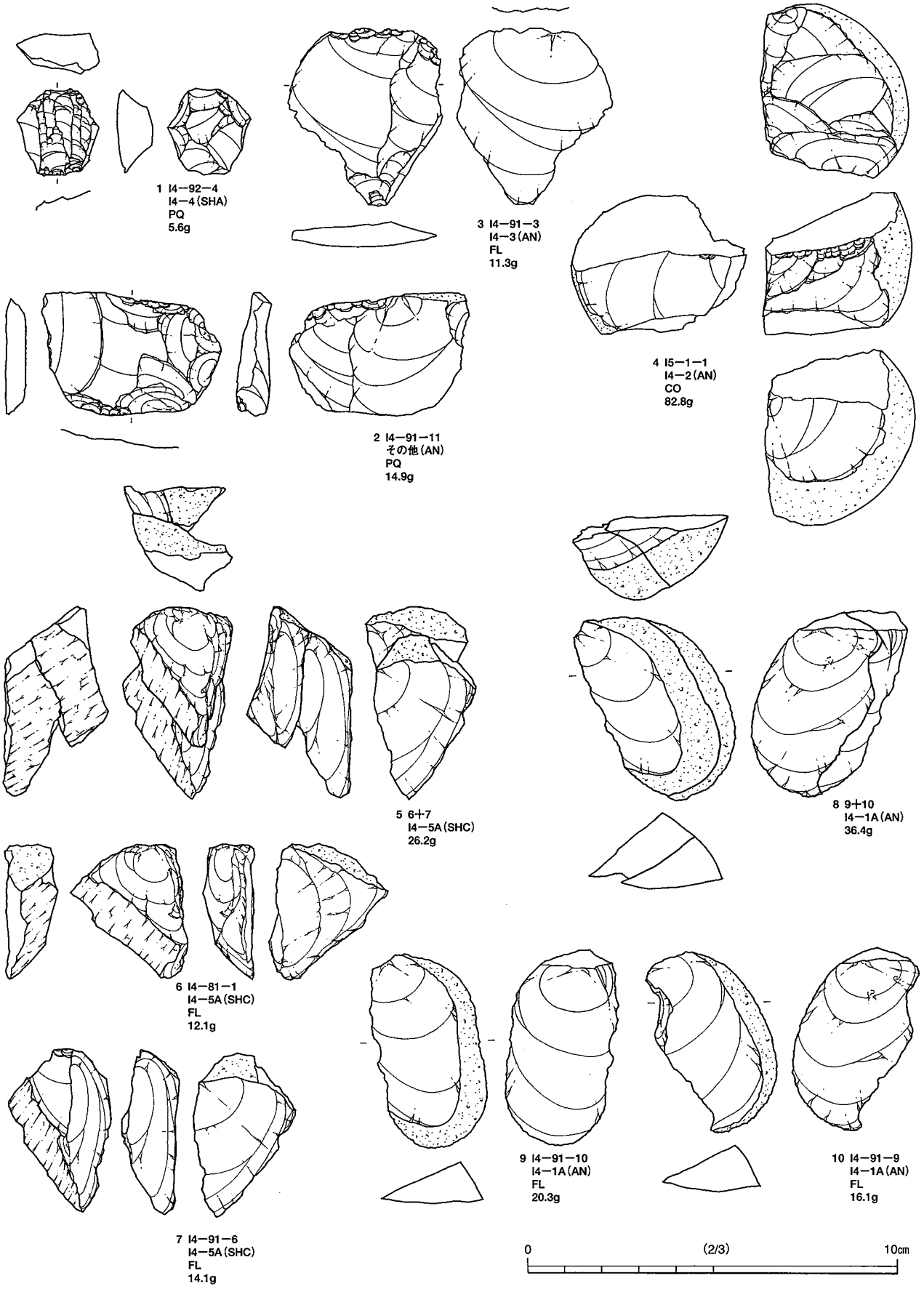
・I4-5：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/3）の嶺岡産の頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点（３個体；66.3g）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片２点（26.2g），Ｂは剥片２点（1個体；40.1g）である。

・I4-6：自然面は平滑で浅黄色(2.5Y7/3)，内部は浅黄色(2.5Y7/4)・にぶい黄橙色(10YR6/4)の頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点（18.1）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片３点の合計５点（55.8g），頁岩Ｃの掻器１点，剥片４点の合計５点（52.2g）がある。



第230図　Ｉ４-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第231図　Ⅰ4-Ｂブロック出土遺物

3）出土遺物（第231図）

1は東北産頁岩による楔形石器である。両端に対向する剥離痕が見られる。2は安山岩による楔形石器である。表面の両端に対向する剥離痕，裏面上部に剥離痕が見られる。3は安山岩による不定型な剥片である。4は安山岩による石核である。小振りな円礫を素材とし，打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。

4）接合資料とその関連資料（第231図）

・I4-5（第231図）　灰オリーブ色（5Y5/3）などの嶺岡産の頁岩である。剥片4点（3個体）で構成される。接合資料は，2グループある。A（5）は剥片2点（6・7）の接合である。

・I4-1（第231図）　暗灰黄色（2.5Y4/2）などの安山岩である。剥片2点で構成される。8は剥片2点（9・10）の接合資料である。平坦な剥離面打面から縦長剥片を剥離している。

第129表　I 4-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
安山岩(AN)									1	1								10		1					13
頁岩A(SHA)									1		2							1							4
頁岩C(SHC)					1													8(7)							9(8)
頁岩E(SHE)																		1							1
合　計					1				2	1	2							20(19)		1					27(26)

3 J4-Aブロック（第232～236・268図，第130・131表，カラー図版17・18・22，図版12）

1）ブロックの概要

J4-Aブロックは，調査範囲西側のI4-39・49，J4-30・31・40・41・50グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は130mである。

ブロックの規模と形状は，長軸11m，短軸6mの範囲に86点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅣ・Ⅴ層にかけてで，60cmほどの高低差をもって包含されている（第232・233図）。

ブロックは，ナイフ形石器2点，加工痕ある剥片1点，石刃6点，剥片71点，砕片1点，石核5点の合計86点で構成される。石器石材は，黒曜石B 2点，黒曜石G 1点，安山岩9点，頁岩B 1点，頁岩C 19点，頁岩E 13点，チャート10点，凝灰岩A 8点，砂岩1点，ホルンフェルス11点，瑪瑙・玉髄11点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは19母岩を識別した。内訳は，黒曜石B 1母岩（J4-9），黒曜石G 1母岩（J4-10），安山岩1母岩（J4-11），頁岩B 1母岩（J4-12），頁岩C 5母岩（J4-13～17），頁岩E 1母岩（J4-6），チャート2母岩（J4-18・19），凝灰岩A 1母岩（J4-5），砂岩1母岩（J4-8），ホルンフェルス1母岩（J4-7），瑪瑙・玉髄4母岩（J4-1～4）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は74%（64/86点）である。

・J4-1：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は黄褐色（2.5Y5/3）・淡黄色（2.5Y8/3）の地に灰白色（2.5Y7/1）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（30.2g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（30.2g）である。

・J4-2：自然面は比較的平滑で橙色（7.5YR6/6），内部は浅黄色（2.5Y7/3）・明赤褐色（2.5YR5/6）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片4点（7.3g）である。

・J4-3：自然面は浅い爪形の裂痕が密でにぶい黄橙色（10YR6/4）の地に褐色（7.5YR4/4）が部分的に混じり，内部は明黄褐色（10YR6/6）の地に褐灰色（10YR5/1）・にぶい黄橙色（10YR7/4）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点（12.1g）の単独資料である。

・J4-4：自然面は爪形の裂痕が密で明黄褐色（10YR6/6）・黄灰色（2.5Y6/1），内部は黄灰色（2.5Y4/1）・灰黄褐色（10YR4/2）・黄褐色（10YR5/6）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片1点（7.6g）の単独資料である。

・J4-5：自然面は平滑でオリーブ灰色（10Y6/2）・明緑灰色（7.5GY7/1），内部は明緑灰色（7.5GY7/1）の緑色凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片7点，石核1点の合計8点（53.9g）である。接合資料は，剥片3点，石核1点の合計4点（36.7g）である。

・J4-6：自然面は平滑で灰色（10Y6/1）・黄褐色（2.5Y5/3），内部は灰黄色（2.5Y6/2），新鮮な面は灰色（N6/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片9点（39.8g）である。接合資料は，2グループあり，Aは剥片3点（17.9g），Bは剥片2点（10.1g）である。

・J4-7：自然面は比較的平滑で灰色（7.5Y5/1）・灰色（10Y4/1）・明黄褐色（10YR6/6）の地にオリーブ黄色（7.5Y6/3）が部分的に混じり，内部は灰色（7.5Y5/1）の地に灰色（7.5Y6/1）が部分的に混じる資料，明黄褐色（10YR6/6）の地にオリーブ黄色（7.5Y6/3）が部分的に混じる資料など母岩内での変異があり，節理は明黄褐色（10YR6/6）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片9点，石核2点の合計11点（507.7g）である。接合資料は，剥片5点，石核2点の合計7点（504.3g）である。

・J4-8：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片1点（11.6g）の単独資料である。

・J4-9：薄墨を流したような透明な地に淡黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点（2.5g）の単独資料である。

・J4-10：自然面は比較的平滑で灰色（7.5Y4/1），内部は淡黒灰色半透明な地に淡灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。産地は不明である。石器群の内訳は，剥片1点（3.8g）の単独資料である。

・J4-11：自然面は爪形の裂痕が密で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）・灰色（5Y6/1）の資料，自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は浅黄色（2.5Y7/3）の資料など母岩内での変異がある安山岩である。石器群の内訳は，剥片9点（39.0g）である。接合資料は，剥片2点（8.1g）である。

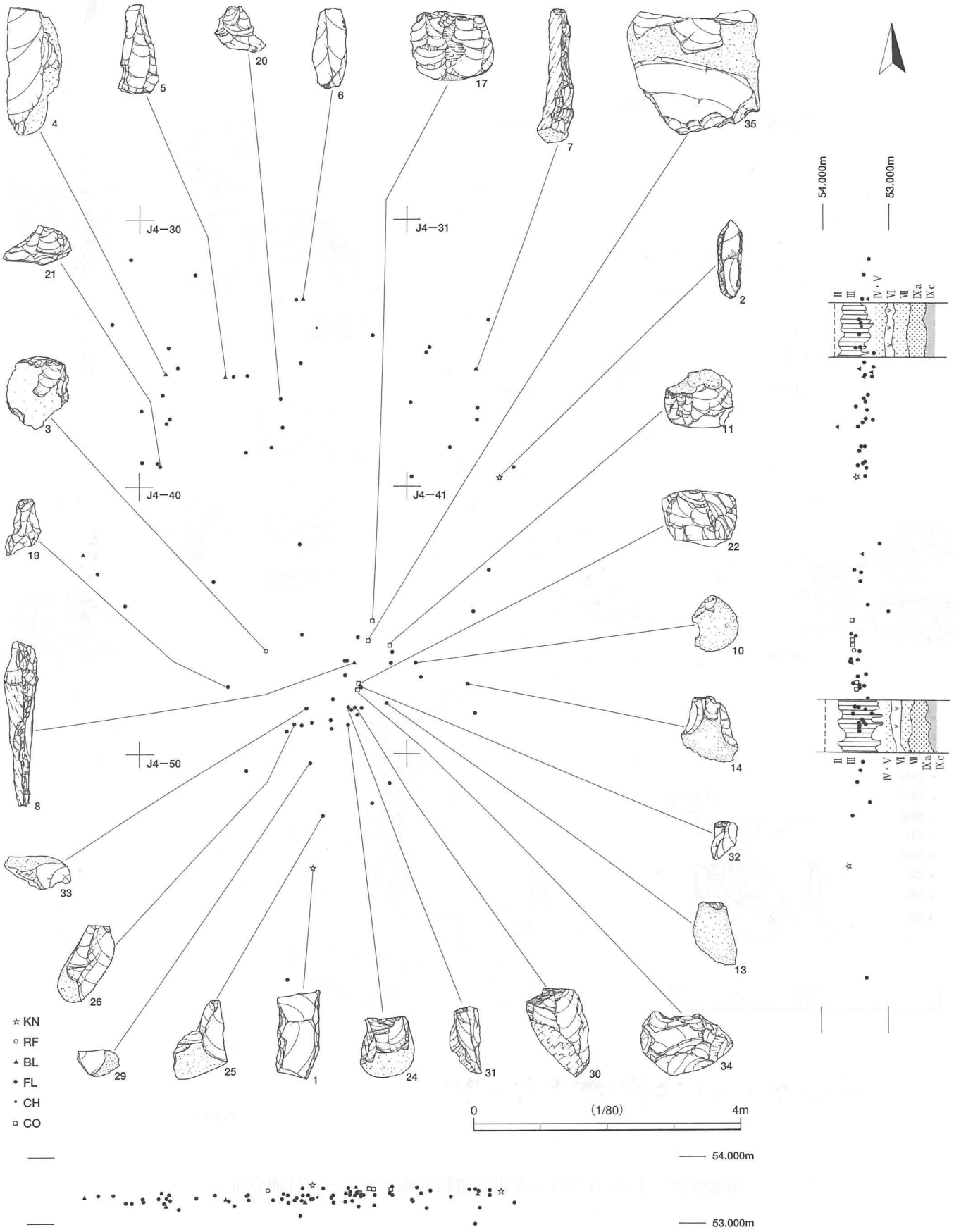
・J4-12：黒褐色（10YR3/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点（8.7g）の単独資料である。

・J4-13：内部は灰色（5Y6/1），節理はにぶい褐色（7.5YR5/4）の地ににぶい赤褐色（5YR4/3）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点（7.8g）の単独資料である。

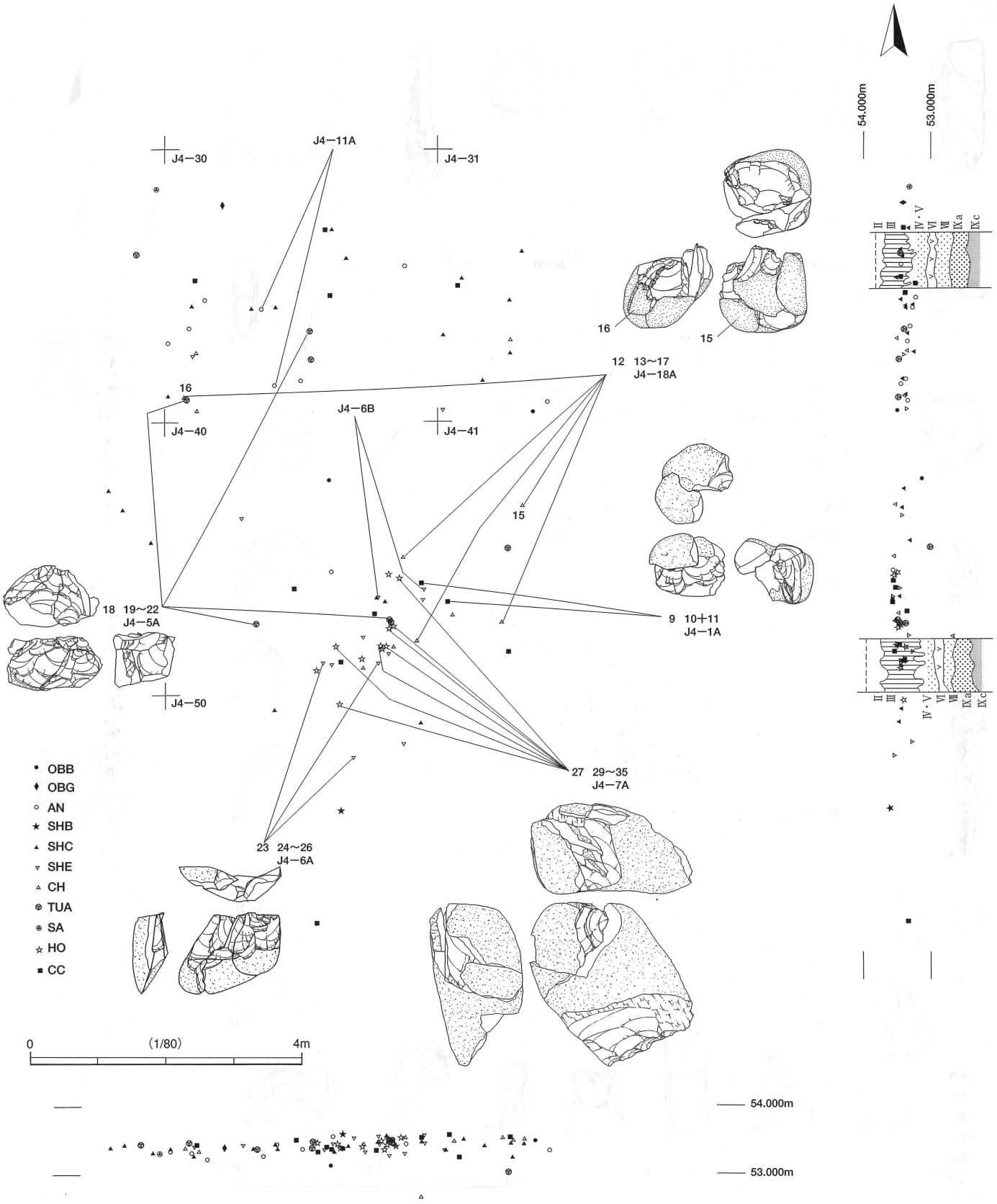
・J4-14：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/3）・にぶい褐色（7.5YR5/4），節理はにぶい褐色（7.5YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点（5.1g）の単独資料である。

・J4-15：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点（12.4g）の単独資料である。

・J4-16：暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄褐色（2.5Y5/3）の地に黄灰色（2.5Y4/1）が混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点（2.9g）の単独資料である。



第232図　J4-Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第233図　Ｊ４-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・J4-17：黄褐色（2.5Y5/3）の地に灰黄色（2.5Y6/2）・黄灰色（2.5Y4/1）・灰色（7.5Y4/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点（2.7g）の単独資料である。

・J4-18：自然面は平滑で，自然面及び内部は暗灰色（N3/0），節理は褐色（10YR4/4）のチャートである。石器群の内訳は，剥片8点，石核1点の合計9点（159.6g）である。接合資料は，剥片4点，石核1点の合計5点（153.2g）である。

・J4-19：自然面は爪形の裂痕が密でにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は黄灰色（2.5Y5/1）のチャートである。石器群の内訳は，剥片1点（1.7g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Bの剥片1点（0.2g），頁岩Cの石刃1点，剥片12点，砕片1点の合計14点(26.6g)，頁岩Eの剥片4点（5.8g），瑪瑙・玉髄の剥片3点（0.3g）がある。

第130表　J4-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
J4-1(CC)																		1		1					2
J4-2(CC)																		4							4
J4-3(CC)										1															1
J4-4(CC)																		1							1
J4-5(TUA)																		7		1					8
J4-6(SHE)																		9							9
J4-7(HO)																		9		2					11
J4-8(SA)																		1							1
J4-9(OBB)	1																								1
J4-10(OBG)																		1							1
J4-11(AN)																		9							9
J4-12(SHB)	1																								1
J4-13(SHC)												1													1
J4-14(SHC)												1													1
J4-15(SHC)												1													1
J4-16(SHC)												1													1
J4-17(SHC)												1													1
J4-18(CH)																		8		1					9
J4-19(CH)																		1							1
その他(OBB)																		1							1
その他(SHC)												1						12	1						14
その他(SHE)																		4							4
その他(CC)																		3							3
合　計	2									1		6						71	1	5					86

第131表　J4-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石B(OBB)	1																	1							2
黒曜石G(OBG)																		1							1
安山岩(AN)																		9							9
頁岩B(SHB)	1																								1
頁岩C(SHC)												6						12	1						19
頁岩E(SHE)																		13							13
チャート(CH)																		9		1					10
凝灰岩A(TUA)																		7		1					8
砂岩(SA)																		1							1
ホルンフェルス(HO)																		9		2					11
瑪瑙・玉髄(CC)										1								9		1					11
合　計	2									1		6						71	1	5					86

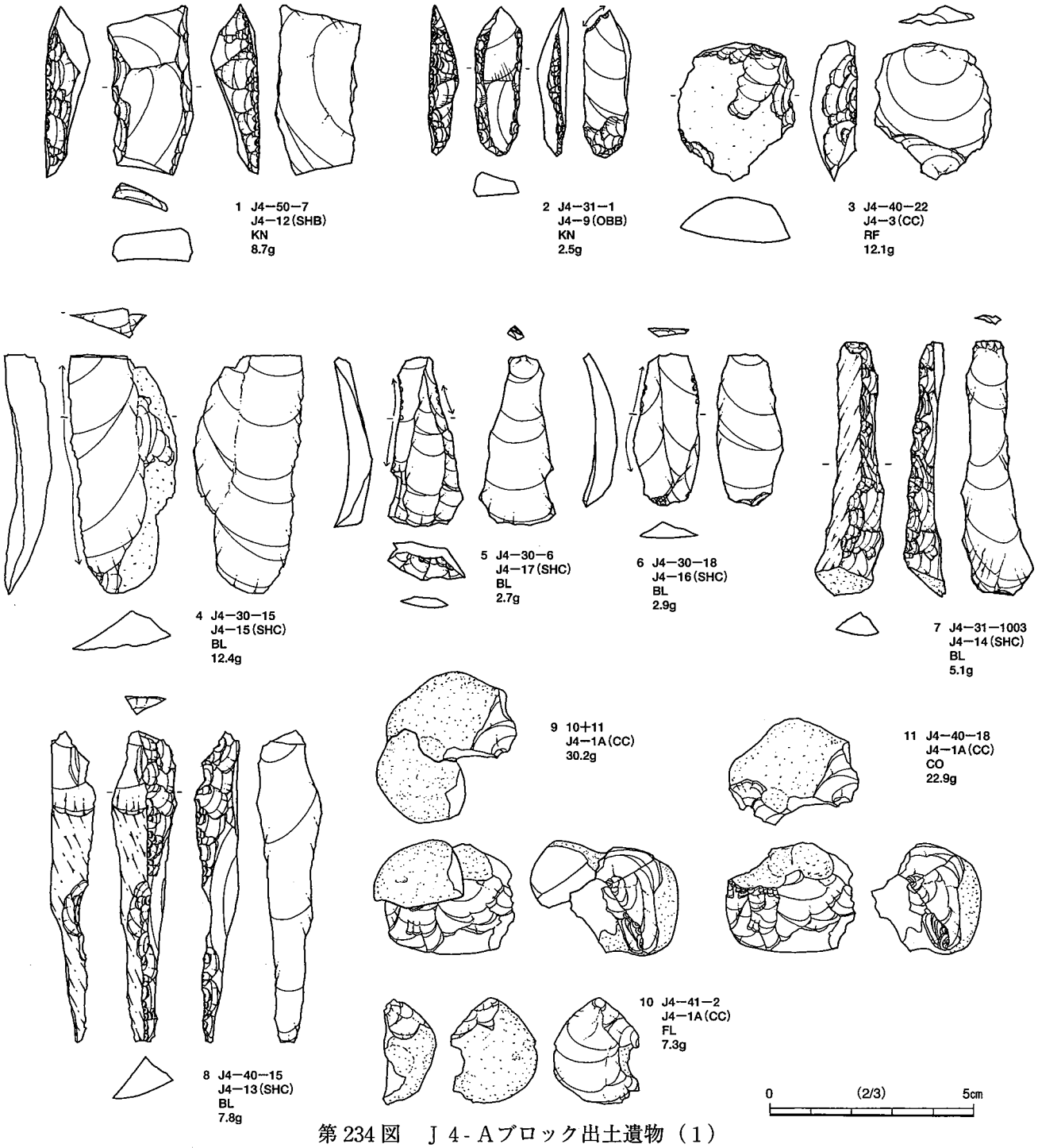
3）出土遺物（第234図）

1は北関東産頁岩による横長剥片を横位に用いた切出形のナイフ形石器である。2は信州和田峠周辺産の黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片を用い，素材の打面部を先端部とし，末端には裏面基部加工を行っている。また，裏面先端部には刃こぼれが見られる。3は瑪瑙・玉髄による加工痕

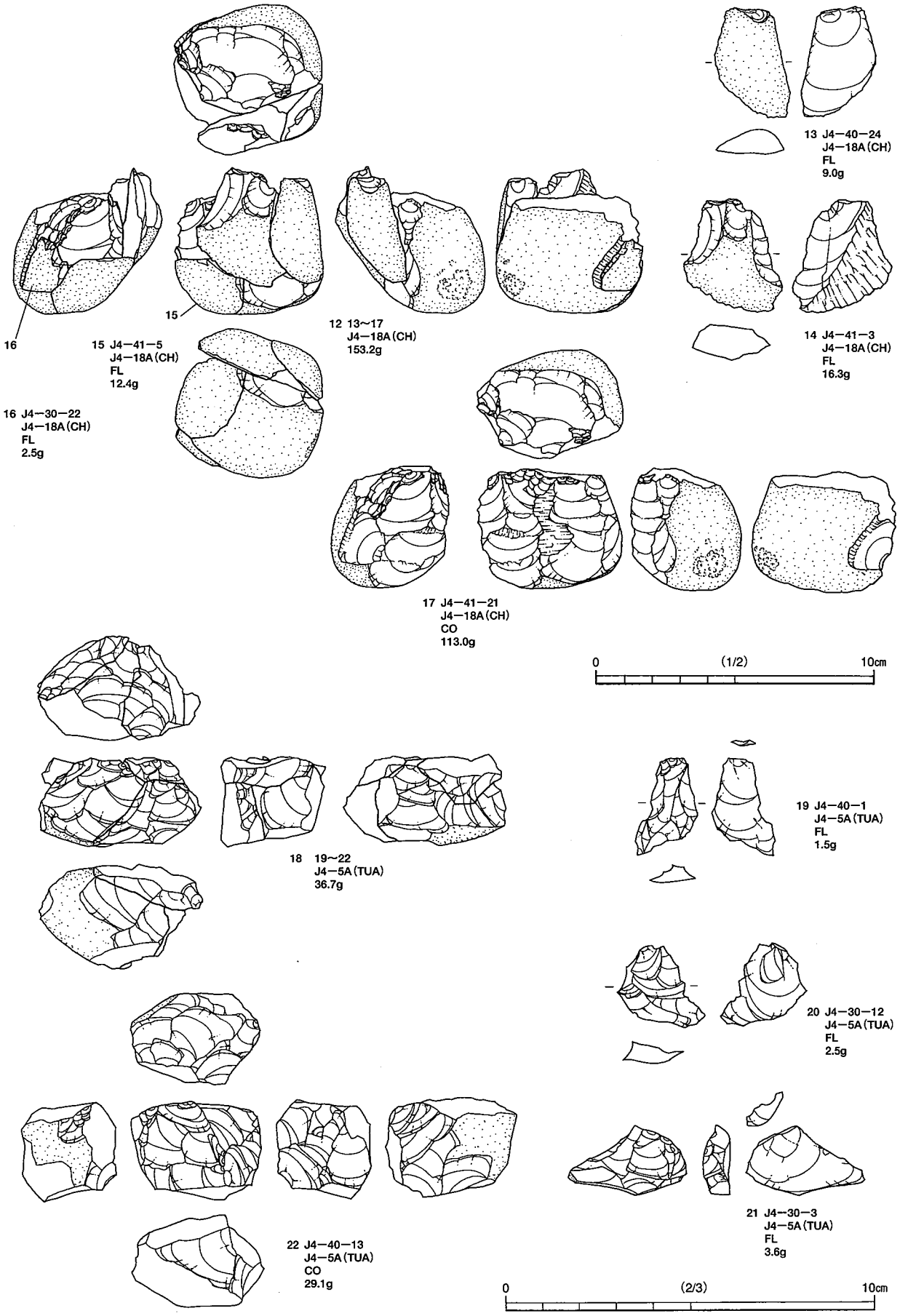
ある剥片である。不定型な剥片を素材として，表面の右側縁と左側縁下部，裏面末端に調整加工を行っている。４～８は嶺岡産頁岩による石刃である。４は左側縁，５・６は両側縁の一部に刃こぼれが見られる。７・８は稜付き石刃である。

４）接合資料とその関連資料（第 234 ～ 236 図）

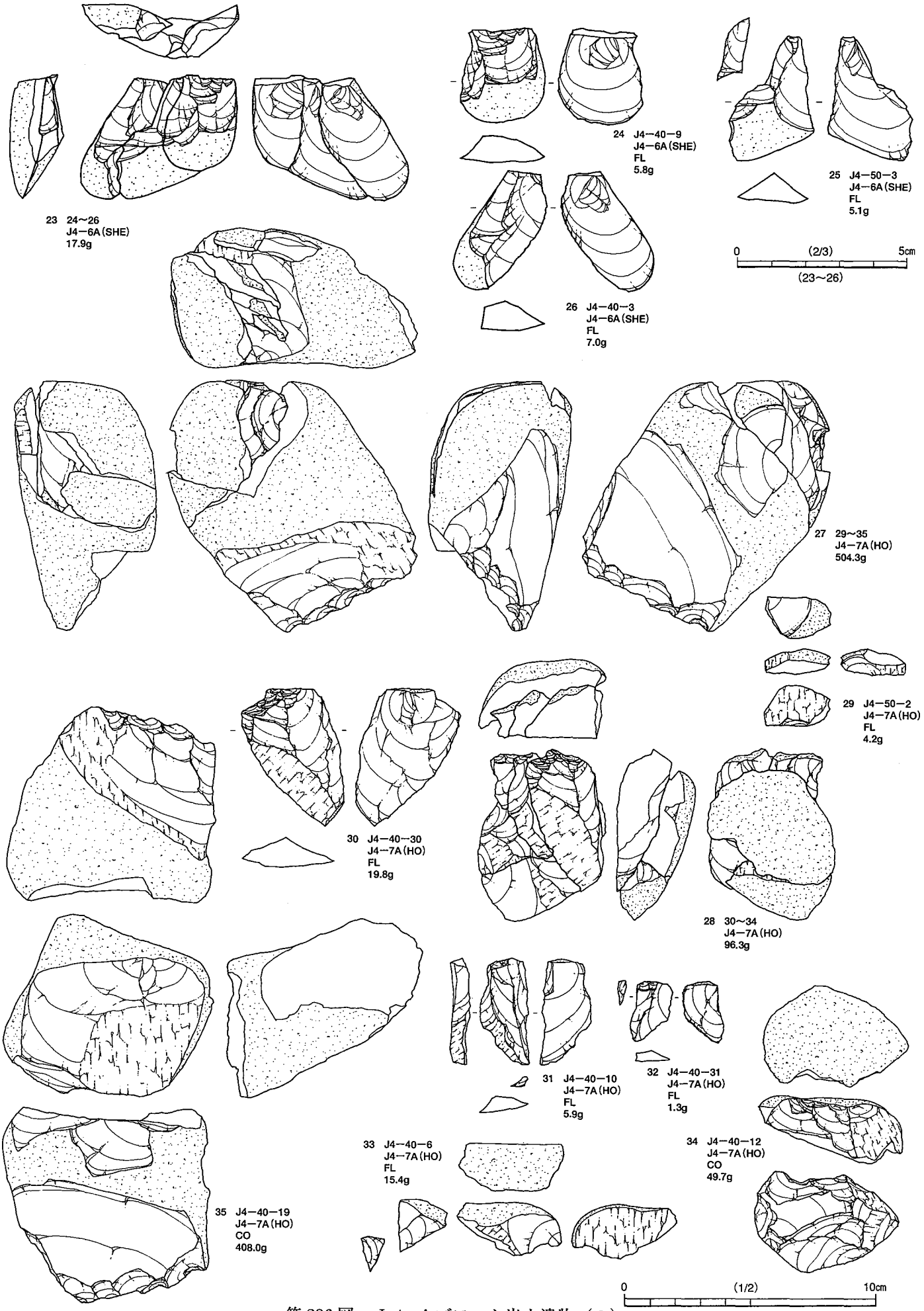
・J4-1（第 234 図）　黄褐色（2.5Y5/3）などの瑪瑙・玉髄である。剥片１点，石核１点で構成される。９は剥片１点（10），石核１点（11）の接合資料である。11 は小型の礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，10 を含む小型で不定型な剥片を剥離している。



第 234 図　Ｊ４- Ａブロック出土遺物（１）



第235図　Ｊ４-Ａブロック出土遺物（２）



第236図　Ｊ４-Ａブロック出土遺物（３）

・**J4-18（第235図）**　暗灰色（N3/0）などのチャートである。剥片8点，石核1点で構成される。12は剥片4点（13～16），石核1点（17）の接合資料である。17は比較的小振りな円礫を素材として，上方向から13・14などを剥離している。その後も，比較的平坦な打面を作出しながら，15を含む不定型な剥片を剥離している。さらに，打面と作業面を入れ替えて，16を含む小型で不定型な剥片を剥離している。

・**J4-5（第235図）**　明緑灰色（7.5GY7/1）などの緑色凝灰岩である。剥片7点，石核1点で構成される。18は剥片3点（19～21），石核1点（22）の接合資料である。22は小振りな円礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，19～21を含む小型で不定型な剥片を剥離している。

・**J4-6（第236図）**　灰黄色（2.5Y6/2）などの頁岩である。剥片9点で構成される。接合資料は，2グループある。A（23）は剥片3点（24～26）の接合資料である。同一の平坦な打面から不定型な剥片を剥離している。

・**J4-7（第236図）**　灰色（7.5Y5/1）などのホルンフェルスである。剥片9点，石核2点で構成される。27は剥片5点（29～33），石核2点（34・35）の接合資料である。本母岩は，大型の礫を2ないし3つに分割しており，28は，自然面を打面として，30～32などの縦長剥片や小型で不定型な剥片を剥離している。33は節理で剥落したものであるが，その後も，求心的な剥離作業により小型で不定型な剥片を剥離している。なお，29は28との接合関係はないが，28と同じ個体と考えられる。35は28を剥離した剥離面以外では，打面と作業面を入れ替えながら，大型で不定型な剥片を剥離している。縁辺には比較的細かい剥離痕が見られるが，これらの剥離痕は，削器や礫器等の使用を考えた調整加工によるものかもしれない。

4　H5-Aブロック（第237～242・268図，第132・133表，カラー図版18・22，図版12）

1）ブロックの概要

H5-Aブロックは，調査範囲西側のH5-17～19・27～29グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は100mである。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸6mの範囲に187点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅣ・Ⅴ層にかけてで，70cmほどの高低差をもって包含されている（第237・238図）。

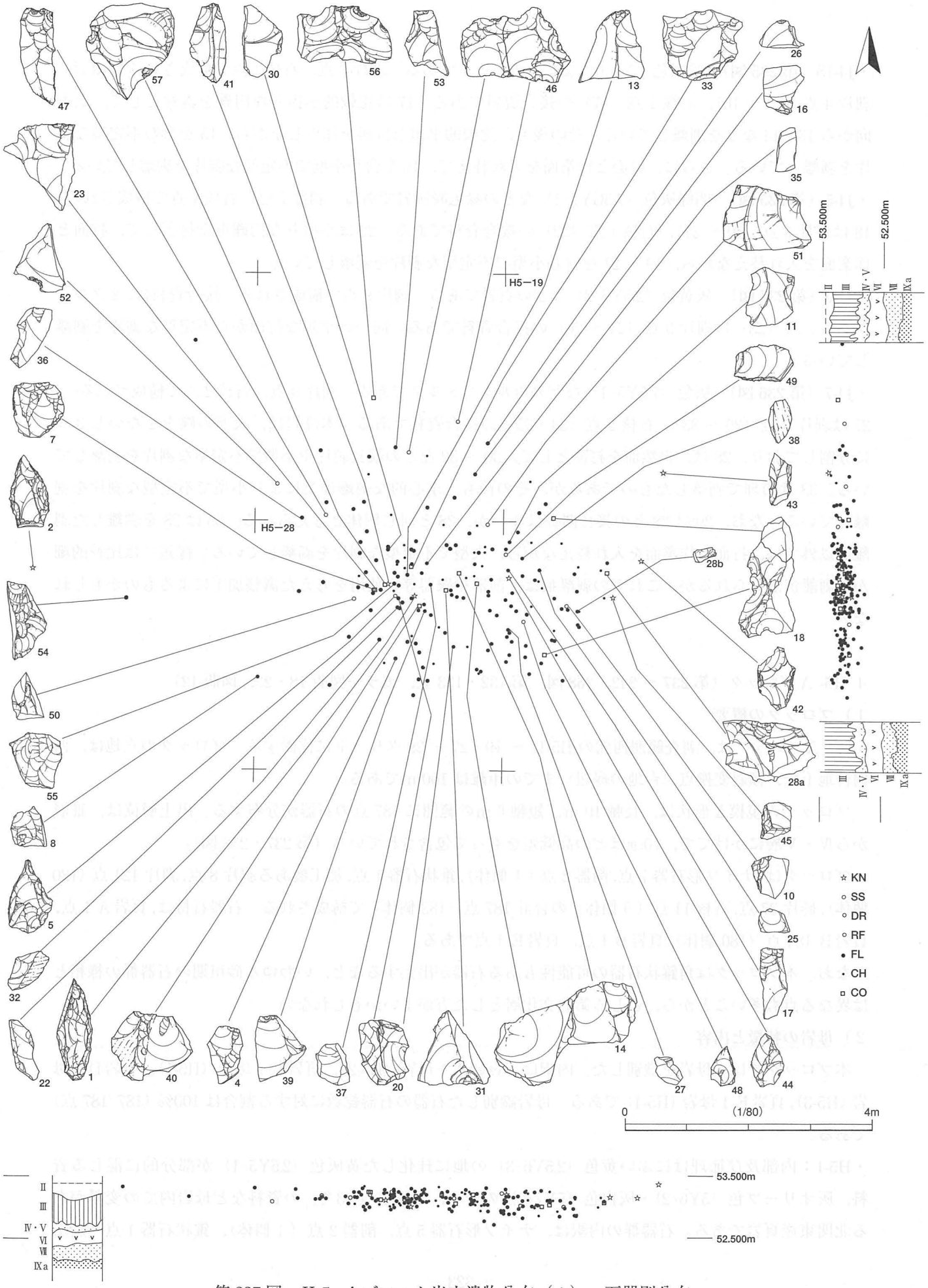
ブロックは，ナイフ形石器7点，削器2点（1個体），錐状石器1点，加工痕ある剥片8点，剥片121点（120個体），砕片37点，石核11点（9個体）の合計187点（183個体）で構成される。石器石材は，頁岩A1点，頁岩B184点（180個体）頁岩D1点，頁岩E1点である。

なお，本ブロックは角錐状石器の可能性もある石器が出土するなど，いわゆる砂川期の石器群の様相とは異なる点も多いことから，むしろ第3文化層とした方がよいかもしれない。

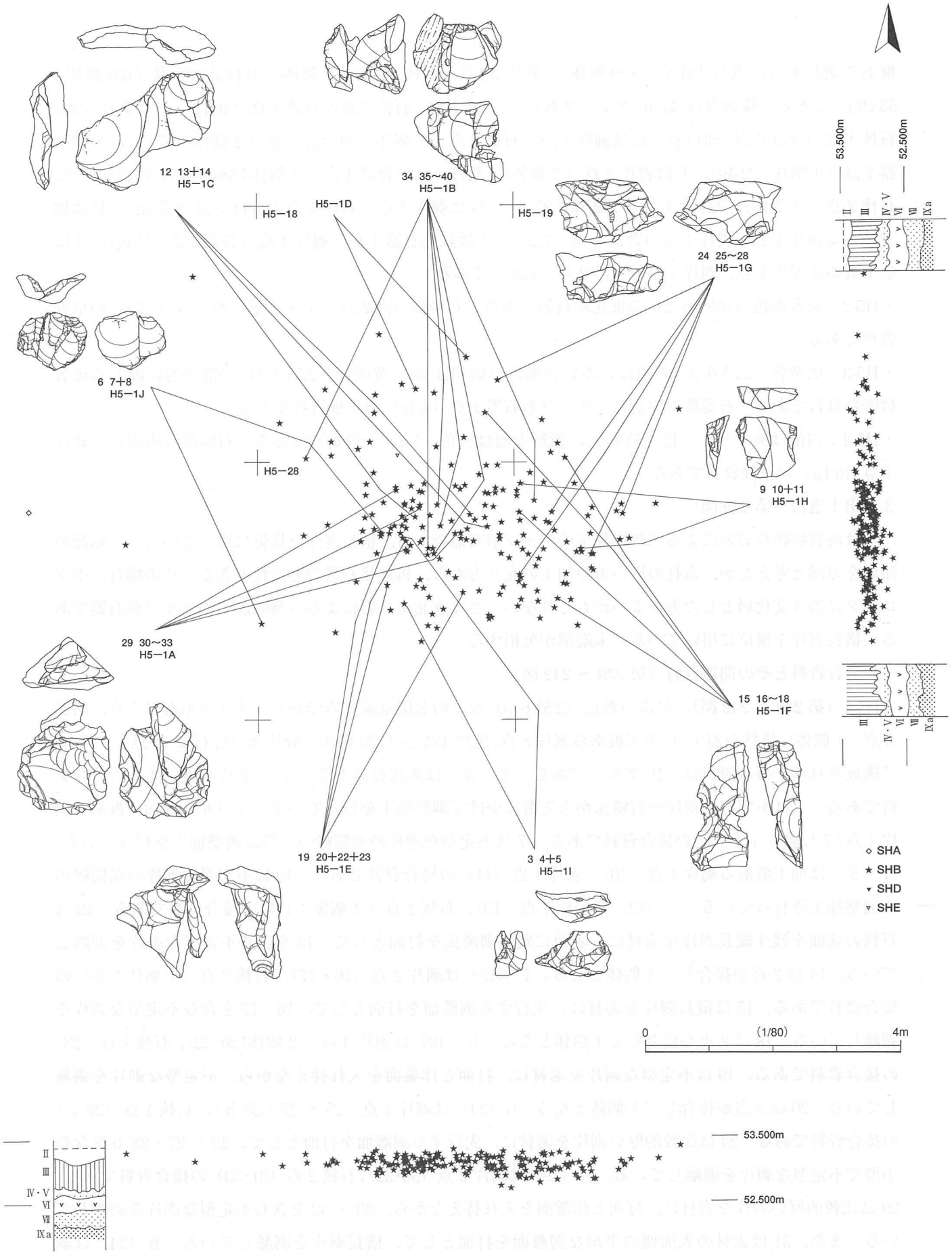
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは4母岩を識別した。内訳は，頁岩A1母岩（H5-2），頁岩B1母岩（H5-1），頁岩D1母岩（H5-3），頁岩E1母岩（H5-4）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（187/187点）である。

・**H5-1**：内部及び節理はにぶい黄色（2.5Y6/3）の地に珪化した黄灰色（2.5Y5/1）が部分的に混じる資料，灰オリーブ色（5Y6/2）・灰白色（5Y7/2）の資料，暗灰色（N3/0）の資料など母岩内での変異がある北関東産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器5点，削器2点（1個体），錐状石器1点，加工



第237図　Ｈ５-Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第238図　H5-Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

痕ある剥片８点，剥片121点（120個体），砕片36点，石核11点（９個体）の合計184点（180個体；534.9g）である。接合資料は，10グループあり，Ａは剥片２，石核２点の合計４点（46.1g），Ｂは剥片５点，石核１点の合計６点（48.4g），Ｃは剥片１点，石核２点（１個体）の合計３点（２個体；37.1g），Ｄは削器２点（１個体；22.4g），Ｅは剥片３点（２個体），石核１点の合計４点（３個体；38.0g），Ｆは剥片２点，石核２点（１個体）の合計４点（３個体；25.4g），Ｇは剥片４点，石核１点の合計５点（37.4g），Ｈは加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（7.2g），Ｉは錐状石器１点，剥片１点の合計２点（9.5g），Ｊは加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（7.2g）である。

・**H5-2**：灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点（4.7g）の単独資料である。

・**H5-3**：灰黄色（2.5Y6/2）の地ににぶい黄褐色（10YR4/3）・黄灰色（2.5Y5/1）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点（8.4g）の単独資料である。

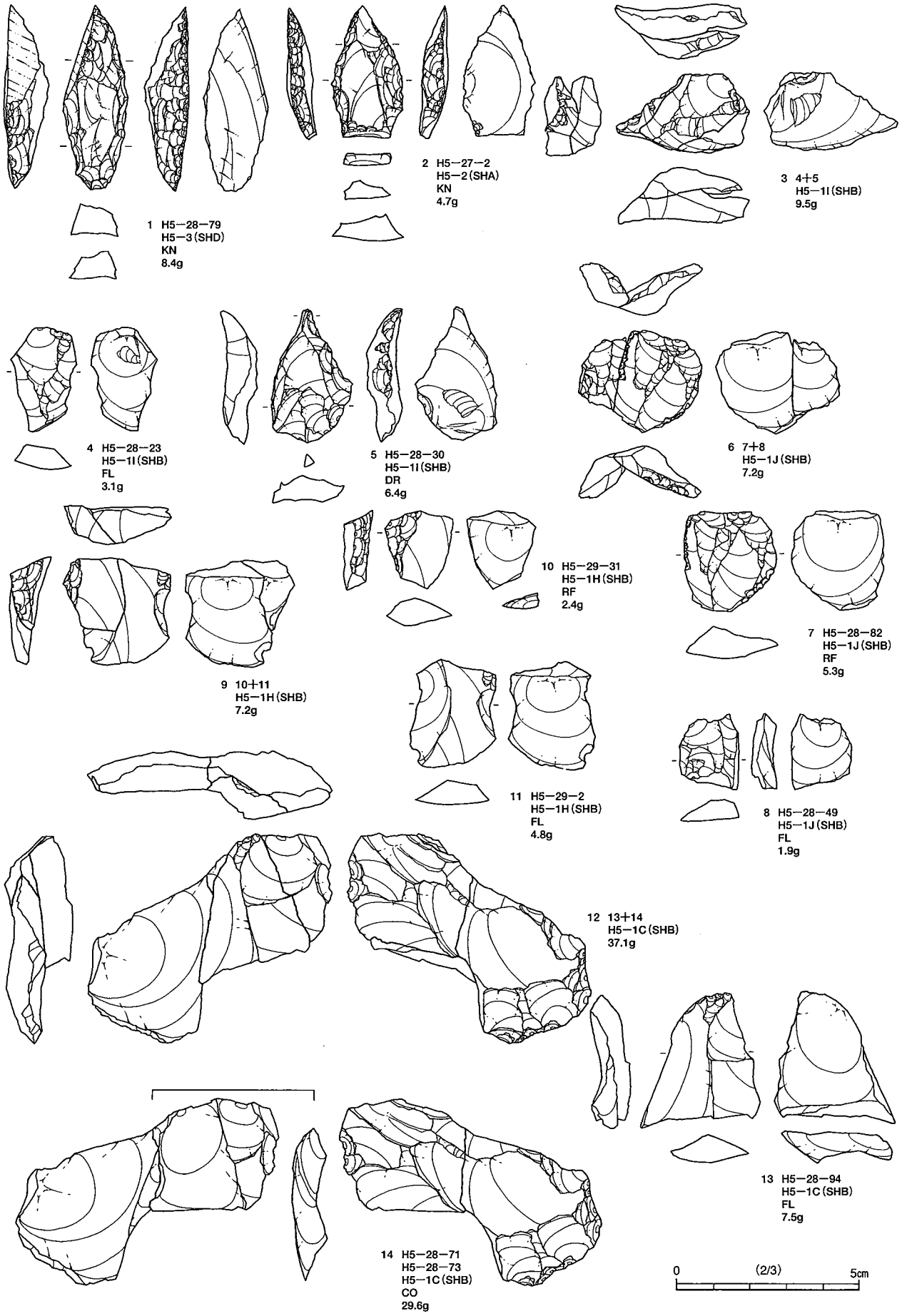
・**H5-4**：内部は灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は灰色（N4/0）の頁岩である。石器群の内訳は，砕片１点（0.1g）の単独資料である。

３）出土遺物（第239図）

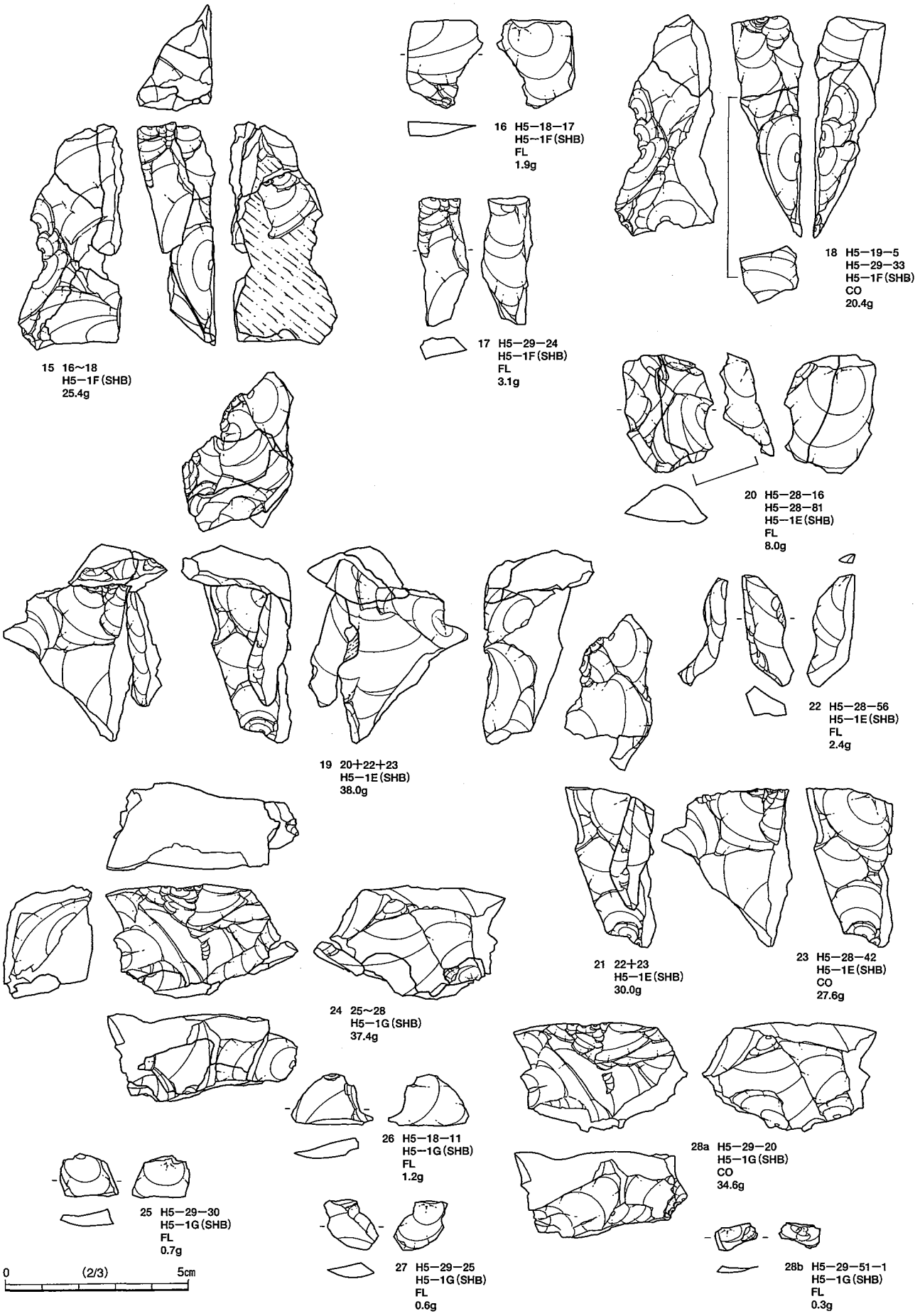
１は硬質緻密な頁岩による二側縁加工のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用いている。左側縁の節理を刃部と考えたが，素材の用い方や加工の在り方から，角錐状石器の可能性もある。その場合，本ブロックは第３文化層とした方がよいかもしれない。２は東北産頁岩による二側縁加工のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用いている。末端部が欠損する。

４）接合資料とその関連資料（第239～242図）

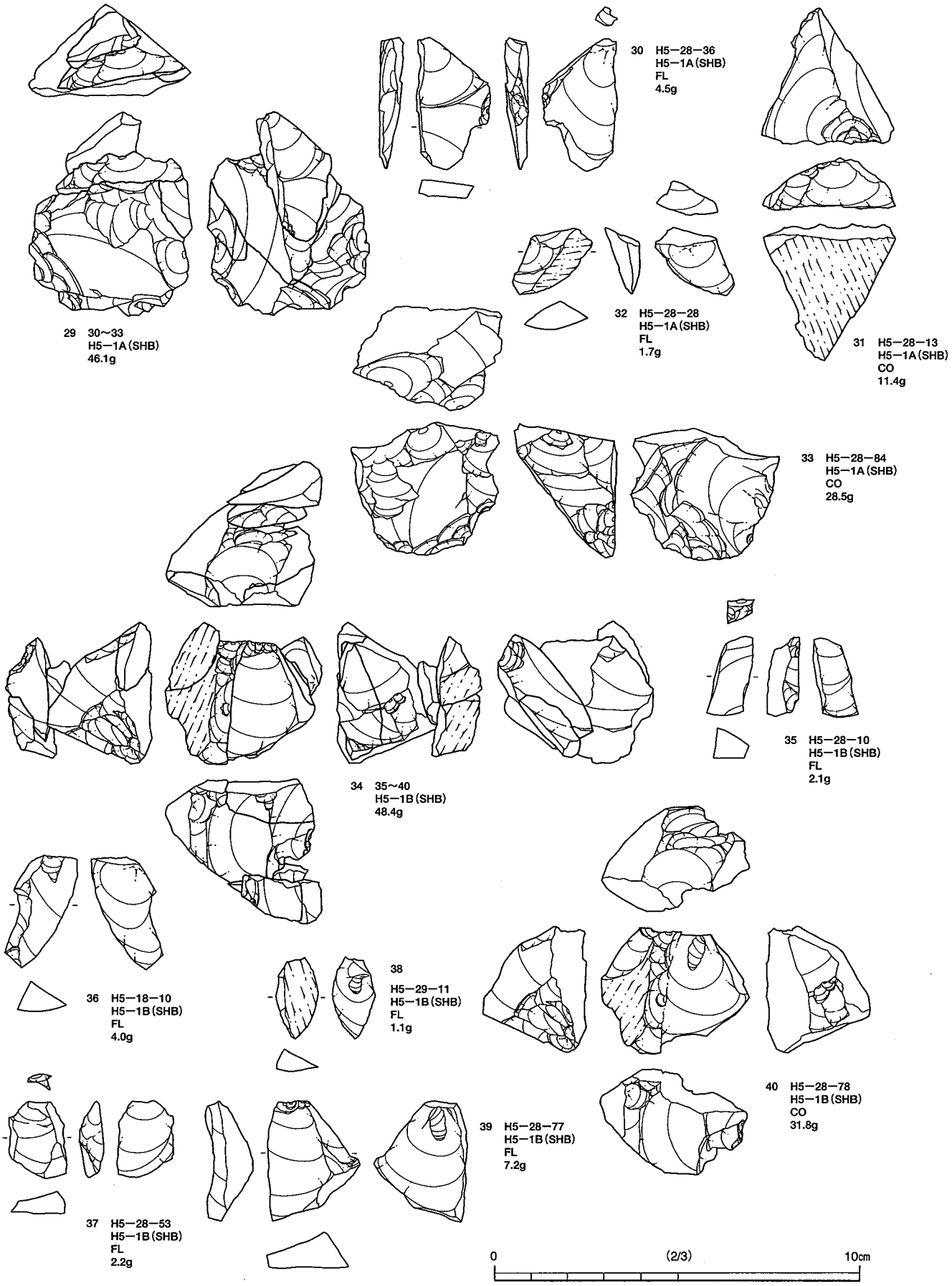
・**H5-1（第239～242図）**　にぶい黄色（2.5Y6/3）などの北関東産頁岩である。ナイフ形石器５点，削器２点（１個体），錐状石器１点，加工痕ある剥片８点，剥片121点（120個体），砕片36点，石核11点（９個体）で構成される。接合資料は，10グループある。Ｉ（３）は錐状石器１点（５），剥片１点（４）の接合資料である。５は不定型な剥片の右側縁から先端にかけて調整加工を行っている。Ｊ（６）は加工痕ある剥片１点（７），剥片１点（８）の接合資料である。７は不定型な剥片の両側縁の一部に調整加工を行っている。Ｈ（９）は加工痕ある剥片１点（10），剥片１点（11）の接合資料である。10は不定型な剥片の左側縁のに調整加工を行っている。Ｃ（12）は剥片１点（13），石核２点（１個体；14）の接合資料である。12は石核の底面を残す縦長剥片を素材に，表面に残る剥離面を打面として，13を含む不定型な剥片を剥離している。14は２点が接合して１個体となる。Ｆ（15）は剥片２点（16・17），石核２点（１個体；18）の接合資料である。15は縦長剥片を素材に，先行する剥離面を打面として，16・17を含む不定型な剥片を剥離している。18は２点が接合して１個体となる。Ｅ（19）は剥片３点（２個体;20･22），石核１点（23）の接合資料である。19は不定型な剥片を素材に，打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。20は２点が接合して１個体となる。Ｇ（24）は剥片４点（25～27・28ｂ），石核１点（28ａ）の接合資料である。24は比較的厚い剥片を素材に，先行する剥離面を打面として，25～27・28ｂを含む小型で不定型な剥片を剥離している。Ａ（29）は剥片２点（30･32），石核２点（31･33）の接合資料である。29は比較的厚い剥片を素材に，打面と作業面を入れ替えながら，30～32を含む不定型な剥片を剥離している。また，31は素材の表面側の平坦な剥離面を打面として，横長剥片を剥離している。Ｂ（34）は剥片５点（35～39），石核１点（40）の接合資料である。34は厚い剥片を素材に，打面と作業面を入れ替



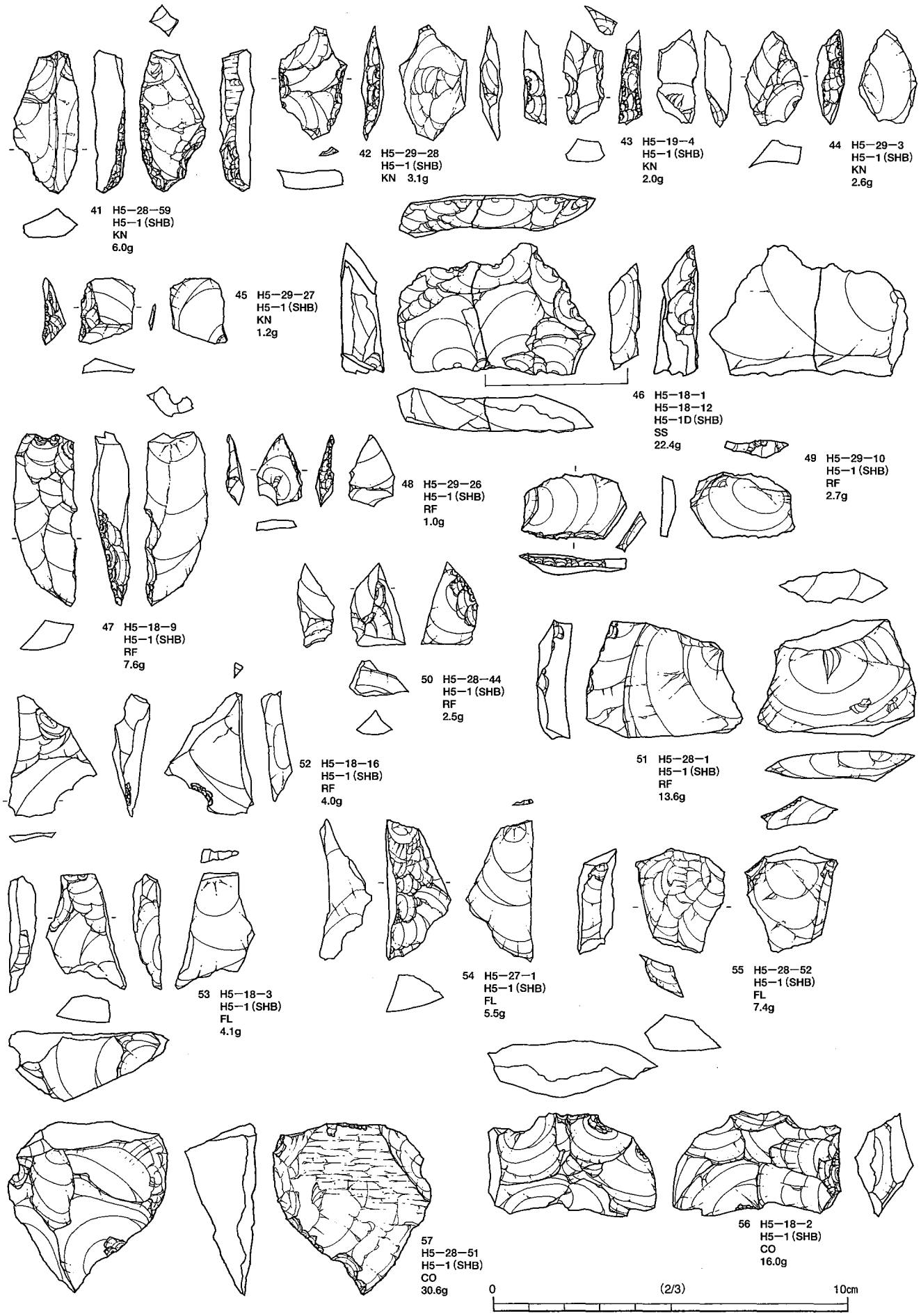
第239図　H5-Aブロック出土遺物（1）



第240図　Ｈ５-Ａブロック出土遺物（２）



第241図　H5-Aブロック出土遺物（3）



第242図　Ｈ５-Ａブロック出土遺物（４）

えながら，35～39を含む不定型な剥片を剥離している。41～56は接合しなかった同一母岩の資料である。41は基部加工，42・43は二側縁加工，44・45は一側縁加工あるいは部分加工のナイフ形石器である。41は縦長剥片の打面側を先端部，43は縦長剥片の打面側を基部，42・44は横長剥片を横位に用いている。46は削器である。不定型な剥片の上部と右側縁に鋸歯状の調整加工を行っている。あるいは石核の可能性もある。47～52は加工痕ある剥片である。47は石刃状の縦長剥片の表面右側縁の上部と裏面左側縁の下部，48は右側縁，49は末端，50は裏面右側縁，51は末端の一部，52は左側縁の一部に調整加工を行っている。53～55は不定型な剥片である。54は表面に剥離軸に直交する剥離痕が見られるが，旧石核の作業面の可能性がある。56・57は石核である。56は先行する剥離面を打面として，不定型な剥片を剥離している。57は表面左側縁の上部側と裏面右側縁の上部側で，交互に小型で不定型な剥片を剥離している。また，表面右側縁の一部と裏面左側縁に細かい剥離痕が見られることから，加工痕ある剥片の可能性がある。

第132表　H5-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
H5-1(SHB)	5					2(1)		1		8								121(120)	36	11(9)					184(180)
H5-2(SHA)	1																								1
H5-3(SHD)	1																								1
H5-4(SHE)																			1						1
合　計	7					2(1)		1		8								121(120)	37	11(9)					187(183)

第133表　H5-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
頁岩A(SHA)	1																								1
頁岩B(SHB)	5					2(1)		1		8								121(120)	36	11(9)					184(180)
頁岩D(SHD)	1																								1
頁岩E(SHE)																			1						1
合　計	7					2(1)		1		8								121(120)	37	11(9)					187(183)

5 G10-Bブロック（第243～245・268図，第134～136表，カラー図版18）

1）ブロックの概要

G10-Bブロックは，調査範囲西側のG10-71～73・83グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸11m，短軸3mの範囲に4カ所分かれて13点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層で，30cmほどの高低差をもって包含されている（第243・244図）。

ブロックは，楔形石器1点と礫12点で構成される。石器石材はチャート1点である。礫石材は流紋岩2点（1母岩；662.9g），砂岩10点（5母岩；871.9g）で，識別率は100%である。

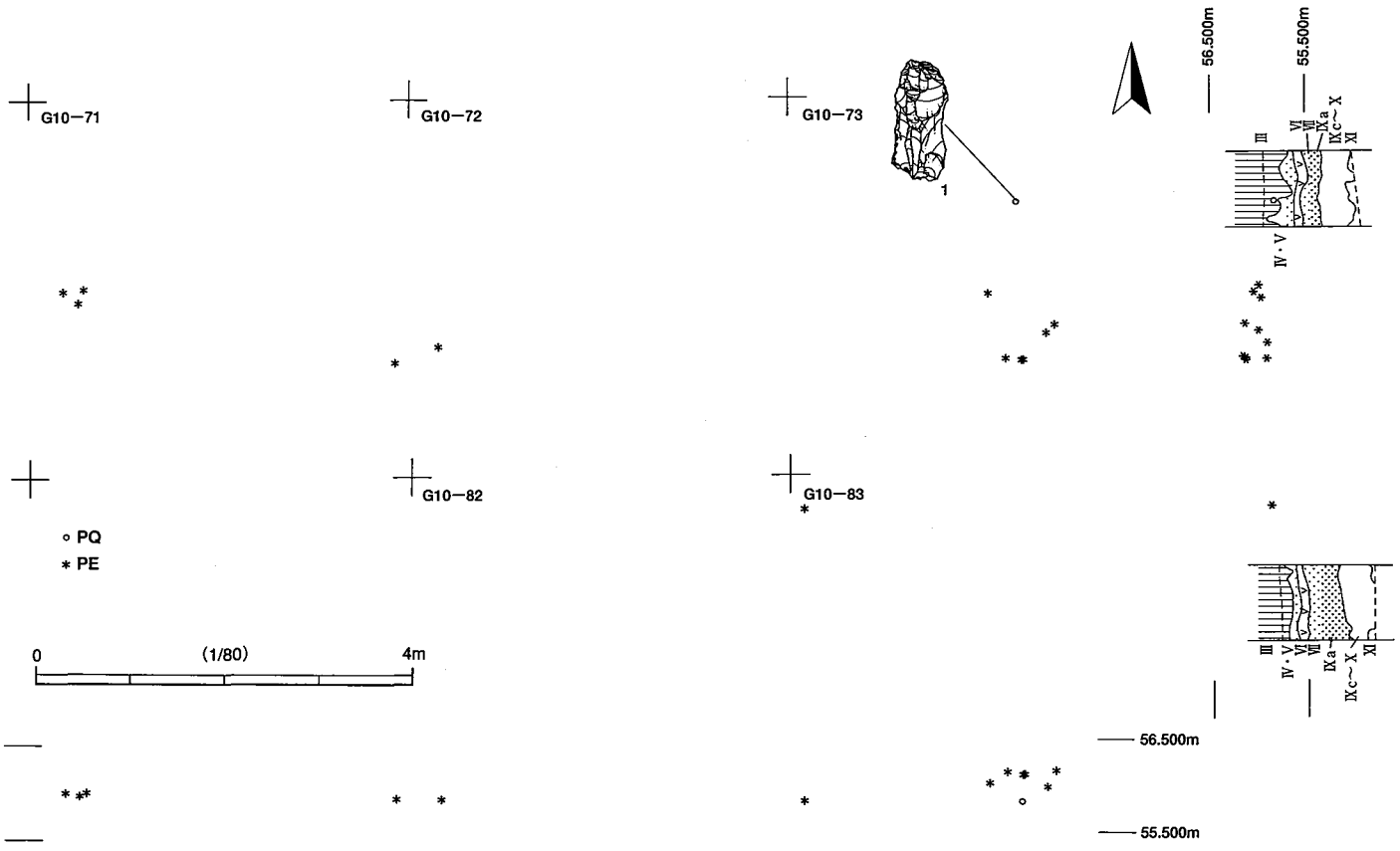
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは1母岩を識別した。内訳は，チャート1母岩（G10-5）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（1/1点）である。

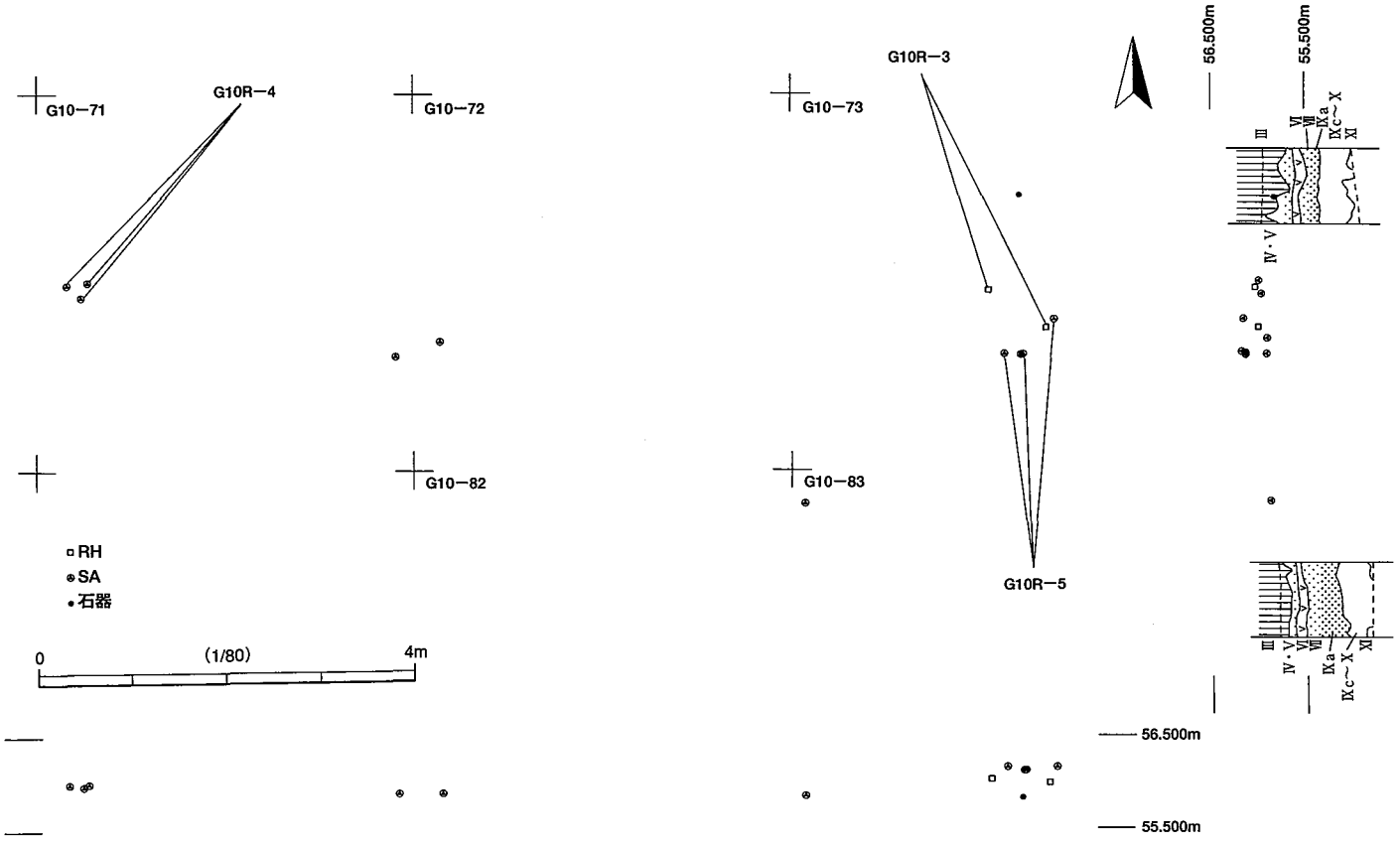
・**G10-5**：暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰色（N4/0）の地に暗灰色（N3/0）の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，楔形石器1点（8.5g）の単独資料である。

第134表　G10-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
G10-5(CH)									1																1
合　計									1																1



第243図　G 10- Bブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



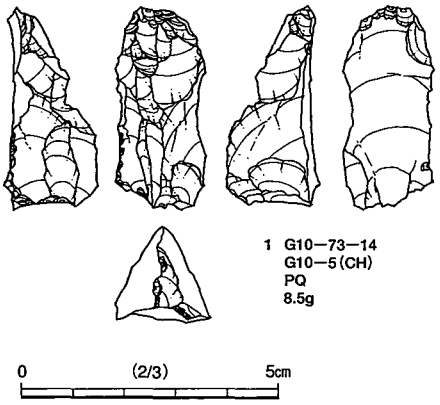
第244図　G 10- Bブロック出土遺物分布（2）－礫石材別分布－

第135表　G10-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
チャート(CH)									1																1
合　計									1																1

3）出土遺物（第245図）

1はチャートによる楔形石器である。石刃状の縦長剥片の両面の両端に対向する剥離痕が見られる。また，左側縁の下部に細かい剥離痕が見られる。



第245図　G 10- Bブロック出土遺物

第136表　G10-Bブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
G10R-3	RH	2	662.9
G10R-4	SA	3	184.1
G10R-5	SA	4	112.9
G10R-6	SA	1	233.3
G10R-7	SA	1	198.5
G10R-9	SA	1	143.1

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	2	662.9
砂岩(SA)	10	871.9
合　計	12	1534.8

6 R8- Aブロック（第246～248・268図，第137・138表，カラー図版18）

1）ブロックの概要

R8- Aブロックは，調査範囲東側のR8-39グリッドに位置する。ブロックの立地は，東側谷頭である。

ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸1mの範囲に4点の石器が分布する。出土層位は，調査時の所見によればⅢ層で，20cmほどの高低差をもって包含されている（第246・247図）。

ブロックは，加工痕ある剥片1点，剥片3点の合計4点で構成される。石器石材は，黒曜石G 2点，安山岩1点，ホルンフェルス1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは3母岩を識別した。内訳は，黒曜石G 1母岩（R8-3），安山岩1母岩（R8-2），ホルンフェルス1母岩（R8-1）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（4/4点）である。

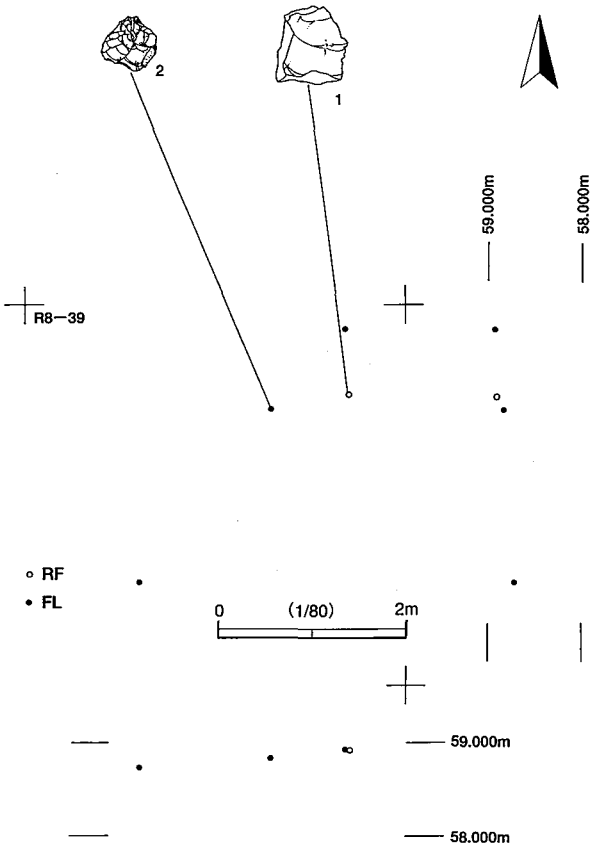
・R8-1：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片1点（62.9g）の単独資料である。

・R8-2：自然面は紙ヤスリ状で黄褐色（2.5Y5/4），内部は黄褐色（2.5Y5/3）の安山岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点（6.5g）の単独資料である。

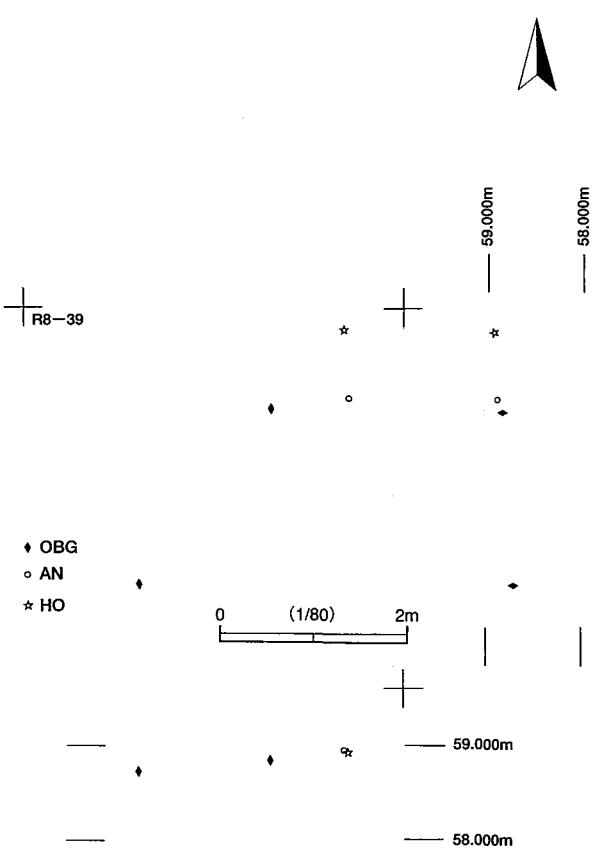
・R8-3：透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石と自然面は平滑で，自然面及び内部は黒色不透明でφ1㎜ほどの黄褐色の夾雑物を含む黒曜石の2点であるが，別母岩の可能性が高い。産地は不明である。石器群の内訳は，剥片2点（3.7g）である。

第137表　R 8-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
R8-1(HO)																		1							1
R8-2(AN)										1															1
R8-3(OBG)																		2							2
合　計										1								3							4



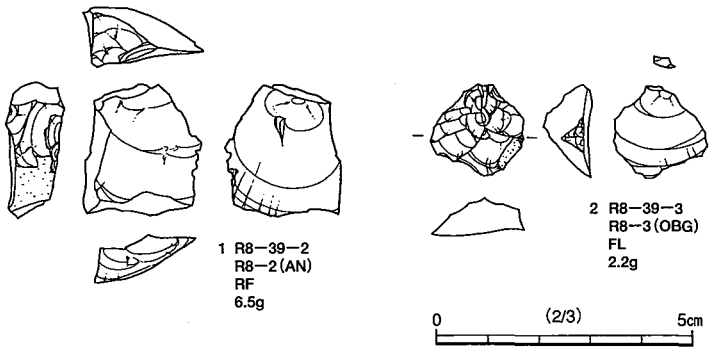
第246図　R 8 - Aブロック出土遺物分布（1）
－石器別分布－



第247図　R 8 - Aブロック出土遺物分布（2）
－石材別分布－

3）出土遺物（第248図）

1は安山岩による加工痕ある剥片である。不定型な剥片を素材として，左側面に調整加工を行っている。2は産地不明の黒曜石による小型で不定型な剥片である。右側縁の一部に細かい剥離痕が見られることから，加工痕あるいは使用痕ある剥片とした方がよいかもしれない。



第248図　R 8 - Aブロック出土遺物

第138表　R 8 -Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
黒曜石G(OBG)																		2							2
安山岩(AN)										1															1
ホルンフェルス(HO)																		1							1
合　計										1								3							4

第6節　第5文化層

第5文化層は，Ⅱ層から立川ローム層のソフトローム層最上部（Ⅲ層）を中心に包含されている石器群である。I3- A・Bブロックの2か所が該当する。細石刃石器群である。

1　I3- Aブロック（第249～251・268図，第139・140表，カラー図版18，図版12）

1）ブロックの概要

I3- Aブロックは，調査範囲西側のI2-95，I3-04・05・07グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は90ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸3ｍ，短軸2ｍの範囲に10点の石器と西に3ｍほど離れて1点，東に6ｍほど離れて1点の石器が分布する。出土層位は，50cmほどの高低差をもって包含されている（第249・250図）。

ブロックは，剥片11点（10個体），細石刃核1点の合計12点（11個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ｅ1点，安山岩5点（4個体），頁岩Ｂ1点，チャート1点，瑪瑙・玉髄4点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは5母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｅ1母岩（I3-1），安山岩1母岩（I3-2），頁岩Ｂ1母岩（I3-3），チャート1母岩（I3-5），瑪瑙・玉髄1母岩（I3-6）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は83%（10/12点）である。

・**I3-1**：自然面は凹凸があり灰色（N5/0），内部は淡黒灰色不透明な黒曜石である。φ1㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。伊豆半島周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片1点（2.6g）の単独資料である。

・**I3-2**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に青灰色（5B5/1）が部分的に混じり，新鮮面な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片5点（4個体；55.5g）である。接合資料は，剥片2点（1個体;3.9g）である。その他に同一母岩が，I3- Bブロックに1点ある。

・**I3-3**：自然面は比較的平滑で黄褐色（2.5Y5/3），内部は黒褐色（2.5Y3/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（5.8g）の単独資料である。

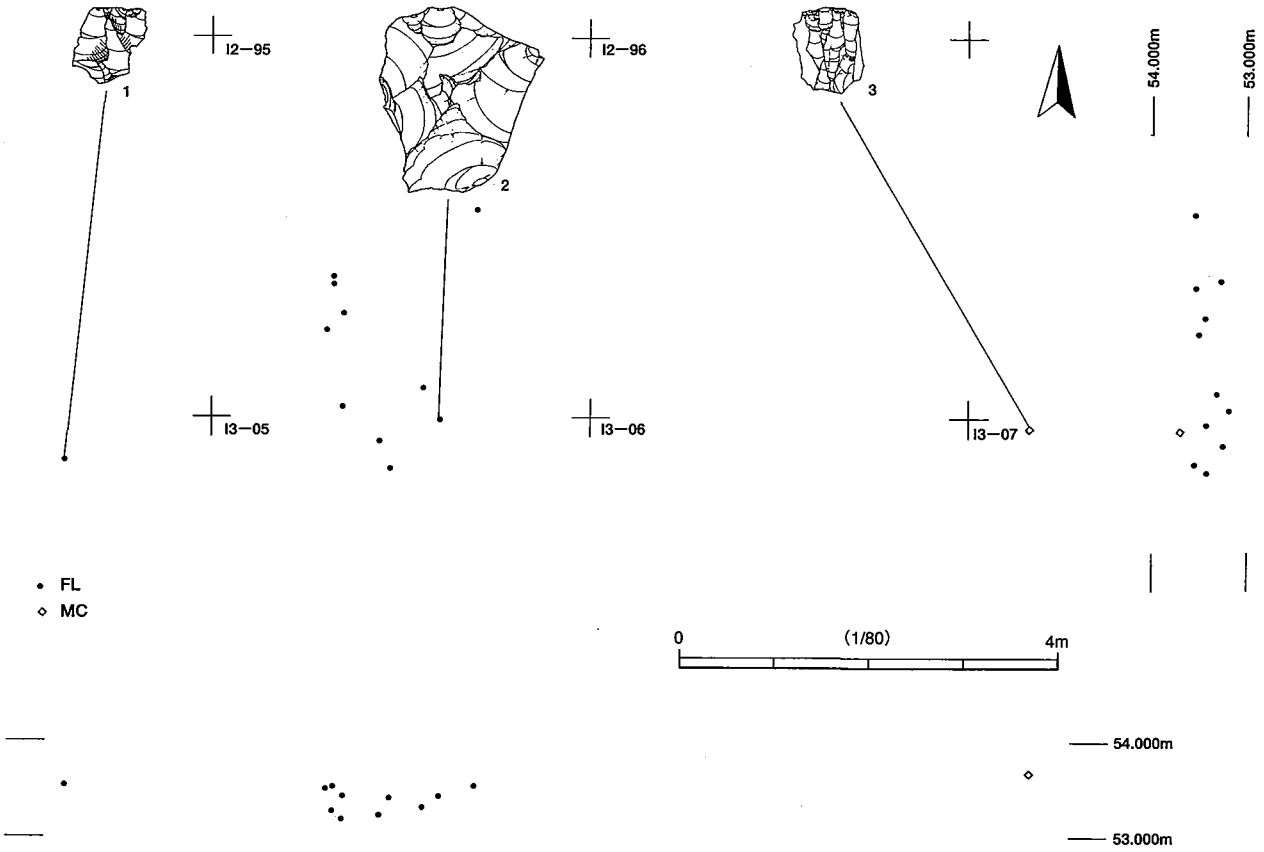
・**I3-5**：内部は灰色（10Y4/1）の地に灰色（7.5Y6/1）が部分的に混じり，節理は灰色（10Y4/1）の地ににぶい黄色（2.5Y6/4）・黒褐色（2.5Y3/1）が部分的に混じり，嶺岡産頁岩に類似したチャートである。石器群の内訳は，細石刃核1点（13.5g）の単独資料である。

・**I3-6**：浅黄色（5Y7/3）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片2点（3.0g）である。

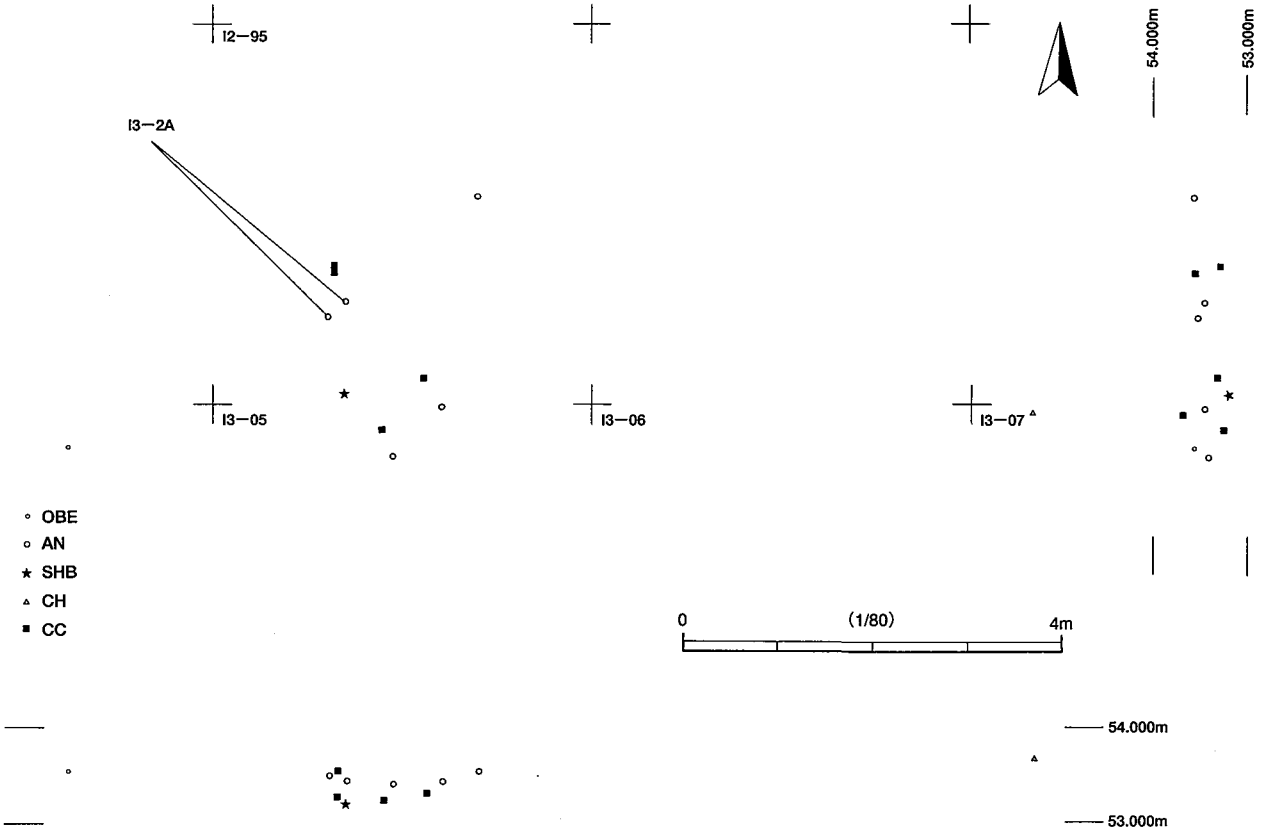
なお，母岩分類できなかった資料に，瑪瑙・玉髄の剥片2点（5.0g）がある。

3）出土遺物（第251図）

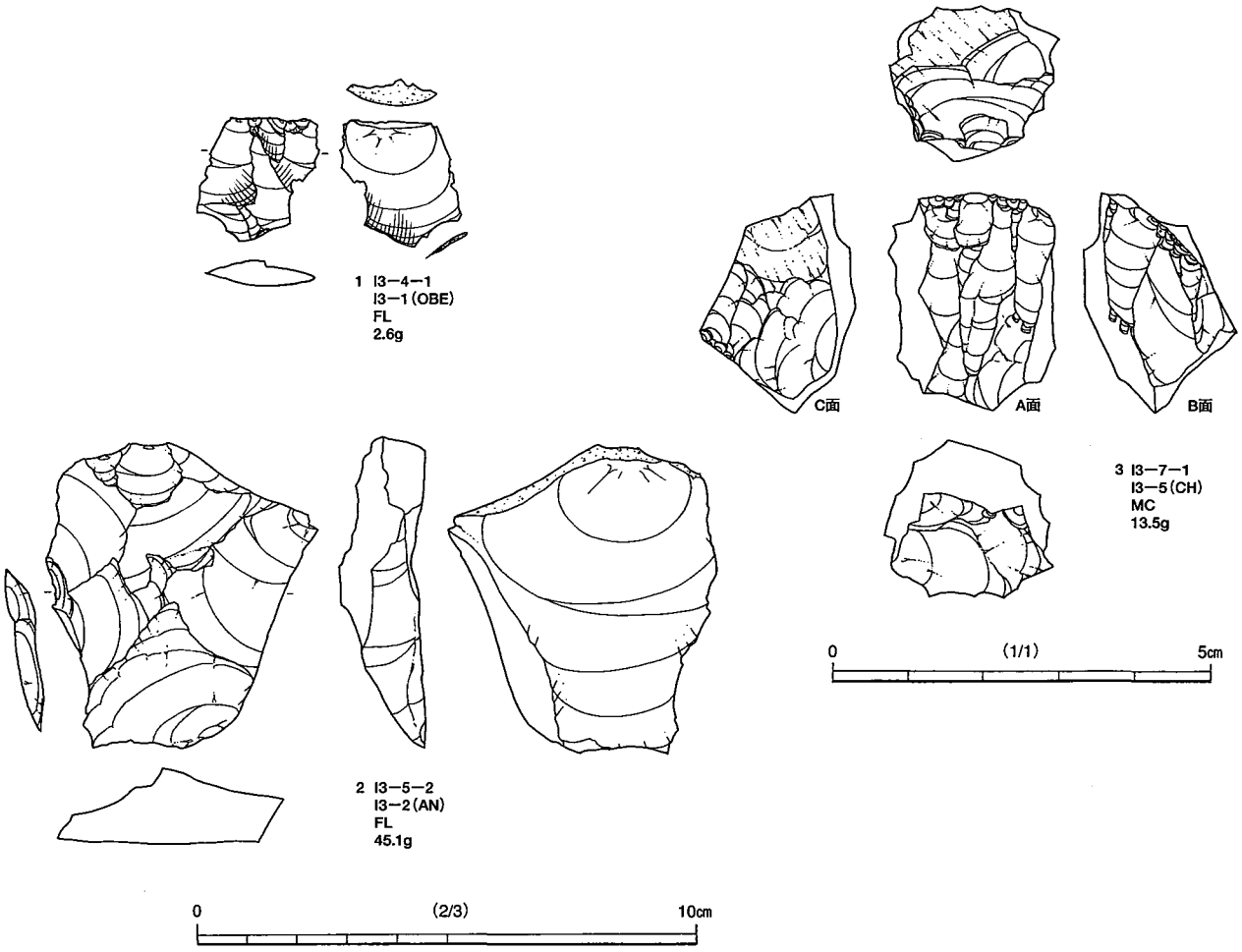
1は伊豆半島周辺産の黒曜石，2は安山岩による不定型な剥片である。3はチャートによる野岳－休場型の細石刃核である。両設打面で，作業面は，A・B面でほぼ半周，C面は片面の一部である。両打面とも2～3枚ほどの剥離面で打面を作り，打面調整や頭部調整を行いながら，細石刃を剥離している。しかし，C面については，末端が節理などにより，階段状あるいは蝶番状を呈しており，意図した長さの細石刃を生産することができないため，剥離作業が停止されたものと思われる。打面と作業面のなす角度は，A面で64度，B面で78度，C面で94度，作業面長は，A面で22㎜～27㎜，B面で18㎜，C面では13㎜である。



第249図　Ⅰ3-Aブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第250図　Ⅰ3-Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－



第251図　Ⅰ3-Aブロック出土遺物

第139表　Ⅰ3-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
Ⅰ3-1(OBE)																		1							1
Ⅰ3-2(AN)																		5(4)							5(4)
Ⅰ3-3(SHB)																		1							1
Ⅰ3-5(CH)																								1	1
Ⅰ3-6(CC)																		2							2
その他(CC)																		2							2
合　計																		11(10)						1	12(11)

第140表　Ⅰ3-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石E(OBE)																		1							1
安山岩(AN)																		5(4)							5(4)
頁岩B(SHB)																		1							1
チャート(CH)																								1	1
瑪瑙・玉髄(CC)																		4							4
合　計																		11(10)						1	12(11)

2　I3- Bブロック（第252～254・268図，第141～143表，カラー図版19，図版12）

1）ブロックの概要

I3- Bブロックは，調査範囲西側のI3-37・46～48・56・57・66グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は100 mである。

ブロックの規模と形状は，長軸14 m，短軸7 mの範囲に26点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅱ層からⅢ層にかけてで，60cmほどの高低差をもって包含されている（第252・253図）。

ブロックは，掻器1点，加工痕ある剥片1点，剥片19点（18個体），石核2点，細石刃核1点の合計24点（23個体）と礫2点で構成される。石器石材は，黒曜石E 1点，安山岩1点，頁岩C 5点，頁岩E 3点，砂岩1点，ホルンフェルス6点，瑪瑙・玉髄7点（6個体）である。礫石材は，流紋岩1点（1母岩；13.3g），砂岩1点（1母岩；26.5g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは10母岩を識別した。内訳は，黒曜石E 1母岩（I3-7），安山岩1母岩（I3-2），頁岩C 2母岩（I3-8・9），頁岩E 1母岩（I3-10），砂岩1母岩（I3-13），ホルンフェルス2母岩（I3-11・12），瑪瑙・玉髄2母岩（I3-14・15）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は79%（19/24点）である。

・**I3-2**：灰オリーブ色（5Y5/2）などの安山岩である。母岩の特徴はI3- Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片1点（45.6g）の単独資料であるが，その他にI3- Aブロックに5点ある。

・**I3-7**：自然面は平滑で灰黄褐色（10YR4/2），内部は黒灰色不透明な黒曜石である。φ 1 mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。伊豆半島周辺産と考えられる。石器群の内訳は，細石刃核1点の単独資料（2.0g）である。

・**I3-8**：灰オリーブ色（5Y5/2）の地ににぶい赤褐色（5YR4/3）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石核1点（30.1g）の単独資料である。

・**I3-9**：灰黄褐色（10YR4/2）・灰白色（2.5Y8/2）の地に珪化した黄灰色（2.5Y5/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点（10.5g）の単独資料である。

・**I3-10**：灰色（5Y4/1）・灰色（5Y6/1）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片3点（1.9g）である。

・**I3-11**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，掻器1点，剥片3点の合計4点（21.8g）である。接合資料は，剥片2点（5.8g）である。

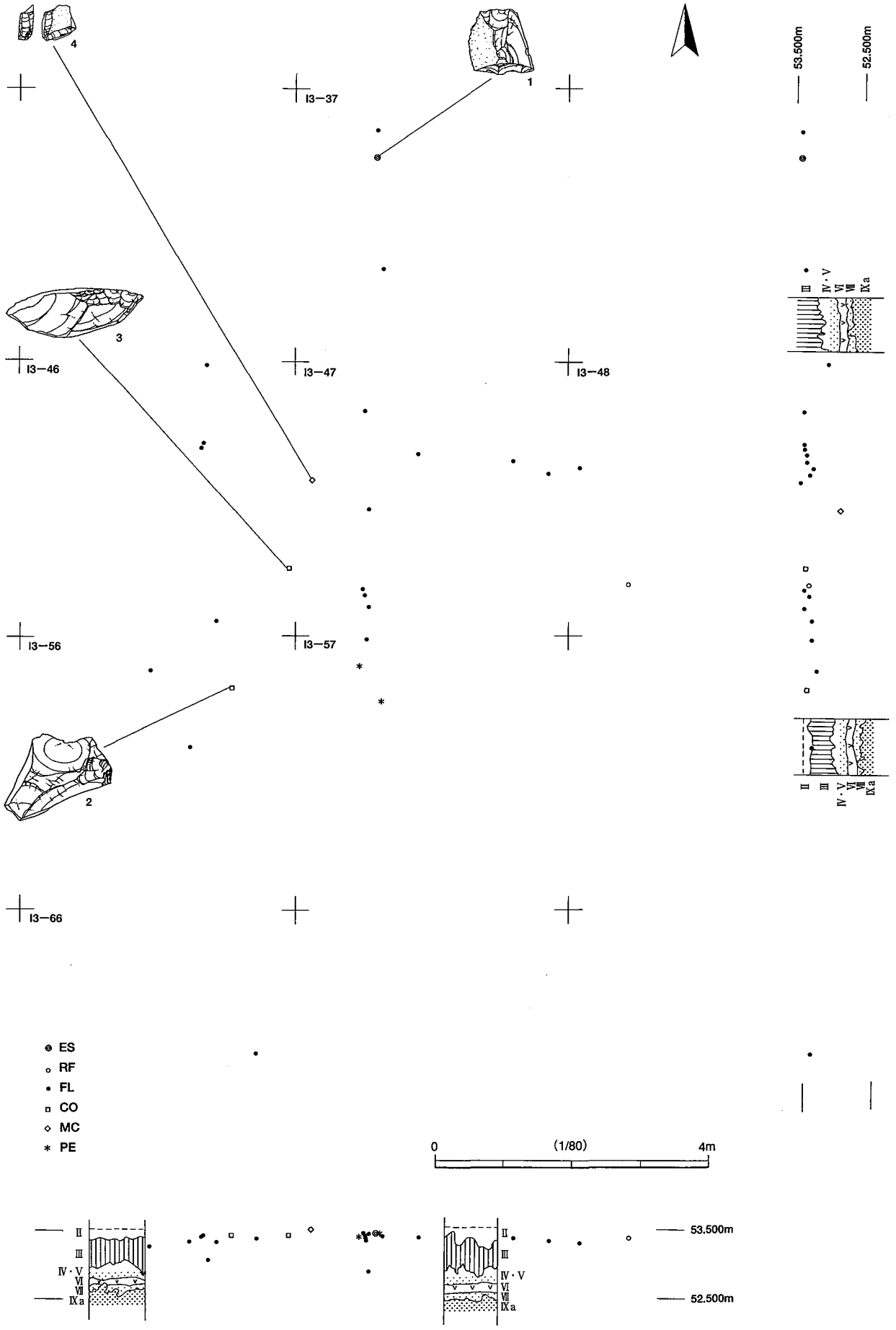
・**I3-12**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）・浅黄色（5Y7/3）の地に青灰色（5B5/1）が部分的に混じるホルンフェルスである。石器群の内訳は，石核1点（41.0g）の単独資料である。

・**I3-13**：自然面は平滑で黄褐色（10YR5/6）・灰オリーブ色（5Y6/2），内部は灰オリーブ色（5Y6/2），節理はにぶい黄橙色（10YR6/3）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片1点（15.0g）の単独資料である。

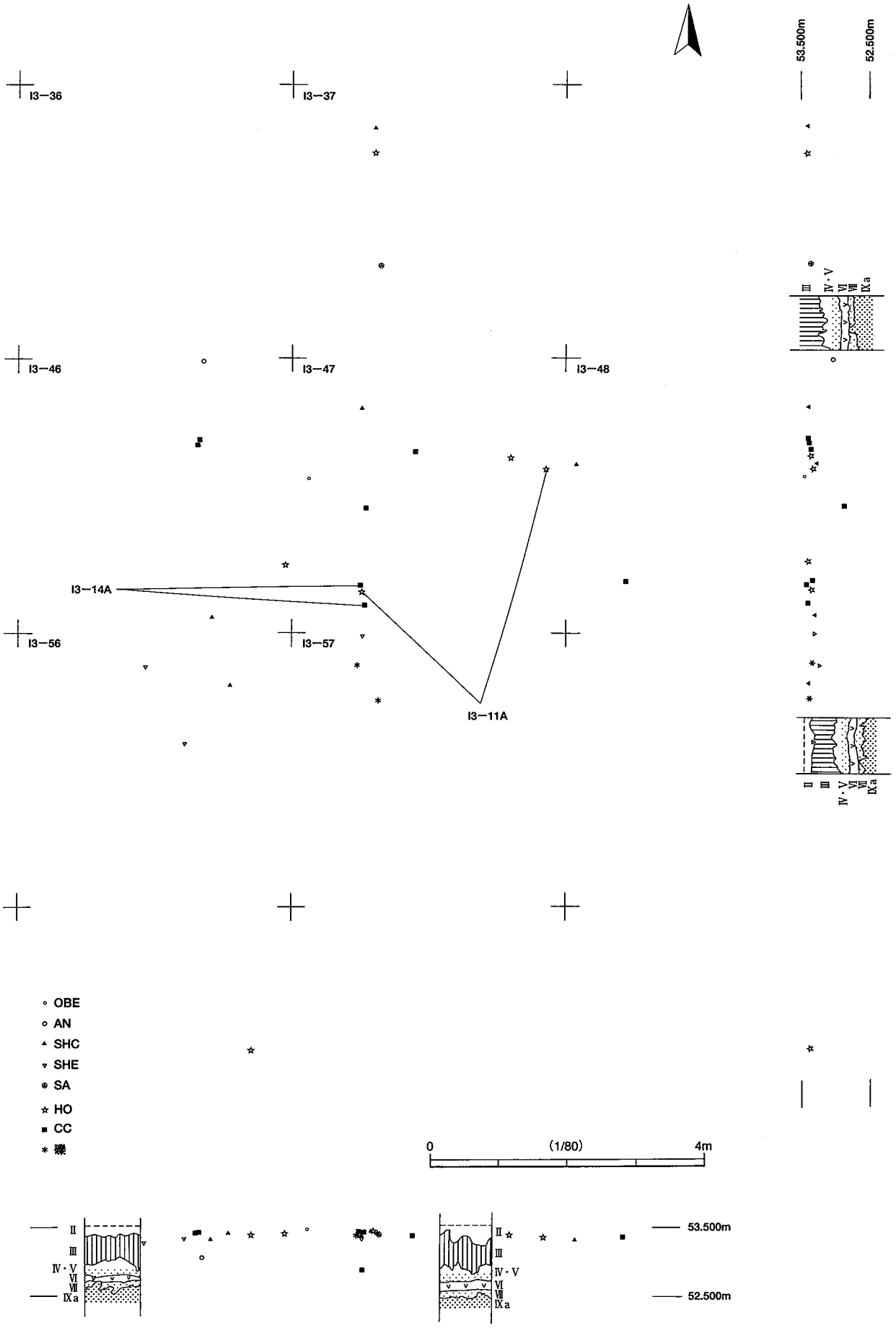
・**I3-14**：自然面は比較的平滑で褐色（7.5YR4/4），内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）・灰オリーブ色（5Y6/2）の地に暗青灰色（10BG4/1）の筋が網目状に入る瑪瑙・玉髄としたが，チャートの可能性がある。石器群の内訳は，剥片4点（3個体；83.6g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；74.7g）である。

・**I3-15**：灰白色（10YR8/2）で粒状の瑪瑙・玉髄としたが，空隙のある花崗岩状の石材である。石器群の内訳は，剥片2点（1.1g）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，頁岩Cの剥片3点（4.4g），ホルンフェルスの剥片1点（0.9g），瑪瑙・玉髄の加工痕ある剥片1点（2.2g）がある。



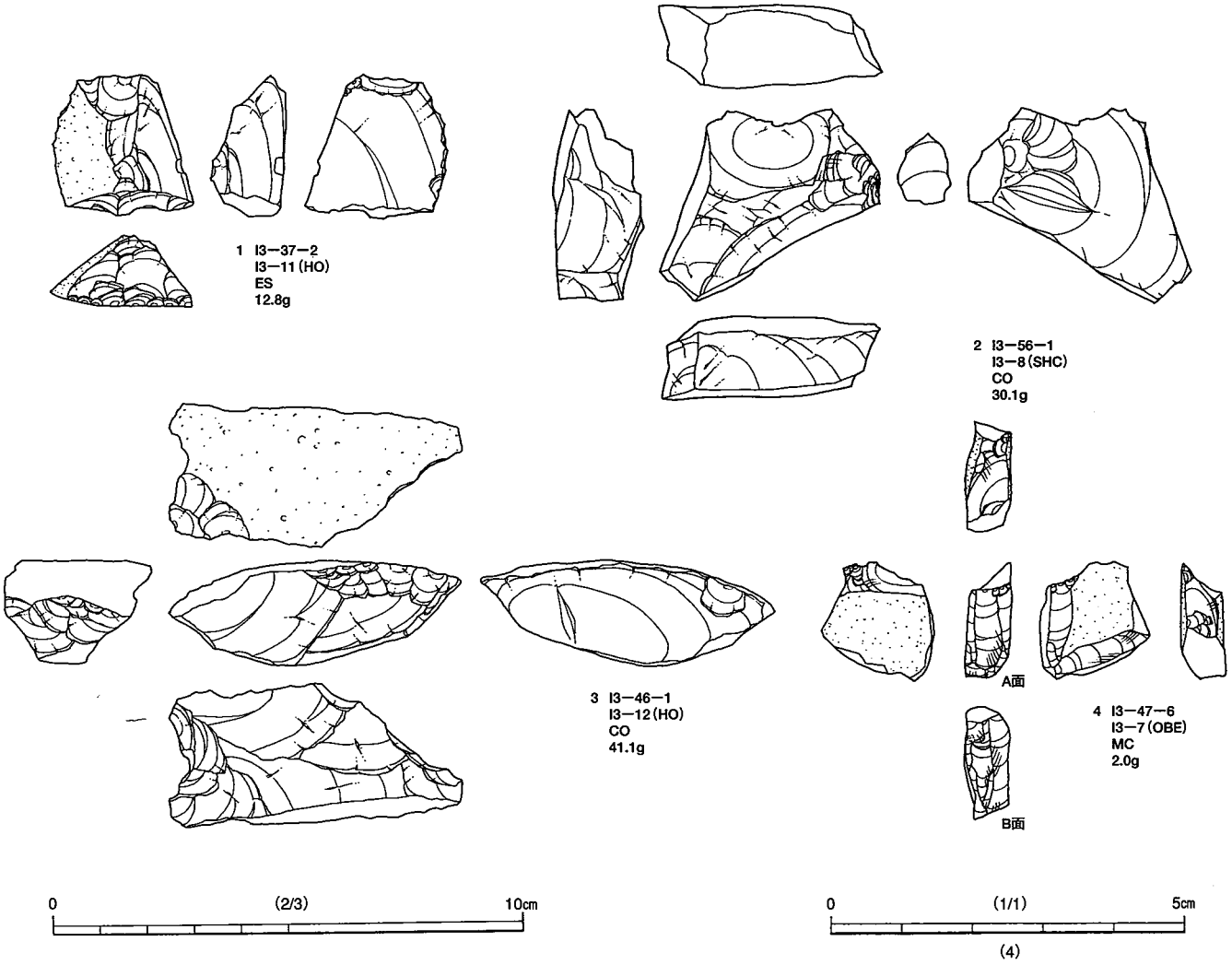
第252図　I 3-Bブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－



第253図　Ⅰ3-Bブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

3）出土遺物（第254図）

1はホルンフェルスによる掻器である。不定型な剥片の折断面と思われる面に，90度近い調整加工を行っている。2は嶺岡産頁岩，3はホルンフェルスによる石核である。2は比較的厚みのある不定型な剥片を素材として，表面側で不定型な剥片を剥離している。4は伊豆半島周辺産の黒曜石による細石刃核である。小型で薄い剥片状の礫が素材と思われる。打面は2か所で，2～3枚ほどの剥離面で打面を作り，細石刃を剥離している。作業面は，A面・B面ともに片面である。A面とB面の新旧関係は，A面の末端がB面の打面を切っていることから，A面の方が新しいと考えられる。打面と作業面のなす角度は，A面で104度，B面で65度，作業面長は，A面で12㎜，B面で14㎜であるが，B面については，打面の一部がA面に切られていることから，作業面長は現存長より若干長く，打面と作業面のなす角度も多少異なるかもしれない。



第254図　I 3-Bブロック出土遺物

第141表　Ⅰ３-Ｂブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
Ⅰ3-2(AN)																		1							1
Ⅰ3-7(OBE)																								1	1
Ⅰ3-8(SHC)																				1					1
Ⅰ3-9(SHC)																		1							1
Ⅰ3-10(SHE)																		3							3
Ⅰ3-11(HO)					1													3							4
Ⅰ3-12(HO)																				1					1
Ⅰ3-13(SA)																		1							1
Ⅰ3-14(CC)																		4(3)							4(3)
Ⅰ3-15(CC)																		2							2
その他(SHC)																		3							3
その他(HO)																		1							1
その他(CC)										1															1
合　計					1					1								19(18)		2				1	24(23)

第142表　Ⅰ３-Ｂブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
黒曜石E(OBE)																								1	1
安山岩(AN)																		1							1
頁岩C(SHC)																		4		1					5
頁岩E(SHE)																		3							3
砂岩(SA)																		1							1
ホルンフェルス(HO)					1													4		1					6
瑪瑙・玉髄(CC)										1								6(5)							7(6)
合　計					1					1								19(18)		2				1	24(23)

第143表　Ⅰ３-Ｂブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
Ⅰ3R-1	RH	1	13.3
Ⅰ3R-2	SA	1	26.5

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	13.3
砂岩(SA)	1	26.5
合　計	2	39.8

第7節　時期不明

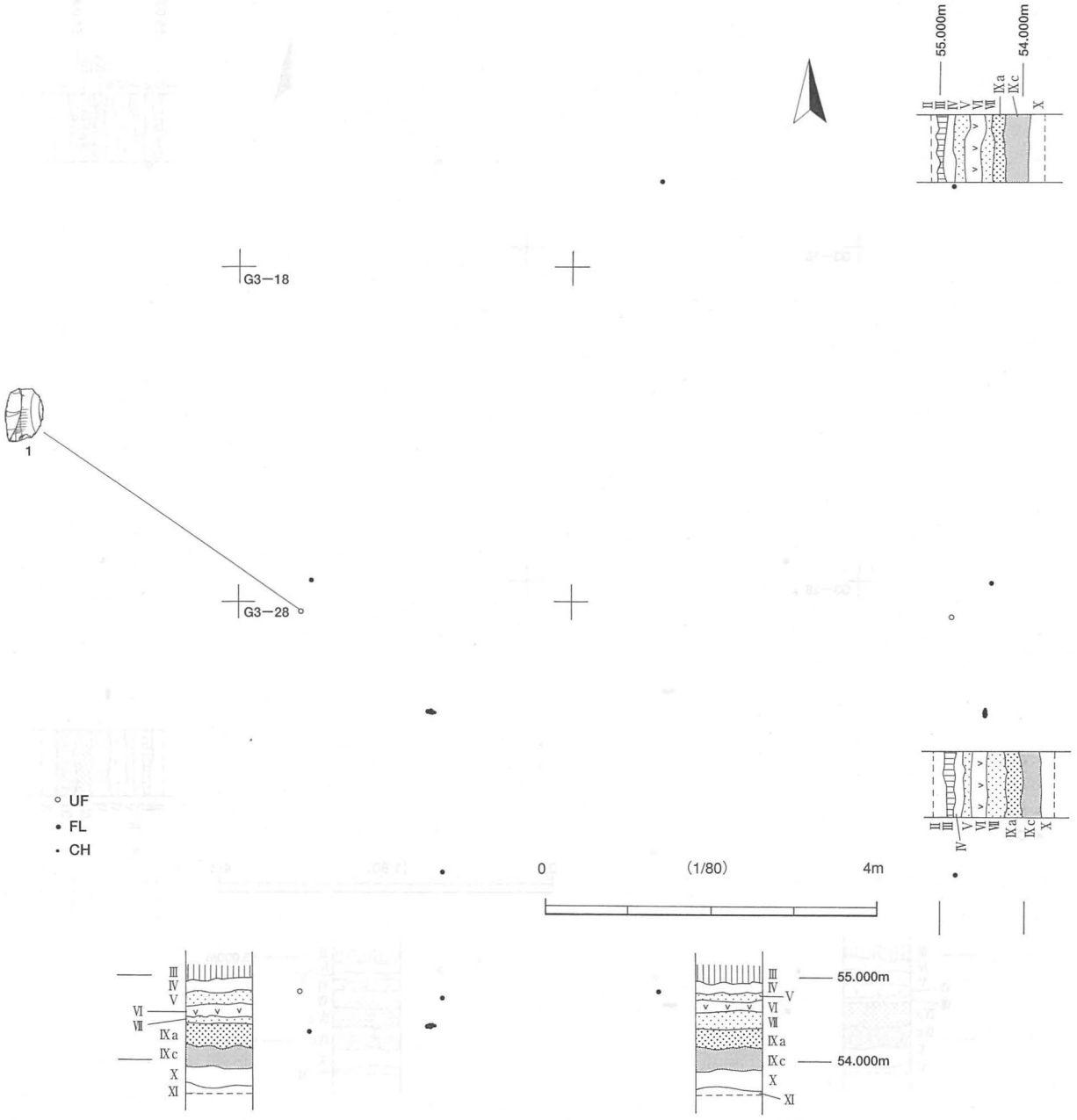
ここでは，明確に時期を決定できる資料が発見されていないことと層位的にも出土層準が不明なため，帰属時期を決定することができなかったブロックとブロックを形成していないグリッド単独（2点以下）出土の遺物，上層遺構等に混在していた遺物について記述する。帰属文化層の不明なブロックについては，G3- B，H1- Bの2か所が該当する。

1　G3- Bブロック（第255～257・268図，第144・145表，カラー図版19，図版12）

1）ブロックの概要

G3- Bブロックは，調査範囲西側のG3-09・18・28グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の西側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30 mである。

ブロックの規模と形状は，長軸4 m，短軸1 mの範囲に7点の石器と6 mほど離れて1点の石器が分布



第255図　G 3 - Bブロック出土遺物分布（1）－石器別分布－

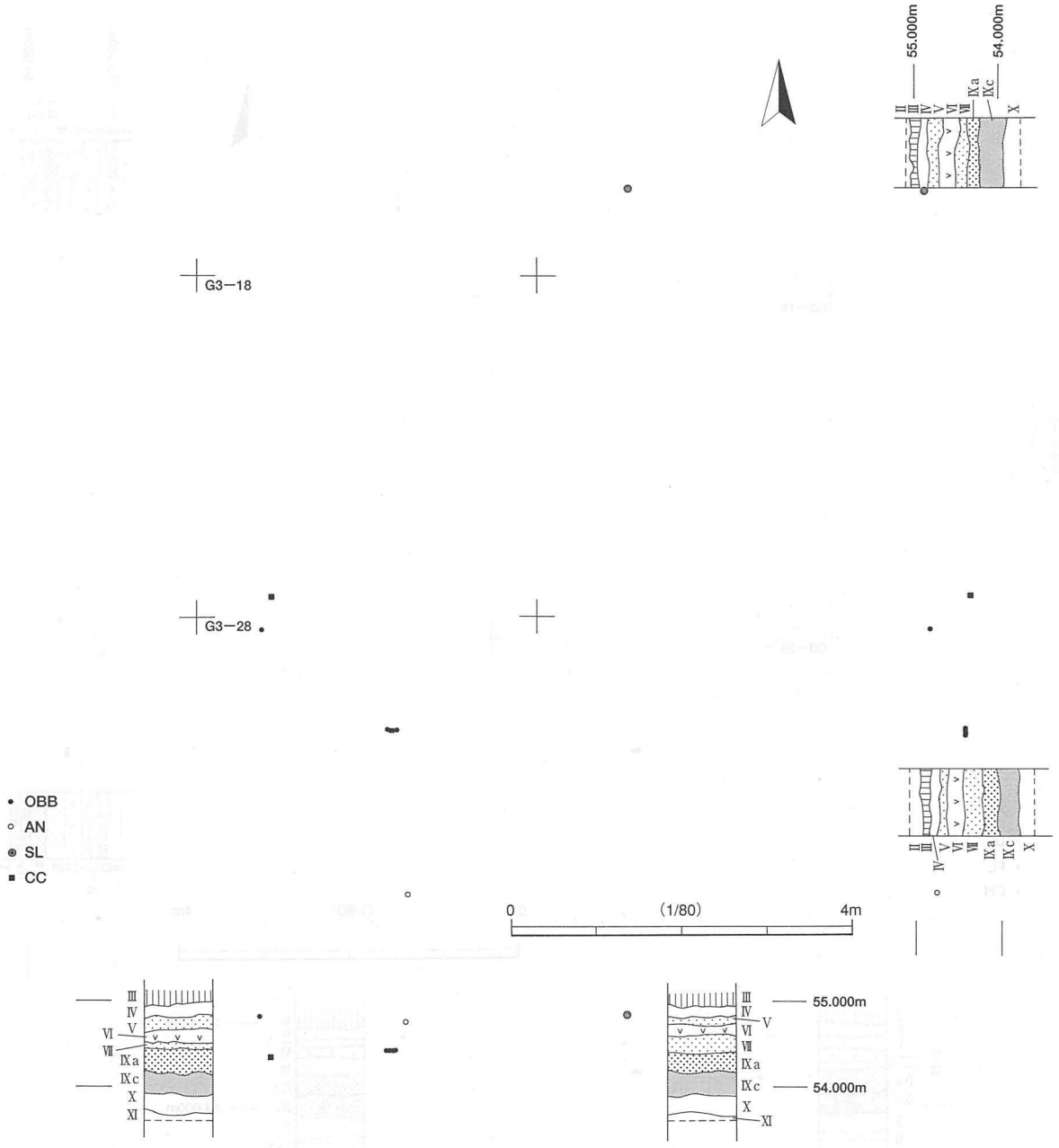
する。出土層位は，Ⅳ層からⅨ層にかけてで，50cmほどの高低差をもって包含されている（第255･256図）。

ブロックは，使用痕ある剥片１点，剥片６点，砕片１点の合計８点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ５点，安山岩１点，粘板岩１点，瑪瑙・玉髄１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは母岩識別した石器の石器総数に対する割合は０％（0/8点）である。

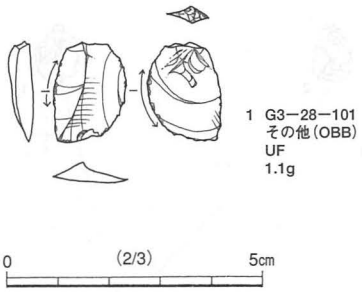
母岩分類できなかった資料は，信州和田峠周辺産の黒曜石の使用痕ある剥片１点，剥片３点，砕片１点の合計５点（3.7g），安山岩の剥片１点（0.9g），粘板岩の剥片１点（36.2g），瑪瑙･玉髄の剥片１点（1.4g）である。



第256図　Ｇ３-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

3）出土遺物（第257図）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。小型で不定型な剥片の表面左側縁と裏面左側縁に刃こぼれが見られる。



第257図　G3-Bブロック出土遺物

第144表　G3-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
その他(OBB)											1							3	1						5
その他(AN)																		1							1
その他(SL)																		1							1
その他(CC)																		1							1
合計											1							6	1						8

第145表　G3-Bブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石B(OBB)											1							3	1						5
安山岩(AN)																		1							1
粘板岩(SL)																		1							1
瑪瑙・玉髄(CC)																		1							1
合計											1							6	1						8

2　H1-Bブロック（第258～260・268図，第146・147表，カラー図版19）

1）ブロックの概要

H1-Bブロックは，調査範囲西側のH1-90グリッドに位置する。ブロックの立地は，西側台地上の西側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40mである。

ブロックの規模と形状は，直径2mの範囲に6点の石器が分布する。出土層位は，Ⅴ層からⅨc層にかけてで，90cmほどの高低差をもって包含されている（第258・259図）。

ブロックは，楔形石器1点，加工痕ある剥片1点，剥片4点の合計6点で構成される。石器石材は，黒曜石B 6点である。

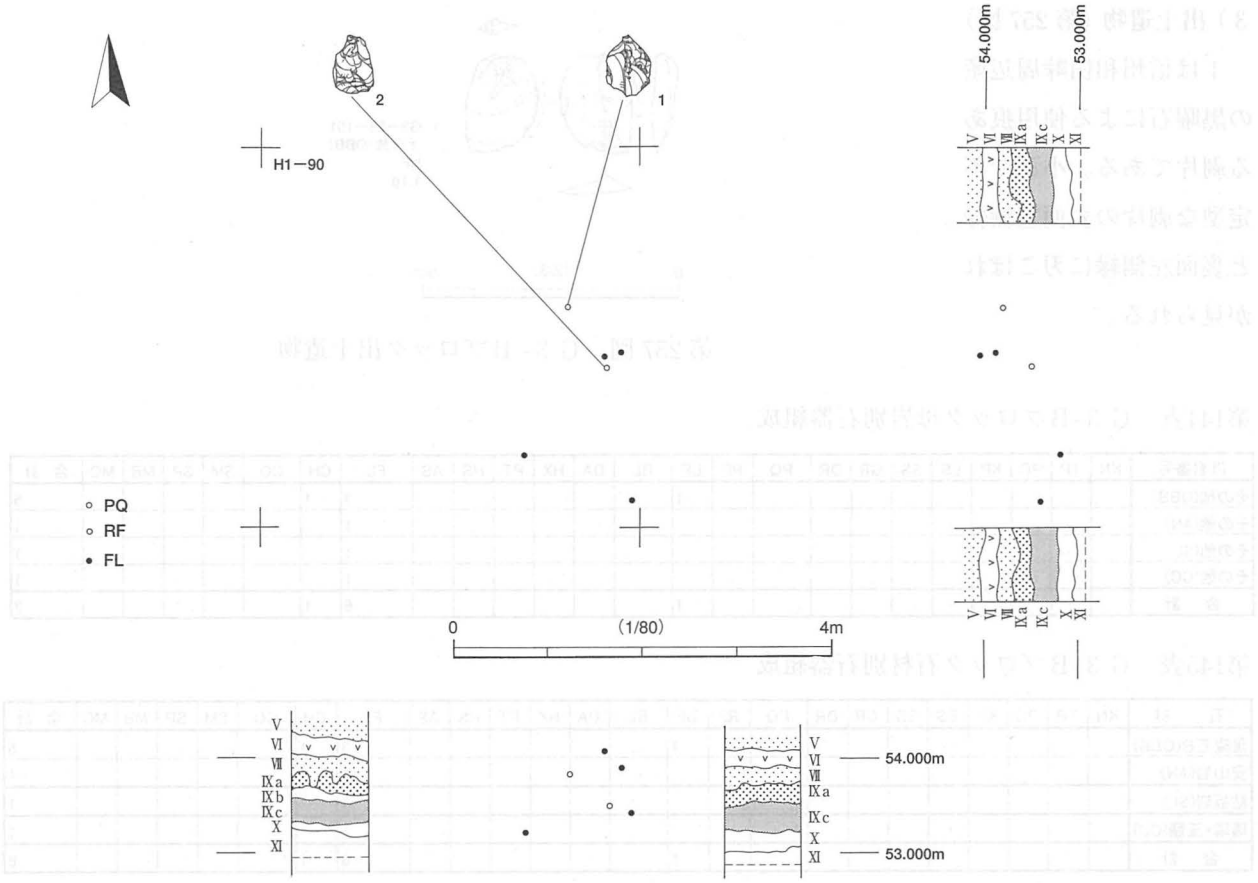
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは1母岩を識別した。内訳は，黒曜石B 1母岩（H1-2）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は67%（4/6点）である。

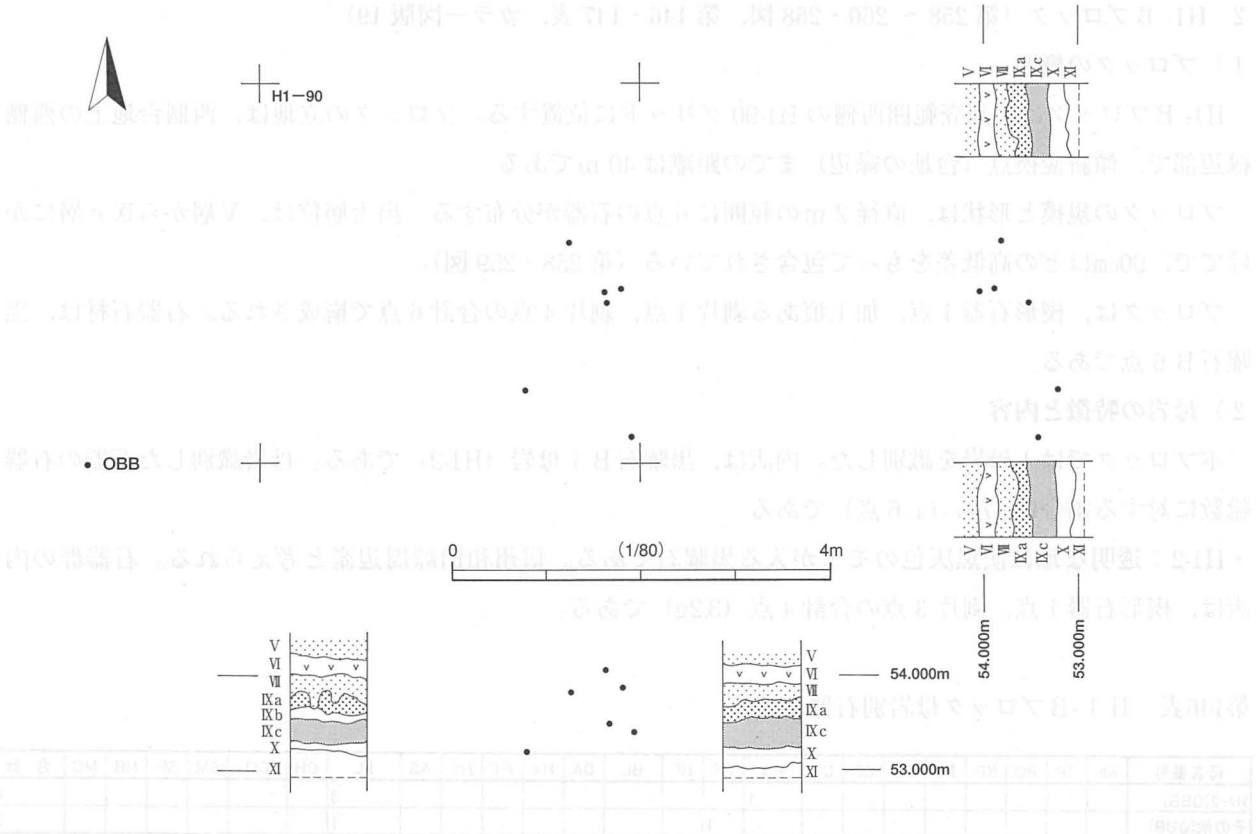
・**H1-2**：透明な地に淡黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片3点の合計4点（3.2g）である。

第146表　H1-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
H1-2(OBB)									1									3							4
その他(OBB)										1								1							2
合計									1	1								4							6



第 258 図　Ｈ１- Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

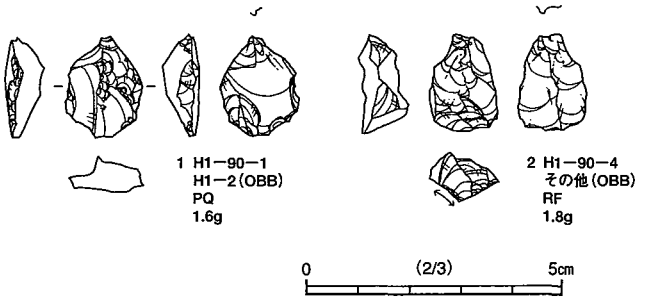


第 259 図　Ｈ１- Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Bの加工痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（2.4g）である。

3）出土遺物（第260図）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による楔形石器である。両端と両側縁に対向する剥離痕が見られる。2は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。小型で不定型な剥片の末端に調整加工を行っており，同じ部位に刃こぼれも見られる。



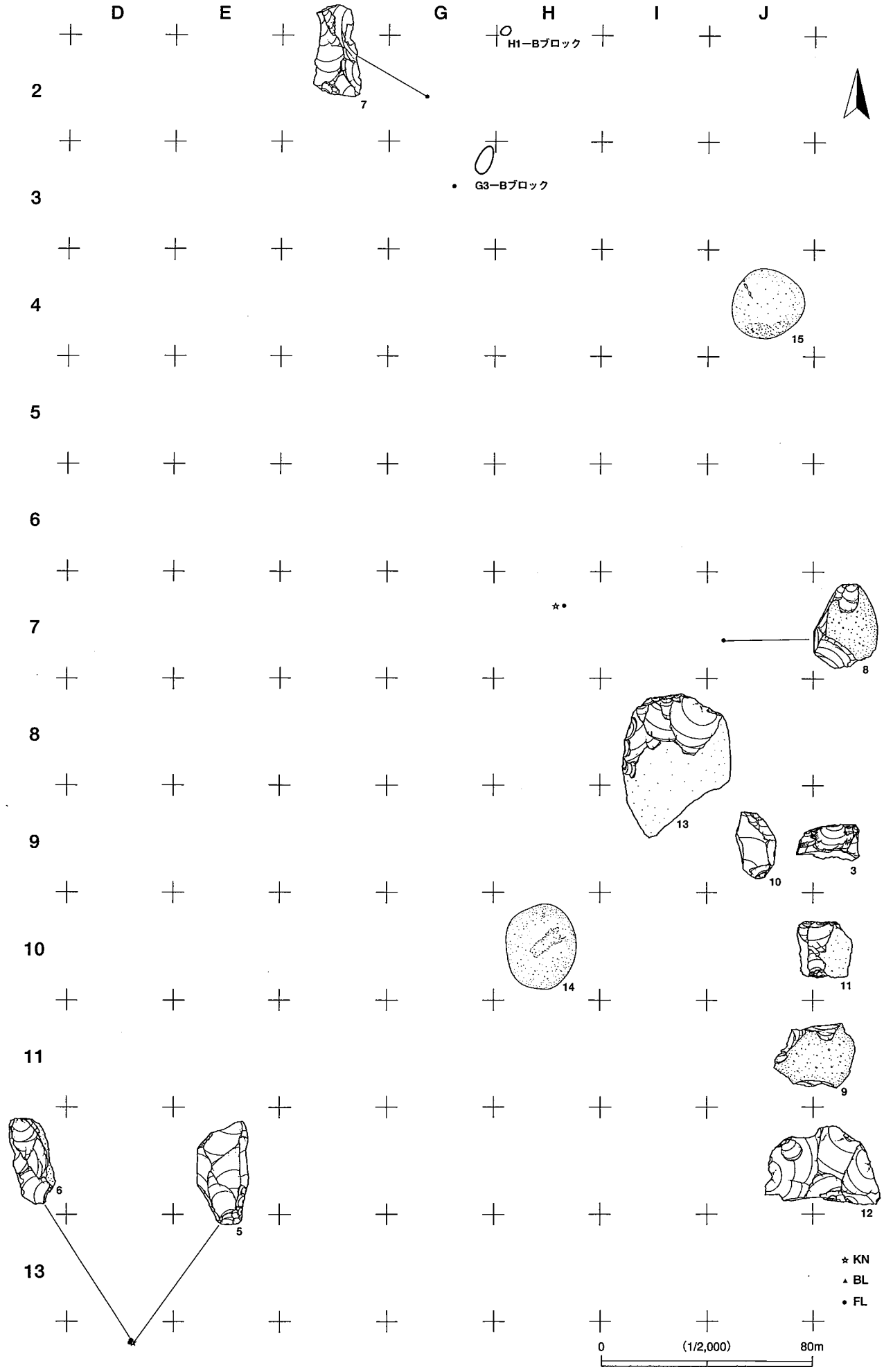
第260図　H1-Bブロック出土遺物

第147表　H1-Bブロック石材別石器組成

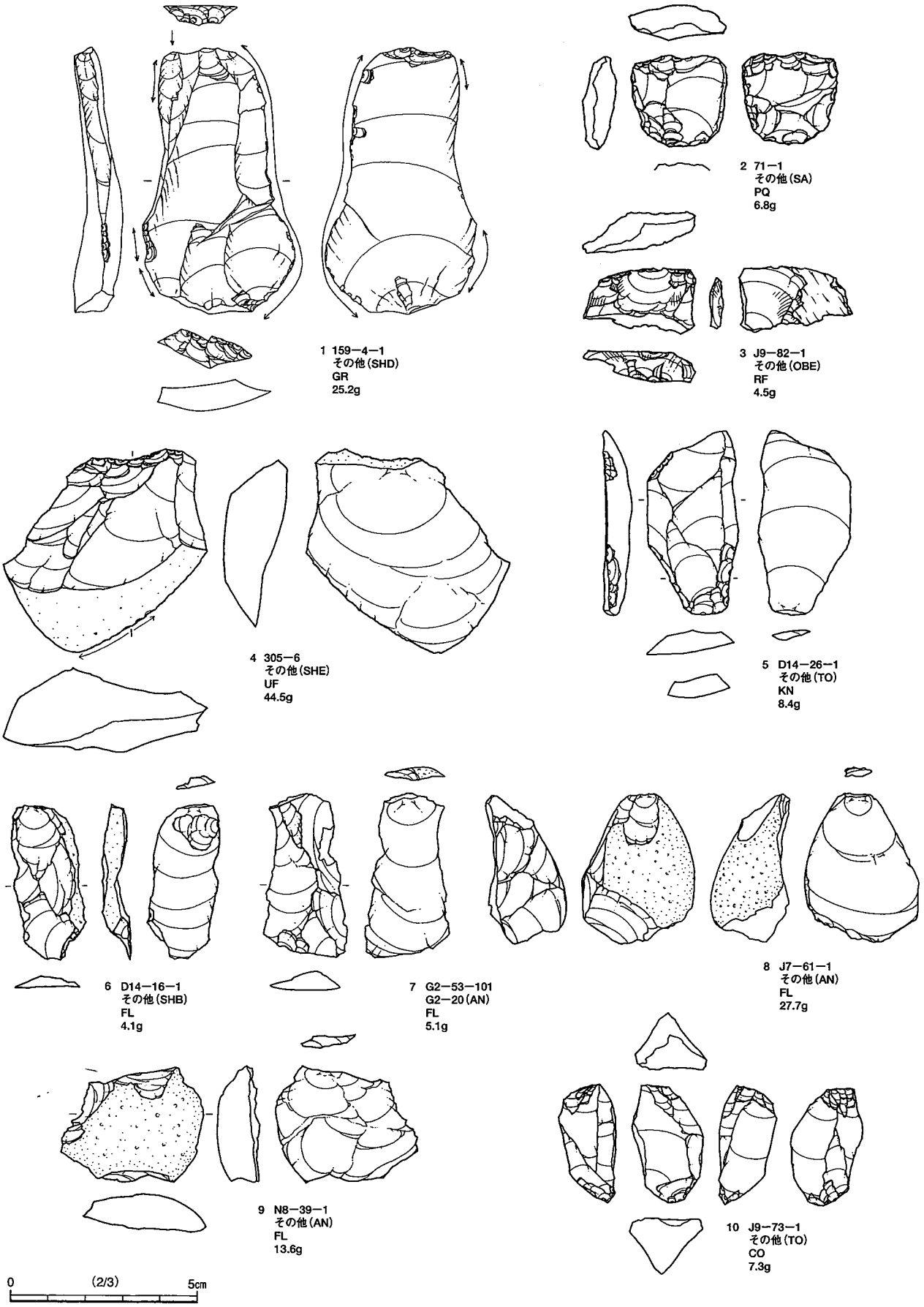
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)									1	1								4							6
合　計									1	1								4							6

3　ブロック外（第261～263図，カラー図版19）

1はにぶい黄橙色（10YR7/2）の地に灰褐色（7.5YR6/2）が混じる硬質緻密な頁岩による彫器である。石刃の末端に表面側から細かい調整加工を行って打面を作出し，左側縁に樋状の調整加工を行っている。また，両面両側縁に細かい剥離痕や刃こぼれが見られる。上層遺構から出土している。2は自然面は平滑で，自然面及び内部は灰白色（2.5Y8/2）の地に灰白色（2.5Y7/1）が混じる砂岩による楔形石器である。両面の両端と裏面の両側縁に対向する剥離痕が見られる。上層遺構から出土している。3は自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黒灰色の地に淡黒色の縞が入る伊豆半島周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。下部の折断面に細かい剥離痕が見られる。なお，裏面の節理は自然面の可能性が高い。J9-82グリッドから出土している。4は自然面は平滑で明黄褐色（10YR6/6），内部は黄橙色（10YR7/8）の若干珪化度の高い頁岩による使用痕ある剥片である。不定型な剥片の末端に刃こぼれが見られる。上層遺構から出土している。5は灰白色（7.5Y7/1）・明黄褐色（2.5Y7/6）の軟質な安山岩による基部加工のナイフ形石器である。石刃状の縦長剥片の打面側を基部としている。左刃の一部には細かい剥離痕が見られる。D14-26グリッドから出土している。6は自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）・暗赤褐色（10R3/3）の北関東産頁岩による石刃状の縦長剥片である。両面に大小のクレーター状の剥落痕が見られることから，暗赤褐色は被熱によるものと考えられる。D14-16グリッドから出土している。7は自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩による石刃状の縦長剥片である。G2-53グリッドから出土している。8は自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は黄灰色（2.5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩による石核の底面が残る不定型な剥片である。J7-61グリッドから出土している。9は自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は明黄褐色（10YR6/6）・灰色（7.5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩による不定型な剥片である。N8-39グリッドから出土している。10は灰白色（10Y7/1）の軟質な安山岩による石核である。両端に対向する剥離痕が見られることから両極石核と思われる。J9-73グリッドから出土している。11は自然面は凹凸がありにぶい黄色（2.5Y6/4）・にぶい赤褐色（5YR4/3）・黒褐色（10YR3/2），内部は暗青灰色（5BG3/1）・オリーブ褐色（2.5Y4/3）のチャートによる石核である。打面調整を行いながら，両設

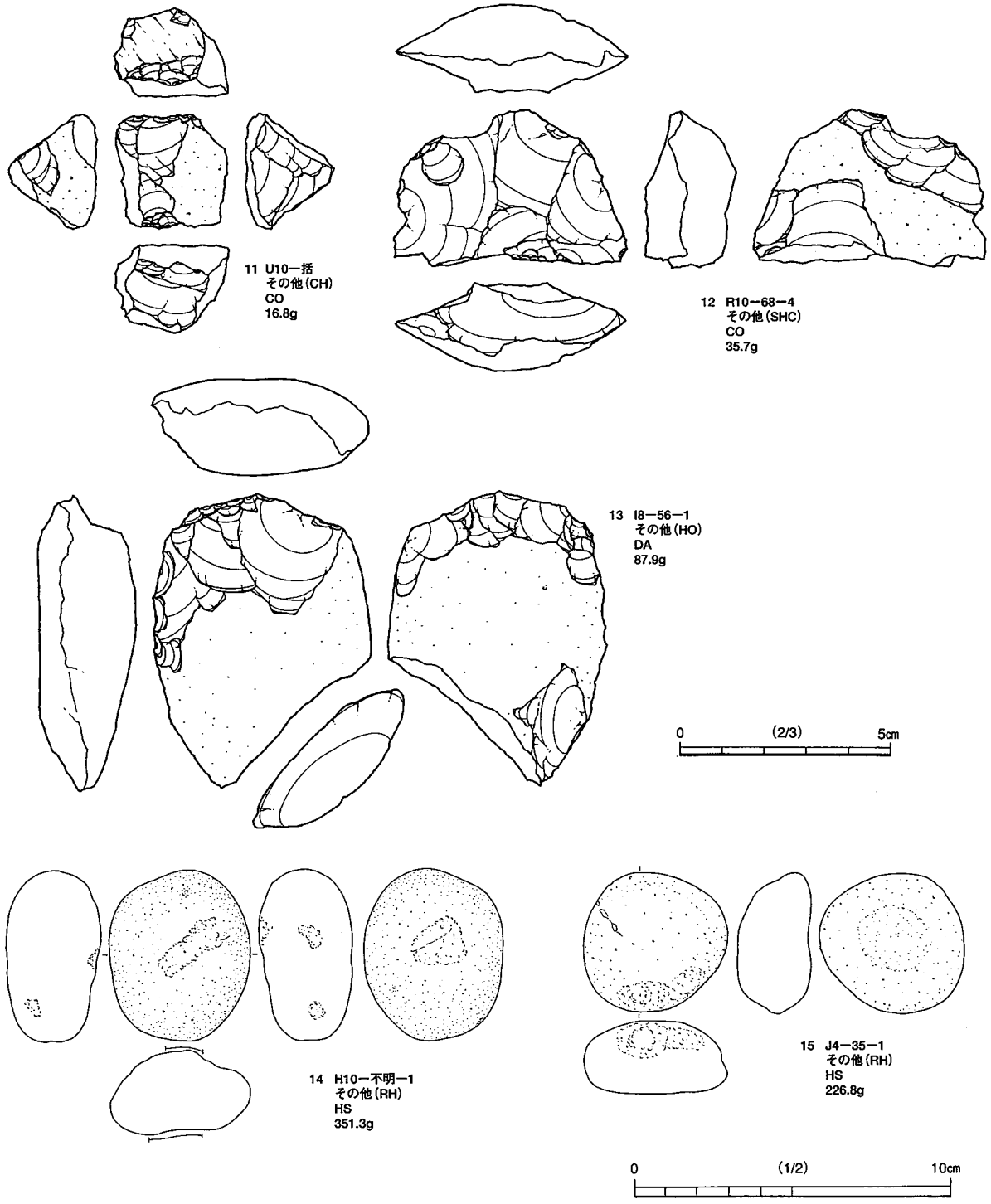


第261図　時期不明ブロック外出土遺物分布



第262図　時期不明ブロック外出土遺物（1）

打面の石核から小型で不定型な剥片を剥離している。右側面には表面の自然面を打面とした剥離痕が見られる。なお，自然面は節理あるいは剥離面の可能性がある。U10グリッドから出土している。12は自然面は凹凸がありオリーブ褐色（2.5Y4/6)・オリーブ褐色（2.5Y4/4)，内部は灰色（5Y6/1)・黄褐色（2.5Y5/3)の嶺岡産頁岩による石核である。両面で，求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。片面には自然面が残る。R10-68グリッドから出土している。13は自然面は比較的平滑で灰色（N4/0)・灰色



第263図　時期不明ブロック外出土遺物（2）

(5Y5/1)，内部は灰色（N4/0）のホルンフェルスによる打製石斧である。比較的大型で扁平な礫の両面に調整加工を行っている。I8-56 グリッドから出土している。14 は自然面が比較的平滑で褐色（10YR4/4）の流紋岩による敲石である。両面のほぼ中央部に敲打痕が見られる。H10 グリッドから出土している。15 は自然面が粗めの紙ヤスリ状でにぶい黄橙色（10YR6/4）の流紋岩による敲石である。なお，石材については安山岩の可能性がある。下端部に敲打痕，裏面の中央部に浅い凹みが見られるが，後者については，明瞭な敲打痕・磨耗痕などは観察されなかったことから，自然面の可能性がある。また，全体的に若干，赤化しており，スス状の淡黒灰色の痕跡も裏面中心に見られる。下端部の敲打痕は周辺の色調に比べ，薄く（灰黄色（2.5Y6/2））なっていることから，礫群の礫からの転用が考えられる。なお，裏面の中央部に浅い凹みについては，下端部の敲打痕と異なり，周辺の色調と比べ，変化はみられなかった。J4-35 グリッドから出土している。

第3章　ま　と　め

押沼第1遺跡では，63か所のブロックから約4,300点の石器が出土した。これらは，立川ローム層第2黒色帯下部から立川ローム層最上部及びⅡ層にかけての各層準から出土しており，石器群の内容とその出土層準から帰属時期不明の1枚を含み6枚の文化層に区分した。第1文化層は17か所，第2文化層は29か所，第3文化層は7か所，第4文化層は6か所，第5文化層は2か所，帰属時期不明の文化層は2か所のブロックが検出されている。

第1文化層

第1文化層は，立川ローム層第2黒色帯下半部（Ⅸ層上部～下部）に包含される石器群で，G1-A～C，G2-A・B・E，F3-A，G3-C，H3-A・B，J4-B，F7-B，O7-A，P7-A，P8-A・B，N10-Aブロックの17か所が該当し，台地の中央から縁辺に分布する。出土層位に幅があり，石器群の内容も多様であることから，本来は2～3時期に細分すべきかもしれない。

第2文化層

第2文化層は，立川ローム層第2黒色帯上半部とその周辺（Ⅵ層～Ⅶ層）を中心に包含される石器群で，武蔵野台地のⅥ層の石器群に相当すると考えられる。H1-A，G2-C・D，G3-A，H3-C，G4-A，H4-A，K5-A，K6-A・B，K7-A，F7-A，I8-A，I9-A～C，E9-A，F9-A～D，F10-A・B，G10-A，H10-A～D，G11-Aブロックの29か所が該当し，台地の中央から縁辺にかけて分布する。最も多くのブロック及び石器が発見された文化層である。これらの石器群は，県内では八千代市権現後遺跡第4文化層や印西市木刈峠遺跡1・7・24ユニット，県外では神奈川県寺尾遺跡や東京都鈴木遺跡などと共通し，武蔵野台地のⅥ層石器群に相当するものとされようが，近年，木更津市下野洞遺跡第2～5集中部のⅤ層上部からⅥ層下部にかけて信州産の良質な黒曜石による石刃状の縦長剥片を素材とする多数のナイフ形石器，掻器などを伴う石器群が報告され，今後，その出土層位も含め，Ⅴ層下部～Ⅵ層上部出土の信州産の良質な黒曜石あるいは高原山産黒曜石による石器群やⅦ層上部出土の珪化度の高い頁岩類による石器群などと併せて，いわゆるＡＴ降灰前後の石器群の詳細な再検討が必要と思われる。

また，J6-59・69，K6-50・60グリッドのⅦ層では比較的大型の炭化材や焼土を伴った炭化物集中地点が検出されており，K6-Aブロックが重複する。

なお，草刈遺跡（東部地区及び西部地区旧石器時代）の報告書で，旧Ｇ地点の石器群について，周辺の草刈遺跡との関連で，以下のようにふれられている。草刈遺跡東部地区第5文化層では，①；草刈遺跡Ｃ区C16-Aブロックの石器群に代表されるような東北産頁岩によるナイフ形石器と石刃（搬入された製品），大型石刃に由来する石核とその剥片類で構成される石器群と高原山産黒曜石によるナイフ形石器，剥片類（遺跡内で製作）で構成される石器群の2者が複合するもの。②；草刈遺跡Ｃ区C58B-Bブロックの石器群に代表されるような東北産の可能性もある産地不明の頁岩を用いた石器群と信州産の良質な黒曜石による石器群の2者で構成されるもの。③；草刈遺跡Ｃ区C61-Eブロックや草刈遺跡Ｄ区C57-Aブロックの石器群に代表されるような嶺岡産頁岩や頁岩，凝灰岩，チャート，砂岩，ホルンフェルス，安山岩など東関東一帯で採取可能な各種石材で，その多くは房総半島南部で採取されたと考えられる石材を用いた石器群，また，草刈遺跡では良好な資料が検出されていないが，同一事業地内で本遺跡から2.5kmほど離れた

位置の押沼第1遺跡には，④；押沼第1遺跡G地点の石器群に代表されるような上記①～③とは異なる，信州産の良質な黒曜石を主体として，東北産頁岩，東関東～房総半島産各種石材が複合する中・小型石刃石器群が検出されており，以上の4グループは，出土層位に若干の違いはあっても概ね同時期に帰属する石器群で，相互に連続する編年的差異を持つものではないと考えられている。

草刈遺跡西部地区の各ブロックの石器群は，小規模ではあるが，東部地区に比べると，石器組成と石材の構成がまとまっており，②ないし④と類似点が多い。

第3文化層

第3文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅲ層）からハードローム層最上部（Ⅳ層）にかけて包含される石器群で，武蔵野台地における立川ローム層Ⅳ層下部から出土する石器群に対応すると考えられる。I3-C，H4-B，H6-A，E11-A，E12-A，N5-A，V11-Aブロックの7か所が該当し，台地の中央から縁辺に分布する。

第4文化層

第4文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）を中心に包含される石器群で，武蔵野台地における立川ローム層Ⅳ層上部から出土する砂川期の石器群に概ね対応すると考えられる。I4-A・B，J4-A，H5-A，G10-B，R8-Aブロックの6か所が該当し，台地の中央から縁辺に分布する。

第5文化層

第5文化層は，Ⅱ層から立川ローム層のソフトローム層最上部（Ⅲ層）にかけて包含される石器群で，細石刃石器群である。I3-A・Bブロックの2か所が該当し，台地の中央に分布する。

時期不明

この他，G3-B，H1-Bの2ブロックについては，明確に時期を決定できる資料が発見されていないことと層位的にも出土層準が不明なため，帰属時期を決定することができなかった。台地の中央に分布する。

また，調査時には，押沼影之谷遺跡のB12-19グリッドのⅢ層及びⅩ層，B12-34グリッドのⅦ層～Ⅸa層，B12-44グリッドのⅩ層から石器が4点出土しており，前3者については調査時の所見では剥片と記録されているが，後者の1点を含め，その後に紛失したため，詳細は不明である。

ブロック別石器垂直分布グラフについて（第264～268図）

ブロック別に石材による遺物の出土レベルを10cm刻みに区切り，出土点数をグラフ化した。

石器石材について

本遺跡では，既報告の草刈遺跡，押沼大六天遺跡，ナキノ台遺跡と同様に，東北産頁岩・北関東・東関東方面と考えられている頁岩，県南嶺岡産と考えられている頁岩，上総丘陵砂礫層ほかと考えられているチャート・砂岩・凝灰岩・瑪瑙・玉髄，信州産・栃木県高原山産などと考えられる黒曜石，産地の特定できない安山岩などが用いられている。頁岩類については，田村　隆氏を中心に精力的な産地探索が継続されており，その実態も判明しつつあるようである。なお，本報告では，珪化度の高いものも頁岩に区分し，「珪質頁岩」を用いていない。また，土色計及び標準土色帖のマンセル表色系による色調の表示は，遺跡内で出土した石器の母岩をまとめる上などで有効であった。

遺物データ管理システムについて

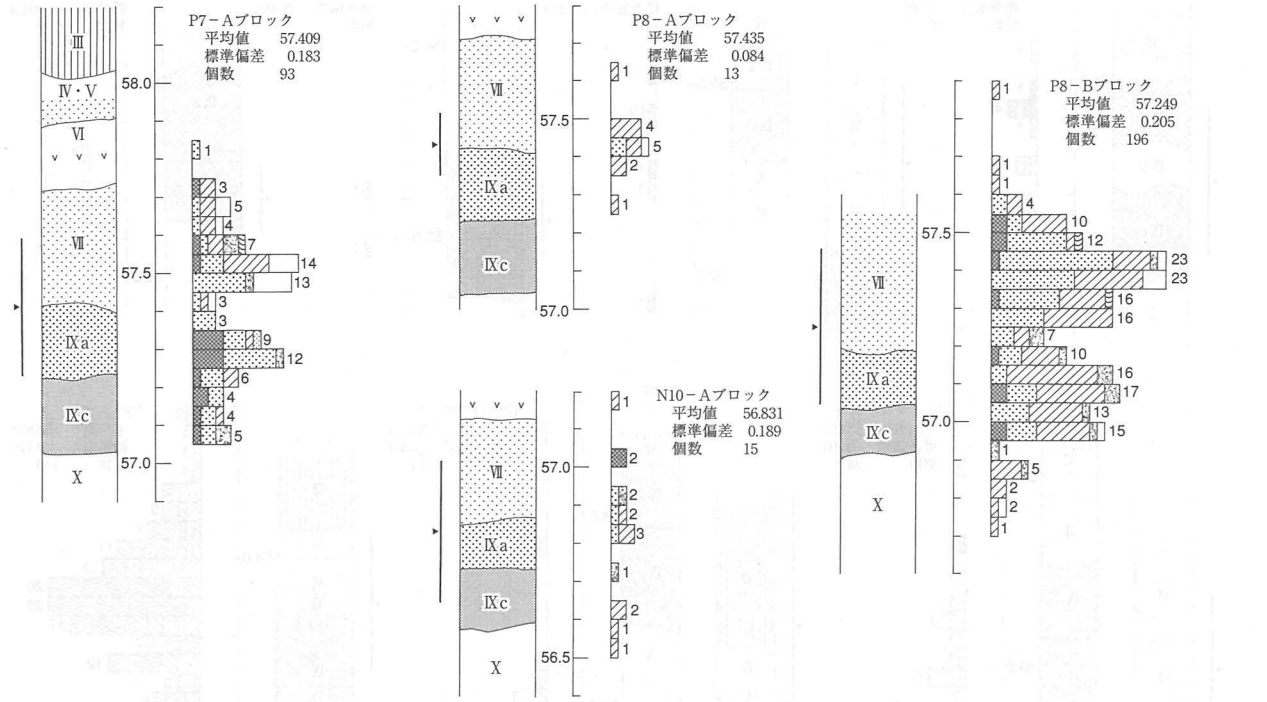
押沼第1遺跡のデータ管理については，株式会社パスコの遺物データ管理システムPADRAS-T3Diによ

り，グリッド・遺物番号・器種・石材・母岩番号・ブロック・重量・X座標・Y座標・標高の10項目についてExel形式で保存されており，今後の活用に備えている。

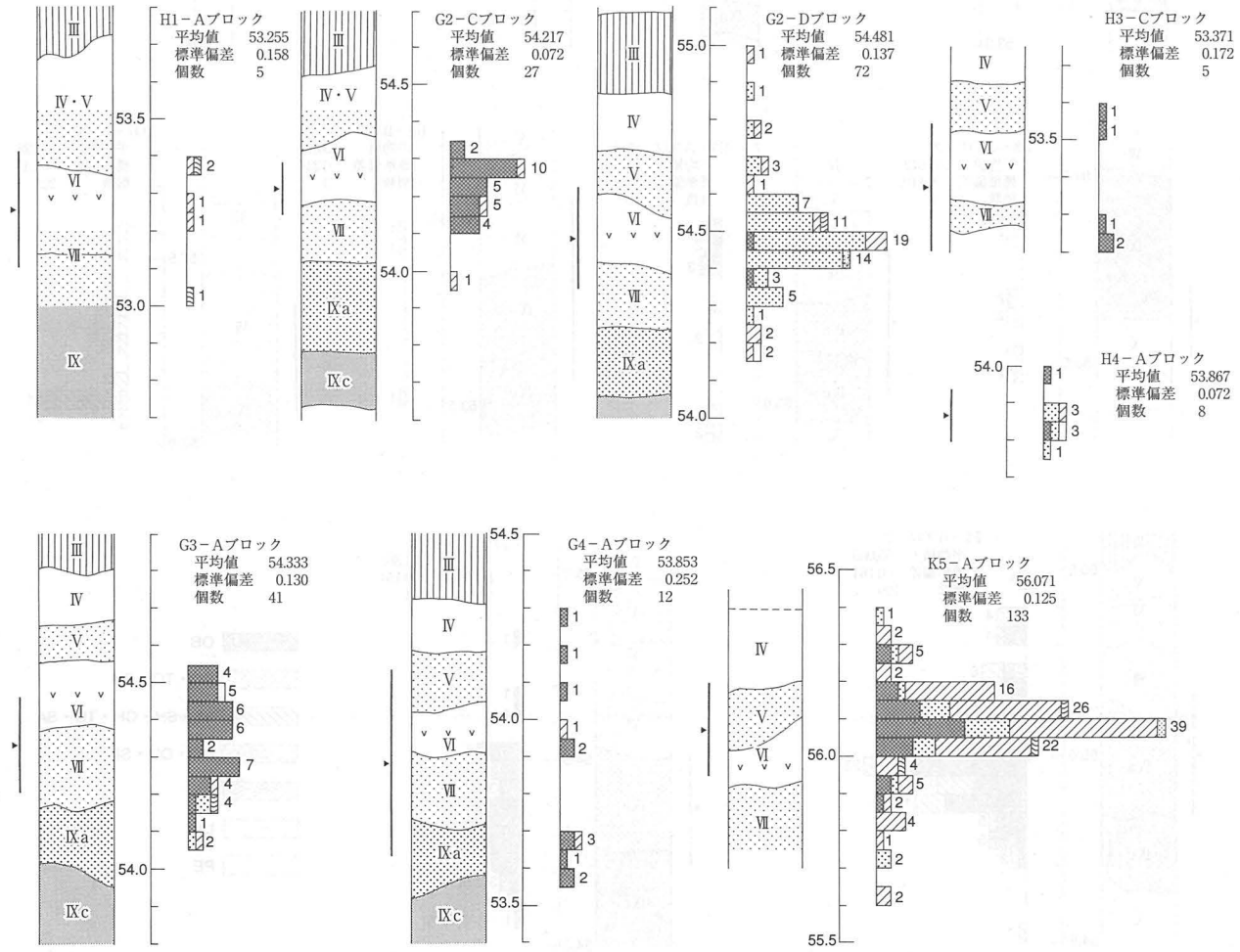
参考文献

加納　実ほか　2003「房総の石器石材2　－白滝層の珪質頁岩－」『千葉県史料研究財団だより』第14号
(財)千葉県文化財センター　1987『千葉県文化財センター研究紀要』11号
(財)千葉県文化財センター　2001『千葉県文化財センター研究紀要』22号
(財)千葉県文化財センター　2004『千原台ニュータウンX　－市原市草刈遺跡(東部地区旧石器時代)－』
(財)千葉県文化財センター　2005『千原台ニュータウンXⅢ －市原市草刈遺跡(西部地区旧石器時代)－』
(財)君津郡市文化財センター　2005『首都圏中央連絡自動車道(木更津～東金)埋蔵文化財調査報告書2　千葉県木更津市　巡礼街道遺跡1・巡礼街道遺跡2・下野洞遺跡・野洞遺跡』
(財)千葉県教育振興財団　2006『千原台ニュータウンXV　－市原市押沼大六天遺跡(下層)－』
(財)千葉県教育振興財団　2007『千原台ニュータウンXⅧ　－市原市ナキノ台遺跡(下層)－』
田村　隆ほか　2003「下野－北総回廊外縁部の石器石材（第1報）　－特に珪質頁岩の分布と産状について－」『千葉県史研究』第11号
田村　隆ほか　2004「下野－北総回廊外縁部の石器石材（第2報)」『千葉県史研究』第12号石器石材について

第264図　ブロック別石器垂直分布グラフ（1）

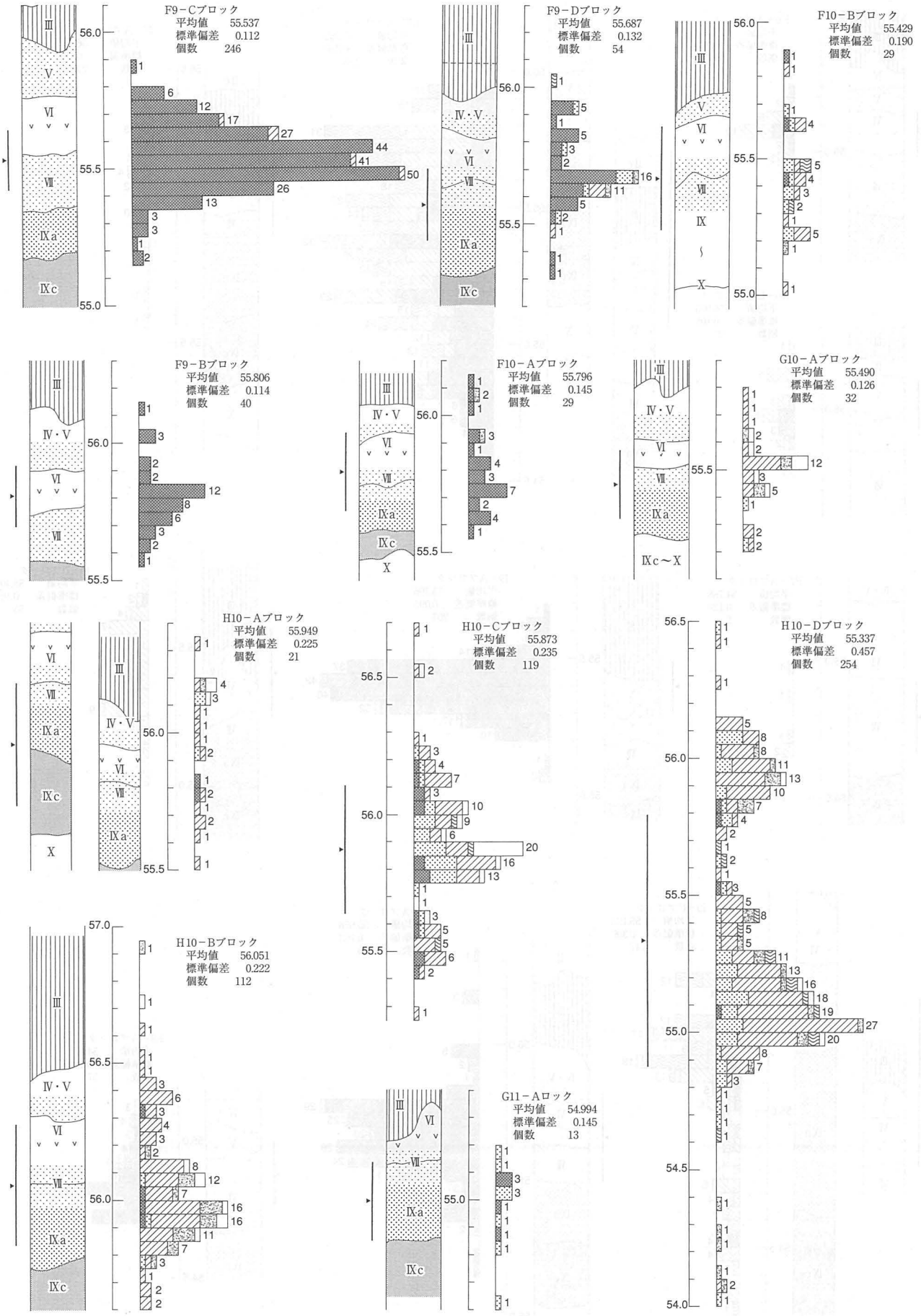


第２文化層

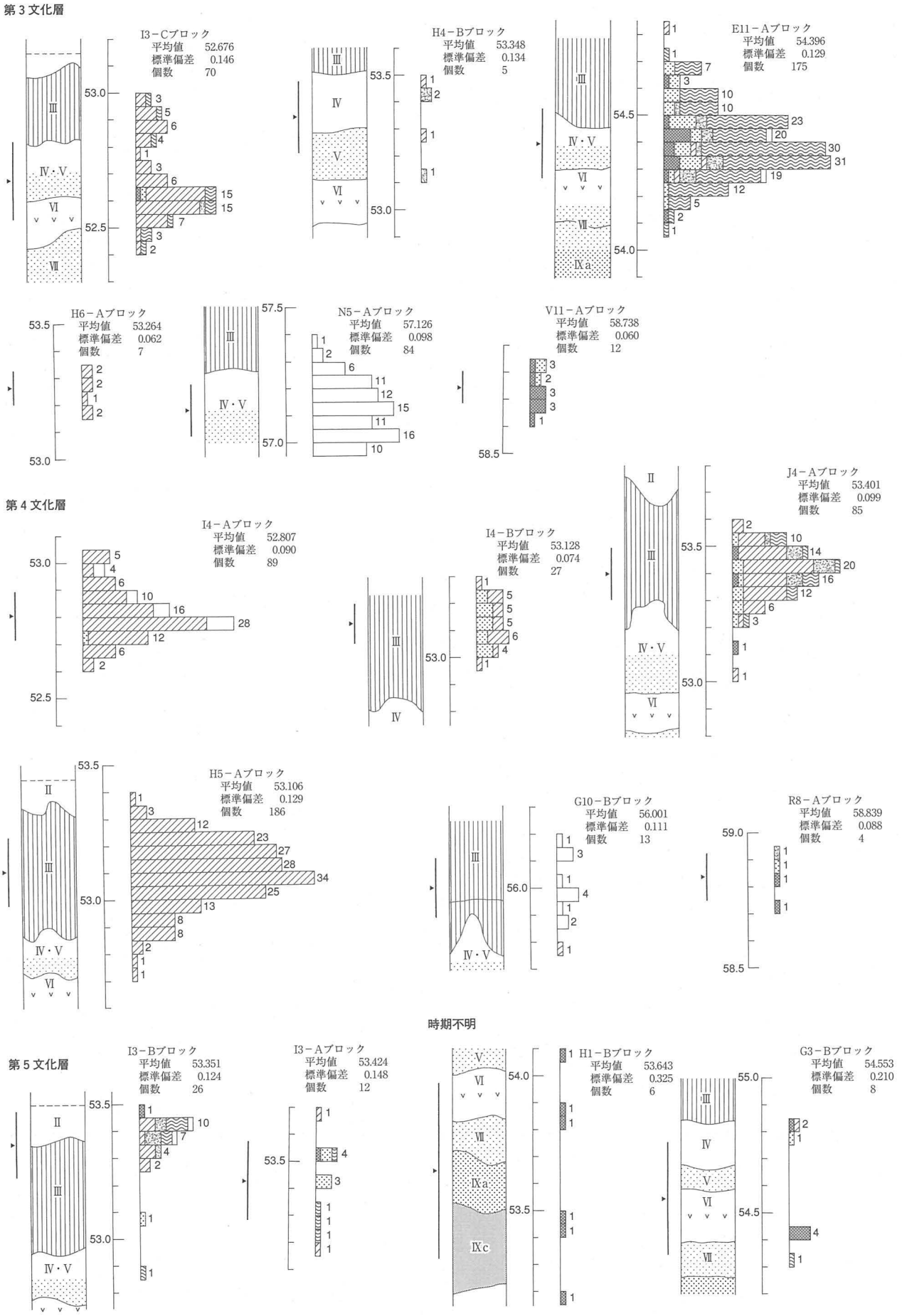


第265図　ブロック別石器垂直分布グラフ（２）

第266図　ブロック別石器垂直分布グラフ（3）



第267図　ブロック別石器垂直分布グラフ（4）



第268図　ブロック別石器垂直分布グラフ（5）

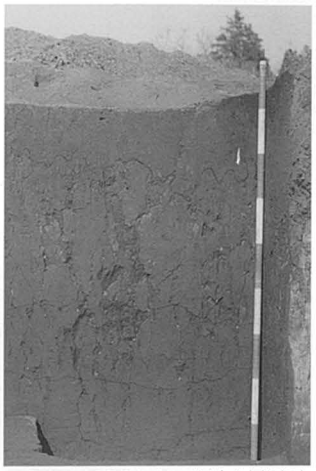
写　真　図　版

押沼第1遺跡周辺航空写真（約1：10,000　昭和42年撮影）

図版２　土層断面，第1文化層遺物出土状況１

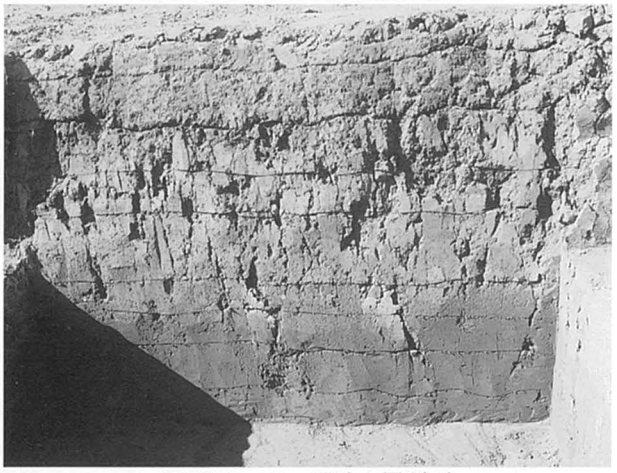
G2-62～66グリッド　南壁土層断面

I3-25グリッド　西壁土層断面



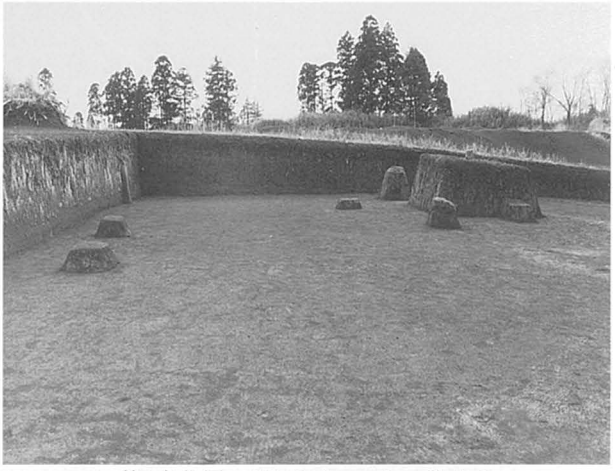
I9-66～69グリッド　北壁土層断面

T9-91グリッド　南壁土層断面

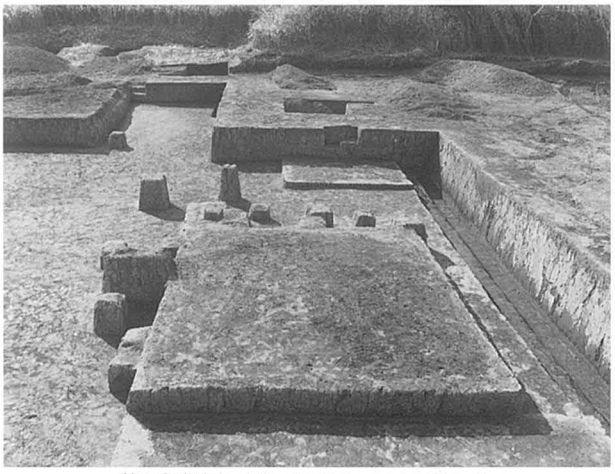


P8グリッド　西壁土層断面

I2-50グリッド　西壁土層断面及び出土状況



第1文化層　G2-Bブロック　北から



第1文化層　F7-Bブロック　北から

第1文化層　F7-Bブロック　北西から

第1文化層　G1-Bブロック　南西から

第1文化層　G1-Aブロック　南西から

第1文化層　G1-Aブロック　北西から

第1文化層　G1-Cブロック　南東から

第1文化層　G1-Cブロック　北から

図版４　第1文化層遺物出土状況３

第1文化層　H3-Bブロック　北東から

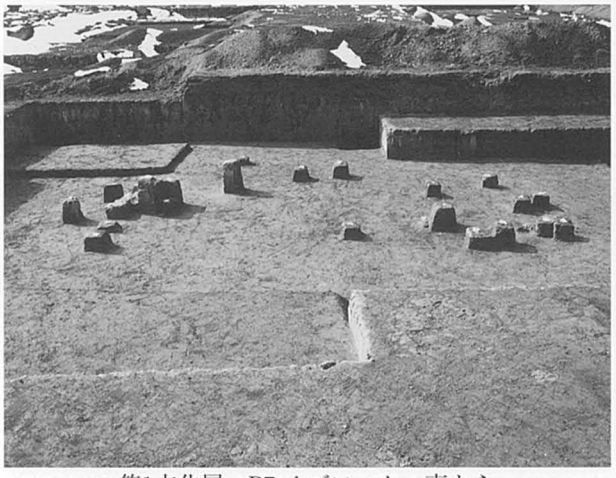
第1文化層　O7-Aブロック　北から

第1文化層　O7-Aブロック　北から

第1文化層　O7-Aブロック　東から

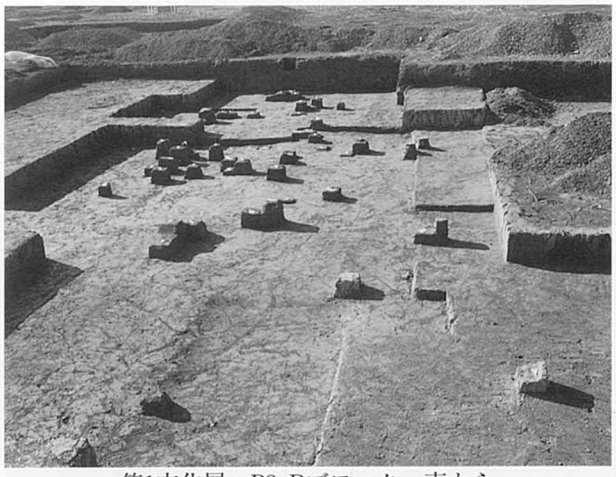
第1文化層　P7-Aブロック　東から

第1文化層　P7-Aブロック　西から



第1文化層　P7-Aブロック　東から

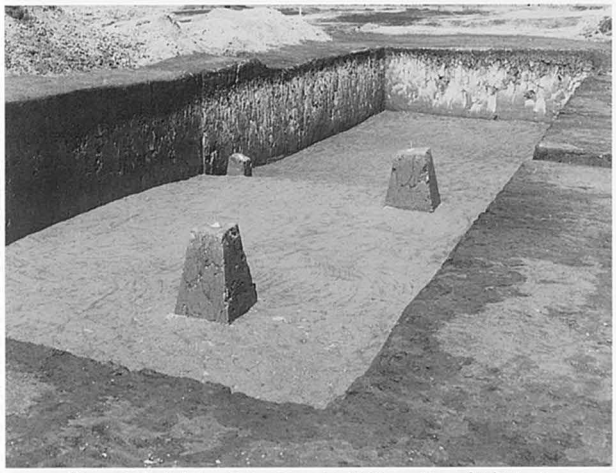
第1文化層　P8-Aブロック　南から


第1文化層　P8-Bブロック　東から

第1文化層　P8-Bブロック　北東から

第1文化層　P8-Bブロック　東から

第1文化層　N10-Aブロック　西から


第1・2文化層　H2-33・43グリッド　南東から

第1・2文化層　G2-E・Cブロック　北東から

第2文化層　G2-Cブロック　北から

第2文化層　G4-Aブロック　北から

図版6　第2文化層遺物出土状況2

第2文化層　G2-Dブロック　南西から

第2文化層　G2-Dブロック　北東から

第2文化層　H4-Aブロック　北から

第2文化層　K6-Aブロック　東から

第2文化層　K5-Aブロック　南から

第2文化層　K5-Aブロック　北西から

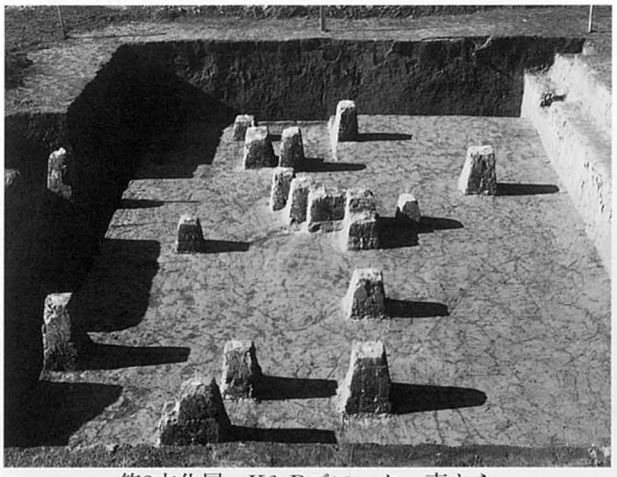
第2文化層　K5-Aブロック　西から

第2文化層　K5-Aブロック　南西から

第2文化層　K7-Aブロック　南から

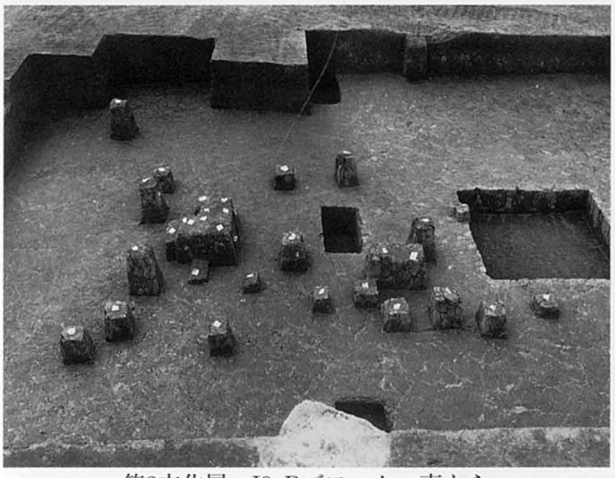
第2文化層　I9-Cブロック　北西から

図版 8　第2文化層遺物出土状況 4



第2文化層　K6-Bブロック　東から

第2文化層　I9-Aブロック　北から



第2文化層　I9-Bブロック　東から

第2文化層　E9-Aブロック　西から

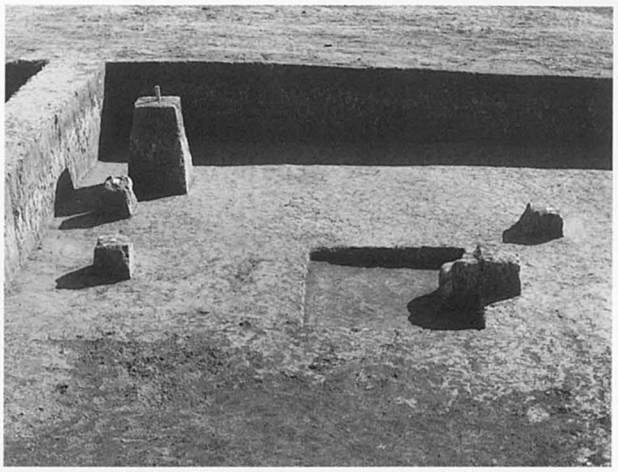
第2文化層　F9-Aブロック　北東から

第2文化層　F9-Bブロック　南から

第2文化層　F9-Cブロック　南西から

第2文化層　F9-D・F10-Aブロック　南から

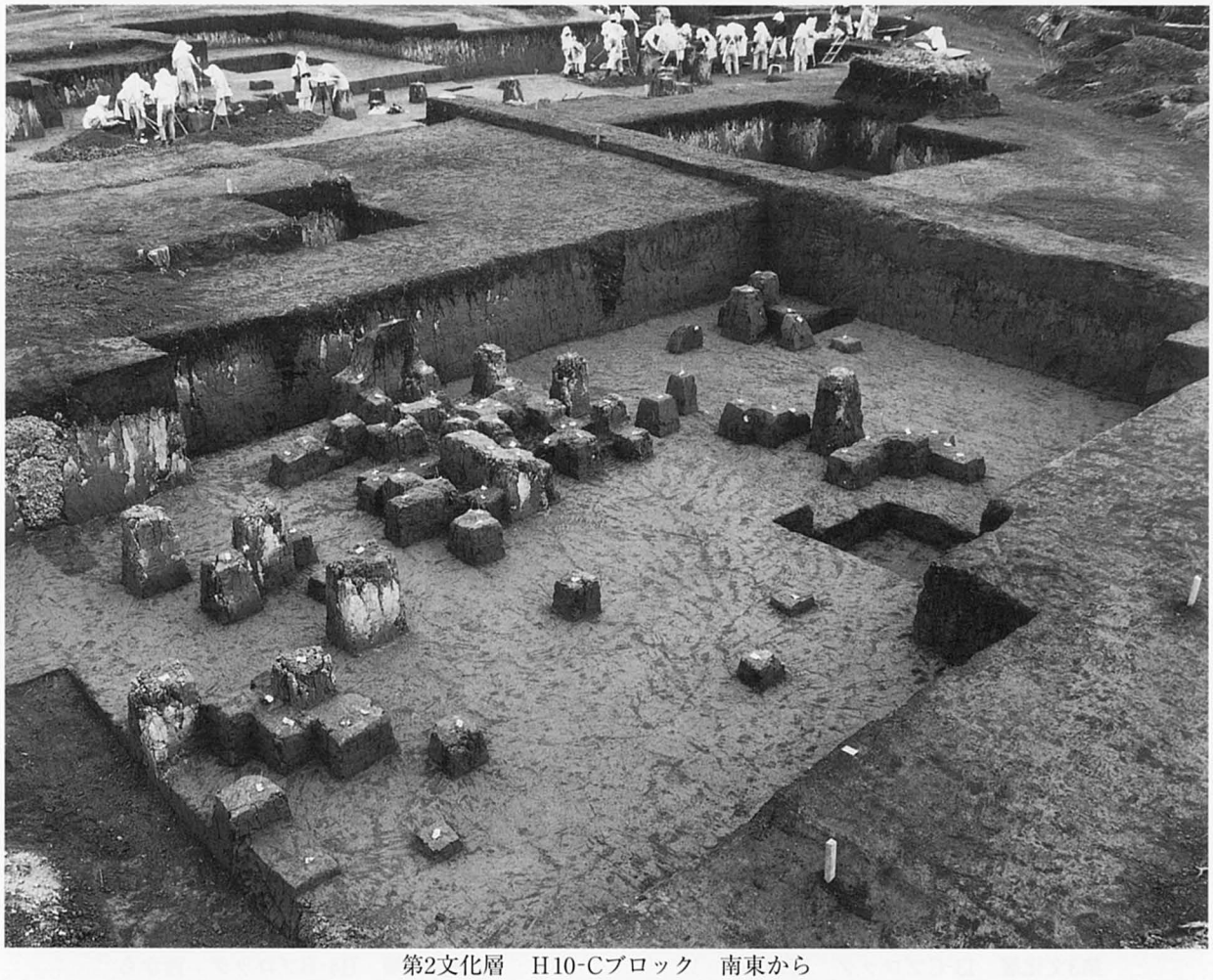
第2文化層　F10-Bブロック　東から



第2文化層　H10-Aブロック　北から

第2文化層　H10-Aブロック　北から

第2文化層　H10-Bブロック　南から



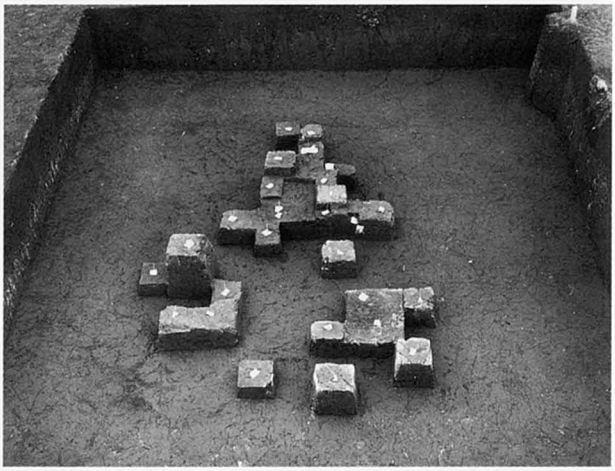
第2文化層　H10-Cブロック　南東から

図版10　第2文化層遺物出土状況６・第3文化層遺物出土状況１

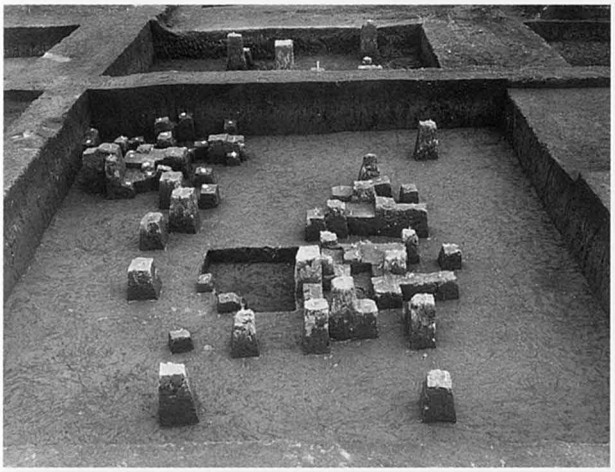
第2文化層　H10-Dブロック　南西から

第2文化層　H10-Dブロック　南西から

第2文化層　H10-Dブロック　南西から



第2文化層　H10-Dブロック　北から



第2文化層　H10-Dブロック　西から

第2文化層　炭化物集中地点　西から

第3文化層　I3-Cブロック　南東から

第3文化層　H4-Bブロック　西から

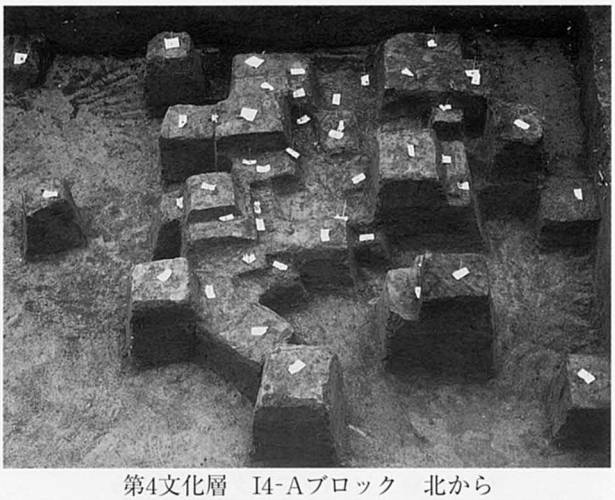
第3文化層　E11-Aブロック　東から

第3文化層　E12-Aブロック　西から

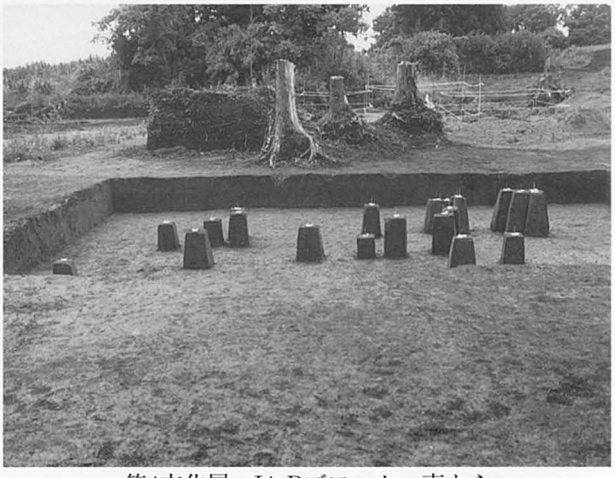
第3文化層　N5-Aブロック　北東から

第3文化層　F5-20・30グリッド　北から

第3文化層　H7-36グリッド　西から


第4文化層　I4-Aブロック　北から

第4文化層　I4-Aブロック　北から


第4文化層　I4-Bブロック　東から

図版12　第4文化層遺物出土状況２・第5文化層遺物出土状況・時期不明遺物出土状況

第4文化層　H5-Aブロック　南東から

第4文化層　J4-Aブロック　南西から

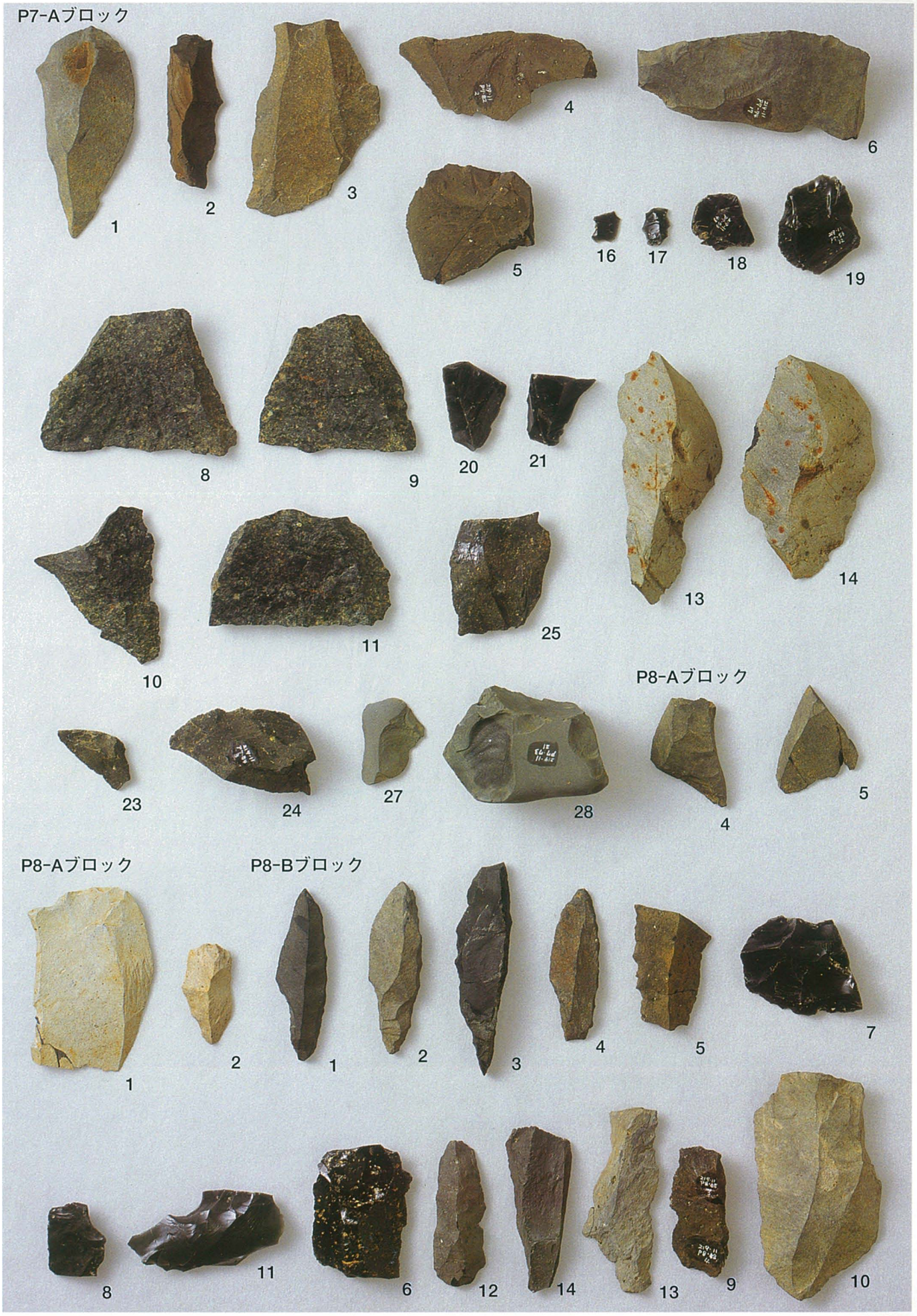
第5文化層　I3-Aブロック　北東から

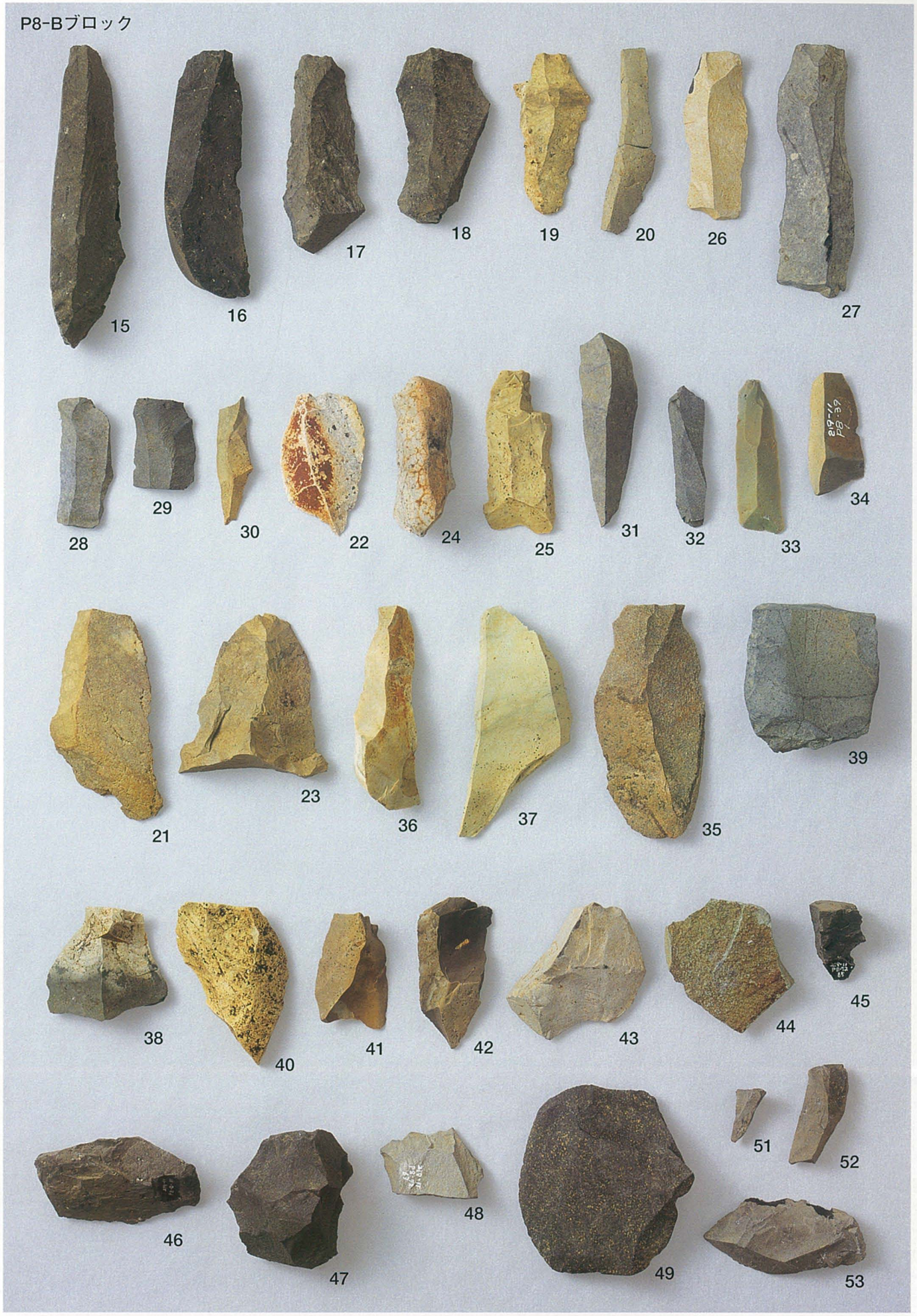
第5文化層　I3-Bブロック　南西から

時期不明　G3-Bブロック　北東から

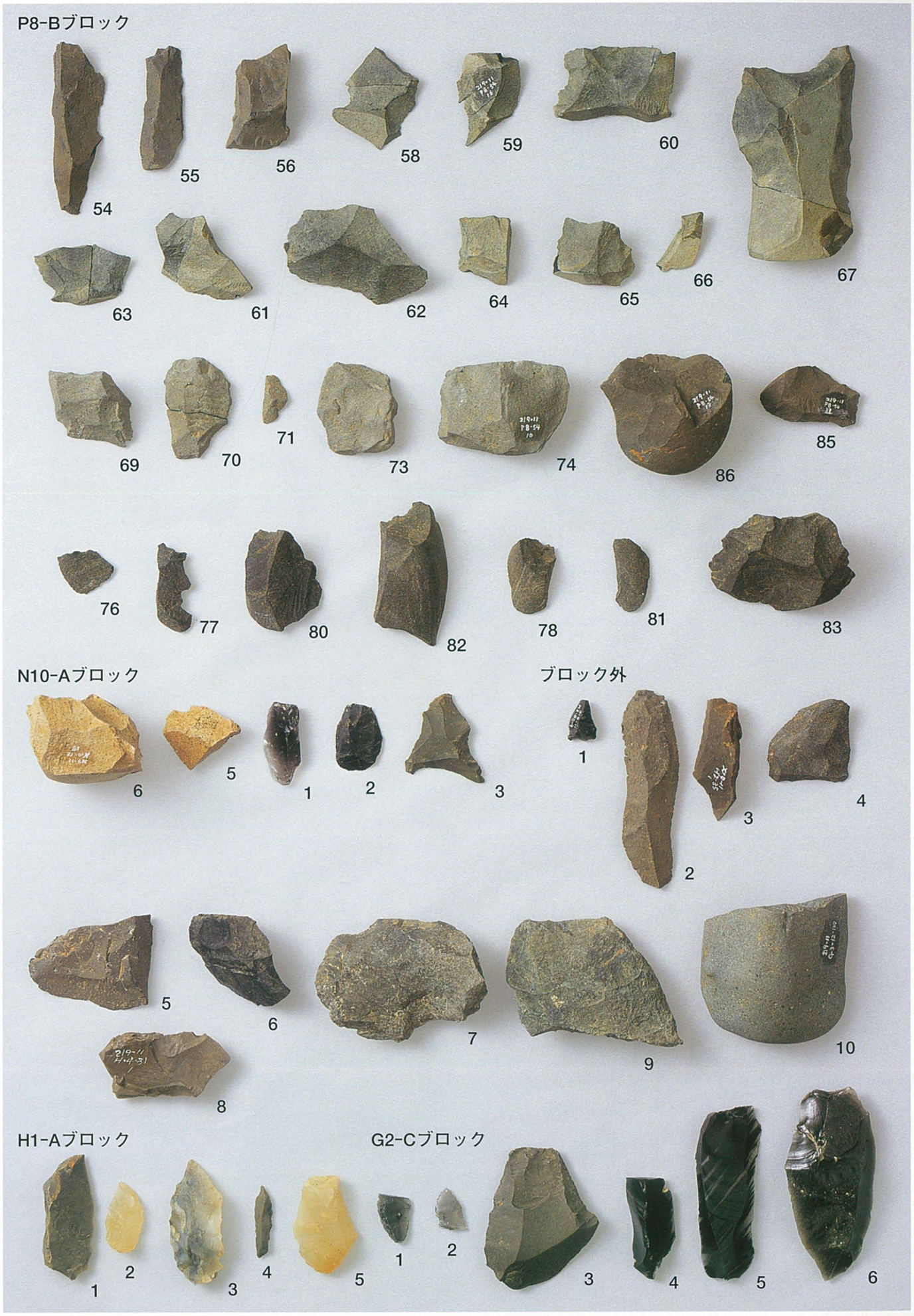
G1-Aブロック
G1-Bブロック
G1-Cブロック
G2-Bブロック
G2-Eブロック
F3-Aブロック
G3-Cブロック
H3-Aブロック
H3-Bブロック
J4-Bブロック
F7-Bブロック
O7-Aブロック

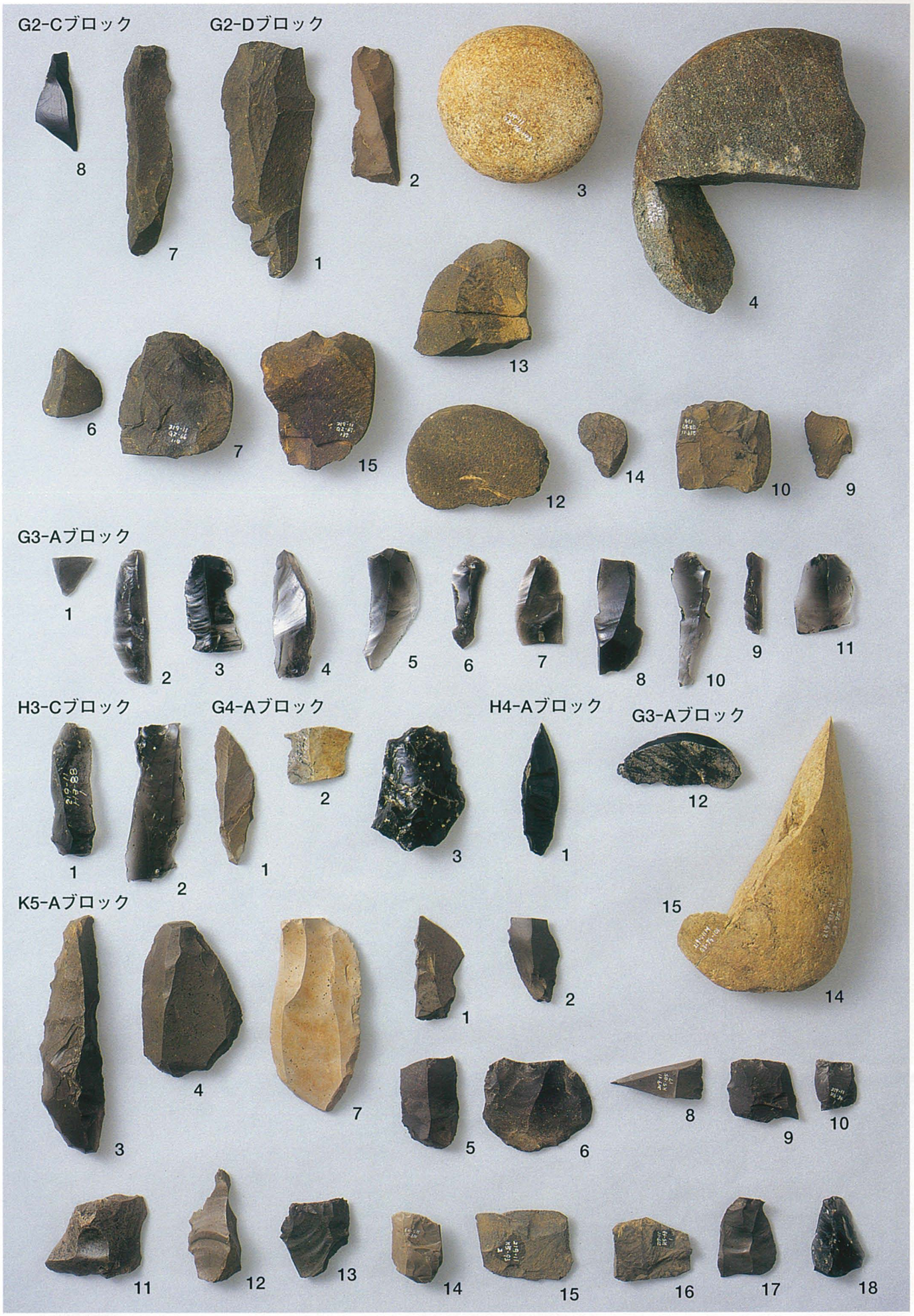
2. 第１文化層出土遺物２



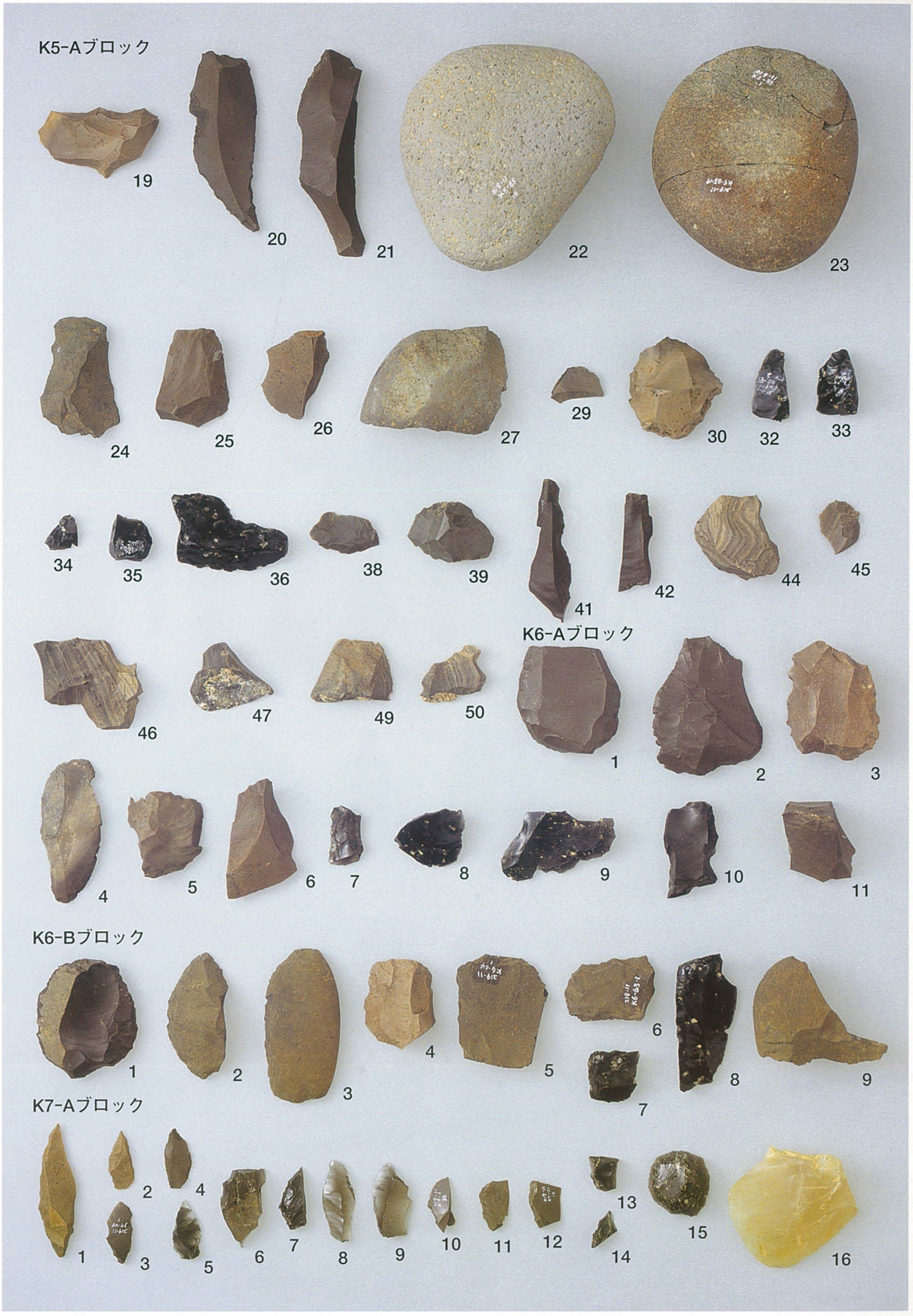

P8-Bブロック
15
16
17
18
19
20
26
27
28
29
30
22
24
25
31
32
33
34
21
23
36
37
35
39
38
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
51
52
53

4. 第１文化層出土遺物４・第２文化層出土遺物１



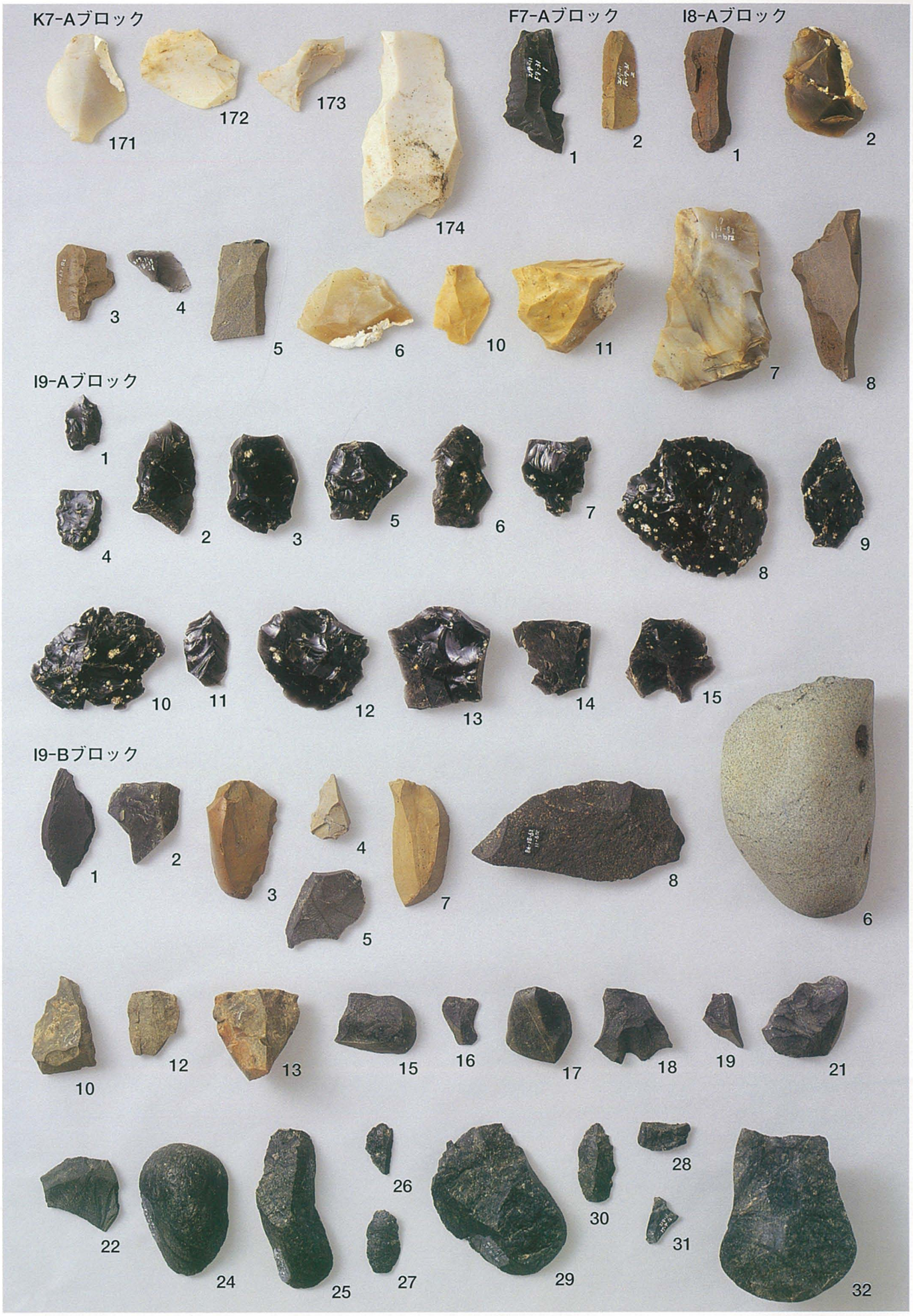

G2-Cブロック
G2-Dブロック
8
7
1
2
3
4
13
6
7
15
12
14
10
9
G3-Aブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
10
9
11
H3-Cブロック
G4-Aブロック
H4-Aブロック
G3-Aブロック
1
2
1
2
3
1
12
15
K5-Aブロック
1
2
14
3
4
7
5
6
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18

6. 第２文化層出土遺物３

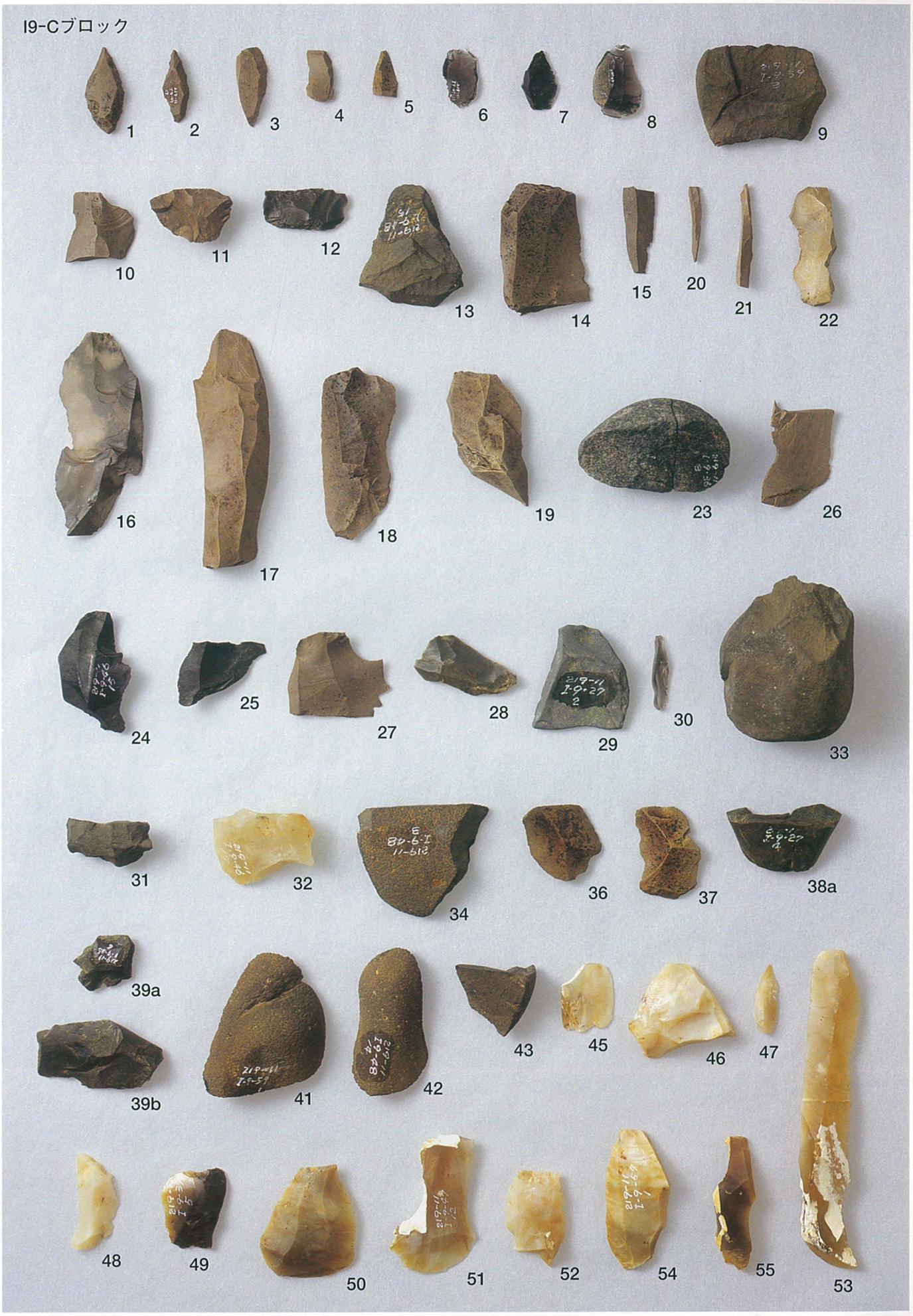


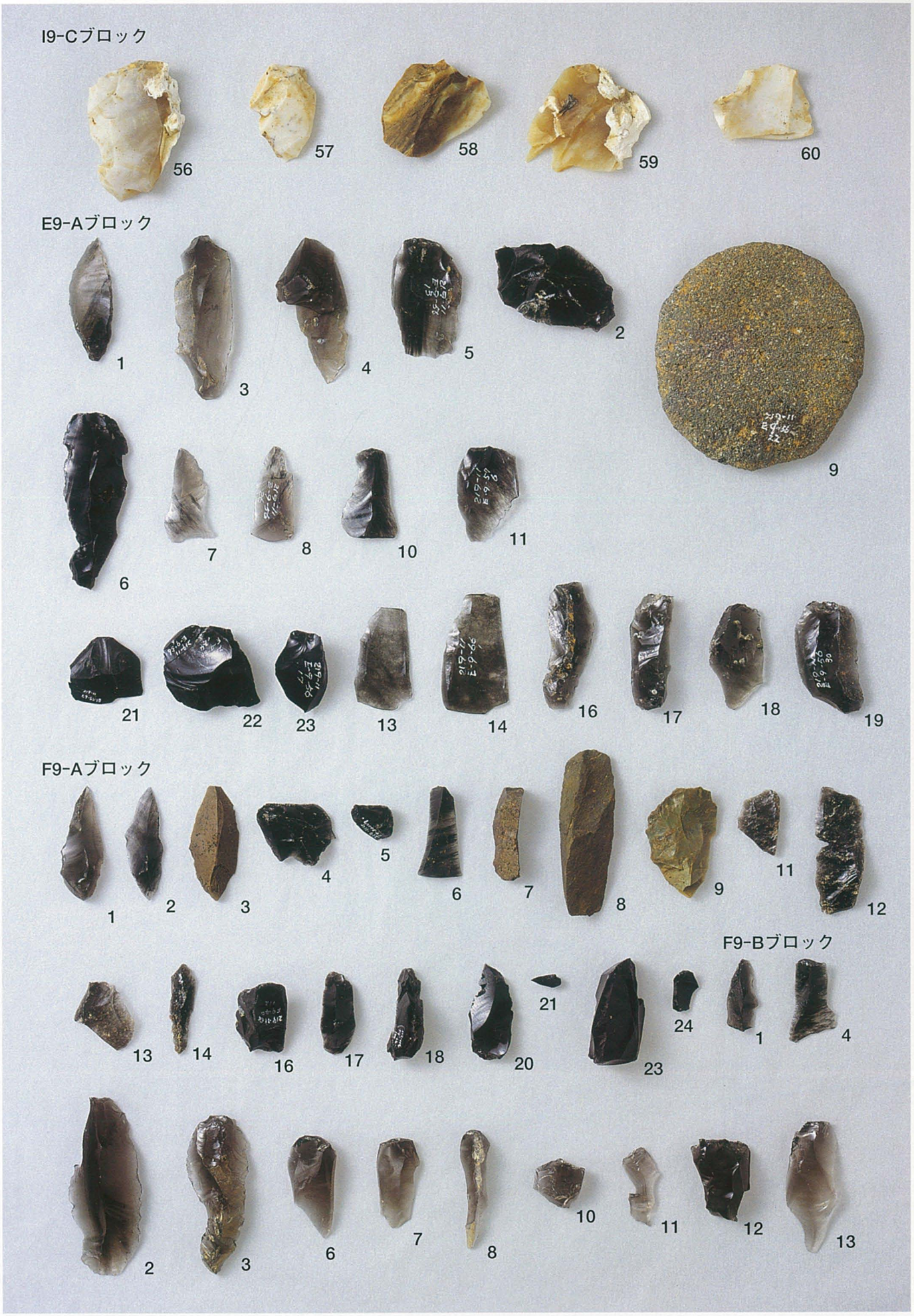
K7-Aブロック
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
34
35
36
37
31
32
33
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
53
55
51
52
54
56
57
58
59
60
61
63
64
62
65
66
67
68
69
70
72
73
75
76
78
79
80
83
82
85
86

8. 第２文化層出土遺物５

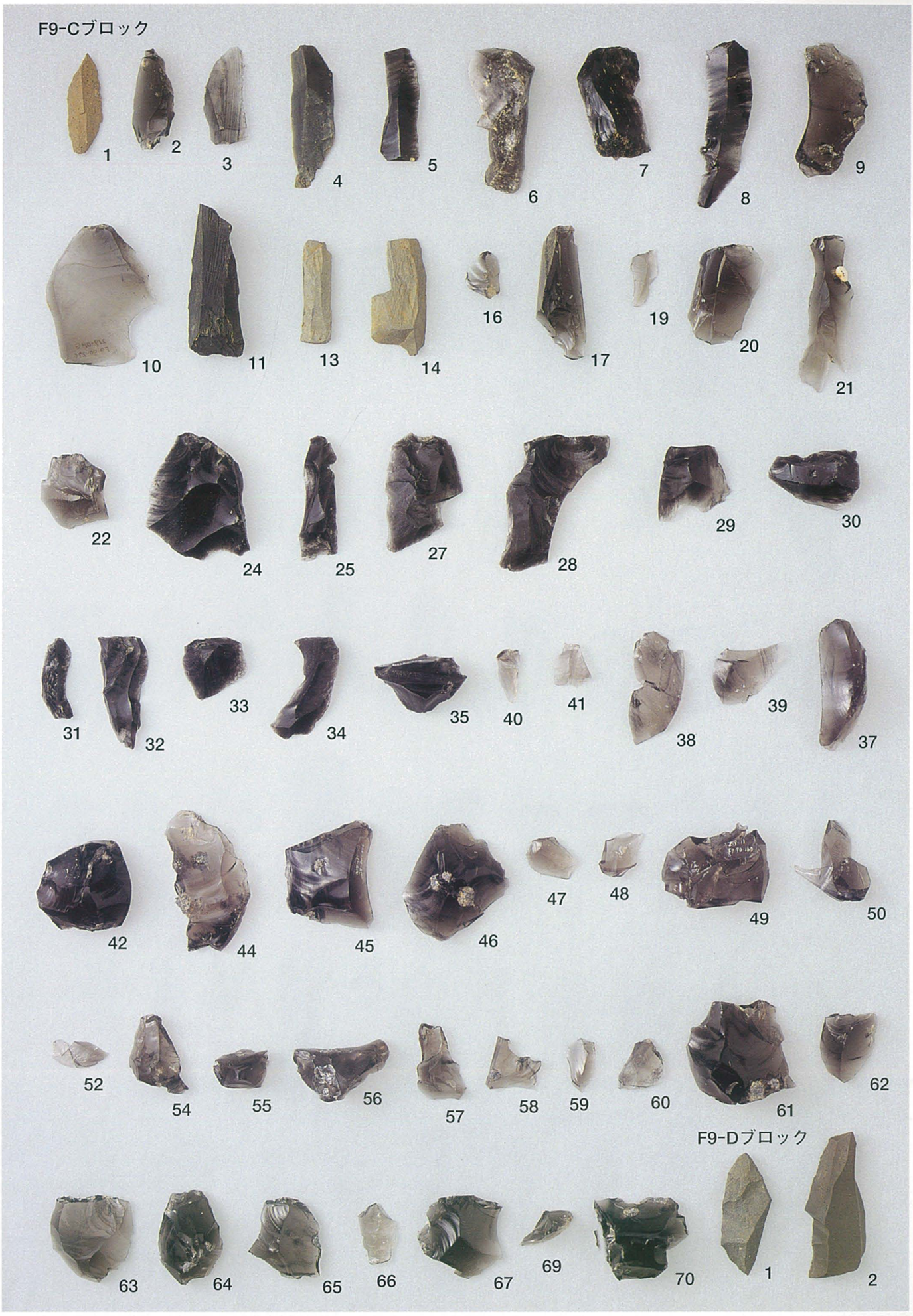

K7-Aブロック
171
172
173
174
F7-Aブロック
1
2
I8-Aブロック
1
2
3
4
5
6
10
11
7
8
I9-Aブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
I9-Bブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
10
12
13
15
16
17
18
19
21
22
24
25
26
27
28
29
30
31
32

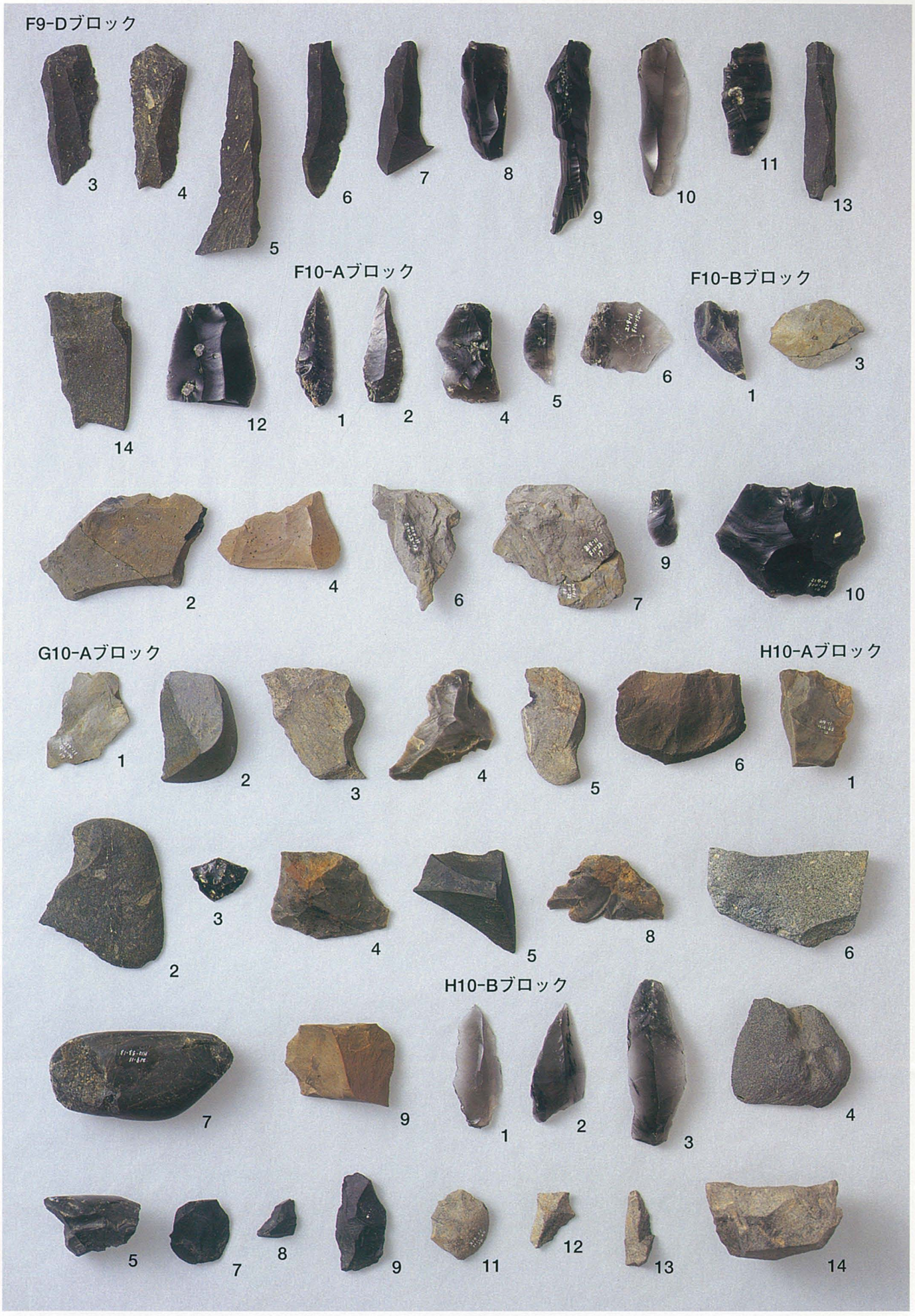
10. 第２文化層出土遺物７



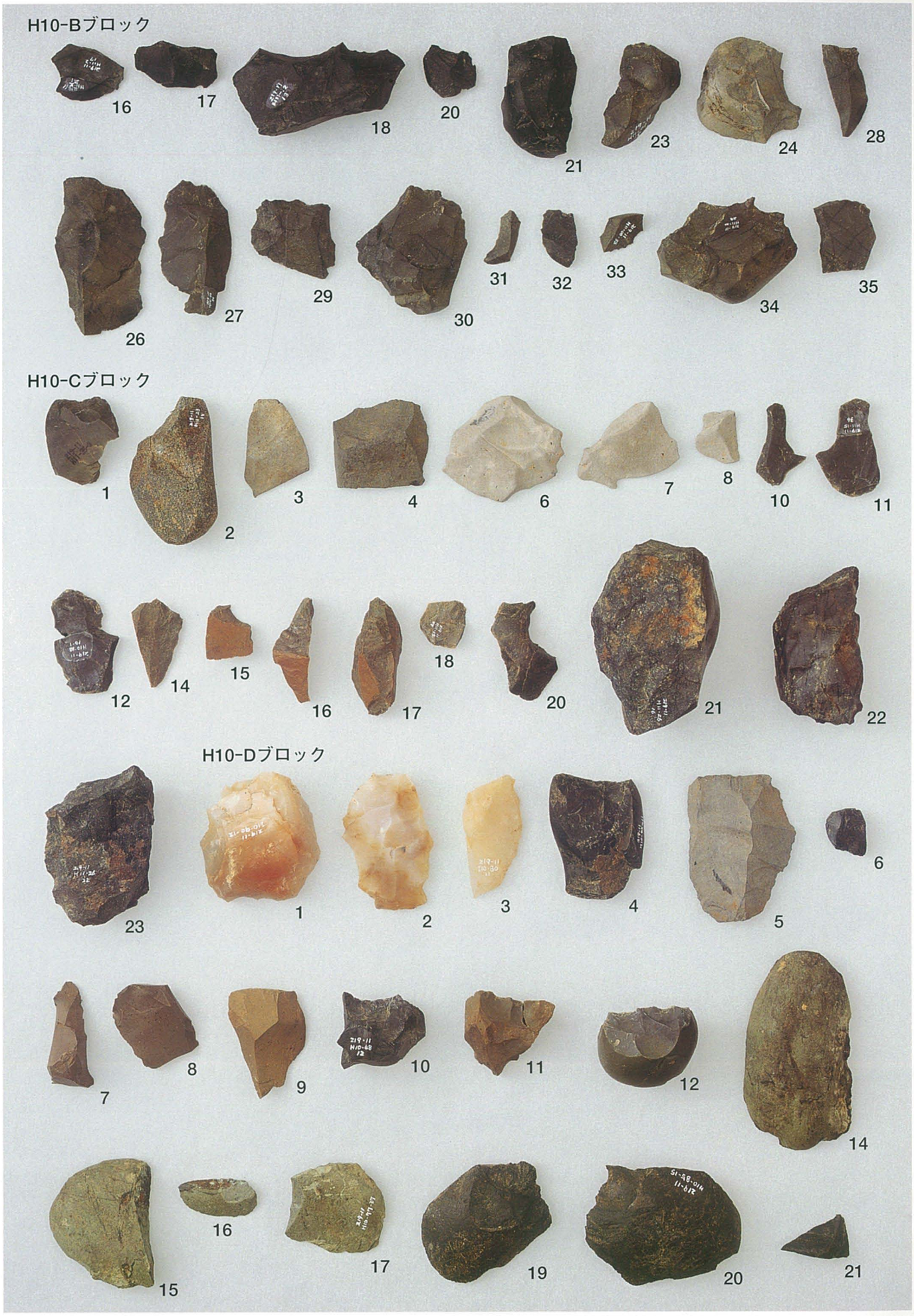

I9-Cブロック
56
57
58
59
60
E9-Aブロック
1
3
4
5
2
9
6
7
8
10
11
21
22
23
13
14
16
17
18
19
F9-Aブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
9
11
12
F9-Bブロック
13
14
16
17
18
20
21
23
24
1
4
2
3
6
7
8
10
11
12
13

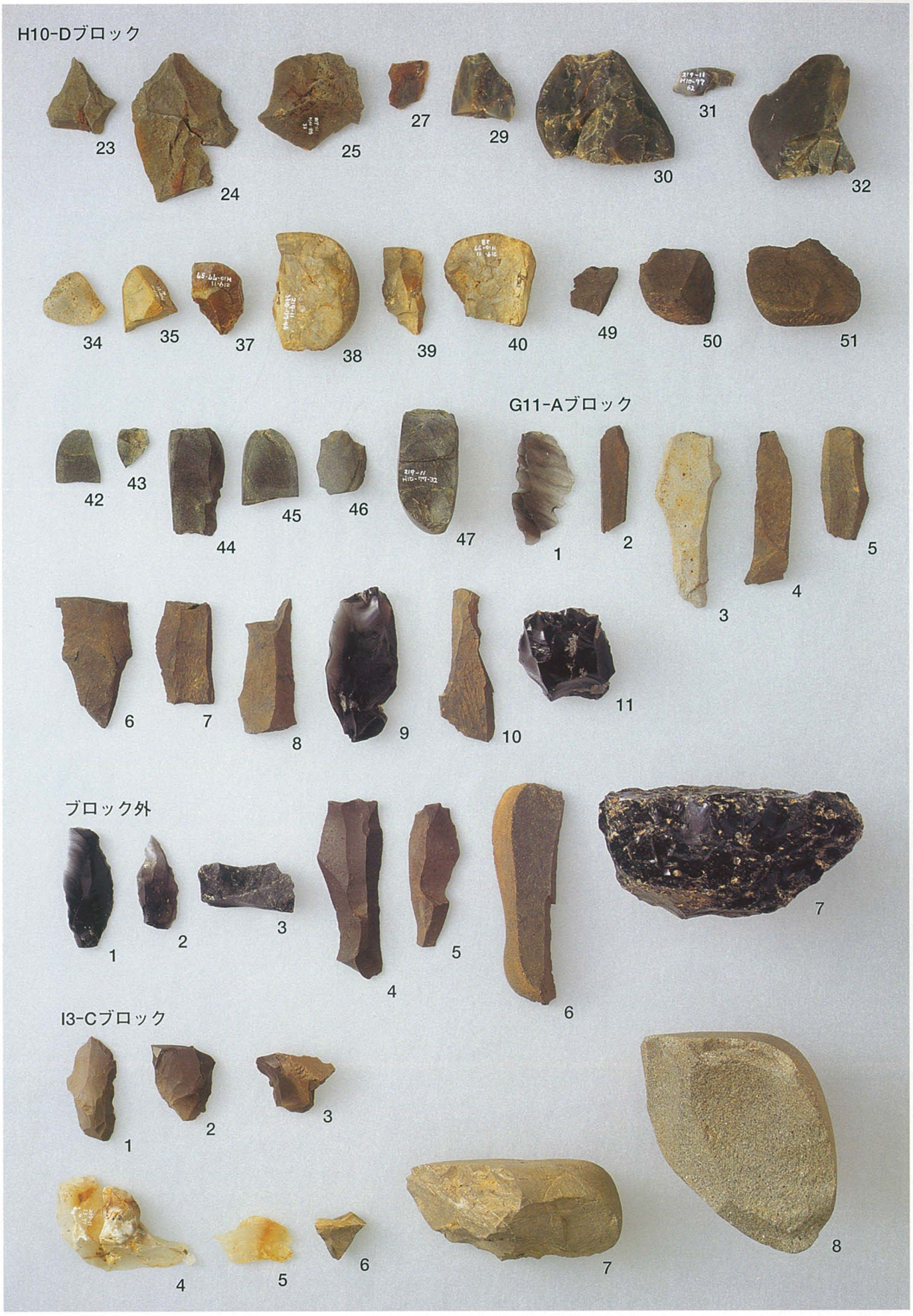
12. 第２文化層出土遺物９



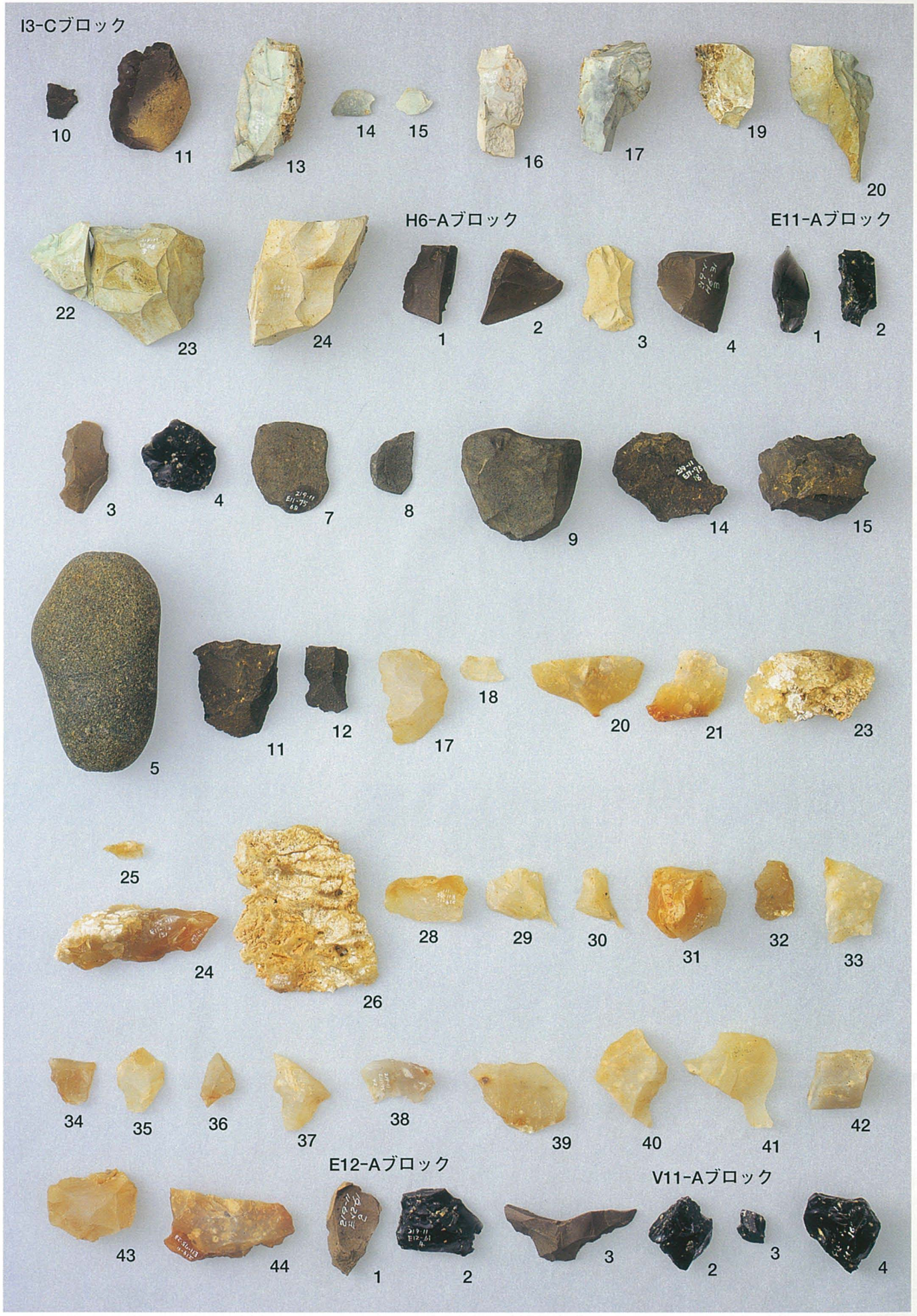

F9-Dブロック
3
4
5
6
7
8
9
10
11
13
F10-Aブロック
F10-Bブロック
14
12
1
2
4
5
6
1
3
2
4
6
7
9
10
G10-Aブロック
H10-Aブロック
1
2
3
4
5
6
1
2
3
4
5
8
6
H10-Bブロック
7
9
1
2
3
4
5
7
8
9
11
12
13
14

14. 第２文化層出土遺物11



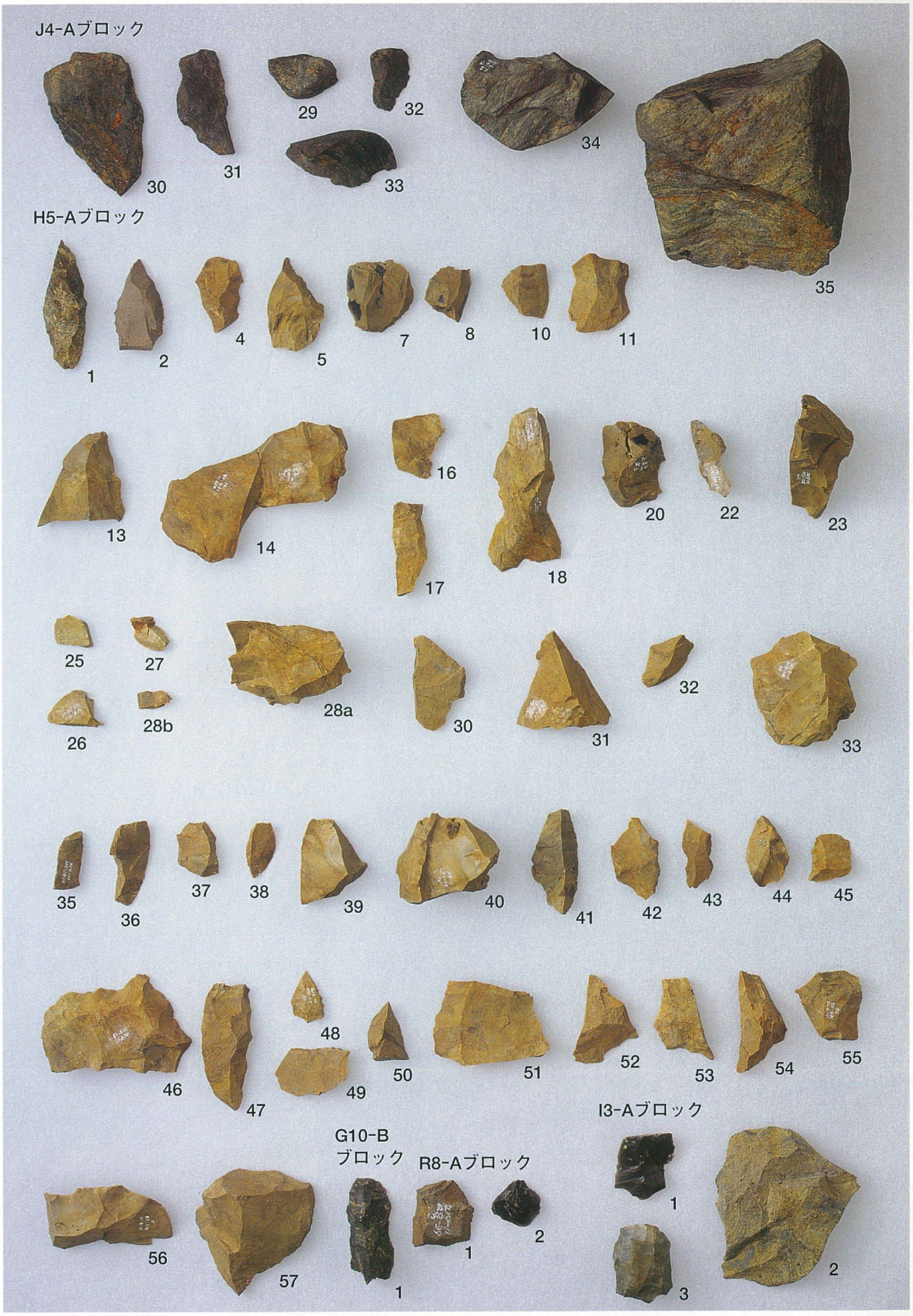

H10-Dブロック
23
24
25
27
29
30
31
32
34
35
37
38
39
40
49
50
51
G11-Aブロック
42
43
44
45
46
47
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
ブロック外
1
2
3
4
5
6
7
I3-Cブロック
1
2
3
4
5
6
7
8

16. 第３文化層出土遺物２



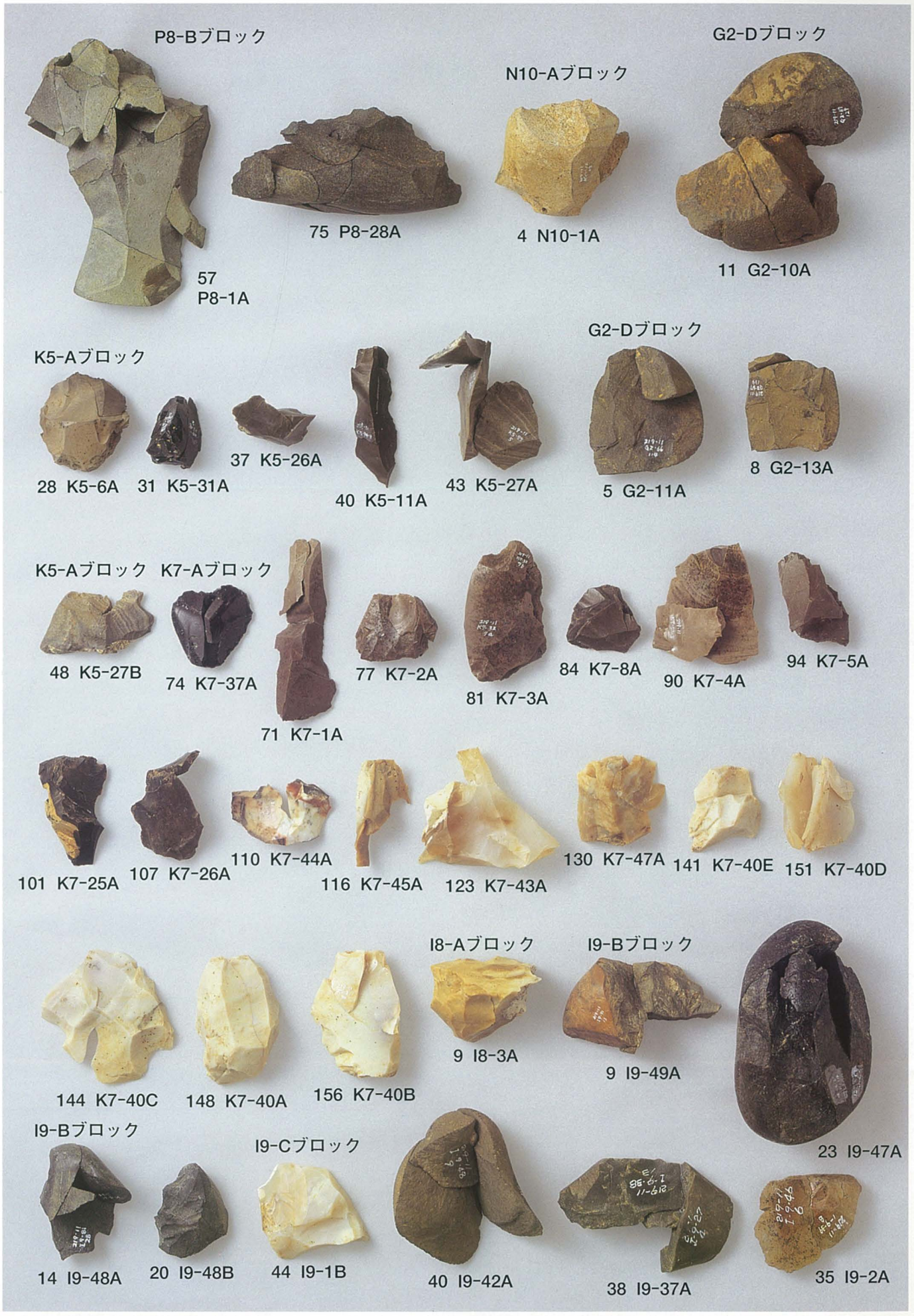
ブロック外
1
2
3
4
5
6
6b
6a
8
9
11
12
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
I4-Aブロック
1
2
4
5
I4-Bブロック
1
6
7
J4-Aブロック
2
3
4
9
10
1
2
3
4
5
6
7
8
13
14
15
16
17
10
11
19
20
21
22
24
25
26

18. 第４文化層出土遺物２・第５文化層出土遺物１



I3-Bブロック
1
2
3
G3-Bブロック
4
1
H1-Bブロック
1
2
ブロック外
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
G1-Cブロック
2 G1-6A
5 G1-5A
8 G1-5B
G2-Bブロック
1 G2-1A
F3-Aブロック
5 F3-1A
8 F3-14B
G3-Cブロック
2 G3-9A
H3-Aブロック
7 H3-3A
J4-Bブロック
3 J4-20A
P7-Aブロック
26 P7-10A
O7-Aブロック
3 O7-2A
F7-Bブロック
4 F7-9A
P7-Aブロック
7 P7-9A
P7-Aブロック
12 P7-12A
15 P7-8A
22 P7-1A
P8-Aブロック
3 P8-71A
P8-Bブロック
84 P8-44A
50 P8-49A
68 P8-2A

20. 接合資料 2


P8-Bブロック
57
P8-1A
75 P8-28A
N10-Aブロック
4 N10-1A
G2-Dブロック
11 G2-10A
K5-Aブロック
28 K5-6A
31 K5-31A
37 K5-26A
40 K5-11A
43 K5-27A
G2-Dブロック
5 G2-11A
8 G2-13A
K5-Aブロック
48 K5-27B
K7-Aブロック
74 K7-37A
71 K7-1A
77 K7-2A
81 K7-3A
84 K7-8A
90 K7-4A
94 K7-5A
101 K7-25A
107 K7-26A
110 K7-44A
116 K7-45A
123 K7-43A
130 K7-47A
141 K7-40E
151 K7-40D
144 K7-40C
148 K7-40A
156 K7-40B
I8-Aブロック
9 I8-3A
I9-Bブロック
9 I9-49A
23 I9-47A
I9-Bブロック
14 I9-48A
20 I9-48B
I9-Cブロック
44 I9-1B
40 I9-42A
38 I9-37A
35 I9-2A

E9-Aブロック
15 E9-1A
12 E9-3A
20 E9-2A
F9-Aブロック
10 F9-2A
15 F9-3A
19 F9-1B
22 F9-1A
F9-Bブロック
5 F9-12A
F9-Cブロック
12 F9-44A
15 F9-32A
F9-Bブロック
9 F9-12C
F9-Cブロック
18 F9-33A
26 F10-4A
23 F10-4B
36 F9-34A
43 F9-31A
F10-Aブロック
3 F10-1A
F10-Bブロック
5 F10-8A
8 F10-5A
H10-Bブロック
6 H10-5A
10 H10-6A
15 H10-3A
19 H10-5B
22 H10-1A
H10-Cブロック
9 H10-36A
13 H10-39A
5 H10-46A
19 H10-35A
H10-Dブロック
13 H10-60A
18 H10-59A
22 H10-51A
26 H10-47A
41 H10-62A
48 H10-86A
33 H10-64A

22. 接合資料 4

I3-Cブロック
18 I3-20B
9 I3-16A
12 I3-20A
E11-Aブロック
6 E11-11A
10 E11-10B
13 E11-10A
16 E11-1D
19 E11-1C
27 E11-1B
V11-Aブロック
1 V11-1A
E11-Aブロック
22
E11-1A
I4-Aブロック
3 I4-7G
6 I4-7D
7 I4-7F
10 I4-7C
I4-Bブロック
5 I4-5A
8 I4-1A
J4-Aブロック
9 J4-1A
I4-Aブロック
13 I4-7A
J4-Aブロック
12 J4-18A
18 J4-5A
23 J4-6A
J4-Aブロック
27
J4-7A
H5-Aブロック
6
H5-1J
3
H5-1I
9 H5-1H
12 H5-1C
15
H5-1F
24 H5-1G
19 H5-1E
29 H5-1A
34 H5-1B

報告書抄録

ふりがな	ちはらだいにゅーたうん
書名	千原台ニュータウン
副書名	市原市押沼第1遺跡（下層）
巻次	２０
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第609集
編著者名	田島　新
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団　文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809番地の２　ＴＥＬ ０４３－４２４－４８４８
発行年月日	西暦2008年12月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
押沼第1遺跡 （第　1） （影之谷）	千葉県市原市 ちはら台東 9丁目6番地	12219	011 023	35度 32分 16秒	140度 11分 48秒	1983.10.04 ～ 1997.03.07	193,872㎡	千原台地区土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代・主な遺構	主な遺物	特記事項
押沼第1遺跡 （第　1） （影之谷）	包蔵地	旧石器時代 石器集中地点63か所	石斧・ナイフ形石器・掻器・削器・彫器・錐状石器・楔形石器・石刃・剥片・石核	立川ローム層第2黒色帯下部～立川ローム層最上部及びⅡc層で6枚の文化層を確認した。特にⅥ層～Ⅶ層にかけて，信州産黒曜石による石刃石器群が，最上層では，細石刃石器群が発見されている。

要約	遺跡は，ちはら台ニュータウン造成地域の北東端，村田川中流域北岸の茂呂支谷が樹枝状に入り組んだ最奥部の台地に位置する。立川ローム層第2黒色帯下部～立川ローム層最上部及びⅡc層で6枚の文化層を確認した。第1文化層は，立川ローム層第2黒色帯下半部（Ⅸ層上部～下部）に包含される石器群で，17か所のブロックが検出された。第2文化層は，立川ローム層第2黒色帯上半部とその周辺（Ⅶ層～Ⅵ層）を中心に包含される信州産黒曜石による石刃石器群で，武蔵野台地のⅥ層の石器群に相当すると考えられる。29か所のブロックが検出された。第3文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅲ層）からハードローム層最上部（Ⅳ層）にかけて包含される石器群で，武蔵野台地における立川ローム層Ⅳ層下部から出土する石器群に対応すると考えられる。7か所のブロックが検出された。第4文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）を中心に包含される石器群で，武蔵野台地における立川ローム層Ⅳ層上部から出土する砂川期の石器群に概ね対応すると考えられる。6か所のブロックが検出された。第5文化層は，Ⅱ層から立川ローム層のソフトローム層最上部（Ⅲ層）にかけて包含される石器群で，細石刃石器群である。2か所のブロックが検出された。他に，帰属時期不明のブロックが2か所検出された。

千葉県教育振興財団調査報告第609集

千原台ニュータウンXX

－市原市押沼第１遺跡（下層）－

平成20年12月26日発行

編　集　財団法人　千葉県教育振興財団
文化財センター

発　行　独立行政法人都市再生機構千葉地域支社
千葉市美浜区中瀬1-31

財団法人　千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の2

印　刷　株式会社　富士印刷
千葉市稲毛区轟町3-6-18